８　溝

次節以降で扱う中世区画遺構に含まれない溝40条をここでは扱う。時期が判明した溝では、古墳時代のものが15条と最も多い。すべて調査区域外へ延びて広域に及ぶものである。６号溝は古墳時代前期で、遺物が多く出土し特筆される。規模の大きい例では、15・28・59号溝があるが、59号溝は調査区内で立ち上がっており、特徴的な溝である。幅は狭いが、区画を形成すると思われるのが、８・61号溝である。奈良・平安時代の溝は10・63号溝で、前者はやや蛇行し、埋没土に砂質土が堆積することから、用水路であった可能性がある。後者は部分的な検出のため、詳細は不明である。層位的な判断からAs－Ｂ降下以前となる溝として、34・39号溝がある。前者はやや蛇行し、埋没土に砂質土が堆積することから、10号溝と同様、用水路であった可能性がある。39号溝は東側を40号溝で壊されるため、全容は不明ながら、大規模で溝の底面は平らである。詳細は不明ながら、道となる可能性もある。As－Ｂ降下後の溝では、58号溝が規模も大きく、形態的に区画溝を想定させる。西端の状況は不明のまま残るが、南へ折れていた場合、区画溝の可能性が高くなる。近世以降の溝は５条で、４条は調査区東端に集中する。40・41号溝は大規模で用水路であった可能性が高い。11・12号溝は小規模ながら、これらに近く並走しており、同時期の土坑との関連も想定できる。中央部の49号溝には、近接して１号集石遺構があり一連の遺構と考えられる。

２号溝（第430・431図、ＰＬ.128・211・212、第164表）

位置　15Ｑ～16Ｂ－17・18グリッド

南北両側ともに調査区域外に延びる。３号溝より前出。30・32・167・168号住居、194号土坑、４・60号溝と重複するが新旧関係不明。平面形はわずかに蛇行する。走向方位はＮ－９°－Ｅ。断面形はＵ字形およびＶ字形。底面は丸みがある。両端の比高差は２cmで、勾配はほとんどない。北端部は掘り直しも考慮される。埋没土はローム ブロックが目立ち人為埋没か。規模は長さ24.20m上端幅53～160cm深さ96cmである。掲載遺物の出土は埋没土上層が多く、住居からの混入が考慮される。出土遺物から概ね古墳時代に比定される。

３号溝（第432図、ＰＬ.128）

位置　15Ｑ～16Ｂ－18・19グリッド

南北両側ともに調査区域外に延びる。２号溝より後出。24・48・137・138号住居、60号溝と重複するが新旧関係不明。平面形はわずかに蛇行する。走向方位はＮ－10°－Ｗ。断面形はＵ字形。底面はほぼ平坦。両端の比高差は12cmで、勾配はほとんどない。自然埋没か。規模は長さ24.68m上端幅42～90cm深さ12cmである。非掲載とした出土遺物から概ね古墳時代に比定される。

４号溝（第430図、ＰＬ.129）

位置　15Ｒ－18グリッド

北側は30号住居と重複して不明となる。30号住居、２号溝と重複するが新旧関係不明。平面形は直線状で、土坑の可能性もある。走向方位はＮ－15°－Ｗ。断面形は皿状。底面はやや凸凹する。両端の比高差は３cmで、勾配はほとんどない。埋没状況不詳。規模は長さ3.60m上端幅82～100cm深さ５cmである。出土遺物も少なく、時期は比定できない。

５号溝（第432図、ＰＬ.129・212、第164表）

位置　15Ｑ～26Ｂ－19～１グリッド

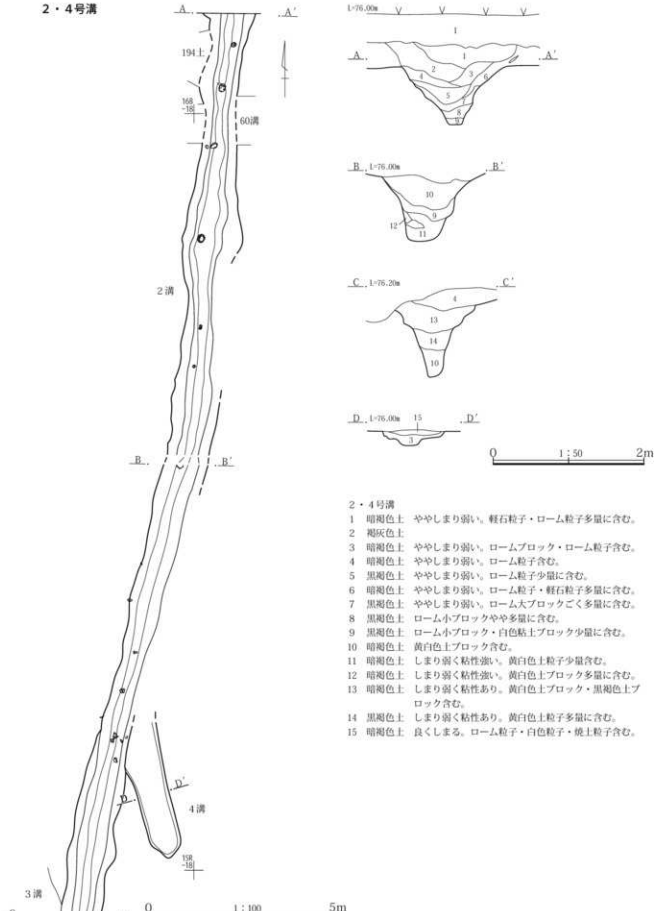
南北両側ともに調査区域外に延びる。20・43・140・154・155号住居、61号溝と重複するが新旧関係不明。平面形はやや蛇行する。走向方位はＮ－13°－Ｗ。北半部の断面形は皿状。南端の断面形はＵ字形で、重複する61号溝と近似して、この部分は61号溝と同一とも考えられる。調査所見に従い、別の溝としておく。北半部の底面は平坦で、南端の底面は丸みがありやや凸凹する。埋没状況不詳。規模は長さ25.04m上端幅38～118cm深さ18cmである。埋没土から白玉（第432図１・２）が出土する。出土遺物から概ね古墳時代に比定される。

６号溝（第433～439図、ＰＬ.128・129・212・213、第165表）

位置　15Ｑ～16Ｂ－９～12グリッド

南北両側ともに調査区域外に延びる。状況から６・40・51号土坑より前出で、12・13・15号住居、８号溝と重複するが新旧関係不明。平面形は直線状。断面形はＵ字形。底面は丸みがあり、やや凸凹する。両端の比高差は１cmで、勾配はほとんどない。自然埋没か。規模は長さ30.60m上端幅62～110cm深さ38cmである。出土遺物は多く、特に北半部に集中する。出土する高さは、溝が半分程度埋まった中位付近に集中するため、溝が廃絶して埋まっていく過程で、土器を廃棄したと考えられる。出土遺物は年代幅があり、３～５世紀であり、概ねその頃に比定される。

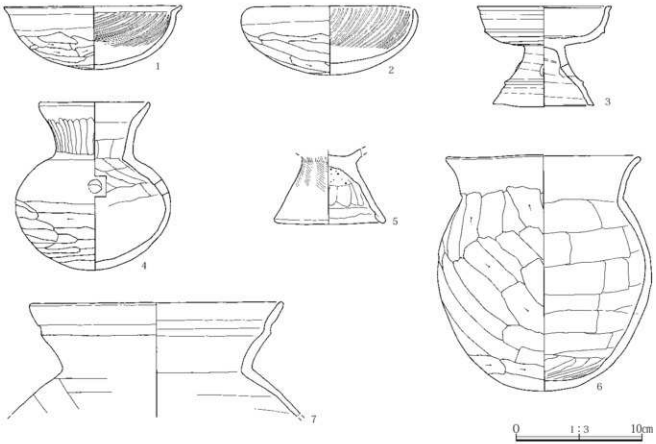
２・４号溝



２・４号溝

1　暗褐色土　ややしまり弱い。軽石粒子・ローム粒子多量に含む。
2　褐灰色土
3　暗褐色土　ややしまり弱い。ロームブロック・ローム粒子含む。
4　暗褐色土　ややしまり弱い。ローム粒子含む。
5　黒褐色土　ややしまり弱い。ローム粒子少量に含む。
6　暗褐色土　ややしまり弱い。ローム粒子・軽石粒子多量に含む。
7　黒褐色土　ややしまり弱い。ローム大ブロックごく多量に含む。
8　黒褐色土　ローム小ブロックやや多量に含む。
9　黒褐色土　ローム小ブロック・白色粘土ブロック少量に含む。
10　暗褐色土　黄白色土ブロック含む。
11　暗褐色土　しまり弱く粘性強い。黄白色土粒子少量含む。
12　暗褐色土　しまり弱く粘性強い。黄白色土ブロック多量に含む。
13　暗褐色土　しまり弱く粘性あり。黄白色土ブロック・黒褐色土ブロック含む。
14　黒褐色土　しまり弱く粘性あり。黄白色土粒子多量に含む。
15　暗褐色土　良くしまる。ローム粒子・白色粒子・焼土粒子含む。

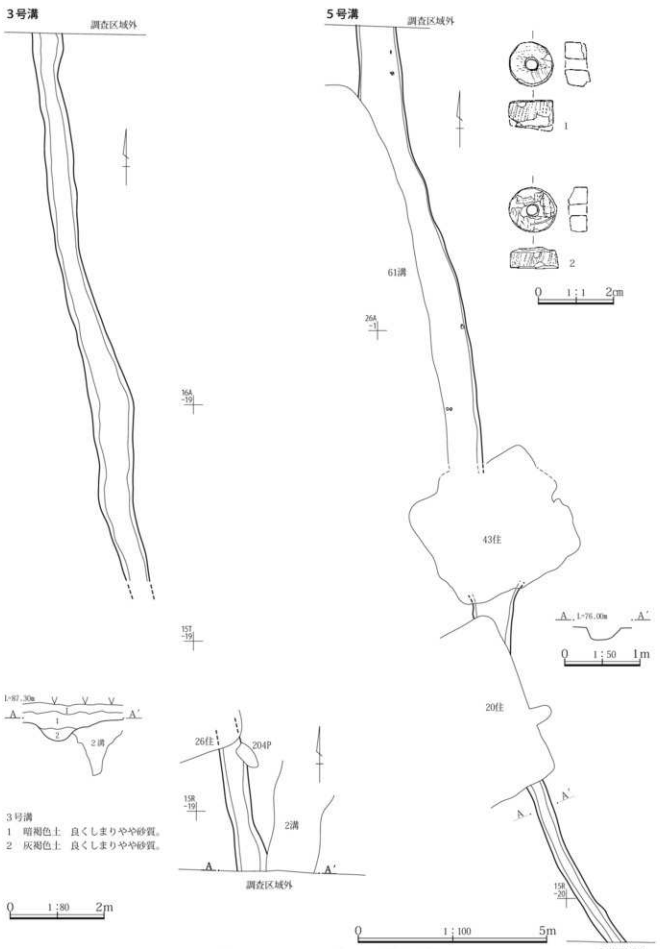
第430図　３区２・４号溝



第431図　3区2号溝出土遺物

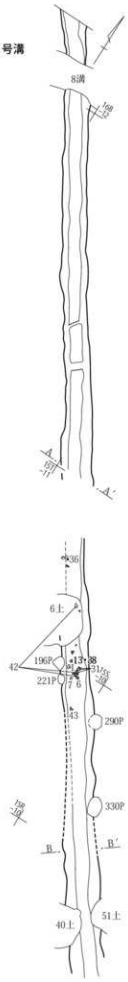
第164表　3区2・5号溝出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値					胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第431図 PL.211	1	土師器 杯	2溝 完形	口	13.9	高	5.0		粗砂粒/良好/橙	口縁部とこれに続く体部上位まで横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。この間にナデの部分を残す。内面は斜放射状にヘラ磨き。	外面底部炭素吸着・黒斑状。
第431図 PL.211	2	土師器 杯	2溝 一部欠	口	13.3	高	5.4		粗砂粒・白色鉱物粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部上位はナデ。体部下位から底部は手持ちヘラ削り。内面は斜放射状にヘラ磨き。	
第431図 PL.212	3	須恵器 高杯	2溝 1/3	口 底	10.5 7.8	高	7.9		精選・白色鉱物粒/還元焔/オリーブ黒	ロクロ整形、回転右回り。口縁部は内側にそげるように尖る。口縁部、脚部中位の穂は脚部端部いずれもシャープな作り。脚部に3ヶ所ヘラ状工具の刺突による透孔を90度ずつ振って配す。杯部、底部は回転ヘラ削り。	外面に自然釉付着。
第431図 PL.212	4	土師器 鑵	2溝 4/5	口	8.6	高	13.2		細砂粒/良好/橙	口縁部と頸部は横ナデ。その間は縦位にヘラナデ。胴部上半は丁寧なナデ、下半は横位にヘラ削り。内面胴部上半は指ナデ、下半はヘラナデ。	
第431図	5	土師器 甕	2溝 脚台部	底	8.3				細砂粒/良好/にぶい橙	八の字状に外反して底部に至る。脚台部はナデ後、斜右下にハケ目。内面脚台部は横ナデ後、縦位に指ナデ。内面底部と脚台部天井部に砂目粘土貼付。	
第431図 PL.212	6	土師器 小型甕	2溝 完形	口	14.9	高	18.6		粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部は上位が縦位、中位が斜位、下位が斜横位のヘラ削り。内面胴部は横位のヘラナデ。底部は斜横位のナデ。	被熱。
第431図	7	土師器 甕	2溝　口縁部～胴部上位3/4	口	19.7				小礫・細砂粒/良好/橙	口縁部は中位に稜をなす。横ナデ。胴部はヘラ削り。内面胴部は横位のナデ。	
第432図 PL.212	1	石製模造品 臼玉	5溝	径 幅	1.2	厚 重	0.8 1.41		滑石	上面を丁寧に研磨するほか、下面側にも部分的に研磨痕が残る。体部は粗く縦位に研磨されている。	扁平礫
第432図 PL.212	2	石製模造品 臼玉	5溝	径 幅	1.2	厚 重	0.5 1.25		滑石	上面に粗い研磨痕、体部に縦位研磨痕が残る。下面は研磨されてないが、側面から分割されたものか。	



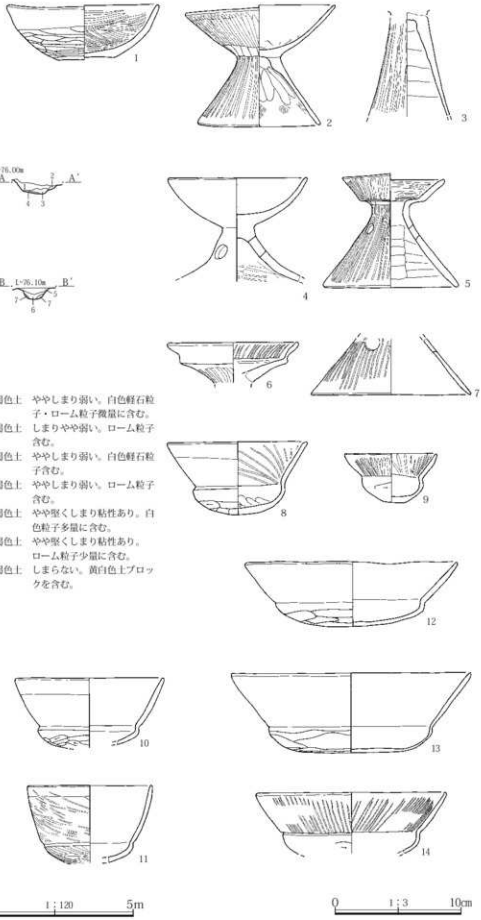
第432図　3区3・5号溝出土遺物

6号溝



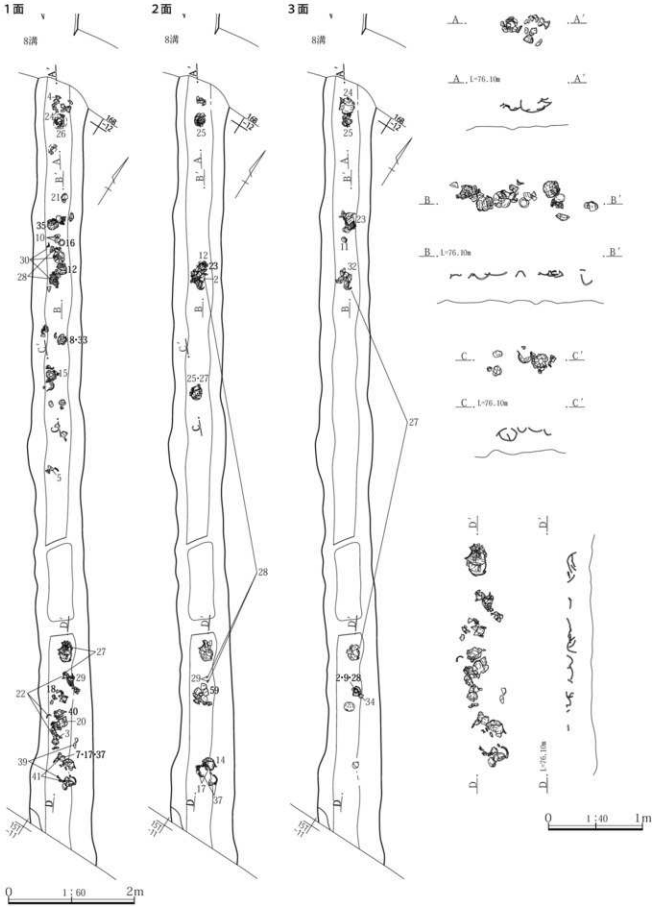
6号溝

1	暗褐色土	ややしまり弱い。白色軽石粒子・ローム粒子微量に含む。
2	暗褐色土	しまりやや弱い。ローム粒子含む。
3	黒褐色土	ややしまり弱い。白色軽石粒子含む。
4	黒褐色土	ややしまり弱い。ローム粒子含む。
5	暗褐色土	やや堅くしまり粘性あり。白色粒子多量に含む。
6	黒褐色土	やや堅くしまり粘性あり。ローム粒子少量に含む。
7	黒褐色土	しまらない。黄白色土ブロックを含む。

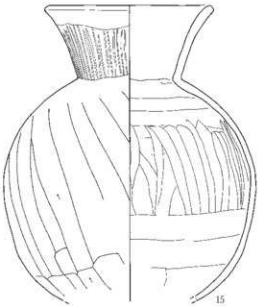


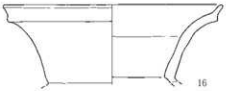
第433図　3区6号溝と出土遺物(1)

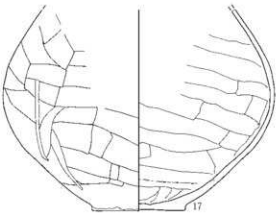
6号溝北半部

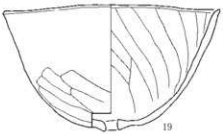


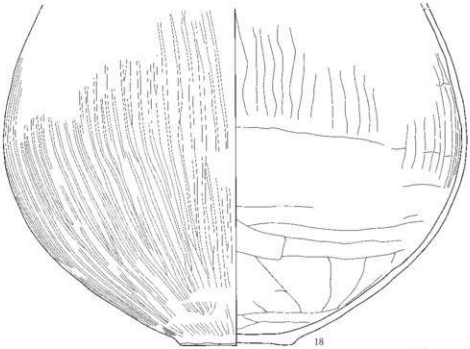
第434図　３区６号溝北半部遺物出土状態



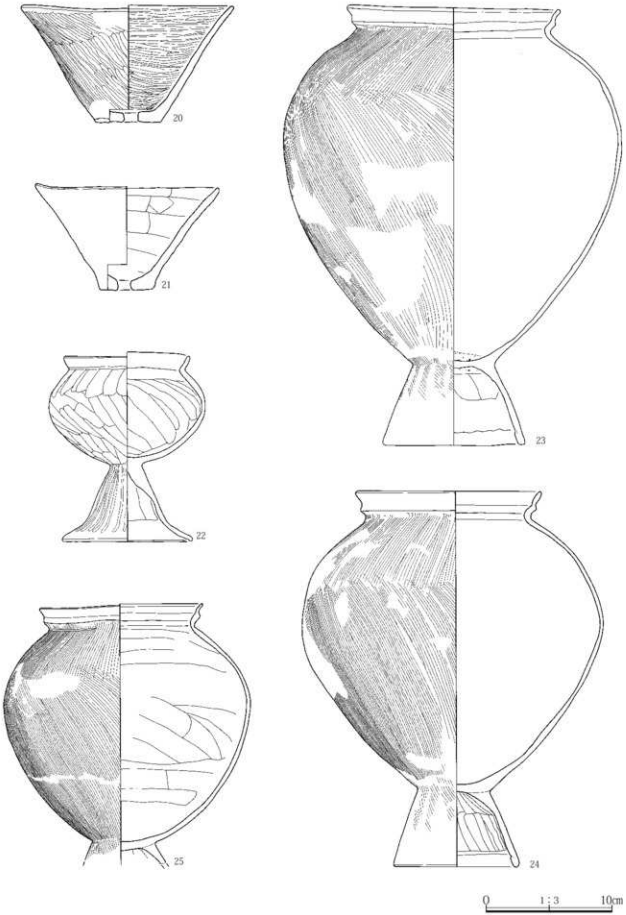




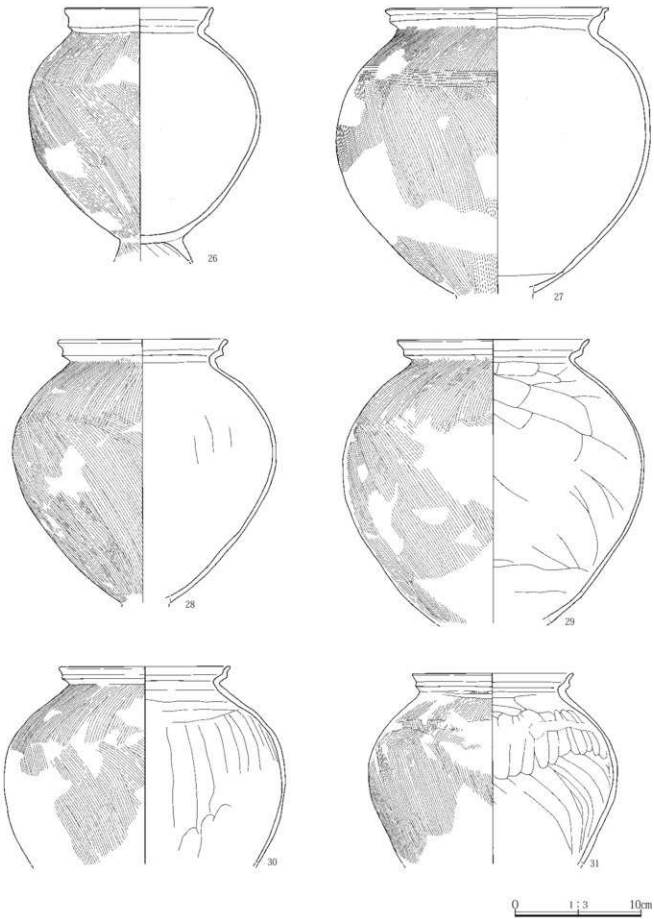




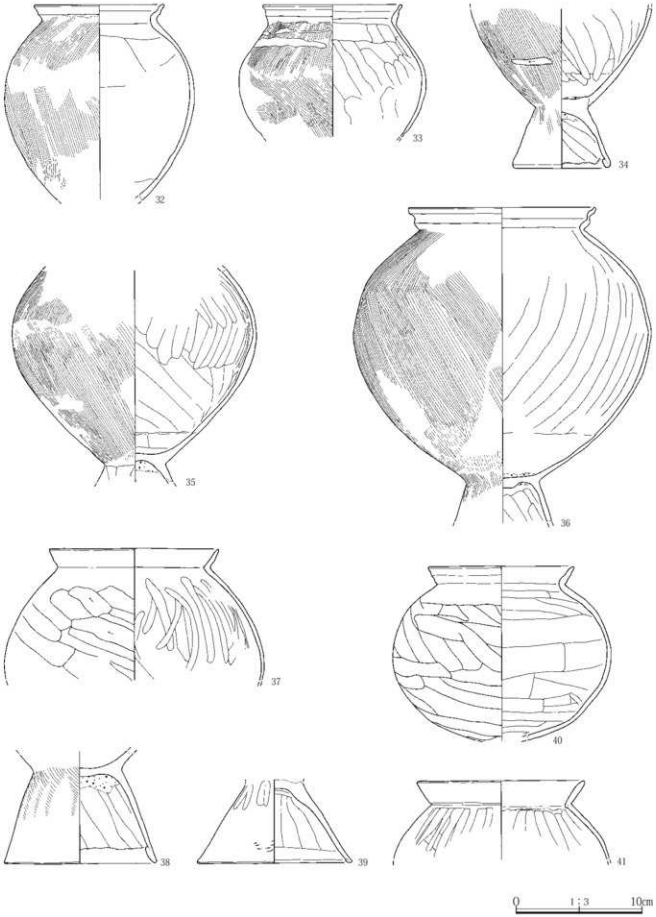
第435図　３区６号溝出土遺物（２）



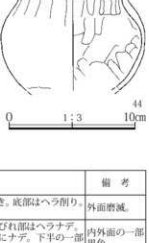
第436図　３区６号溝出土遺物（３）



第437図　3区6号溝出土遺物(4)



第438図　３区６号溝出土遺物（５）



第439図　3区6号溝出土遺物(6)

第165表　3区6号溝出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値					胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第433図 PL.212	1	上師器 杯	完形	口	11.9	高	4.1		粗砂粒・軽石/良好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ。体部は横位のヘラ磨き。底部はヘラ削り。内面口縁部と体部はヘラ磨き。	外面磨滅。
第433図 PL.212	2	上師器 高杯	3/4	口 底	11.7 9.6	高	9.5		細砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部、脚部とも縦位のヘラ磨き。くびれ部はヘラナデ。内面の杯部下位に工具痕。脚部は上半にナデ。下半の一部にハケ目を残す。	内外面の一部黒色。
第433図	3	上師器 高杯	脚部片						細砂粒/良好/橙	柱状、裾部に向かって直径を増す。外面縦位にナデ磨き。内面は横位にヘラ削りに近いナデ。	被熱。
第433図 PL.212	4	上師器 高杯	2/3	口	10.9				粗砂粒/良好/橙	脚部の透孔は3単位。内面脚部は下半にハケ目を残す。他は磨滅のため観察不可能。	
第433図 PL.212	5	上師器 器台	ほぼ完形	口 底	7.81 0.3	高	8.8		細砂粒/良好/にぶい黄橙	脚部の透孔は小円形で3単位が配される。受け部、脚部とも縦位のヘラ磨き。内面受け部は横位のヘラ磨き。脚部は横位のヘラナデ。	
第433図	6	上師器 高杯	受け部片	口	10.0				細砂粒/良好/橙	受け部口縁部は横ナデ。体部はナデ後、縦位にヘラ磨き。内面口縁部は斜縦位にヘラ磨き。体部にもヘラ磨きか。	
第433図	7	上師器 器台	脚部片	底	12.4				細砂粒/良好/橙	透孔は円形で3単位配置される。外面はナデ後、縦位にヘラ磨き。内面は横位のナデか。	
第433図 PL.212	8	上師器 坩	完形	口	10.9	高	5.6		粗砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部先端に横ナデ。以下は斜位のナデ。体部の上位にナデの部分を残すが、以下底部までは手持ちヘラ削り。内面口縁部は斜位にヘラ磨き。体部はナデ。	
第433図 PL.212	9	上師器 小型坩	ほぼ完形	口	7.3	高	3.9		粗砂粒/良好/橙	口縁部は縦位のヘラ磨き。体部下半はヘラ削り。底部は狭小な平底。内面口縁部に斜縦のヘラ磨き。	内外面とも磨滅。
第433図 PL.212	10	上師器 坩	4/5	口	11.6				細砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部先端に横ナデ。以下は丁寧なナデ。体部の上位にナデの部分を残すが、以下底部までは手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第433図 PL.212	11	上師器 坩	ほぼ完形	口	9.7				細砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部先端に横ナデ。以下はナデ後、斜横位に粗雑なヘラ磨き。体部から底部も斜横のヘラ磨き。内面、口縁部は横ナデ。体部から底部はナデ。	内外面の一部に炭素吸着。
第433図 PL.212	12	上師器 大型坩	3/4	口	16.6	高	5.1		細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ。体部から底部はヘラ削り。体部上位にナデ部分を残す。内面体部から底部はナデ。	外面炭素吸着。
第433図	13	上師器 大型坩	1/4	口	18.8	高	6.2		細砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ。体部から底部は手持ちヘラ削り。内面は横ナデ・ナデ。	内外面とも磨滅。
第433図 PL.212	14	上師器 坩	口縁～体部片	口	14.8				細砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部はナデ後、斜放射状にヘラ磨き。体部はナデ。底部はヘラ削り。内面口縁部は斜放射状にヘラ磨き。底部はナデ。	内外面の一部に炭素吸着。
第435図 PL.212	15	上師器 壺	1/3	口	12.8				粗砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部先端に横ナデ。以下は縦位にヘラ磨き。或いはヘラナデか。胴部上位から中位は斜縦位にヘラ削り。下位は斜位にヘラ削り。内面胴部上位と下位は横位に、中位は縦位にヘラナデ。	内面炭素吸着・黒色。
第435図 PL.212	16	上師器 壺	口縁～頸部片	口	17.1				細砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部先端は屈曲して短く立ち上がる。横ナデ。	
第435図 PL.212	17	上師器 壺	1/3	底	7.2				細砂粒/良好/にぶい黄橙	胴部最下位にナデ。他は斜横のヘラ削り。一部に撫でを重ねる。底部は砂底状。内面胴部はヘラナデ。	内外面ともやや炭素吸着。
第435図 PL.212	18	上師器 壺	1/4	底	8.8				細砂粒/良好/にぶい黄橙	胴部はヘラ削りの上に縦位のヘラ磨き。底部周縁部はヘラナデ。内面胴部は横位あるいは縦位のヘラナデ。	底部内外面とも炭素吸着。
第435図 PL.212	19	上師器 甑	完形	口	17.0	高	9.9		細砂粒/良好/にぶい黄橙	器形大きく歪み平面長円形。底部中央に小孔を穿つ。口縁部は横ナデ。体部上半ナデ、下位は斜位に弱いヘラ削り。内面は斜位にナデ。	被熱・外面の一部に炭素吸着。
第436図 PL.212	20	上師器 甑	3/5	口 底	16.5 5.0	高	8.2		粗砂粒/良好/にぶい黄橙	底部中央に小孔、1孔を穿つ。口縁部、体部とも斜位のヘラ磨き。底部はナデ。内面は横位のヘラ磨きに一部縦位の磨きを重ねる。	内外面の一部に炭素吸着。
第436図 PL.212	21	上師器 甑	3/4	口 底	14.3 4.1	高	8.4		粗砂粒・雲母砂粒/良好/にぶい黄橙	底部中央に小孔、1孔を穿つ。内面口縁部から体部は横位にヘラナデ。	被熱・外面観察不可・外面炭素吸着。

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値						胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第436図 PL.212	22	土師器 小型台付甕	口縁～体部1/2欠	口	9.8	高	14.8			細砂粒/良好/灰白	口縁部は単純口縁。わずかに彎曲して立ち上がる。脚台部は高杯の脚部に近い。口縁部は横ナデ。胴部はヘラ削り後、3・4回に分けてヘラナデ。脚台部はナデ後、縦位に磨き。内面胴部は斜横位の指ナデ。脚台部上半は縦位のナデ。下半部は横ナデ。	
				底	10.0							
第436図 PL.213	23	土師器 台付甕	2/3	口	16.5	高	34.5			細砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ。外面頸部から肩部左下のハケ目(1cmに6本)。肩部から胴部左上のハケ目を2段。脚台部右下のハケ目を縦にナデ消す。内面口唇部の屈曲部はヘラナデ。胴部は丁寧なナデ。底部脚台部の天井部に砂目粘土を補填。	外面胴部下半に炭素吸着。
				底	16.5							
第436図 PL.213	24	土師器 台付甕	2/3	口	14.4	高	29.4			粗砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ。頸部から肩部は斜位・左下にハケ目(1cmに6本)。胴部斜位・右下にハケ目。脚台部斜位・右下にハケ目。一部をナデ消す。内面胴部はナデ。底部と脚台部の天井部に砂目粘土を補填。脚台部内面は指ナデ。	外面炭素吸着・黒色。
				底	9.6							
第436図 PL.213	25	土師器 台付甕	脚部欠・3/4残	口	12.6					粗砂粒/雲母/良好/淡橙	口縁部は横ナデ。頸部から肩部は斜位・左下にハケ目(1cmあたり6本)胴部斜位・左下にハケ目。脚台部は斜位・右下にハケ目。内面はナデ。脚台部天井部、内面底部に砂目粘土を充填。	外面煤付着。
第437図 PL.213	26	土師器 台付甕	脚部欠・3/4残	口	11.5				0	粗砂粒少・細砂粒/良好/黒褐	口縁部は横ナデ。胴部は斜位左下にハケ目(1cmあたり8本)。胴部は2回に分けて斜位にハケ目。脚台部外面にも。内面胴部は丁寧なナデ。底部と脚台部天井部に砂目粘土を充填。脚台部下半を欠損後も使用かか。	外面煤付着・黒色。
第437図	27	土師器 台付甕	2/3	口	17.4					粗砂粒・細砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ。肩部は斜左下のハケ目(1cmに5～8本)後、横線をめぐらせる。胴部中位から下には斜左上にハケ目を施す。内面頸部はヘラナデ。胴部はナデ。	被熱・剥離消滅。
第437図	28	土師器 台付甕	口縁～底部4/5	口	13.0					粗砂粒多/良好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ。肩部は斜左下にハケ目。(1cmに6本)胴部は斜左上にハケ目。内面頸部はシャープなヘラナデ。胴部はナデ。	外面炭素吸着・煤か。
第437図	29	土師器 台付甕	口縁～底部1/4	口	15.0					粗砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ。肩部は斜左下にハケ目。(1cmに5・6本)胴部は斜左上にハケ目。内面胴部は斜位・斜横位にヘラナデ。	外面胴部下半に炭素吸着。煤か。
第437図	30	土師器 台付甕	口縁～胴部1/3	口	13.2					粗砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ。肩部は斜左下にハケ目。(1cmに6本)胴部は左上にハケ目。内面肩部は横位にヘラナデ。以下の胴部は縦位に指ナデ。	内外面とも炭素吸着。磨滅。
第437図	31	土師器 台付甕	口縁～胴部1/3	口	12.6					粗砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ。肩部は斜左下にハケ目。(1cmに7本)胴部は左上にハケ目。内面肩部は縦位に指ナデ。胴部は斜横位にヘラナデ。外面肩部にハケ目を後した後に入った亀裂を補修するため粘土を貼付。ハケ目を重ねている。	
第438図	32	土師器 台付甕	口縁～胴部下位1/3	口	10.0					粗砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ。肩部は斜左下にハケ目。(1cmに7本)胴部は斜左上にハケ目。内面はナデ。ヘラナデ。	内外面とも炭素吸着・磨滅。
第438図	33	土師器 台付甕	口縁～胴部下位1/2	口	10.8					粗砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ。肩部は斜左下にハケ目。(1cmに8本)胴部は中位と下位に分け、斜左上にハケ目。ハケ目は粗雑。内面はナデ。	内面磨滅。
第438図	34	土師器 台付甕	台部～胴部下半	底	7.2					粗砂粒/良好/にぶい黄橙	胴部は斜左上にハケ目(1cmに8本)。脚台部の一部にもハケ目。これをヘラナデ。ナデで消す。内面胴部はナデ。底部と脚台部天井部に砂目粘土貼付。	
第438図	35	土師器 台付甕	肩部～脚台部上位							粗砂粒/良好/にぶい黄橙	肩部は斜左下にハケ目(1cmに5本)。胴部は斜左上にハケ目。脚台部はヘラナデ。内面胴部はナデ。脚台部の天井部に砂目粘土貼付。	内外面とも炭素吸着。
第438図	36	土師器 台付甕	口縁～脚台部中位	口	14.4	高				粗砂粒/良好/灰褐	口縁部は横ナデ。肩部は斜左下へハケ目(1cmに7本)胴部中位から下位は左上へハケ目。下位では地のヘラ削りが残る部分目立つ。脚台部は斜右下へハケ目。内面胴部は縦位のナデ。内面底部と脚台部天井部に砂目粘土を貼付。	外面胴部に付着物、煤か。
				底	5.6							
第438図	37	土師器 台付甕	口縁～肩部片	口	13.2					粗砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ。肩部にナデの部分を残す。胴部以下は斜横位のヘラ削り。内面胴部は縦位にナデ。	外面炭素吸着。
第438図	38	土師器 台付甕	脚台部片	底	11.7					粗砂粒/良好/にぶい黄橙	外面は斜位のハケ目を一部ナデ消す。内面は斜横位にヘラナデ。内面底部と脚台部天井部に砂目粘土貼付。	
第438図	39	土師器 台付甕	台部	底	11.6					粗砂粒・細砂粒/良好/橙	粗砂粒にヘラナデと考えられる。内面胴部に横ナデ、それより上位は縦位のナデ。	内外面の一部に炭素吸着。
第438図	40	土師器 小型甕	1/2	口	11.3					粗砂粒・細砂粒/良好/赤褐	口縁部はわずかに受け口状、横ナデ。胴部・頸部直下はナデ。肩部以下は斜位・横位にヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	被熱。
第438図	41	土師器 小型甕	口縁～胴部上位	口	13.0					粗砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ。胴部は斜横位にヘラ削り後、縦位にナデ。内面胴部は縦位にナデ。	
第439図	42	土師器 小型甕	口縁～胴部下半	口	10.7					粗砂粒/良好/灰褐	口縁部は横ナデ。肩部はヘラ削り。胴部以下は斜横位のヘラナデ。内面胴部は縦位にナデ。	外面炭素吸着。
第439図	43	土師器 小型甕	口縁～胴部片	口	12.9					粗砂粒/良好/灰白	口縁部は横ナデ。胴部は横位に横位にヘラナデ。一部はヘラ削り。内面胴部は2回に分けてナデ。	
第439図	44	土師器 小型甕	口縁～肩部片	口	10.2					粗砂粒/良好/明赤褐	口縁部は横ナデ。胴部上位は縦位にヘラナデか。内面胴部上半部は縦位。下半部は斜横位のナデ。	外面磨滅。

8号溝（第440・441図、ＰＬ.130・213、第166表）

位置　15Ｑ～16Ｂ－8～15グリッド

南北両側ともに調査区域外に延びる。状況から7・10号溝より前出で、114・120号住居、6号溝と重複するが新旧関係不明。平面形は「へ」の字形で、屈曲部で北へ分岐する溝と、先端近くで北へ分岐する部分がある。基幹部分の走向方位はＮ－30°－Ｗ～Ｎ－85°－Ｅで、先端の分岐がＮ－0°、中央の分岐がＮ－62°－Ｅ。断面形はＵ字形および皿状で、Ｂ断面は深く逆台形である。その部分は隅丸細長方形に掘り込まれている。遺物もその部分に集中がみられるため、別の土坑と重複していた可能性が高い。ここでは調査所見に従い同一として扱った。底面はやや凸凹する。両端の比高差は2㎝で、勾配はほとんどない。東端部分は自然埋没と思われるが、南端の埋没土は均質で人為埋没か。Ｂ断面の埋没土は水平方向に堆積して不自然であり、人為埋没と考えられる。規模は基幹部の長さ50.4m、分岐部分が10.68mと2.40m上端幅28～155㎝深さ29㎝である。屈曲部から西側にもやや出土遺物が集中し、全体に埋没土中位の出土が目立つため、溝が廃絶して埋まっていく過程で、土器を廃棄したと考えられる。出土遺物は6世紀後半であり、概ねその頃に比定される。

9号溝（第442図、第167表）

位置　15Ｓ・Ｔ－9グリッド

北側は調査時期が異なった事情もあり、検出できていない。300号ピットと重複するが新旧関係不明。平面形は直線状で、形状から細長い土坑とも思われる。走向方位はＮ－39°－Ｗ。断面形はＵ字形。底面は平坦。勾配はほとんどない。埋没状況不詳。規模は長さ1.68m上端幅45～54㎝深さ19㎝である。遺物は出土しておらず、時期は比定できない。

10号溝（第442・443図、ＰＬ.131・213、第167表）

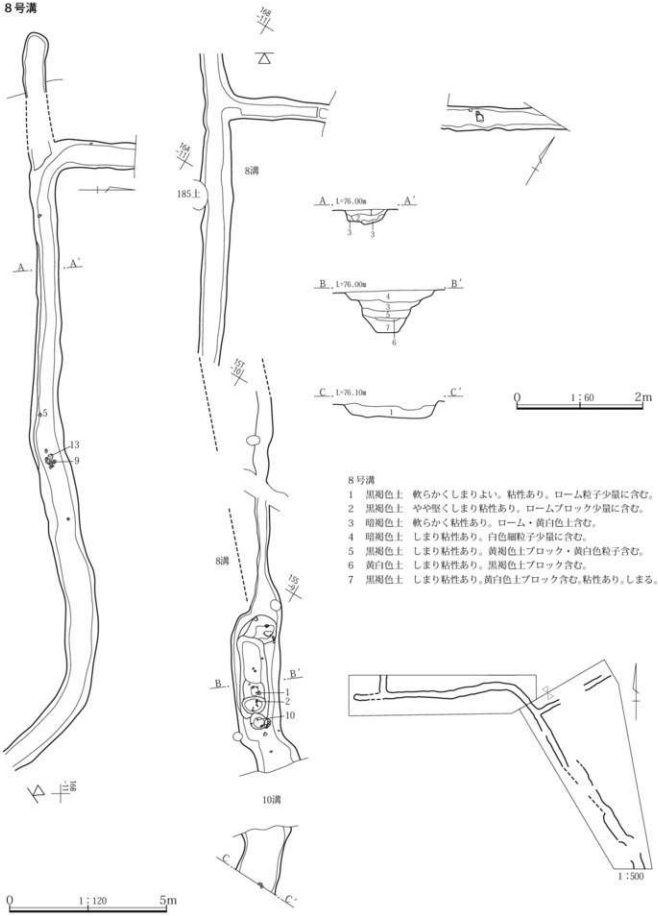
位置　15Ｑ～16Ｂ－4～9グリッド

南北両側ともに調査区域外に延びる。42・176・179号土坑より前出で、加えて7・26・29・49号溝も状況から前出とみられる。102・108号住居と重複するが新旧関係不明。平面形はやや蛇行する。走向方位はＮ－40°－Ｅ。断面形はＵ字形。底面は丸みがある。両端の比高差は7㎝で、勾配はほとんどない。底面に砂質土が堆積する。自然埋没か。規模は長さ35.20m上端幅130～260㎝深さ101㎝である。遺物の出土は散漫である。形態から用水路として機能していたことも想定される。出土遺物は10世紀前半であり、概ねその頃に比定される。

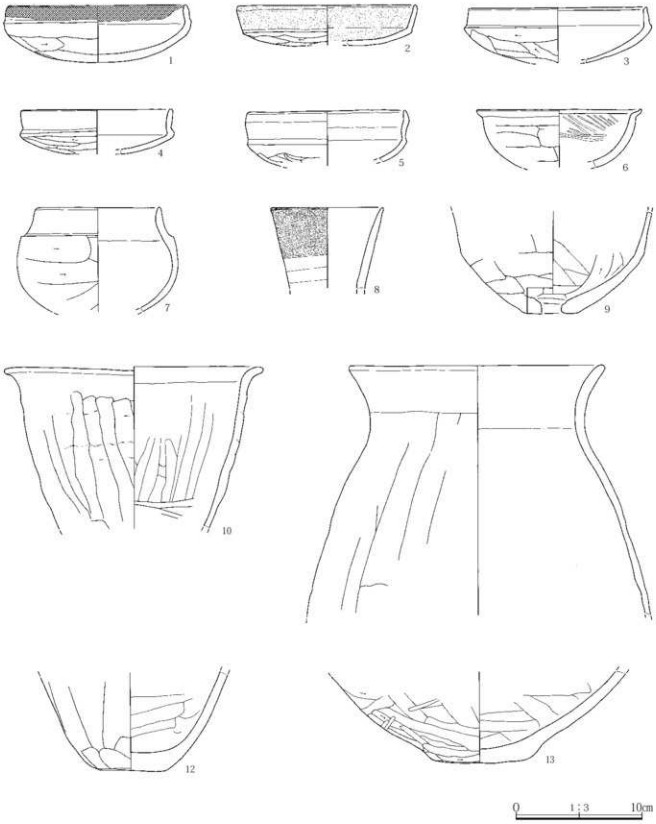
第166表　3区8号溝出土遺物

挿図 PL.No.	No.	器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第441図	1	土師器 杯	2/5	口 14.0	高 4.5			細砂粒/良好/灰白	口縁部は横ナデ。底部は丁寧な手持ちヘラ削り後下にナデの部分を残す。内面はナデ。	口縁部の内外面に煤付着。
第441図	2	土師器 杯	1/4	口 14.0				細砂粒/良好/灰黄褐	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	内面全面と口縁部外面に漆塗り。
第441図	3	土師器 杯	破片	口 14.0				細砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	被熱の為、変色・変質。
第441図	4	土師器 杯	破片	口 11.6				細砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	内外面炭素吸着。
第441図 PL.213	5	土師器 杯	1/2	口 12.1				粗砂粒少/良好/にぶい橙	口縁部中位に変換点を有する横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	内外面とも一部に煤付着。
第441図	6	土師器 杯	口縁～底部片	口 12.8				精選・細砂粒少/良好/にぶい赤褐	口縁部とその直下の体部は横ナデ。体部上位にナデの部分を残すが以下底部まで手持ちヘラ削り。内面体部はナデの上に斜放射状にヘラ磨き。	内面の一部に炭素吸着。
第441図	7	土師器 鉢	40住　+20 口縁～胴部1/4	口 10.0				精選・粗砂粒少/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部は横位にヘラ削り。内面は横位にヘラナデ。	外面磨滅。
第441図	8	須恵器 甕	口縁片	口 8.8				白色鉱物粒/還元/灰	口唇部磨耗。ロクロ整形、右回りか。上半部に波状文を施す。	内面自然釉付着。
第441図	9	土師器 甕	底部～体部	底 4.5				精選/良好/橙	平底の底部中央に直径2.5×1.7㎝の孔を穿つ。胴部外面は横位のヘラ削り。内面は斜縦位のヘラ削り、ヘラナデ。	
第441図	10	土師器 甕	口縁～胴部下位片	口 20.0				細砂粒/良好/明赤褐	口縁部は横ナデ。胴部は縦位のヘラ削り、内面下位に横位のヘラ削り。他は縦位のヘラナデ。	内外面とも部分的に磨滅。
第441図	11	土師器 甕	口縁～胴部中位片	口 19.8				粗砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ。胴部は縦位のヘラ削り。	被熱の為か変質・変色。
第441図	12	土師器 甕	底部～胴部下半	底 5.8				粗砂粒/良好/にぶい黄橙	胴部はヘラ削り。内面は横位のナデ。	被熱・炭素吸着。
第441図	13	土師器 甕	底部～胴部下位	底 7.4				粗砂粒/良好/明赤褐	胴部外面は斜横位に乱雑なヘラ削り、ヘラナデ。規則性が見られない。底部周縁部にヘラ削り。内面は横位のナデ。	外面底部に炭素吸着・黒斑状。

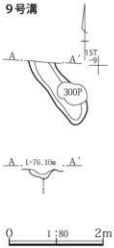
８号溝



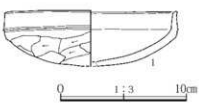
第440図　３区８号溝

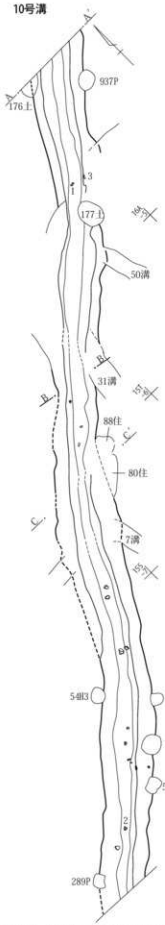


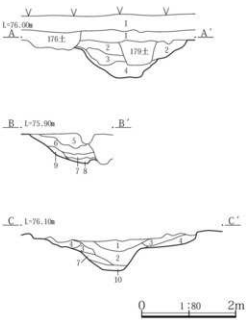
第441図　３区８号溝出土遺物



9号溝
1　黒褐色土　軟らかく粘性あり。
　　ローム粒子微量に含む。

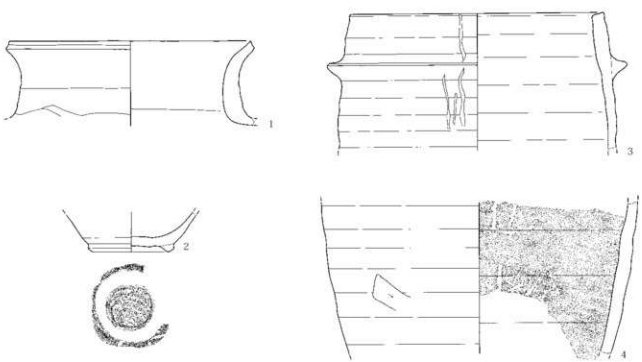






10号溝
1　暗褐色土　ややしまり粘性あり。
2　灰褐色土　軟らかくしまりよい。粘性あり。
3　暗褐色土　軟らかくしまりよい。灰褐色土ブロック含む。
4　暗褐色土　ややしまる。ローム粒子・炭化物粒子微量に含む。
5　暗褐色土　ややしまり弱い。白色軽石粒子含む。
6　暗褐色土　しまり強い。軽石粒子少量、赤褐色粒子含む。
7　灰褐色粘質土　ロームブロック含む。
8　灰色粘質土　ロームブロック含む。
9　灰色粘質土　ロームブロック・黒褐色土ブロック含む。
10　褐灰色砂質土　しまらない。黄白色土ブロック含む。

第442図　３区９・10号溝と９号溝出土遺物



第443図　3区10号溝出土遺物

第167表　3区9・10号溝出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第442図	1	土師器 杯	9溝 1/3	口	13.4			細砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	内外面とも炭素吸着。
第443図	1	土師器 甕	10溝 口縁1/4	口	19.0			小礫・粗砂粒・片岩/良好/にぶい黄橙	口縁部は平坦面をなす。口縁部は横ナデ。胴部はヘラナデと考えられる。	
第443図	2	須恵器 椀	10溝　底部～口縁部下半	底	5.8			粗砂粒/酸化焔/にぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。高台部は底部回転糸切り後の付け高台。	内外面とも炭素吸着。
第443図 PL.213	3	須恵器 羽釜	10溝　口縁部～胴部上位片	口	20.0			粗砂粒/還元焔・軟質/灰黄褐	ロクロ整形。鍔は断面三角形。口縁部から鍔をとおり胴部に至るヘラ工具による線刻3条。	
第443図	4	須恵器 羽釜	10溝 胴部中位片					細砂粒・赤色粘土粒/酸化焔/にぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。外面の一部にヘラ削りが見られる。内面にヘラ書きによる刻書、内容判読不明。	被熱のため変色・変質。

11号溝(第444図、ＰＬ.131)

位置　５Ｐ～Ｒ－９グリッド

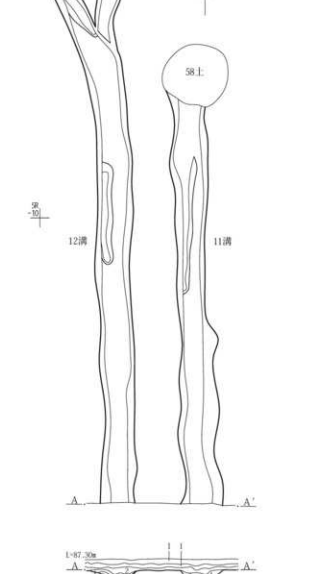
南側は調査区域外に延びる。確認面は１面で、他の土坑よりも新しい。58号土坑と接続し並存した可能性が高い。平面形は直線状。走向方位はＮ－０°。断面形はＵ字形。底面は丸みがある。両端の比高差は１cmで勾配ははほとんどない。周辺は浅間Ｂ軽石が多く堆積しており、埋没土は浅間Ｂ軽石を多く含む。自然埋没か。規模は長さ8.76ｍ上端幅58～80cm深さ16cmである。非掲載とした出土遺物から概ね近世に比定される。

12号溝(第444図)

位置　５Ｐ～Ｓ－９・10グリッド

南側は調査区域外に延びる。北端は調査時期が異なった影響もあって判然としない。確認面は１面で、他の溝よりも新しい。平面形は直線状で北端で分岐する。走向方位はＮ－０°～Ｎ－24°－Ｗ。断面形はＵ字形。底面はやや凸出する。勾配はほとんどない。周辺は浅間Ｂ軽石が多く堆積しており、埋没土は浅間Ｂ軽石を多く含む。自然埋没か。規模は長さ12.12ｍ上端幅38～124cm深さ19cmである。非掲載とした出土遺物から概ね近世に比定される。調査区東端低地部への落ち際であり、近世以降の水田耕作に伴う可能性もある。同様な形態をなす25・33号溝と合わせて「コ」の字形に走向しており、水田区画と考えることもできる。

11･12号溝



11・12号溝
1　灰色土　粘性あり、赤褐色粒子含む。
2　灰色土　浅間Ｂ軽石・赤褐色粒子含む。
3　暗褐色土　浅間Ｂ軽石少量、黒色粘土ブロック含む。
4　灰色土　浅間Ｂ軽石・白色軽石微量に含む。
5　暗褐色土　粘性強い。

第444図　３区11・12号溝

13・15・45・46号溝（第445図、ＰＬ.132・213、第168表）

13号溝　位置　５Ｐ～６Ａ－９～12グリッド

南北両側ともに調査区域外に延びる。46号溝と重複するが新旧関係不明。平面形はやや蛇行する。走向方位はＮ－24°－Ｗ。断面形はＵ字形。底面は凸凹する。両端の比高差は10cmで、勾配はほとんどない。埋没土に浅間Ｂ軽石を含む。掘削痕にも似ており、埋没状況不詳。規模は長さ28.72m上端幅34～84cm深さ17cmである。出土遺物は混入であり、時期は浅間Ｂ軽石降下以降である。

15号溝　位置　５Ｐ～６Ａ－10～12グリッド

南北両側ともに調査区域外に延びる。46号溝より前出で、45号溝より後出。平面形はわずかに蛇行する。走向方位はＮ－18°－Ｗ～Ｎ－11°－Ｗ。断面形はＵ字形あるいは逆台形で、Ａ断面では掘り直しが確認できる。底面はほぼ平坦。両端の比高差は１cmで、勾配はほとんどない。中位まで砂などで自然埋没するため、ある程度の流水があったとみられる。上位は色調の明るい暗褐色土で人為的に埋められる。規模は長さ27.52m上端幅185～263cm深さ90cmである。出土遺物は古墳時代のものが多いが、時期は比定できない。

45号溝　位置　５Ｔ－12グリッド

45号溝より前出で、16号溝より後出。北側は15号溝と重複により消滅する。平面形は直線状。走向方位はＮ－10°－Ｗ。断面形は皿状。底面は丸みがある。勾配はほとんどない。埋没状況不詳。規模は長さ4.45m上端幅18～36cm深さ14cmである。遺物は出土しておらず、時期は比定できない。

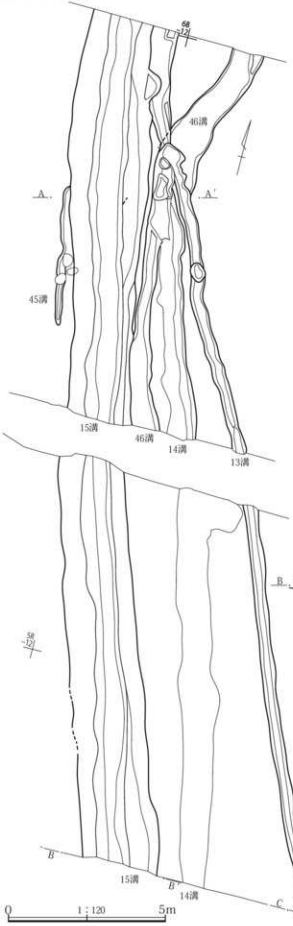
46号溝　位置　５Ｓ～６Ａ－11グリッド

北側は調査区域外に延びる。南側は調査時期が異なったこともあり不明となる。15号溝より後出。平面形はやや弓状。走向方位はＮ－13°－Ｗ～Ｎ－20°－Ｅ。断面形は皿状。底面はほぼ平坦で凸凹する。両端の比高差は２cmで、勾配はほとんどない。埋没土は浅間Ａ軽石を含む。埋没状況不詳。規模は長さ12.40m上端幅40～130cm深さ20cmである。出土遺物は混入であり、時期は浅間Ａ軽石降下以降である。

第168表　３区15号溝出土遺物

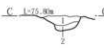
掲図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値					胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第445図 PL.213	1	土師器 杯	3/4	口	12.2	高	3.4		精選・粗砂粒少/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	内外面とも炭素吸着・磨滅。

13・15・45・46号溝



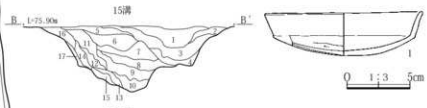
13・14・15・45・46号溝

1　暗褐色土　しまり強い。浅間A軽石多量に含む。
2　暗褐色土　しまり強い。浅間A軽石少量、ローム粒子含む。
3　暗褐色土　しまり強い。ロームブロック多量に含む。
4　暗褐色土　しまり弱い。ローム粒子少量に含む。
5　暗褐色土　しまり弱い。ローム粒子・ロームブロック含む。
6　暗褐色土　しまり強い。白色軽石少量、粘土ブロック含む。
7　暗褐色土　しまり強い。白色軽石微量に含む。
8　暗褐色土　ややしまり弱い。軽石粒子少量、赤褐色粒子含む。
9　灰褐色土　ややしまり弱く粘性弱い。
10　暗褐色土　しまり強い。白色粘土ブロック含む。
11　暗褐色土　しまり強く粘性強い。白色粘土ブロック多量に含む。
12　暗褐色土　しまり強い。黒色粘土少量、白色軽石粒子含む。
13　暗褐色土　ややしまり弱い。赤褐色粒子多量、軽石粒子少量に含む。
14　暗褐色土　しまり弱い。赤褐色粒子・ローム粒子含む。
15　灰褐色土　しまり強い。ロームブロック少量、砂の層状堆積含む。
16　灰褐色砂
17　灰褐色粘質土
18　灰褐色粘質土と砂層の互層
19　灰色粘質土　しまり強い。
20　灰色砂　しまり強い。
21　灰色粘質土　しまり強い。赤褐色粒子少量、ローム粒子含む。
22　灰色土　しまり強い。砂・ロームブロック含む。
23　灰褐色土　しまり強い。ロームブロック多量、砂含む。
24　暗褐色土　ややしまり弱い。浅間B軽石含む。



13号溝

1　暗褐色土　浅間B軽石・黒色土ブロック含む。
2　暗褐色土　白色粘土ブロック・ロームブロック・黒色土ブロック含む。



15号溝

1　黒褐色土　しまり強い。浅間B軽石、白色粒子微量に含む。
2　黒褐色土　浅間B軽石微量、赤褐色粒子少量に含む。
3　暗褐色土　赤褐色粒子、灰褐色粘土粒子含む。
4　灰褐色土　粘性あり。ロームブロック含む。
5　灰褐色土　しまり強い。赤褐色粒子少量、軽石粒子微量に含む。
6　灰褐色土　赤褐色粒子含む。
7　灰褐色土　粘性やや強い。赤褐色粒子含む。
8　灰褐色砂質土　ロームブロック含む。
9　暗灰褐色土　粘性やや強い。赤褐色ブロック含む。
10　暗灰褐色土　粘性強い。赤褐色ブロック少量に含む。
11　暗褐色土　しまり強い。白色軽石粒子含む。
12　暗褐色土　赤褐色粒子・粘土ブロック含む。
13　暗灰褐色土　黒褐色ブロック少量、赤褐色ブロック含む。
14　黒褐色土　ローム粒子含む。
15　暗灰褐色砂質土　ロームブロック含む。
16　暗褐色土　しまり強い。白色軽石粒子微量に含む。
17　褐色土

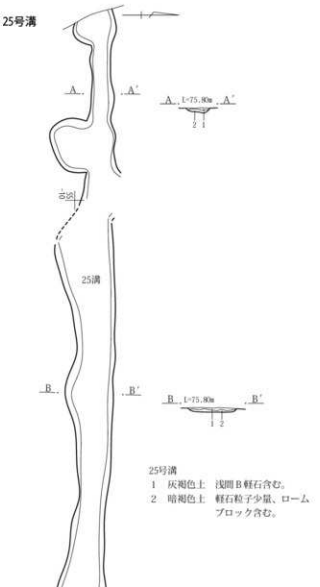
第445図　3区13・15・45・46号溝と15号溝出土遺物

0　1:60　2m

25号溝（第446図、ＰＬ.131）

位置　５Ｒ・Ｓ－８～10グリッド

西端は12号溝と、東端は33号溝と合流し不分明となる。確認面は１面で、他の溝よりも新しい。平面形は直線状だが、輪郭は不明確で整わない。走向方位はＮ－１°－Ｅ。断面形は皿状。底面は平坦。両端の比高差は６㎝で、勾配はほとんどない。埋没土に浅間Ｂ軽石を含む。埋没状況不詳。遺物は出土していない。規模は長さ12.80m上端幅40～130㎝深さ10㎝である。同様な形態をなす12・33号溝と合わせて「コ」の字形に走向しており、水田区画と考えることもできる。



第446図　３区25号溝

32号溝（第447図）

位置　15Ｑ～Ｓ－４グリッド

南側は調査区域外に延び、北側は84号住居と重複して不明となる。延長部に50号溝があり同一と考えられる。状況から30号溝より前出とみられ、84号住居、31号掘立柱建物Ｐ２と重複するが新旧関係不明。平面形は直線状。走向方位はＮ－15°－Ｗ。断面形は逆台形。底面は平坦。両端の比高差は11㎝で、勾配1.09％で北方へ下向する。自然埋没か。規模は長さ10.08m上端幅38～69㎝深さ15㎝である。出土遺物も少なく、時期は比定できない。

33号溝（第447図）

位置　５Ｑ～Ｓ－７・８グリッド

南側は調査区域外に延び、北側は調査時期が異なった影響もあり検出されていない。北西端は25号溝と合流する。確認面は１面で、他の溝よりも新しい。平面形は直線状だが、輪郭は不鮮明で波打つ。走向方位はＮ－０°。断面形は皿状。底面は平坦。両端の比高差はない。埋没土に浅間Ｂ軽石を含む。埋没状況不詳。遺物は出土していない。規模は長さ9.68m上端幅62～132㎝深さ12㎝である。同様な形態をなす12・25号溝と合わせて「コ」の字形に走向しており、水田区画と考えることもできる。

34号溝（第448図、ＰＬ.133）

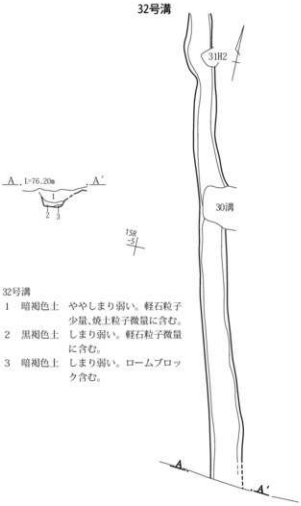
位置　５Ｐ～６Ａ－９～11グリッド

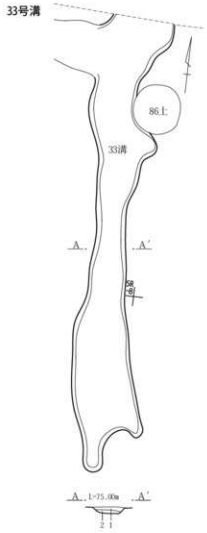
南北両側ともに調査区域外に延びる。12・25号溝より前出。平面形は緩く蛇行する。走向方位はＮ－21°－Ｗ。断面形は逆台形。底面は平坦。両端の比高差は３㎝で、勾配はほとんどない。底面近い埋没土に砂層が見られ、若干流水が想定できる。自然埋没。確認面をAs－Bが被覆する。規模は長さ26.96m上端幅160～300㎝深さ81㎝である。出土遺物も少なく、層位から古代に比定される。形態から用水路として機能していた可能性もある。

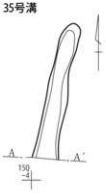
35号溝（第447図、ＰＬ.133）

位置　15Ｑ－３グリッド

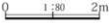
南側は調査区域外に延びる。1361号ピットと重複するが新旧関係不明。平面形は直線状。走向方位はＮ－13°－Ｅ。断面形は箱状。底面はほぼ平坦。両端の比高差は６㎝で、勾配2.05％で北方へ下向する。埋没状況不詳。遺物は出土していない。規模は長さ2.92m上端幅39～56㎝深さ21㎝である。出土遺物もなく、時期は比定できない。





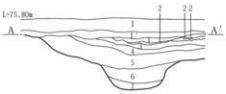


35号溝
1　暗褐色土　しまり弱い。
2　暗褐色土　しまり弱い。ローム粒子微量含む。

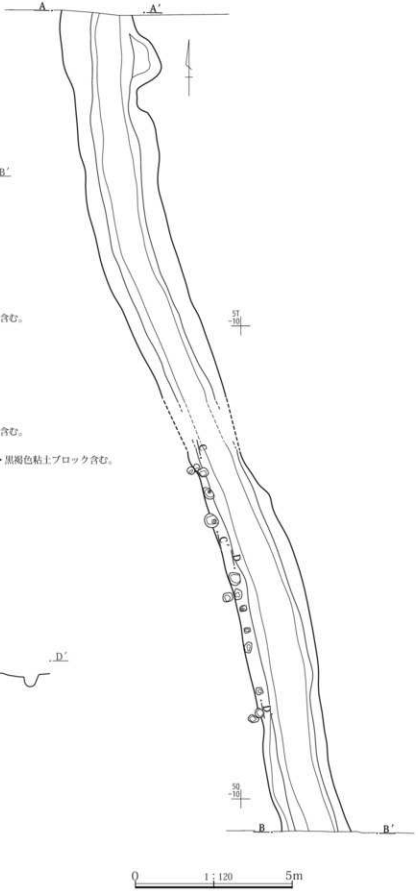


第447図　3区32・33・35号溝

34号溝



34号溝
1′　1の鉄分凝集層
1　黒褐色土　やや堅くサラサラしている。浅間Ｂ軽石含む。
2　As-B(桃灰色灰)＋粕川テフラか
3　As-B(軽石)
4　暗褐色粘質土
5　灰褐色粘質土
6　灰色粘質土
7　灰色砂質土
8　黒褐色土　しまり強い。軽石粒子微量含む。
9　暗褐色土　軽石粒子・ローム粒子微量、赤褐色粒子含む。
10　暗褐色土　ローム粒子・軽石粒子含む。
11　暗褐色土　ローム粒子・ロームブロック・軽石粒子・黒褐色粘土ブロック含む。
12　黒褐色土　粘性強い。
13　黒褐色土　粘性強い。ロームブロック含む。
14　黒褐色粘質土　ロームブロック多量に含む。
15　灰褐色土　粘性強い。砂層含む。



第448図　３区34号溝

37号溝（第449図、ＰＬ.133・134）

位置　５Ｑ～Ｔ－17～20グリッド

南側は調査区域外に延び、北側は38号溝と重複して不明となる。38号溝より前出で、４・７号竪穴状遺構、21・22・28号溝と重複するが新旧関係不明。平面形は直線状。走向方位はＮ－50°－Ｅ。断面形は皿状。底面は凸凹する。両端の比高差は10cmで、勾配はほとんどない。埋没状況不詳。規模は長さ21.28m上端幅60～88cm深さ23cmである。38号溝より前出のため、古墳時代と考えられる。

38号溝（第449・450図、ＰＬ.133・134・214、第169表）

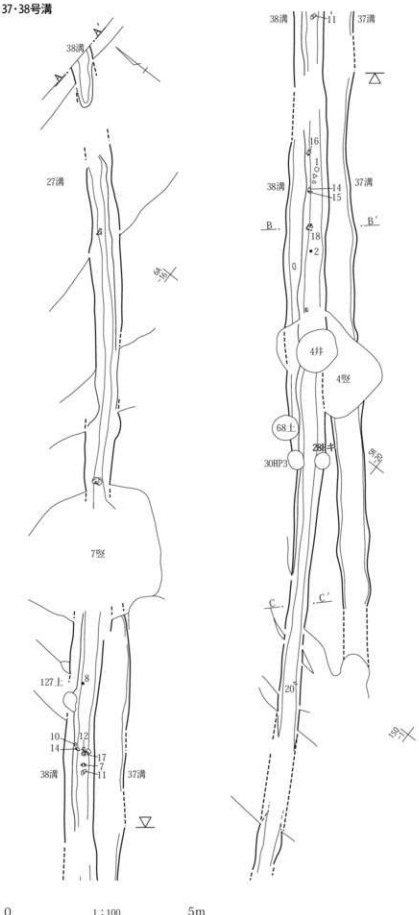
位置　５Ｑ～６Ｂ－15～20、15Ｑ－１グリッド

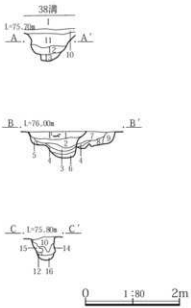
南北両側ともに調査区域外に延びる。37号溝より後出で、28号掘立柱建物Ｐキ、30号掘立柱建物Ｐ３、４・７号竪穴状遺構、68・127号土坑、４号井戸、21・22・27・28

第169表　３区38号溝出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値					胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第450図 PL.214	1	土師器 杯	完形	口	13.0	高	4.7		精選・粗砂粒少/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	口縁部に煤付着。外面底部炭素吸着。
第450図	2	土師器 杯	1/2	口	12.6	高	3.7		細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	外面の底部一部に炭素吸着。
第450図	3	土師器 杯	1/4	口	11.0	高	3.5		細砂粒・白色鉱物粒/良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	内面炭素吸着。
第450図	4	土師器 杯	口縁～底部	口	11.8				精選・赤色粘土粒多/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削りと考えられる。	内外面とも磨滅。
第450図	5	土師器 杯	1/4	口	12.0				細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第450図	6	土師器 杯	1/4	口	12.0				粗砂粒/良好/にぶい橙	口縁部は中位に弱い変換点を有する。横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第450図 PL.214	7	土師器 杯	1/2	口	11.4	高	5.6		粗砂粒/良好/橙	口縁部中位に弱い変換点を有する。横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第450図	8	土師器 杯	3/5	口	12.0	高	4.1		精選・赤色粘土粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第450図	9	土師器 杯	1/4	口	12.6				粗砂粒・赤色粘土粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第450図	10	土師器 杯	1/4	口	11.8	高	3.8		粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	底部の一部に炭素吸着。
第450図	11	土師器 杯	1/4	口	11.4				精選・赤色粘土粒/良好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	内外面とも磨滅。
第450図	12	土師器 高杯	脚部1/2	底	15.8				粗砂粒/良好/にぶい橙	脚部は横撫で。これより上位は縦位にヘラ削り。内面脚部は横位のナデ。	
第450図	13	土師器 鉢	1/2	口 底	9.4 7.6	高	5.9		粗砂粒/良好/褐灰	成形は粗雑で内外面に輪積み痕を残す。外面は不定方向にナデ。内面は斜横位のナデ。	内外面とも炭素吸着。
第450図	14	須恵器 高杯	杯部下半						粗砂粒・白色鉱物粒/還元焔/オリーブ黒	ロクロ整形、回転右回りか。体部に回転ヘラ削り。透孔は3単位。	
第450図	15	須恵器 短頸壺	口縁～胴部1/4	口 底	8.7				粗砂粒・白色鉱物粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。外面カキ目。内面はナデ。	
第450図 PL.214	16	土師器 小型甕	完形	口	11.2	高	11.4		精選・赤色粘土粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部は横位にヘラ削り。内面胴部は横位にヘラナデ。	内外面とも磨滅。
第450図 PL.214	17	土師器 小型甕	口縁.胴部一部欠	口	12.2	高	10.1		細砂粒/良好/浅黄橙	口縁部は横ナデ。胴部から底部は横位のヘラ削り。内面は横位のナデ。	内外面とも漆塗りか、外面磨滅。
第450図 PL.214	18	土師器 小型甕	3/4	口 底	11.8 6.2	高	17.0		粗砂粒/良好/橙	口縁部は緩やかに外反して立ち上がる。胴部下位に斜横位のヘラ磨き。他の胴部も同様の整形と考えられる。	内外面とも被熱・磨滅。
第450図	19	土師器 甕	口縁～胴部片	口	17.8				粗砂粒・軽石/良好/橙	口縁部は2段に分けて横ナデ。胴部は縦位にヘラ削り。内面胴部は横位にヘラナデ。	
第450図 PL.214	20	鉄器 鏃	刃部～頸部一部	長 幅	(4.2) 0.7	厚 重	0.5 (4.7)			長頸三角形鏃か。錆化が進んでいる。	

37・38号溝

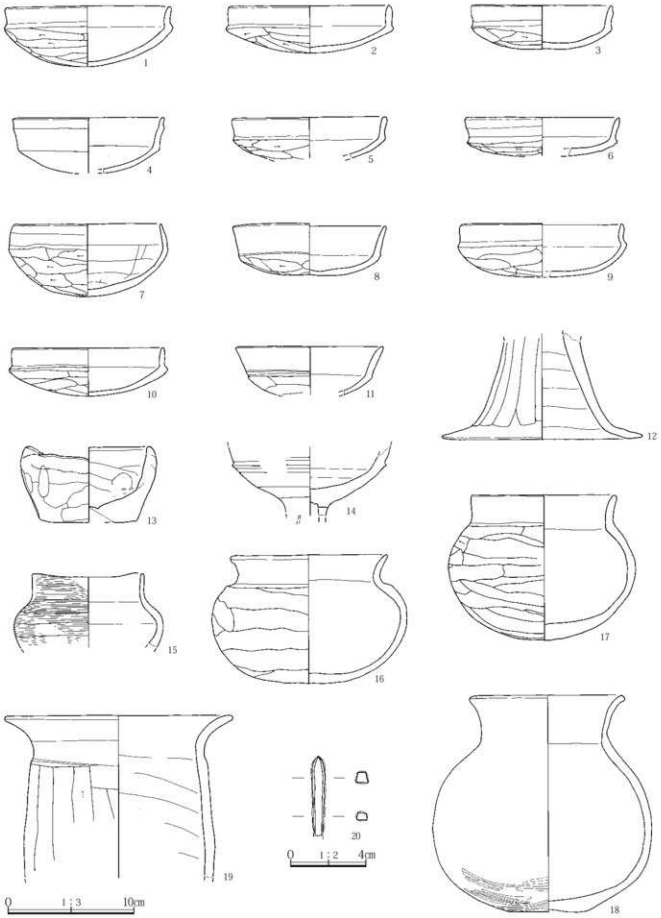




37・38号溝

1　黒褐色土　ややしまり弱い。白色軽石粒子微量含む。
2　黒褐色土　ややしまり弱い。白色軽石粒子・ローム粒子含む。
3　黒褐色土　しまり強い。ローム粒子多量に含む。
4　黒褐色土　しまり強い。ローム粒子含む。
5　褐色土　しまり強い。ロームブロック多量に含む。
6　褐色土　しまり強い。ロームブロック多量、砂含む。
7　黒褐色土　しまり強い。
8　黒褐色土　しまり強い。ロームブロック多量に含む。
9　暗褐色土　ややしまり弱い。
10　暗褐色土　やや堅くしまり粘性あり。ローム粒子・白色軽石・黄白色粒子含む。
11　暗褐色土　やや堅くしまり粘性あり。ローム粒子・白色軽石少量に含む。
12　暗褐色土　ロームブロック・白色軽石含む。
13　黄褐色土＋暗褐色土　軟らかくしまり良い。非常に粘性あり。
14　黒褐色土　やや堅くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロック含む。
15　暗褐色土　やや堅くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロックやや多量に含む。
16　黄白色土　やや堅くしまり粘性あり。暗褐色土少量に含む。

第449図　３区37・38号溝



第450図　3区38号溝出土遺物

号溝と重複するが新旧関係不明。平面形は直線状。走向方位はＮ－53°－Ｅ。断面形はＵ字形。底面はほぼ平坦。両端の比高差は１cmで、勾配はほとんどない。埋没土下位はロームブロックが目立ち人為埋没か。遺物は埋没土中位でやや多く出土する。規模は長さ41.72m上端幅40～115cm深さ54cmである。出土遺物から６世紀後半に比定される。

39号溝（第451・452図、ＰＬ.134）

位置　５Ｑ～６Ａ－８～10グリッド

南北両側ともに調査区域外に延びる。40号溝より前出で、162～165号土坑と重複するが新旧関係不明。東北部に後出する別の溝が走向するが調査段階で付番がなく、詳細は不明。東側は重複により消滅するため、平面形不詳。断面形は皿状か。西壁は斜めに立ち上がる。東へ下がる低地地形を利用する。底面はほぼ平坦で、一部やや凸凹する。北半部に分布する162～166号土坑と、南半部に密集するピット59基は同種の遺構と思われる。確認面上位にAs－Ｂが被覆し、直下面は堅くしまった灰褐色土（Ⅳb層）と観察される。As－Ｂ直下では水田化されていた可能性もあり、鉄分が酸化凝集して堅くしまった可能性もある。下位の埋没土は色調の明るい灰褐色土が水平に堆積し、溝の埋没土として不自然に見える。底面に溝状の土坑やピットが無数に分布する状況は、波板状遺構を思わせる。調査所見はないが、状況は道の存在を想像させる。規模は長さ26.60m上端幅10.80m深さ56cmである。出土遺物も少なく、層位から古代に比定される。

40・41・66～73号溝（第453図、ＰＬ.134・136、第170表）

40号溝　位置　５Ｐ～６Ｅ－６～８グリッド

南北両側ともに調査区域外に延びる。41号溝より前出。南半部は41号溝と分別できていない。平面形はやや蛇行するか。断面形はＵ字形。遺構確認面はかなり下がっている。底面はほぼ平坦でやや凸凹する。両端の比高差は15cmで、勾配はほとんどない。Ｃ断面の土層堆積は不自然であり、数回の掘り直しを示している。２層は41号溝の埋没土であろう。本溝の埋没土は灰色砂・シルトが多く、洪水砂などによって自然埋没し、数回掘り直されている。埋没土から第453図６・７の板碑が出土する。規模は長さ44.84m上端幅7.68m深さ78cmである。非掲載とした出土遺物に近世遺物が含まれるが、41号溝の遺物も混在しており、確定的ではない。中世以降に比定される。

41号溝　位置　５Ｐ～６Ａ－６・７グリッド

南北両側ともに調査区域外に延びる。40号溝より後出。南半部は40号溝と分別できていない。平面形はやや蛇行するか。断面形はＵ字形。遺構確認面はかなり下がっている。底面は丸みがある。北半部両端の比高差は４cmで、勾配はほとんどない。Ｃ断面の埋没土は均質であるが、自然埋没と思われる。埋没土から第453図４の鍋？が出土する。規模は長さ26.16m上端幅3.1m深さ80cmである。出土遺物から近現代に埋没したと考えられる。形態から用水路として機能していた可能性が高い。

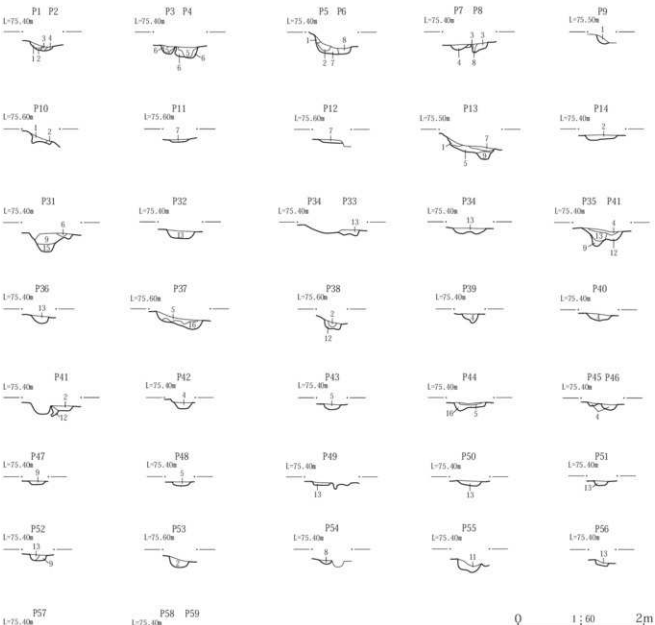
第170表　３区40・41・68・70・73号溝出土遺物

掲載図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第453図	1	土師器 高杯	68溝 杯下部～脚部片					粗砂粒/良好/明赤褐	脚部に円形透孔を４ヶ所に配したと考えられる。	被熱・変質・磨滅。
第453図	2	土師器 杯	70溝 完形	口	10.7	高	3.8	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	内外面とも磨滅。外面底部に炭素吸着。黒斑状。
第453図	3	土師器 杯	73溝 口縁部～底部片	口	12.4			粗砂粒/良好/明赤褐	口縁部は横ナデ。体部から底部は手持ちヘラ削り。	内外面とも磨滅。
第453図	4	製作地不詳 陶器鍋か	41溝 底部～体部1/6					//にぶい黄橙	内面から体部外面下位に透明釉かやや鉄分を含んだ灰釉。細かい貫入入る。底部外面に煤付着。	近現代。
第453図	5	石製品 砥石	40溝	長幅	(10.4) 3.7	厚重	3.7 133.0	砥沢石	四面使用。表裏面に断面Ｖ字状を呈する溝状の研摩痕が形成されている。全体に激しく使い込まれ、形状が大きく変形している。	切り砥石
第453図	6	石造物 板碑	40溝	長幅	(7.6) (10.7)	厚重	1.4 133.4	緑色片岩	部位不明。碑面の磨滅は弱い。	
第453図	7	石造物 板碑	40溝	高幅	(14.6) (11.4)	厚重	1.5 435.7	緑色片岩	板碑左辺・下端部破片。碑面の磨滅は弱い。	

39号溝

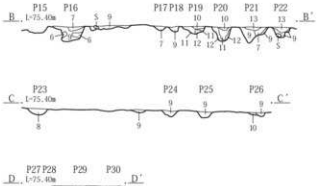
39号溝
Ⅲ' 黒褐色土　サラサラする。浅間Ｂ軽石含む。
1　As-B(灰)
2　As-B(軽石)
3　灰褐色土　堅くしまる。
4　にぶい褐色土　堅くしまり粘性あり。
5　灰褐色土　やや堅くしまる。黄白色粘質土含む。

第451図　３区39号溝と39号溝内ピット群



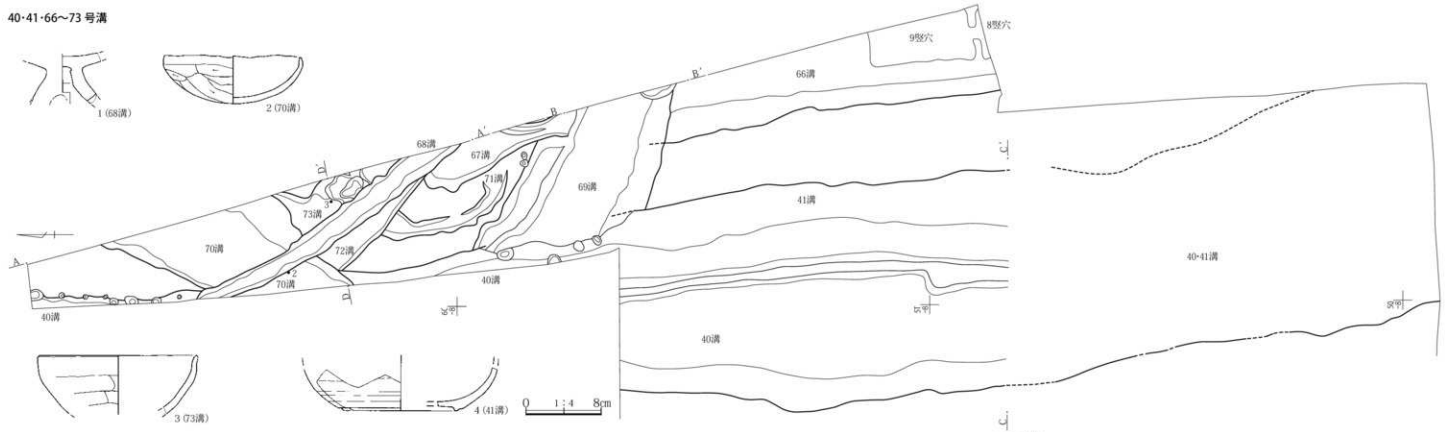
39号溝内ピット

1　黒褐色土　黄白色粘質土ブロック含む。
2　暗褐色土　黄白色粘質土粒子含む。
3　黄白色土　暗褐色土を含む。
4　暗褐色土　黄白色粘質土ブロック少量に含む。
5　暗褐色土　黄白色粘質土ブロック・炭化物粒子含む。
6　黄白色土
7　灰褐色土　黄白色粘質土粒子含む。
8　灰褐色土　黄白色粘質土粒子・炭化物粒子含む。
9　灰褐色土　黄白色粘質土ブロック含む。
10　灰褐色土　浅間Ｂ軽石含む。
11　灰褐色土　黄白色粘質土ブロック少量に含む。
12　灰褐色土
13　暗褐色土　黄白色粘質土ブロック含む。
14　黄白色土　浅間Ｂ軽石含む。
15　灰褐色土　黄白色粘質土ブロック多量に含む。
16　黄褐色土　ロームブロック・黄白色粘質土ブロック含む。



第452図　３区39号溝内ピット群断面図

40·41·66～73 号溝

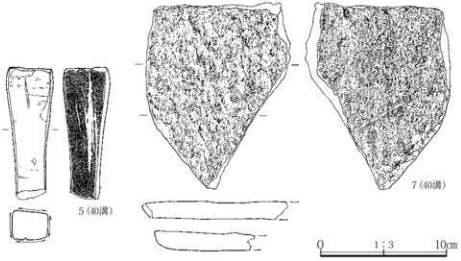


68・70号溝
1' 1の鉄分凝集層
1 As-B
2 As-B下水田耕作土
3 灰褐色土　やや堅くしまり粘性あり。
4 灰色粘質土
5 灰褐色粘質土
6 灰褐色砂質土
7 灰色土　粘性あり。
8 灰色砂質土
9 灰褐色土　やや堅くしまる。
10 暗褐色粘質土　砂・黄白色粘質土ブロック含む。
11 暗褐色粘質土
12 暗褐色粘質土　灰色粘質土含む。
13 黒灰色粘質土

40・41号溝
1' 1の鉄分凝集層
1 暗褐色土　堅くしまる。白色軽石含む。
2 暗褐色土　やや堅くしまり粘性あり。
3 灰褐色土　軟らかくしまり良く粘性あり。
4 灰褐色砂質土
5 暗褐色土　やや堅くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロック含む。
6 灰色砂質土
7 灰色粘質土
8 灰褐色土　堅くしまる。
9 暗褐色土
10 暗褐色土　堅くしまる。ローム含む。

69 号溝
1 灰褐色土　やや堅くしまる。
2 暗褐色粘質土　灰色粘質土含む。
3 灰色砂質土
4 暗褐色粘質土
5 灰褐色粘質土
6 灰褐色粘質土　砂・黄白色粘質土ブロック含む。

68・73 号溝
1 青灰色砂礫　やや軟らかくしまり粘性なし。砂と小礫の互層堆積。鉄分凝集斑文顕著。
2 暗褐色土　やや軟らかくしまり粘性弱い。小礫やや多量、暗青灰色シルトブロック少量に含む。
3 暗青灰色砂＋小礫　しまりなく粘性なし。シルトブロック微量に含む。鉄分凝集斑文顕著。
4 灰色砂　やや軟らかくしまり粘性弱い。シルトブロック・シルト粒子多量に含む。
5 暗青灰色砂＋中礫　やや軟らかくしまり粘性なし。黒褐色粘質土ブロック量に含む。鉄分凝集斑文顕著。
6 暗灰色砂質土　やや軟らかくしまり粘性あり。シルトブロック少量に含む。
7 黒褐色粘質土＋砂　軟らかくしまり粘性強い。シルトブロック微量に含む。
8 暗褐色砂　軟らかくしまり粘性なし。シルト粒子微量に含む。
9 黒褐色砂質土　軟らかくしまり粘性強い。シルトブロック少量に含む。
10 暗褐色砂　軟らかくしまり粘性なし。シルトブロックやや多量に含む。



第453図　3区40・41・66～73号溝と出土遺物

66号溝　位置　５Ｓ～６Ｂ－６グリッド

南北両側ともに調査区域外に延びる。69号溝より後出。平面形は直線状。走向方位はＮ－９°－Ｗ。断面形不詳。底面は平坦でやや凸凹する。両端の比高差は２㎝で、勾配はほとんどない。埋没状況不詳。規模は長さ10.8m上端幅230㎝深さ28㎝である。出土遺物はなく、時期は比定できない。

67号溝　位置　６Ｂ・Ｃ－６・７グリッド

南北両側ともに重複により不明となる。68号溝より後出で、69・71号溝と重複するが新旧関係不明。平面形・断面形不詳。底面は凸凹する。勾配はほとんどない。埋没状況不詳。規模は長さ5.3m上端幅115㎝深さ15㎝である。出土遺物はなく、層位から時期は浅間Ｂ軽石降下以前である。

68号溝　位置　６Ｂ～Ｄ－６・７グリッド

南北両側ともに調査区域外に延びる。40・67・73号溝より前出で、70号溝と重複するが新旧関係不明。平面形は直線状。走向方位はＮ－35°－Ｗ。断面形は箱状。底面はほぼ平坦でやや凸凹する。両端の比高差は１㎝で、勾配はほとんどない。埋没土は砂が多く、水平方向に堆積して不自然だが、細かな調査所見がなく埋没状況は特定できない。埋没土から第453図１の土師器高杯が出土する。規模は長さ9.68m上端幅52～90㎝深さ30㎝である。出土遺物から概ね古墳時代に比定される。

69号溝　位置　６Ａ・Ｂ－６・７グリッド

東西両側ともに調査区域外に延びる。状況から40・66号溝より前出。平面形は直線状。走向方位はＮ－70°－Ｗ。断面形は幅広い逆台形。底面はほぼ平坦。両端の比高差は７㎝で、勾配1.03％で西方へ下向する。埋没土は均質で人為埋没の可能性がある。規模は長さ6.8m上端幅4.28m深さ50㎝である。出土遺物はなく、時期は比定できない。

70号溝　位置　６Ｃ～Ｅ－７グリッド

東西両側ともに調査区域外に延びる。状況から40号溝より前出で、68・72・73号溝と重複するが新旧関係不明。平面形はほぼ直線状。走向方位はＮ－42°－Ｅ。断面形は皿状。底面はほぼ平坦でやや凸凹する。両端の比高差は３㎝で、勾配はほとんどない。自然埋没か。中央部底面で第453図２の土師器杯が出土する。規模は長さ7.18m上端幅3.9m深さ38㎝である。出土遺物から概ね古墳時代に比定される。

71号溝　位置　６Ｂ・Ｃ－７グリッド

67・72号溝と重複するが新旧関係不明で、重複により南北両側とも不明となる。平面形は弧状。断面形不詳。底面は凸凹する。勾配はほとんどない。埋没状況不詳。規模は長さ4.48m上端幅35～90㎝深さ17㎝である。出土遺物はなく、時期は比定できない。

72号溝　位置　６Ｃ－７グリッド

40・68・70・73号溝と重複するが新旧関係不明で、端部は重複により不明となる。平面形・断面形不詳。底面は凸凹する。勾配はほとんどない。埋没状況不詳。規模は長さ4.2m上端幅85㎝深さ18㎝である。出土遺物はなく、時期は比定できない。

73号溝　位置　６Ｃ・Ｄ－７グリッド

68・70・72号溝と重複するが新旧関係不明で、大部分は重複により不明となる。平面形・断面形不詳。底面は凸凹する。勾配はほとんどない。埋没状況不詳。東端で第453図３の土師器杯が出土する。規模は計測不能。出土遺物から概ね古墳時代に比定される。

49号溝（第454図、Ｐ Ｌ.135）

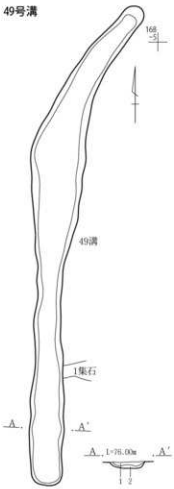
位置　15Ｔ～16Ｂ－５グリッド

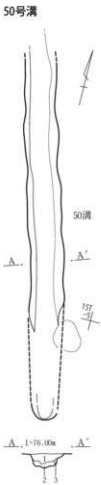
確認面が高いため、他の遺構よりも後出である。１号集石遺構と隣接しており関連も想定される。平面形は「く」の字形。走向方位はＮ－32°－Ｅ～Ｎ－２°－Ｅ。断面形は皿状。底面はほぼ平坦。両端の比高差は12㎝で、勾配1.15％で南方へ下向する。埋没土は浅間Ｂ軽石を含み、埋没状況不詳。規模は長さ10.40m上端幅44～118㎝深さ15㎝である。非掲載とした出土遺物から概ね近世に比定される。

50号溝（第454図、Ｐ Ｌ.159）

位置　15Ｓ～16Ａ－５グリッド

北側は26号溝と重複して不明となる。南側は途切れるが、延長線上に32号溝があり同一と考えられる。平面形は直線状。走向方位はＮ－13°－Ｗ。断面形はＵ字形。底面は丸みがある。両端の比高差は10㎝で、勾配1.6％で南方へ下向する。自然埋没か。規模は長さ7.95m上端幅50～75㎝深さ32㎝である。出土遺物は少ないが、非掲載とした出土遺物から古墳時代と考えられる。





49号溝
1　暗褐色土　ややしまり弱い。浅間Ｂ軽石少量に含む。
2　褐色土　ややしまり弱い。白色軽石粒子含む。

50号溝
1　暗褐色土　やや堅くしまりやや粘性あり。ローム粒子少量に含む。
2　暗褐色土　やや堅くしまりやや粘性強い。ロームブロックやや多量に含む。
3　暗褐色土　ややしまり良い粘性あり。ローム粒子少量に含む。

0　1:80　2m

第454図　３区49・50号溝

58号溝（第455図、ＰＬ.135、第171表）

位置　26Ａ・Ｂ－８～12グリッド

東西両側ともに調査区域外に延びる。西方の２区では延長線部は検出されていないため、南に折れるか、立ち上がっていた可能性が高い。２区との間に調査の都合で、未調査部分が生じたため不明である。状況から重複する住居群より後出。平面形は直線状。走向方位はＮ－74°－Ｅ。断面形は逆台形。底面はほぼ平坦。両端の比高差は10cmで、勾配はほとんどない。埋没状況から１度掘り直されている。埋没土はロームブロックが目立ち中位まで人為埋没する。埋没土に浅間Ｂ軽石を含む。規模は長さ20.44m上端幅197 ～ 230cm深さ100cmである。出土遺物は混入であり、時期は浅間Ｂ軽石降下以降である。

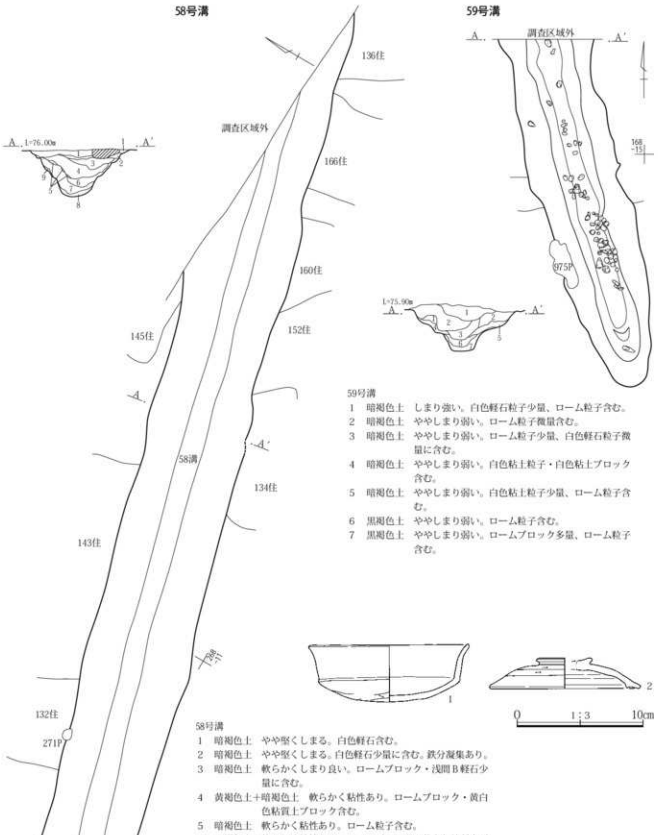
59号溝（第455図、ＰＬ.135）

位置　16Ａ・Ｂ－14・15グリッド

北側は調査区域外に延びる。120号住居と重複するが新旧関係不明。平面形は直線状。走向方位はＮ－16°－Ｗ。断面形は逆台形で、中位で「く」の字形に開く。南端は斜めに立ち上がる。底面はほぼ平坦。両端の比高差は６cmで、勾配はほとんどない。自然埋没。遺物は埋没土中位に集中する。規模は長さ7.6m上端幅130 ～ 192cm深さ82cmである。非掲載とした出土遺物から概ね古墳時代に比定される。

第171表　３区58号溝出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率		計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第455図	1	土師器 杯	1/4	口	12.4	高	4.5		精選・赤色粘土粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	内外面とも磨滅。
第455図	2	須恵器 蓋	摘み部～口縁部	口	9.8				黒色鉱物粒/還元焔/褐灰	ロクロ整形、回転は右回り。天井部の中央寄りに回転ヘラ削り。	



59号溝

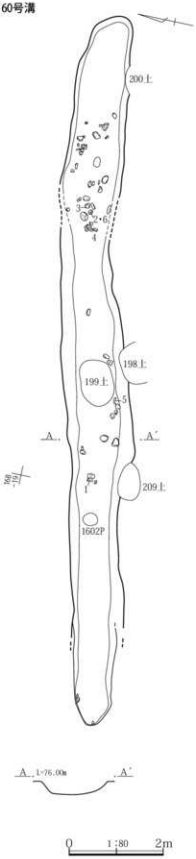
1　暗褐色土　しまり強い。白色軽石粒子少量、ローム粒子含む。
2　暗褐色土　ややしまり弱い。ローム粒子微量含む。
3　暗褐色土　ややしまり弱い。ローム粒子少量、白色軽石粒子微量に含む。
4　暗褐色土　ややしまり弱い。白色粘土粒子・白色粘土ブロック含む。
5　暗褐色土　ややしまり弱い。白色粘土粒子少量、ローム粒子含む。
6　黒褐色土　ややしまり弱い。ローム粒子含む。
7　黒褐色土　ややしまり弱い。ロームブロック多量、ローム粒子含む。

58号溝

1　暗褐色土　やや堅くしまる。白色軽石含む。
2　暗褐色土　やや堅くしまる。白色軽石少量に含む。鉄分凝集あり。
3　暗褐色土　軟らかくしまり良い。ロームブロック・浅間Ｂ軽石少量に含む。
4　黄褐色土＋暗褐色土　軟らかく粘性あり。ロームブロック・黄白色粘質土ブロック含む。
5　暗褐色土　軟らかく粘性あり。ローム粒子含む。
6　灰褐色土　軟らかく粘性あり。ロームブロック・黄白色粘質土ブロック含む。
7　黄褐色土　軟らかく粘性あり。ロームブロック・黄白色粘質土ブロック・暗褐色土含む。
8　灰褐色粘質土　やや堅くしまり粘性非常に有り。黄白色粘質土ブロック少量に含む。

第455図　３区58・59号溝と58号溝出土遺物

60号溝

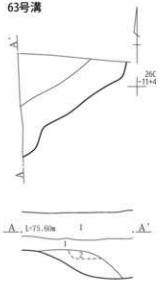


60号溝（第456・457図、ＰＬ.135、第172表）

位置　16Ａ・Ｂ－17～19グリッド

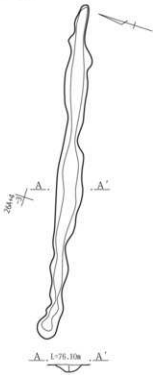
123号住居より後出で、142・143号住居、198・199・209号土坑、1602号ピット、２・３号溝と重複するが新旧関係不明。平面形はわずかに弓状。走向方位はＮ－78°－Ｅ。断面形は皿状。底面はほぼ平坦。両端の比高差は23㎝で、勾配1.53％で西方へ下向する。埋没状況不詳。遺物の出土は少なく、埋没土上位である。規模は長さ15.00m上端幅90～140㎝深さ31㎝である。出土遺物から６世紀後半比定にされる。

63号溝



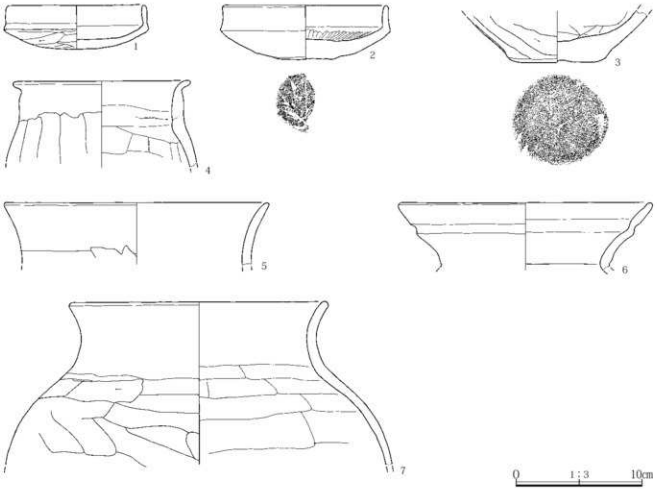
63号溝
1　暗褐色土　堅くしまり粘性あり。焼土粒子・炭化物粒子・ローム粒子含む。
2　暗色土　堅くしまり粘性あり。黄白色土ブロックやや多量に含む。

64号溝



64号溝
1　暗褐色土　やや堅くしまり粘性あり。焼土粒子少量、浅間Ｂ軽石含む。

第456図　３区60・63・64号溝



第457図　3区 60号溝出土遺物

第172表　3区60号溝出土遺物

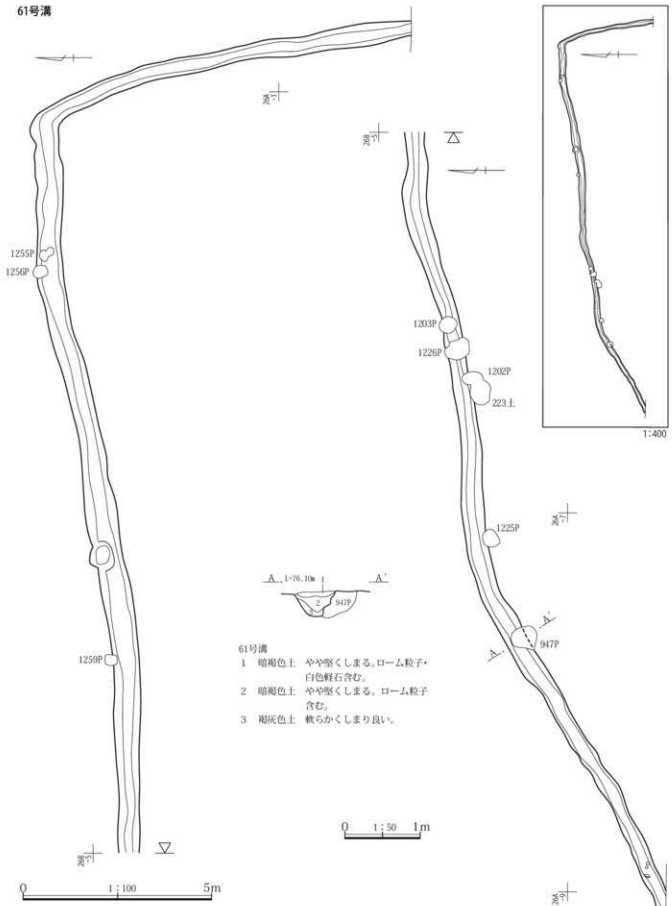
掲図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値					胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第457図	1	土師器 杯	1/4	口	10.7	高	3.4		細砂粒/良好/黒褐	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	内外面とも炭素吸着。黒色。
第457図	2	土師器 杯	1/2	口 底	12.7 4.8	高	4.2		精選・赤色粘土粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部は狭小な平底、木葉痕が見られる。内面底部に放射状のヘラ磨き。	内外面とも磨滅。
第457図	3	土師器 甕	底部～胴部下位	底	7.8				粗砂粒/良好/灰褐	胴部は斜位にヘラ削り。底部はヘラナデ。中央に木葉痕を残す。内面胴部はヘラナデ。	
第457図	4	土師器 甕	口縁～胴部片	口	13.6				粗砂粒/良好/明黄褐	口縁は強く外反。口縁部は横ナデ。胴部は縦位にヘラ削り。内面胴部は横位にヘラナデ。	
第457図	5	土師器 甕	口縁部片	口	20.8				精選/良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ。	内外面とも磨滅。
第457図	6	土師器 甕	口縁部片	口	19.7				粗砂粒/良好/橙	口縁部は中位に稜を有する横ナデ。	内外面とも磨滅。
第457図	7	土師器 甕	口縁～胴部上位 1/4	口	20.0				粗砂粒多・片岩/良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ。胴部は斜横位のヘラ削り。内面胴部は横位のヘラナデ。	内面磨滅。

61号溝(第458・459図、第173表)

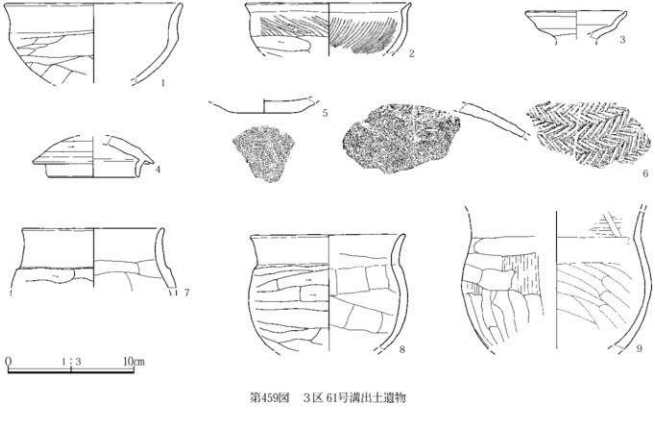
位置　15T～16B－20、26A・B－1～8、25T－8・9グリッド

南側は一部5号溝と同一となる可能性がある。西側は調査時期が異なった事情もあり、検出できていない。947号ピットより後出で、ほかに重複する住居多数との新旧関係は不明。平面形はL字形。走向方位は南北軸でN－12°－Wで東西軸でN－83°－E～N－60°－E。断面形はU字形。底面は凸凹する。両端の比高差は15cmで、勾配はほとんどない。自然埋没か。規模は南北軸で長さ10.40m上端幅37～60cm深さ25cm、東西軸で長さ41.60m上端幅28～80cm深さ32cmである。出土遺物から6世紀代に比定される。

61号溝



第458図　３区61号溝



第459図　３区61号溝出土遺物

第173表　３区61号溝出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第459図	1	土師器 杯	口縁部～底部片	口	13.8			粗砂粒少/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部から底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	内外面とも磨滅。
第459図	2	土師器 杯	1/5	口	12.9			細砂粒・赤色粘土粒/良好/にぶい赤褐	口縁部は横ナデ。体部は斜放射状のヘラ磨き。底部はヘラ削り。内面体部は斜放射状のヘラ磨き。	
第459図	3	土師器 器台	受け部	口	7.8			細砂粒/良好/にぶい黄橙	受け部は中位で屈曲。上位は大きく外反して立ち上がる。内外面とも横ナデ。	
第459図	4	須恵器 長頸壺蓋	1/3	口	7.0			細砂粒/還元焔/にぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回りか。天井部は回転ヘラ削り。	
第459図	5	須恵器 杯？	底部片	底	6.0			細砂粒/酸化焔/にぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り後、無調整。	
第459図	6	土師器 壺	胴部上位片					粗砂粒・白色鉱物粒/良好/明黄褐	外面に櫛状工具による綾杉文を複数段配する。内面はナデ。	
第459図	7	土師器 小型甕	口縁部～胴部下位片	口	11.0			精選・赤色粘土粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部横位にヘラ削り。内面胴部は横位にヘラナデ。	
第459図	8	土師器 小型甕	口縁部～胴部下位片	口	12.0			精選・赤色粘土粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部横位にヘラ削り。内面胴部は横位にヘラナデ。	
第459図	9	土師器 小型甕	頸部～胴部下位片					粗砂粒/良好/赤褐	口縁部は横ナデ。胴部は縦位のハケ目の上に上位は横位、中位以下は縦位のヘラナデ。内面口縁部にハケ目を残す。胴部は斜位にヘラナデ。	

63号溝（第456図、ＰＬ.135）

位置　26Ｂ・Ｃ－11・12グリッド

調査区北西端で一部を検出する。西方延長線上に２区の埋没谷がある。平面形・断面形・底面不詳。壁は緩やかに立ち上がる。勾配不明。自然埋没か。規模は計測不能。非掲載とした出土遺物から概ね奈良・平安時代に比定される。２区埋没谷に連続する可能性が高く、同種の遺構と考えられる。

64号溝（第456図）

位置　26Ａ－２・３グリッド

状況から170・174号住居より後出か。平面形は直線状。走向方位はＮ－78°－Ｅ。断面形はＵ字形。底面は丸みがある。両端の比高差は５㎝で、勾配はほとんどない。埋没土は浅間Ｂ軽石を含む。埋没状況不詳。規模は長さ7.12m上端幅20～56㎝深さ10㎝である。出土遺物はなく、時期は浅間Ｂ軽石降下以降である。

9　畠

１号畠(第460図、ＰＬ.135)

位置　15Ｔ－１・２グリッド

確認面が高いため、他の遺構よりも後出である。直線的な溝が並行して４条確認され、調査段階で畝間と判断されている。走向方位はＮ－90°。埋没土は浅間Ａ軽石を主体とする灰褐色土である。軽石は一次堆積に近いものか、攪拌されたものか、調査所見はない。後者であれば直下の畠とは見なし難い。軽石を除去した状況は、溝の間が細く尖っており、畝間であれば崩れてしまう。したがって、天地返しを行った復旧痕である可能性が高い。規模は第174表のとおり。遺物は出土していない。

第174表　３区１号畠計測値

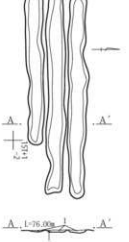
位置	条数	走行方向	畝幅	畝間残存長	畝間幅	畝間最大深
15T-1・2	3	N－90°	5 ～ 15cm	4.25m	26 ～ 44cm	18cm

10　集石遺構

１号集石遺構(第461・462図、ＰＬ.136・214、第175・176表)

位置　５Ｔ～６Ａ－４・５グリッド

確認面が高いため、他の遺構よりも後出である。拳大の礫を廃棄した溝が７条並走する。調査時の呼称をそのまま使い、集石遺構として扱う。最南端に位置する50号溝も同種の遺構であるが、調査時の呼称を残し、ここであわせて扱う。走向方位はＮ－82 ～ 85°－W、Ｎ－76 ～ 84°－Ｅ、Ｎ－15°－Ｅ。溝は残存状態が良好なものはＬ字形であるため、本来は７条全てＬ字形であったと推測する。溝の断面形はＵ字形で、底面は平坦でやや丸みがある。礫に混じって第461図１の肥前磁器碗蓋ほかが出土する。溝の規模は第176表のとおり。出土遺物から概ね19世紀前後に比定される。



３区１号畠
1　にぶい褐色土＋浅間Ａ軽石　等量に混じる。
2　黒褐色土　浅間Ｂ軽石を含む。

第460図　３区１号畠

第175表　３区１号集石遺構出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第461図	1	肥前磁器 広東碗蓋	天井部					//白	つまみ内二重各内に「青」月部が中抜の銘。天井部内面、一重圏線内に鷺文。広東碗の蓋であろう。	18世紀末～19世紀前半。
第461図	2	肥前磁器 青磁香炉か火入れ	1/6					//灰白	口縁部は内側に非厚し、上面は平坦。口縁部内面から外面に青磁釉。	江戸時代。
第461図	3	製作地不詳 陶器壺	1/4					//灰白～灰	底部外面周縁回転篦削り。中央は回転糸切痕か。外面の一部に鉄釉流れる。底部内面に釉が斑状に降る。	時期不詳。
第462図 PL.214	4	石製品 祇石？		長 88.9 幅 ―	厚 3.4 重 351.8			粗粒輝石安山岩	表裏面とも研磨され、弱い光沢を帯びる。有側面には面取り様の平坦面が形成されている。被熱破損。	
第462図 PL.214	5	礫石器 敲石		長 (7.1) 幅 (7.8)	厚 (3.2) 重 289.9			砂岩	小口部が敲打され、エッジが著しく潰れる。	
第462図 PL.214	6	礫石器 敲石		長 15.8 幅 7.0	厚 3.3 重 516.1			黒色片岩	小口部両端が著しく敲打され、これに伴う衝撃剥離痕が生じている。	
第462図 PL.214	7	礫石器 敲石		長 13.2 幅 11.0	厚 3.3 重 702.2			粗粒輝石安山岩	側縁を敲打、これに伴う衝撃剥離痕がある。背面側上端部に敲打・摩耗痕がある。	扁平礫
第462図 PL.214	8	礫石器 敲石		長 14.6 幅 6.9	厚 1.9 重 303.7			珪質頁岩	小口部両端に敲打に伴う衝撃剥離痕・右側縁に敲打痕があるほか、右側縁中央に平坦な工具痕が残る。	
第462図 PL.214	9	石造物 板碑		長 13.6 幅 9.5	厚 2.5 重 298.1			緑色片岩	体部破片。表裏面とも磨滅は弱い。	
第462図 PL.214	10	石造物 板碑		長 (9.6) 幅 (5.4)	重 2125.6			緑色片岩	体部破片。非葉理面ともやや磨滅する。	棒状扁平礫
第462図 PL.214	11	石製品 祇石？		長 (13.1) 幅 (13.6)	厚 2.2 重 538.4			緑色片岩	背面側に幅２mm弱の粗い刃なろし傷様の工具痕がある。裏面側右辺に板碑本来の側縁整形痕が残る。	板碑

集石下面

29溝

93住

(50溝)

29溝

A　L=76.20m　A'

B　L=76.20m　B'

29溝

C　L=76.10m　C'

D　L=75.20m　D'

1号集石遺構

1　暗褐色土　しまる。浅間Ｂ軽石・白色軽石微量に含む。

2　黒褐色土　ややしまり弱い。ローム粒少量、白色軽石微量に含む。

3　暗褐色土　ややしまり弱い。ローム粒含む。

4　灰褐色土　ややしまり弱い。ローム粒含む。

0　1:40　1m

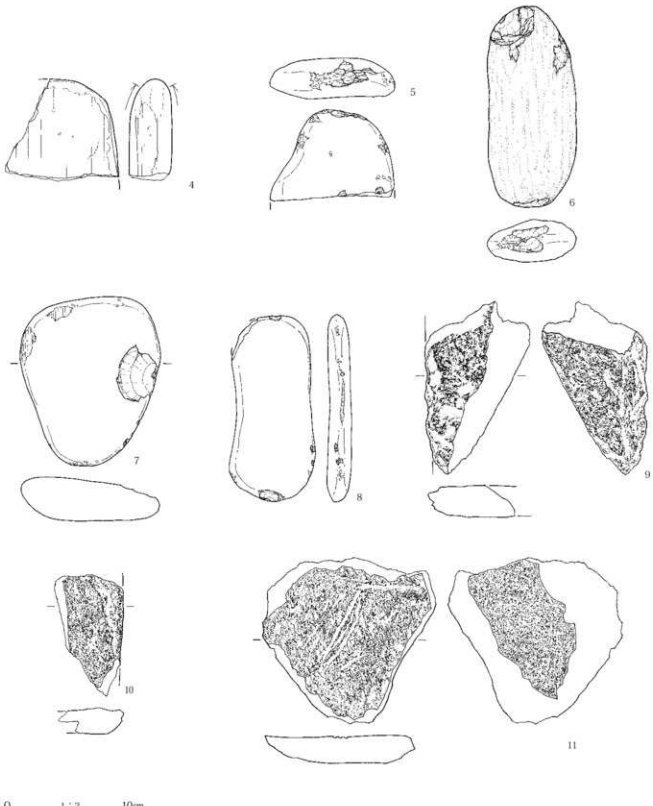
0　1:3　5cm

0　1:4　8cm

第461図　３区１号集石遺構と出土遺物（１）

第176表　３区１号集石下面(溝)計測値

位置	５Ｔ～６Ａ－４・５							
	長さ・幅・深さ(cm)		長さ・幅・深さ(cm)		長さ・幅・深さ(cm)		長さ・幅・深さ(cm)
①	145・60・19	③	330・41・6	⑤	138・48・10	⑦	150・49・15
②	213・55・13	④	230・50・9	⑥	120・35・10		



第462図　３区１号集石遺構出土遺物(２)

第４節　３区の遺構と遺物（２）

－中世区画遺構－

１　概要

１号区画遺構（以下、１号屋敷）は３区の東端に位置し、16・27号溝により囲まれた屋敷である。南側調査区域外に未調査地が延びている。屋敷の規模は一辺40～60m程である。屋敷内部では掘立柱建物39棟ほかが検出されている（建物の帰属は第５章参照）。

１号屋敷の西側には、29～31号溝によって方形に囲まれた２号区画遺構（次項）がある。規模は一辺20m弱である。区画溝とほぼ重なる位置に土坑が集中する様相を示す。特に、火葬跡や土坑墓、石造物などを混入する土坑がやや多く見られ、２号区画遺構の性格に関連する可能性が高い。

中世区画遺構としては、１・２号区画遺構以外にも、７号溝が区画を形成しており、西限は不明ながら同時期のものに１号溝がある。また、１号屋敷の東側でも関連する溝があり、全体として区画遺構に関連するその他のものとして、性格づけられる。

２　１号区画遺構（１号屋敷）

屋敷内部では掘立柱建物39棟、竪穴状遺構４基、土坑28基、井戸８基が検出されている。屋敷の東西幅は北端の溝内側で38.5m、外側は約44mで、調査区南端の溝内側で約44m、外側で約50mの規模を持っている。隣接する下斎田遺跡群の発掘調査により、16号溝の南側延長部が検出され、西方へ屈曲する屋敷南東角が確認された。この成果により、屋敷東辺の南北規模は、区画溝の内側で約50m、外側で約56mと判明した。

区画溝としては別に西辺をＬ字形に区画する29・52号溝があり、前者は２号区画遺構の北・東辺を区画する溝を兼ねている。出土遺物からこれらの溝は、16・27号溝より後代と考えられる。29号溝に対応する東辺は、位置及び形態から18号溝である可能性が高い。この場合、東西の規模は北端の溝内側で38.5m、外側で約41.5m、調査区南端の溝内側で44m、外側で約47mの規模になる。

（１）掘立柱建物

３区では53棟の掘立柱建物が検出され、そのうち39棟が１号屋敷内に所在している。主軸方位に着目すると、掘立柱建物は10種類に分類でき、１号屋敷内では第177表のとおり、９種類が見られた。これらは建物同士の並存関係を考える基礎となる。

１類は真北に対して、主軸方位が西へ42度傾く１棟である。屋敷の中央部南端に位置する。

２類は同じく主軸方位が西へ29～35度傾く２棟である。屋敷の中央南半部に位置する。

３類は同じく主軸方位（および直交方向、以下同じ）が20～26度傾く４棟である。屋敷の北西から南東に向かう対角線上に建物が分布する。

４類は同じく主軸方位が西へ11～19度傾く２棟である。分布は２・３類とほぼ重なる。

５類は同じく主軸方位が西へ４～９度傾く７棟である。分布は２～４類に類似するが、全体に分布範囲が広がっている。

以上、１～５類は分布が類似し、区画する16・27号溝の走向方位と一致しない一群と言える。

６類は同じく西へ３度から東へ３度傾く12棟である。屋敷の南部に分布し、１～５類とは様相が異なる。区画する16・27号溝の走向方位とも整合する。

７類は同じく東へ４度～８度傾く５棟である。屋敷南部西寄りにまとまる。

８類は同じく東へ９度～12度傾く４棟である。屋敷の西半部に分布し、７類ともやや異なる。16・27号溝の走向方位とも合わない。

９類は同じく東へ20～22度傾く２棟である。８類との間にやや数値の開きがあり、分布の様相が異なる。屋敷の北西部に分布する。

加えて、10類は同じく東へ32度傾く42号掘立柱建物１棟である。ここでは関係しない（679頁参照）。

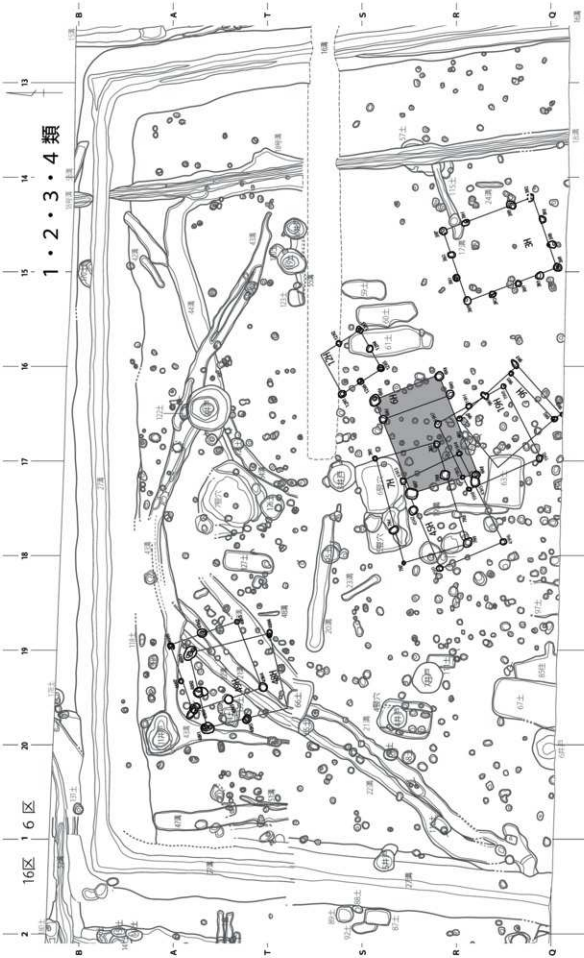
なお、時期については基本的に屋敷の年代観を想定し、出土遺物がない限り特に明記しない。非掲載遺物は必要がない限り、第253表のみに示す。

第177表　３区掘立柱建物一覧表

位置	分類名	建物No	主軸方位	面積㎡	桁行(平均)	桁行平均柱間	寸尺	梁間(平均)	寸尺	規格(梁間×桁行)/埋没状況	新旧関係
屋敷内	1	9	N-42°-W	13.45	3.60			3.28	10.8	1×2間・南北棟＋南下屋	
	2	12	N-33°-W	5.85	2.50			2.34	7.7	2×2間・正方形か	
		19	N-(25)～30°-W	16.42	4.065			4.04	13.3	2×2間・正方形	
	3	3	N-22°-W	20.23	5.06	1.265	4.2	3.985	13.2	3×4間・南北棟	→４Ａ
		6	N-69°-E	15.71	3.65			4.305	14.2	2×1間・南北棟＋東下屋	
		45	N-64～67°-E	17.48	5.14			3.4	11.2	1×2間・東西棟	
		49	N-20°-W	14.25	3.825			3.725	12.3	2×2間・正方形	←50
	4	7	N-73～75°-E	19.27	5.595	1.865	6.2	3.445	11.4	1×3間・東西棟	←５・６竪穴
		48	N-78°-E	17.64	4.40			4.01	13.2	2×2間・正方形	
	5	14	N-７～９°-W	21.48	6.67	2.223	7.3	3.22	10.6	2×3間・東西棟	
		16	N-81～82°-E	18.52	5.06	1.687	5.6	3.66	12.1	1×3間・東西棟	
		23	N-４～７°-W	16.01	4.17			3.84	12.7	1×2間・正方形	
		24	N-９°-W	14.70	4.06			3.62	11.9	2×2間・正方形	
		39	N-６～７°-W	16.14	4.04			3.995	13.2	2×2間・正方形	
		47	N-５～７°-W	16.81	4.165			4.035	13.3	2×2間・正方形	
		52	N-３～５°-W	9.82	3.37			2.915	9.6	1×2間・南北棟	
	6	4A	N-０～３°-W	18.62	4.45			4.185	13.8	2×2間・正方形	←３
		4B	N-０～２°-W	18.62	3.91			4.855	16.0	2×2間・南北棟	
		5	N-１°-E	21.91	6.06	2.02	6.7	3.615	11.9	1×3間・南北棟	
		10	N-２～３°-W	16.44	4.08			4.03	13.3	2×2間・正方形	
		11	N-87～90°-E	25.24	6.31	2.103	6.9	4.0	13.2	1×3間・東西棟	
		13	N-87°-E	33.78	8.28	2.07	6.8	4.08	13.5	2×4間・東西棟	
		15	N-(85)～89°-W	19.19	4.52			4.245	14.0	2×2間・正方形	
		21	N-０～２°-W	36.46	6.265	2.088	6.9	4.04	13.3	2×3間・南北棟＋南下屋＋南庇・総柱	
		26	N-０～１°-E	15.00	4.695			3.195	10.5	1×2間・東西棟	
		29	N-３－(４)°-E	14.70	3.985			3.69	12.2	2×2間・南北棟	
		30	N-87°-W	11.15	3.255			3.425	11.3	1×2間・正方形	
		34	W１°-N－Ｅ２°	(10.19)	-			3.74	12.3	1×(1)間・南北棟＋東庇	
	7	17	N-85～86°-W	25.66	6.88	2.293	7.6	3.73	12.3	1×3間・東西棟	
		20	N-８°-E	11.29	3.41			3.31	10.9	1×2間・正方形	
		22	N-４°-E	11.40	3.745			3.04	10.0	1×2間・南北棟	
		25	N-85°-W	16.10	6.17	2.057	6.8	2.61	8.6	1×3間・東西棟	
		28	N-６°-E	34.27	8.61	2.153	7.1	3.98	13.1	2×4間・南北棟	
	8	27	N-16°-E	(6.05)	1.68			3.78	12.5	2×(1)間・南北棟＋北張出	
		35	N-80～81°-W	8.9	4.21			1.765	5.8	1×2間・東西棟＋東下屋	
		40	N-11～12°-E	17.27	4.35			3.97	13.1	1×2間・南北棟	
		46	N-78～80°-W	12.66	4.913			2.575	8.5	1×2間・東西棟	
	9	50	N-20～22°-E	37.50	7.63	2.543	8.4	4.915	16.2	1×3間・南北棟	→49
		51	N-69～71°-W	14.44	3.86			3.74	12.3	2×2間・正方形	←21・22溝
屋敷外(西)	2	33	N-29～30°-W	5.80	2.565			2.26	7.5	1×2間・正方形	
		43	N-56～58°-E	12.58	4.82			2.61	8.6	1×2間・東西棟	
		44	N-35°-W	11.63	5.875	1.958	6.5	1.98	6.5	1×3間・南北棟	
		55	N-56°-E	17.33	4.42			3.92	12.9	1×3間・東西棟	
		57	N-28～29°-W	6.16	2.85			2.16	7.1	2×2間・南北棟か	
	3	31	N-64～65°-E	14.17	3.925			3.61	11.9	1×2間・東西棟	
		37	N-69～70°-E	23.01	7.135	1.784	5.9	3.225	10.6	1×4間・東西棟	
		38	N-66°-E	(28.32)	7.08	1.77	5.8	4.00	13.2	2×(4)間・東西棟	
		53	N-65～68°-E	11.89	3.975			2.99	9.9	1×2間・東西棟	
	4	1	N-12～14°-W	4.94	2.17			2.265	7.4	1×2間・正方形	
		32	N-16～17°-W	12.11	3.635			3.335	11.0	1×2間・正方形	
		54	N-15～19°-W	14.23	3.82			3.725	12.3	1×2間・正方形	
		56	N-78～79°-E	22.96	5.08			4.52	14.9	2×2間・東西棟	
	10	42	N-32°-E	6.35	3.35			1.895	6.3	1×2間・南北棟	

分類１類：W42°／２類：W28～35°／３類W20～26°／４類：W11～19°／５類：Ｗ３～９°／６類：Ｗ３～Ｅ３°／７類：Ｅ４～８°／８類：Ｅ９～12°／９類：Ｅ20～22°/10類：Ｅ32°

第463図　3区1号屋敷全体図



第464図　3区１号屋敷掘立柱建物分布図(１)

第465図　3区1号屋敷掘立柱建物分布図(2)

第460図　3区Ⅰ号屋敷掘立柱建物分布図(3)

３号掘立柱建物（第467図、ＰＬ.139）

位置　５Ｐ・Ｑ－14・15グリッド

重複　Ｐカは４Ａ号掘立柱建物Ｐエより前出で、Ｐウは４Ａ号掘立柱建物Ｐイ、４Ｂ号掘立柱建物Ｐウと重複するが新旧関係不明。

主軸方位　Ｎ－22°－Ｗ。　**面積**　20.23㎡

形態　梁間３間で桁行４間の南北棟。東辺は西辺より20㎝短いため、北辺は南下がりに傾く。桁行柱間を平均すると、約1.27ｍ・約4.2尺であるが、東辺の平均柱間は約1.24ｍで、Ｐイは南へ11㎝寄り、Ｐウも南へ10㎝寄る。なお、東辺の中間の柱は検出されず、省略されたと考えられる。西辺の平均柱間は約1.29ｍで、Ｐクは南へ19㎝寄り、Ｐコは約17㎝南に寄るため、東辺と付合する。Ｐケも南へ11㎝寄る。北辺の平均柱間は約1.34ｍで、Ｐシは約15㎝東へ寄る。南辺の平均柱間は約1.32ｍで、Ｐカは約７㎝西へ寄るため、Ｐオとの柱間がその分広い。各辺の柱間は1.24 ～ 1.34ｍと一様に短く、柱数が多く柱間が短い形態を示す。埋没状況に特徴的なものはない。柱穴の長径は30 ～ 44㎝と大差なく、深さは38㎝と若干深いＰキ・サを除き、全体に浅い。柱穴の形態は円形・楕円形・隅丸長方形が混在する。詳細な規模は第178表のとおり。Ｐア・イの間から東へ17号溝が延びており、走向方位も一致することから、排水施設など関連する遺構である可能性が高い。

４Ａ号掘立柱建物（第468図、ＰＬ.139）

位置　５Ｐ・Ｑ－14・15グリッド

重複　Ｐエは３号掘立柱建物Ｐカより、Ｐオは1288号ピットより、Ｐカは1290号ピットより後出。Ｐアは４Ｂ号掘立柱建物Ｐイと、Ｐイは３号掘立柱建物Ｐウと重複するが新旧関係不明。

主軸方位　Ｎ－０～３°－Ｗ。　**面積**　18.62㎡

形態　２間四方の正方形で、東辺は１間分北へ延びて、塀などになるとみられる。東辺は西辺より35㎝短く、北辺は南辺より10㎝短いため、北辺は東下がりに傾く。東辺の中間柱Ｐイは11㎝北へ寄る。西辺の中間柱Ｐカも北へ15㎝寄り、東辺に付合する。南辺の中間柱Ｐエは東へ６㎝寄り、北辺の中間柱Ｐクも東へ５㎝寄り、南辺に付合する。埋没状況に特徴的なものはない。Ｐケの長径は51㎝とやや長く、別の柱穴と重複する可能性がある。他の柱穴の長径は32 ～ 46㎝と大差ない。柱穴の形態は隅丸方形と円形が混在する。Ｐクの深さは47㎝と若干深く、対面する北辺のＰエも30㎝とわずかに深い。他の柱穴の深さは18 ～ 32㎝と全体的に浅い。詳細な規模は第179表のとおり。

備考　調査段階で４号掘立柱建物となっていた遺構を２棟に分け、４Ａ・４Ｂ号掘立柱建物に名称変更。

４Ｂ号掘立柱建物（第469図）

位置　５Ｑ・Ｒ－14・15グリッド

重複　Ｐイは４Ａ号掘立柱建物Ｐアと、Ｐウは３号掘立柱建物Ｐウと重複するが新旧関係不明。

主軸方位　Ｎ－０～２°－Ｗ　**面積**　18.62㎡

形態　梁間２間で桁行２間の東西棟で、東辺は１間分北へ延びて、塀などになるとみられる。東辺は西辺より６㎝短いため、北辺は西下がりに傾く。東辺の中間柱Ｐイは北へ６㎝寄るが、西辺の中間柱Ｐカはほぼ中央に位置する。南辺の中間柱Ｐエは西へ22㎝寄る。北辺の中間柱は未検出で、省略されたとみられる。埋没状況に特徴的なものはない。Ｐア～ウ・キの長径は34 ～ 48㎝とやや長く、柱の立て替えなどによる柱穴の重複や、柱が抜き取られた可能性もある。柱穴の形態は隅丸方形と円形が混在する。柱穴の深さは全体に浅いが、10㎝前後と23 ～ 34㎝のものに分かれる。詳細な規模は第180表のとおり。

備考　調査段階で４号掘立柱建物となっていた遺構を２棟に分け、４Ａ・４Ｂ号掘立柱建物に名称変更。

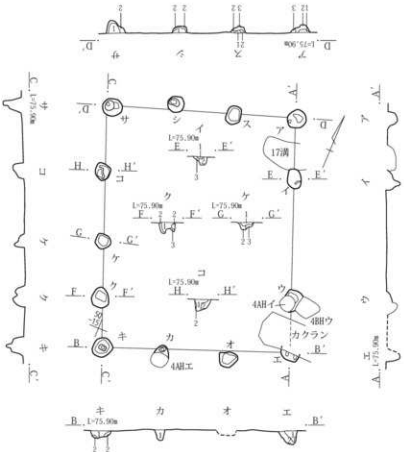
５号掘立柱建物（第470図、ＰＬ.139）

位置　５Ｑ～Ｓ－16グリッド

重複　Ｐオは６号掘立柱建物Ｐエ、22号掘立柱建物Ｐオと重複するが新旧関係不明。６・12・16・17・19・21号掘立柱建物と重複するが、柱穴同士の重複がなく新旧関係不明。

主軸方位　Ｎ－１°－Ｅ　**面積**　21.91㎡

形態　梁間１間型で桁行３間の南北棟。西辺は東辺より22㎝長いため、北辺は東下がりに傾く。桁行柱間を平均すると、約2.02ｍ・約6.7尺であるが、東辺の平均柱間は約2.06ｍで、Ｐウは14㎝北へ寄るため、Ｐイとの柱間は1.94㎝と若干狭い。西辺の平均柱間は約1.98ｍで、ほ



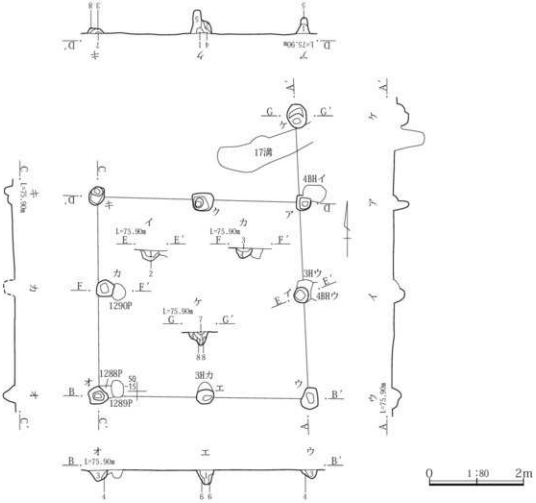
1　黒褐色土　ローム粒子少量に含む。
2　暗褐色土＋ロームブロック
3　黄褐色土　暗褐色土含む。

0　1:80　2m

第467図　３区３号掘立柱建物

第178表　３区３号掘立柱建物計測値　　(　　)は重複、境界線による欠損

建物全体の規模	梁間３間・桁行５間・南北棟				面積	20.23㎡	旧ピット番号
主軸方向	N-22°-W				位置	５Ｐ・Ｑ-14・15	
桁・梁の規模(m)	柱穴No.	規模(cm)			形状	次ピットとの間隔(m)	
		長径	短径	深さ			
東辺　4.96	ア	40	37	16	円形	1.35	3H4
	イ	42	30	29	楕円形	2.47	3H5
	ウ	(46)	(22)	11	不明	1.14	3H6
南辺 3.95	エ	40	(16)	29	楕円形か	1.30	3H7
	オ	40	26	10	不整円形	1.40	3H13
	カ	30	(16)	22	不明	1.25	3H8
西辺　5.16	キ	44	38	38	円形	1.10	3H9
	ク	43	38	26	楕円形	1.18	3H10
	ケ	32	31	21	円形	1.43	3H11
	コ	40	32	22	不整円形	1.46	3H12
北辺　4.02	サ	42	34	38	楕円形	1.48	3H1
	シ	34	34	14	円形	1.30	3H2
	ス	40	30	14	隅丸長方形	ＰアへI.34	3H3

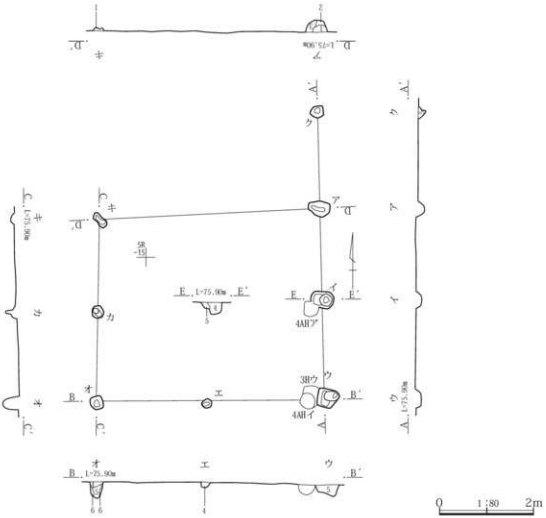


1　黒褐色土　ローム粒子少量に含む。
2　暗褐色土＋ロームブロック
3　暗褐色土　ローム粒子少量に含む。
4　暗褐色土　ロームブロック含む。
5　黒褐色土　ローム粒子含む。
6　黄褐色土　ローム多量、暗褐色土含む。
7　暗褐色土　ローム粒子多量に含む。
8　暗褐色土　ローム粒子・黄白色土ブロック含む。

第468図　３区４Ａ号掘立柱建物

第179表　３区４Ａ号掘立柱建物計測値　　（　　）は重複、境界線による欠損

建物全体の規模		２間四方・正方形			面積	18.62㎡	旧ピット番号
主軸方向		N－０～３°－W			位置	５Ｐ・Ｑ-14・15	
桁・梁の規模（m）	柱穴No.	規模（cm）			形状	次ピットとの間隔（m）	
		長径	短径	深さ			
東辺　4.05	ア	32	30	32	隅丸方形か	1.91	4B3
	イ	34	32	22	楕円形	2.18	3B6
南辺　4.50	ウ	46	35	18	不定形	2.19	4B5
	エ	36	29	30	楕円形	2.30	4B6
西辺　4.32	オ	43	36	20	楕円形	2.28	4B7
	カ	36	36	24	円形	2.02	4B17
北辺　4.40	キ	41	26	18	楕円形	2.15	4B14
	ク	44	37	47	隅丸方形	2.26	4B2
	ケ	51	36	62	楕円形	Ｐアへ1.75	4B11



1　黒褐色土　ローム粒子含む。
2　黒褐色土　ロームブロック含む。
3　暗褐色土　ローム粒子微量に含む。
4　暗褐色土　ロームブロック少量に含む。
5　暗褐色土　ローム粒子少量に含む。
6　黄褐色土

第469図　3区４Ｂ号掘立柱建物

第180表　3区４Ｂ号掘立柱建物計測値　　(　　)は重複、境界線による欠損

建物全体の規模	2間四方・正方形				面積	18.62㎡		旧ピット番号
主軸方向	N－0～2°－W				位置	5Q・R－14・15		
桁・梁の規模(m)	柱穴No.	規模(cm)			形状	次ピットとの間隔(m)		
		長径	短径	深さ				
東辺　3.94	ア	46	31	25	楕円形	1.92		434
	イ	48	35	6	隅丸長方形	2.04		4H12
南辺　5.05	ウ	39	36	24	隅丸方形	2.74		4H13
	エ	22	18	12	楕円形	2.30		4H9
西辺　3.88	オ	28	26	34	隅丸方形	1.94		4H8
	カ	26	24	23	不整円形	1.95		4H1
北辺　4.66	キ	34	17	9	隅丸長方形	ＰアへA.66		4H10
	ク	30	25	18	不整円形	ＰアへA.03		593

ぼ均等に配置される。対面する柱穴の位置も付合しており、むしろ南東隅のＰエが南へ20cm程度ずれていたものと判明する。埋没状況に特徴的なものはない。Ｐオの長径は56cmと長いが、重複による影響が大きく正確さに欠ける。それ以外は概ね24 ～ 36cmと同様である。柱穴の形態は隅丸方形と円形が混在する。Ｐカの深さは10cmと浅く、それ以外も24 ～ 45cmでややばらつきがあり、西辺の方が東辺に比べ若干深い傾向がある。詳細な規模は第181表のとおり。

６号掘立柱建物（第471図）

位置　５Ｑ・Ｒ－16・17グリッド

重複　Ｐイは21号掘立柱建物Ｐオと、Ｐエは５号掘立柱建物Ｐカと、Ｐオは45号掘立柱建物Ｐ５、485号ピットと重複するが新旧関係不明。５・７・９・10・13・16・17・19・40・45号掘立柱建物と重複するが、柱穴同士の重複がなく新旧関係不明。

主軸方位　Ｎ－69°－Ｅ　**面積**　15.71㎡

形態　梁間１間型で桁行２間の東西棟で、東側に下屋を設ける。北辺は南辺より27cm短いため、西辺は東へ内傾する。南辺の中間柱Ｐエは５cm西へ寄る。Ｐ５の埋没土の下位に黄褐色土が横位に堆積するが、ピットの中心を外れ、人為的な埋め戻しとは認めにくい。Ｐアの長径は63cmと大きいが、それ以外は39 ～ 56cmと概ね同様である。柱穴の形態は隅丸方形と円形が混在する。Ｐエの深さは42cmとやや深いが、その他のピットの深さは24 ～ 32cmと大差ない。詳細な規模は第182表のとおり。

７号掘立柱建物（第472図）

位置　５Ｑ・Ｒ－16 ～ 18グリッド

重複　Ｐイは５号竪穴状遺構より、Ｐウは６号竪穴状遺構より後出。Ｐカは19号溝より後出。Ｐキは1330号ピットと重複するが新旧関係不明。６・10・11・15・16・17・45号掘立柱建物と重複するが、柱穴同士の重複がなく新旧関係不明。

主軸方位　Ｎ－73 ～ 75°－Ｅ　**面積**　19.27㎡

形態　梁間１間型で桁行３間の東西棟。東辺は西辺より19cm短く、南辺は北辺より29cm短いため、北辺は東下がりに傾き、東辺は東へ外傾する。桁行柱間を平均すると、約1.87m・約6.2尺であるが、北辺の平均柱間は約1.91mで、Ｐイは５cm程度西へ寄ると同時に、北東隅柱Ｐウが東へ15cmほど外れている。Ｐイ・ウの中間柱は、重複する竪穴状遺構の影響もあり、省略かどうかは不明。南辺の平均柱間は約1.82mで、Ｐオは12cm西へ、Ｐカも24cm西へ寄るため、Ｐオ・カの柱間は2.18mと広い。埋没状況に特徴的なものはない。Ｐア・ウの長径は短く均整に欠ける。その他は概ね50cm前後である。柱穴の形態は隅丸方形と円形が混在する。Ｐイ・キの深さは65・56cmと深い。前者の場合、５号竪穴状遺構より後出のため、埋没土中を避け、地山面まで掘り込んだ可能性もある。その他の柱穴の深さは概ね20cm前後と浅く、Ｐイが深いことによる影響も考えられる。詳細な規模は第183表のとおり。

９号掘立柱建物（第473図、ＰＬ.139）

位置　５Ｐ・Ｑ－15 ～ 17グリッド

重複　北西隅は63号土坑と重複により不分明で、南西隅のＰカは南側半分が調査区域外となる。５・10・19・20・21・22・40号掘立柱建物と重複するが、柱穴同士の重複がなく新旧関係不明。

主軸方位　Ｎ－42°－Ｗ　**面積**　13.45㎡以上

形態　梁間１間型で桁行２間の南北棟で、南側に下屋を設ける。東辺の中間柱Ｐイは３cm北へ寄る。埋没状況に特徴的なものはない。Ｐイの長径は43cmとやや長く不整形で、柱の立て替えなどによる柱穴の重複や、柱が抜き取られた可能性もある。その他の柱穴は20 ～ 33cmとやや小さい。柱穴の形態は概ね円形・楕円形である。柱穴の深さはＰエを除き、20cm以下で浅い。詳細な規模は第184表のとおり。

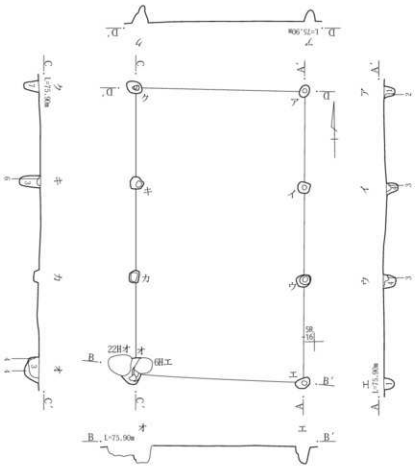
10号掘立柱建物（第474図）

位置　５Ｑ・Ｒ－16・17グリッド

重複　Ｐオは1321号ピットと、Ｐキは487・488号ピットと重複するが新旧関係不明。６・７・９・13・16・19・20・22・34・40・45号掘立柱建物と重複するが、柱穴同士の重複がなく新旧関係不明。

主軸方位　Ｎ－２～３°－Ｗ　**面積**　16.44㎡

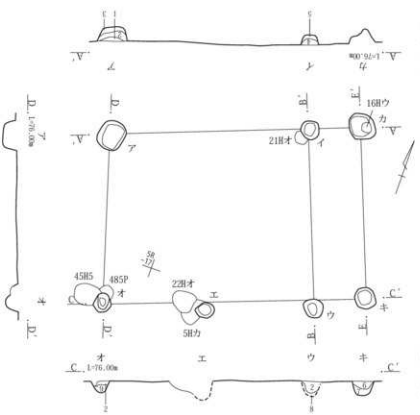
形態　東西２間で南北２間の正方形。南辺は北辺より16cm短いため、西辺は西へ外傾する。南辺の中間柱Ｐウは10cm西へ寄り、北辺の中間柱Ｐキは２cm東へ寄るが、北



1　黒褐色土　ローム粒子含む。
2　暗褐色土
3　黒褐色土　ローム粒子少量に含む。
4　暗褐色土　ロームブロック含む。
5　暗褐色土　ローム粒子・炭化物粒子含む。
6　暗褐色土　炭化物粒子含む。

0　1:80　2m

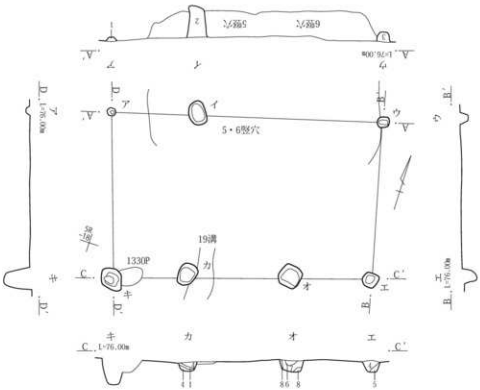
第470図　３区５号掘立柱建物



1　暗褐色土　ローム粒子・炭化物粒子少量に含む。
2　黒褐色土　ローム粒子少量に含む。
3　暗褐色土　ローム粒子・炭化物粒子含む。
4　暗褐色土　ローム粒子少量に含む。
5　黄褐色土　暗褐色土含む。
6　暗褐色土　ローム粒子・白色軽石少量に含む。
7　黒褐色土　ロームブロック少量に含む。
8　暗褐色土　黄白色土ブロック含む。
9　暗褐色土　ロームブロック含む。

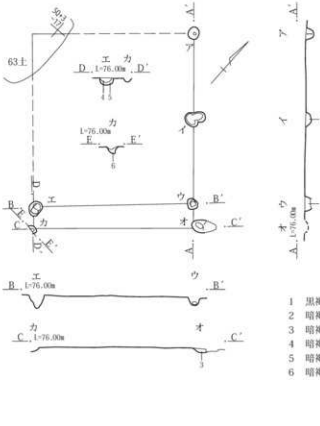
0　1:80　2m

第471図　３区６号掘立柱建物



1　黒褐色土　ローム粒子含む。
2　黒褐色土　ローム粒子・軽石粒子微量に含む。
3　暗褐色土　褐色土ブロック含む。
4　暗褐色土　ロームブロック少量に含む。
5　暗褐色土　ロームブロックやや多量に含む。
6　暗褐色土　ローム粒子少量に含む。
7　黒褐色土　ロームブロック含む。
8　暗褐色土　ローム粒子多量に含む。

第472図　３区７号掘立柱建物



1　黒褐色土　ローム粒子少量に含む。
2　暗褐色土　ロームブロック含む。
3　暗褐色土　ロームブロックやや多量に含む。
4　暗褐色土　ローム粒子少量に含む。
5　暗褐色土　ローム粒子含む。
6　暗褐色土

第473図　３区９号掘立柱建物

第181表　３区５号掘立柱建物計測値　　（　　）は重複、境界線による欠損

建物全体の規模	梁間１間・桁行３間・南北棟				面積	21.91㎡	旧ピット番号
主軸方向	N－１°－E				位置	５Q～S-16	
桁・梁の規模(m)	柱穴No	規模(cm)			形状	次ピットとの間隔(m)	
		長径	短径	深さ			
東辺　6.17	ア	27	20	24	楕円形	2.05	5H2
	イ	24	23	24	隅丸方形	1.94	5H3
	ウ	32	26	27	楕円形	2.20	5H4
南辺　3.65	エ	33	20	37	楕円形	3.65	5H5
西辺　5.95	オ	56	(40)	31	不明	1.95	5H7
	カ	26	21	10	隅丸長方形	1.95	6H6
	キ	28	22	45	不整円形	2.02	5H9
北辺　3.58	ク	36	26	38	楕円形	Pアへ3.58	5H1

第182表　３区６号掘立柱建物計測値　　（　　）は重複、境界線による欠損

建物全体の規模	梁間１間・桁行２間・東西棟・東下屋				面積	15.71㎡	旧ピット番号
主軸方向	N-69°-E				位置	５Q・R-16・17	
桁・梁の規模(m)	柱穴No	規模(cm)			形状	次ピットとの間隔(m)	
		長径	短径	深さ			
北辺　4.17	ア	63	54	28	隅丸長方形	4.17	4H9
東辺　3.79	イ	39	39	24	円形	3.79	17H4
南辺　4.44	ウ	44	39	32	円形	2.28	19H3
	エ	40	34	42	楕円形	2.18	5H12
西辺　3.51	オ	40	38	26	不整円形	Pアへ3.51	18H7
東下屋　1.06	カ	56	53	24	隅丸方形	3.60,Pイへ1.06	6H2
東下屋　1.11	キ	45	42	31	円形	Pウへ1.11	7H3

第183表　３区７号掘立柱建物計測値　　（　　）は重複、境界線による欠損

建物全体の規模	梁間１間・桁行３間・東西棟				面積	19.27㎡	旧ピット番号
主軸方向	N-73～75°-E				位置	５Q・R-16・18	
桁・梁の規模(m)	柱穴No	規模(cm)			形状	次ピットとの間隔(m)	
		長径	短径	深さ			
北辺　5.74	ア	19	16	9	楕円形	1.80	4H6
	イ	50	36	65	隅丸長方形	3.94	6H9
東辺　3.35	ウ	24	22	20	隅丸長方形	3.35	4H5
南辺　5.45	エ	33	30	21	隅丸方形	1.70	7H5
	オ	47	46	25	隅丸方形	2.18	18H8
	カ	48	36	19	隅丸長方形	1.58	22H1
西辺　3.54	キ	56	44	56	楕円形	Pアへ3.54	10H12

第184表　３区９号掘立柱建物計測値　　（　　）は重複、境界線による欠損

建物全体の規模	１間・２間・方形・南下屋				面積	(13.45)㎡	旧ピット番号
主軸方向	N-42°-W				位置	５P・Q-15～17	
桁・梁の規模(m)	柱穴No	規模(cm)			形状	次ピットとの間隔(m)	
		長径	短径	深さ			
北東辺　3.60	ア	26	24	17	楕円形	1.77	9H1
	イ	42	32	11	不定形	1.83	9H2
南東辺　3.28	ウ	24	22	16	不整円形	3.28,オへ0.50	9H3
	エ	33	26	28	楕円形	—	9H8
南東下屋　0.50	オ	28	(23)	8	不明(重複)	3.55	9H4
南東下屋　0.50	カ	20	(9)	10	不明	Pエへ0.50	9H7

第185表　３区10号掘立柱建物計測値　　（　　）は重複、境界線による欠損

建物全体の規模	２間四方・正方形				面積	16.44㎡	旧ピット番号
主軸方向	N-２～３°-W				位置	５Q・R-16・17	
桁・梁の規模(m)	柱穴No	規模(cm)			形状	次ピットとの間隔(m)	
		長径	短径	深さ			
東辺　4.05	ア	39	27	23	楕円形	4.05	19H1
南辺　4.00	イ	43	30	34	隅丸長方形	1.90	5H9
	ウ	40	30	26	楕円形	2.10	22H6
西辺　4.01	エ	36	30	40	円形	1.85	22H7
	オ	41	37	70	楕円形	2.17	
北辺　4.16	カ	36	25	33	隅丸長方形	2.10	5H0
	キ	33	32	33	隅丸方形	Pアへ2.06	

辺は南辺より16cm長いため､むしろＰキの方が西へ寄る。Ｐオは柱筋より外側へ大きく外れる。埋没状況に特徴的なものはない。柱穴の長径は33～43cmと大差なく、柱穴の形態は隅丸方形と円形が混在する。Ｐオの深さは70cmと深く、棟持ち柱である影響もうかがえる。その他の深さは23～40cmと大差ない。詳細な規模は第185表のとおり。

11号掘立柱建物（第475図、ＰＬ.139）

位置　５Ｒ・Ｓ－17・18グリッド

重複　Ｐエは15号掘立柱建物Ｐアと重複するが新旧関係不明。７・15・25・26・29・45号掘立柱建物と重複するが、柱穴同士の重複がなく新旧関係不明。

主軸方位　Ｎ－87～90°－Ｅ　**面積**　25.24㎡

形態　梁間１間型で桁行３間の東西棟。南辺が北辺より18cm長いため、西辺は東に内傾する。桁行柱間を平均すると、約2.10m・約6.9尺であるが、北辺の平均柱間は約2.07mで、Ｐウが７cm西へ寄るため、Ｐウとの柱間が2.12mとやや広い。南辺の平均柱間は約2.13mで、Ｐカは37cm東へ寄るため、Ｐオとの中間柱は未検出ながら若干狭い。この中間には635号ピットかその一部などが該当する可能性も残る。埋没状況に特徴的なものはない。柱穴の長径は30～42cmで大差ないが、Ｐイ・カは若干長く、柱の立て替えなどによる柱穴の重複や、柱が抜き取られた可能性もある。柱穴の形態は隅丸方形と円形が混在する。Ｐオの深さは11cmとやや浅いが、それ以外は20～30cmと大差ない。詳細な規模は第186表のとおり。

12号掘立柱建物（第476図、ＰＬ.139）

位置　５Ｒ・Ｓ－15・16グリッド

重複　Ｐ３・４は62号土坑と重複するが新旧関係不明。６・17・21号掘立柱建物と重複するが、柱穴同士の重複がなく新旧関係不明。

主軸方位　Ｎ－33°－Ｗ　**面積**　5.85㎡以上

形態　北側を攪乱により失うが、２間四方の正方形か。南辺は南下がりに傾く。南辺の中間柱Ｐ４は中央に位置し、西辺の中間柱Ｐ６は８cm北へ寄る。埋没状況に特徴的なものはない。柱穴の長径はＰ30～42cmで大差ない。柱穴の形態は隅丸方形と円形が混在する。柱穴の深さも25～38cmで大差ない。詳細な規模は第187表のとおり。

13号掘立柱建物（第477図）

位置　５Ｐ・Ｑ－17・18グリッド

重複　Ｐキは34号掘立柱建物Ｐイと、Ｐクは97号土坑と、Ｐケは34号掘立柱建物Ｐウと重複するが新旧関係不明。６・７・10・19・20・23・24・26・29・34・40・45号掘立柱建物と重複するが、柱穴同士の重複がなく新旧関係不明。

主軸方位　Ｎ－87°－Ｅ　**面積**　33.78㎡

形態　梁間２間型で桁行４間の東西棟。南辺が北辺より36cm短いため、西辺は西へ外傾する。桁行柱間を平均すると、約2.07m・約6.8尺であるが、北辺の平均柱間は約2.12mで、Ｐイは６cm西に寄るため、Ｐウとの柱間はその分広い。Ｐウ・エの中間柱は未検出だが、19号溝と重複により不明となった可能性もある。南辺の平均柱間は約2.03mで、Ｐカは11cm東へ、Ｐキは28cm西へ、Ｐクは42cm西へ寄るため、Ｐカ・キの柱間が2.42mと広い。ただし、南北辺で対面するＰイ・ク、Ｐウ・キの柱筋の通りはほぼ付合する。Ｐケの埋没土は下位にロームブロックを多量に含むが、34号掘立柱建物Ｐウの影響も想定され、埋め戻しの有無は確認できない。その他の柱穴の埋没状況に特徴的なものはない。Ｐケの長径は65cmと大きく、重複するピットの影響もあるが、柱が抜き取られた可能性もある。Ｐキもピットの重複もあり、長径が大きい。それ以外の柱穴は、17～30cmとややばらつくが、概ね小さい。柱穴の形態は隅丸方形と円形が混在する。Ｐウの深さは50cmと深いが、Ｐエとの中間柱を省略した影響とも思える。その他は10～31cmでばらつくが、概ね浅い。詳細な規模は第188表のとおり。Ｐケから在地系土器が出土する。出土遺物から中世と考えられる。

出土遺物・時期　Ｐケの埋没土から非掲載とした在地系土器内耳鍋が出土する。厚手であり、概ね15世紀代に比定される。

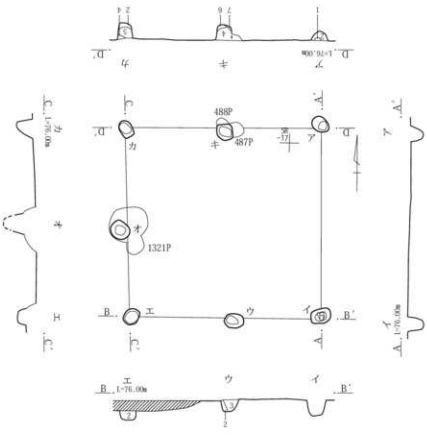
14号掘立柱建物（第478図）

位置　５Ｐ・Ｑ－12～14グリッド

重複　Ｐキは18号溝と重複するが新旧関係不明。Ｐクの南半部は調査区域外となる。

主軸方位　Ｎ－７～９°－Ｗ　**面積**　21.48㎡

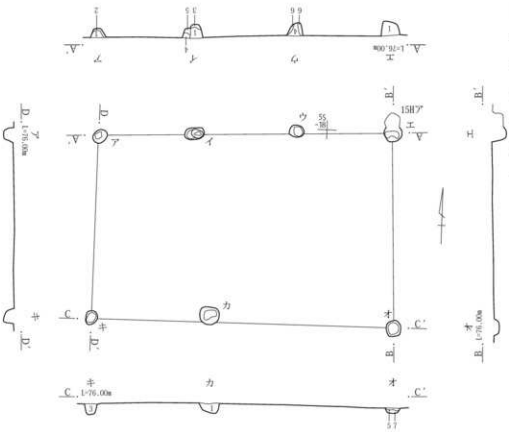
形態　梁間２間型で桁行３間の東西棟。南辺は北辺より14cm短いため、東辺は東へ外傾する。桁行柱間を平均す



1　黒褐色土　ロームブロック含む。
2　暗褐色土　ロームブロック・ローム粒子含む。
3　暗褐色土　ロームブロック・炭化物片含む。
4　暗褐色土　ローム粒子少量に含む。
5　暗褐色土　ローム粒子・炭化物粒子少量に含む。
6　暗褐色土
7　褐色土

0　1:80　2m

第474図　３区10号掘立柱建物

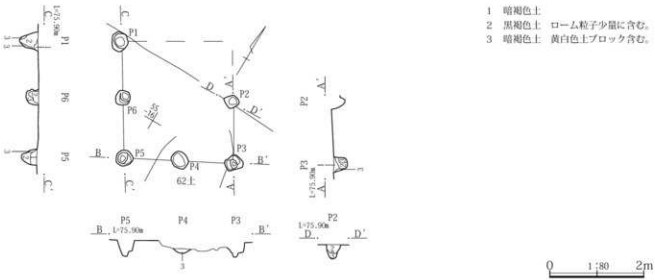


1　黒褐色土　ローム粒子微量に含む。
2　黒褐色土　ローム粒子少量に含む。
3　黒褐色土　ローム粒子・ロームブロック含む。
4　暗褐色土　ローム粒子少量に含む。
5　暗褐色土　ロームブロック含む。
6　暗褐色土　ローム粒子多量に含む。
7　褐色土

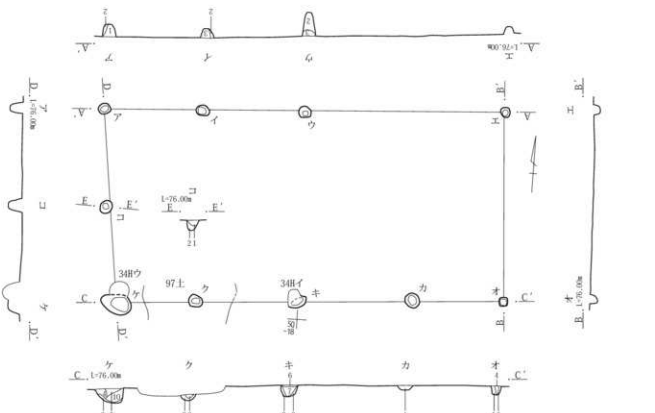
0　1:80　2m

第475図　３区11号掘立柱建物

1　暗褐色土
2　黒褐色土　ローム粒子少量に含む。
3　暗褐色土　黄白色土ブロック含む。

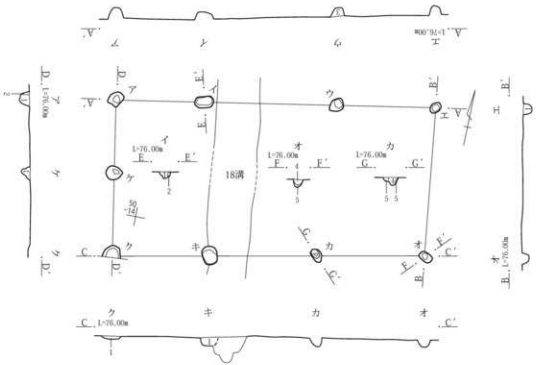


第476図　３区12号掘立柱建物



1　黒褐色土　ローム粒子微量に含む。
2　暗褐色土　ローム粒子微量に含む。
3　黒褐色土　ローム粒子含む。
4　暗褐色土　ローム粒子少量に含む。
5　暗褐色土　ローム粒子・炭化物粒子少量に含む。
6　黒褐色土　浅間Ｂ軽石含む。
7　黒褐色土　白色軽石粒子含む。
8　暗褐色土　褐色土ブロック含む。
9　褐色土　暗褐色土含む。
10　暗褐色土　ロームブロック多量に含む。

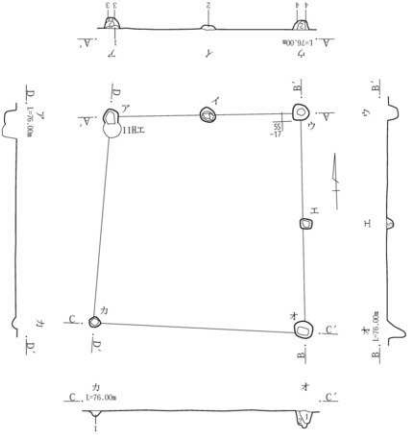
第477図　３区13号掘立柱建物



1　黒褐色土　ローム粒子含む。
2　暗褐色土　ロームブロック含む。
3　暗褐色土　ロームブロックやや多量に含む。
4　暗褐色土　ローム粒子やや多量に含む。
5　褐色土

0　1:80　2m

第478図　３区14号掘立柱建物



1　暗褐色土　ローム粒子少量に含む。
2　暗褐色土　ロームブロック含む。
3　褐色土
4　褐色土　ローム粒子やや多量に含む。
5　暗褐色土　ローム粒子多量に含む。

0　1:80　2m

第479図　３区15号掘立柱建物

第186表　３区11号掘立柱建物計測値　　（　　）は重複、境界線による欠損

建物全体の規模	梁間１間・桁行３間・東西棟				面積	25.24㎡	旧ピット番号
主軸方向	N-87～90°-E				位置	５R・S-17・18	
桁・梁の規模(m)	柱穴No	規模(cm)			形状	次ピットとの間隔(m)	
		長径	短径	深さ			
北辺　6.22	ア	32	26	20	楕円形	2.10	11H1
	イ	40	24	30	隅丸長方形	2.12	11H2
	ウ	30	24	29	楕円形	2.00	11H3
東辺　4.13	エ	38	29	30	円形	4.13	405
南辺　6.40	オ	33	31	11	隅丸方形	3.90	490
	カ	42	37	21	円形	2.50	401
西辺　3.87	キ	30	24	24	楕円形	Ｐアへ3.87	24H1

第187表　３区12号掘立柱建物計測値　　（　　）は重複、境界線による欠損

建物全体の規模	２間四方・正方形				面積	(5.85)㎡	旧ピット番号
主軸方向	N-33°-W				位置	５R・S-15・16	
桁・梁の規模(m)	柱穴No	規模(cm)			形状	次ピットとの間隔(m)	
		長径	短径	深さ			
	1	42	33	38	楕円形	—	
東辺　1.00	2	30	25	27	隅丸方形	1.00	
南辺　2.34	3	36	28	33	不定型	1.18	
	4	36	33	25	隅丸長方形	1.18	
西辺　2.50	5	34	34	36	円形	1.33	
	6	30	30	26	隅丸方形	Ｐ1へ1.17	

第188表　３区13号掘立柱建物計測値　　（　　）は重複、境界線による欠損

建物全体の規模	梁間２間・桁行４間・東西棟				面積	33.78㎡	旧ピット番号
主軸方向	N-87°-E				位置	５P・Q-17・18	
桁・梁の規模(m)	柱穴No	規模(cm)			形状	次ピットとの間隔(m)	
		長径	短径	深さ			
北辺　8.46	ア	26	22	26	楕円形	2.06	13H1
	イ	28	22	20	楕円形	2.18	13H2
	ウ	26	24	50	円形	4.22	13H3
東辺　4.01	エ	22	18	14	楕円形	4.01	22H2
南辺　8.10	オ	17	17	19	隅丸方形	1.92	625
	カ	30	28	10	楕円形	2.42	20H1
	キ	38	(16)	24	不明(重複)	2.15	34H6
	ク	30	25	13	楕円形	1.61	507
西辺　4.15	ケ	65	44	31	楕円形	2.10	13H7
	コ	30	24	30	楕円形	Ｐアへ2.07	13H8

第189表　３区14号掘立柱建物計測値　　（　　）は重複、境界線による欠損

建物全体の規模	梁間２間・桁行３間・東西棟				面積	21.48㎡	旧ピット番号
主軸方向	N-７～９°-W				位置	５P・Q-12～14	
桁・梁の規模(m)	柱穴No	規模(cm)			形状	次ピットとの間隔(m)	
		長径	短径	深さ			
北辺　6.74	ア	30	26	22	隅丸方形	1.84	14H1
	イ	38	24	17	隅丸長方形	2.84	14H2
	ウ	32	24	18	楕円形	2.06	417
東辺　3.14	エ	26	20	20	隅丸長方形	3.14	420
南辺　6.60	オ	29	19	15	隅丸長方形	2.30	415
	カ	31	20	19	楕円形	2.25	410
	キ	40	30	18	隅丸方形	2.07	14H3
西辺　3.30	ク	38	(25)	7	不明	1.75	14H4
	ケ	35	29	19	不整円形	Ｐアへ1.55	

第190表　３区15号掘立柱建物計測値　　（　　）は重複、境界線による欠損

建物全体の規模	２間四方・正方形				面積	19.19㎡	旧ピット番号
主軸方向	N-85～89°-W				位置	５R・S-16・17	
桁・梁の規模(m)	柱穴No	規模(cm)			形状	次ピットとの間隔(m)	
		長径	短径	深さ			
北辺　4.04	ア	30	30	23	楕円形か	2.06	15H3
	イ	34	28	9	楕円形	2.00	15H2
東辺　4.66	ウ	36	34	20	不整円形	2.37	15H1
	エ	25	21	15	隅丸方形	2.31	6H1
南辺　4.45	オ	39	34	37	楕円形	4.45	476
西辺　4.38	カ	24	22	12	円形	Ｐアへ4.38	491

ると、約2.22m・約7.3尺であるが、北辺の平均柱間は約2.25mで、Ｐイは西へ41cm、Ｐウは東へ19cm寄るため、Ｐイ・ウの柱間は2.84mと広い。南辺の平均柱間は約2.20mで、Ｐキは18cm西へ、Ｐカは10cm西へ寄る。Ｐカ・キの柱間は５cm程度長くなり、北辺とは一致しない。西辺の中間柱Ｐケは10cm北へ寄る。埋没状況に特徴的なものはない。柱穴の長径は26～40cmで大差ないが、Ｐイ・オ・キなど平面形が細長いものがみられ、柱の立て替えなどによる柱穴の重複や、柱が抜き取られた可能性もある。柱穴の形態は隅丸方形と円形が混在する。Ｐクの深さは７cmと浅いが、部分的な調査である。その他も15～22cmで大差なく、概ね浅い。詳細な規模は第189表のとおり。

15号掘立柱建物（第479図）

位置　５Ｒ・Ｓ－16・17グリッド

重複　Ｐアは11号掘立柱建物Ｐエと重複するが新旧関係不明。６・７・17・45号掘立柱建物、５・６号竪穴状遺構と重複するが、遺構同士の重複がなく新旧関係不明。

主軸方位　Ｎ－85～89°－Ｗ　**面積**　19.19㎡

形態　２間四方の正方形。北辺が南辺より41cm短いため、平面形は台形で、北辺は西下がりに傾く。北・東辺とも中間柱はほぼ中央に位置する。南辺の中間柱は省略され、西辺の中間柱は５号竪穴状遺構と重複するため不明となる。埋没状況に特徴的なものはない。柱穴の長径は24～39cmでばらつきがあり、やや小さい。柱穴の形態は隅丸方形と円形が混在する。Ｐオの深さは37cmとややそれぞれ深いが、その他は10cm前後と20前後に分かれ、概ね浅い。詳細な規模は第190表のとおり。

16号掘立柱建物（第480図）

位置　５Ｑ・Ｒ－16・17グリッド

重複　Ｐアは６号竪穴状遺構と、Ｐイは473号ピットと、Ｐオは1298号ピットと重複するが新旧関係不明。６・７・15・17・19・45号掘立柱建物と重複するが、柱穴同士の重複がなく新旧関係不明。

主軸方位　Ｎ－81～82°－Ｅ　**面積**　18.52㎡

形態　梁間１間型で桁行２間の東西棟か。北西隅柱は６号竪穴状遺構と重複により不明となる。北辺のＰア～ウはほぼ等間隔で配置される。桁行柱間を平均すると、約1.69m・約5.6尺であるが、南辺のＰオは西へわずか２cm寄る。Ｐカとの中間柱は省略される。埋没状況に特徴的なものはない。Ｐイ・オの長径はピットとの重複の影響があり、細長いＰカも柱の立て替えなどによる柱穴の重複や、柱が抜き取られた可能性もある。その他のピットの深さは23～28cmで概ね小さい。柱穴の形態は重複のないものは、全て円形・楕円形である。Ｐアの深さは49cmと深いが、その他は15cm前後と27cmに分かれ、概ね浅い。詳細な規模は第191表のとおり。

17号掘立柱建物（第482図）

位置　５Ｒ・Ｓ－15～17グリッド

重複　Ｐオは61号土坑と重複するが新旧関係不明。６・７・15・16・21号掘立柱建物と重複するが、柱穴同士の重複がなく新旧関係不明。

主軸方位　Ｎ－85～86°－Ｗ　**面積**　25.66㎡

形態　梁間１間型で桁行３間の東西棟で、南辺は１間分東へ延びて、廂とした可能性もある。南辺は北辺より16cm短いため、北辺は東下がりに傾く。桁行柱間を平均すると、約2.29m・約7.6尺であるが、北辺の平均柱間は約2.32mで、Ｐイは８cm東へ寄るため、Ｐウはその分東へ寄る。南辺の平均柱間は約2.27mで、Ｐオはわずか西へ、Ｐキは５cm西へ寄るため、Ｐカ・キの柱間は増加が少ない。ただし、北・南辺の対面する柱穴の位置はほぼ一致する。柱穴の壁際に充填土が見られるが、柱痕と認定できるものはない。Ｐイ・オ・カ・クの長径は38～52cmとやや長く、柱の立て替えなどによる柱穴の重複や、柱が抜き取られた可能性もある。その他はＰウを除き、26～30cmで大差ない。柱穴の形態は、Ｐケを除き全て円形・楕円形である。柱穴の深さは、11～35cmとややばらつくが、概ね浅い。詳細な規模は第192表のとおり。

19号掘立柱建物（第481図）

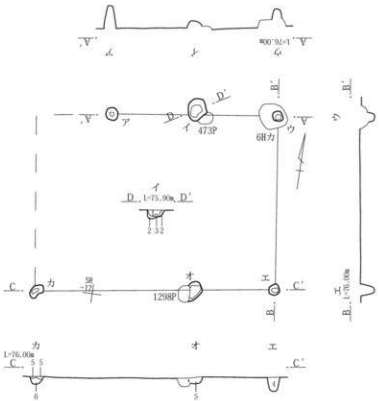
位置　５Ｑ・Ｒ－16・17グリッド

重複　５・６・９・10・16・20・21・22・40・45号掘立柱建物と重複するが、柱穴同士の重複がなく新旧関係不明。

主軸方位　Ｎ－25～30°－Ｗ　**面積**　16.42㎡

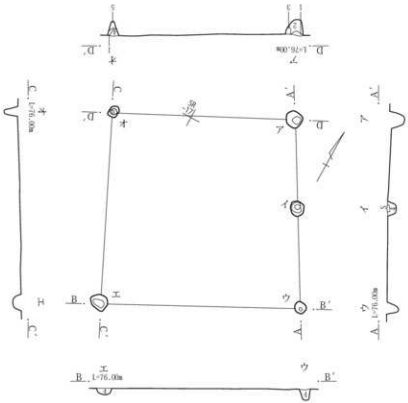
形態　南北２間で東西１間の正方形。北辺は南辺より37cm短いため、平面形は台形となる。東辺の中間柱Ｐイは16cm北へ寄る。埋没状況に特徴的なものはない。柱穴の

1　暗褐色土　ロームブロック含む。
2　黄褐色土
3　ロームブロック
4　黒褐色土　ローム粒子含む。
5　暗褐色土　ローム粒子含む。
6　褐色土

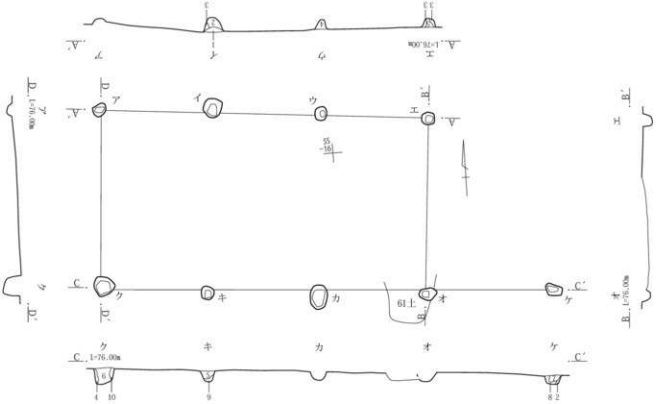


第480図　３区16号掘立柱建物

1　暗褐色土　ローム粒子含む。
2　暗褐色土　ローム粒子やや多量に含む。
3　黄褐色土
4　暗褐色土　ローム粒子少量に含む。
5　褐色土

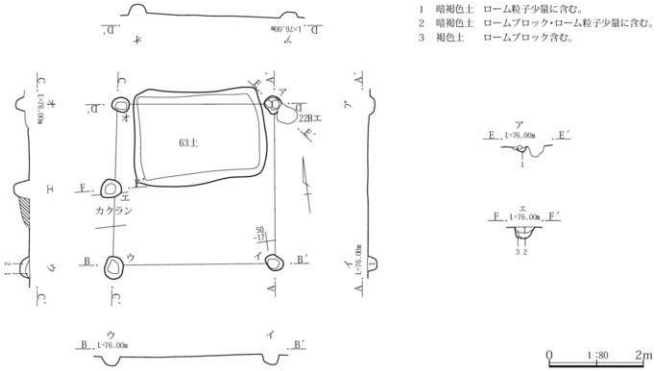


第481図　３区19号掘立柱建物



1　暗褐色土　ローム粒子・炭化物粒子含む。
2　黒褐色土　ローム粒子含む。
3　暗褐色土＋ロームブロック
4　暗褐色土　ロームブロック含む。
5　暗褐色土　ローム粒子少量に含む。
6　暗褐色土　ローム粒子含む。
7　黒褐色土　ローム粒子・炭化物粒子少量に含む。
8　褐色土　ロームブロック・ローム粒子含む。
9　暗褐色土　黄白色土ブロック含む。
10　黄褐色土

第482図　３区17号掘立柱建物



1　暗褐色土　ローム粒子少量に含む。
2　暗褐色土　ロームブロック・ローム粒子少量に含む。
3　褐色土　ロームブロック含む。

第483図　３区20号掘立柱建物

長径は25～36cmで大差ない。柱穴の形態は全て円形・楕円形である。北辺のＰア・オが34・30cmとやや深い。その他は18～23cmで概ね浅い。詳細な規模は193表のとおり。

20号掘立柱建物（第483図）

位置　５Ｐ・Ｑ－16・17グリッド

重複　Ｐアは22号掘立柱建物Ｐエと重複するが新旧関係不明。９・10・34・40・45号掘立柱建物と重複するが、柱穴同士の重複がなく新旧関係不明。

主軸方位　Ｎ－８°－Ｅ　**面積**　11.29㎡

形態　南北２間で東西１間の正方形。北辺は南辺より18cm短いため、西辺は東へ外傾する。西辺の中間柱Ｐエは５cm程度南へ寄る。埋没状況に特徴的なものはない。柱穴の長径は35～47cmで大差ない。柱穴の形態は全て円形・楕円形である。Ｐアの深さは11cmと浅いが、その他も20～36cmで概ね浅い。詳細な規模は第194表のとおり。

21号掘立柱建物（第484図、ＰＬ.139）

位置　５Ｑ～Ｓ－15・16グリッド

重複　Ｐサは431号ピットより後出で、Ｐイは40号掘立柱建物Ｐアと、Ｐオは６号掘立柱建物Ｐイと重複するが新旧関係不明。５・６・９・12・16・17・19・22・40号掘立柱建物、61号土坑と重複するが、遺構同士の重複がなく新旧関係不明。

主軸方位　Ｎ－０～２°－Ｗ　**面積**　36.46㎡

形態　梁間２間で桁行３間の総柱の南北棟で、南面に下屋と広庇を設けるか。あるいは、桁行４間半とも見えるが、前者の可能性が高い。東辺の柱穴２基は61・62号土坑と重複により不明となる。北辺より南辺が22cm長いため、東辺は西に内傾する。桁行柱間を平均すると、約2.09m・約6.9尺であるが、西辺の平均柱間は約2.08mで、Ｐエは10cm南に寄り、Ｐオも12cm南に寄るため、Ｐエ・オの柱間の増減はない。広庇と考えられるＰア・イ間と、Ｐコ・サ間はほぼ１間分である。北辺の中間柱Ｐキは11cm東に寄るが、棟通りの柱は南辺に向かい中央に戻る。埋没土に褐色土が目立つが、埋め戻しかどうか判断できない。柱穴の長径は22～38cmでややばらつきがあるが、概ね小さい。柱穴の形態は隅丸方形と円形が混在する。Ｐセの深さは45cmとやや深いが、その他は10～30cmとややばらつくが、概ね浅い。詳細な規模は第195表のとおり。

22号掘立柱建物（第485図）

位置　５Ｑ－16グリッド

重複　Ｐオは５号掘立柱建物Ｐカと重複するが新旧関係不明。５・６・９・10・19・20・21・40号掘立柱建物と重複するが、柱穴同士の重複がなく新旧関係不明。

主軸方位　Ｎ－４°－Ｅ　**面積**　11.40㎡

形態　梁間１間型で桁行２間の南北棟。各辺の長さが若干異なる上、東辺全体が西辺より南へ大きくずれるため、平面形は菱形となる。西辺の中間柱Ｐエは南へ７cm寄る。埋没状況に特徴的なものはない。Ｐアの長径は20cmと小さく、他は44～49cmと大差なくやや大きい。柱穴の形態は隅丸方形と円形が混在する。Ｐアの深さは42cmとやや深いが、その他は21～26cmと大差ない。詳細な規模は第197表のとおり。

23号掘立柱建物（第486図、第196・198表）

位置　５Ｑ・Ｒ－18グリッド

重複　Ｐアは1332号ピットと重複するが新旧関係不明。13・24・26・29・34号掘立柱建物と重複するが、柱穴同士の重複がなく新旧関係不明。

主軸方位　Ｎ－４～７°－Ｗ　**面積**　16.01㎡

形態　南北２間で東西１間の正方形。西辺は東辺より26cm短いため、北辺は西下がりに傾く。西辺の中間柱Ｐオは南へ14cm寄る。埋没状況に特徴的なものはない。柱穴の長径は23～36cmで大差ない。柱穴の形態は隅丸方形と円形が混在する。Ｐアの深さは66cmと深く、その他は20～38cmと大差ない。なお、Ｐアは著しく深さが違うため、認定が違い、若干位置はずれるものの、重複する1332号ピットが北東隅柱である可能性も残る。詳細な規模は第198表のとおり。

出土遺物・時期　Ｐウ・エから第486図１～３の常滑窯系陶器甕が出土する。出土遺物から中世に比定される。

24号掘立柱建物（第487図）

位置　５Ｑ・Ｒ－18・19グリッド

重複　Ｐウは631号ピットと、Ｐオは29号掘立柱建物Ｐオと重複するが新旧関係不明。11・13・23・25・26・29・34号掘立柱建物と重複するが、柱穴同士の重複がな

第191表　３区16号掘立柱建物計測値　　（　　）は重複、境界線による欠損

建物全体の規模	梁間１間・桁行３間・東西棟				面積	18.52㎡	旧ピット番号
主軸方向	N-81～82°-E				位置	５Q・R-16・17	
桁・梁の規模(m)	柱穴No	規模(cm)			形状	次ピットとの間隔(m)	
		長径	短径	深さ			
(北辺 3.50)	ア	28	26	49	楕円形	1.78	17H5
	イ	47	40	17	楕円形	1.75	474
東辺 3.66	ウ	24	22	29	円形	3.66	6H2
南辺 5.06	エ	23	22	29	円形	1.71	16H5
	オ	(45)	30	13	不明(重複)	3.35	18H4
	カ	33	18	17	不整円形	―	486

第192表　３区17号掘立柱建物計測値　　（　　）は重複、境界線による欠損

建物全体の規模	梁間１間・桁行３間・東西棟				面積	25.66㎡	旧ピット番号
主軸方向	N-85～86°-W				位置	５R・S-15～17	
桁・梁の規模(m)	柱穴No	規模(ｃｍ)			形状	次ピットとの間隔(m)	
		長径	短径	深さ			
北辺 6.96	ア	30	23	11	楕円形	2.40	17H1
	イ	42	37	32	不整円形	2.32	17H3
	ウ	28	24	22	楕円形	2.25	5H11
東辺 3.71	エ	26	26	19	隅丸方形	3.71	471
南辺 6.80	オ	38	25	19	楕円形	2.25	61坑内ピット
	カ	52	36	18	楕円形	2.34	6H4
	キ	28	28	23	円形	2.22	18H3
西辺 3.75	ク	42	39	35	不整円形	Ｐアへ3.75	7H1
	ケ	38	23	21	不整方形	Ｐオへ2.70	470

第193表　３区19号掘立柱建物計測値　　（　　）は重複、境界線による欠損

建物全体の規模	１間・２間。正方形				面積	16.42㎡	旧ピット番号
主軸方向	N-25～30°-W				位置	５Q・R-16・17	
桁・梁の規模(m)	柱穴No	規模(cm)			形状	次ピットとの間隔(m)	
		長径	短径	深さ			
東辺 4.00	ア	35	32	34	円形	1.84	16H6
	イ	28	28	18	円形	2.16	5H6
南辺 4.25	ウ	26	24	23	円形	4.25	19H5
西辺 4.08	エ	36	30	19	楕円形	4.08	480
北辺 3.88	オ	25	18	30	楕円形	Ｐアへ3.88	592

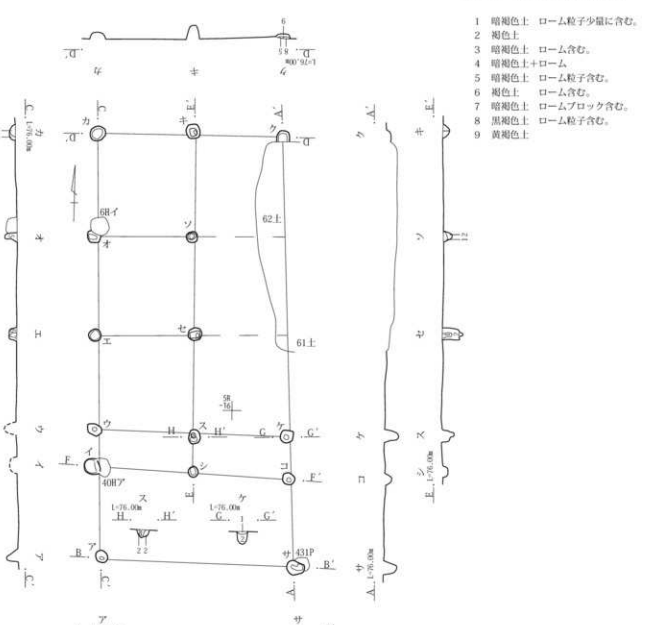
第194表　３区20号掘立柱建物計測値　　（　　）は重複、境界線による欠損

建物全体の規模	１間・２間。正方形				面積	11.29㎡	旧ピット番号
主軸方向	N-８°-E				位置	５P・Q-16・17	
桁・梁の規模(m)	柱穴No	規模(cm)			形状	次ピットとの間隔(m)	
		長径	短径	深さ			
東辺 3.40	ア	35	32	11	隅丸方形	3.40	20H3
南辺 3.40	イ	39	30	20	隅丸長方形	3.40	20H6
西辺 3.42	ウ	47	37	20	楕円形	1.68	41H2
	エ	42	40	33	円形	1.77	482
北辺 3.22	オ	36	32	26	楕円形	Ｐアへ3.22	494

第195表　３区21号掘立柱建物計測値　　（　　）は重複、境界線による欠損

建物全体の規模	梁間２間・桁行4.5間・南北棟				面積	36.46㎡	旧ピット番号
主軸方向	N-０～２°-W				位置	５Q～S-15・16	
桁・梁の規模(m)	柱穴No	規模(cm)			形状	次ピットとの間隔(m)	
		長径	短径	深さ			
西辺 (8.97)	ア	28	24	25	楕円形	1.94	8H5
	イ	36	33	17	楕円形	0.80	18H5
西辺 6.24	ウ	33	22	26	楕円形	1.98	22H9
	エ	26	26	15	円形	2.08	21H5
	オ	29	(25)	27	不明(重複)	2.20	21H6
北辺 3.93	カ	35	30	15	楕円形	2.08	21H1
	キ	30	28	30	隅丸方形	1.88	21H2
東辺 (9.08)	ク	27	(22)	10	不明(重複)	6.31	472
東辺 6.29	ケ	31	28	30	円形	0.90	8H2
	コ	27	23	14	円形	1.87	8H3
南辺 4.15	サ	38	29	24	楕円形	Ｐアへ4.15	8H4
	シ	22	21	12	円形	0.77	8H7
	ス	29	24	26	楕円形	2.12	8H1
	セ	30	26	45	隅丸方形	2.10	21H4
	ソ	23	22	20	円形	Ｐキへ2.20	21H3

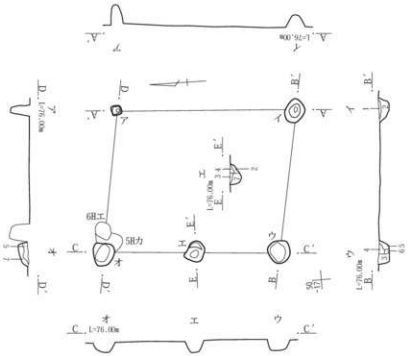
1　暗褐色土　ローム粒子少量に含む。
2　褐色土
3　暗褐色土　ローム含む。
4　暗褐色土＋ローム
5　暗褐色土　ローム粒子含む。
6　褐色土　ローム含む。
7　暗褐色土　ロームブロック含む。
8　黒褐色土　ローム粒子含む。
9　黄褐色土



第484図　3区21号掘立柱建物

第196表　3区23号掘立柱建物出土遺物

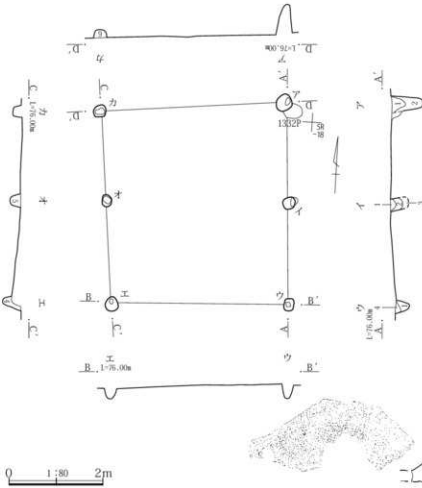
挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第486図	1	常滑陶器 甕か	P エ 体部下位片				//灰	器表は赤褐色で内面には自然釉が斑状にかかる。良好に焼き締まる。	中世。
第486図	2	常滑陶器 甕か	P ウ 底部片				//灰～灰黄	底部外面は赤褐色。内面には自然釉が斑状にかかる。焼成は良好で焼き締まる。	中世。
第486図	3	常滑陶器 甕か	P ウ 底部～体部下位片				//灰黄	体部外面は板状工具による縦位撫で。内面には自然釉が薄くかかる。焼成は良好で焼き締まる。	3区遺構確認面出土片と接合。中世。

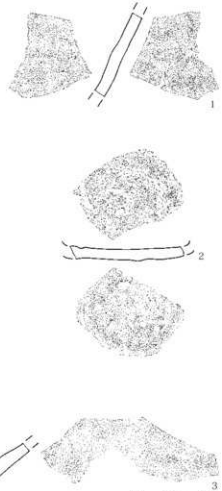


22号掘立柱建物
1　黒褐色土　ローム粒子含む。
2　褐色土　ローム含む。
3　暗褐色土　ローム粒子少量に含む。
4　暗褐色土　ローム粒子含む。
5　暗褐色土　ロームブロック含む。
6　暗褐色土　ロームブロック・ローム粒子含む。
7　暗褐色土　ロームブロックやや多量に含む。

23号掘立柱建物
1　黒褐色土　黄白色土粒子含む。
2　黒褐色土　黄白色土粒子少量に含む。
3　褐色土　暗褐色土少量に含む。
4　暗褐色土　ローム粒子少量に含む。
5　暗褐色土　ローム粒子含む。
6　暗褐色土

第485図　３区22号掘立柱建物





第486図　３区23号掘立柱建物と出土遺物

く新旧関係不明。

主軸方位　Ｎ－９°－Ｗ　**面積**　14.70㎡

形態　２間四方の正方形。西辺は東辺より12cm長いため、南辺は西下がりに傾く。南辺の中間柱Ｐウは東へ12cm寄る。西辺の中間柱Ｐオはわずかに北に寄り、柱筋から柱穴半分内側に外れ、棟持ち柱か枝分かれした叉材の叉部で横材を受ける構造と考えられる。埋没状況に特徴的なものはない。61cmと大きいＰイを除き、柱穴の長径は32～38cmと大差ない。柱穴の形態は隅丸方形と円形が混在する。深さも61cmと深いＰイを除き、17～22cmと大差ない。なお、Ｐイに変わる柱穴が周辺にないため、認定違いではなく、何らかの要因があると考える。詳細な規模は第199表のとおり。

25号掘立柱建物（第487図、ＰＬ.139）

位置　５Ｑ・Ｒ－18・19グリッド

重複　ＰアはＰ４号竪穴状遺構と重複するが新旧関係不明。11・23・24・26・28・29号掘立柱建物、７号井戸と重複するが、遺構同士の重複がなく新旧関係不明。

主軸方位　Ｎ－85°－Ｗ　**面積**　16.10㎡

形態　梁間１間型で桁行３間の東西棟。南辺は北辺より42cm短いため、平面形は南辺の短い台形をなす。桁行柱間を平均すると、約2.06m・約6.8尺であるが、北辺の平均柱間は約2.12mで、Ｐイは16cm西へ寄り、ＰウはＰイ・エ間をほぼ等分する。南辺の平均柱間は約1.99mでＰカは東へ５cm、Ｐキは西へ13cm寄るため、Ｐカ・キの柱間は18cm程度広い。ただし、南辺は北辺より狭いため、対面する柱穴同士の柱筋はほぼ一致する。埋没状況に特徴的なものはない。柱穴の長径は28～37cmと大差ない。柱穴の形態は隅丸方形と円形が混在する。Ｐカの深さは50cmと深いが、それ以外の柱穴も11～36cmとばらつきがある。詳細な規模は第200表のとおり。

26号掘立柱建物（第488図、ＰＬ.139）

位置　５Ｑ・Ｒ－18・19グリッド

重複　11・13・19・23・24・25号掘立柱建物と重複するが、柱穴同士の重複がなく新旧関係不明。

主軸方位　Ｎ－０～１°－Ｅ　**面積**　15.00㎡

形態　梁間１間型で桁行２間の南北棟。西辺は東辺より13cm長いため、南辺は西下がりに傾く。東辺の中間柱Ｐイは８cm南に寄る。西辺の中間柱Ｐオは19cm南に寄るが、西辺が東辺より長いため、対面するＰイとの位置的なずれは少ない。埋没状況に特徴的なものはない。Ｐエの長径は42cmとやや長く、底面にも段差が見られるため、柱の立て替えなどによる柱穴の重複や、柱が抜き取られた可能性もある。しかし、やや小さいＰウを除けば、他の柱穴も33～39cmと大差ない。柱穴の形態は全て円形・楕円形である。柱穴の深さは19～30cmと、ややばらつきがあるが、概ね浅い。詳細な規模は第201表のとおり。

27号掘立柱建物（第488図）

位置　５Ｐ・Ｑ－19・20グリッド

重複　Ｐ６は37号溝と重複して上位が壊されるが、状況から後出と思われる。６号井戸と重複するが、遺構同士の重複がなく新旧関係不明。

主軸方位　Ｎ－16°－Ｅ　**面積**　6.05㎡

形態　調査区域内で柱穴７基が検出されたが、更に南側調査区外に延びると思われる。現況で梁間１間型で桁行２間の東西棟の北側に張り出しを設けると見えるが、あるいは梁間２間型の南北棟で総柱である可能性も十分ある。北辺となるＰ１・３間は東下がりに傾く。北辺の中間柱Ｐ２は20cm程度東に寄る。埋没状況に特徴的なものはない。Ｐ４・５の長径は46cmとやや大きく、柱の立て替えなどによる柱穴の重複や、柱が抜き取られた可能性もある。その他の長径も21～36cmとややばらつく。張り出し部の柱穴もほぼ同様である。柱穴の形態は全て円形・楕円形である。深さは９～28cmでややばらつくが、概ね浅い。詳細な規模は第202表のとおり。

28号掘立柱建物（第489図、ＰＬ.139）

位置　５Ｒ・Ｓ－19・20グリッド

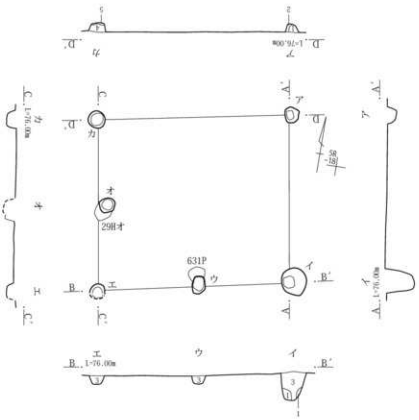
重複　Ｐウは37号溝と、Ｐキは38号溝と重複し、状況から後出と思われる。Ｐアは57号溝、Ｐイは1342号ピット、Ｐクは21号溝と、Ｐケ・コは22号溝、Ｐサは43号溝と重複するが新旧関係不明。25・35・48・50・51号掘立柱建物、４・７号井戸と重複するが、遺構同士の重複がなく新旧関係不明。

主軸方位　Ｎ－６°－Ｅ　**面積**　34.27㎡

形態　梁間２間型で桁行４間の南北棟。西辺は東辺より38cm短いため、南辺は東下がりに傾く。桁行柱間を平均

24号掘立柱建物

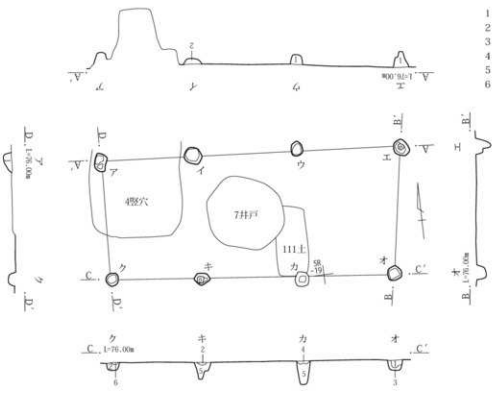
1　黒褐色土　ロームブロック含む。
2　褐色土　暗褐色土・炭化物粒子少量に含む。
3　暗褐色土　ローム粒子含む。
4　暗褐色土　褐色土ブロック含む。
5　黄褐色土



0　1:80　2m

25号掘立柱建物

1　暗褐色土　ロームブロック含む。
2　暗褐色土　ローム粒子少量に含む。
3　褐色土
4　暗褐色土　黄白色土ブロック含む。
5　黒褐色土　黄白色土ブロック含む。
6　黒褐色土　ローム粒子微量に含む。

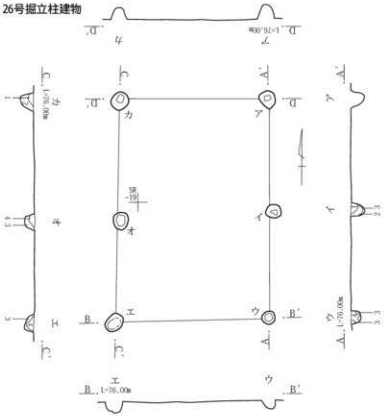


0　1:80　2m

第487図　３区24・25号掘立柱建物

26号掘立柱建物

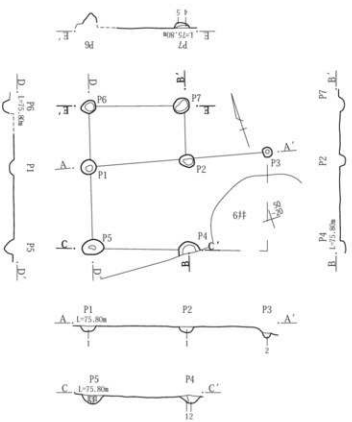
1　暗褐色土　ローム粒子少量に含む。
2　黒褐色土　ロームブロック少量に含む。
3　褐色土
4　黒褐色土　ローム粒子少量に含む。



0　1:80　2m

27号掘立柱建物

1　黒褐色土　白色軽石含む。
2　暗褐色土　ローム粒子・軽石粒子含む。
3　暗褐色土　ローム粒子微量に含む。
4　暗褐色土　ロームブロック・ローム粒子含む。
5　褐色土


P1
P2
P3
P4
P5
P6
P7
6杆
A.. L=75.80m
C.. L=75.80m
B.. L=75.80m
L=75.80m
L=75.80m
L=75.80m

第197表　３区22号掘立柱建物計測値　　（　　）は重複、境界線による欠損

建物全体の規模	1間・2間。方形				面積	11.40㎡	旧ピット番号
主軸方向	N－4°－E				位置	5Q-16	
桁・梁の規模(m)	柱穴No	規模(cm)			形状	次ピットとの間隔(m)	
		長径	短径	深さ			
東辺　3.78	ア	20	19	42	隅丸方形	3.78	19H4
南辺　3.02	イ	48	37	26	隅丸長方形	3.02	9H6
西辺　3.71	ウ	49	45	22	円形	1.78	22H5・13
	エ	44	36	24	不定形	1.93	22H4・12
北辺　3.06	オ	47	46	21	不整円形	Ｐアへ3.06	22H6

第198表　３区23号掘立柱建物計測値　　（　　）は重複、境界線による欠損

建物全体の規模	1間・2間・方形				面積	16.01㎡	旧ピット番号
主軸方向	N－4～7°－W				位置	5Q・R-18	
桁・梁の規模(m)	柱穴No	規模(cm)			形状	次ピットとの間隔(m)	
		長径	短径	深さ			
東辺　4.30	ア	36	30	66	円形	2.13	23H2
	イ	25	25	38	円形	2.18	23H3
南辺　3.73	ウ	26	21	30	隅丸方形	3.73	23H4
西辺　4.04	エ	30	26	38	楕円形	2.16	23H5
	オ	23	21	21	円形	1.90	23H6
北辺　3.95	カ	26	24	20	円形	Ｐアへ3.95	11H6

第199表　３区24号掘立柱建物計測値　　（　　）は重複、境界線による欠損

建物全体の規模	2間四方・正方形				面積	14.70㎡	旧ピット番号
主軸方向	N－9°－W				位置	5Q・R-18・19	
桁・梁の規模(m)	柱穴No	規模(cm)			形状	次ピットとの間隔(m)	
		長径	短径	深さ			
東辺　3.56	ア	34	31	17	円形	3.56	24H3
南辺　4.05	イ	60	52	61	円形	1.90	10H5
	ウ	38	28	19	隅丸長方形	2.15	13H9
西辺　3.68	エ	32	31	18	円形	1.89	24H6
	オ	34	30	22	円形	1.81	24H7
北辺　4.07	カ	37	36	21	円形	Ｐアへ4.07	5H9

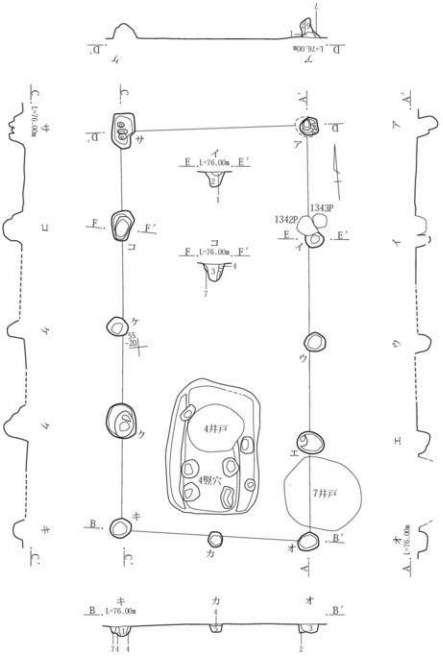
第200表　３区25号掘立柱建物計測値　　（　　）は重複、境界線による欠損

建物全体の規模	1間・3間・東西棟				面積	16.10㎡	旧ピット番号
主軸方向	N-85°-W				位置	5Q・R-18・19	
桁・梁の規模(m)	柱穴No	規模(cm)			形状	次ピットとの間隔(m)	
		長径	短径	深さ			
北辺　6.38	ア	37	24	34	隅丸長方形	1.96	4H3
	イ	36	34	11	円形	2.22	25H1
	ウ	30	23	21	楕円形	2.20	25H2
東辺　2.68	エ	35	30	34	楕円形	2.68	25H3
南辺　5.96	オ	30	28	23	隅丸方形	1.94	25H4
	カ	31	28	50	隅丸方形	2.16	25H5
	キ	34	25	36	楕円形	1.86	25H6
西辺　2.54	ク	28	27	17	円形	Ｐアへ2.54	5H8

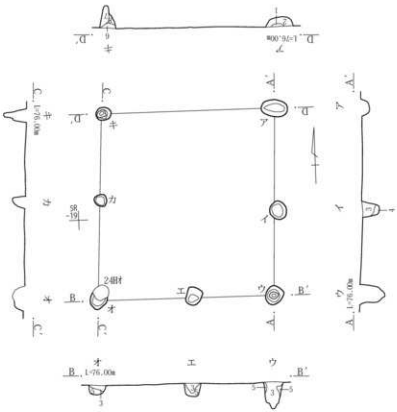
第201表　３区26号掘立柱建物計測値　　（　　）は重複、境界線による欠損

建物全体の規模	1間・2間・南北棟				面積	15.00㎡	旧ピット番号
主軸方向	N－0～1°－E				位置	5Q・R-18・19	
桁・梁の規模(m)	柱穴No	規模(cm)			形状	次ピットとの間隔(m)	
		長径	短径	深さ			
東辺　4.63	ア	38	32	29	楕円形	2.41	26H2
	イ	33	28	30	楕円形	2.23	26H3
南辺　3.27	ウ	28	26	19	円形	3.27	26H4
西辺　4.76	エ	42	33	20	楕円形	2.19	26H5
	オ	38	31	20	楕円形	2.57	26H6
北辺　3.12	カ	39	34	26	楕円形	Ｐアへ3.12	26H1

すると、約2.15m・約7.1尺であるが、東辺の平均柱間は約2.20mで、Ｐイは22cm南に寄り、Ｐウ・エも若干南に寄るため、Ｐエ・オ間がやや狭い。南辺の中間柱Ｐカは５cm東に寄る。西辺の平均柱間は約2.11mで、Ｐクは北へ５cm寄り、Ｐコも北へ３cm寄るとおり、柱間の乱れは少ない。東西辺の対面する柱穴同士の位置もほぼ付合する。Ｐキに確実ではないが、柱痕らしい埋没土の堆積が見られる。柱穴の径は短径から概ね40cm前後と考えられるが、Ｐエ・ク・コ・サの長径は58～74cmと大きく、柱の立て替えなどによる柱穴の重複や、柱が抜き取られた可能性もある。柱穴の形態は全て円形・楕円形である。Ｐクの深さは50cmとやや深い。その他の深さは、20～42cmとばらつきがある。詳細な規模は第203表のとおり。南半部に位置する４号竪穴状遺構は、バランス良く内側に収まり、内部施設である可能性が高い。



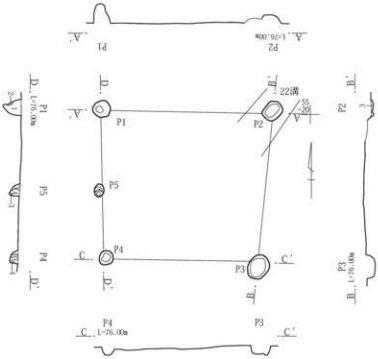
第489図　３区28号掘立柱建物



1　暗褐色土　ローム粒子少量に含む。
2　暗褐色土　ローム粒子含む。
3　黒褐色土
4　暗褐色土　褐色土含む。
5　褐色土
6　暗褐色土　ローム粒子微量に含む。
7　黒褐色土　ローム粒子含む。
8　褐色土　暗褐色ブロック含む。

0　1:80　2m

第490図　３区29号掘立柱建物



1　暗褐色土　ローム粒子少量に含む。
2　褐色土
3　暗褐色土　ローム粒子含む。
4　褐色土　暗褐色土含む。

0　1:80　2m

第491図　３区30号掘立柱建物

第202表　3区27号掘立柱建物計測値　　(　)は重複、境界線による欠損

建物全体の規模	1間・2間・東西棟・北張出				面積	6.05㎡	旧ピット番号
主軸方向	N-16°-E				位置	5P・Q-19・20	
桁・梁の規模(m)	柱穴No	規模(cm) 長径	短径	深さ	形状	次ピットとの間隔(m)	
3.78	1	32	31	9	円形	2.10	
	2	32	26	11	楕円形	1.68,P4へ1.90	
	3	21	18	28	楕円形	—	
南辺　2.04	4	46	(24)	16	不明(境界)	2.04	
西辺　2.98	5	46	31	18	楕円形	P1へ1.69	
(北辺 1.95)	6	31	27	16	楕円形	1.95	
東辺　3.09	7	36	31	12	楕円形	P2へ1.20	

第203表　3区28号掘立柱建物計測値　　(　)は重複、境界線による欠損

建物全体の規模	1間・4間・南北棟				面積	34.27㎡	旧ピット番号
主軸方向	N-6°-E				位置	5R・S-19・20	
桁・梁の規模(m)	柱穴No	規模(cm) 長径	短径	深さ	形状	次ピットとの間隔(m)	
東辺　8.80	ア	37	36	41	円形	2.42	772
	イ	36	(30)	32	不明(重複)	2.18	28B2
	ウ	42	40	34	円形	2.12	28B14
	エ	58	46	26	楕円形	2.08	28B4
南辺　4.00	オ	46	37	20	楕円形	1.95	28B5
	カ	34	30	26	楕円形	2.06	529
西辺　8.42	キ	46	40	20	円形	2.16	28B6
	ク	74	62	50	楕円形	2.08	69土
	ケ	45	42	37	不整円形	2.12	28B8
	コ	68	44	42	楕円形	2.08	28B1
北辺　3.96	サ	72	48	34	不定形	Pアへ3.96	774

第204表　3区29号掘立柱建物計測値　　(　)は重複、境界線による欠損

建物全体の規模	2間四方・正方形				面積	14.70㎡	旧ピット番号
主軸方向	N-3～4°-E				位置	5Q・R-18	
桁・梁の規模(m)	柱穴No	規模(cm) 長径	短径	深さ	形状	次ピットとの間隔(m)	
東辺　3.98	ア	55	35	19	楕円形	2.18	29B3
	イ	37	35	38	楕円形	1.80	29B4
南辺　3.72	ウ	40	35	54	楕円形	1.72	29B5
	エ	37	31	28	隅丸方形	2.00	29B6
西辺　3.99	オ	35	(19)	20	不明(重複)	2.14	29B7
	カ	25	25	26	円形	1.85	23B1
北辺　3.66	キ	32	27	48	円形	Pアへ3.66	11B7

第205表　3区30号掘立柱建物計測値　　(　)は重複、境界線による欠損

建物全体の規模	1間・2間・正方形				面積	11.15㎡	旧ピット番号
主軸方向	N-87°-W				位置	5R・S-20	
桁・梁の規模(m)	柱穴No	規模(cm) 長径	短径	深さ	形状	次ピットとの間隔(m)	
北辺　3.64	1	37	36	40	円形	3.64	
東辺　3.34	2	42	35	18	隅丸長方形	3.34	
南辺　3.21	3	51	42	18	楕円形	3.21	
西辺　3.17	4	32	30	16	円形	1.37	
	5	27	20	26	楕円形	P1へ1.80	

29号掘立柱建物(第490図)

位置　５Ｑ・Ｒ－18グリッド

重複　Ｐオは24号掘立柱建物Ｐオと重複するが新旧関係不明。11・13・23・24・25・26号掘立柱建物と重複するが、柱穴同士の重複がなく新旧関係不明。

主軸方位　Ｎ－３～４°－Ｅ　**面積**　14.70㎡

形態　２間四方の正方形。対面する各辺の長さはほぼ等しいが、南北辺ともやや西下がりに傾いており、平面形はやや菱形となる。東辺の中間柱Ｐイは南へ19㎝寄る。南辺の中間柱Ｐエは東へ14㎝寄る。西辺の中間柱Ｐカは北へ14㎝寄るため、東辺のＰイとは付合しない。埋没状況に特徴的なものはない。柱穴の短径は25～35㎝で大差ないが、Ｐアの長径は55㎝と長いため、柱の立て替えなどによる柱穴の重複や、柱が抜き取られた可能性もある。柱穴の形態は隅丸方形と円形が混在する。対面するＰウ・キの深さは、54・48㎝と深く特徴的である。その他の深さも19～38㎝でばらつきがある。詳細な規模は第204表のとおり。

30号掘立柱建物(第491図)

位置　５Ｒ・Ｓ－20グリッド

重複　Ｐ２は22号溝と重複するが新旧関係不明で、Ｐ３は38号溝とと重複し、状況から後出と思われる。

主軸方位　Ｎ－87°－Ｗ　**面積**　11.15㎡

形態　南北２間で東西１間の正方形。南辺は北辺より43㎝短いため、平面形は南辺の短い逆台形となる。西辺の中間柱Ｐ５は南へ20㎝程度寄る。埋没状況に特徴的なものはない。Ｐ２・３の長径は、42・51㎝と大きく、柱の立て替えなどによる柱穴の重複や、柱が抜き取られた可能性もある。その他の柱穴の長径は27～37㎝と大差ない。柱穴の形態は隅丸方形と円形が混在する。Ｐ１の深さは40㎝と突出するが、その他は16～26㎝と大差なく浅い。詳細な規模は第205表のとおり。

34号掘立柱建物(第492図)

位置　５Ｑ－17・18グリッド

重複　Ｐイは13号掘立柱建物Ｐキと、Ｐウは13号掘立柱建物Ｐケと重複するが新旧関係不明。10・13・20・23・24・26号掘立柱建物と重複するが、柱穴同士の重複がなく新旧関係不明。

主軸方位　Ｎ－１°－Ｗ　**面積**　10.19㎡以上

形態　梁間１間型で桁側は南側調査区域外に延びると思われ、１間分が検出された。東に庇を設ける。埋没土に浅間Ｂ軽石を含むものがある。柱穴の短径は36～38㎝でやや大きいが、Ｐア・エの長径は56・52㎝で細長く、柱の立て替えなどによる柱穴の重複や、柱が抜き取られた可能性もある。柱穴の形態は隅丸方形と円形が混在する。Ｐウの深さは48㎝と深いが、その他は20～28㎝で大差ない。詳細な規模は第206表のとおり。

35号掘立柱建物(第493図、ＰＬ.139)

位置　５Ｓ－19・20グリッド

重複　Ｐウ・エは21号溝と重複するが新旧関係不明。28・50号掘立柱建物と重複するが、柱穴同士の重複がなく新旧関係不明。

主軸方位　Ｎ－80～81°－Ｗ　**面積**　8.9㎡

形態　梁間１間型で桁行２間の東西棟で、東に下屋を設ける。北辺は南辺より22㎝短いため、西辺は東へ内傾する。北辺の中間柱Ｐイは西へ18㎝寄る。南辺の中間柱Ｐオは10㎝程度西に寄るため、対面する北辺のＰイとの食い違いは少ない。Ｐイ・オともに、南北辺の柱筋から柱穴半分～１本分内側に外れ、又材の又部で横材を受ける構造と考えられる。埋没状況に特徴的なものはない。Ｐウ・カの長径は38・34㎝とやや大きい。その他の柱穴の短径は19～29㎝と大差ないが、下屋部のＰキは若干小さい。柱穴の形態は隅丸方形と円形が混在する。Ｐア・イの深さは38・34㎝と若干深いが、その他の深さは10～26㎝と概ね浅い。詳細な規模は第207表のとおり。

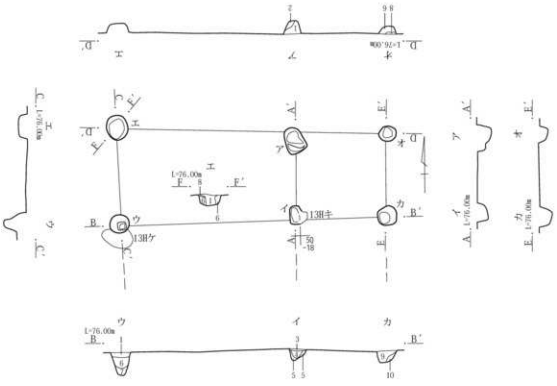
39号掘立柱建物(第494図)

位置　５Ｓ・Ｔ－17・18グリッド

重複　Ｐアは127号土坑、38号溝と、Ｐイは37号溝と、Ｐウは７号竪穴状遺構と、Ｐオは３号井戸と重複し、ＰカとＰキも相互に重複するが新旧関係不明。46・47号掘立柱建物と重複するが、柱穴同士の重複がなく新旧関係不明。

主軸方位　Ｎ－６～７°－Ｗ　**面積**　16.14㎡

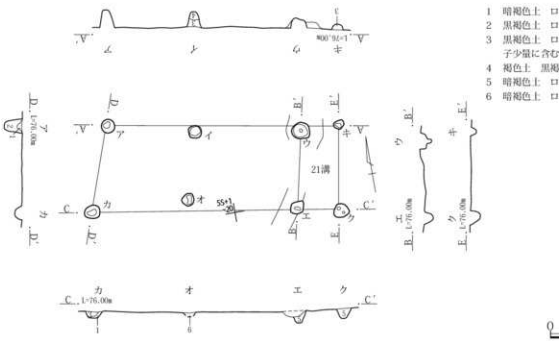
形態　２間四方の正方形。東辺より西辺が31㎝長く、全体に歪みがあるため、平面形はやや菱形となる。東辺の中間柱Ｐエはほぼ東辺を等分するが、それ以外はどちら



1　暗褐色土　ローム粒子含む。
2　黒褐色土　ロームブロック含む。
3　黒褐色土　浅間B軽石含む。
4　黒褐色土　白色軽石粒子含む。
5　黒褐色土　ローム粒子含む。
6　暗褐色土　ロームブロック・ローム粒子少量に含む。
7　暗褐色土　ロームブロック・ローム粒子含む。
8　暗褐色土　褐色土ブロック含む。
9　黒褐色土　ローム粒子微量に含む。
10　暗褐色土　ローム粒子微量に含む。

0　1:80　2m

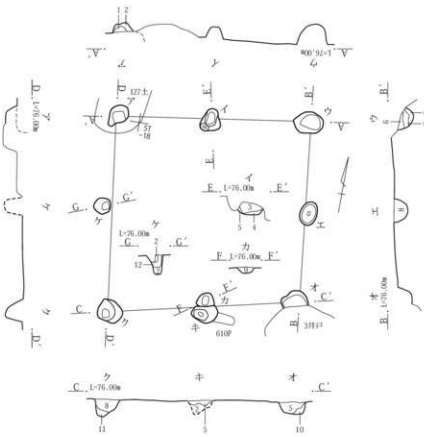
第492図　3区34号掘立柱建物



1　暗褐色土　ローム粒子含む。
2　黒褐色土　ローム粒子含む。
3　黒褐色土　ローム粒子・白色軽石粒子少量に含む。
4　褐色土　黒褐色土含む。
5　暗褐色土　ローム粒子少量に含む。
6　暗褐色土　ローム粒子多量に含む。

0　1:80　2m

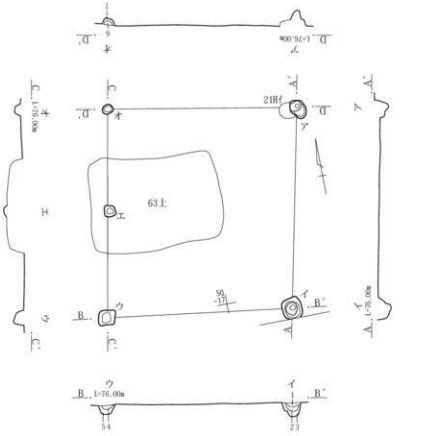
第493図　3区35号掘立柱建物



1　黒褐色土　焼土粒子・ローム粒子含む。
2　暗褐色土　黄白色土ブロック含む。
3　暗褐色土　ロームブロック・ローム粒子少量に含む。
4　黒褐色土　黄白色土ブロック少量に含む。
5　暗褐色土　ロームブロック含む。
6　暗褐色土　焼土粒子・ローム粒子・炭化物粒子含む。
7　暗褐色土　焼土粒子・ロームブロック含む。
8　暗褐色土　ローム粒子少量に含む。
9　黒褐色土　ローム粒子含む。
10　黄褐色土
11　黒褐色土　ロームブロック少量に含む。
12　暗褐色土　ローム粒子・炭化物粒子含む。

0　1:80　2m

第494図　３区39号掘立柱建物



1　暗褐色土　ロームブロック少量に含む。
2　暗褐色土　ローム粒子少量に含む。
3　暗褐色土　ロームブロックやや多量に含む。
4　暗褐色土　ローム粒子含む。
5　黒褐色土　ローム粒子少量に含む。
6　暗褐色土　褐色土含む。
7　黄褐色土　暗褐色土少量に含む。

0　1:80　2m

第495図　３区40号掘立柱建物

第206表　3区34号掘立柱建物計測値　　(　　)は重複、境界線による欠損

建物全体の規模	梁間1間・桁行1間以上・南北棟・東庇				面積	(10.19) ㎡		旧ピット番号
主軸方向	N－1°－W～N－2°－E				位置	5Q－17・18		
桁・梁の規模(m)	柱穴No	規模(cm)			形状	次ピットとの間隔(m)		
		長径	短径	深さ				
東辺　1.64	ア	56	36	28	隅丸長方形	1.64		13H4
南辺　3.65	イ	39	(26)	25	不明(重複)	3.65		34H6
西辺　2.08	ウ	41	38	48	円形	2.08		630
北辺　3.74	エ	52	45	20	楕円形	3.74		628
東庇　1.98	オ	34	32	20	円形	1.80,PアへI.98		604
東庇　1.88	カ	40	38	25	円形	PイへI.88		34H4

第207表　3区35号掘立柱建物計測値　　(　　)は重複、境界線による欠損

建物全体の規模	梁間1間・桁行2間・東西棟・東下屋				面積	8.9㎡		旧ピット番号
主軸方向	N－80～81°－W				位置	5S－19・20		
桁・梁の規模(m)	柱穴No	規模(cm)			形状	次ピットとの間隔(m)		
		長径	短径	深さ				
北辺　4.10	ア	28	28	38	円形	1.87		468
	イ	26	25	34	隅丸方形	2.23		35H1
東辺　1.65	ウ	38	36	24	円形	1.65		35H2
南辺　4.32	エ	26	25	26	隅丸方形	2.30		35H5
	オ	26	26	10	円形	2.08		35H6
西辺　1.88	カ	34	28	14	楕円形	1.88		464
東下屋　0.80	キ	22	19	12	楕円形	1.80,PウへI.80		35H3
東下屋　0.92	ク	31	29	23	円形	PエへI.92		35H4

第208表　3区39号掘立柱建物計測値　　(　　)は重複、境界線による欠損

建物全体の規模	2間四方・正方形				面積	16.14㎡		旧ピット番号
主軸方向	N－6～7°－W				位置	5S・T－17・18		
桁・梁の規模(m)	柱穴No	規模(cm)			形状	次ピットとの間隔(m)		
		長径	短径	深さ				
北辺　4.06	ア	54	38	43	不定形	1.98		840
	イ	46	40	28	隅丸三角形	2.11		837
東辺　3.84	ウ	63	44	44	楕円形	1.94		7型穴上1
	エ	50	36	30	楕円形	1.92		725
南辺　4.02	オ	54	(35)	26	不明(重複)	1.90		620(39H4)
	カ	36	(29)	12	不明(重複)	0.31		611(39H5)
	キ	52	31	29	不明(重複)	2.02		515(39H3)
西辺　4.15	ク	52	47	36	隅丸方形	2.29		492(39H2)
	ケ	36	35	38	円形	PアへI.88		619(39H1)

第209表　3区40号掘立柱建物計測値　　(　　)は重複、境界線による欠損

建物全体の規模	1間・2間・方形				面積	17.27㎡		旧ピット番号
主軸方向	N－11～12°－E				位置	5P・Q－16・17		
桁・梁の規模(m)	柱穴No	規模(cm)			形状	次ピットとの間隔(m)		
		長径	短径	深さ				
東辺　4.28	ア	44	31	34	楕円形	4.28		88P6
南辺　3.94	イ	(42)	40	30	隅丸方形か	3.94		427(40HP2)
西辺　4.42	ウ	34	3	21	隅丸方形か	2.26		596
	エ	23	23	46	隅丸方形か	2.17		483
北辺　4.00	オ	23	21	13	円形	PアへI.00		591

第210表　3区45号掘立柱建物計測値　　(　　)は重複、境界線による欠損

建物全体の規模	梁間1間・桁行2(3)間・東西棟				面積	17.48㎡		旧ピット番号
主軸方向	N－64～67°－E				位置	5Q・R－16～18		
桁・梁の規模(m)	柱穴No	規模(cm)			形状	次ピットとの間隔(m)		
		長径	短径	深さ				
北辺　5.08	1	34	30	42	楕円形	3.40		499
	2	49	40	13	円形	1.68		400
東辺　3.23	3	33	28	52	隅丸方形	3.23		603
南辺　5.20	4	26	22	17	隅丸方形	1.68		477
	5	(48)	45	12	不明(重複)	3.52		402
西辺　3.57	6	32	30	26	隅丸方形	P1へI.57		34H2

かに偏りが見られる。ただし、各辺の対面する中間柱同士はほぼ付合する。埋没状況に特徴的なものはない。柱穴の短径は31 ～ 47㎝でやや大きい。Ｐア・ウ・エ・オ・キ・クの長径は50㎝を超えており、柱の立て替えなどによる柱穴の重複や、柱が抜き取られた可能性もある。柱穴の形態は隅丸方形と円形が混在する。Ｐカを除く柱穴の深さは、26 ～ 44㎝でややばらつきがある。詳細な規模は第208表のとおり。

40号掘立柱建物(第495図)

位置　５Ｐ・Ｑ－16・17グリッド

重複　Ｐアは21号掘立柱建物Ｐイと、Ｐエは63号土坑と重複するが新旧関係不明。６・９・10・19・20・21・22号掘立柱建物と重複するが、柱穴同士の重複がなく新旧関係不明。

主軸方位　Ｎ－11 ～ 12°－Ｅ　**面積**　17.27㎡

形態　梁間１間型で桁行２間の南北棟。東辺は西辺より14㎝短いため、南辺は西下がりに傾く。西辺の中間柱Ｐエは５㎝北へ寄る。埋没状況に特徴的なものはない。柱穴の長径は23 ～ 44㎝とばらつきがある。柱穴の形態は隅丸方形と円形が混在する。西辺のＰウ・オは21･13㎝と浅いが、中間柱Ｐエが46㎝とやや深い。詳細な規模は第209表のとおり。

45号掘立柱建物(第496図)

位置　５Ｑ・Ｒ－16 ～ 18グリッド

重複　Ｐ３は６号竪穴状遺構と、Ｐ５は６号掘立柱建物Ｐオ、485号ピットと重複するが新旧関係不明。６・７・10・15・16・19・20・40号掘立柱建物と重複するが、柱穴同士の重複がなく新旧関係不明。

主軸方位　Ｎ－64 ～ 67°－Ｅ　**面積**　17.48㎡

形態　梁間１間型で桁行２間の東西棟か。あるいは桁行１間で東側１間は庇か。桁行２間の場合、西辺から１間目の柱は省略された可能性もある。東辺は西辺より34㎝短いため、北辺は東下がりに傾く。桁行柱間を３間で平均すると、約1.71ｍ･約5.7尺であり、北辺のＰ２・３間、南辺のＰ４・５間の柱間はほぼ一致する。埋没状況に特徴的なものはない。柱穴の長径は26 ～ 49㎝でばらつきがある。柱穴の形態は隅丸方形と円形が混在する。Ｐ１・３の深さは42・52㎝とやや深いが、それ以外は12 ～ 26㎝で概ね浅い。詳細な規模は第210表のとおり。

46号掘立柱建物(第497図)

位置　５Ｓ・Ｔ－17・18グリッド

重複　Ｐ２・３は７号竪穴状遺構と、Ｐ４は888号ピット、44号溝と、Ｐ５は127号土坑と重複するが新旧関係不明。39・47号掘立柱建物と重複するが、柱穴同士の重複がなく新旧関係不明。

主軸方位　Ｎ－78 ～ 80°－Ｗ　**面積**　12.66㎡

形態　梁間１間型で桁行２間の東西棟。東辺が西辺より15㎝短いため、南辺は西下がりに傾く。北辺の中間柱Ｐ２は西へ５㎝寄る。埋没土に浅間Ｂ軽石を含むものが見られる。柱穴の長径は26 ～ 38㎝でややばらつきがある。柱穴の形態は隅丸方形と円形が混在する。Ｐ４の深さは48㎝とやや深く、それ以外は22 ～ 34㎝で大差ない。詳細な規模は第212表のとおり。

47号掘立柱建物(第498図、第211表)

位置　５Ｓ・Ｔ－17・18グリッド

重複　Ｐ４は38号溝と重複するが、状況から後出で、Ｐ２は126号土坑と重複するが新旧関係不明。39・46号掘立柱建物と重複するが、柱穴同士の重複がなく新旧関係不明。

主軸方位　Ｎ－５～７°－Ｗ　**面積**　16.81㎡

形態　２間四方の正方形。東辺は西辺より49㎝短いため、北辺は東下がりに傾く。南辺の中間柱Ｐ３は13㎝西へ寄り、西辺の中間柱Ｐ５は15㎝南に寄る。埋没土に浅間Ｂ軽石を含むものが見られる。Ｐ６の長径は46㎝と長く、柱の立て替えなどによる柱穴の重複や、柱が抜き取られた可能性もある。それ以外は27 ～ 39㎝でややばらつきがある。柱穴の形態は隅丸方形と円形が混在する。Ｐ５・６の深さは11・21㎝とやや浅く、その他は29 ～ 40㎝とややばらつきがある。詳細な規模は第213表のとおり。

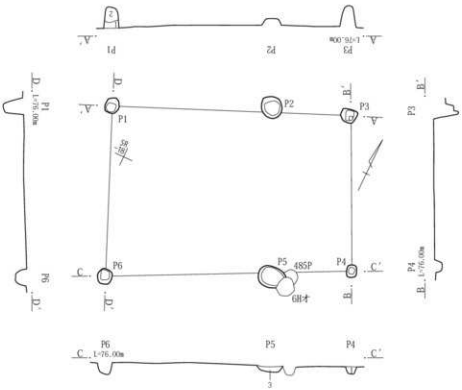
出土遺物　Ｐ４の埋没土から土師器杯が出土するが、混入とみなされる。

48号掘立柱建物(第499図)

位置　５Ｓ・Ｔ－18・19グリッド

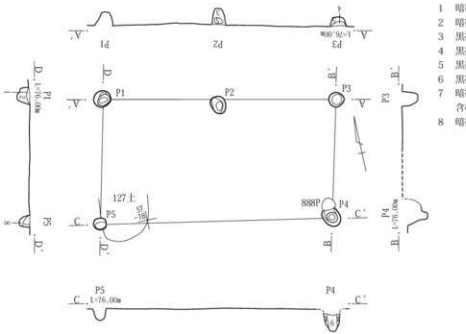
重複　Ｐ２は750号ピット、Ｐ３は820号ピット、22号溝より後出で、Ｐ１は826号ピット、43号溝と重複するが

1　暗褐色土　褐色土ブロック含む。
2　褐色土　暗褐色土少量に含む。
3　黒褐色土　ロームブロック含む。



第496図　3区45号掘立柱建物

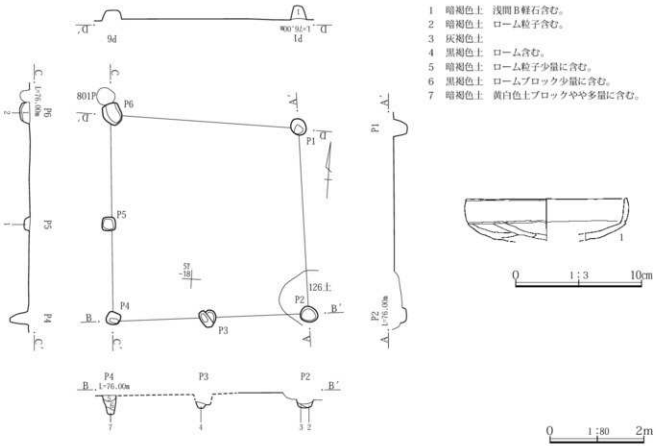
1　暗褐色土　ローム粒子含む。
2　暗褐色土　ロームブロック・白色軽石含む。
3　黒褐色土　焼土粒子少量、浅間B軽石含む。
4　黒褐色土　ローム粒子・浅間B軽石含む。
5　黒褐色土　白色軽石・浅間B軽石含む。
6　黒褐色土　ローム粒子多量に含む。
7　暗褐色土　焼土粒子・炭化物粒子・ローム粒子含む。
8　暗褐色土　ローム粒子多量に含む。



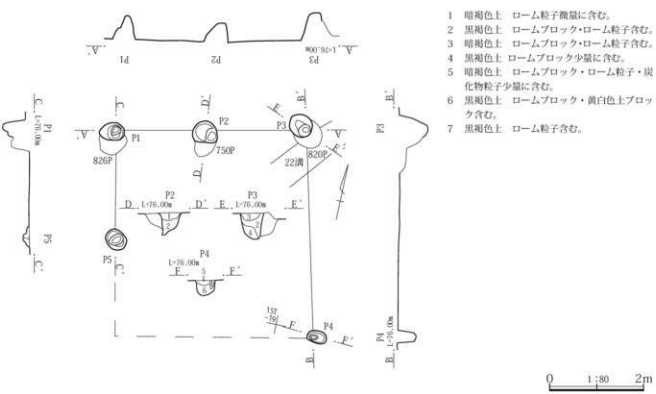
第497図　3区46号掘立柱建物

第211表　3区47号掘立柱建物出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第498図	1	土師器 杯	P 4 口縁～底部片	口	12.6			細砂粒少/良好/灰黄褐	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	内外面とも炭素吸着。



第498図　３区47号掘立柱建物と出土遺物



第499図　３区48号掘立柱建物

第212表　3区46号掘立柱建物計測値　　(　　)は重複、境界線による欠損

建物全体の規模	梁間1間・桁行2間・東西棟				面積	12.66㎡	旧ピット番号
主軸方向	N-78～80°-W				位置	5S・T-17・18	
桁・梁の規模(m)	柱穴No	規模(cm)			形状	次ピットとの間隔(m)	
		長径	短径	深さ			
北辺　4.93	1	36	35	26	円形	2.42	585
	2	38	28	34	楕円形	2.52	713
東辺　2.50	3	30	30	34	円形	2.50	793
南辺　4.90	4	(43)	34	48	楕円形	4.90	886
西辺　2.65	5	26	24	22	隅丸方形	P1へ2.65	871

第213表　3区47号掘立柱建物計測値　　(　　)は重複、境界線による欠損

建物全体の規模	2間四方・正方形				面積	16.81㎡	旧ピット番号
主軸方向	N-5～7°-W				位置	5S・T-17・18	
桁・梁の規模(m)	柱穴No	規模(cm)			形状	次ピットとの間隔(m)	
		長径	短径	深さ			
東辺　3.92	1	36	30	29	楕円形	3.92	582
南辺　4.13	2	36	33	32	円形	2.19	836
	3	39	32	30	不定形	1.94	838
西辺　4.41	4	27	26	40	隅丸方形	2.05	796
	5	28	27	11	隅丸方形	2.36	719
北辺　3.94	6	46	37	21	楕円形	P1へ3.94	800

第214表　3区48号掘立柱建物計測値　　(　　)は重複、境界線による欠損

建物全体の規模	2間四方・正方形か				面積	(17.64)㎡	旧ピット番号
主軸方向	N-78°-E				位置	5S・T-18・19	
桁・梁の規模(m)	柱穴No	規模(cm)			形状	次ピットとの間隔(m)	
		長径	短径	深さ			
北辺　4.01	1	51	36	50	楕円形	2.03	826
	2	55	50	40	不整円形	2.00	749
東辺　4.40	3	52	46	58	楕円形	4.40	747
(南辺)　—	4	42	25	40	隅丸長方形	—	723
(西辺)　—	5	47	39	12	楕円形	P1へ2.34	804

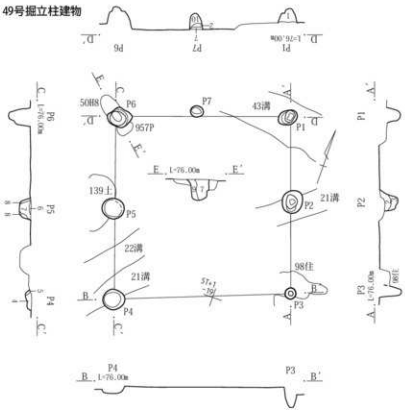
第215表　3区49号掘立柱建物計測値　　(　　)は重複、境界線による欠損

建物全体の規模	2間四方・正方形				面積	14.25㎡	旧ピット番号
主軸方向	N-20°-W				位置	5T-18・19	
桁・梁の規模(m)	柱穴No	規模(cm)			形状	次ピットとの間隔(m)	
		長径	短径	深さ			
東辺　3.75	1	43	30	43	楕円形	1.82	729
	2	49	42	40	楕円形	1.94	891
南辺　3.78	3	24	23	48	円形	3.78	98住カマド内P
西辺　3.90	4	44	44	14	円形	1.95	773
	5	46	44	22	円形	1.95	681
北辺　3.67	6	40	38	44	隅丸方形	1.70	754
	7	27	24	33	楕円形	P1へ2.00	893

第216表　3区50号掘立柱建物計測値　　(　　)は重複、境界線による欠損

建物全体の規模	梁間1間・桁行3間・南北棟				面積	37.50㎡	旧ピット番号
主軸方向	N-20～22°-E				位置	5S・T-18～20	
桁・梁の規模(m)	柱穴No	規模(cm)			形状	次ピットとの間隔(m)	
		長径	短径	深さ			
東辺　7.88	1	46	38	22	隅丸方形	3.00	742
	2	52	28	14	楕円形	2.25	775
	3	34	27	26	楕円形	2.55	614
南辺　5.00	4	35	31	32	楕円形	5.00	28811
西辺　7.48	5	50	42	29	楕円形	2.43	467
	6	42	34	31	楕円形	2.51	767
	7	35	27	15	楕円形	2.54	898
北辺　4.83	8	(40)	34	13	不明(重複)	P1へ4.83	755

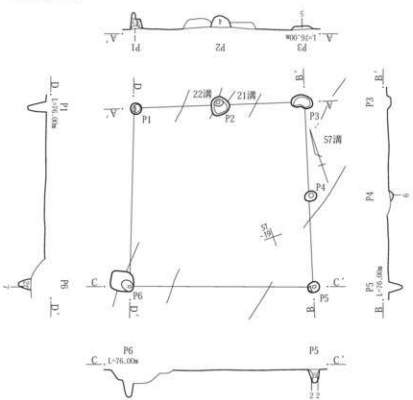
49号掘立柱建物



1　暗褐色土　焼土粒子・炭化物粒子・ローム粒子含む。
2　暗褐色土
3　黒褐色土　ロームブロック・白色軽石含む。
4　黒褐色土　ローム粒子微量に含む。
5　暗褐色土　ローム粒子微量に含む。
6　暗褐色土　ローム粒子・焼土粒子少量に含む。
7　暗褐色土　ロームブロック・ローム粒子少量に含む。
8　褐色土　暗褐色土含む。
9　暗褐色土　ローム粒子多量に含む。
10　暗褐色土　ロームブロック含む。

0　1:80　2m

51号掘立柱建物



1　暗褐色土　ローム粒子・焼土粒子少量に含む。
2　暗褐色土　ロームブロック含む。
3　褐色土
4　黒褐色土　白色軽石少量、浅間Ｂ軽石含む。
5　暗褐色土　ローム粒子・軽石粒子含む。
6　暗褐色土　ローム粒子少量、浅間Ｂ軽石含む。
7　黄褐色土

0　1:80　2m

第500図　３区49・51号掘立柱建物

新旧関係不明。49・50・51号掘立柱建物と重複するが、柱穴同士の重複がなく新旧関係不明。

主軸方位　Ｎ－78°－Ｅ　**面積**　17.64㎡以上

形態　２間四方の正方形か。南西隅の柱穴は22号溝などと重複するため未検出。北辺の中間柱Ｐ２はほぼ北辺を等分する。埋没状況に特徴的なものはない。柱穴の短径は25～50㎝とばらつきがある。柱穴の形態は隅丸方形と円形が混在する。深さ12㎝と浅いＰ５を除いて、深さは40～58㎝と大差ない。出土遺物から中世に比定される。詳細な規模は第214表のとおり。

49号掘立柱建物（第500図）

位置　５Ｔ－18・19グリッド

重複　Ｐ３は98号住居、Ｐ６は50号掘立柱建物Ｐ８、957号ピットより後出で、Ｐ１は43号溝、Ｐ２・４は21号溝、Ｐ５は139号土坑と重複するが新旧関係不明。48・49・50・51号掘立柱建物と重複するが、柱穴同士の重複がなく新旧関係不明。

主軸方位　Ｎ－20°－Ｗ　**面積**　14.25㎡

形態　２間四方の正方形。西辺は東辺より15㎝長いため、南辺は西下がりに傾く。北辺の中間柱Ｐ７は15㎝東に寄り、北辺の柱筋から柱穴半分外側に外れ、又材の又部で横材を受ける構造と考えられる。東辺の中間柱Ｐ２は６㎝北に寄り、西辺の中間柱Ｐ５は西辺の中間にあるが両者はほぼ対面する。埋没状況に特徴的なものはない。Ｐ７の長径は27㎝と小さいが、そのほかの短径は38～44㎝と大差ない。ただし、Ｐ１・３は重複のため除外される。柱穴の形態は全て円形・楕円形である。Ｐ４・５・７の深さは14・22・33㎝とやや浅いが、そのほかは40㎝を超えてやや深い。詳細な規模は第215表のとおり。

50号掘立柱建物（第501図）

位置　５Ｓ・Ｔ－18～20グリッド

重複　Ｐ８は49号掘立柱建物Ｐ６より前出で、Ｐ４は38号溝、Ｐ７は43号溝と重複するが新旧関係不明。28・35・48・49・52号掘立柱建物と重複するが、柱穴同士の重複がなく新旧関係不明。

主軸方位　Ｎ－20～22°－Ｅ　**面積**　37.50㎡

形態　梁間１間型で桁行３間の南北棟。東辺は西辺より30㎝長いため、北辺は西下がりに傾く。桁行柱間を平均すると、約2.543m・約8.47尺であるが、東辺の平均柱間は約2.59mで、Ｐ２は南に41㎝寄るため、Ｐ２・３の柱間は2.25mと狭い。西辺の平均柱間は約2.49mで、Ｐ６は６㎝、Ｐ７は３㎝南に寄る。Ｐ６・７は西辺の柱筋から柱穴半分外側に、東辺のＰ２・３は同柱筋から柱穴半分内側に外れるため、又材の又部で横材を受ける構造と考えられる。埋没土に浅間Ｂ軽石を含むものが見られる。Ｐ１・２・５・６の長径は42～52㎝と長く、底面に段差が見られ、柱の立て替えなどによる柱穴の重複や、柱が抜き取られた可能性もある。そのほかの短径は概ね30㎝前後である。柱穴の形態は全て円形・楕円形である。Ｐ４～６の深さは26～32㎝で、そのほかの深さは13～22㎝とばらつきがある。詳細な規模は第216表のとおり。

51号掘立柱建物（第500図）

位置　５Ｓ・Ｔ－18・19グリッド

重複　Ｐ２は21・22号溝より後出で、Ｐ４は57号溝、Ｐ６は22号溝と重複するが新旧関係不明。48～50号掘立柱建物と重複するが、柱穴同士の重複がなく新旧関係不明。

主軸方位　Ｎ－69～71°－Ｗ　**面積**　14.44㎡

形態　２間四方の正方形。北辺は南辺より32㎝短く、東辺は西辺より16㎝長いため、北辺は西下がりに傾き、東辺は西へ内傾する。北辺の中間柱Ｐ２は北辺のほぼ中間にあり、東辺の中間柱Ｐ４はわずかだが南へ２㎝寄る。埋没土に浅間Ｂ軽石を含むものが見られる。Ｐ２・３・６の長径は39～50㎝と大きく、柱の立て替えなどによる柱穴の重複や、柱が抜き取られた可能性もある。そのほかの短径は20㎝程度である。柱穴の形態は隅丸方形と円形が混在する。柱穴の深さは７～59㎝とばらつきがある。詳細な規模は第217表のとおり。

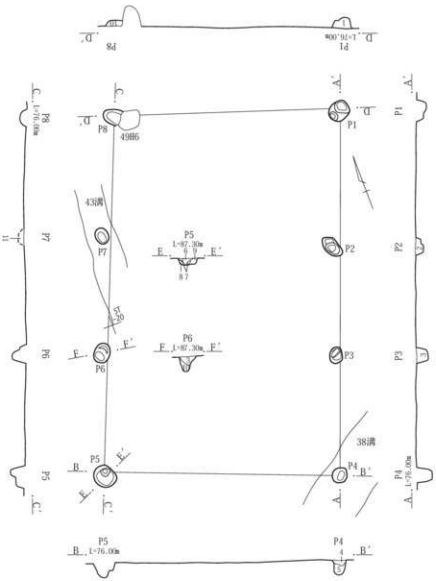
52号掘立柱建物（第502図）

位置　５Ｔ・６Ａ－19・20グリッド

重複　Ｐ１・５は27号溝と重複するが新旧関係不明。50号掘立柱建物と重複するが、柱穴同士の重複がなく新旧関係不明。

主軸方位　Ｎ－３～５°－Ｗ　**面積**　9.82㎡

形態　南北２間×東西１間の方形。東辺は西辺より22㎝短いため、南辺は西下がりに傾く。西辺の中間柱Ｐ４は北へ15㎝寄り、西辺の柱筋から柱穴半分外側に外れ、又



1　暗褐色土　ローム粒子・浅間Ｂ軽石含む。
2　暗褐色土　ロームブロック多量に含む。
3　暗褐色土　ローム粒子含む。
4　暗褐色土　軽石粒子含む。
5　暗褐色土　軽石粒子微量に含む。
6　黒褐色土　ローム粒子・軽石粒子含む。
7　褐色土
8　暗褐色土　ローム粒子少量に含む。
9　暗褐色土
10　黒褐色土　ロームブロック含む。
11　暗褐色土　ロームブロック含む。

0　1:80　2m

第501図　３区50号掘立柱建物

第217表　３区51・52号掘立柱建物計測値

３区51号掘立柱建物　　（　　）は重複、境界線による欠損

建物全体の規模	2間四方・正方形				面積	14.44㎡		旧ピット番号
主軸方向	N-69～71°-W				位置	5Ｓ・T-18・19		
桁・梁の規模(m)	柱穴No	規模(cm)			形状	次ピットとの間隔(m)		
		長径	短径	深さ				
北辺　3.58	1	24	24	37	円形		1.80	892
	2	39	38	38	円形		1.79	744
東辺　3.94	3	46	25	7	不定形		2.00	738
	4	26	20	11	楕円形		1.95	812
南辺　3.90	5	26	21	29	楕円形		3.90	813
西辺　3.78	6	50	42	59	隅丸長方形		Ｐ１へ3.78	899

３区52号掘立柱建物　　（　　）は重複、境界線による欠損

建物全体の規模	1間・2間・方形				面積	9.82㎡		旧ピット番号
主軸方向	N-３～５°-W				位置	5Ｔ・６A-19・20		
桁・梁の規模(m)	柱穴No	規模(cm)			形状	次ピットとの間隔(m)		
		長径	短径	深さ				
東辺　3.26	1	35	28	52	楕円形		3.26	902
南辺　2.88	2	34	33	27	円形		2.88	752
西辺　3.48	3	49	33	16	楕円形		1.90	782
	4	44	34	29	楕円形		1.60	784
北辺　2.95	5	26	24	46	円形		Ｐ１へ2.95	959

材の又部で横材を受ける構造と考えられる。埋没状況に特徴的なものはない。Ｐ３・４の長径は49・44cmと長く、柱の立て替えなどによる柱穴の重複や、柱が抜き取られた可能性もある。そのほかは概ね30cm程である。柱穴の形態は全て円形・楕円形である。Ｐ１・５の深さは52・46cmと深く、27号溝との重複の影響も考えられるが、新旧関係は不明。そのほかの深さは16～27cmで、やや浅い。詳細な規模は第217表のとおり。

（２）竪穴状遺構

１号屋敷内では竪穴状遺構４基が検出された。このうち、構築の時期が中世と考えられるのは４号竪穴状遺構１基のみである。７号竪穴状遺構は７～８世紀であり、残る５・６号竪穴状遺構も明確ではないが、古代に属すると考えられる。

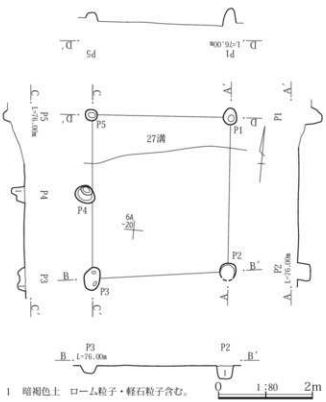
４号竪穴状遺構（第503図、ＰＬ.140）

位置　５Ｒ－19グリッド

状況から37・38号溝より後出で、４号井戸よりも前出。平面形は隅丸長方形。主軸方位はＮ－８°－Ｅ。東西両壁側に幅18～35cmのテラス状部分がある。壁はほぼ垂直に立ち上がる。掘り方はなく、掘削したローム面を底面とする。硬化面は観察されていない。ピットは下段で２対ずつがあり、４号井戸部分にもあった可能性がある。テラス状部分にピット４基があり、中央北寄りのＰ１・３は対となる。Ｐ２・10は重複する別時期のピットである可能性も残る。ピットは概ね浅いため、柱穴としては自立し難い。上屋が高さのないものであれば、支柱穴として問題はない。28号掘立柱建物の内部に位置しており、あるいは内部の施設とも考えられる。埋没状況不詳。規模は長軸288cm短軸192cm深さ26cmである。出土遺物はなく、時期は比定できない。ピットの規模cm（長径・短径・深さ）はＰ１：36・26・14、Ｐ２：25・23・13、Ｐ３：38・27・17、Ｐ４欠番、Ｐ５：38・33・20、Ｐ６：46・25・19、Ｐ７：37・33・20、Ｐ８：38・37・25、Ｐ９欠番、Ｐ10：39・19・17である。

５号竪穴状遺構（第504図、ＰＬ.140）

位置　５Ｒ－17グリッド



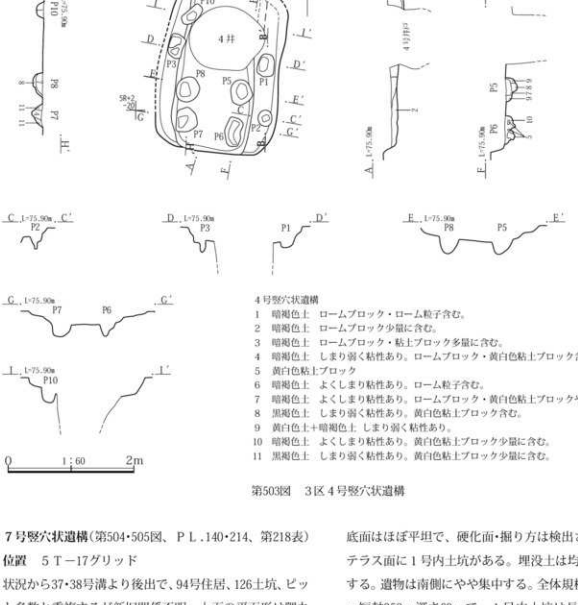
第502図　３区52号掘立柱建物

７号掘立柱建物Ｐイ、６号竪穴状遺構より前出で、609号ピットも後出か。平面形は隅丸方形。主軸方位はＮ－10°－Ｗ。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面はほぼ平坦で、北東隅に不整円形の土坑があり、床面に掘られていた可能性がある。609号ピット周辺に帯状に不定形の落ち込みがある。床面は確認できていないが、あるいは掘り方で８・９層は掘り方土の可能性もある。自然埋没か。規模は長軸239cm短軸220cm深さ35cmである。非掲載とした出土遺物から古墳時代と考えられる。

６号竪穴状遺構（第504図、ＰＬ.140）

位置　５Ｒ・Ｓ－16・17グリッド

７号掘立柱建物Ｐウより前出で、５号竪穴状遺構より後出。15号掘立柱建物Ｐ２、３号井戸、475・603号ピットと重複するが新旧関係不明。平面形は隅丸長方形。主軸方位はＮ－73°－Ｅ。壁はほぼ垂直に立ち上がる。床面は踏み固められた状態で暗褐色土が堆積し、焼土粒子・炭化物粒子が微量に含まれる。掘り方は認められない。埋没土は均質で人為埋没する。規模は長軸285cm短軸245cm深さ64cmである。非掲載とした出土遺物から古墳時代と考えられる。



4号竪穴状遺構

1　暗褐色土　ロームブロック・ローム粒子含む。
2　暗褐色土　ロームブロック少量に含む。
3　暗褐色土　ロームブロック・粘土ブロック多量に含む。
4　暗褐色土　しまり弱く粘性あり。ロームブロック・黄白色粘土ブロック含む。
5　黄白色粘土ブロック
6　暗褐色土　よくしまり粘性あり。ローム粒子含む。
7　暗褐色土　よくしまり粘性あり。ロームブロック・黄白色粘土ブロックやや多量に含む。
8　黒褐色土　しまり弱く粘性あり。黄白色粘土ブロック含む。
9　黄白色土＋暗褐色土　しまり弱く粘性あり。
10　暗褐色土　よくしまり粘性あり。黄白色粘土ブロック少量に含む。
11　黒褐色土　しまり弱く粘性あり。黄白色粘土ブロック少量に含む。

第503図　３区４号竪穴状遺構

７号竪穴状遺構（第504･505図、ＰＬ.140･214、第218表）

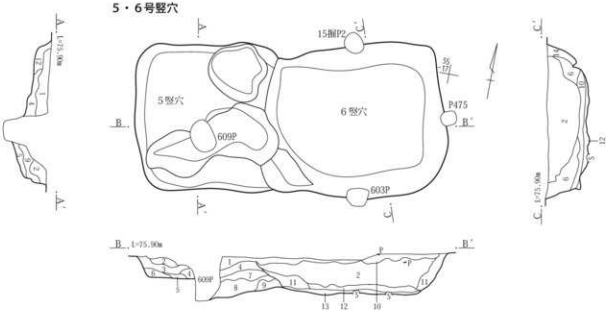
位置　５Ｔ－17グリッド

状況から37･38号溝より後出で、94号住居、126土坑、ピット多数と重複するが新旧関係不明。上面の平面形は隅丸長方形で、内側に幅28～46cmのテラス状部分を残して、楕円形に深く掘り下げる。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面はほぼ平坦で、硬化面･掘り方は検出されていない。テラス面に１号内土坑がある。埋没土は均質で人為埋没する。遺物は南側にやや集中する。全体規模は長軸(362)cm短軸358cm深さ69cmで、１号内土坑は長軸62cm短軸45cm深さ25cmである。出土遺物から７～８世紀に比定される。

第218表　３区７号竪穴状遺構出土遺物

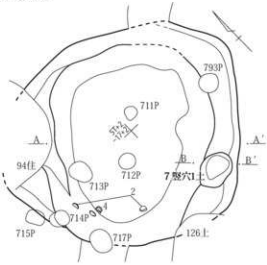
挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値					胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第505図	1	土師器 杯	2/3	口	15.0	高	3.9		粗砂粒/良好/明赤褐	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。体部にナデの部分を残す。内面はナデ。	内面磨滅。
第505図	2	土師器 杯	1/3	口	16.4				やや精選･赤色粘土粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。体部にナデの部分を残す。内面はナデ。	
第505図	3	土師器 杯	口縁～体部片	口	14.7				粗砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ。体部上半にナデ、下半はヘラ削り。	内外面とも磨滅。
第505図 PL.214	4	須恵器 杯	1/2	口 底	13.0 7.5	高	3.5		細砂粒/還元焔･やや軟質/灰白	ロクロ整形。回転右回り。底部回転糸切り後、周縁部に回転ヘラ削り。体部最下位にも。	
第505図	5	須恵器 杯	1/5	口	13.4				白色鉱物粒/還元焔/灰	ロクロ整形。回転右回り。底部切り離し後、回転ヘラ削り。	

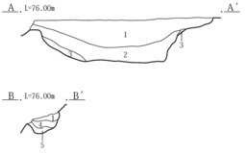
５・６号竪穴



５・６号竪穴状遺構
1　黒褐色土　軽石・ローム粒子微量に含む。
2　暗褐色土　ロームブロック・ローム粒子多量に含む。
3　暗褐色土　軽石・ローム粒子含む。
4　暗褐色土　白色粘土ブロック含む。
5　黒褐色土　ロームブロック含む。
6　黒褐色土　ロームブロック・ローム粒子・軽石含む。
7　暗褐色土　ローム粒子少量に含む。
8　黒褐色土　しまり弱い。ローム粒子微量に含む。
9　褐色土　ロームブロック含む。
10　暗褐色土　ローム粒子少量、焼土粒子・炭化物粒子微量に含む。
11　暗褐色土　ロームブロック・ローム粒子やや多量に含む。
12　黒褐色土　粘性強い。ローム粒子含む。
13　暗褐色土　ややよくしまる。ローム粒子少量に含む。

７号竪穴

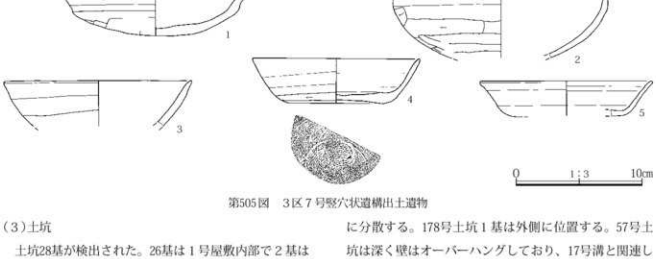




７号竪穴状遺構
1　暗褐色土　ややしまり強く粘性あり。焼土粒子・ローム粒子・白色軽石含む。
2　暗褐色土　ややしまり強く粘性強い。ロームブロック・炭化物粒子含む。
3　黄褐色土　粘性強い。黄白色粘土・暗褐色土含む。
4　暗褐色土　粘性あり。ロームブロック・焼土粒子含む。
5　暗褐色土　よくしまり粘性あり。ローム粒子・黄白色粘土ブロック含む。

0　1:60　2m

第504図　３区５・６・７号竪穴状遺構



第505図　３区７号竪穴状遺構出土遺物

（３）土坑

土坑28基が検出された。26基は１号屋敷内部で２基は隣接部である。形態別に分類すると、以下のとおりとなる。

方形	1
長方形	2
隅丸長方形	3
隅丸細長方形	4
円形	8
楕円形	4
不明・不詳	6
計	28基

方形のものは124号土坑１基のみで、屋敷の北西部に位置する。掘り込みが比較的深くしっかりした土坑である。中国陶磁が出土する。掘立柱建物とも重複するが主軸方位が異なり、関連づけられるものはない。

長方形のものは２基で屋敷の西側にある。110号土坑は22号溝と重複するが、その走向方位と一致している。111号土坑は26号掘立柱建物の西辺に沿っており、関連が想定できる。

隅丸長方形のものは３基で、いずれも浅く断面皿状である。63号土坑は20号掘立柱建物の内部施設と考えられる。66号土坑も28・50号掘立柱建物いずれかの内部施設である可能性がある。67号土坑は大規模で壁面も明確なため竪穴状遺構に近い。

隅丸細長方形のものは４基で、分布は２か所に分かれる。59・60・62号土坑３基は屋敷の中央東寄りに位置する。５号掘立柱建物の東辺に沿っており、関連も想定される。127号土坑は屋敷の中央北寄りで、46号掘立柱建物と関連する可能性がある。

円形のものが８基、楕円形のものが４基で、屋敷全体に分散する。178号土坑１基は外側に位置する。57号土坑は深く壁はオーバーハングしており、17号溝と関連した排水施設と思われる。119号土坑も深く、10号井戸に隣接しており、水場との関連が想定できる。その他は浅いものが多く多様である。65号土坑は桶を埋設した土坑であり、近世である可能性が高い。128号土坑も近世である。これらは屋敷との直接の関連は考えにくいだろう。

57・115号土坑（第506・508図、ＰＬ.140・214、第219表）

57号土坑　位置　５Ｒ－13グリッド

17・18号溝と重複するが新旧関係不明。平面形は不整円形が二つ並ぶ８の字形で、土坑２基が重複する可能性もある。壁は中位までオーバーハングし、上位は丸みを持ちながら斜めに立ち上がる。底面は凸凹して丸みがある。埋没土はロームブロックが目立ち人為埋没か。規模は長径253cm短径157cm深さ84cmである。埋没土中位から第508図１～３の土師器杯が出土する。出土遺物から８世紀前半に比定される。

115号土坑　位置　５Ｒ－13・14グリッド

669号ピットより前出か。17・18号溝と重複するが新旧関係不明。平面形不詳。壁は緩やかに立ち上がる。底面はほぼ平坦。埋没状況不詳。規模は長径110cm短径73cm深さ17cmである。埋没土から土師器杯が出土する。57号土坑で出土した土師器杯と時期が一致し、混入した可能性がある。時期は不明である。

59号土坑（第506図、ＰＬ.141）

位置　５Ｒ・Ｓ－15グリッド

平面形は隅丸細長方形。主軸方位はＮ－０°。壁は緩やかに立ち上がる。底面は凸凹する。埋没状況不詳。規模

は長軸235cm短軸98cm深さ10cmである。

60号土坑（第506図、ＰＬ.141）

位置　５Ｒ・Ｓ－15グリッド

平面形は隅丸細長方形。主軸方位はＮ－７°－Ｗ。壁は緩やかに立ち上がる。底面は凸凹する。埋没状況不詳。規模は長軸322cm短軸122cm深さ12cmである。

61号土坑（第506図、ＰＬ.141）

位置　５Ｒ－15グリッド

62号土坑より前出。平面形不詳。壁は緩やかに立ち上がる。底面は凸凹する。埋没状況不詳。規模は長軸87cm短軸70cm深さ25cmである。

62号土坑（第506図、ＰＬ.141）

位置　５Ｒ・Ｓ－15グリッド

61号土坑より後出。平面形は隅丸細長方形。主軸方位はＮ－７°－Ｗ。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は凸凹する。埋没土は均質で人為埋没か。規模は長軸386cm短軸148cm深さ23cmである。

63号土坑（第506・508図、ＰＬ.141・214、第220表）

位置　５Ｑ－16・17グリッド

19号溝より後出で、483・1329号ピットと重複するが新旧関係不明。平面形は整った隅丸長方形。主軸方位はＮ－86°－Ｗ。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面はほぼ平坦でやや凸凹する。埋没土は水平方向に堆積して不自然であり人為埋没か。規模は長軸278cm短軸205cm深さ45cmである。20号掘立柱建物の内部に位置し、内部施設である可能性がある。埋没土から第508図４の銅銭が出土する。出土遺物から中世に比定される。

65号土坑（第506図、ＰＬ.141）

位置　５Ｓ－19グリッド

22号溝と重複するが新旧関係不明。平面形は整った円形。形状から桶を埋設した土坑と思われる。壁は垂直に立ち上がる。底面はほぼ平坦。壁面に沿って一部溝がめぐり、桶の痕跡とみられる。埋没土は均質で人為埋没か。底面に汚れた灰褐色土が貼られる。厚さは不明。規模は長径88cm短径75cm深さ38cmである。

66号土坑（第506図、ＰＬ.141）

位置　５Ｓ－19グリッド

22号溝より後出。平面形は隅丸長方形。主軸方位はＮ－84°－Ｗ。壁は斜めに立ち上がる。底面はほぼ平坦。埋没土は均質で人為埋没か。規模は長軸202cm短軸128cm深さ55cmである。埋没土から国産焼締陶器が出土し、上限は中世に比定される。

67号土坑（第507図、ＰＬ.141）

位置　５Ｑ－19グリッド

６号井戸より後出。南端は調査区域外となるが、平面形は隅丸長方形か。主軸方位はＮ－７°－Ｅ。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は全体に平坦でやや凸凹する。埋没土はロームブロックが目立ち人為埋没か。規模は長軸334cm短軸243cm深さ73cmである。

68号土坑（第507図、ＰＬ.141）

位置　５Ｒ－20グリッド

37号溝より後出か。平面形は円形。壁は斜めに立ち上がる。底面はほぼ平坦。埋没状況不詳。規模は長径70cm短径65cm深さ17cmである。

70号土坑（第507図）

位置　５Ｑ・Ｒ－17グリッド

10号掘立柱建物Ｐキ、1330号ピットと重複するが新旧関係不明。平面形はほぼ円形。壁は斜めに立ち上がる。底面はほぼ平坦で南に傾斜する。自然埋没と思われる。規模は長径122cm短径105cm深さ41cmである。

95号土坑（第507図、ＰＬ.141）

位置　５Ｓ－18グリッド

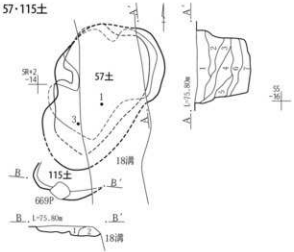
20号溝より前出で、492号ピットと重複するが新旧関係不明。平面形はほぼ円形。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は丸みがある。埋没状況不詳。規模は長径95cm短径90cm深さ30cmである。

97号土坑（第507図、ＰＬ.141）

位置　５Ｑ－18グリッド

13号掘立柱建物Ｐク、506・601・627号ピットと重複す

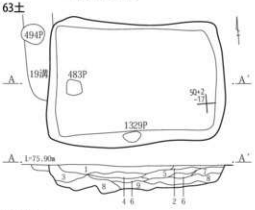
57・115土



57号土坑
1　黒褐色土　ローム粒子、軽石を含む。
2　黒褐色土　ローム粒子を少量含む。
3　黒褐色土　ローム粒子、ロームブロックを含む。
4　黒褐色土　ローム粒子を含む。
5　黒褐色土　ローム粒子を多く含む。
6　褐色土　粘土ブロックを多く含む。
7　暗褐色土　粘性強い。粘土ブロックを含む。

115号土坑
1　暗褐色土　やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、白色軽石を含む。
2　暗褐色土　やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、ローム粒子、白色軽石を含む。

63土

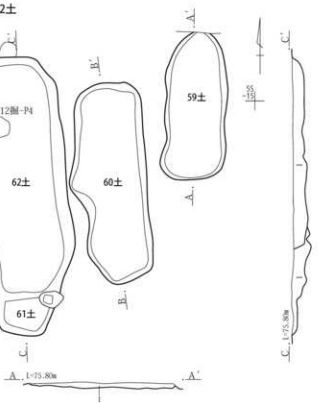


63号土坑
1　暗褐色土　ロームブロック、ローム粒子を含む。
2　暗褐色土　ローム粒子を少量含む。
3　暗褐色土　しまり弱い。ローム粒子を少量含む。
4　暗褐色土　砂粒、ローム粒子を微量含む。
5　暗褐色土　ローム粒子を多く含む。
6　暗褐色土　しまり強い。黒色土層を帯状に含む。
7　暗褐色土　ロームブロック、ローム粒子を多く含む。
8　暗褐色土　ロームブロックを多く含む。
9　暗褐色土　しまり弱い。粘性やや強い。ローム粒子を含む。

65号土坑
1　黒褐色土　粘性弱い。ローム粒子を微量含む。
2　黒褐色土　粘性あり。ローム粒子を含む。
3　黒褐色土　ロームブロックを含む。

66号土坑
1　灰色土　しまり強い。浅間Ｂ軽石を含む。
2　暗褐色土　白色軽石、ローム粒子を微量含む。
3　暗褐色土　ローム粒子を含む。
4　黒褐色土　ローム粒子を含む。
5　暗褐色土　白色軽石を微量含む。22溝フク上。
6　黒褐色土　ローム粒子を含む。22溝フク上。
7　黒褐色土　しまり弱い。ロームブロックを含む。22溝フク上。

59～62土



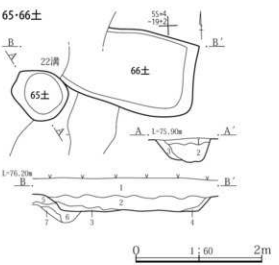
59号土坑
1　暗褐色土　軟らかくてしまり良い。粘性あり。ロームブロック、ローム粒子を含む。

60号土坑
1　暗褐色土　軟らかくてしまり良い。粘性あり。ロームブロック、ローム粒子を含む。

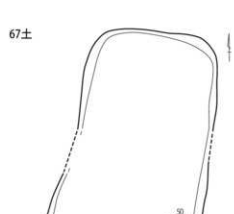
61号土坑
1　暗褐色土　軟らかくてしまり良い。粘性あり。ロームブロック、ローム粒子を含む。

62号土坑
1　暗褐色土　軟らかくてしまり良い。粘性あり。ロームブロック、ローム粒子を含む。

65・66土



第506図　３区57・59～63・65・66・115号土坑



67号土坑

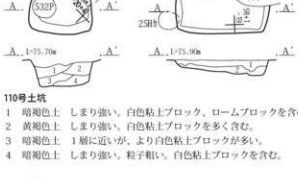
1　灰色土　しまり強い。白色軽石、浅間B軽石を含む。
2　黒褐色土　しまり弱い。
3　暗褐色土　しまり弱い。ローム粒子を微量含む。
4　暗褐色土　ロームブロック、ローム粒子を含む。人為的埋土。
5　暗褐色土　しまり弱い。ローム粒子を少量含む。

110号土坑

1　暗褐色土　しまり強い。白色粘土ブロック、ロームブロックを含む。
2　黄褐色土　しまり強い。白色粘土ブロックを多く含む。
3　暗褐色土　1層に近いが、より白色粘土ブロックが多い。
4　暗褐色土　しまり強い。粒子粗い。白色粘土ブロックを含む。

111号土坑

1　暗褐色土　やや硬くしまる。ローム粒子、炭化物粒子を少量含む。
2　暗褐色土　やや硬い。ロームブロックを含む。

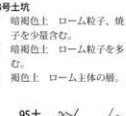


119号土坑

1　暗褐色土　やや硬くしまり粘性あり。ロームブロックを含む。
2　暗褐色土　軟らかくサラサラしている。ローム粒子を含む。
3　黄褐色土　やや硬くしまり粘性あり。ローム主体で暗褐色土を含む。
4　暗褐色土　やや硬くしまり粘性あり。ロームブロックを含む。
5　黒褐色土　やや硬くしまり粘性あり。
6　黒褐色土　軟らかく粘性非常にあり。ロームブロックを含む。

68号土坑

1　暗褐色土　ローム粒子、焼土粒子を少量含む。
2　暗褐色土　ローム粒子を多く含む。
3　褐色土　ローム主体の層。



95号土坑

1　暗褐色土　しまりやや強い。ローム粒子を含む。
2　暗褐色土　しまり強い。粘性ややあり。ローム粒子を少量含む。
3　暗褐色土　粘性あり。ロームブロック、ローム粒子を含む。

118号土坑

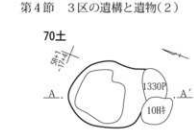
1　暗褐色土　軟らかくてしまり良い。ローム粒子を少量含む。
2　暗褐色土　軟らかく粘性あり。ロームブロックを含む。

122号土坑

1　暗褐色土　やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、黄白色粘質土ブロックを含む。

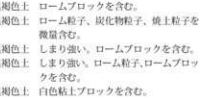
120号土坑

1　暗褐色土　やや硬くしまり粘性あり。炭化物粒子、ロームブロックを含む。
2　暗褐色土　軟らかくてしまり良い。粘性あり。



70号土坑

1　黒褐色土　ロームブロックを含む。
2　暗褐色土　ローム粒子、炭化物粒子、焼土粒子を微量含む。
3　黒褐色土　しまり強い。ロームブロックを含む。
4　黒褐色土　しまり強い。ローム粒子、ロームブロックを含む。
5　黒褐色土　白色粘土ブロックを含む。

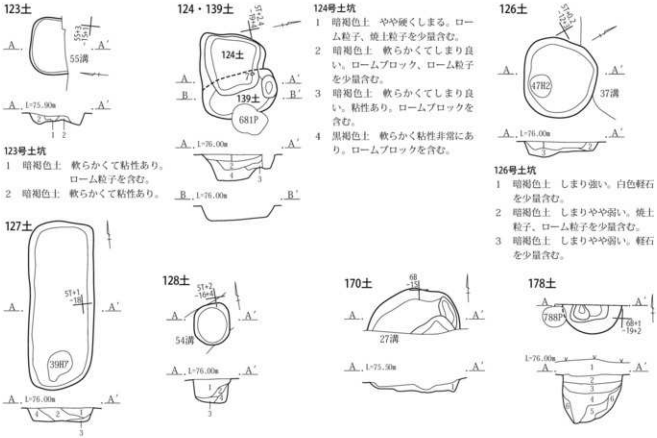


97号土坑

1　耕作土
2　暗褐色土　やや硬くしまり粘性あり。暗褐色ブロックを含む。
3　暗褐色土　軟らかくて粘性あり。ロームブロックを含む。
4　暗褐色土　軟らかくて粘性あり。茶褐色土ブロックを含む。
5　暗褐色土　軟らかくてしまり良い。茶褐色土を含む。

0　1:60　2m

第507図　3区67・68・70・95・97・110・111・118～120・122号土坑



123号土坑

1　暗褐色土　軟らかくて粘性あり。ローム粒子を含む。
2　暗褐色土　軟らかくて粘性あり。

124号土坑

1　暗褐色土　やや硬くしまる。ローム粒子、焼土粒子を少量含む。
2　暗褐色土　軟らかくてしまり良い。ームブロック、ローム粒子を少量含む。
3　暗褐色土　軟らかくてしまり良い。粘性あり。ームブロックを含む。
4　黒褐色土　軟らかく粘性非常にあり。ームブロックを含む。

126号土坑

1　暗褐色土　しまり強い。白色軽石を少量含む。
2　暗褐色土　しまりやや弱い。焼土粒子、ローム粒子を少量含む。
3　暗褐色土　しまりやや弱い。軽石を少量含む。

127号土坑

1　暗褐色土　しまり強い。軽石を少量、ローム粒子を含む。
2　暗褐色土　軽石を少量、ローム粒子、ームブロックを含む。
3　褐色土　しまり強い。ームブロックを多く含む。
4　暗褐色土　しまり強い。ローム粒子、軽石を含む。

128号土坑

1　暗褐色土　しまりやや弱い。白色軽石を微量含む。
2　暗褐色土　しまりやや弱い。
3　暗褐色土　しまりやや弱い。ローム粒子を多量に、軽石を微量含む。
4　黒褐色土　しまりやや弱い。

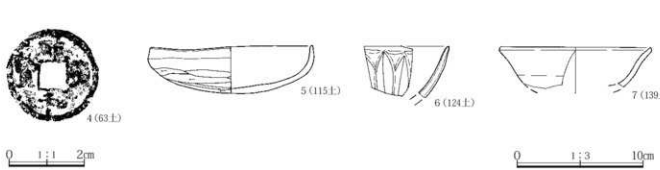
170号土坑

1　暗褐色土　やや硬くしまり粘性非常にあり。黄白色粘質土ブロックを含む。

178号土坑

1　耕作土
2　暗褐色土　やや硬くしまる。ローム粒子、白色粒子を少量含む。
3　暗褐色土　やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、白色粒子を少量含む。
4　黒褐色土　軟らかくてしまり良い。粘性あり。ームブロックを少量含む。
5　暗褐色土　軟らかく粘性非常にあり。ーム主体に暗褐色土を含む。
6　暗褐色土　軟らかくてしまり良い。粘性非常にあり。ームを含む。

0　1:60　2m



0　1:1　2cm　　0　1:3　10cm

第508図　３区 123・124・126 ～ 128・139・170・178号土坑と土坑出土遺物

るが新旧関係不明。南側は調査区域外となり平面形不詳。北壁は検出できていない。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は平坦。埋没土はロームブロックが目立ち人為埋没。規模は長軸196cm短軸139cm深さ40cmである。

110号土坑（第507図、ＰＬ.142）

位置　５Ｒ－20グリッド

532号ピット、22号溝と重複するが新旧関係不明。平面形は長方形。主軸方位はＮ－44°－Ｅ。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は平坦。埋没土はロームブロックが目立ち人為埋没か。規模は長軸102cm短軸65cm深さ37cmである。

111号土坑（第507図、ＰＬ.142）

位置　５Ｒ－19グリッド

25号掘立柱建物Ｐカ、７号井戸と重複するが新旧関係不明。平面形は長方形。主軸方位はＮ－２°－Ｅ。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面はやや凸凹する。埋没土は水平方向に堆積して不自然であり人為埋没か。規模は長軸150cm短軸68cm深さ25cmである。

118号土坑（第507図）

位置　６Ａ－18グリッド

平面形は楕円形。壁は斜めに立ち上がる。底面は丸みがある。埋没状況不詳。規模は長径66cm短径27cm深さ15cmである。

119号土坑（第507図、ＰＬ.142）

位置　５Ｓ－14・15グリッド

120号土坑、55号溝と重複するが新旧関係不明。平面形はほぼ円形。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面はほぼ平坦で中央部がわずかに丸く凹む。埋没土上位の堆積に乱れがあるが、重複する遺構は記録されていない。規模は長径158cm短径133cm深さ62cmである。

120号土坑（第507図、ＰＬ.142）

位置　５Ｓ－14グリッド

119号土坑と重複するが新旧関係不明。平面形は不整円形。壁は斜めに立ち上がる。底面はほぼ平坦。埋没状況不詳。規模は長径73cm短径52cm深さ17cmである。

122号土坑（第507図、ＰＬ.142）

位置　５Ｔ－16グリッド

９号井戸、43号溝と重複するが新旧関係不明。平面形不詳。壁は緩やかに立ち上がる。底面は凸凹する。埋没状況不詳。規模は長径78cm短径47cm深さ12cmである。

123号土坑（第508図、ＰＬ.142）

位置　５Ｓ－15グリッド

55号溝より前出。平面形不詳。壁は斜めに立ち上がる。底面は凸凹する。埋没状況不詳。規模は長軸92cm短軸86cm深さ16cmである。

124号土坑（第508図、ＰＬ.142・214、第219表）

位置　５Ｔ－19グリッド

139号土坑と重複するが新旧関係不明。平面形は不整方形。壁は斜めに立ち上がる。底面はほぼ平坦。自然埋没か。規模は長軸135cm短軸103cm深さ43cmである。埋没土から第508図６の青磁碗が出土する。出土遺物から中世に比定される。

126号土坑（第508図、ＰＬ.142）

位置　５Ｓ・Ｔ－17グリッド

47号掘立柱建物Ｐ２、37号溝と重複するが新旧関係不明。平面形は楕円形。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は凸凹する。埋没状況不詳。規模は長径126cm短径115cm深さ23cmである。

127号土坑（第508図、ＰＬ.142）

位置　５Ｓ・Ｔ－17・18グリッド

37号溝より後出か。39号掘立柱建物Ｐアと重複するが新旧関係不明。平面形は隅丸細長方形。主軸方位はＮ－５°－Ｅ。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面はほぼ平坦。西方向から人為的に埋められる。規模は長軸268cm短軸102cm深さ21cmである。

128号土坑（第508図）

位置　５Ｔ－16グリッド

54号溝と重複するが新旧関係不明。平面形は楕円形。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面はほぼ平坦。埋没土上位は均質で人為埋没か。規模は長径68cm短径63cm深さ37cmである。埋没土から国産磁器が出土し、近世に比定される。

第219表　３区土坑出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値						胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第508図 PL.214	1	土師器 杯	57上 4/5	口	13.5	高	3.5			粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部はナデ。底部は手持ちヘラ削り。型肌の痕跡を残す。内面はナデ。	
第508図	2	土師器 杯	57上 1/4	口	14.0					粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。体部にナデの部分を残す。内面はナデ。	
第508図	3	土師器 杯	57上 1/4	口	13.0					粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。体部にナデの部分を残す。内面はナデ。	
第508図 PL.214	4	銅製品 銅銭	63上 ほぼ完形	長幅	24.5 24.5	厚重	1.28- 1.55 1.80				政和通宝か、劣化が著しく細かく破損し文字は不明瞭。	
第508図 PL.214	5	土師器 杯	115上 4/5	口	12.8	高	3.7			粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部はヘラ削り。間にナデの部分を残す。内面はナデ。	外面底部、炭素吸着・黒斑状。
第508図 PL.214	6	龍泉窯系 青磁碗	124上 1/12							//灰白	体部から口縁部は内湾。素地に比して釉厚い。外面の鎬蓮弁幅は狭い。	碗Ⅲ-2c類。13世紀中~14世紀前後。
第508図 PL.214	7	中国白磁 皿	139上 1/5							//白	口縁部は外反。口縁部内面と端部外面の釉を削り取る。口禿の白磁皿。内面は底部の一部が残る。高さは３cm程度か。	皿Ⅸ-1c類。13世紀後半~14世紀前半。

139号土坑(第508図、ＰＬ.142・214、第219表)

位置　５Ｔ－19グリッド

124号土坑、681号ピットと重複するが新旧関係不明。平面形は楕円形。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は凸凹する。埋没状況不詳。規模は長径118cm短径78cm深さ24cmである。北壁近くから第508図７の白磁皿が出土する。出土遺物から中世に比定される。

170号土坑(第508図、ＰＬ.142)

位置　６Ａ・Ｂ－14・15グリッド

27号溝と重複するが新旧関係不明。南半部は重複して不明となり、平面形不詳。壁は緩やかに立ち上がる。底面は凸凹する。埋没状況不詳。規模は長径147cm短径73cm深さ15cmである。

178号土坑(第508図、ＰＬ.143)

位置　６Ｂ－19グリッド

788号ピットと重複するが新旧関係不明。北半部は調査区域外となるが、平面形は円形か。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は丸みがある。自然埋没か。規模は長径93cm短径46cm深さ77cmである。

(４)井戸

１号屋敷内では井戸８基が検出された。南東部を除き全体的に分布する。５号井戸は浅いが西側区画溝である27号溝西肩部に設けられる。７号井戸は石組みである。

３号井戸(第509図、ＰＬ.143)

位置　５Ｓ－17グリッド

重複　39号掘立柱建物Ｐオ、６号竪穴状遺構と重複するが新旧関係不明。

確認面形状と規模　不整円形。長径1.64m短径1.50m

断面形　上位に向かって開く円筒形。

深さ　1.28m以上

埋没状況　中位までは人為埋没であろう。

出土遺物　遺物は出土していない。

時期　出土遺物はなく、時期は比定できない。

４号井戸(第509図、ＰＬ.143)

位置　５Ｒ－19グリッド

重複　４号竪穴状遺構より後出。

確認面形状と規模　円形で確認面から40cmにえぐれが見られる。長径1.20m短径1.01m

断面形　円筒形。

深さ　0.93m

埋没状況　粘質土と砂質土により交互に人為埋没する。

出土遺物　埋没土から中世の在地系土器(非掲載)が出土する。

時期　出土遺物から中世に比定される。

５号井戸(第509・510図、ＰＬ.143、第221表)

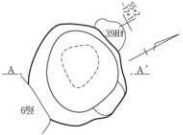
位置　15Ｒ－１グリッド

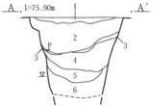
重複　27号溝と重複するが新旧関係は確認できない。並存した可能性が高い。

確認面形状と規模　円形。東側が浅く円形に張り出すが、崩落とも思われる。長径1.57m短径1.04m

断面形　円筒形。　**深さ**　1.08m

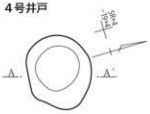
３号井戸





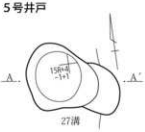
３号井戸
1　暗褐色土　軽石少量、ローム粒子微量に含む。
2　黒褐色土　ローム粒子微量に含む。
3　黒褐色土　ローム粒子多量に含む。
4　黒褐色土　やや粘性強い。ローム粒子含む。
5　黒褐色土　しまり弱い。
6　黒褐色土　ロームブロック・ローム粒子多量に含む。

４号井戸



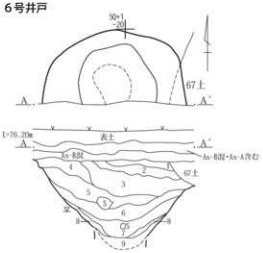
４号井戸
1　黒褐色土　粘性弱い。ローム粒子少量に含む。
2　黒褐色土　ロームブロック・ローム粒子含む。
3　暗褐色土　ロームブロック・ローム粒子・砂粒含む。
4　暗灰褐色粘質土
5　黒褐色砂質土
6　黒褐色粘質土　砂含む。
7　黒褐色粘質土
8　暗褐色砂質土
9　黒褐色土　粘性弱い。
10　黒褐色粘質土　ロームブロック含む。

５号井戸



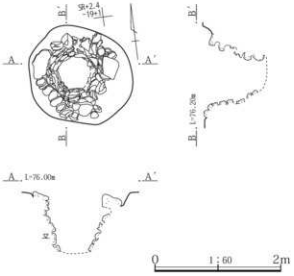
５号井戸
1　黒褐色土　しまり弱い。ローム粒子含む。
2　黒褐色土　ローム粒子多量に含む。
3　暗褐色土　白色粘土含む。
4　暗褐色土　ロームブロック・白色粘土ブロック含む。
5　黒褐色土　しまり弱い。

６号井戸



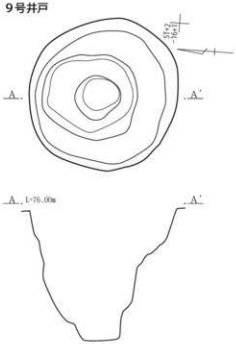
６号井戸
1　暗褐色土　ローム粒子微量に含む。
2　暗褐色土　ローム粒子含む。
3　暗褐色土　ロームブロック・ローム粒子含む。
4　暗褐色土　しまり弱い。
5　暗褐色土　ややしまり弱くやや粘性強い。
6　暗褐色土　ややしまり強い。ロームブロック少量に含む。
7　黒褐色土　粘性強い。ローム粒子少量に含む。
8　暗褐色土　粘性強い。ロームブロック多量に含む。
9　黒褐色土　粘性強い。

７号井戸



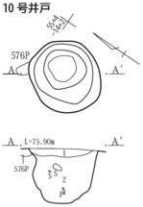
第509図　３区３～７号井戸と６号井戸出土遺物

９号井戸

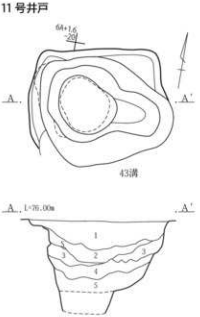


10号井戸
1　暗褐色土　さらさらする。浅間Ｂ軽石・炭化物粒子含む。
2　暗褐色土　しまりなく粘性あり。浅間Ｂ軽石・ロームブロック・炭化物粒子含む。

10 号井戸

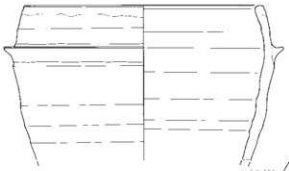


11 号井戸

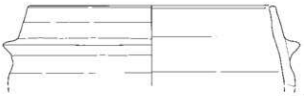


11号井戸
1　暗褐色土　ややしまり弱い。小礫少量、浅間Ｂ軽石・白色軽石含む。
2　暗褐色土　ややしまり弱い。浅間Ｂ軽石微量に含む。
3　暗褐色土　ややしまり弱い。ローム粒子含む。
4　黒褐色土　ややしまり弱く粘性強い。
5　黒褐色粘質土

0　1:60　2m



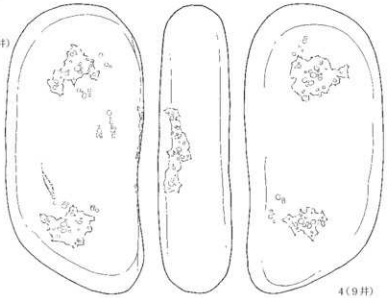
1（5井）



2（5井）

3（9井）

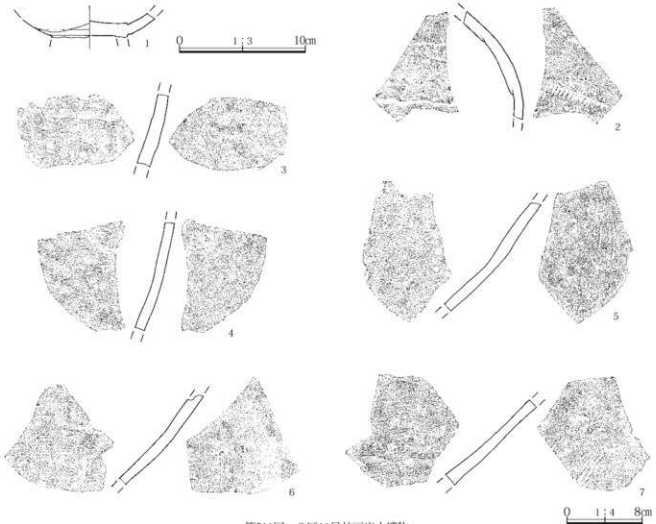
0　1:4　8cm



4（9井）

0　1:3　10cm

第510図　３区９～11号井戸と５・９号井戸出土遺物



第511図　３区11号井戸出土遺物

第220表　３区11号井戸出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第511図 PL.215	1	中国白磁 碗	底部～体部下位 1/4					//灰白	高台欠損。体部と高台部境の一部に無釉部分あり。高台内無釉。内面底部周縁は篦状工具で体部側から削り込み、沈線状の段を有する。残存部無文。	白磁碗V類か。11世紀後半～12世紀後半か。
第511図	2	瀬戸陶器 瓶	肩部片					//灰	内面器表は褐灰色。内面に紐作り痕跡が残る。外面に明き目。外面には自然釉がかかる。	12世紀～13世紀前半。
第511図	3	常滑陶器 甕	体部片					//浅黄橙	外面は板状工具による縦位撫で。内面横位の撫で。	中世。
第511図	4	常滑陶器 甕	体部片					//淡黄	外面は板状工具による斜位撫で。焼き締まり弱い。	中世。121・171上、11井、Z7～S2溝出土片と同一個体の可能性高い。
第511図	5	常滑陶器 甕	体部下位片					//淡黄	外面は板状工具による縦位撫で。焼き締まり弱い。	中世。121・171上、11井、Z7～S2溝出土片と同一個体の可能性高い。
第511図	6	常滑陶器 甕	体部下位片					//淡黄	外面は板状工具による縦位撫で。焼き締まり弱い。	中世。121・171上、11井、Z7～S2溝出土片と同一個体の可能性高い。
第511図	7	常滑陶器 甕	体部片					//淡黄	外面の器表はにぶい赤褐色。焼き締まり弱い。	中世。121・171上、11井、Z7～S2溝出土片と同一個体の可能性高い。

埋没状況　自然埋没か。

出土遺物　埋没土から須恵器が出土するが混入したものとみられる。

時期　27号溝と同様に中世と思われる。

６号井戸(第509図、ＰＬ.143、第221表)

位置　５Ｑ－19・20グリッド

重複　67号土坑より前出で、27号掘立柱建物と重複するが、柱穴との重複はない。

確認面形状と規模　南半部は調査区域外となるが円形か。長径2.29m短径1.19m以上

断面形　すり鉢状か漏斗状。

深さ　1.74m以上

埋没状況　土層観察面が中心を外れて詳細は不明確であるが、徐々に埋まっており、自然埋没か人為埋没か判断できない。

出土遺物　埋没土から第509図１の渥美窯系陶器甕が出土する。

時期　出土遺物を考慮して中世に比定される。

７号井戸(第509図、ＰＬ.143)

位置　５Ｒ－19グリッド

重複　111号土坑と重複するが新旧関係不明。25号掘立柱建物と重複するが、柱穴との重複はない。

井戸側形状と規模　石組み井戸であり、井戸側は石組みでほぼ円形に作る。長径1.70m短径1.50m

掘り方形状と規模　円形。長径0.55m短径0.52m

断面形　すり鉢状に近い。石組みの大きさは上面でやや大きいが、下位は小さく裏込めは確認されていない。

深さ　1.21m以上

埋没状況　埋没状況不詳。

出土遺物　遺物は出土していない。

時期　出土遺物はなく、時期は比定できない。

９号井戸(第510図、ＰＬ.143・215、第221表)

位置　５Ｔ－16グリッド

重複　122号土坑、43・44号溝と重複するが新旧関係不明。

確認面形状と規模　円形。長径2.42m短径2.35m

底面形状と規模　隅丸方形。長径0.58m短径0.50m

断面形　すり鉢状。底面近くは筒状。

深さ　2.16m　　**埋没状況**　埋没状況不詳。

出土遺物　埋没土から第510図３の在地系土器内耳鍋が出土する。

時期　出土遺物から15世紀中頃を上限とすると考えられる。

10号井戸(第510図、ＰＬ.143)

位置　５Ｓ－14グリッド

重複　55号溝と重複するが新旧関係不明。

確認面形状と規模　円形。長径1.19m短径1.05m

底面形状と規模　円形。長径0.41m短径0.40m

断面形　円筒形

深さ　0.91m

埋没状況　浅間Ｂ軽石を含む。埋没土は均質で人為埋没と思われる。

出土遺物　遺物は出土していない。

時期　出土遺物はないが、埋没土から中世以降に埋没する。

11号井戸(第510・511図、ＰＬ.144、第220表)

位置　６Ａ－19・20グリッド

重複　43号溝と重複するが新旧関係不明。

確認面形状と規模　方形。中位から円形となる。長径2.28m短径1.84m

断面形　上位の開く円筒形

深さ　1.53m以上

埋没状況　浅間Ｂ軽石を含む。人為埋没を想定するが証左に欠ける。

出土遺物　埋没土から第511図１の白磁碗、同２～６の焼締陶器甕が出土する。

時期　出土遺物から中世に比定される。

第221表　３区井戸出土遺物

掲載図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第509図	1	渥美陶器 甕	6井戸 体部片					//灰	外面に叩き目。外面に釉が１条流れる。	12世紀～13世紀前半。
第510図	1	須恵器 羽釜	5井戸 口縁～胴部中位片	口	18.6			輝石あるいは角閃石/還元焔・軟質/灰白	ロクロ整形。内外面とも横ナデ成形後、断面三角形の鍔貼付。	外面口縁部に煤付着。
第510図	2	須恵器 羽釜	5井戸 口縁片	口	19.2			粗砂粒/酸化焔/にぶい黄褐	ロクロ整形。内外面とも横ナデ成形後、断面三角形の鍔貼付。	内外面とも炭素吸着。
第510図	3	在地系土器 内耳鍋	9井戸 口縁部片					B//灰	外面器表は煤の付着により黒色。器壁はやや厚い。口縁部はやや短く内面の段差はにぶい。口縁端部内面は炭る。	14世紀後半～15世紀中頃。
第510図 PL.215	4	礫石器 敲石	9井戸	長幅	22.8 11.0	厚重	5.8 2551.4	粗粒輝石安山岩	表裏面とも小口部に近い河床礫平坦面を微しく敲打する。被熱して黒く煤ける。	

（５）ピット（第512～522図、ＰＬ.144･215、第222･223表）

３区ではピットが1330基検出され、うち457基が１号屋敷内にある。このうち94基は掘立柱建物の柱穴となるため、それらを除く363基をここでは扱う。

ピットの分布は掘立柱建物の分布とほぼ一致しており、本来掘立柱建物の柱穴であった可能性が高い。このため、掘立柱建物の認定が進んだ部分では、分布密度が粗くなっている。逆にピットの密な部分は、掘立柱建物の認定が進められなかったとも言える。

具体的に見ると、１号屋敷中央南半部から西半部にわたる範囲では、掘立柱建物が集中するため、抽出されるピットの分布は散漫である。東西・南北方向に直線的に３基程度が並ぶものも見られるが、建物として認定するには至っていない。この要因として、竪穴状遺構や大型の土坑、溝がやや多く分布することが挙げられ、失われたピットが相当数見込まれるからである。

中央部北半部および東端部は、ピットが集中する。この部分は掘立柱建物が少ないことから、本来建物が数棟復元できた部分と考えられる。その妨げとなった要因として、１号屋敷の区画変化が挙げられる。東辺では16号溝と18号溝の切り替わり、北・西辺では27号溝と29・52号溝の切り替わりが想定され、これと重複したり挟まれた範囲は、柱穴が欠損したため、建物が認定できなかったことも推測される。

特徴的なピットとして、498号ピットの長径は87cmと東西に長く、西から掘り込まれ埋まる。柱痕は残っていないが、東端が柱部分と考えられるため、柱が抜き取られた可能性が高い。中央北端部に位置する702･709号ピットは長径60・49cmと大きく、深さも92・69cmと近似するピットである。後者の断面はオーバーハングし、埋没土上位に焼土・灰が見られる。すぐ近くに竪穴住居はないため、そこから混入した可能性はやや低い。底面で土師器・須恵器片が出土したが、時期は不明である。一方、702号ピットの埋没土上位には浅間Ｂ軽石が含まれることから、中世以降となるため、709号ピットの構築時期を判断する参考となる。

第222表　３区屋敷内ピット計測値

ピット№	グリッド	長径	短径	深さ
399	5R-18	47	35	20
403	5R-17	27	25	16
404	5R-18	23	20	30
407	5Q-13	24	(22)	11
408	5Q-13	31	(27)	11
409	5P-13	21	15	15
411	5Q-12	40	30	58
412	5Q-13	30	22	23
413	5Q-12	25	23	45
414	5Q-12	35	22	26
416	5Q-12	25	23	15
418	5Q-13	34	30	41
419	5Q-13	29	23	19
421	5Q-12	20	19	17
422	5Q-12	30	25	13
423	5Q-13	24	18	8
424	5R-13	26	18	16
425	5R-12	37	20	20
426	5P-16	40	38	36
428	5P-17	50	41	24
429	5R-17	47	40	46
430	5P-15	45	(36)	25
431	5Q-15	(29)	28	18
432	5Q-15	25	16	32
433	5Q-14	36	31	26
435	5R-14	30	20	20
436	5R-14	35	28	21
437	5S-13	42	27	10
438	5R-13	26	25	12
439	5R-12	26	22	13
440	5R-12	25	21	22
441	5Q-13	25	20	18
442	5R-12	27	25	20
443	5R-12	37	32	27
444	5R-13	45	35	11
445	5R-13	25	19	29
446	5R-13	32	27	14
447	5R-13	39	32	24
448	5R-13	32	24	28
460	5Q-14	34	31	12
461	5Q-16	58	(51)	34
462	5S-20	31	27	16
463	5S-20	25	22	16
465	5S-20	27	24	19
466	5S-20	30	28	26
469	5R-14	27	22	29
473	5R-16	(32)	26	6
478	5Q-16	43	28	28
479	5Q-16	25	18	12
481	5Q-17	30	26	13
485	5Q-17	33	(22)	19
487	5R-17	31	(23)	10

ピットNo.	グリッド	長径	短径	深さ
488	5R-17	26	(15)	21
493	5S-18	29	27	19
495	5S-18	20	19	16
496	5S-18	26	18	13
497	5S-18	19	13	39
498	5S-18	87	34	37
500	5R-18	26	22	17
501	5Q-18	(27)	23	18
502	5Q-18	25	19	18
503	5Q-18	28	18	11
504	5Q-18	42	34	12
505	5Q-18	35	32	26
506	5Q-18	27	23	23
508	5Q-18	27	17	25
509	5R-18	27	16	21
510	5R-19	25	22	19
511	5R-18	40	31	17
512	5Q-18	33	30	41
513	5Q-18	22	18	15
514	5Q-19	45	34	21
516	5Q-19	50	30	18
517	5P-20	30	24	10
518	15Q-1	49	38	10
519	15Q-1	45	45	21
520	5Q-20	60	30	12
521	5Q-20	(40)	35	8
523	15Q-1	64	50	15
524	5Q-20	48	41	16
525	5Q-20	31	24	11
526	5Q-20	27	26	15
527	5R-19	25	23	20
530	5R-19	29	25	19
531	5R-20	36	33	16
532	5Q-20	35	35	20
533	15R-1	29	22	10
534	15R-2	43	33	17
535	5R-20	37	37	13
536	15S-1	32	27	14
537	5S-20	46	36	27
538	5S-20	31	24	37
539	5Q-19	31	26	41
540	5Q-19	43	(28)	18
557	5T-12	35	22	9
558	5T-13	34	24	41
559	5T-13	27	22	49
560	6A-13	30	21	27
561	6A-13	29	24	15
562	6A-13	28	23	11
563	6A-13	36	35	30
564	5T-13	32	30	44
565	5T-13	28	27	37
566	5T-13	33	32	43

ピットNo.	グリッド	長径	短径	深さ
567	5T-13	29	21	26
568	5T-13	22	22	18
569	5T-14	32	27	25
570	5T-14	29	22	30
571	5T-14	25	20	14
572	5T-14	30	20	16
573	5T-14	25	22	23
574	5T-14	26	25	34
575	5T-14	45	32	33
576	5S-14	(23)	17	12
577	5S-15	41	31	14
578	5S-15	32	28	24
579	5T-15	30	30	38
580	5S-15	41	35	33
581	5T-15	23	21	8
583	6A-17	55	50	45
584	5T-18	30	30	16
586	5T-15	33	25	16
587	6A-16	27	25	35
588	6A-16	31	24	30
595	5R-16	40	35	28
598	5P-17	(30)	22	19
599	5Q-18	26	26	18
600	5Q-18	21	15	13
601	5P-18	(30)	(28)	12
602	5S-18	28	20	16
605	5Q-17	19	16	12
606	5S-19	35	26	17
607	5Q-16	33	30	33
610	5S-17	(46)	20	17
612	5R-19	33	32	14
613	5Q-20	59	40	38
626	5P-18	(49)	48	39
627	5P-18	28	(14)	7
629	5R-16	19	19	29
631	5Q-18	35	(27)	13
632	5R-16	27	22	11
633	5S-20	33	32	20
634	5S-17	53	38	51
635	5R-17	65	(42)	56
639	5Q-20	20	17	27
640	5Q-20	23	16	30
641	15Q-1	45	36	28
643	5P-17	(35)	34	31
644	5P-17	(30)	(15)	24
645	5Q-20	46	30	15
668	5S-17	58	(26)	36
669	5R-13	25	24	34
670	6A-15	31	25	18
671	5S-16	23	23	18
672	5S-16	19	19	12
673	5S-16	20	18	17

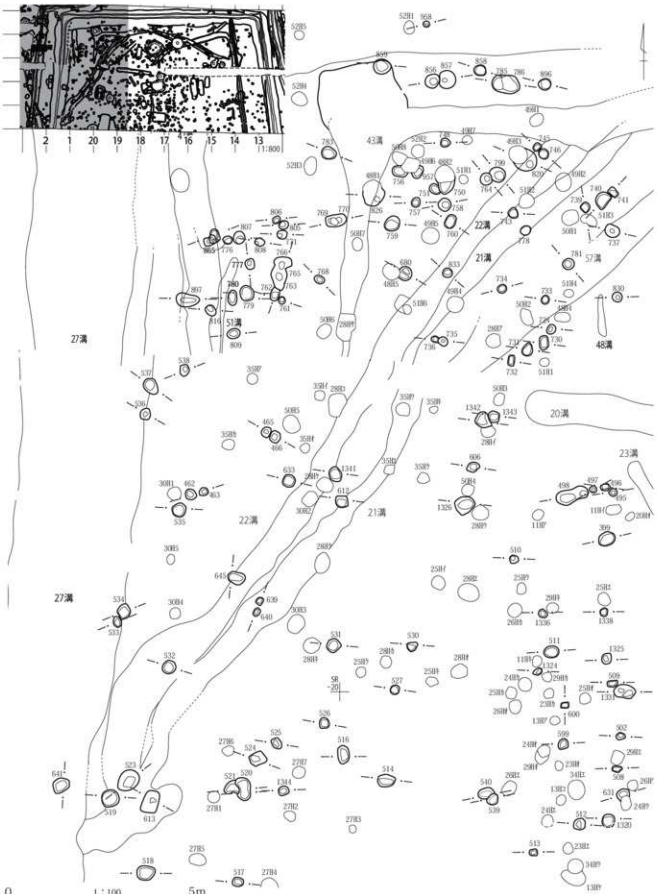
ピットNo.	グリッド	長径	短径	深さ
674	5S-16	43	29	31
675	5T-15	28	26	11
676	5T-15	28	19	5
677	5T-16	38	28	40
678	5S-16	36	29	58
679	5T-15	41	27	28
680	5T-19	37	35	7
682	5T-15	48	16	20
683	5S-16	21	16	24
684	5S-15	21	17	31
685	5S-15	(37)	28	43
686	5S-16	19	19	15
687	5S-17	22	20	19
688	5S-17	36	24	23
689	5S-16	34	30	9
690	5S-16	40	29	43
691	5S-16	25	23	23
692	5T-16	35	33	36
693	5T-16	57	(28)	30
694	5T-16	58	(40)	41
695	5T-16	50	39	37
696	5T-16	28	25	19
697	5T-15	42	30	31
698	5T-16	30	20	26
699	6A-16	24	24	19
700	6A-16	27	27	12
701	6A-17	50	40	18
702	6A-16	60	45	92
703	6A-16	17	14	14
704	6A-16	20	19	11
705	6A-16	44	38	24
706	6A-17	22	20	16
707	6A-17	25	22	11
708	6A-17	28	27	21
709	5T-16	49	45	69
710	5T-17	26	22	17
711	5T-17	22	20	33
712	5T-17	27	25	53
714	5T-17	32	25	25
715	5T-17	29	22	12
716	5T-17	30	27	17
717	5T-17	40	32	17
718	5T-18	33	31	10
720	5T-18	80	60	6
721	5T-18	24	23	13
722	5T-18	30	22	38
724	5S-18	26	22	11
726	5S-17	38	33	10
727	5S-17	26	23	19
728	5S-17	30	27	30
730	5S-18	37	24	11
731	5S-18	36	27	25

ピットNo.	グリッド	長径	短径	深さ
732	5S-19	28	17	13
733	5T-18	23	21	10
734	5T-19	25	22	12
735	5S-19	27	22	26
736	5S-19	(22)	17	10
737	5T-18	40	31	29
739	5T-18	28	26	13
740	5T-18	43	34	14
741	5T-18	27	19	17
743	5T-19	28	25	25
745	5T-18	23	17	5
746	5T-18	29	25	18
748	5T-19	25	23	17
750	5T-19	45	(40)	31
751	5T-19	32	24	8
753	5S-16	24	23	35
756	5T-19	42	29	38
757	5T-19	26	23	15
758	5T-19	33	33	18
759	5T-19	43	37	45
760	5T-19	37	27	29
761	5T-20	20	18	28
762	5T-20	37	23	34
763	5T-20	(26)	25	23
764	5T-19	32	30	19
765	5T-20	(47)	42	33
766	5T-20	48	(45)	36
768	5T-20	27	21	13
769	5T-20	－	29	24
770	5T-20	－	30	13
771	5T-20	26	23	30
776	5T-20	24	21	23
777	5T-20	28	25	14
778	5T-18	29	23	32
779	5T-20	41	36	29
780	5T-20	41	24	13
781	5T-18	30	28	29
783	5T-20	40	33	33
785	6A-19	45	(27)	48
786	6A-19	(54)	49	49
789	5S-16	43	34	27
790	5T-16	37	29	6
791	5T-16	24	(19)	4
792	5T-16	30	30	53
794	5S-17	35	27	32
795	5T-17	38	34	35
797	5T-15	44	42	33
798	5S-17	35	31	23
799	5T-19	43	38	18
801	5T-18	37	35	18
803	6A-17	55	(38)	41
805	5T-20	26	22	32

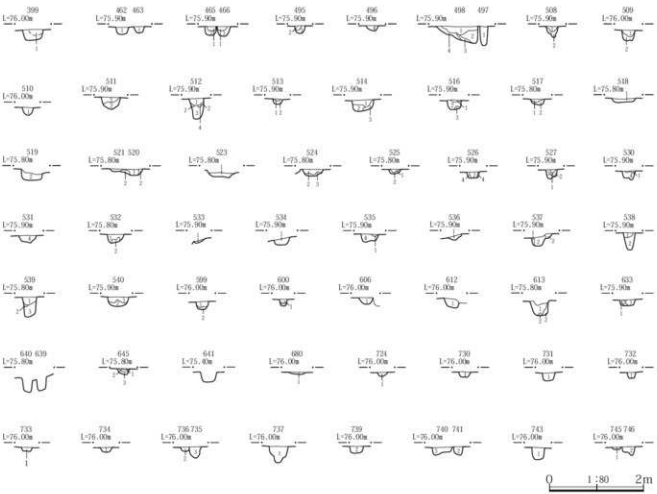
ピットNo.	グリッド	長径	短径	深さ
806	5T-20	22	18	6
807	5T-20	33	30	11
808	5T-20	26	20	14
809	5S-20	35	26	8
810	5T-17	26	22	7
811	5T-18	30	30	18
814	5S-17	32	30	13
815	6A-15	30	26	25
816	5S-20	30	24	32
820	5T-18	(55)	55	50
826	5T-19	58	(38)	36
830	5T-18	26	26	24
831	5T-18	24	24	30
833	5T-19	26	25	14
835	5S-17	30	27	22
851	6A-17	45	27	15
852	6A-17	26	24	15
853	6A-17	29	26	11
854	5T-16	31	25	17
855	5T-16	25	22	26
856	6A-19	40	36	36
857	6A-19	48	42	46
858	6A-19	34	29	27
859	6A-19	47	40	25
860	5T-16	40	35	42
861	5T-16	26	22	18
862	5T-15	(35)	31	22
863	6A-15	20	17	38
864	6A-15	28	21	33
865	5T-20	72	70	58
869	5T-12	41	30	21
870	5T-12	39	30	26
877	6A-17	19	18	20
878	5T-16	30	28	12
888	5S-17	27	26	35
889	5S-17	34	25	23
890	5T-17	21	12	21
896	6A-18	32	31	13
897	5T-20	62	37	15
956	5T-14	28	23	18
957	5T-19	36	(23)	24
958	6A-19	18	16	14
960	6A-14	42	37	23
1288	5P-15	27	(18)	19
1289	5P-15	36	29	23
1290	5Q-15	36	30	23
1291	5Q-16	31	27	20
1292	5Q-16	32	31	35
1293	5Q-16	38	38	30
1294	5Q-16	25	23	30
1295	5Q-16	42	35	15
1296	5Q-16	24	23	12

ピットNo.	グリッド	長径	短径	深さ
1297	5Q-16	31	27	17
1298	5R-16	36	25	18
1299	5Q-16	(30)	18	10
1300	5Q-16	39	29	34
1301	5R-16	24	24	19
1302	5R-16	26	23	21
1303	5R-16	26	24	22
1304	5R-16	27	23	26
1305	5R-16	21	17	45
1306	5R-16	25	23	26
1307	5R-16	30	28	15
1308	5R-16	27	20	28
1309	5R-16	40	36	27
1310	5S-16	30	26	23
1311	5S-16	30	20	12
1312	5S-16	(55)	40	14
1313	5S-16	46	(39)	12
1314	5S-16	30	22	11
1315	5Q-17	24	24	11
1316	5P-17	28	24	14
1317	5Q-16	25	19	17
1318	5P-18	25	22	7
1319	5Q-18	40	33	11
1320	5Q-18	34	33	15
1321	5Q-17	38	32	15
1322	5Q-18	77	65	55
1323	5R-18	50	47	50
1324	5R-18	27	17	15
1325	5R-18	27	26	21
1326	5R-19	54	50	24
1327	5P-17	24	(13)	22
1328	5R-16	30	30	24
1329	5Q-17	29	16	26
1330	5Q-17	(50)	37	28
1331	5Q-18	57	35	28
1332	5R-18	(37)	32	27
1333	5Q-17	86	70	34
1334	5R-17	27	23	40
1335	5R-17	24	20	22
1336	5R-18	25	21	16
1337	5R-17	119	112	91
1338	5R-18	23	20	13
1339	5Q-16	36	30	35
1340	5Q-15	27	22	5
1341	5S-19	40	33	32
1342	5S-19	46	35	26
1343	5S-19	39	30	8
1344	5Q-20	28	23	5
1345	5S-17	30	25	14
1346	5T-18	23	15	7
1347	5S-17	25	20	11

３区屋敷内ピット１

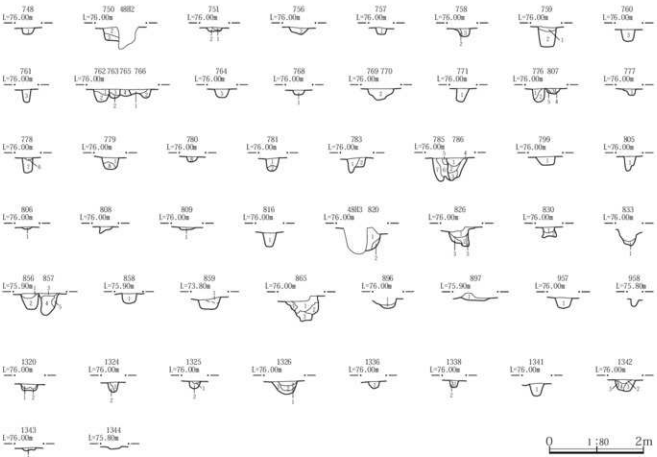


第512図　３区屋敷内ピット（１）



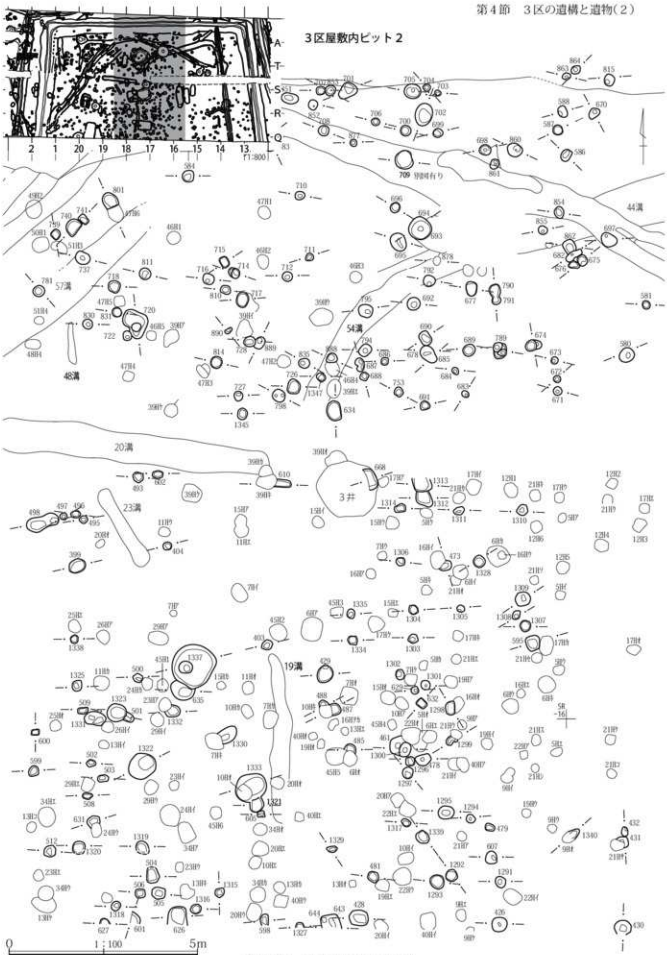
399ピ：1黒褐 ローム粒
462・463・465・466ピ：1黒褐 白軽石．2暗褐 ローム粒・軽石．3暗褐 ローム粒微
495・496ピ：1暗褐 ローム塊．少．2暗褐 ローム粒．3褐．4暗褐 褐
497・498ピ：1暗褐 ローム粒少．2暗褐 褐．3暗褐 黄白塊．4褐
508ピ：1暗褐 ローム粒．2褐色
509・511ピ：1暗褐 ローム粒．2褐色．3暗褐 褐塊・炭粒
510ピ：1暗褐 褐塊
512ピ：1暗褐 褐塊．2褐．3黒褐 ローム塊．4黄褐
513ピ：1暗褐 ローム粒少．2褐
514ピ：1暗褐 ローム粒少．2暗褐 ローム塊・粒．3黒褐 褐
516ピ：1黒褐 ローム粒少．2暗褐 ローム粒少．3褐
517ピ：1暗褐 ローム粒．2褐 ローム塊・粒
518・519ピ：1暗褐 ローム粒．2黒褐 黄白色塊少
520・521ピ：1暗褐 ローム粒少．2褐色 ローム塊
523ピ：1暗褐 ローム塊・粒
524～526ピ：1暗褐 ローム粒少．2暗褐 ローム塊．3褐．4褐 暗褐
527・530・531・535ピ：1黒褐 ローム粒微．2暗褐 ローム粒微．3暗褐 ローム塊多．4暗褐 ローム粒
532ピ：1暗褐 ローム粒少．2暗褐 黄白塊
533ピ：1黒褐 ローム粒微
534ピ：1暗褐 ローム粒
536ピ：1暗褐 ローム粒微
537ピ：1黒褐 ローム粒．2黒褐 ローム粒微
538ピ：1暗褐 ローム粒．2黒褐 ローム粒微
539ピ：1暗褐 褐塊．2褐 暗褐塊．3黒褐 ローム塊
540ピ：1暗褐 ローム粒少．2褐
599・600ピ：1暗褐 ローム粒少．2暗褐
606・612ピ：1暗褐 ローム塊・粒
613ピ：1黒褐 ローム粒．2黄白
633ピ：1暗褐 ローム粒．2暗褐 ローム粒多
645ピ：1褐．2暗褐 黒褐塊．3暗褐 ローム粒
680ピ：1黒褐 B軽石
724ピ：1暗褐 褐塊
730ピ：1暗褐
731・732・735・736ピ：1暗褐．2黒褐 B軽石．3暗褐 B軽石
733ピ
Ⅰ 黒褐色土主体　浅間B軽石混上。白色軽石粒を少量含む。
734・743ピ：1黒褐 B軽石
737・739～741ピ：1黒褐 ローム粒・炭粒少．2暗褐 B軽石．3暗褐 軽石微
745・746ピ：1暗褐．2黒褐 B軽石

第513図　3区屋敷内ピット(1)断面図(1)

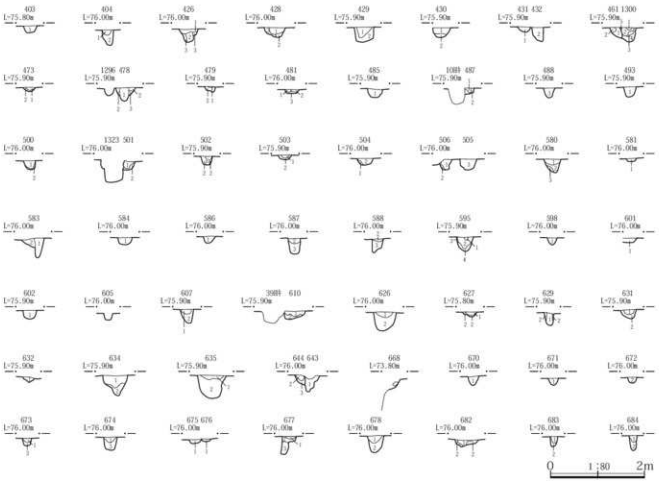


748･750ピ：１暗褐．２暗褐 軽石少．３暗褐 ローム粒少
751･756ピ：１黒褐．２黒褐 Ｂ軽石・ローム粒
757･758･760ピ：１黒褐 焼土粒微．Ｂ軽石．２暗褐．３暗褐 Ｂ軽石
759･761ピ：１暗褐 ローム粒少．２黒褐 ローム塊・粒少．３暗褐 ローム粒
762～766ピ：１黒褐 白軽石微・Ｂ軽石．２暗褐 Ｂ軽石．３暗褐 Ｂ軽石．４黒褐 Ｂ軽石．５暗褐
768～771ピ：１黒褐 Ｂ軽石．２暗褐 Ｂ軽石
776～780･807ピ：１黒褐 Ｂ軽石．２暗褐 Ｂ軽石．３暗褐 軽石．４黒褐．５暗褐．６暗褐 Ｂ軽石少．７暗褐 焼土粒・ローム粒少．８暗褐 ローム粒
781ピ：１黒褐 Ｂ軽石・焼土粒．２暗褐 焼土粒・炭粒・ローム粒多
783ピ：１暗褐 Ｂ軽石．２暗褐 Ｂ軽石・ローム粒
785･786ピ：１黒褐 ローム粒・Ｂ軽石．２黒褐 Ｂ軽石．３黒褐 ローム粒やや多．４黒褐 ローム塊・粒・Ｂ軽石．５暗褐 ローム塊．６暗褐 ローム粒．７暗褐 ローム粒少
799ピ：１暗褐 ローム粒
805･806ピ：１暗褐 Ｂ軽石
808ピ：１黒褐
809ピ：１黒褐 Ｂ軽石
816ピ：１暗褐 Ｂ軽石・ローム塊
820ピ：１黒褐 Ｂ軽石・ローム塊．２黒褐 ローム塊少・Ｂ軽石
826ピ：１暗褐 ローム粒少．２暗褐 黄白粒．３暗褐 ローム．黄白塊
830ピ：１暗褐 ローム粒少．２暗褐 ローム塊．３暗褐 黄白塊
833ピ：１暗褐 ローム粒
856･857･859ピ：１暗褐 ローム粒少．２黒褐 ローム粒少．３暗褐 ローム粒・焼土粒少．４黒褐 ローム粒・黄白粒．５暗褐 ローム粒
858ピ：１暗褐 ローム粒・白軽石少
865ピ：１暗褐 ローム粒．２暗褐 ローム粒少．３暗褐 ローム粒・黄白色塊
896ピ：１暗褐 ローム粒少
897ピ：１暗褐 ローム粒微
957ピ：１暗褐
1320ピ：１暗褐 ローム粒．２暗褐 ローム塊
1324ピ：１黒褐．２暗褐 ローム粒微
1325ピ：１黒褐 ローム塊．２褐色 黒褐．炭粒少
1326ピ：１暗褐 ローム粒微．軽石．２暗褐 ローム粒少．３暗褐 ローム粒
1336･1338ピ：１暗褐 ローム粒少．２黄褐
1341～1343ピ：１暗褐 ローム塊微．２暗褐 ローム粒．３暗褐 ローム粒多．４暗褐

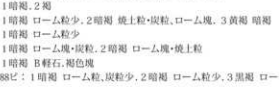
第514図　３区屋敷内ピット（１）断面図（２）



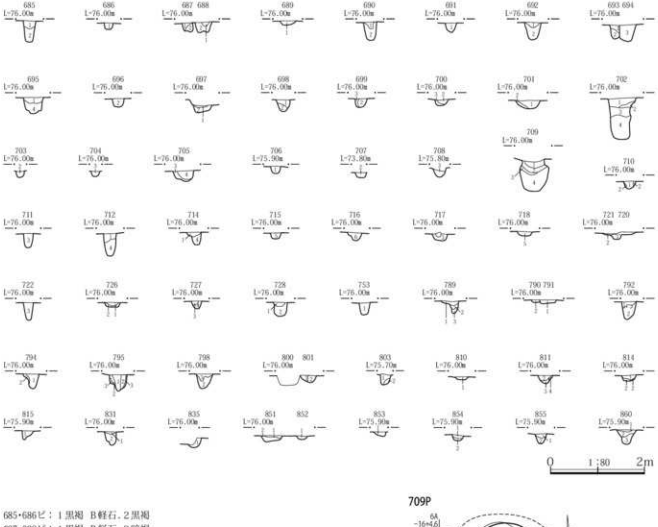
第515図　3区屋敷内ピット(2)

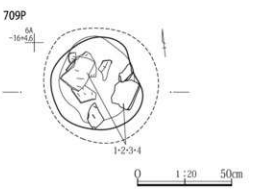


403・404ピ：１黒褐 ローム塊.２暗褐 ローム粒
426ピ：１暗褐 ローム粒少.２暗褐 ローム塊.３黒褐 ローム塊少
428ピ：１暗褐 ローム塊少.２暗褐 ローム粒少.３ローム塊やや多
429ピ：１黒褐 ローム粒少.２暗褐 ローム少
430ピ：１黒褐 ローム粒少.２黄褐＋暗褐
431・432ピ：１暗褐 ローム粒・炭.２暗褐 ローム塊.炭
461・1300ピ：１暗褐 ローム粒.２暗褐 ローム塊少.３褐色.４黒褐 黄白塊.５黄褐 暗褐
473ピ：１暗褐 ローム塊.２暗褐
478ピ：１暗褐 褐色塊.２褐色.３黄褐
479ピ：１黒褐.２暗褐 褐色塊
481・485ピ：１暗褐 ローム粒少.２褐色.３暗褐 ローム塊
487・488ピ：１暗褐 ローム粒少.２褐色.３暗褐 ローム塊少
493ピ：１暗褐 ローム塊.少.２暗褐 ローム粒.３褐.４暗褐 褐
500・501ピ：１暗褐 ローム粒.２褐色.３暗褐 褐塊・炭粒
502・503・505・506ピ：１暗褐 ローム粒.２褐色.３暗褐 褐色
504ピ：１暗褐.２褐
580ピ：１暗褐 ローム粒少.２暗褐 焼土粒・炭粒.ローム塊.３黄褐 暗褐
581ピ：１暗褐 ローム粒少
583ピ：１暗褐 ローム塊・炭粒.２暗褐 ローム塊・焼土粒
584ピ：１暗褐 B軽石.褐色塊
586～588ピ：１暗褐 ローム粒.炭粒少.２暗褐 ローム粒少.３黒褐 ローム粒
595ピ：１暗褐 ローム粒.２黒褐 ローム塊.３暗褐 ローム粒やや多.４黄褐＋暗褐
598ピ：１暗褐 ローム粒・炭粒
601ピ：１黒褐 B軽石
602・610ピ：１暗褐 ローム粒.２褐
607ピ：１暗褐 褐色塊.２褐色
626ピ：１暗褐 ローム粒・焼土粒.２黒褐 ローム塊
627ピ：１黒褐 ローム粒.２暗褐 ローム粒
629ピ：１暗褐 ローム粒少.２暗褐 ローム粒・炭
631ピ：１暗褐 ローム粒少.２暗褐 ローム塊
632ピ：１暗褐 ローム塊 ローム粒
634ピ：１暗褐 ローム塊・炭粒.２黒褐 ローム粒
635ピ：１暗褐 ローム粒少.２黒褐 炭粒.黄白塊
643・644ピ：１暗褐 ローム塊・粒.２暗褐 ローム粒少.３暗褐 ローム
670ピ：１暗褐 ローム塊やや多
671～674ピ：１暗褐 ローム粒少.２暗褐 B軽石少.３暗褐 ローム塊
675・676ピ：１黒褐 ローム粒少
677ピ：１暗褐 ローム粒少.２褐 ローム塊.３暗褐 ローム粒やや多
678ピ：１黒褐 B軽石.２黒褐
682ピ：１暗褐 ローム粒.２褐 ローム塊・粒
683・684ピ：１暗褐 ローム粒.２褐



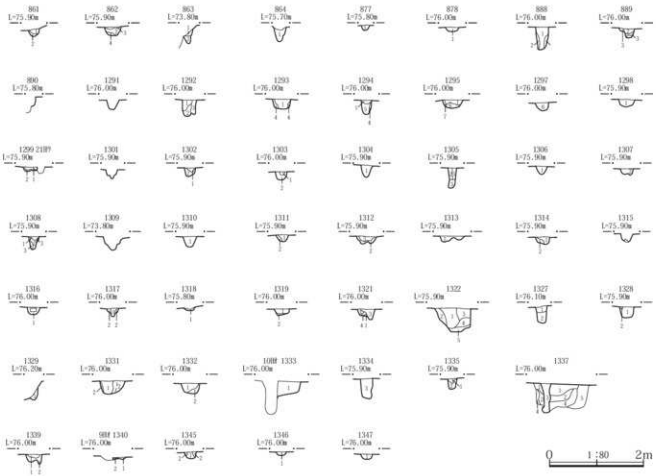
第516図　３区屋敷内ピット（２）断面図（１）と635号ピット出土遺物





685・686ピ：1黒褐　B軽石、2黒褐
687・688ピ：1黒褐　B軽石、2暗褐
689ピ：1暗褐　ローム塊・粒やや多
690ピ：1暗褐　焼土粒少、2暗褐　褐塊
691ピ：1暗褐　B軽石
692ピ：1暗褐　ローム粒少、2黒褐　炭粒少
693～696ピ：1黒褐　B軽石、2暗褐　ローム粒少、B軽石、3黒褐　B軽石、4暗褐　ローム粒
697ピ：1暗褐　ローム粒、焼土粒少、2暗褐　ローム塊やや多
698～700・703～705ピ：1黒褐　B軽石、2暗褐　B軽石、3暗褐、4黒褐
701ピ：1暗褐　ローム塊・粒、2褐
702ピ：1暗褐　ローム塊・粘土塊少・B軽石、2暗褐　粘土粒多、3褐、4黒褐
706～708ピ：1暗褐　B軽石、褐塊、2黒褐、3黒褐　B軽石
709ピ：1暗褐　炭多、焼土、2暗褐　焼土・ローム、3灰褐　暗褐、4暗褐　ローム
710～712・714～718ピ：1黒褐　B軽石、ローム粒、2褐、3黒褐　焼土粒少・B軽石、4黒褐、5暗褐　ローム粒、6黒褐　B軽石
720～722ピ：1暗褐　B軽石、2黒褐、3黒褐　炭粒少・B軽石
726・727ピ：1暗褐　ローム粒少、2褐、3暗褐、4褐灰
728ピ：1暗褐　ローム粒、焼土粒少、2黒褐　ローム塊
753ピ：1黒褐　焼土粒微・B軽石
789ピ：1暗褐　ローム粒、2褐　ローム塊・粒やや多、3黒褐　ローム塊
790・791ピ：1暗褐　炭、ローム粒・A軽石、2暗褐　ローム粒
792ピ：1黒褐　ローム粒多・炭粒微、2黒褐
794・798ピ：1暗褐　炭粒、ローム粒・軽石、2褐　暗褐、3暗褐　ローム粒
795ピ：1暗褐　炭粒、ローム粒少、2暗褐　ローム塊、3褐
801ピ：1暗褐　ローム粒少、2暗褐　ローム塊・粒
803ピ：1黒褐　B軽石、2黒褐　ローム粒・B軽石
810・811ピ：1黒褐　B軽石、2暗褐　ローム粒・B軽石、3暗褐　ローム粒、4褐
814ピ：1暗褐　ローム粒、2褐　暗褐
815ピ：1暗褐　ローム粒微
831ピ：1暗褐　ローム粒少、2褐　ローム塊
835ピ：1暗褐　ローム粒少
851ピ：1暗褐　ローム粒・白軽石少、2暗褐　ローム塊・焼土粒
852ピ：1暗褐　焼土粒・炭粒少
853ピ：暗褐　ローム粒少
854・855ピ：1暗褐　ローム粒少、2黒褐　ローム塊・粒
860ピ：1暗褐　ローム粒、2暗褐　ローム粒少、3暗褐　ローム塊・黄白塊

第517図　3区屋敷内ピット(2)断面図(2)



861･862ピ：１暗褐 ローム塊．２暗褐 ローム粒．３暗褐 焼土粒･ローム粒少．４黄褐 暗褐

863ピ：１暗褐 ローム粒少．２暗褐 ローム塊

864ピ：１暗褐 ローム塊少

877ピ：１暗褐 ローム粒

878ピ：１暗褐 ローム粒少

888･889ピ：１黒褐 ２黒褐 ローム粒．３暗褐 炭粒･ローム粒

1292 ～ 1295･1297ピ：１暗褐 ローム粒．２暗褐 ローム塊．３黒褐 ローム粒少．４褐色．５黒褐 ローム塊．６暗褐 ローム塊やや多．７黄褐 ローム多

1298ピ：１暗褐 ローム塊少

1299ピ：１暗褐 ローム粒少．２褐色 ローム

1302ピ：１暗褐 ローム粒少．２褐色

1303ピ：１暗褐 黄白塊 炭．２暗褐 黄白塊多

1304ピ：１暗褐 黄白塊

1305ピ：１暗褐 ローム塊 炭．２褐色 ローム．３暗褐 ローム

1306･1307ピ：１黒褐 ローム塊．２暗褐 ローム粒

1308ピ：１暗褐 ローム粒少．２黒褐 黄白塊．３暗褐 ローム塊

1310ピ：黒褐 ローム塊

1311 ～ 1314ピ：１暗褐 ローム粒．２褐 ローム．３暗褐 ローム塊

1316ピ：１黒褐 B軽石

1317ピ：１暗褐 ローム粒少．２黄褐

1318･1319･1321ピ：１暗褐 ローム粒．２暗褐 ローム塊．３暗褐 ローム粒少．４ローム塊

1322ピ：１暗褐 ローム塊 粒．２褐．３暗褐 ローム粒少．４黒褐 ローム塊．５黒褐 ローム粒少

1327ピ：１黒褐 褐色少．２黒褐 ローム塊少

1328ピ：１暗褐 ローム塊･粒．２暗褐 ローム塊

1329ピ：１暗褐 ローム塊

1331･1334ピ：暗褐 ローム粒微．２暗褐．３黒褐 ローム粒少

1332ピ：１黒褐 炭粒微．２黒褐

1333ピ：１暗褐 ローム粒

1335ピ：１暗褐 ローム粒．２褐色 ローム

1337ピ：１暗褐 軽石少．２暗褐 ローム粒少．３黒褐 ローム粒･軽石微．４暗褐 ローム塊少．５暗褐 ローム塊

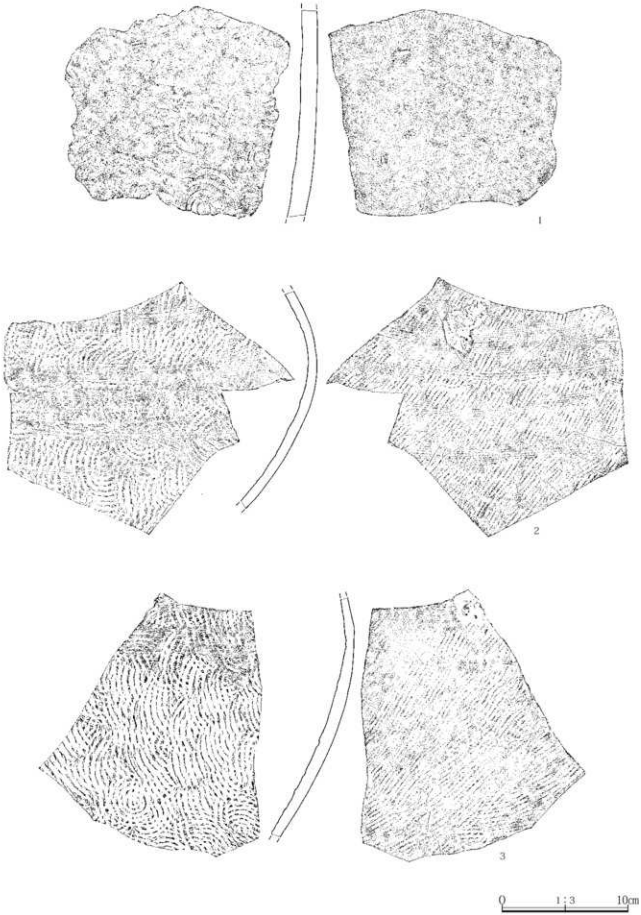
1339･1340ピ：１暗褐 ローム粒少．２暗褐 ローム塊

1345ピ：１暗褐 ローム塊．２褐 ローム多

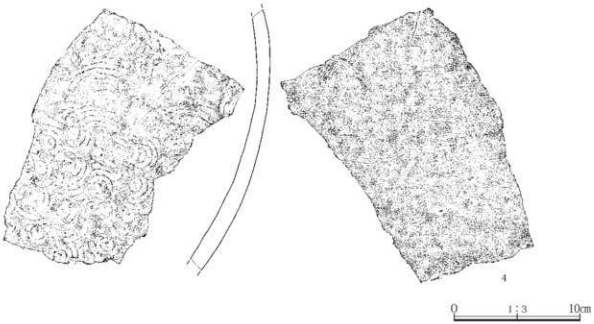
1346ピ：１暗褐 ローム粒少

1347ピ：１暗褐 褐塊

第518図　３区屋敷内ピット（２）断面図（３）



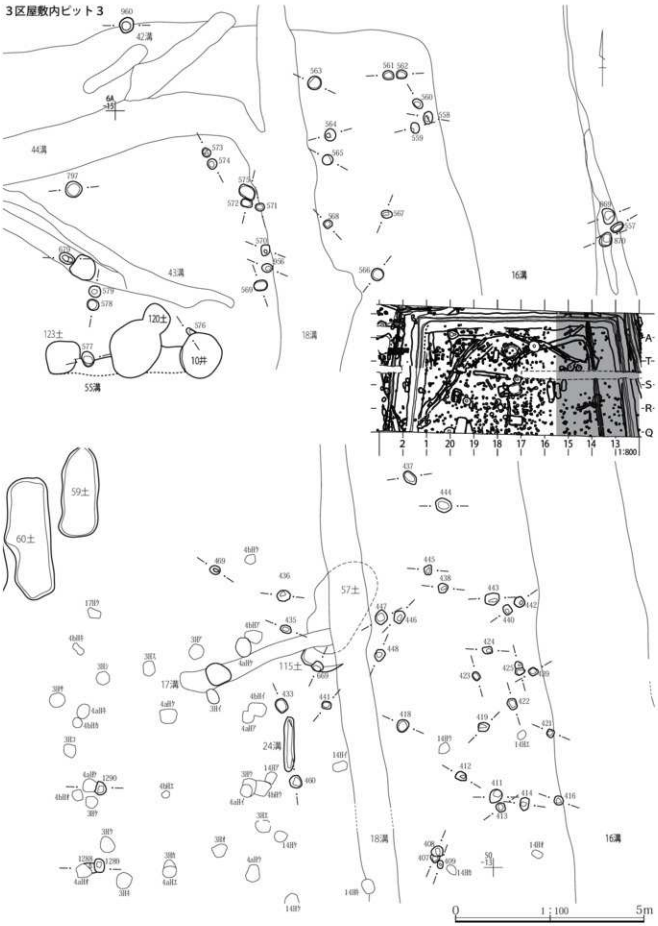
第519図　3区709号ピット出土遺物(1)



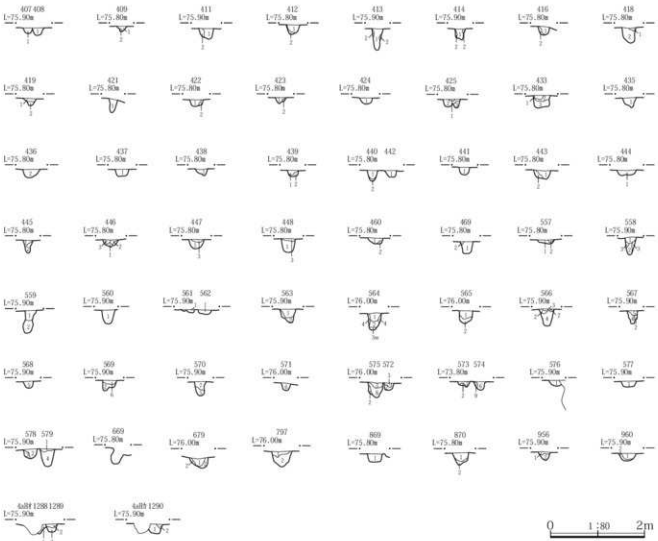
第520図　３区 709 号ピット出土遺物（２）

第223表　３区屋敷内ピット出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第516図 PL.215	1	鉄器 刀子？	635ピット	長	6.4	厚	0		錆化が著しく本体脆弱、刀子の破片の可能性があるが詳細不明	
				幅	1.65	重	9.6			
第519図	1	須恵器 甕	709ピット 胴部片					粗砂粒・白色鉱物粒・黒色鉱物粒/還元焔/灰	紐作り後、叩き整形。外面はナデ。内面は同心円状のアテ具痕をナデ消す。	
第519図	2	須恵器 甕	709ピット 胴部片					細砂粒/還元焔/灰	紐作り後、叩き整形。外面は平行叩き痕の上に横のカキ目を重ねる。内面は同心円状のアテ具痕を部分的にナデ消す。	肩部に自然釉付着。
第519図	3	須恵器 甕	709ピット 胴部片					細砂粒/還元焔/灰	紐作り後、叩き整形。外面は平行叩き痕。内面は同心円状のアテ具痕。一部にナデ。	
第520図	4	須恵器 甕	709ピット 胴部片					粗砂粒・白色鉱物粒・黒色鉱物粒/還元焔/灰	紐作り後、叩き整形。外面はナデ。内面は同心円状のアテ具痕をナデ消す。	１と同一個体か。



第521図　３区屋敷内ピット（３）



407･408ピ：１暗褐 ローム粒

409･411･412ピ：１黒褐 ローム粒，２暗褐 ローム粒多

413･414･421･422ピ：１黒褐 ローム粒，２暗褐 ローム粒多

416ピ：１暗褐 ローム粒やや多，２暗褐

418ピ：１暗褐 ローム塊，２暗褐 白軽石

419ピ：１黒褐 ローム粒，２暗褐 ローム粒多

423･424･443ピ：１黒褐 ローム粒，２暗褐 ローム粒多

425ピ：１暗褐 ローム粒少，２暗褐 ローム粒，３暗褐

433ピ：１暗褐 ローム粒微，２黒褐 ローム粒微，３暗褐 ローム粒

435･436ピ：１黒褐 ローム塊，２暗褐 ローム塊多

437ピ：１黒褐 ローム粒

438ピ：１黒褐 ローム粒

439ピ：１暗褐 ローム粒やや多，２褐色

440･442ピ：１黒褐 ローム粒，２暗褐 ローム粒多

441ピ：１暗褐 ローム塊多

444･446ピ：１暗褐 ローム粒やや多，２暗褐 ローム粒，３黄褐

445･447･448ピ：１暗褐 ローム粒，２暗褐 ローム塊，３暗褐 ローム粒少

460ピ：１暗褐 ローム粒少，２黄褐 ローム塊

469ピ：１暗褐 ローム粒少，２褐色

557ピ：１暗褐 ローム粒少，２暗褐 ローム粒

558･559ピ：１暗褐 ローム塊，粒，２暗褐 ローム粒多，３黄白 暗褐少

560ピ：１暗褐 ローム粒・黄白塊

561･562ピ：１暗褐 炭粒やや多・ローム粒

563ピ：１暗褐 ローム粒，２暗 ローム塊・粒多

564ピ：１暗褐 ローム塊，２黒褐 ローム塊，３黒褐 黄白塊，４褐

565 ～ 575ピ：１暗褐 ローム塊 白軽石，２褐，３暗褐 ローム粒少，４暗褐 ローム塊，粒，５暗褐 ローム塊，６暗褐 ローム粒，７暗褐 ローム粒・炭粒，８暗褐 ローム粒やや多，９褐 ローム粒

576ピ：１褐 ロームやや多

577 ～ 579ピ：１暗褐 ローム塊，２黒褐 ローム粒，焼土粒少，３暗褐 ローム塊少，４黒褐 ローム塊

679ピ：１暗褐 ローム粒，２褐 ローム塊，粒

797ピ：１暗褐 焼土粒，炭粒，ローム粒，２暗褐 焼土粒，ローム塊

869･870ピ：１暗褐 黄白塊，２暗褐 ローム粒

956ピ：１暗褐 ローム粒少，２黒褐 ローム粒少

960ピ：１暗褐 ローム粒少，２黒褐 ローム粒少

1290･1289ピ：１暗褐 ローム塊，２暗褐 ローム粒少，３暗褐 ローム塊やや多

1290ピ：１暗褐 ローム粒，２暗褐 ローム塊

第522図　３区屋敷内ピット（３）断面図

（6）溝

区画内で溝22条を検出した。このうち、52・56号溝は厳密には区画外となるが、関係性を重視してここに含めた。１号屋敷を区画する溝は16・27号溝で、逆「コ」の字形に走向している。両溝は本来同一の溝である。52号溝は２号区画遺構と合流する区画溝であり、１号屋敷とは時期差がある可能性が高い。この場合、区画溝の可能性がある18号溝や56号溝との関係が考慮される。内部を仕切る小規模な溝としては、時期は未確定ながら43号溝がある。これと合流する21・22号溝もあるが、走向方位は一致していない。同じく42・44・54・57号溝も走向方位が１号屋敷と合致していない。20・47号溝は近世に属しており、１号屋敷と関係する可能性は低い。このほか、小規模な溝が散在する。17号溝は３号掘立柱建物と関連する点で注目される。同様に19・23・24号溝も形態的に近いが証左に欠ける。

16・27号溝（第524図、ＰＬ.144・146）

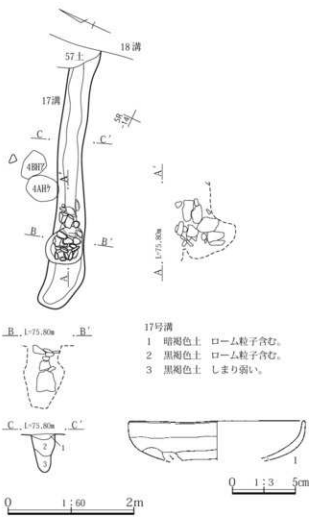
位置　５Ｐ～６Ａ－12～20、15Ｑ～16Ａ－１グリッド

16・27号溝は連続する溝のため、合わせて扱う。調査段階では東辺を16号溝、北辺から西辺のＬ字形を27号溝とし、出土遺物もこれにより取り上げている。これは南半部から調査を始めた結果であり、遺物の混乱を避けるため、あえて遺構名を統合していない。東西辺とも調査区域外に延びる。129号土坑より前出で、131・170号土坑、５号井戸、18・37・38・56号溝と重複するが新旧関係不明。平面形は逆「コ」の字形。折れ部２か所はやや鈍角で、95・96度である。走向方位は東辺でＮ－９°－Ｗ、北辺でＮ－90°、西辺でＮ－４°－Ｅ。断面形は逆台形で、中位で「く」の字形に外側へ折れる。底面は平坦。東辺両端の比高差は５㎝で、勾配はほとんどない。北辺両端の比高差は18㎝で、勾配はほとんどない。西辺両端の比高差は２㎝で、勾配はほとんどない。埋没土の中位以下は壁面崩落土を含んでやや淡色で自然埋没する。上位も人為埋没を示す状況ではない。規模は長さ95.16m上端幅252～404㎝深さ97㎝である。東辺南半部の西壁側に中段があり、Ｅ断面の観察でも後出する溝に見える。しかし、埋没土４層の堆積は後出として不自然である。調査時の所見は新旧関係を判断していない。断面写真なども考慮すれば、前出した溝である可能性も残る。この部分の規模は計測できない。埋没土からの在地系土器内耳鍋（第525図１）や龍泉窯系青磁碗（同２）、渥美窯系・常滑窯系陶器甕（同３・４）ほかが出土する。出土遺物から15世紀前半頃を下限とすると考えられる。

17号溝（第523図、ＰＬ.132）

位置　５Ｑ・Ｒ－14グリッド

状況から18号溝より前出。57・115号土坑と重複するが新旧関係不明で、合流して並存も考えられる。平面形は直線状で、西端は北側へわずかに折れる。走向方位はＮ

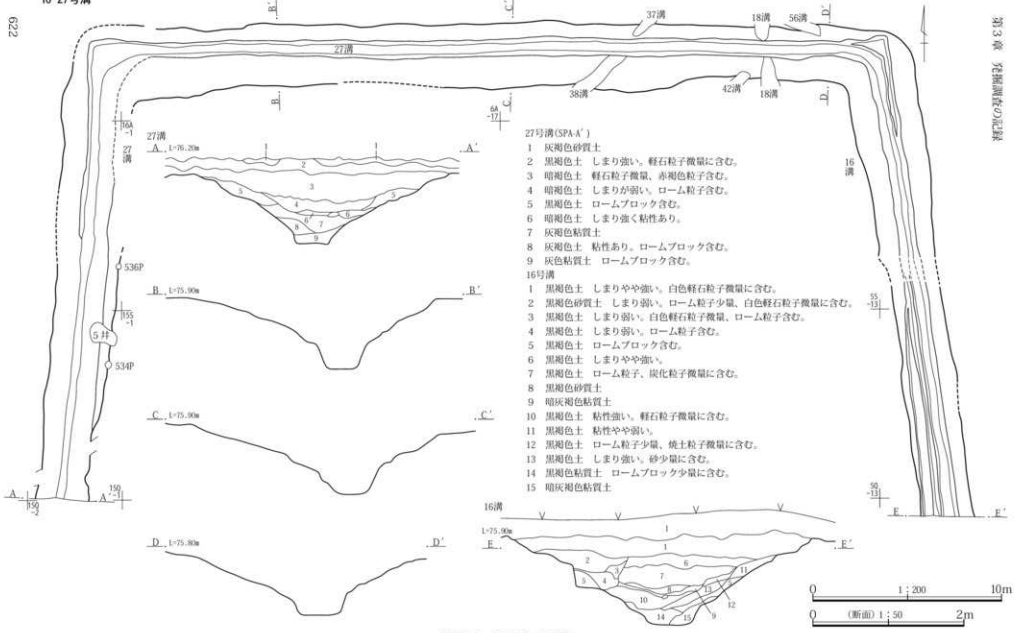


第523図　３区17号溝と出土遺物

第224表　３区17号溝出土遺物

掲載図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率		計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第523図	1	土師器 杯	破片	口	13.8			細砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り、間にナデの部分を残す。内面はナデ。	器面磨滅。

16・27号溝



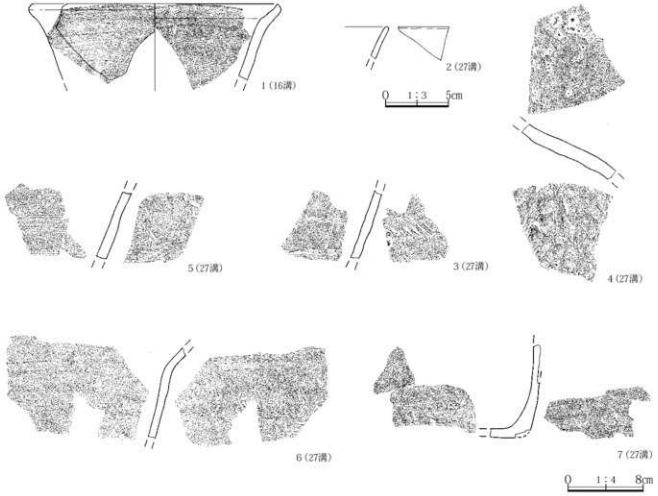
27号溝(SPA-A')

1　灰褐色砂質土
2　黒褐色土　しまり強い。軽石粒子微量に含む。
3　暗褐色土　軽石粒子微量、赤褐色粒子含む。
4　暗褐色土　しまりが弱い。ローム粒子含む。
5　黒褐色土　ロームブロック含む。
6　暗褐色土　しまり強く粘性あり。
7　灰褐色粘質土
8　灰褐色土　粘性あり。ロームブロック含む。
9　灰色粘質土　ロームブロック含む。

16号溝

1　黒褐色土　しまりやや強い。白色軽石粒子微量に含む。
2　黒褐色砂質土　しまり弱い。ローム粒子少量、白色軽石粒子微量に含む。
3　黒褐色土　しまり弱い。白色軽石粒子微量、ローム粒子含む。
4　黒褐色土　しまり弱い。ローム粒子含む。
5　黒褐色土　ロームブロック含む。
6　黒褐色土　しまりやや強い。
7　黒褐色土　ローム粒子、炭化粒子微量に含む。
8　黒褐色砂質土
9　暗灰褐色粘質土
10　黒褐色土　粘性強い。軽石粒子微量に含む。
11　黒褐色土　粘性やや弱い。
12　黒褐色土　ローム粒子少量、焼土粒子微量に含む。
13　黒褐色土　しまり強い。砂少量に含む。
14　黒褐色粘質土　ロームブロック少量に含む。
15　暗灰褐色粘質土

第524図　3区16・27号溝



第525図　3区16・27号溝出土遺物

第225表　3区16・27号溝出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第525図	1	在地系土器 内耳鍋	16溝 口縁部片					B//黄灰	断面はにぶい橙色。器表は黄灰色。器壁は厚く、口縁部は短い。体部内外面は板状工具による横位撫で。口縁部は横撫で。口縁端部は短く上方に立ち上がり、やや尖る。	14世紀後半～15世紀中頃。
第525図	2	龍泉窯系 青磁碗	27溝 口縁部片					//灰	残存部内面下位に沈線文が存在する可能性が高いが、細片のため不明瞭。	中世。
第525図	3	瀬戸美濃系 陶器 甕	27溝 体部片					//灰	外面叩き目。内面横位撫でで、組作り痕残る。	12世紀～13世紀前半。
第525図	4	常滑陶器 甕	27溝 肩部片					//灰～浅黄橙	断面の多くは灰色で下位は浅黄橙色。内面器表は浅黄橙色。内面指頭圧痕と接合痕残る。外面に自然釉かかる。外面下位に叩き目。	中世。第557図1と同一個体の可能性高い。
第525図	5	在地系土器 内耳鍋	27溝 体部片					B//灰	還元炎。内面横位撫で。器壁ややや厚い。	中世。
第525図	6	在地系土器 内耳鍋	27溝 体部片					B//黒	断面は橙色。器表は黒色。器壁ややや厚く、口縁部下で屈曲して外反。屈曲部内面ゆるい稜をなすが段は付かない。口縁部横撫で。体部内面板状工具による撫で。	中世。7と同一個体か。
第525図	7	在地系土器 内耳鍋	27溝 体部～底部片					B//黒	断面は橙色。器表は黒色。体部外面下端から底部外面器表は橙色。体部外面下端は施削り後撫で。体部下位は湾曲するが平底。	中世。6と同一個体か。

－70°－Ｅ。断面形は深いＵ字形で、Ｂ断面部分はピット状に掘り下がり、その西側は皿状で浅い。底面は丸みがある。Ｂ断面から東側部両端の比高差は38cmで、勾配9.09％で東方へ下向する。自然埋没か。Ｂ断面は多量の礫で埋まっており、新旧関係は確認できていないが、使用時から詰められていた可能性が高い。埋没土から第523図１の土師器杯が出土する。規模は長さ4.18m上端幅38～60cm深さ58cmである。本溝は一部が３号掘立柱建物内と重複し、Ｂ断面部分はその東辺に一致する。建物に関わる排水施設と考えれば、礫群は水による浸食を防ぐ受けであった可能性が高い。本溝は東へ下り、57号土坑と重複するため、土坑も集水枡の機能であったと想定できる。出土遺物から８世紀後半を上限とする。

18・56号溝（第526図、ＰＬ.140・145・215、第226表）

18号溝　位置　５Ｐ～６Ｂ－13・14グリッド

南北両側ともに調査区域外に延びる。状況から27号溝より前出で、57号土坑より後出とみられる。44号溝と重複するが新旧関係不明。平面形は直線状。走向方位はＮ－８°－Ｗ。断面形は逆台形で、底面近くに前段階の細い溝があり、Ｖ字形であったことも推測される。底面は丸みがある。両端の比高差は２cmで、勾配はほとんどない。Ｂ断面では東方向から埋められる。埋没土から国産焼締陶器が出土する。規模は長さ26.56m上端幅68～168cm深さ58cmである。出土遺物から中世に比定される。

56号溝　位置　６Ａ・Ｂ－13・14グリッド

西側は調査区域外に延び、東側は27号溝と重複して不明となる。南東方向延長線上にある14号溝は同一となる可能性がある。状況から27号溝より前出。平面形は直線状。

走向方位はＮ－71°－Ｗ。断面形は逆台形。底面はほぼ平坦。勾配はほとんどない。自然埋没か。北壁際上位で第526図１の龍泉窯系碗が出土する。規模は長さ2.28m幅54cm深さ15cmである。出土遺物から中世に比定される。

19号溝（第527図、ＰＬ.145）

位置　15Ｑ・Ｒ－12グリッド

７号掘立柱建物Ｐカ、20号掘立柱建物Ｐオと重複するが新旧関係不明。平面形は直線状だが、削平され輪郭は波打つ。走向方位はＮ－３°－Ｗ。断面形は皿状。底面はほぼ平坦。両端の比高差は14cmで、勾配3.11％で北方へ下向する。埋没状況不詳。遺物は出土していない。規模は長さ4.5m上端幅26～55cm深さ６cmである。出土遺物はなく、時期は比定できない。

20号溝（第527図、ＰＬ.145・215、第226表）

位置　５Ｓ－17・18グリッド

95号土坑、37・38号溝より後出で、39号掘立柱建物Ｐカと重複するが新旧関係不明。平面形は直線状。走向方位はＮ－85°－Ｗ。断面形は浅い逆台形。底面はほぼ平坦でやや凸凹する。両端の比高差は８cmで、勾配1.09％で西方へ下向する。埋没土は均質で人為埋没か。在地系土器（第527図１～４）が散漫に出土する。拳大から人頭大の円礫がやや多く出土する。規模は長さ7.32m上端幅60～92cm深さ20cmである。出土遺物は中世がやや多いが、第527図４の火鉢の年代から、江戸時代以降に比定される。

21・22号溝（第528図、ＰＬ.145）

21号溝　位置　５Ｑ～Ｔ－18～20、15Ｑ－１グリッド

南側は調査区域外に延び、北側は43号溝と重複して不明となる。42号溝と同一となる可能性もある。51号掘立柱建物Ｐ２より前出。その他のピット・土坑、22・43号溝と重複するが新旧関係不明。平面形は細かく蛇行する。走向方位はＮ－41°－Ｅ～Ｎ－３°－Ｅ～Ｎ－48°－Ｅ。断面形は浅いＵ字形。底面は凸凹する。両端の比高差は10cmで、勾配はほとんどない。埋没状況不詳。非掲載遺物ながら国産焼締陶器が出土する。規模は長さ21.6m上端幅38～96cm深さ22cmである。出土遺物から中世に比定される。

22号溝　位置　５Ｑ～Ｔ－18～20、15Ｑ・Ｒ－１グリッド

南側は調査区域外に延び、北側は43号溝と重複して不明となる。42号溝と同一となる可能性もある。51号掘立柱建物Ｐ２より前出。その他のピット・土坑、21・43号溝と重複するが新旧関係不明。平面形は弓状。走向方位はＮ－６°－Ｅ～Ｎ－35°－Ｅ。断面形は皿状。底面は凸凹する。埋没状況不詳。非掲載遺物ながら国産焼締陶器が出土する。規模は長さ22.80m上端幅46～123cm深さ14cmである。出土遺物から中世に比定される。

23号溝（第527図、ＰＬ.145）

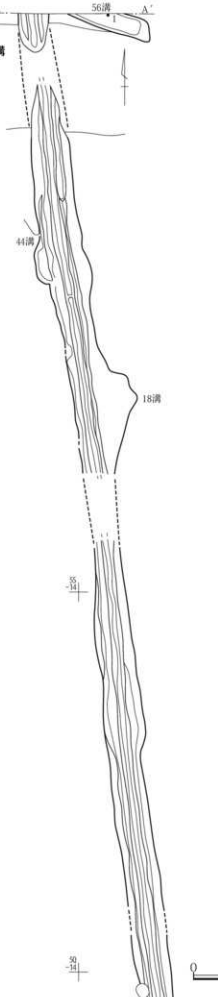
位置　５Ｒ・Ｓ－18グリッド

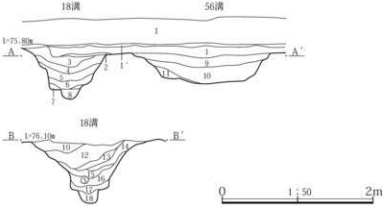
平面形は直線状。走向方位はＮ－30°－Ｗ。断面形は浅いＵ字形。底面は丸みがある。両端の比高差は10cmで、勾配4.35％で南方へ下向する。埋没状況不詳。遺物は出土していない。規模は長さ2.30m上端幅32～37cm深さ10cmである。中世の遺物は出土していない。

24号溝（第527図、ＰＬ.145）

位置　５Ｑ－14グリッド

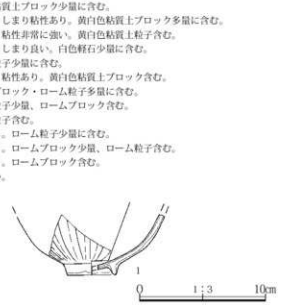
平面形は直線状。走向方位はＮ－０°。断面形は浅いＵ字形。底面は凸凹する。勾配はほとんどない。埋没状況



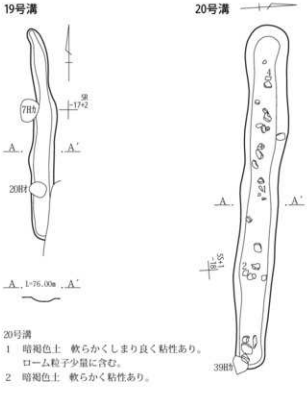


18・56号溝

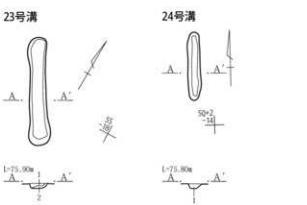
1′　鉄分凝集層
1　暗褐色土　軟らかくしまり良い。ロームブロック含む。
2　黄褐色土＋暗褐色土　やや堅くしまる。
3　暗褐色土　軟らかくしまり良い。ローム粒子・白色粒子含む。
4　暗褐色土　やや堅くしまり粘性あり。ロームブロック・白色軽石含む。
5　灰褐色粘質土　やや堅くしまる。
6　灰褐色土　黄白色粘質土ブロック少量に含む。
7　暗褐色土　やや堅くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロック多量に含む。
8　暗褐色土　軟らかく粘性非常に強い。黄白色粘質土粒子含む。
9　暗褐色土　軟らかくしまり良い。白色軽石少量に含む。
10　暗褐色土　ローム粒子少量に含む。
11　黒褐色土　軟らかく粘性あり。黄白色粘質土ブロック含む。
12　暗褐色土　ロームブロック・ローム粒子多量に含む。
13　暗褐色土　ローム粒子少量、ロームブロック含む。
14　暗褐色土　ローム粒子含む。
15　黒褐色土　粘性あり。ローム粒子少量に含む。
16　黒褐色土　粘性あり。ロームブロック少量、ローム粒子含む。
17　黒褐色土　粘性あり。ロームブロック含む。
18　黒褐色土　粘性強い。

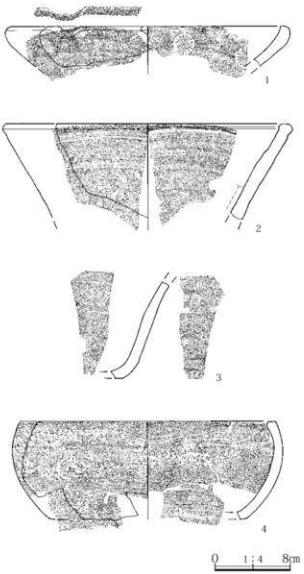


第526図　３区18・56号溝と56号溝出土遺物



20号溝
1　暗褐色土　軟らかくしまり良く粘性あり。
　　ローム粒子少量に含む。
2　暗褐色土　軟らかく粘性あり。





23号溝
1　暗褐色土　しまり弱い。ローム粒子含む。
2　暗褐色土　しまり弱い。ロームブロック多量に含む。

24号溝
1．暗褐色土　黒色粒子・軽石粒子含む。

第527図　３区19・20・23・24号溝と20号溝出土遺物

第226表　３区20・56号溝出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第526図	1	龍泉窯系 青磁碗	56溝 体部一部、底部 1/3					//灰	体部外面に幅の狭い蓮弁文。高台端部を除き厚く施釉し、発色も良好。	碗Ⅲ-2C類。13世紀中～14世紀初頭前後。
第527図 PL.215	1	在地系？ 土器片口鉢	20溝 口縁部片					A//にぶい橙	内面から口縁端部器表は灰黄褐色。口縁部は内湾し、端部は内側に稜をなして突き出る。片口部残存。口縁部内面に菊花状押印文二カ所残る。	中世。
第527図 PL.215	2	在地系土器 片口鉢	20溝 口縁部から体部片					B//灰	還元炎。口縁部横撫で。口縁端部は内側に小さく突き出る。口縁端部上面の器表摩滅。	14世紀後半～15世紀前半頃。
第527図	3	在地系土器 内耳鍋	20溝 体部から底部片					B//褐灰	体部外面は下端を除き煤付着。体部外面下端は箆削り。丸底。	14世紀後半～15世紀中頃。
第527図 PL.215	4	在地系土器 火鉢か	20溝 1/6					B//暗灰～黒	断面中央は黒色、器表付近は灰白色、器表は暗灰から黒色。外面器表は磨くが、剥離部分多い。底部周縁に鋲貼り付け痕僅かに残る。	江戸時代か。

不詳。遺物は出土していない。規模は長さ1.45m上端幅22～28cm深さ５cmである。出土遺物はなく、時期は比定できない。

42Ａ・43号溝（第528図）

42Ａ号溝　位置　５Ｔ～６Ａ－14～17グリッド

43号溝と重複するがＢ断面では新旧関係は確定できない。９号井戸やピット、21・22号溝と重複するが新旧関係不明。平面形はやや弓状。走向方位はＮ－60°－Ｗ～Ｎ－86°－Ｗ～Ｎ－65°－Ｗ。断面形はＵ字形。底面は凸凹する。両端の比高差は15cmで、勾配1.13％で西方へ下向する。埋没状況不詳。遺物は出土していない。規模は長さ13.20m上端幅38～51cm深さ12cmである。出土遺物はなく、時期は比定できない。

43号溝　位置　５Ｓ～６Ａ－14～20グリッド

42Ａ号溝と重複するがＢ断面では新旧関係は確定できない。９・11号井戸やピット、21・22号溝と重複するが新旧関係不明。平面形はＬ字形で、21・22溝と重複した東側は平面形が異なり弓状となる。あるいは43号溝はその合流点で消滅するとも思えるが、調査所見に従って東半部も同一として扱う。走向方位はＮ－67°－Ｗ～Ｎ－85°－Ｅ～Ｎ－３°－Ｅ。断面形は皿状。底面は凸凹する。両端の比高差は６cmで、勾配はほとんどない。埋没状況不詳。中世の遺物は出土していない。規模は長さ35.64m上端幅20～130cm深さ34cmである。位置関係から11号井戸と関連する可能性が高い。

42Ｂ号溝（第529図）

位置　６Ａ－14グリッド

54号溝と重複して不明となり新旧関係不明。平面形は直線状。走向方位はＮ－52°－Ｅ。断面形はＵ字形。底面はほぼ平坦。両端の比高差は１cmで、勾配はほとんどない。自然埋没か。遺物は出土していない。規模は長さ3.8m上端幅56～96深さ18cmである。出土遺物はなく、時期は比定できない。

44・54号溝（第529図）

位置　５Ｓ～６Ａ－14～17グリッド

調査段階で９号井戸を境に遺構名称が変わるが、同一としてここでは扱う。南側は調査時期が異なった関係もあり検出されていない。平面形は南に開く「コ」の字形で、北西部は鈍角で緩く曲がる。走向方位はＮ－13°－Ｗ～Ｎ－74°－Ｅ～Ｎ－29°－Ｅ。断面形は皿状。底面はほぼ平坦。両端の比高差は15cmで、勾配はほとんどない。埋没状況不詳。中世の遺物は出土していない。規模は長さ24.36m上端幅57～127cm深さ17cmである。

47号溝（第530図）

位置　５Ｓ～６Ａ－20グリッド

南側は調査時期が異なった関係もあり検出されていない。遺構確認面が高く、他の遺構より後出。平面形は直線状。走向方位はＮ－５°－Ｗ。断面形は皿状。底面はほぼ平坦。両端の比高差は２cmで、勾配はほとんどない。埋没土に浅間Ａ軽石を含む。埋没状況不詳。中世の遺物は出土していない。規模は長さ7.10m上端幅85～103cm深さ12cmである。層位から時期は浅間Ａ軽石降下以降である。

48号溝（第530図）

位置　５Ｓ・Ｔ－18グリッド

平面形は直線状。走向方位はＮ－３°－Ｗ。断面形は深いＵ字形。底面は丸みがある。両端の比高差は２cmで、勾配はほとんどない。埋没状況不詳。中世の遺物は出土していない。規模は長さ1.12m上端幅12～20cm深さ17cmである。

51号溝（第530図）

位置　５Ｓ・Ｔ－20グリッド

南側は調査時期が異なった関係もあり検出されていない。816号ピットと重複するが新旧関係不明。平面形はやや弓状。走行方位はＮ－12°－Ｅ。断面形はＵ字形。底面は丸みがある。両端の比高差は７cmで、勾配2.77％で南方へ下向する。埋没土に浅間Ｂ軽石を含む。埋没状況不詳。中世の遺物は出土していない。規模は長さ2.53m上端幅20～37cm深さ10cmである。層位から時期は浅間Ｂ軽石降下以降である。

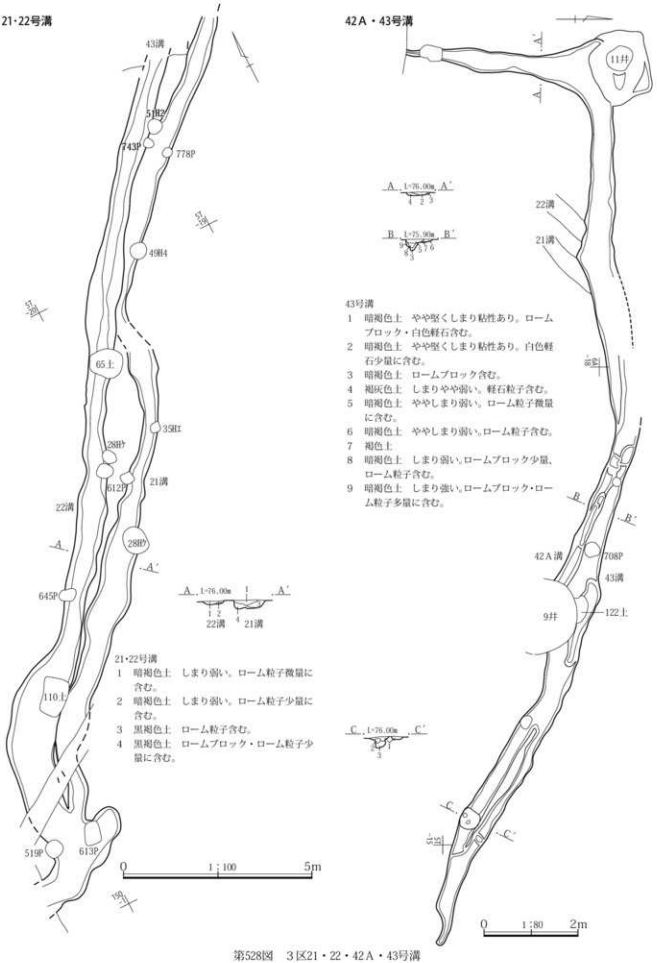
52号溝（第530・531図、ＰＬ.146・215、第227表）

位置　６Ｂ～16Ｂ－20～２グリッド

東側ともに調査区域外に延びる。状況から106・110号住居より後出。29・53号溝と接続し新旧関係不明。平面形

21・22号溝

42Ａ・43号溝

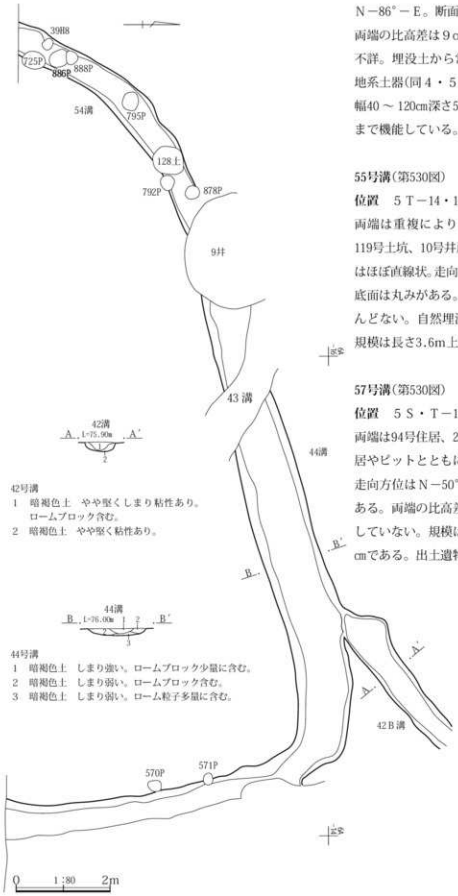


21・22号溝
1　暗褐色土　しまり弱い。ローム粒子微量に含む。
2　暗褐色土　しまり弱い。ローム粒子少量に含む。
3　黒褐色土　ローム粒子含む。
4　黒褐色土　ロームブロック・ローム粒子少量に含む。

43号溝
1　暗褐色土　やや堅くしまり粘性あり。ロームブロック・白色軽石含む。
2　暗褐色土　やや堅くしまり粘性あり。白色軽石少量に含む。
3　暗褐色土　ロームブロック含む。
4　褐灰色土　しまりやや弱い。軽石粒子含む。
5　暗褐色土　ややしまり弱い。ローム粒子微量に含む。
6　暗褐色土　ややしまり弱い。ローム粒子含む。
7　褐色土
8　暗褐色土　しまり弱い。ロームブロック少量、ローム粒子含む。
9　暗褐色土　しまり弱い。ロームブロック・ローム粒子多量に含む。

第528図　３区21・22・42Ａ・43号溝

42Ｂ・44・54号溝



は直線状に近く、東端で北方へ緩く折れる。走向方位はＮ－86°－Ｅ。断面形は深いＵ字形。底面は丸みがある。両端の比高差は９㎝で、勾配はほとんどない。埋没状況不詳。埋没土から常滑窯系陶器甕（第531図１～３）、在地系土器（同４・５）が出土する。規模は長さ11.0ｍ上端幅40～120㎝深さ57㎝である。出土遺物から15世紀後半まで機能している。

55号溝（第530図）

位置　５Ｔ－14・15グリッド

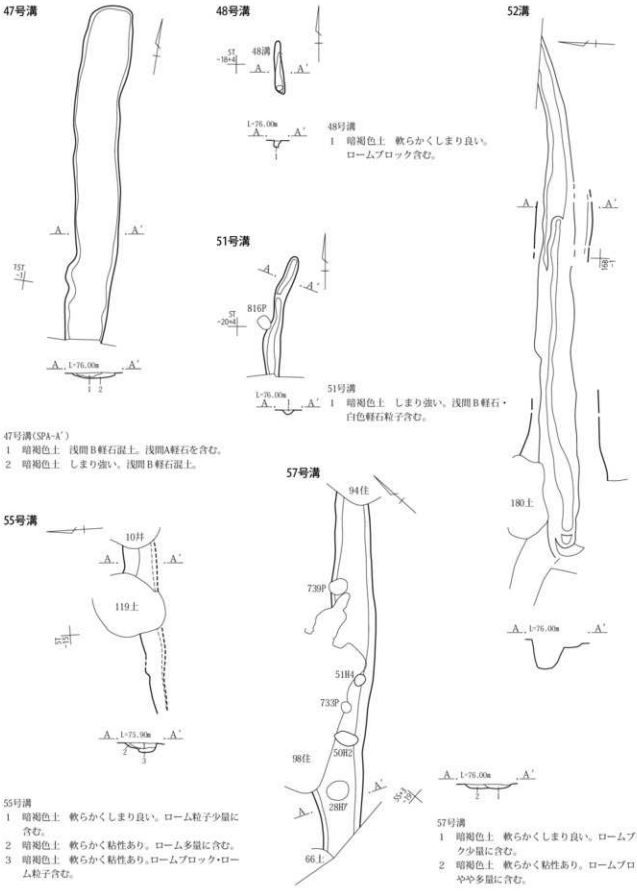
両端は重複により不明となる。123号土坑より後出で、119号土坑、10号井戸と重複するが新旧関係不明。平面形はほぼ直線状。走向方位はＮ－85°－Ｅ。断面形はＵ字形。底面は丸みがある。両端の比高差は３㎝で、勾配はほとんどない。自然埋没か。中世の遺物は出土していない。規模は長さ3.6ｍ上端幅29～70㎝深さ20㎝である。

57号溝（第530図）

位置　５Ｓ・Ｔ－18・19グリッド

両端は94号住居、21号溝と重複して不明となり、98号住居やピットとともに新旧関係不明。平面形はほぼ直線状。走向方位はＮ－50°－Ｅ。断面形は皿状。底面は丸みがある。両端の比高差はない。埋没状況不詳。遺物は出土していない。規模は長さ7.76ｍ上端幅70～108㎝深さ12㎝である。出土遺物はなく、時期は比定できない。

第529図　３区42Ｂ・44・54号溝



47号溝(SPA-A')
1　暗褐色土　浅間Ｂ軽石混上。浅間A軽石を含む。
2　暗褐色土　しまり強い。浅間Ｂ軽石混上。

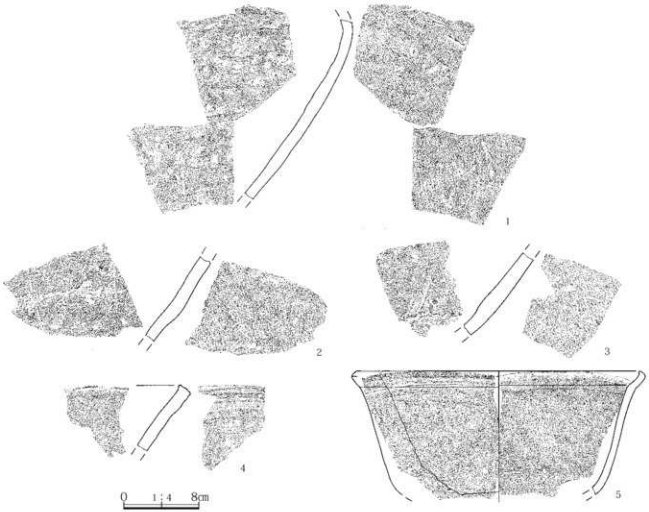
48号溝
1　暗褐色土　軟らかくしまり良い。ロームブロック含む。

51号溝
1　暗褐色土　しまり強い。浅間Ｂ軽石・白色軽石粒子含む。

55号溝
1　暗褐色土　軟らかくしまり良い。ローム粒子少量に含む。
2　暗褐色土　軟らかく粘性あり。ローム多量に含む。
3　暗褐色土　軟らかく粘性あり。ロームブロック・ローム粒子含む。

57号溝
1　暗褐色土　軟らかくしまり良い。ロームブロック少量に含む。
2　暗褐色土　軟らかく粘性あり。ロームブロックやや多量に含む。

第530図　３区47・48・51・52・55・57号溝



第531図　3区52号溝出土遺物

第227表　3区52号溝出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第531図	1	常滑陶器 甕	体部上位片か					//灰白～黄橙	一部の断面中央は灰色、灰白、黄橙色の縞状を呈する。外面は木口状工具による撫で。内面は指頭圧痕状の凹凸残る。残存部外面上端に自然釉が斑状にかかる。	中世。121・117上、11井、27・29・52溝出土片と同一個体の可能性高い。
第531図	2	常滑陶器 甕	体部片					//灰白～黄橙	一部の断面中央は灰色、灰白、黄橙色の縞状を呈する。外面は木口状工具による撫で。内面は板状工具による横位撫で。	中世。121・117上、11井、27・29・52溝出土片と同一個体の可能性高い。
第531図	3	常滑陶器 甕	体部片					//灰白～黄橙	一部の断面中央は灰色、灰白、黄橙色の縞状を呈する。外面は木口状工具による撫で。内面は板状工具による横位撫で。内面下位に自然釉斑状にかかる。	中世。121・117上、11井、27・29・52溝出土片と同一個体の可能性高い。
第531図	4	在地系土器 片口鉢	口縁部片					B//灰	口縁部は開く。口縁端部は幅広く平坦気味であるが、浅い凹線2条が巡るような形状をなす。口縁端部は内側に突き出る。	15世紀前半～後半頃。
第531図 PL.215	5	在地系土器 内耳鍋	1/5					B//橙～浅黄褐	口縁部は短く外反し、上部は内湾気味に立ち上がる。口縁端部内面は明瞭な稜をなして突き出る。体部下位は丸味を持つ。体部外面は木口状工具による横位撫で。体部内面は横位撫での後、口縁部下のみ斜位撫で。口縁部は横撫で。体部外面下端は撫無で。外面に煤付着。	14世紀後半～15世紀中頃。

３　２号区画遺構

この区画は、29～31号溝によって方形に囲まれている。溝の内側規模で南北約16m、東西約18mである。ただし、区画の外側であっても関連性が高いものもあり、調査区の南北両壁までの範囲に分布する遺構も、ここで含めて扱うこととした。

（１）土坑

土坑58基が検出された。区画溝自体を意識した分布状況にあるが、区画内部に位置するものは少ない。形態別に分類すると、以下のとおりとなる。

方形	1
長方形	1
隅丸方形	5
隅丸長方形	2
円形	10
楕円形	31
長楕円形	3
不明・不詳	5
計	58基

平面形は楕円形が最も多く、円形・長楕円形も含めると44基である。形態の不明・不詳を除くと、全体の83％を占めている。分布を見ると、２号区画遺構を区画する29～31号溝と重複するか、近接するものが多い。主軸方位もほとんどが並行方向にあり、溝を意識していると見なされる。溝との新旧関係が判明するものは、後出する153号土坑１基である。この土坑は円形で深く、同様なものは107号土坑のみである。円形の149・150・175号土坑の３基と、楕円形の151・152・168・174B・176号土坑の５基、長楕円形の148号土坑は、29号溝の外側であり、区画と関連する可能性は低い。区画内部に分布する楕円形の土坑は３基で、91・114号土坑は主軸方位が区画と大きくずれる。周辺の掘立柱建物に近く、これに関連する可能性が高い。83号土坑は攪乱により検討資料に欠ける。

残る土坑９基は、形態とは別に分布で傾向が分かれる。長方形の87号土坑や隅丸方形の74・89・169号土坑、隅丸長方形の14号土坑は、区画溝と並走する位置で近接する。方形の100号土坑や、隅丸方形の101・136号土坑は、いずれも区画溝より後出で、主軸方位が溝方位とずれて整合性がない。溝は意識していないが、分布する位置は一致している。残る隅丸方形の102号土坑は、区画の内部にあるが、区画との関連は不明である。30・31号溝間の空間（通路）の正面であることは考慮されよう。

73号土坑（第533図、ＰＬ.148）

位置　15Ｑ－２グリッド

平面形は長楕円形。壁は斜めに立ち上がる。底面は凸凹する。埋没状況不詳。規模は長径148cm短径78cm深さ20cmである。

74号土坑（第533図、ＰＬ.148）

位置　15Ｒ－２グリッド

状況から28号溝より後出。平面形は隅丸方形。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面はほぼ平坦。埋没土は砂質で、埋没状況不詳。規模は長軸68cm短軸54cm深さ12cmである。

75号土坑（第533・537図、ＰＬ.148、第228表）

位置　15Ｒ－２グリッド

状況から86号住居、28号溝より後出。平面形は楕円形。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面はほぼ平坦。住居と重複するため、埋没土に焼土が目立つ。埋没状況不詳。規模は長径90cm短径65cm深さ28cmである。中央部で第537図１の須恵器羽釜が出土する。重複する86号住居の時期と一致するため、混入した可能性が高い。時期の比定はできない。

77号土坑（第533図、ＰＬ.148）

位置　15Ｒ－３グリッド

76号土坑と重複するが新旧関係不明で、86号住居より後出。平面形はやや歪んだ楕円形。壁は斜めに立ち上がる。底面はほぼ平坦。埋没状況不詳。規模は長径91cm短径66cm深さ13cmである。

78号土坑（第533図、ＰＬ.148）

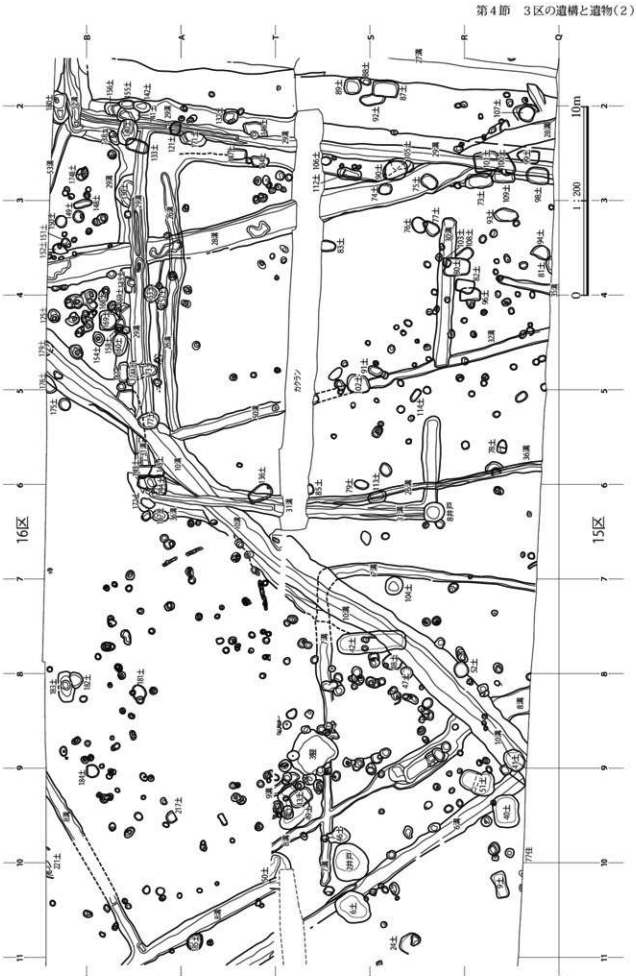
位置　15Ｑ－５グリッド

平面形は楕円形。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面はほぼ平坦で、西半部は１段下がる。埋没状況不詳。規模は長径72cm短径50cm深さ19cmである。

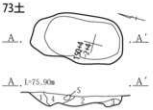
81号土坑（第533図、ＰＬ.148）

位置　15Ｑ－３グリッド

94号土坑と重複するが新旧関係不明。平面形は不整楕円形。壁は緩やかに立ち上がる。底面は凸凹する。埋没状況不詳。規模は長径102cm短径68cm深さ５cmである。

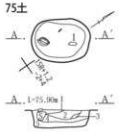


第532図　3区2号区画遺構と西側周辺部

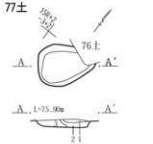


73号土坑
1　暗褐色土　黒褐色土ブロックを含む。
2　暗褐色土　ローム粒子を含む。
3　褐色土　ローム主体の層。
4　暗褐色土　ローム粒子を微量含む。

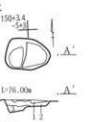
74号土坑
1　炭褐色土　砂粒を含む。



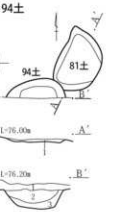
75号土坑
1　黒褐色土　ロームブロック、焼土粒子を少量含む。
2　暗褐色土　焼土粒子、ローム粒子を含む。炭化物粒子を微量含む。
3　暗褐色土　ロームブロックを含む。
4　暗褐色土　炭化物粒子、焼土ブロックを多く含む。
5　暗褐色土　ローム粒子を微量含む。



77号土坑
1　黒褐色土　粘性やや弱い。
2　黒褐色土　粘性やや弱い。ローム粒子を含む。
3　黒褐色土　粘性やや弱い。ローム粒子、軽石を含む。

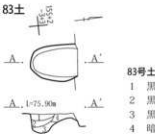


78号土坑
1　暗褐色土　炭化物を含む。
2　暗褐色土　軽石を微量含む。
3　褐色土　ローム主体の層。

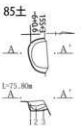


81号土坑
1　暗褐色土　ローム粒子を含む。

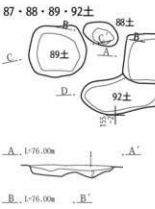
94号土坑
1　暗褐色土　しまり弱い、軽石を微量含む。
2　暗褐色土　しまり弱い、炭化物粒子を含む。
3　暗褐色土　しまり弱い、ローム粒子を含む。



83号土坑
1　黒褐色土　軽石を含む。
2　黒褐色土　ローム粒子を多く含む。
3　黒褐色土　ローム粒子を含む。
4　暗褐色土　ローム粒子を少量含む。



85号土坑
1　暗褐色土　軽石を少量含む。
2　黒褐色土　軽石を少量含む。
3　暗褐色土　軽石を多く含む。

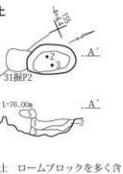


87号土坑
1　暗褐色土　ローム粒子、軽石を微量含む。
2　黒褐色土　ロームブロック、ローム粒子、軽石を少量含む。

88号土坑
1　暗褐色土　ローム粒子を微量含む。

89号土坑
1　暗褐色土　ローム粒子を微量含む。

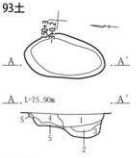
92号土坑
1　暗褐色土　炭化物粒子を微量、ローム粒子を少量含む。
2　暗褐色土　炭化物粒子を多量、軽石を少量含む。
3　暗褐色土　炭化物粒子を含む。
4　暗褐色土　炭化物粒子を多く含む。
5　暗褐色土　ローム粒子を含む。



91号土坑
1　黒褐色土　ロームブロックを多く含む。
2　黒褐色土　ロームブロック、ローム粒子を含む。
3　暗褐色土　ローム粒子を少量含む。

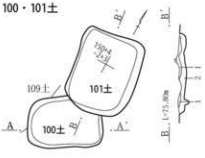
0　1:60　2m

第533図　３区 73 ～ 75・77・78・81・83・85・87 ～ 89・91・92・94 号土坑



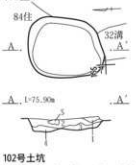
93号土坑
1　暗褐色土　ローム粒子を含む。
2　暗褐色土　粘性やや強い。
3　黒褐色土　しまり弱い。
4　暗褐色土　しまり強い。ローム粒子を多く含む。
5　褐色土　しまり弱い。ローム粒子を多く含む。

99号土坑
1　暗褐色土　軟らかくて粘性あり。ローム粒子を含む。
2　暗褐色土　軟らかくて粘性あり。黄白色粘質土ブロックを含む。
3　暗褐色土　やや硬く粘性あり。ローム粒子を含む。
4　黄褐色土　やや硬く粘性あり。暗褐色土を少量含む。

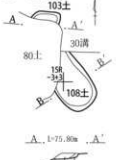


100号土坑
1　黄白色土　やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土主体の層。
2　暗褐色土　軟らかくて粘性あり。ローム粒子を含む。
3　黄褐色土　軟らかくて粘性あり。黄白色粘質土ブロックと暗褐色土の混土。
4　暗褐色土　軟らかくて粘性あり。ローム粒子を含む。

101号土坑
1　暗褐色土　軟らかくてしまり良い。黄白色粘質土と暗褐色土の混土。
2　暗褐色土　軟らかくてしまり良い。粘性あり。ローム粒子を少量含む。

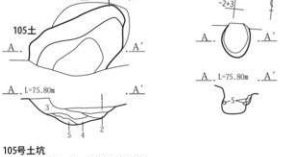


102号土坑
1　暗褐色土　軟らかくて粘性あり。ローム粒子を含む。
2　暗褐色土　やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子を含む。
3　暗褐色土　軟らかくて粘性あり。黄白色粘質土ブロックを含む。
4　黄白色土　やや硬く粘性あり。暗褐色土を含む。

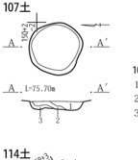


103号土坑
1　暗褐色土　浅間B軽石、焼土粒子、白色軽石を少量含む。
2　暗褐色土　ローム粒子を少量含む。

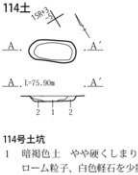
108号土坑
1　暗褐色土　しまり弱い。ローム粒子を少量含む。



105号土坑
1　黒褐色土　ローム粒子を含む。
2　褐色土　ロームブロックを含む。
3　暗褐色土　しまりやや強い。
4　黒褐色土　ローム粒子、浅間B軽石を含む。
5　暗褐色土　ローム粒子、ロームブロックを含む。

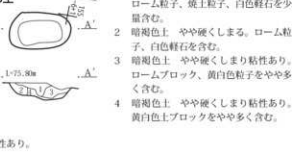


107号土坑
1　暗褐色土　しまり強い。ローム粒子を少量、粘土ブロックを含む。
2　暗褐色土　しまり強い。白色軽石を少量含む。
3　暗褐色土　しまり強い。ローム粒子を含む。



114号土坑
1　暗褐色土　やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、白色軽石を少量含む。
2　茶褐色土　やや硬い。

121号土坑
1　暗褐色土　やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子を含む。



113号土坑
1　暗褐色土　やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、焼土粒子、白色軽石を少量含む。
2　暗褐色土　やや硬くしまる。ローム粒子、白色軽石を含む。
3　暗褐色土　やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、黄白色粒子をやや多く含む。
4　暗褐色土　やや硬くしまり粘性あり。黄白色土ブロックをやや多く含む。

0　1:60　2m

第534図　3区 93・99 ～ 103・105 ～ 108・113・114・121 号土坑

83号土坑(第533図、ＰＬ.148)

位置　15Ｓ－３グリッド

北半部は攪乱で消滅するが、平面形は楕円形か。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は凸凹する。自然埋没か。規模は長径76cm短径60cm深さ28cmである。

85号土坑(第533図、ＰＬ.148)

位置　15Ｓ－６グリッド

北半部は攪乱で消滅するが、平面形は円形か。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面はほぼ平坦。埋没状況不詳。規模は長径54cm短径31cm深さ15cmである。

87号土坑(第533図、ＰＬ.149)

位置　15Ｒ－１グリッド

27号溝より後出か。92号土坑と重複するが新旧関係不明。平面形は整った長方形。壁は斜めに立ち上がる。底面は凸凹する。埋没状況不詳。規模は長軸135cm短軸80cm深さ18cmである。

88号土坑(第533図、ＰＬ.149)

位置　15Ｒ・Ｓ－１グリッド

27号溝と重複するが新旧関係不明。平面形は楕円形。壁は斜めに立ち上がる。底面はやや凸凹する。埋没状況不詳。規模は長径55cm短径35cm深さ13cmである。

89号土坑(第533図、ＰＬ.149)

位置　15Ｓ－１グリッド

平面形は隅丸方形。主軸方位はＮ－０°。壁は斜めに立ち上がる。底面はやや凸凹する。埋没状況不詳。規模は長径92cm短径85cm深さ15cmである。

91号土坑(第533・537図、ＰＬ.149・215、第228表)

位置　15Ｒ・Ｓ－４グリッド

31号掘立柱建物Ｐ２と重複するが新旧関係不明。平面形は楕円形。壁は斜めに立ち上がる。底面は丸みがある。埋没土はロームブロックが目立ち人為埋没か。規模は長径78cm短径47cm深さ25cmである。底面で第537図２・３の銅銭が出土する。出土遺物から中世に比定される。

92号土坑(第533図、ＰＬ.149)

位置　15Ｒ・Ｓ－１グリッド

87号土坑と重複するが新旧関係不明。平面形は不整楕円形。壁は斜めに立ち上がる。底面はやや凸凹する。埋没状況不詳。規模は長径135cm短径60cm深さ17cmである。

93号土坑(第534図、ＰＬ.149)

位置　15Ｑ－３グリッド

平面形は楕円形。壁は斜めに立ち上がる。底面はほぼ平坦。南半部はやや凹むが、風倒木の影響もある。埋没状況不詳。北端部に拳大の円礫５点が出土する。規模は長径128cm短径68cm深さ37cmである。

94号土坑(第533図、ＰＬ.149)

位置　15Ｑ－３グリッド

81号土坑と重複するが新旧関係不明。南半部は調査区域外となるが平面形は楕円形か。壁は斜めに立ち上がる。底面はほぼ平坦。自然埋没か。規模は長径92cm短径33cm深さ40cmである。

99号土坑(第534図、ＰＬ.149)

位置　15Ｑ－２グリッド

29号溝と重複するが新旧関係不明。平面形はほぼ楕円形。壁は斜めに立ち上がる。底面は凸凹する。埋没状況不詳。29号溝と重複する部分で拳大の円礫が多く出土する。どちらの遺構に帰属するものか不明。規模は長径165cm短径118cm深さ13cmである。

100号土坑(第534図、ＰＬ.149)

位置　15Ｑ－２グリッド

28・29号溝より後出か。平面形は不整方形か。壁は緩やかに立ち上がる。底面は丸みがある。埋没状況不詳。規模は長軸118cm短軸83cm深さ20cmである。

101号土坑(第534図、ＰＬ.150)

位置　15Ｑ－２グリッド

28・29号溝より後出か。平面形は隅丸方形。主軸方位はＮ－10°－Ｗ。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は平坦。埋没状況不詳。規模は長軸132cm短軸103cm深さ13cmである。

102号土坑(第534図)

位置　15Ｓ－４・５グリッド

84号住居より前出で、32号溝と重複するが新旧関係不明。平面形はほぼ隅丸方形。壁は斜めに立ち上がる。底面はやや凸凹する。埋没状況不詳。規模は長軸118cm短軸95cm深さ19cmである。

103号土坑(第534図、ＰＬ.150)

位置　15Ｒ－３グリッド

80号土坑より前出で、30号溝より後出。平面形不詳。壁は斜めに立ち上がる。底面はほぼ平坦。埋没土は浅間Ｂ軽石を含み、埋没状況不詳。規模は長軸48cm短軸42cm深さ８cmである。

105号土坑（第534図、ＰＬ.150）

位置　15Ｒ－２グリッド

90号土坑より前出か。29号溝と重複するが新旧関係不明。平面形は不整楕円形か。壁は斜めに立ち上がる。底面は丸みがある。浅間Ｂ軽石を含み、自然埋没か。規模は長径148cm短径100cm深さ26cmである。

106号土坑（第534図、ＰＬ.150）

位置　15Ｓ－２グリッド

29号溝と重複するが新旧関係不明。北側一部は攪乱により消滅するが、平面形は円形か。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は平坦。埋没状況不詳。壁面に沿って底面から円礫がやや多く出土する。規模は長径54cm短径45cm深さ25cmである。

107号土坑（第534図、ＰＬ.150）

位置　15Ｑ－２グリッド

28号溝より後出か。平面形は整った円形。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は凸凹する。埋没土に粘土ブロックを含む。人為埋没か。形態から桶を埋設した可能性がある。規模は長径85cm短径82cm深さ13cmである。

108号土坑（第534図、ＰＬ.150）

位置　15Ｑ・Ｒ－３グリッド

80号土坑より前出と思われ、北半部は重複により消滅する。平面形は楕円形か。壁は斜めに立ち上がる。底面はほぼ平坦。埋没状況不詳。規模は長径95cm短径58cm深さ５cmである。

113号土坑（第534図、ＰＬ.150）

位置　15Ｒ・Ｓ－６グリッド

26号溝と重複するが新旧関係不明。平面形はほぼ楕円形。壁は斜めに立ち上がる。底面は丸みがある。埋没土はロームブロックが目立ち人為埋没か。規模は長径98cm短径58cm深さ27cmである。

114号土坑（第534図、ＰＬ.150）

位置　15Ｒ－４・５グリッド

平面形は楕円形。壁は斜めに立ち上がる。底面はほぼ平坦。埋没状況不詳。規模は長径74cm短径32cm深さ７cmである。

121号土坑（第534・537図、ＰＬ.151、第228表）

位置　16Ａ－２グリッド

29号溝と重複するが新旧関係不明。平面形は楕円形。壁は緩やかに立ち上がる。底面は丸みがある。埋没状況不詳。規模は長径72cm短径53cm深さ８cmである。確認面近くから第537図４の常滑窯系陶器甕が出土する。出土遺物から中世に比定される。

130号土坑（第535図、ＰＬ.151）

位置　16Ａ－２・３グリッド

29号溝と重複するが新旧関係不明。平面形は円形か。壁は緩やかに立ち上がる。底面は凸凹する。埋没状況不詳。規模は長径177cm短径93cm深さ20cmである。

132号土坑（第535図、ＰＬ.151）

位置　15Ｔ－２グリッド

29号溝と重複するが新旧関係不明。平面形はほぼ円形。壁は斜めに立ち上がる。底面は凸凹する。埋没土はロームブロックを多量に含み人為埋没。規模は長径77cm短径77cm深さ13cmである。

135号土坑（第535図、ＰＬ.151）

位置　16Ａ－３グリッド

29号溝と重複するが新旧関係不明。平面形は楕円形か。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は凸凹し三段に分かれる。別の土坑が重複する可能性もある。埋没土はロームブロックが目立ち人為埋没か。規模は長径85cm短径37cm深さ28cmである。

136号土坑（第535図、ＰＬ.151）

位置　15Ｔ－５・６グリッド

26・31号溝より後出と思われる。平面形は隅丸長方形。主軸方位はＮ－31°－Ｗ。断面形は皿状。壁は斜めに立ち上がる。底面は凸凹する。埋没状況不詳。規模は長軸133cm短軸78cm深さ13cmである。

138号土坑（第535図、ＰＬ.151）

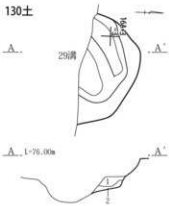
位置　16Ａ－２グリッド

29号溝と重複するが新旧関係不明。平面形は楕円形。壁は斜めに立ち上がる。底面は丸みがある。埋没状況不詳。規模は長径78cm短径46cm深さ57cmである。

140号土坑（第535図、ＰＬ.151）

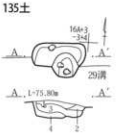
位置　16Ａ－２グリッド

133号土坑より前出で、141号土坑、29号溝と重複するが新旧関係不明。平面形は楕円形。壁は斜めに立ち上がる。底面は丸みがある。埋没土はロームブロックが目立ち人為埋没か。上位に集中して廃棄される円礫は、埋没後と考えられる。規模は長径138cm短径100cm深さ48cmである。



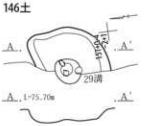
130号土坑
1　暗褐色土　軽石多い。
2　黒褐色土　しまり弱い。ローム粒子を多く含む。

132号土坑
1　黒褐色土　しまり、粘性強い。
2　黒褐色土　ロームブロックを多く含む。



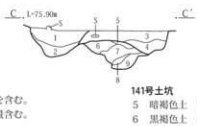
135号土坑
1　暗褐色土　軟らかく粘性あり。ロームブロック、黄白色粘質土ブロックをやや多く含む。
2　暗褐色土　軟らかく粘性あり。ローム粒子を少量含む。
3　暗褐色土　軟らかく粘性あり。ロームブロック、黄白色粘質土ブロックを含む。
4　黄白色土　軟らかく粘性非常にあり。暗褐色土をやや多く含む。

136号土坑
1　暗褐色土　軟らかくてしまり良い。粘性あり。ローム粒子を少量含む。
2　暗褐色土　軟らかく粘性あり。ロームブロックをやや多く含む。



138号土坑
1　黒褐色土　しまり弱い。ロームブロック、ローム粒子を含む。
2　黒褐色土　しまりやや弱い。ローム粒子を少量含む。

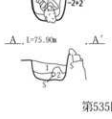
140号土坑
1　暗褐色土　しまり強い。浅間Ｂ軽石、ローム粒子、焼土粒子を含む。
2　暗褐色土　しまりやや弱い。ローム粒子、軽石を含む。
3　暗褐色土　しまり強い。ロームブロックを多く含む。
4　褐色粘質土　ローム主体の層。
5　暗褐色粘質土　ロームブロックを含む。
6　暗褐色粘質土　ロームブロックを多く含む。

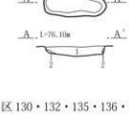


142号土坑
1　黒褐色土　ロームブロックを含む。
2　黒褐色土　ローム粒子を微量含む。

156号土坑
3　暗褐色土　しまり強い。ローム粒子を少量含む。
4　暗褐色土　しまり弱い。ロームブロックを多く含む。

141号土坑
5　暗褐色土　しまりやや弱い。ロームブロックを含む。
6　黒褐色土　しまりやや弱い。ローム粒子を含む。
7　暗褐色土　しまり強い。赤褐色土ブロック、ローム粒子を含む。
8　暗褐色土　しまりやや弱い。砂質土、ロームブロックを含む。
9　暗褐色土　粘性あり。ローム粒子、ロームブロック、砂質土を少量含む。





147号土坑
1　黄褐色土　軟らかくてしまり良い。粘性あり。ローム、黄白色粘質土と暗褐色土の混土。
2　黄白色土　やや硬くしまり粘性非常にあり。暗褐色土を少量含む。

148号土坑
1　暗褐色土　軟らかくて粘性あり。炭化物をやや多く含み、ローム粒子を少量含む。
2　茶褐色土　軟らかくて粘性あり。炭化物粒子を少量含む。

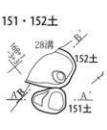
0　1:60　2m

第535図　３区 130・132・135・136・138・140 ～ 142・146 ～ 148・155・156号土坑

149土

150土

151・152土



153土

149号土坑

1　暗褐色土　軟らかくて粘性あり。ロームブロックを含む。

150号土坑

1　暗褐色土　軟らかくてしまり良い。焼土粒子、白色粒子を少量含む。
2　暗褐色土　軟らかくてしまり良い。粘性あり。ローム粒子を含む。１層よりも明るい色調。

151号土坑

1　暗褐色土　やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、白色軽石を少量含む。
2　暗褐色土　やや硬くしまり粘性あり。ロームブロックを含む。

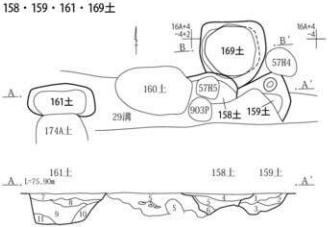
152号土坑

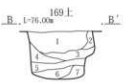
1　暗褐色土　やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、白色軽石を少量含む。
2　暗褐色土　やや硬くしまり粘性あり。ロームブロックを含む。

153号土坑

1　灰褐色土　やや硬くしまり粘性あり。焼土粒子、ローム粒子をごく少量含む。
2　暗褐色土　やや硬くしまり粘性非常にあり。黄白色粘質土粒子を少量含む。

158・159・161・169土





159号土坑

1　暗褐色土　しまりやや弱い。ローム粒子を少量、軽石を微量含む。
2　暗褐色土　しまりやや弱い。ローム粒子、軽石を含む。
3　暗褐色土　しまりやや弱い。ロームブロック、軽石を含む。

158号土坑

4　暗褐色土　しまりやや弱い。浅間Ｂ軽石、ローム粒子を少量含む。
5　暗褐色土　しまり強い。軽石を微量、ローム粒子を少量、焼土粒子を含む。
6　暗褐色土　しまり強い。ローム粒子、軽石を含む。

161号土坑

7　暗褐色土　しまり弱い。ローム粒子を微量含む。
8　暗褐色土　12層に近いが、若干ローム粒子が多い。
9　暗褐色土　しまり弱い。ローム粒子、白色粘土粒子を含む。
10　暗褐色土　しまりやや弱い。白色粘土粒子、白色粘土ブロックを含む。
11　暗褐色土　15層に近いが、白色粘土ブロックを多く含む。

169号土坑

1　暗褐色土　しまり強い。浅間Ｂ軽石、ローム粒子、ロームブロック、白色粘土粒子を含む。
2　黒褐色土　浅間Ｂ軽石、ローム粒子を含む。
3　黒褐色土　しまり強い。白色粘土ブロック、白色粘土粒子を含む。
4　黒褐色土　しまり強い。白色粘土粒子を含む。
5　黒褐色土　３層より粘土粒子が少ない。
6　暗褐色土　しまり強い。白色粘土ブロックを多く含む。
7　黒褐色土　しまりやや弱い。白色粘土粒子を微量含む。

167土

168土

167号土坑

1　黒褐色土　しまりやや弱い。ローム粒子、白色粘土粒子を含む。
2　黒褐色土　しまりやや弱い。白色粘土粒子を微量含む。
3　黒褐色土　しまりやや弱い。軽石、ロームブロックを含む。
4　黒褐色土　しまりやや弱い。白色粘土粒子を含む。
5　黒褐色土　しまりやや弱い。ロームブロックを含む。

168号土坑

1　黒褐色土　しまりやや弱い。軽石を微量含む。
2　黒褐色土　しまりやや弱い。白色粘土ブロックを多く含む。

0　1:60　2m

第536図　３区 149・150 ～ 153・158・159・161・167 ～ 169号土坑

141号土坑（第535図、ＰＬ.151）

位置　16Ａ－２グリッド

142・156号土坑より前出で、140・155号土坑、29号溝と重複するが新旧関係不明。平面形は楕円形か。壁は斜めに立ち上がる。底面は丸みがある。埋没状況不詳。規模は長径115cm短径72cm深さ43cmである。

142号土坑（第535図、ＰＬ.151）

位置　16Ａ－１・２グリッド

141号土坑より後出で、155号土坑、29号溝と重複するが新旧関係不明。平面形は楕円形。壁は斜めに立ち上がる。底面は丸みがある。自然埋没か。規模は長径90cm短径58cm深さ43cmである。

146号土坑（第535図、ＰＬ.152）

位置　15Ｔ－２グリッド

29号溝と重複するが新旧関係不明。西半部は重複により不明となるが、不整円形か。壁は緩やかに立ち上がる。底面は凸凹する。埋没状況不詳。規模は長径142cm短径65cm深さ37cmである。

147号土坑（第535図）

位置　15Ｔ－２グリッド

29号溝と重複するが新旧関係不明。平面形は隅丸長方形。主軸方位はＮ－０°。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は丸みがある。埋没土は黄褐色土で人為埋没。確認面で大円礫がやや多く出土するが、埋没後と考えられる。規模は長軸102cm短軸58cm深さ27cmである。

148号土坑（第535図、ＰＬ.152）

位置　15Ａ・Ｂ－２・３グリッド

平面形は長楕円形。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面はほぼ平坦。埋没土は炭化物を多く含む。埋没状況不詳。規模は長径97cm短径40cm深さ15cmである。

149号土坑（第536図、ＰＬ.152）

位置　16Ｂ－３グリッド

平面形は円形。壁は斜めに立ち上がる。底面はほぼ平坦。埋没状況不詳。規模は長径62cm短径58cm深さ10cmである。

150号土坑（第536図、ＰＬ.152）

位置　16Ｂ－３グリッド

平面形は円形。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面はほぼ平坦。埋没状況不詳。規模は長径60cm短径60cm深さ20cmである。

151号土坑（第536図、ＰＬ.152）

位置　16Ｂ－３グリッド

平面形は不整楕円形。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面はほぼ平坦。埋没状況不詳。規模は長径55cm短径43cm深さ18cmである。

152号土坑（第536図、ＰＬ.152）

位置　16Ｂ－３グリッド

28号溝と重複するが新旧関係不明。西半部は重複により不明となるが平面形は楕円形か。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面はほぼ平坦で、一部ピット状に凹む。埋没状況不詳。規模は長径70cm短径55cm深さ22cmである。埋没土から中世以降の土器・焼人骨が出土する（第４章参照）。人骨は混入とみられる。時期は中世以降である。

153号土坑（第536図、ＰＬ.152）

位置　16Ａ－３・４グリッド

29号溝より後出で、157号土坑と重複するが新旧関係不明。平面形は円形。壁は斜めに立ち上がる。底面は丸みがある。埋没状況不詳。規模は長径90cm短径85cm深さ30cmである。

155号土坑（第535図、ＰＬ.151）

位置　16Ａ－１・２グリッド

141・142・156号土坑、29号溝と重複するが新旧関係不明。平面形は楕円形。壁形状不詳。底面は丸みがある。埋没状況不詳。規模は長径77cm短径47cm深さ39cmである。

156号土坑（第535図、ＰＬ.151）

位置　16Ａ－１・２グリッド

142号土坑より前出で、141号土坑より後出。155号土坑、29号溝と重複するが新旧関係不明。平面形不詳。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面はやや凸凹する。埋没状況不詳。規模は長軸70cm短軸65cm深さ35cmである。

158号土坑（第536図、ＰＬ.151）

位置　16Ａ－４グリッド

159・160号土坑より後出で、57号掘立柱建物Ｐ５、903号ピット、29号溝と重複するが新旧関係不明。大部分が重複により不明となる。平面形不詳。壁は緩やかに立ち上がる。底面は凸凹する。埋没状況不詳。規模は長軸73cm短軸48cm深さ32cmである。

159号土坑（第536図、ＰＬ.151）

位置　16Ａ－４グリッド

158号土坑より前出で、29号溝と重複するが新旧関係不

明。大部分が重複により不明となる。平面形不詳。壁は斜めに立ち上がる。底面は凸凹する。埋没状況不詳。規模は長軸80cm短軸77cm深さ32cmである。

161号土坑（第536図、ＰＬ.152）

位置　16Ａ－４グリッド

174Ａ号土坑と重複するが新旧関係不明。平面形は長楕円形。壁はほぼ垂直に立ち上がる。埋没土は白色粘土ブロックが目立ち人為埋没か。規模は長径107cm短径48cm深さ47cmである。

167号土坑（第536図、ＰＬ.152）

位置　16Ａ－６グリッド

36号溝と重複するが新旧関係不明。平面形は楕円形。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面はほぼ平坦。埋没状況不詳。規模は長径82cm短径60cm深さ27cmである。

168号土坑（第536図）

位置　16Ａ－３・４グリッド

57号掘立柱建物Ｐ３より後出。平面形は楕円形。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は一部ピット状に凹む。埋没状況不詳。規模は長径50cm短径47cm深さ58cmである。

169号土坑（第536図）

位置　16Ａ－４グリッド

158号土坑と重複するが新旧関係不明。上面の平面形は隅丸方形で、主体部は円形。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は丸みがある。埋没土は白色粘土ブロックが目立ち人為埋没。規模は長軸105cm短軸103cm深さ75cmである。埋没土から火葬人骨が出土する（第４章参照）が、混入とみられる。

172号土坑（第537図、ＰＬ.152・215、第228表）

位置　16Ａ－６グリッド

36号溝と重複するが新旧関係不明。平面形は不整楕円形。壁はややオーバーハングする。底面は丸みがある。埋没土は黄白色土ブロックが目立ち人為埋没。中位で人頭大の円礫が投棄される。規模は長径72cm短径47cm深さ20cmである。南壁近くから第537図５の銅銭が出土する。出土遺物から中世に比定される。

174Ｂ号土坑（第537図）

位置　16Ｂ－２グリッド

883号ピットと重複するが新旧関係不明。平面形は楕円形。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は凸凹して二段に分かれる。埋没状況不詳。規模は長径62cm短径55cm深さ25cmである。

175号土坑（第537図、ＰＬ.152）

位置　16Ｂ－５グリッド

平面形は円形。壁は斜めに立ち上がる。底面は丸みがある。埋没土中の焼土は109号住居カマドからの混入か。規模は長径65cm短径60cm深さ15cmである。

176号土坑（第537図、ＰＬ.153）

位置　16Ｂ－４・５グリッド

10号溝より後出。北半部が調査区域外となるが、平面形は楕円形か。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は丸みがある。自然埋没か。規模は長径90cm短径55cm深さ35cmである。

177号土坑（第537図、ＰＬ.153）

位置　16Ａ－５グリッド

10・29号溝と重複するが新旧関係不明。平面形は楕円形。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は丸みがある。埋没土は黄白色土ブロックが目立ち人為埋没か。規模は長径112cm短径86cm深さ60cmである。

179号土坑（第537図、ＰＬ.153）

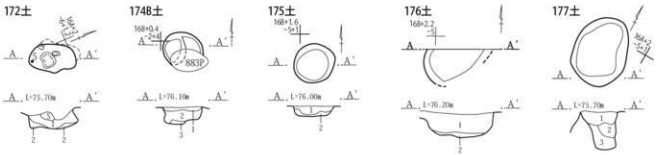
位置　16Ｂ－４グリッド

10号溝より後出。北半部は調査区域外となるが、平面形不詳。壁はほぼ垂直に立ち上がる。埋没土２層の上面で層境が明瞭である。２層は灰褐色土と暗褐色土が互層堆積しており、充填土に見える。土坑は開口して使われていた可能性が高い。埋没土１も均質であり、人為埋没と思われる。規模は長軸不明で、短軸75cm深さ80cmである。

180号土坑（第537図、ＰＬ.153）

位置　16Ｂ－１・２グリッド

52号溝と重複するが新旧関係不明。北側は一部調査区域外となるが、平面形は楕円形か。東壁はほぼ垂直に立ち上がり、西壁は斜めに立ち上がる。底面は凸凹して、東側は丸く凹む。埋没土は均質で人為埋没か。埋没土３層は白色粘土を主体としており、底面を平坦に埋めていた可能性がある。規模は長径175cm短径85cm深さ90cmである。



172号土坑

1　暗褐色土　やや硬くしまり粘性非常にあり。黄白色粘質土ブロックを少量含む。

2　暗褐色土　軟らかくて粘性非常にあり。黄白色粘質土ブロックをやや多く含む。

1748号土坑

1　暗褐色土　軟らかくてしまり良い。ローム粒子を少量含む。

2　暗褐色土　やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子を少量含む。１層よりも暗い色調。

3　茶褐色土　軟らかくて粘性あり。ローム主体の層。

175号土坑

1　暗褐色土　軟らかくてしまり良い。粘性あり。焼土粒子、ローム粒子、白色粒子を含む。

2　暗褐色土　軟らかくて粘性あり。ロームを含む。

176号土坑

1　暗褐色土　やや硬くしまる。ローム粒子、白色粒子を少量含む。

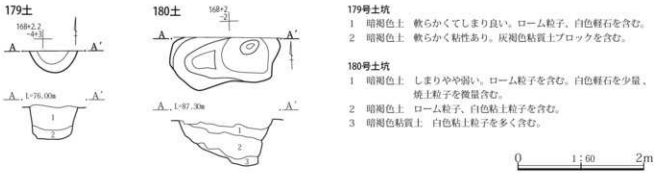
2　暗褐色土　軟らかく粘性あり。ロームブロックを含む。

177号土坑

1　暗褐色土　やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、黄白色粘質土ブロックを含む。

2　暗褐色土　軟らかくて粘性非常にあり。黄白色粘質土ブロックを含む。

3　黄白色土　やや硬くしまり粘性非常にあり。暗褐色土と黄白色粘質土ブロックとの混土。



179号土坑

1　暗褐色土　軟らかくてしまり良い。ローム粒子、白色軽石を含む。

2　暗褐色土　軟らかく粘性あり。炭褐色粘質土ブロックを含む。

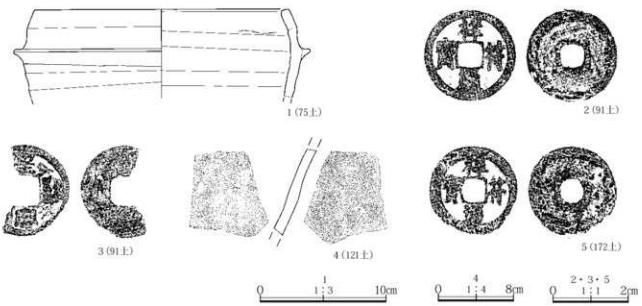
180号土坑

1　暗褐色土　しまりやや弱い。ローム粒子を含む。白色軽石を少量、焼土粒子を微量含む。

2　暗褐色土　ローム粒子、白色粘土粒子を含む。

3　暗褐色粘質土　白色粘土粒子を多く含む。

0　1:60　2m



第537図　３区 172・174B・175 ～ 177・179・180号土坑と土坑出土遺物

第228表　３区土坑出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第537図	1	須恵器 羽釜	75上 口縁部片	口	20.0			粗砂粒・輝石又は角閃石/還元焔/にぶい黄橙	ロクロ整形、回転は右回りか。鍔は後から貼付。	外面の一部に炭素吸着。
第537図 PL.215	2	金属製品 銭貨	91上 完形	径1 径2	24.3 24.4	厚 重	1.2 2.7		祥符通豊(初鋳年1009)、縁・文字・郭の彫も深く明瞭。裏面はやや平坦で巴縁・郭は明瞭。	
第537図 PL.215	3	金属製品 銭貨	91上 破片	径1 径2	17.2 24.3	厚 重	1.2 1.1		皇宋通宝(初鋳年1037)、劣化が著しいが文字は比較的明瞭宝の字部分が劣化破損する。裏面は平坦で縁・郭不明瞭。	
第537図	4	常滑陶器 甕	121上 体部片	口 底		高		//淡黄	外面器表はに示い橙色。外面は板状工具による縦位撫で。焼き締まり弱い。	中世。171上・11井戸出土片と同一個体の可能性高い。
第537図 PL.215	5	金属製品 銭貨	172上 ほぼ完形	径1 径2	23.7 23.5	厚 重	1.5 2.1		祥符通豊(初鋳年1009)、縁・文字・郭の輪郭はなだらかであまい。裏面は平坦で凹みで縁・郭が認識される程度。縁の一部は劣化によりわずかに破損する	

（２）石造物などが混入する土坑

６基が検出された。区画溝と主軸方位が一致し、重複あるいは近接する。形態は90号土坑が浅い円形である以外、長楕円形２基、隅丸長方形２基、隅丸台形１基で、形態は類似する。

90号土坑（第538～540図、ＰＬ.153・215、第229表）

位置　15Ｒ－２グリッド

区画溝29号溝の東辺および28号溝と重複し、確認状況から28・29号溝より後出。平面形は楕円形。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面はほぼ平坦。確認面で宝篋印塔基礎２基（第539図１・２）と同塔身（第540図３）が露呈していた。前者の一方（２）は正位の状態で埋まっていたが、下位に埋葬施設などは発見されていない。底面で第540図４の銅銭（政和通宝）も出土する。墓石類も含めて、埋没状況は不詳である。規模は長軸137cm短軸103cm深さ22cmである。骨類は出土していない。墓石類は廃棄されたとみられる。時期は中世以降である。

112号土坑（第538・540・541図、ＰＬ.153・215・216、第229表）

位置　15Ｓ－２グリッド

区画溝29号溝の東辺と重複するが新旧関係不明。平面形は隅丸長方形。主軸方位はＮ－10°－Ｅ。北壁は斜めに、その他はほぼ垂直に立ち上がる。底面は平坦。埋没土はロームブロックを多量に含み人為埋没。底面近くに２列の板碑（第540・541図５～７）が出土し、西側は２枚を重ねて並べている。うち２枚の外形はほぼ完存だが、表裏面とも剥離が著しく、梵字も不鮮明である。すべて表面は下向きに置かれ破片もないことから、土坑に埋められる以前にすでに破損していたものと言える。板碑は底面から５～10cm程度離れた状態ながら、全体として西壁側に傾斜している。板碑下位の埋没土と上位の埋没土に変化はない。なんらかの埋設物の上面に置かれたにしても、それが埋没後に崩落した場合の位置的なズレが少ない。したがって、底面に直接ではなく、少し埋まった状態で２列に並べて置かれた可能性が高い。規模は長軸127cm短軸63cm深さ25cmである。骨類は出土していない。時期は中世以降である。

134号土坑（第538図、ＰＬ.154）

位置　15Ｔ－２グリッド

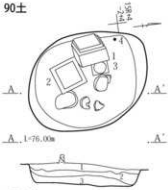
区画溝29号溝の東辺と重複し、礫の出土状況などから後出。平面形は隅丸台形。主軸方位はＮ－４°－Ｅ。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面はやや丸みを持つ。埋没土はロームブロックを多量に含み人為埋没。被熱した礫を含む多量の大～巨礫を含む。礫群は東側上端から西側へ堆積した状態で、断面観察面では中位に止まるが、全体としては底面近くに達する。本遺構は用途を終えた段階で、開口した状態で礫を廃棄する土坑として再利用されたか、あるいは当初から廃棄目的で掘削されたものと判断される。礫は東方向から投棄される。規模は長軸95cm短軸53cm深さ47cmである。骨類は出土していない。

157号土坑（第538・541図、ＰＬ.154・216、第229表）

位置　16Ａ－３・４グリッド

礫の出土状況などから153号土坑より前出か。26号溝、区画溝29号溝の北辺と重複するが新旧関係不明。平面形は長楕円形か。壁は斜めに立ち上がる。底面はほぼ平坦。埋没土は大円礫とロームブロックを多量に含み人為

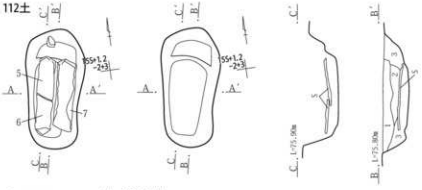
90土



90号土坑

1　灰褐色土　浅間Ｂ軽石を含む。
2　暗褐色土　しまりやや弱い。
3　黒褐色土　粘性強い。ローム粒子を含む。

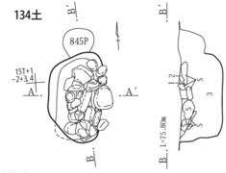
112土



112号土坑

1　暗褐色土　やや硬い。ロームブロック、ローム粒子を含む。
2　暗褐色土　軟らかい。ロームブロック、ローム粒子を多量に含む。
3　暗褐色土　軟らかくてしまり良い。ローム粒子、白色軽石を少量含む。

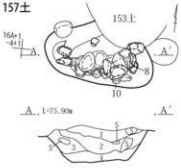
134土



134号土坑

1　暗褐色土　軟らかくてしまり良い。粘性あり。ローム粒子をやや多く含む。
2　黄白色土　軟らかく粘性非常にあり。ロームブロック、黄白色粘質土ブロックを多量に含む。
3　黄白色土　軟らかく粘性非常にあり。黒色土ブロック、シルト、ロームブロックを多量に含む。

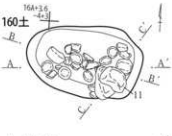
157土



157号土坑

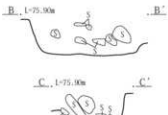
1　黒褐色土　しまり弱い。ローム粒子を少量、軽石を微量含む。
2　黒褐色土　ローム粒子を多く、ロームブロックを含む。
3　黒褐色土　しまり弱い。ローム粒子、焼土粒子を微量含む。
4　黒褐色土　しまり弱い。ロームブロックを多く含む。

160土

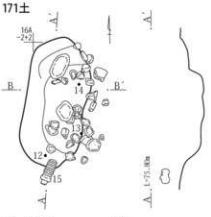


160号土坑

1　暗褐色土　しまりやや弱い。ローム粒子、軽石を多く含む。
2　暗褐色土　しまり弱い。軽石を少量、ローム粒子を含む。
3　暗褐色土　しまりやや弱い。ローム粒子、軽石を多く含む。全体的に明るい色調。



171土

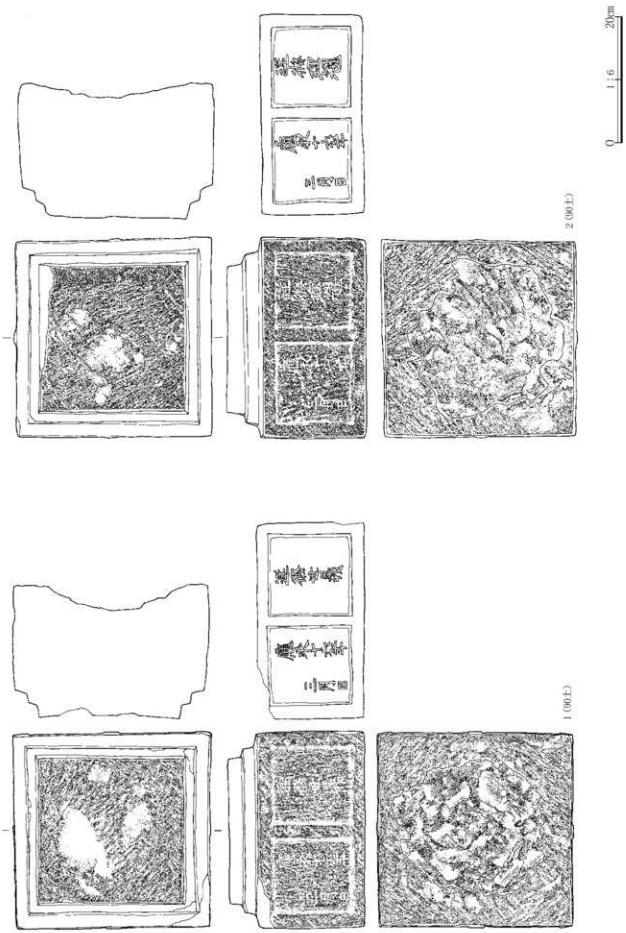


171号土坑

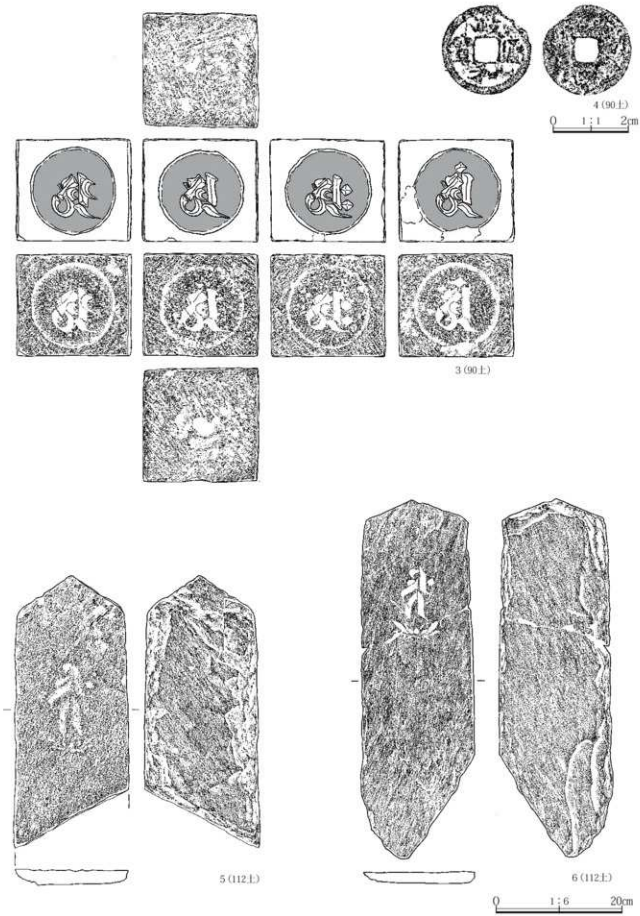
1　灰褐色土　軟らかく良くしまり粘性あり。ローム粒子少量含む。
2　暗褐色土　軟らかく非常に粘性あり。ロームブロック少量含む。
3　暗褐色土　軟らかく粘性あり。ローム・黄白色粘質土ブロック多量に含む。

0　1:40　1m

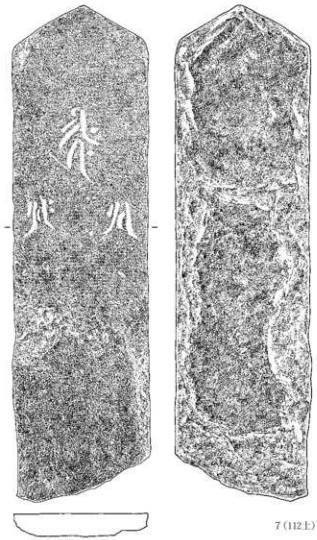
第538図　３区 90・112・134・157・160・171 号土坑



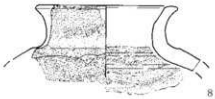
第559図　3区90号土坑出土遺物



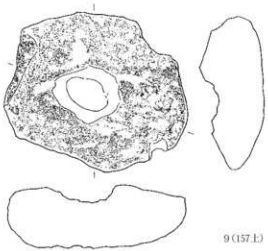
第540図　３区 90号土坑出土遺物　３区 90・112 号土坑出土遺物



7(112上)

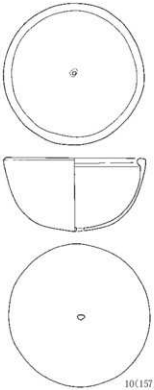


8(157上)

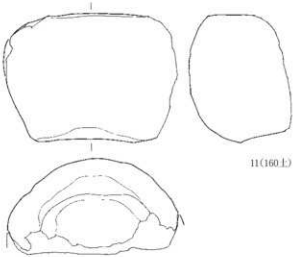


9(157上)

0　1:4　8cm



10(157上)



11(160上)

0　1:6　20cm

0　1:3　10cm

第541図　3区112・157・160号土坑出土遺物

埋没。南半部に大～巨礫が隙間なく出土するため、本来北半部にも広がっていたが、153号土坑により消滅したと思われる。円礫に混じって第541図８の在地系土器壺、同10の銅鈴が出土する。同９の板状礫は上面中央に凹みを持つ。８の壺の蓋とも考えたが、痕跡は認められない。規模は長軸117㎝短軸65㎝深さ40㎝である。骨類は出土していない。10の銅鈴は仏具である引磬（いんきん）の可能性もある。壺は口縁だけであるなど、遺物は原位置とは見なし難い。まとめて本土坑に廃棄されたとみられる。近くに埋納を伴う遺構の存在も考慮される。時期は中世以降である。

160号土坑（第538・541図、ＰＬ.216、第229表）

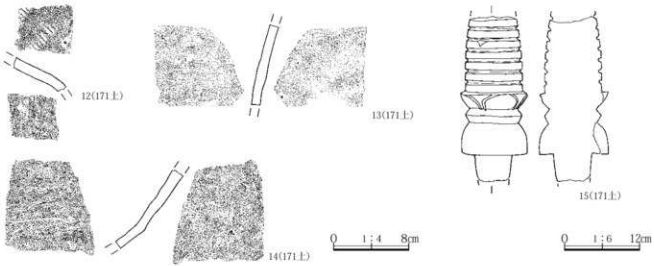
位置　16Ａ－４グリッド

158号土坑より前出で、区画溝29号溝の北辺と重複するが新旧関係不明。平面形は西辺の丸い隅丸長方形。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面はやや丸みがある。埋没土は詳細不明。北壁際を除き多量の大～巨礫を含む。一部に火を受けて赤く変色した礫が確認できる。出土位置不明ながら、焼骨が少量出土した。底面及び壁面に被熱痕跡は見られず、一次的な火葬跡の証左に欠ける。礫群は底面近くまで及ぶ。本遺構は用途を終えた段階で、開口した状態で礫を廃棄する土坑として再利用されたか、あるいは当初から廃棄目的で掘削されたものと判断される。規模は長軸123㎝短軸77㎝深さ35㎝である。火葬人骨は鑑定の結果（第４章第１節）、個体数・性別・死亡年齢とも不明である。確認面近くから第541図11の五輪塔水輪が出土する。時期は中世以降である。

171号土坑（第538・542図、ＰＬ.154・216、第229表）

位置　15Ｔ～16Ａ－２グリッド

区画溝29号溝の東辺より後出。平面形は長楕円形。壁はやや斜めに立ち上がる。底面は凸凹する。埋没土は詳細不明。埋没土上位を中心に大～巨礫がやや多く出土する。規模は長軸135㎝短軸66㎝深さ28㎝である。骨類は出土していない。確認面近くで第542図15の相輪、底面で同12～14の常滑窯系陶器甕が出土する。時期は中世以降である。



第542図　３区171号土坑出土遺物

第229表　３区土坑（石造物混）出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値					胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第539図 PL.215	1	石造物 宝筐印塔	90上	高	21.6	奥	31.4		粗粒輝石安山岩	上段は二段、側面は各面とも二区に分け左区内に紀年銘「応永十六年」（1409）、「三月日」と二行に刻み、右区内に「逆修世儀」と造立者名を刻む。各面とも、２mmほどの丸タガネ状工具痕を残す。底面中央部は幅16mm程の丸ノミ状工具により皿状に窪ませる。	
				幅	31.2	重	29300				
第539図 PL.215	2	石造物 宝筐印塔	90上	高	22.0	奥	31.8		粗粒輝石安山岩	上段は二段、側面は各面とも二区に分け左区内に紀年銘「応永十六年」（1409）、「三月日」と二行に刻み、右区内に「逆修理耀」と造立者名を刻む。各面とも、２mmほどの丸タガネ状工具痕を残す。底面中央部は幅16mm程の丸ノミ状工具により皿状に窪ませる。	
				幅	31.8	重	32940				
第540図 PL.215	3	石造物 宝筐印塔	90上	高	16.2	奥	18.2		粗粒輝石安山岩	各側面に月輪を彫り深めの内側に墨による彩色を施し、薬研彫りの四方仏種子を配す。各面とも丁寧に整形され、斜向する丸タガネ状の工具痕（幅２mm程）を残す。同土坑出土の基礎部（２）と表土出土の笠部（第593図139）と同一個体か。	
				幅	18.0	重	9222				
第540図 PL.215	4	金属製品 銭貨	90上 一部欠損	径1	24.2	厚	1.3			政和通宝（初鋳年1111）。劣化が著しく文字は不明瞭。縁・郭は見られるが不明瞭。裏面は平坦で縁・郭が認められる程度。一部錆化後欠損している。	
				径2	24.2	重	1.8				
第540図 PL.215	5	石造物 板碑	112上	高	(42.8)	厚	2.4		緑色片岩	碑面は弱く摩耗。浅い割竹彫りの阿弥陀如来種子（キリーク）と蓮座が残る。紀年銘判読不能。	
				幅	18.4	重	3520				
第540図 PL.215	6	石造物 板碑	112上	高	56.6	厚	1.7		緑色片岩	浅い割竹彫りの阿弥陀如来種子（キリーク）と蓮座を配す。紀年銘判読不可。裏面工具痕なしし。表裏面磨滅。	
				幅	18.0	重	3660				
第541図 PL.216	7	石造物 板碑	112上	高	(77.8)	厚	2.2		緑色片岩	浅い割竹彫りの阿弥陀三尊種子を配す。三尊とも蓮座を刻まない。紀年銘判読不可。裏面整形痕は見られない。下端側と上端側の板碑厚が異なる。	
				幅	20.8	重	11540				
第541図	8	在地系土器 壺	157上 1/4	口		高			//瓶	頸部はほぼ直立し、口縁部は小さく外反。口縁端部上面は幅広で丸味を帯びる。	中世。
				底							
第541図 PL.216	9	石製品 板状礫	157上	長	16.6	厚	14.5		粗粒輝石安山岩	背面側中央付近に径６cm弱の浅い孔を穿つ。このほか、背面側には幅８mmを測る断面U字状の工具痕が残る。表裏面とも平坦で板状を呈し、粗く磨き整形されているが、背面側左辺は特に丁寧に磨き整形されている。孔内面は凹凸が激しく、面整形は施されていない。	
				幅	19.4	重	1223.2				
第541図 PL.216	10	鋼製品 鈴（リン）	157上 完形	径	7.6	厚	0.1～0.5			底部に径３mmの小孔あり。手持ちの輪（引鑿）か。	外面の一部に繊維質のものが付着。
				高	3.9	重	104.6				
第541図	11	石造物 五輪塔	160上	高	20.4	厚			安山岩凝灰岩	表面の風化が激しく、整形痕等は確認できない。	
				径	27.0	重	8020				
第542図	12	常滑陶器か 渥美陶器 甕か	171上 体部片	口		高			//灰白	外面に叩き目。外面に自然釉かかる。	中世。
				底							
第542図	13	常滑陶器 甕か壺	171上 体部片	口		高			//淡黄	外面器表はにぶい橙色。外面は板状工具による縦位撫で。焼き締まり弱い。肩部内面に接合痕残る。	中世。11井４～７と同一個体の可能性高い。
				底							
第542図	14	常滑陶器 甕か壺	171上 体部下位片	口		高			//灰	断面は灰色。器表はに示い褐色。内面下位に自然釉が斑状にかかる。外面は板状工具による縦位撫で。	中世。
				底							
第542図 PL.216	15	石造物 宝筐印塔	171上	高	(26.1)				粗粒輝石安山岩	上端宝珠・請花と伏鉢の一部を欠損する。九輪下請花は線刻による単弁。	相輪
				幅	10.4	重	2659.1				

（3）土坑（土坑墓）

土坑墓を２基検出した。ともに区画内の溝際に位置する。

76号土坑（第543図、ＰＬ.154・216、第230表）

位置　15Ｒ－３グリッド

南辺を区画する30号溝東端の北約１ｍに位置する。77号土坑と重複するが新旧関係不明で、86号住居より後出。平面形はやや歪んだ円形。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面はほぼ平坦。埋没土は均質で人為埋没。規模は長径83cm短径80cm深さ15cmである。少量の骨片が出土し、鑑定の結果（第４章第１節）土葬人骨と判明した。南壁で第543図１の砥石が出土する。掲載遺物のほかに国産磁器が出土する。出土遺物から近世に比定される。

79号土坑（第543図、ＰＬ.154・216、第230表）

位置　15Ｓ－５・６グリッド

84号住居より後出。平面形は楕円形。壁は緩やかに立ち上がる。底面は凸凹する。埋没状況不詳。規模は長径73cm短径46cm深さ10cmである。出土した骨片は、鑑定の結果（第４章第１節）獣・人骨とも判明できなかった。出土状況から土葬人骨と判断する。北壁近くで第543図２の銅銭が出土する。出土遺物から中世に比定される。

76号土坑
1　黒褐色土　しまりやや弱い。骨片を含む。

79号土坑
1　黒褐色土　粘性やや弱い。骨片を含む。
2　黒褐色土　骨片を多く含む。
3　黒褐色土　粘性やや弱い。

第543図　３区76・79号土坑（土坑墓）と出土遺物

第230表　３区76・79号土坑出土遺物

掲載図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第543図 PL.216	1	石製品 砥石	76上	長	11.4	厚	2.3	砥沢石	四面使用。各面ともよく使い込まれ、研ぎ減る。糸巻状を呈する。	切り砥石
				幅	3.8	重	114.7			
第543図 PL.216	2	金属製品 銭貨	79上 ほぼ完形	径1	23.5	厚	1.7		嘉祐元宝（初鋳年1056）か、縁は広く文字は銷化により不鮮明、裏面は平坦で縁・郭不明瞭。	
				径2	23.7	重	2.1			

（４）土坑（火葬跡ほか）

火葬跡は６基で、重複する土坑２基を合わせて扱い、火葬跡ではないが火葬人骨が含まれる３基と合わせて、合計11基を検出した。火葬跡は平字形が２基で、隅丸長方形が３基、隅丸長台形が１基である。分布は集中する傾向があり、80・96号土坑は30号溝中央部、98・109号土坑は２号区画の南東角の外側に位置する。火葬人骨を含む143～145号土坑３基も区画の北西角にまとまる。単体のものでも、133号土坑は区画の北東角に設けられる。173土坑は29号溝のほぼ中央部である。区画溝との新旧関係では、不明である109号土坑を除いて、重複する７基は後出であり、概ね区画溝が埋没した後、営まれた火葬跡と結論づけられる。なお、図中に示した番号×Ｂ○は、出土した焼骨を示している。各部位ごとの鑑定・判別はないが、調査段階で付番した番号のまま保管してあり、図と照合が可能である。

80号土坑（第544図、ＰＬ.154・155）

位置　15Ｑ・Ｒ－３グリッド

南辺を区画する30号溝、103・108号土坑と重複し、確認状況から後出である。平面形は隅丸長方形。主軸方位はＮ－０°。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は平坦。埋没土に多量の炭化物・焼土ブロック・焼骨片を含む。礫の出土は少ないが、火を受けて破砕した礫が確認される。底面及び壁面に被熱痕跡は見られないが、炭化物・焼骨片の出土状況から火葬跡と見られる。規模は長軸137cm短軸97cm深さ12cmである。火葬人骨は鑑定の結果（第４章第１節）成人男性と判明した。

82・96号土坑（第544図、ＰＬ.155）

82号土坑　**位置**　15Ｑ・Ｒ－３グリッド

状況から96号土坑より前出と思われる。平面形は隅丸長方形。主軸方位はＮ－９°－Ｅ。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面はやや凸凹する。埋没状況不詳。規模は長軸100cm短軸70cm深さ15cmである。

96号土坑　**位置**　15Ｑ・Ｒ－３・４グリッド

南辺を区画する30号溝中央部の南約50cmに位置する。82号土坑と重複し、炭化物の出土状況などから後出と見られる。平面形は西辺中央部に張り出しを持つＴ字形を呈する。主軸方位はＮ－０°。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は平坦で、張り出し部は一段高い。埋没土に多量の炭化物を含むが、焼土は含まれない。焼骨は底面より高く、炭化物の分布面に一致する。張り出し部の両側部の延長線上にあわせて、人頭大の川原石・亜角礫が両側に２個程度並び、主体部中央に幅約25cmの長方形の空間を作る。北側の礫は一部崩れる。礫は底面に接し、上面は黒く煤けている。底面及び壁面に被熱痕跡は見られないが、状況から一次的な火葬跡であり、被熱した壁面が削平された可能性が高い。規模は主体部で長軸107cm短軸65cm深さ17cm、張り出し部で長軸50cm短軸43cm深さ10cmである。鑑定の結果（第４章第１節）、被火葬者は頭を北にした屈位で火葬された成人女性と判明した。

98号土坑（第544・546図、ＰＬ.155、第231表）

位置　15Ｑ－２グリッド

２号区画の南約５mに位置する。東辺を区画する29号溝と重複し、確認状況から後出である。平面形はほぼ隅丸長方形。主軸方位はＮ－１°－Ｅ。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面はほぼ平坦。埋没土に多量の炭化物を含む。底面に接してほぼ全面に拳大～人頭大の角礫・川原石が敷かれる。上面は黒く煤けている。一部に火を受けて破砕した礫が含まれる。炭化物・焼骨片の出土状況からな火葬跡と見られる。規模は長軸117cm短軸86cm深さ12cmである。火葬人骨は鑑定の結果（第４章第１節）成人女性と判明した。埋没土から第546図１の青磁碗が出土する。出土遺物から中世に比定される。

109号土坑（第544図、ＰＬ.155）

位置　15Ｑ－２グリッド

２号区画の南約２mに位置する。区画溝29号溝の東辺と重複するが新旧関係不明。平面形は東辺中央部に張り出しを持つＴ字形を呈する。火葬跡。主軸方位はＮ－５°－Ｅ。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は張り出し部まで平坦につながる。埋没土中層以下は、多量の炭化物・焼土ブロック・焼骨片を含む。埋没土に炭化物層はなく、埋没前に収骨とあわせて除去された可能性が高い。壁面は全体に赤く焼土化する。張り出し部の両側部の延長線上にあわせて、30cm大の巨礫を両側に１個ずつ設置して、中央部に幅約20cmの長方形の空間を作る。巨礫の周りには人頭大の礫が南北壁まで詰められる。礫は底面に接し、上面は黒く煤け焼土に覆われる。焼骨は中央部の空間に特に多く残る。規模は主体部で長軸118cm短軸55cm深さ47cm、張り出し部で長軸60cm短軸42cm深さ48cmである。鑑定の結果（第４章第１節）、被火葬者は頭を北にした屈

位で火葬された成人女性と判明した。埋没土から近世の国産施釉陶器が出土する。形態的に中世の事例が多く、遺物は混入も考慮される。時期は中世以降とする。

133号土坑（第544・546図、ＰＬ.156、第231表）

位置　16Ａ－２グリッド

140号土坑、区画溝29号溝の北辺と重複し、炭化物の出土状況などから後出である。平面形は隅丸長方形。主軸方位はＮ－10°－Ｅ。壁はやや斜めに立ち上がる。底面は平坦。残存深が浅いため、埋没状況は明確でないが、底面中央部に炭化物層が堆積する。底面及び壁面に被熱痕跡は見られないが、状況から一次的な火葬跡であろう。埋没土上層に拳大の川原石が、やや多く出土したが、29号溝埋没土中に多く含まれており、埋没土上位は埋没過程で周辺から混入した可能性が高い。一部に火を受けて赤く変色したり、黒く煤けた礫が混じる。規模は長軸122cm短軸65cm深さ10cmである。鑑定の結果（第４章第１節）、被火葬者は頭を北にした屈位で火葬された成人女性と判明した。埋没土中位から第546図２の常滑窯系陶器甕が出土する。出土遺物から中世に比定される。

143号土坑（第545・546図、ＰＬ.156・216、第231表）

位置　16Ａ－５グリッド

区画溝29号溝の北西角に位置し、145号土坑・29号溝との重複関係は確認状況から後出で、144号土坑とは新旧関係不明。平面形は歪んだ楕円形。溝の埋没土中でもあり、壁は曖昧である。埋没土は40cm大の巨礫を含む大量の礫で、底面までほぼ平坦に埋まる。底面で少量の焼骨と炭化物が出土する。底面及び壁面に被熱痕跡は見られず、一次的な火葬跡の証左に欠ける。規模は長軸126cm短軸80cm深さ12cmである。火葬人骨は鑑定の結果（第４章第１節）、個体数・性別・死亡年齢とも不明である。礫上位で第546図３の敲石が出土する。時期は中世以降である。

144号土坑（第545・546図、ＰＬ.156・216、第231表）

位置　16Ａ－５・６グリッド

区画溝29号溝の北西角に位置し、145号土坑、29・31号溝との重複関係は確認状況から後出で、143号土坑とは新旧関係不明。平面形は隅丸長台形。主軸方位はＮ－９°－Ｅ。東壁は丸みを持って斜めに立ち上がる。底面はほぼ平坦。埋没土中にわずかに焼土粒子が含まれる。中央付近に拳大の礫が集中する。東辺に沿って底面に長さ約1.1mの炭化材が出土し、その上面に焼骨が分布する。底面及び壁面に被熱痕跡は見られず、一次的な火葬跡の証左に欠ける。規模は長軸152cm短軸112cm深さ23cmである。火葬人骨は鑑定の結果（第４章第１節）、個体数・性別・死亡年齢とも不明である。灰に混じって第546図４の銅銭が出土する。出土遺物から中世に比定される。

145号土坑（第545・546図、ＰＬ.156・216、第231表）

位置　16Ａ－５グリッド

区画溝29号溝の北西角に位置し、143・144号土坑より前出で、29号溝より確認状況から後出。平面形は隅丸長方形。主軸方位はＮ－９°－Ｅ。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面はほぼ平坦。埋没土中に焼土・炭化物の集中部はない。埋没土上位に川原石がやや多く出土するが、埋没時の流入と思われる。底面及び壁面に被熱痕跡は見られず、一次的な火葬跡の証左に欠ける。規模は長軸143cm短軸65cm深さ48cmである。火葬人骨は鑑定の結果（第４章第１節）、個体数・性別・死亡年齢とも不明である。埋没土中位で第546図５の銅銭、６の板碑が出土する。出土遺物から中世に比定される。

173・174Ａ号土坑（第545・546図、PL.156・157・216、第231表）

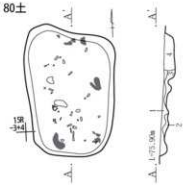
173号土坑　**位置**　16Ａ－４グリッド

区画溝29号溝の北辺と重複し、確認状況から当土坑が後出。174Ａ号土坑と重複するが新旧関係不明。平面形は隅丸長方形。主軸方位はＮ－２°－Ｗ。壁は垂直に立ち上がる。底面はほぼ平坦。確認面で板碑４枚が並んで出土したが、当土坑の埋没後である。板碑は上端標高より10cmほど高く、南側２枚は30cm前後離れるなど、本遺構より後出の可能性が高いため、29号溝に関連して扱う。底面及び壁面に被熱痕跡は見られないが、底面に接して幅40cm程の角礫を含む巨礫があり、南側で特に整然と並ぶ。一部黒く煤けたものも見られ、上位に少量の焼骨と炭化物が出土したことから、火葬跡である可能性が高い。規模は長軸157cm短軸83cm深さ42cmである。火葬人骨は鑑定の結果（第４章第１節）、個体数・性別・死亡年齢とも不明である。底面で第546図７の敲石が出土する。時期は中世以降である。

174Ａ号土坑　**位置**　16Ａ－４グリッド

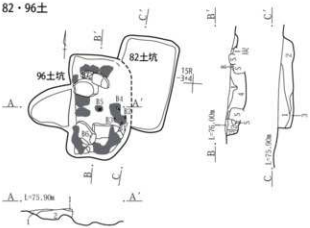
173号土坑、区画溝29号溝の北辺と重複するが新旧関係不明。平面形は残存部分は方形に近い。壁は丸みを持って斜めに立ち上がる。底面は丸みがある。規模は長軸

80土



80号土坑
1　暗褐色土　しまり弱い。炭化物ブロックを少量含む。
2　暗褐色土　炭化物粒子、骨片を含む。
3　黒褐色土　炭化物粒子を多く、骨片を含む。
4　暗褐色土　しまり弱い。炭化物粒子を少量含む。

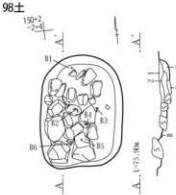
82・96土



82号土坑
1　暗褐色土　軽石を微量、ローム粒子を含む。
2　暗褐色土　ローム粒子、炭化物粒子を含む。
3　暗褐色土　ローム粒子、ロームブロックを含む。

96号土坑
1　暗褐色土　炭化物粒子、炭化物ブロックを多く含む。
2　暗褐色土　炭化物粒子を含む。
3　暗褐色土　炭化物粒子を微量含む。
4　黒褐色土　炭化物を多く含む。

98土

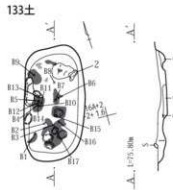


98号土坑
1　黄褐色土　やや硬くしまり粘性あり。ロームと暗褐色土の混土。
2　黒褐色土　軟らかくて粘性あり。炭化物を多量に、ローム粒子を含む。
3　茶褐色土　軟らかくて粘性あり。ロームを含む。

109土

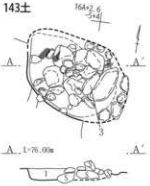
109号土坑
1　暗褐色土　軟らかくて粘性非常にあり。黄白色粘質土ブロックを少量含む。
2　黄白色土　軟らかくて粘性非常にあり。暗褐色土を含む。
3　暗褐色土　軟らかくて粘性非常にあり。黄白色粘質土粒子を多量、焼土粒子を少量含む。
4　暗褐色土　軟らかくて粘性あり。黄白色粘質土ブロックを含む。
5　暗褐色土　軟らかくてしまり良い。粘性あり。黄白色粘質土粒子、炭化物粒子を含む。
6　暗褐色土　軟らかくて粘性非常にあり。骨片、焼土ブロックを含む。
7　暗褐色土　軟らかくて粘性非常にあり。黄白色粘質土ブロック、焼土粒子を含む。
8　炭化物

133土



133号土坑
1　暗褐色土　軟らかく粘性非常にあり。黄白色粘質土粒子を含む。
2　炭化物　軟らかく粘性あり。

143土

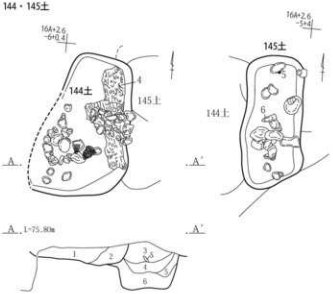


143号土坑
1　暗褐色土主体　軟らかく粘性非常にあり。焼土粒子・炭化物粒子微量に含む。

0　1:40　1m

第544図　3区 80・82・96・98・109・133・143 号土坑

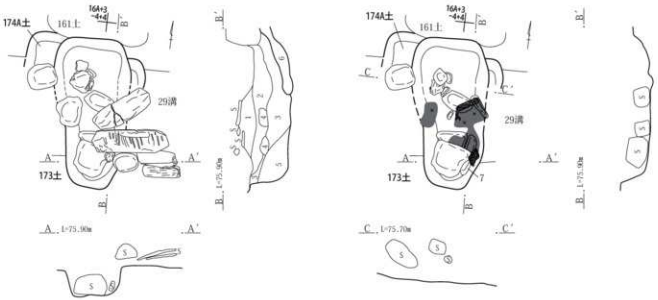
144・145土



144・145号土坑

1　暗褐色土　しまり強い。浅間Ｂ軽石を含む。焼土粒子を微量含む。
2　暗褐色土　１層にローム粒子を含む。
3　暗褐色土　しまり強い。ロームブロック、炭化物粒子を含む。
4　暗褐色土　しまりやや強い。粘性ややあり。ロームブロックを含む。
5　暗褐色土　３層よりロームブロックを多く含む。
6　褐色粘質土　しまり強い。炭化物粒子を含む。

173・174A土

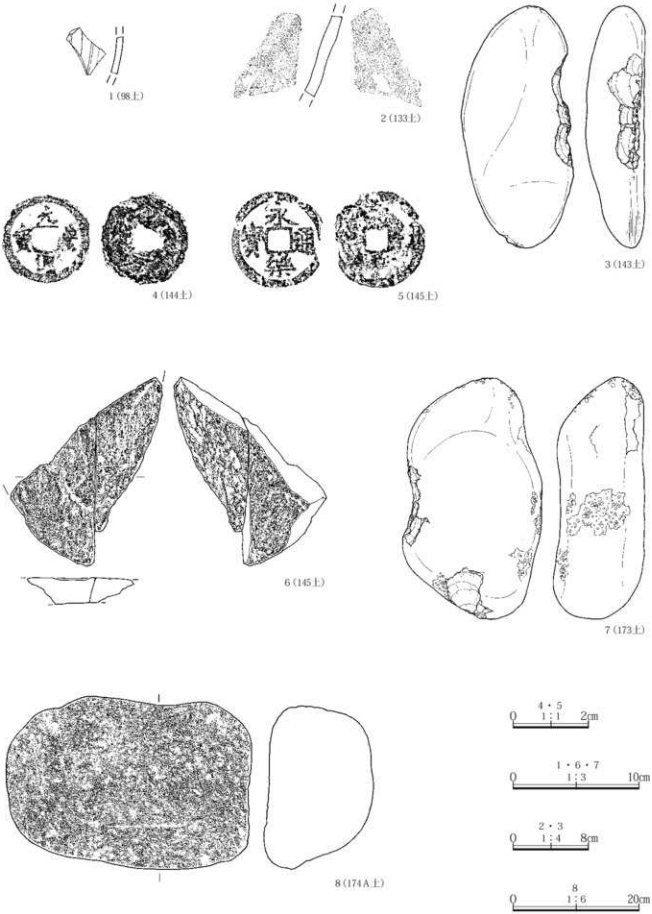


173号土坑

1　暗褐色土　軟らかくて粘性あり。黄白色粘質土ブロックを含む。
2　暗褐色土　軟らかくて粘性非常にあり。ロームブロック、黄白色粘質土ブロックを含む。
3　黄白色土　軟らかくて粘性非常にあり。黄白色粘質土ブロックと暗褐色土の混土。
4　黄白色粘質土　暗褐色土含む。
5　黒色土　軟らかく粘性あり。炭化物を主体に暗褐色土を含む。
6　黄白色土＋暗褐色土

0　1:40　1m

第545図　３区 144・145・173・174A 号土坑



第546図　3区土坑(火葬跡)出土遺物

126cm短軸44cm深さ32cmである。埋没土から第546図８の石製品台座が出土する。時期は中世以降である。

第231表　３区上坑(火葬跡)出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値					胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第546図	1	龍泉窯系 青磁碗	98上 体部片						//灰白	外面鎬蓮弁文。青磁釉の色調はやや薄い。	腐Ⅱ-b類。13世紀前後～前半。
第546図	2	常滑陶器 甕	133上 体部片						//灰白～にぶい橙	外面は板状工具による斜位撫で。	中世。
第546図 PL.216	3	礫石器 敲石？	143上	長	25.5	厚	6.2		粗粒輝石安山岩	左辺エッジを敲打。これに伴い大きな剥離痕が生じ、形状が大きく変形している。これが敲打に伴う剥離痕か加工痕か。不明瞭。	
				幅	11.9	重	2205				
第546図 PL.216	4	金属製品 銭貨	144上 一部欠損	径1	23.6	厚	2.1			元豊通宝(初鋳年1078)。劣化が著しく孔及び外縁が破損する。文字面側に凹字状に湾曲している。	
				径2	23.1	重	1.9				
第546図 PL.216	5	金属製品 銭貨	145上 一部欠損	径1	24.4	厚	1.7			永楽通宝(初鋳年1408)。縁・文字・郭とも彫深く明瞭。裏面は縁・郭は確認できるが輪郭はなだらか。劣化が著しく縁部分で割れている。	
				径2	25.3	重	2.1				
第546図 PL.216	6	石造物 板碑	145上	長	(14.3)	厚	2.1		緑色片岩	部位不明。碑面の磨滅は弱い。板碑厚から中型板碑か。	
				幅	(12.0)	重	320.5				
第546図 PL.216	7	礫石器 敲石	173上	長	19.1	厚	7.1		粗粒輝石安山岩	小口部両端・両側縁に著しい敲打痕が残る。	
				幅	11.0	重	2088.6				
第546図 PL.216	8	石製品 台座	174上	長	27.4	厚	17.6		粗粒輝石安山岩	自然礫を用い、上面中央に14.4cm×27.0cm程の平坦面を削り出す。	
				幅	38.6	重	28420				

（５）井戸

８号井戸(第547図、ＰＬ.157)

位置　15Ｒ－６グリッド

重複　31号溝と重複するが新旧関係不明で、並存した可能性もある。

確認面形状と規模　円形。長径1.06m短径1.03m

底面形状と規模　円形。長径0.65m短径0.64m

断面形　円筒形。

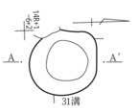
深さ　0.80m

埋没状況　南側から埋めたものとみられる。

出土遺物　遺物は出土していない。

時期　出土遺物はなく、時期は比定できない。

８号井戸



８号井戸
1　暗褐色土　しまり強い。ローム粒子・白色軽石・焼土粒子微量に含む。
2　黒褐色粘質土
3　黒褐色土　ローム粒子含む。
4　黒褐色土　やや粘性あり。ローム粒子含む。
5　黒褐色土　粘性強い。ローム粒子含む。
6　黒褐色粘質土　ロームブロック多量に含む。

第547図　３区８号井戸

（６）ピット（第548～551図、ＰＬ.157、第232・233表）

ここでは、２号区画遺構内部に位置するピット30基を中心に周辺で分布するものを含めて、合計105基を掲載した。掘立柱建物は周辺で７棟が存在する。区画方位と一致せず区画溝と重複するため、関連性はない。33号掘立柱建物は区画溝である30号溝より後出する。ピットは数量的にも少ないが、並ぶものの方位も掘立柱建物に近似しており、やはり関連性が薄いだろう。その中で、30号溝の東側に連続する662・647・653号ピットあるいは、662・646・652号ピットは直線的に並ぶ（第550図）。間隔は前者が約2.0～2.3m、後者が約2.1～2.2mである。走向方位も30号溝と一致する。区画の東辺である29号溝と重複するため、時期が異なる可能性もあるが、29・30号溝間の通路状の空間を塞ぐ位置にある。同じく東端は１号屋敷西辺の27号溝にも近接する。状況として区画遺構の開口部を抑制するピット群であった可能性も想定される。ただし、南側に隣接する637号ピットでは第550図１の土師器甕が出土し、平安時代に比定される可能性が高い。

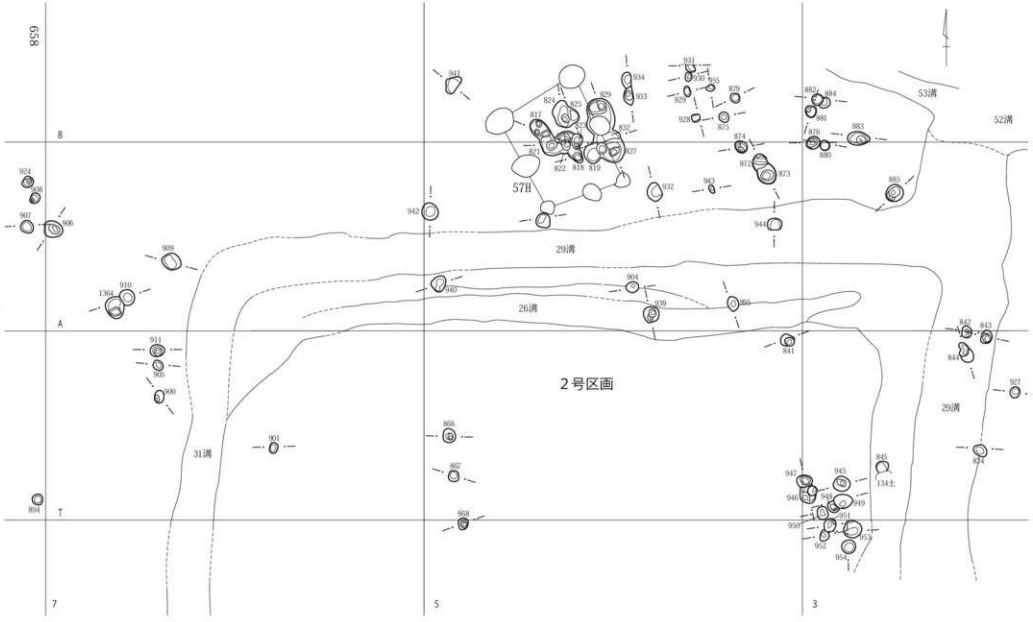
第232表　３区２号区画周辺ピット計測値

２区画周辺ピット（１）

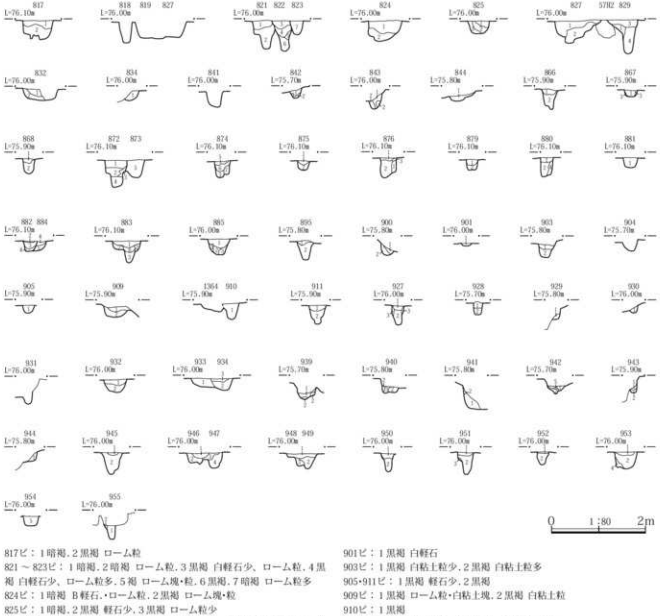
ピットNo	グリッド	長径	短径	深さ
817	16B-4	53	41	40
818	16A-3	(42)	27	43
819	16A-4	49	36	32
821	16A-4	55	(42)	58
822	16A-4	60	(50)	64
823	16A-4	39	29	37
824	16B-4	73	42	51
825	16B-4	45	(21)	26
827	16A-3	70	(64)	56
829	16B-4	90	65	73
832	16B-3	76	(24)	19
834	15T-2	37	29	14
841	15T-1	35	28	44
842	15T-2	33	30	25
843	15T-2	35	27	34
844	15T-2	57	28	24
845	15T-2	32	(30)	36
866	15T-4	37	33	46
867	15T-4	29	27	14
868	15S-4	33	27	39
872	16A-3	40	(37)	38
873	16A-3	55	49	59
874	16A-3	35	30	12
875	16B-3	29	26	35
876	16A-2	37	33	42
879	16B-3	25	25	24
880	16A-2	28	25	39
881	16B-2	30	28	47
882	16B-2	30	29	23
883	16A-2	60	35	49
884	16B-2	31	(26)	19
885	16A-2	47	43	53
895	16A-3	39	30	46
900	15T-6	35	30	41
901	15T-5	28	21	7
903	16A-4	37	37	34
904	16A-3	34	28	32
905	15T-6	28	24	17
909	16A-6	66	44	31
910	16A-6	42	36	29
911	15T-6	39	32	40
927	15T-1	29	26	39
928	16B-3	22	20	26
929	16B-3	27	18	22
930	16B-3	24	18	23
931	16B-3	30	22	28
932	16A-3	51	38	31
933	16B-3	45	26	20
934	16B-3	47	24	26
939	16A-3	43	41	25
940	16A-3	43	37	30
941	16B-4	53	33	42
942	16A-3	45	44	24
943	16A-3	23	13	26
944	16A-3	38	31	22
945	15T-2	42	40	67
946	15T-2	(54)	45	61
947	15T-2	42	31	41
948	15T-2	32	(22)	32
949	15T-2	50	37	42
950	15T-2	35	26	46
951	15S-2	38	31	47
952	15S-2	28	25	28
953	15S-2	50	48	37
954	15S-2	37	36	22
955	16B-3	23	17	32
1364	16A-6	58	45	28

２区画周辺ピット（２）

ピットNo	グリッド	長径	短径	深さ
541	15R-6	40	34	20
616	15Q-3	25	24	8
617	15S-4	33	32	17
622	15Q-3	34	27	20
623	15Q-3	38	25	15
624	15R-3	33	29	20
636	15Q-1	30	27	21
637	15Q-2	27	21	18
638	15Q-2	24	17	22
646	15R-2	26	20	16
647	15R-2	49	33	31
651	15Q-1	32	27	11
652	15Q-1	35	30	15
653	15R-1	31	30	17
654	15Q-1	38	33	16
656	15Q-5	42	40	29
657	15S-2	26	19	18
658	15S-2	27	24	25
659	15S-2	23	18	13
660	15Q-2	56	55	40
662	15R-2	39	29	26
667	15R-2	35	25	14
1348	15Q-2	43	27	34
1349	15R-4	29	25	31
1350	15R-4	22	21	14
1351	15R-4	40	40	14
1352	15R-4	36	34	58
1353	15R-4	28	25	9
1354	15R-4	48	26	22
1355	15Q-4	37	34	30
1356	15Q-4	33	28	30
1357	15Q-4	34	28	37
1358	15Q-4	35	30	15
1359	15Q-4	41	37	26
1360	15Q-4	38	(29)	12
1361	15Q-3	30	24	30
1362	15Q-3	43	39	27
1363	15Q-5	68	43	22

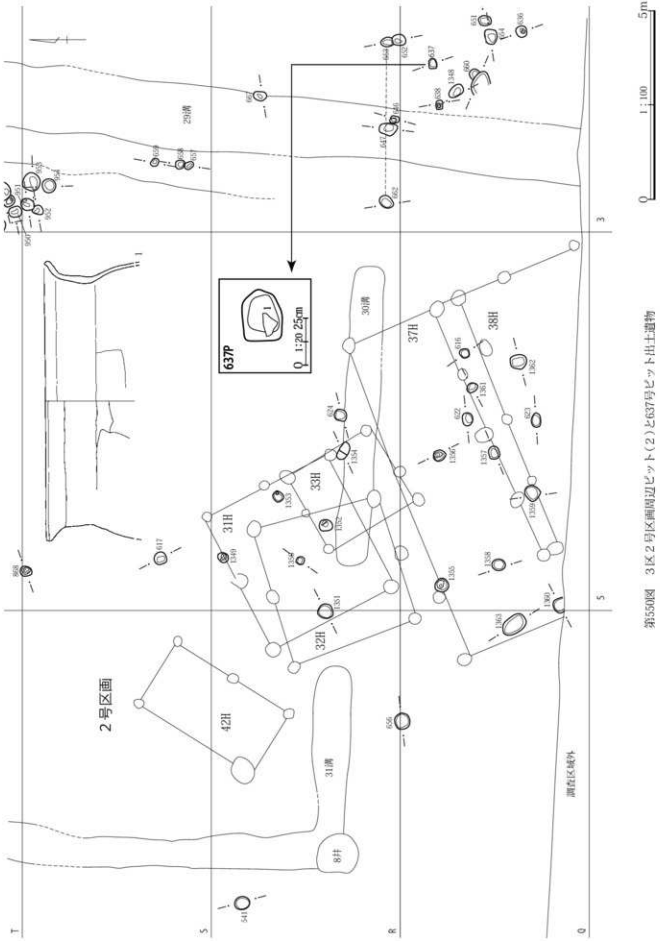


第548図　3区2号区画周辺ピット(1)

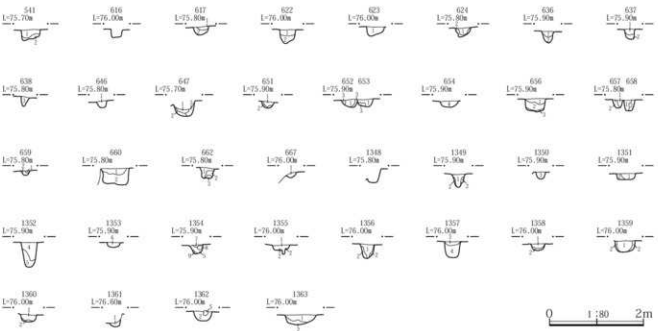


817ピ：１暗褐．２黒褐 ローム粒
821 ～ 823ピ：１暗褐．２暗褐 ローム粒．３黒褐 白軽石少．ローム粒．４黒褐 白軽石少．ローム粒多．５褐 ローム塊・粒．６黒褐．７暗褐 ローム粒多
824ピ：１暗褐 B軽石・ローム粒．２黒褐 ローム塊・粒
825ピ：１暗褐．２黒褐 軽石少．３黒褐 ローム粒少
827・829ピ：１暗褐 ローム粒・白軽石少．２黒褐 ローム塊・粒．３暗褐 ローム粒・B軽石．４黒褐 ローム粒・白軽石
832ピ：１暗褐．２暗褐 ローム粒・白軽石
834ピ：１暗褐
842ピ：１暗褐 黄白粒．２黄白 暗褐
843ピ：１暗褐 ローム粒．２黄褐 暗褐
844ピ：１暗褐 ローム塊
866・867ピ：１暗褐 ローム粒少．２黒褐 ローム粒．３褐
868ピ：１暗褐 ローム粒・焼土粒．２暗褐 ローム塊．
872 ～ 874ピ：１暗褐 ローム粒少．２暗褐 黄白塊少．３暗褐 黄白塊．４黒褐 黄白塊．５暗褐 ローム粒．６黒褐 ローム塊・白軽石少．７暗褐 ローム塊少
875・879ピ：１暗褐 ローム塊．２暗褐 ローム粒
876・880ピ：１暗褐 ローム粒少．２黒褐 ローム粒少．３褐．４暗褐 ローム粒
881 ～ 884ピ：１暗褐 ローム粒少．２暗褐 ローム粒．３暗褐 ローム塊．４暗褐．５黒褐．６暗褐 ローム塊少
885ピ：１暗褐 ローム粒・白軽石少．２暗褐 ローム粒やや多．３暗褐 ローム塊・粒多
895ピ：１黒褐 ローム粒微．２黒褐 ローム粒
900ピ：１暗褐 白粘土塊．２黒褐 白粘土塊
901ピ：１黒褐 白軽石
903ピ：１黒褐 白粘土粒少．２黒褐 白粘土粒多
905・911ピ：１黒褐 軽石少．２黒褐
909ピ：１黒褐 ローム粒・白粘土塊．２黒褐 白粘土粒
910ピ：１黒褐
927ピ：１暗褐 ローム粒．２黒褐 ローム塊少．３褐
928ピ：１黒褐 白粘土粒・ローム粒少．２黒褐 白粘土塊多
929・930ピ：１黒褐 白粘土粒
932ピ：１黒褐．２暗褐
933・934ピ：１黒褐 軽石．２暗褐 軽石微．３黒褐 B軽石．
939・940ピ：１暗褐 ローム塊・黄白塊．２黄白 暗褐．３褐 焼土粒・黄白塊
941ピ：１暗褐 黄白塊・ローム塊．２黄白塊
942ピ：１暗褐．２黒褐 ローム塊
943ピ：１暗褐 ローム塊少．２褐
944ピ：１暗褐 ローム塊
945・950ピ：１暗褐 ローム粒・白粒．２黒褐 ローム粒少
946・947ピ：１暗褐 ローム粒少．２黒褐 ローム塊．３褐 ローム塊．４黒褐 黄白塊
948・949ピ：１暗褐 ローム粒・白粒．２暗褐 ローム粒やや多．３暗褐 ローム塊
951 ～ 954ピ：１暗褐 ローム粒・白粒．２黒褐 ローム粒少．３暗褐 黄白塊．４暗褐 黄白塊やや多．５暗褐 ローム塊
955ピ：１暗褐．２暗褐 ローム塊

第549図　３区２号区画周辺ピット（１）断面図



第550図　3区２号区画周辺ピット（２）と637号ピット出土遺物



541ピ：１暗褐 焼土粒・ローム粒微，２暗褐 焼土粒・ローム粒
617ピ：１暗褐 ローム粒微，２暗褐 ローム粒・白軽石少
622・623ピ：１暗褐 ローム粒少，２暗褐 ローム塊，
624ピ：１暗褐 炭粒・ローム塊，白軽石少，２褐 暗褐
636・638ピ：１暗褐 ローム塊・粒，２暗褐 黄白粒，３暗褐 ローム塊
646・647ピ：１暗褐 ローム粒，２暗褐 黄白塊，３暗褐 黄白粒多
651 ～ 654ピ：１暗褐 ローム粒少，２暗褐 ローム粒多，３褐，４暗褐 ローム塊
656ピ：１暗褐 ローム粒・白軽石少，２黒褐 ローム塊・焼土塊少，３褐
657・658ピ：１暗褐 ローム粒・白軽石，２暗褐 ローム塊・粒
659ピ：１暗褐 ローム粒，２褐 暗褐
660ピ：１暗褐 ローム粒・白軽石，２暗褐 ローム粒・黄白塊
662ピ：１暗褐 ローム粒多，２黒褐 黄白色塊，３暗褐 黄白塊・粒
667ピ：１暗褐 ローム塊・白軽石
1349・1350・1352 ～ 1354ピ：１黒褐 ローム粒，２暗褐 ローム塊多，３暗褐 ローム粒・白軽石，４黒褐 白軽石，５黒褐 ローム塊，６黒褐 ローム粒微，７暗褐 ローム粒少，８褐，９褐 暗褐少
1351ピ：１暗褐 ローム粒・白軽石，２黒褐 ローム粒微
1355 ～ 1359ピ：１暗褐 ローム粒少，２褐，３暗褐 ローム塊，４黒褐 黄白塊
1360・1363ピ：１暗褐 ローム粒少，２褐，
1361・1362ピ：１暗褐 ローム粒，２暗褐 ローム粒・炭粒

第551図　３区２号区画周辺ピット（２）断面図

第233表　３区637号ピット出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値					胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第550図	1	土師器 甕	口縁～胴部片	口	21.8				粗砂粒・白色鉱物 粒少/良好/橙	口縁部は横ナデ。中位には成形面がナデ消されず残る。胴部は横位にヘラ削り。内面胴部は横位のヘラナデ。	外面炭素吸着。

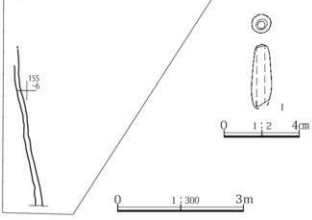
（７）　溝

２号区画遺構に関係する溝７条を検出した。28号溝は出土遺物から６世紀後半に比定されるが、中世遺物が含まれていたため、あわせてここで扱った。２号区画遺構を区画する溝は、29・30・31号溝である。これに後出する26号溝は小規模ながら逆Ｌ字形に、ややずれて囲んでいる。掘立柱建物と方位がやや一致しており、一部が並存した可能性もある。

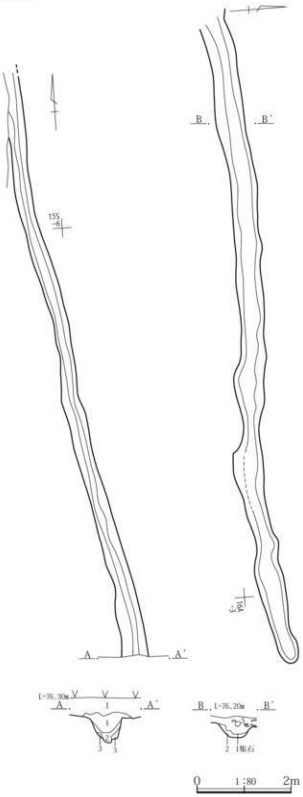
26号溝（第552図、ＰＬ.158、第234表）

位置　15Ｑ～16Ａ－２～６グリッド

南端は調査区域外に延び、東端は立ち上がるが削平も受ける。状況から31号溝より後出だが、重複部分は図化できていない。重複する住居や28号溝より後出。平面形はＬ字形に折れるとみられる。南北軸と東西軸は接合できていないため、別の２条の可能性を残す。走向方位は南北軸がＮ－９°－Ｗ、東西軸がＮ－88°－Ｅ。断面形はＵ字形。底面は丸みがある。南北軸両端の比高差は17cmで、勾配1.36％で北方へ下向する。東西軸両端の比高差は15cmで、勾配1.08％で西方へ下向する。埋没土は浅間Ｂ軽石を含む。自然埋没か。埋没土から第552図１の土錘が出土する。規模は南北長12.48m、東西長13.84m上端幅28～66cm深さ36cmである。重複関係から中世以降に比定される。



26号溝



26号溝
1　暗褐色土　浅間Ｂ軽石含む。
2　暗褐色土　ローム粒子少量に含む。
3　暗褐色土　しまり弱い。ローム粒子多量に含む。

第552図　３区26号溝と出土遺物

28号溝（第553 ～ 556図、ＰＬ.157・158・217、第234表）

位置　15Ｑ～ 16Ｂ－２・３グリッド

南北両側ともに調査区域外に延びる。状況から重複する土坑や26・29号溝より後出。平面形は部分的に蛇行するが、ほぼ直線状に走向する。走向方位はＮ－18°－Ｗ。断面形は箱状。底面はほぼ平坦。両端の比高差は５㎝で、勾配はほとんどない。自然埋没か。埋没土中位を中心に遺物はやや多く出土する。出土遺物に中世の在地系土器や国産焼締陶器、骨が含まれるが、他の遺構と重複して、混入したものと考えられる。規模は長さ28.80ｍ幅180㎝深さ65㎝である。出土遺物から６世紀後半に比定される。

29・31号溝（第532・557～559図、PL.158・159・217・218、第235表）

位置　15Ｑ～ 16Ｂ－２～６グリッド

２号区画の東辺から北辺を区画する逆トの字形の部分を29号溝、西辺から南辺に折れる逆Ｌ字形を31号溝として調査されている。調査区南半部から調査を開始した結果生じた齟齬であり、本来は方形に囲む溝と見なされる。出土遺物の混乱を避けるため、遺構名は残したまま、あわせて扱う。北辺は52号溝と合流し並存すると思われる。100・101・133・136・142 ～ 144・173・177号土坑、26号溝より前出で、10・28号溝より後出する。その他重複する土坑との新旧関係は不明で、８号井戸は並存か。走向方位は東辺がＮ－６°－Ｅ、北辺Ｎ－90°、西辺Ｎ－０°、南辺Ｎ－３°－Ｅ。断面形は逆台形。底面はほぼ平坦。東辺両端の比高差は38㎝で、勾配1.5％で北方へ下向する。北辺両端の比高差は８㎝で、勾配はほとんどない。西辺両端の比高差は13㎝で、勾配はほとんどない。南辺の比高差は４㎝で、勾配はほとんどない。西辺は粘土で人為埋没し整地されたと考えられる。西辺北端から北辺、東辺の北半部は埋没土中位に大円礫が多く投棄されている。これも整地にかかわる可能性がある。なお、区画北東角から52号溝と接合する間の東辺には円礫がなく、埋没時期が異なる可能性が高い。埋没土から在地系土器ほかが出土する。北辺の173号土坑と重複する確認面で、完形に近い板碑４枚（第557図10、第559図12・14・15）が横断方向に並んで出土した。重複する173号土坑が火葬跡であるため、一部関係する可能性も残すが、状況から本溝及び土坑が埋没した後、通路の敷石として利用されたと推測する。31号溝埋没土から骨が出土し、鑑定の結果（第４章第１節）人骨とも獣骨とも判明しなかった。溝の規模は東辺長25.32ｍ北辺長20.20ｍ、西辺長14.80ｍ南辺長5.40ｍ、上端幅68 ～ 112㎝深さ61㎝である。出土遺物から16世紀中頃まで機能していたと考えられる。

30号溝（第558図）

位置　15Ｒ－３・４グリッド

33号掘立柱建物Ｐイ、80・103号土坑より前出。平面形は直線状で、東西両端はほぼ垂直に立ち上がる。走向方位はＮ－86°－Ｗ。底面はほぼ平坦。両端の比高差は５㎝で、勾配はほとんどない。埋没土中位に砂層が薄く堆積する。深さ半分程度で一度掘り直された可能性が高い。その後は自然埋没か。29・31号溝と埋没状況が異なる。規模は長さ7.92ｍ上端幅70 ～ 92㎝深さ38㎝である。中世の遺物は出土していない。

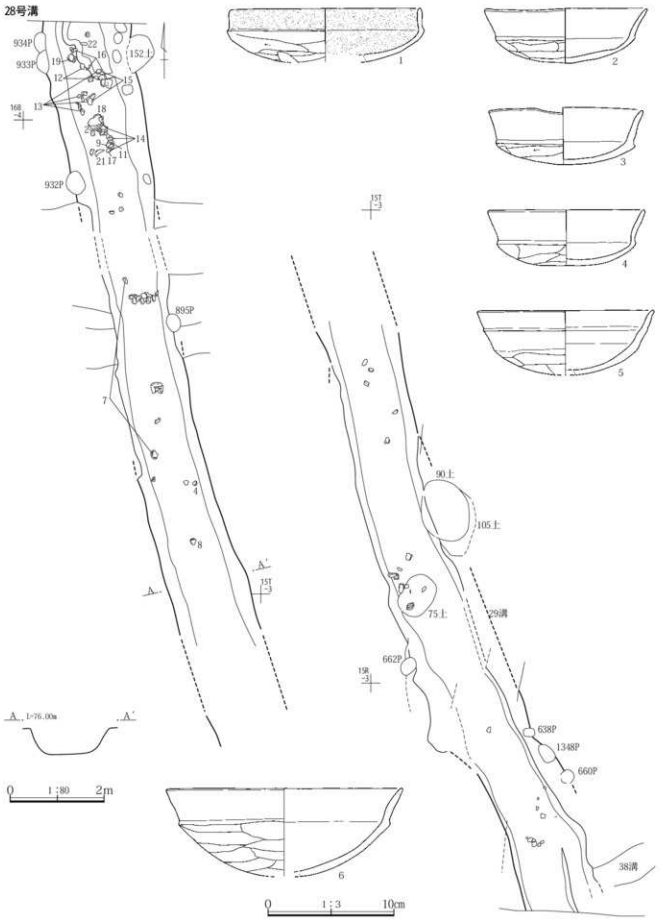
36号溝（第558図）

位置　15Ｔ～ 16Ａ－６グリッド

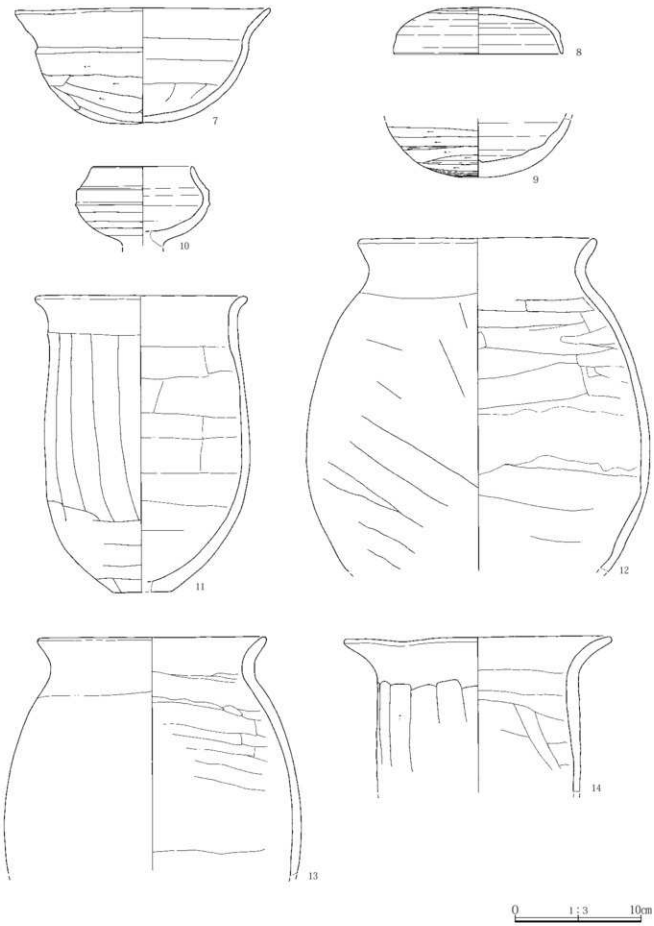
31号溝と重複して不明となる。一部が検出されたのみで平面形・断面形・底面不詳。埋没状況不詳。遺物は出土していない。規模は長さ3.02ｍ上端幅40 ～ 66㎝深さ18㎝である。出土遺物はなく、時期は比定できない。

第234表　３区溝出土遺物（１）

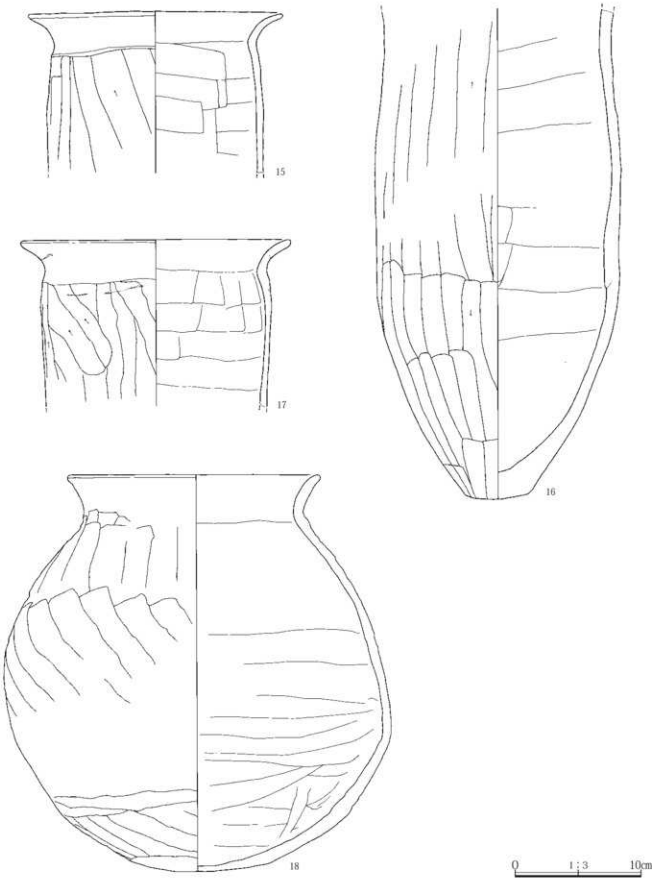
挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第552図	1	土製品 土錘	28溝 一部欠	長	3.3	厚	1.0	細砂粒/良好/灰	中実で小口面にヘラ切りの痕跡は見られない。	炭素吸着・黒色。
				幅	1.1	穴	0.4			
第553図	1	土師器 杯	28溝 口縁～体部1/3	口	15.0			細砂粒・雲母/良好/灰黄褐	口縁は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	内面全面と外面口縁部に漆塗り。
第553図 PL.217	2	土師器 杯	28溝 3/4	口	12.6	高	4.3	精選・赤黒色粘土粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	内外面とも磨滅。
第553図 PL.217	3	土師器 杯	28溝 3/4	口	11.9	高	4.3	精選・粗砂粒少/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	内外面とも磨滅。
第553図	4	土師器 杯	28溝 1/3	口	12.2	高	4.4	細砂粒・赤色粘土粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面磨滅。底部外面は炭素吸着・黒斑状。
第553図	5	土師器 杯	28溝 1/4	口	13.8			細砂粒少/良好/橙	有段口縁。口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面磨滅。



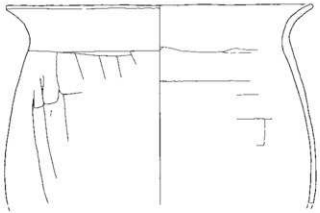
第553図　３区28号溝と出土遺物（１）

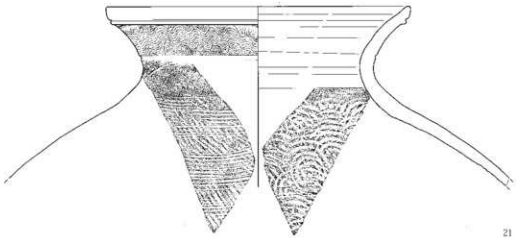


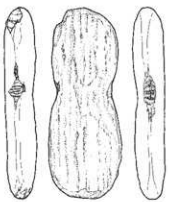
第554図　3区28号溝出土遺物(2)



第555図　３区28号溝出土遺物（３）

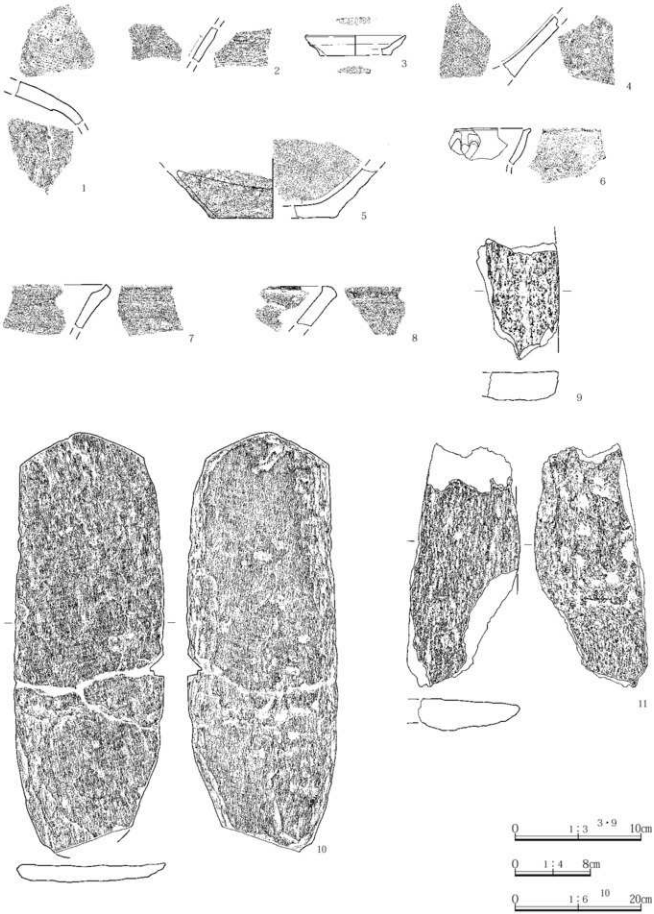




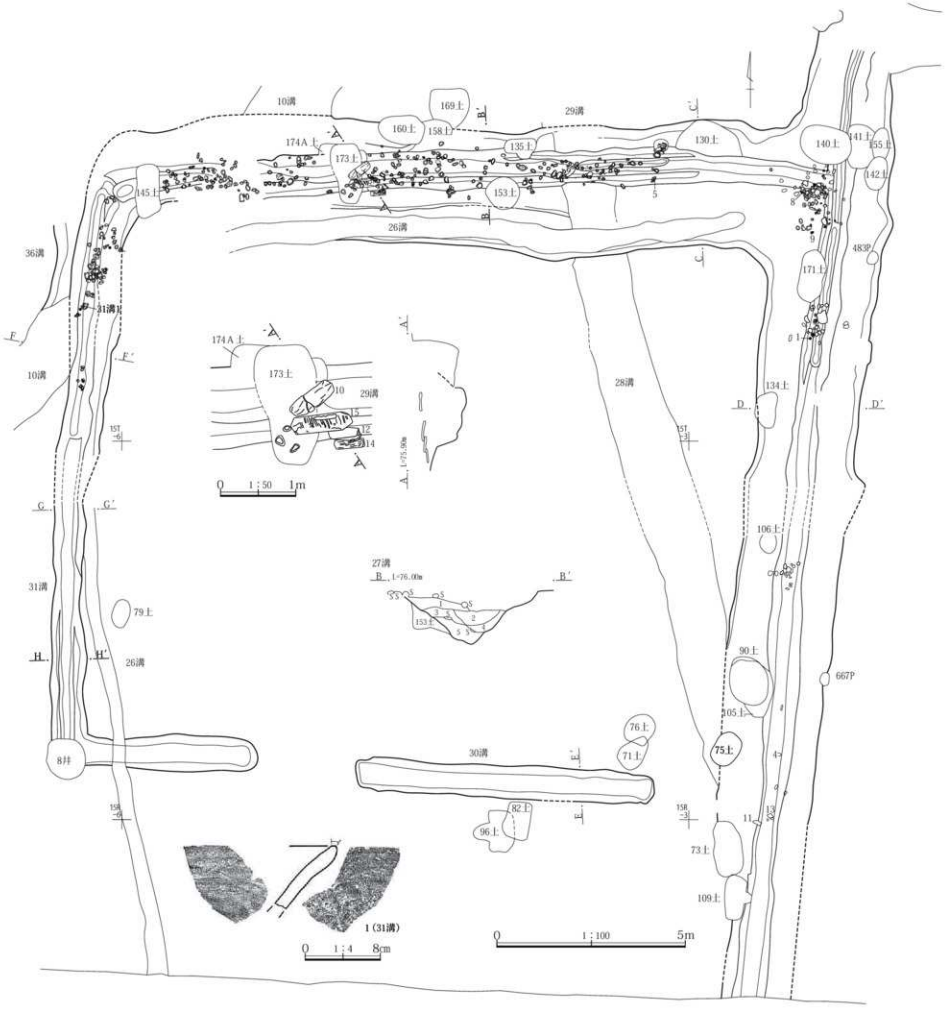


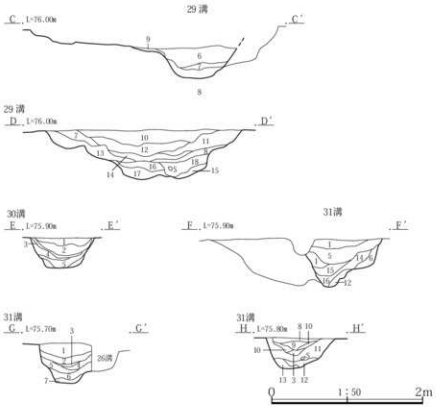
0　1:3　10cm

第556図　3区28号溝出土遺物(4)



第557図　３区 29 号溝出土遺物（１）





29号溝

1 暗褐色土　軟らかく粘性あり。焼土粒子・炭化物粒子・ローム粒子少量含む。
2 灰褐色土　やや堅くしまり粘性あり。焼土粒子・ローム粒子微量に含む。
3 暗褐色土　軟らかく良くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロック少量に含む。
4 暗褐色土　やや堅くしまり非常に粘性あり。黄白色粘質土粒子少量に含む。
5 暗褐色土　やや堅くしまり粘性あり。ロームブロック微量に含む。
6 暗褐色土　軽石粒子・焼土粒子微量、浅間B軽石含む。
7 暗褐色土　ローム粒子含む。
8 黒褐色土　ロームブロック多量に含む。
9 黒褐色土　ややしまり弱い。ロームブロック含む。
10 暗褐色土　しまり強い。浅間B軽石含む。
11 暗褐色土　しまり強い。ローム粒子微量、浅間B軽石含む。
12 暗褐色土　しまり強い。粘土互層。浅間B軽石含む。
13 暗褐色土　ややしまり弱い。ロームブロック多量に含む。
14 暗褐色土　しまり強い。ロームブロック含む。
15 暗褐色砂質土　しまり強い。ローム粒子含む。
16 黒褐色粘質土　しまり強い。ロームブロック・白色軽石粒子少量に含む。
17 黒褐色粘質土 しまり強い。ロームブロック・白色軽石粒子やや多量に含む。
18 黒褐色砂質土　しまり強い。

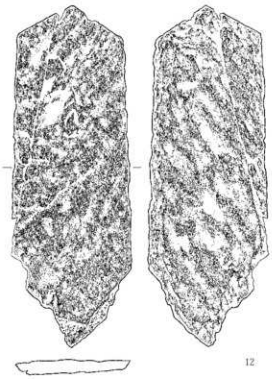
30号溝

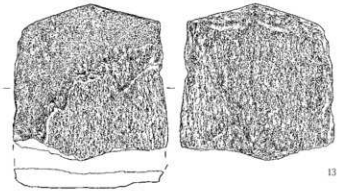
1 暗褐色土　焼土粒子少量、浅間B軽石・ローム粒子含む。
2 黒褐色土　ローム粒子含む。
3 砂層
4 暗褐色土　ローム粒子多量、ロームブロック含む。
5 黒褐色土　ローム粒子少量に含む。
6 暗褐色土　ロームブロック・ローム粒子含む。

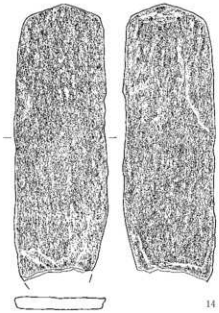
31号溝

1 暗褐色土　焼土粒子・ローム粒子・軽石粒子含む。
2 暗褐色土　軽石粒子少量、ローム粒子・焼土粒子含む。
3 暗褐色土　白色粘土含む。
4 暗褐色土　焼土粒子・ローム粒子・砂層含む。
5 暗褐色土　ローム粒子含む。
6 暗褐色土　ロームブロック含む。
7 暗褐色土　ロームブロック多量に含む。
8 暗褐色土　軽石粒子少量、浅間B軽石含む。
9 暗褐色土　白色粘土小ブロック多量に含む。
10 褐色土＋白色粘土大ブロック
11 黒褐色土　浅間B軽石・ローム粒子含む。
12 黒褐色土　白色粘土ブロック含む。
13 黒褐色土　白色粘土含む。

第558図　3区29・30・31・36号溝と31号溝出土遺物







0　1:4　8cm

0　1:6　20cm

第559図　3区29号溝出土遺物(2)

第235表　3区溝出土遺物(2)

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値					胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第553図 PL.217	6	土師器 杯	28溝 1/4	口	18.4				細砂粒・赤色粘土粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。	器面磨滅。
第554図 PL.217	7	土師器 鉢	28溝 口縁一部欠	口	20.0	高	9.1		精選・赤色粘土粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部から底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	内外面ともやや磨滅。
第554図 PL.217	8	須恵器 杯蓋	28溝 2/3	口	13.2	高	3.7		細砂粒/還元焼/灰白	ロクロ整形、回転右回り。天井部中心寄りに回転ヘラ削り。	内面底部磨耗、杯として使用か。
第554図 9		須恵器 瓶	28溝 底部～胴部下位						細砂粒/還元焼・軟質/灰	ロクロ整形、回転右回り。体部には回転ヘラ削り。底部にはカキ目が見られる。	
第554図 10		須恵器 脚付短頸壺	28溝 口縁～体部片	口	7.8				白色鉱物粒/還元焼/灰	ロクロ整形、右回転。体部下半に回転ヘラ削り。脚部の透孔は3ヶ所に配置か。	
第554図 PL.217	11	土師器 甕	28溝 3/4	口 底	16.2 23.3	高	4.6		粗砂粒/良好/明赤褐	口縁部は横ナデ。胴部は縦位のヘラ削り。最下位のみ横位のヘラ削り。内面胴部は横位にヘラナデ。	被熱・変質・変色。
第554図 12		土師器 甕	28溝 口縁部～胴部 1/3	口	18.4				小礫・粗砂粒・片岩/良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ。胴部は斜位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	内外面とも磨滅。外面胴部は炭素吸着。
第554図 13		土師器 甕	28溝 口縁～胴部片	口	17.6				小礫・粗砂粒多・片岩/良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ。内面胴部は横位のナデ。	外面磨滅・整形不明。
第554図 14		土師器 甕	28溝 口縁～胴部上位1/2	口	20.9				小礫・粗砂粒・片岩/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部は縦位にヘラ削り。内面はナデ。	内外面とも磨滅。
第555図 15		土師器 甕	28溝 口縁～胴部1/3	口	20.0				小礫・粗砂粒・片岩/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部は斜縦位にヘラ削り。内面胴部は横位にヘラナデ。	外面胴部に煤付着か、内外面ともやや磨滅。
第555図 16		土師器 甕	28溝 底部～胴部2/3	底	4.9				粗砂粒・軽石/良好/橙	胴部中位は大きく波打つ。胴部は4回に分けて縦位にヘラ削り。底部もヘラ削り。内面は横位にヘラナデ。	被熱・下位炭素吸着。
第555図 17		土師器 甕	28溝 口縁～胴部上位1/3	口	21.0				粗砂粒多/良好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ。胴部は縦位・斜位にヘラ削り。内面胴部は横位のヘラナデ。	外面炭素吸着。
第555図 PL.217	18	土師器 甕	28溝 3/4	口 底	19.5 10.6	高	31.2		粗砂粒多/良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ。胴部上半部は斜位、下位は横位・斜縦位のヘラ削り。内面胴部は横位のヘラナデ。	内外面とも磨滅。下半部炭素吸着。
第556図 19		土師器 甕	28溝 口縁～胴部	口	24.0				粗砂粒多/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部は斜縦位にヘラ削り。内面胴部は横位にヘラナデ。	被熱・変色。
第556図 20		須恵器 甕	28溝 口縁～肩部片	口	12.8				精選/還元焼/灰	細作り。口縁部はロクロ整形による横ナデ。外面胴部は叩き目の上にナデ。内面はアテ具痕。	
第556図 21		須恵器 甕	28溝 口縁～胴部片	口	22.6				細砂粒/還元焼・軟質/灰白	口縁部はロクロ整形、横ナデ。外面に10本1単位のハケ目による波状文。胴部は叩き整形。外面は平行叩き痕の上にカキ目を重ねる。内面同心円状のアテ具痕。	
第556図 PL.217	22	石製品 棒状扁平礫	28溝	長幅	15.1 5.8	厚重	2.5 308.3		雲母石英片岩	器体中央よりやや上端側に偏る浅くノッチ状に加工する。ノッチは平滑に研磨、敲打痕は残されていない。ノッチは捻縛用のもので、上端側に剥離痕が生じている。	
第556図 PL.217	23	礫石器 敲石	28溝	長幅	14.2 7.5	厚重	4.1 538.9		細粒輝石安山岩/0/0	背面側左辺に敲打痕、上端・裏面側ヘ口部と右辺エッジに敲打に伴う剥離痕がある。剥離痕が生じた部分は礫のエッジが薄い場所に相関する。	
第558図	1	在地系土器 片口鉢	31溝 口縁部片	口 底			高		B//灰白～灰	還元炎。断面から外面器表は灰白色、内面器表は灰色。口縁部はゆるく外反し、薄い主縁状を なす。口縁端部器表は厚減。	14世紀中頃。
第557図	1	常滑陶器 甕	29溝 肩部片	口 底			高		//灰～浅黄橙	断面の多くは灰色で下位は灰色と浅黄橙色の縞状となる。内面指頭圧痕と接合痕残る。外面に自然釉かかる。外面に叩き目。	121・171土、11井、27・29・52溝出土片と同一個体の可能性高い。
第557図	2	尾張陶器 片口鉢	29溝 体部上位片	口 底			高		//灰白	外面に櫛幅目。残存部外面上部に丸下な横撫で部分があり、口縁部下と推定される。内面上部に自然釉が少量斑状に降る。	常滑片口鉢Ⅰ類。中世。
第557図	3	在地系土器 皿	29溝 1/4	口 底			高		B//橙	内面の体部と底部境不明瞭。外面中央の櫛幅目圧著。底部切離不明。	14世紀後半～15世紀前半か。
第557図	4	在地系土器 片口鉢	29溝 体部片	口 底			高		B//にぶい黄橙～灰	断面中央は灰白色。器表付近はにぶい黄橙色。器表は灰色。内面器表は使用により摩滅。残存部にすり目なし。	中世。
第557図	5	在地系土器 片口鉢	29溝 1/5	口 底			高		B//灰白～暗灰	還元炎。断面は灰白色、器表は暗灰色。体部外面に指圧で状の凹凸。内面器表は使用により摩滅。残存部にすり目なし。底部外面は施削りか施撫で。器表やや摩滅し調製痕不明瞭。	中世。
第557図	6	在地系土器 内耳鍋	29溝 口縁部片	口 底			高		B//灰	断面は灰褐色、器表は灰色。内耳部片。口縁端部内面は稜をなし、上面にはほぼ平坦。口縁端部外面は外反するように僅かに突き出る。	15世紀後半～16世紀中頃。
第557図	7	在地系土器 内耳鍋	29溝 口縁部片	口 底			高		B//灰	還元炎。口縁部は短く外反し、端部は明瞭な稜をなして突き出る。口縁部は横撫で。体部外面は木口状工具による横位撫で。	14世紀後半～15世紀中頃。
第557図	8	在地系土器 火鉢	29溝 口縁部片	口 底			高		B//暗灰	断面は明赤褐色、器表は暗灰色。口縁端部内面は断面三角形状に突き出る。端部上面は幅広でもみを持つ。内面口縁部下に菱形状押印文。口縁部に焼成前の穿孔一部分所残る。	中世。

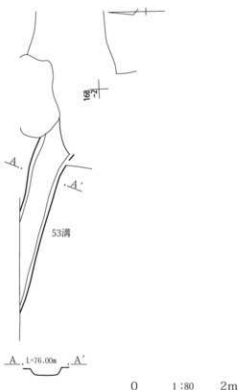
挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第557図	9	石造物 板碑	29溝	高	(9.5)	厚	2.4	雲母石英片岩	部位不明。碑面の磨滅は弱い。石材異質。	
				幅	(9.6)	重	190			
第557図 PL.218	10	石造物 板碑	29溝	高	(66.0)	厚	2.6	黒色片岩	主尊・紀年銘とも判読できない。碑面は表裏面とも磨滅が激しい。石材異質。	楕円礫
				幅	23.8	重	7840			
第557図 PL.217	11	石造物 板碑	29溝	高	(25.8)	厚	3.2	緑色片岩	板碑石造・土部側破片。碑面に阿弥陀如来種子（キリーク）の一部と思われる痕跡が残る。碑面の磨滅が著しい。	
				幅	(11.4)	重	1273.7			
第559図 PL.218	12	石造物 板碑	29溝	長	53.8	厚	2.4	緑色片岩	板碑完形。碑面の剥落が激しく、阿弥陀如来種子（キリーク）一尊と蓮座の痕跡が残る。紀年銘判読不能。裏面側に整形時の横位工具痕（幅９mm程）が残る。	
				幅	19.0	重	3800			
第559図 PL.217	13	石造物 板碑？	29溝	高	(16.5)	厚	2.1	雲母石英片岩	板碑頂部破片。碑面主尊部を剥落する。石材異質。	
				幅	16.3	重	869.4			
第559図 PL.217	14	石造物 板碑	29溝	長	(43.4)	厚	1.8	緑色片岩	小形板碑。碑面は著しく摩耗し、阿弥陀如来種子（キリーク）一尊の痕跡が残る。紀年銘判読不能。裏面側に整形時の横位工具痕（幅12mm）が残る。	棒状扁平礫
				幅	14.6	重	2440			
第559図 PL.218	15	石造物 板碑	29溝	高	81.8	厚	2.3	緑色片岩	浅い薬研彫りの刷三尊種子とキリーク下に蓮座を配す。紀年銘判読不可。裏面側に横位の平ノミ状工具痕（幅９mm）を残す。	棒状扁平礫
				幅	24.0	重	10040			

53号溝（第560図）

位置　16Ｂ－２グリッド

北側は調査区域外へ延び、西側は52号溝と重複して不明となり、新旧関係も不明。平面形は直線状。走向方位はＮ－72°－Ｗ。断面形は皿状。底面はほぼ平坦。勾配はほとんどない。埋没状況不詳。規模は長さ4.2m上端幅58～74cm深さ18cmである。中近世の遺物は出土していない。

53号溝



第560図　３区53号溝

4　その他関連する遺構

中世区画遺構としては、１・２号区画遺構が明確なものとして抽出できるが、７号溝も区画を形成しており、西限は不明ながら同時期のものに１号溝がある。そこで、この両溝に挟まれた範囲を関連するものと想定し、ここで一括して扱う。また、１号屋敷の東側でも、関連がうかがえる溝があるため、あわせて掲載する。

（１）掘立柱建物

３区では53棟の掘立柱建物が検出されたが、そのうち中世区画遺構の範囲に入り、１号屋敷内部を除く10棟をここで扱う。主軸方位に着目すると、掘立柱建物は３区全体で10種類に分類でき、１号屋敷外では２～４・10類の４種類が分布する。詳細は第177表のとおり。建物の分布は概ね３か所に分かれるため、以下分類を加味しながら概要を示す。

１号屋敷から西へ約10～25m離れて６棟が集中して分布する。一部は２号区画遺構の内部に含まれるが、区画する30号溝と重複するものが多く、33号掘立柱建物は後出である。主軸方位も異なるため、２号区画遺構との関連は想定できない。主軸方位別では４種類全てが見られるが、特に３類が３棟と多く、10類（第177表）は唯一ここに１棟ある。

これら６棟から西へ約10～15m離れた３区中央付近で、南北に４棟が分布する。ここでも７号溝がＬ字形に南側を区画する形態を示すが、建物と一部重なり、主軸方位も異なるため、関連は想定できない。主軸方位別では３種類が見られる。３棟については、柱穴がやや大きい点で共通している。

31号掘立柱建物（第562図、ＰＬ.160）

位置　15Ｒ－４・５グリッド

重複　Ｐ２は91号土坑、32号溝と重複するが新旧関係不明。32・33号掘立柱建物と重複するが、柱穴同士の重複がなく新旧関係不明。

主軸方位　Ｎ－64～65°－Ｅ。　**面積**　14.17㎡

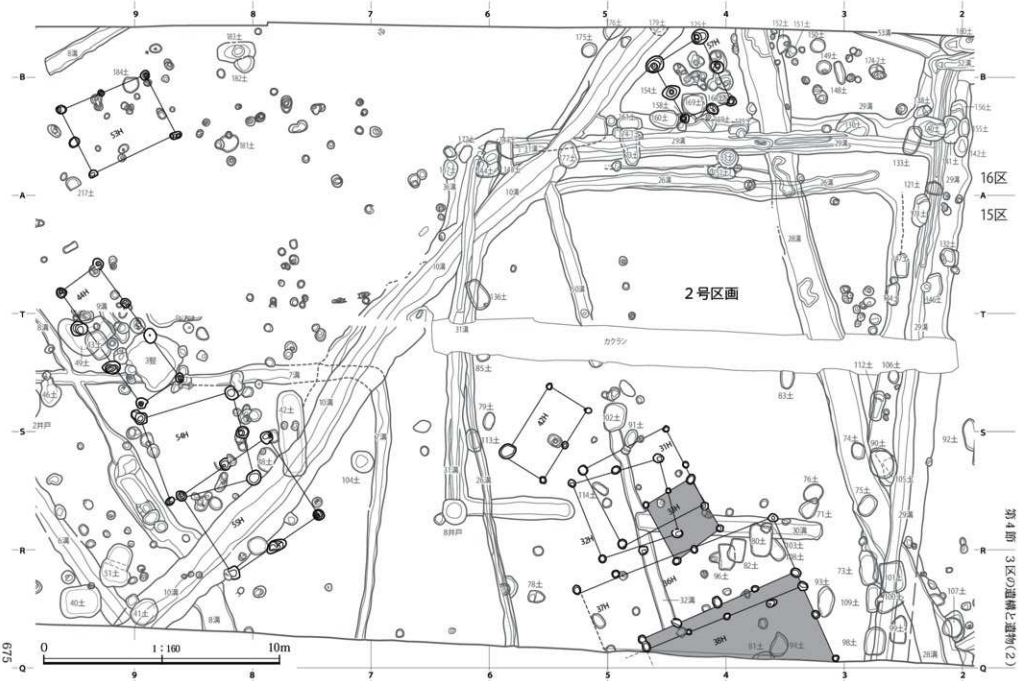
形態　２間四方の方形。西辺は東辺より10cm短いため、南辺は南下がりに傾き、西辺は西へ外傾する。北辺の中間柱Ｐ２は東へ15cm寄る。東辺の中間柱Ｐ４は北へ11cm寄る。埋没状況に特徴的なものはない。柱穴の大きさは23～38cmとばらつきがある。形態は隅丸方形と円形が混在する。36cmとやや深いＰ６を除き、深さは８～21cmで概ね浅い。詳細な規模は第236表のとおり。

第236表　３区31号掘立柱建物計測値　　（　　）は重複、境界線による欠損

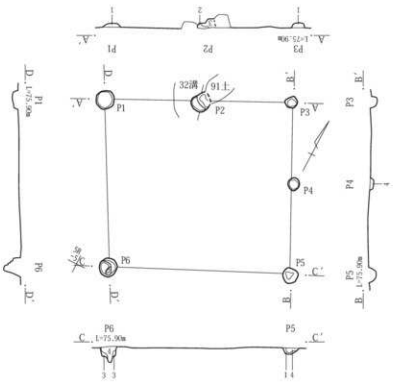
建物全体の規模	2間四方・正方形				面積	14.17㎡	旧ピット番号
主軸方向	N-64～65°-E				位置	15R-4・5	
桁・梁の規模(m)	柱穴No.	規模(cm) 長径	短径	深さ	形状	次ピットとの間隔(m)	
北辺　3.95	1	39	38	9	円形	2.13	
	2	41	32	21	隅丸方形	1.82	
東辺　3.66	3	26	23	12	円形	1.72	
	4	26	25	8	円形	1.94	
南辺　3.90	5	31	30	16	円形	3.90	
西辺　3.56	6	40	37	36	円形	Ｐ１へ3.56	

第237表　３区32号掘立柱建物計測値　　（　　）は重複、境界線による欠損

建物全体の規模	2間四方・正方形				面積	12.11㎡	旧ピット番号
主軸方向	N-16～17°-W				位置	15Q・R-4・5	
桁・梁の規模(m)	柱穴No.	規模(cm) 長径	短径	深さ	形状	次ピットとの間隔(m)	
東辺　3.26	ア	42	35	23	楕円形	3.26	32B3
南辺　3.42	イ	47	(34)	36	楕円形	1.67	36B2
	ウ	38	34	61	不整円形	1.78	36B1
西辺　3.41	エ	32	31	17	円形	3.41	655
北辺　3.85	オ	33	28	38	楕円形	1.94	649
	カ	38	30	15	楕円形	Ｐアへ1.92	32B1



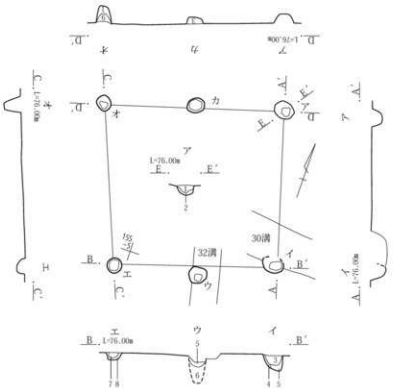
第561図　3区その他周辺の掘立柱建物分布図



1　暗褐色土　ローム粒子・軽石粒子含む。
2　暗褐色土　ローム粒子微量に含む。
3　暗褐色土　ロームブロック多量に含む。
4　黒褐色土　白色軽石粒子含む。

0　1:80　2m

第562図　３区31号掘立柱建物



1　黒褐色土　白色軽石粒子含む。
2　黒褐色土　ロームブロック含む。
3　暗褐色土　ローム粒子・白色軽石粒子含む。
4　暗褐色土　黄白色土ブロックやや多量に含む。
5　暗褐色土　ロームブロック含む。
6　黒褐色土　黄白色土ブロック含む。
7　暗褐色土　ロームブロック・白色軽石粒子少量に含む。
8　褐色土
9　暗褐色土　ローム粒子・炭化物粒子・白色軽石粒子少量に含む。

0　1:80　2m

第563図　３区32号掘立柱建物

32号掘立柱建物（第563図）

位置　15Q・R－４・５グリッド

重複　Ｐイは30号溝、Ｐウは32号溝と重複するが新旧関係不明。31・33号掘立柱建物と重複するが、柱穴同士の重複がなく新旧関係不明。

主軸方位　N－16～17°－W。　**面積**　12.11㎡

形態　南北１間×東西２間の正方形。南辺は北辺より43㎝短いため、東辺は東へ外傾し、西辺は西へ外傾する。北辺の中間柱Ｐカは北辺のほぼ中間にある。南辺の中間柱Ｐウは東へ５㎝程寄り、南辺の柱筋から柱穴半分外側に外れ、又材の又部で横材を受ける構造と考えられる。埋没状況に特徴的なものはない。重複の影響が大きいＰイを除き、柱穴の短径は28～35㎝と大差ない。形態は全て円形・楕円形である。柱穴の深さは17～61㎝とばらつきがある。詳細な規模は第237表のとおり。

33号掘立柱建物（第564図）

位置　15Q・R－４グリッド

重複　Ｐイは30号溝より後出。31・32・37号掘立柱建物と重複するが、柱穴同士の重複がなく新旧関係不明。

主軸方位　N－29～30°－W。　**面積**　5.80㎡

形態　南北１間×東西２間の正方形。東辺は西辺より33㎝短いため、南辺は西下がりに傾く。北辺の中間柱Ｐオはほぼ北辺の中間にある。埋没状況に特徴的なものはない。Ｐア・ウの長径は42・36㎝と長いため、柱の立て替えなどによる柱穴の重複や、柱が抜き取られた可能性もある。そのほかの短径は20～29㎝で大差ない。柱穴の形態は全て円形・楕円形である。Ｐイの深さは36㎝と深いが、30号溝と重複したことによる誤認も含めた影響が想定できる。それ以外の深さは10～18㎝と大差なく概ね浅い。詳細な規模は第238表のとおり。新旧関係から２号区両遺構より後代となる。

37号掘立柱建物（第565図、ＰＬ.160）

位置　15Q・R－３～５グリッド

重複　Ｐウは30号溝、Ｐクは38号掘立柱建物Ｐアと重複するが新旧関係不明。33号掘立柱建物と重複するが、柱穴同士の重複がなく新旧関係不明。Ｐア・イ間とＰイ・ウ間の中間柱は、32・30号溝とそれぞれ重複した結果不明となった可能性がある。

主軸方位　N－69～70°－E。　**面積**　23.01㎡

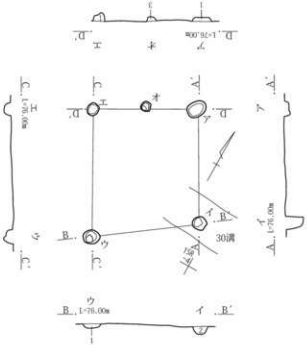
形態　梁間１間型で桁行４間の東西棟。北辺の西端にＰ

第238表　３区33号掘立柱建物計測値　　（　　）は重複、境界線による欠損

建物全体の規模	1間・２間・正方形				面積	5.80㎡		旧ピット番号
主軸方向	N-29～30°-W				位置	15Q・R－4		
桁・梁の規模（m）	柱穴№	規模（cm）			形状	次ピットとの間隔（m）		
		長径	短径	深さ				
東辺　2.40	ア	42	33	12	楕円形	2.40		33H3
南辺　2.34	イ	30	29	36	円形	2.34		33H4
西辺　2.73	ウ	36	29	18	楕円形	2.73		33H6
北辺　2.18	エ	26	23	17	楕円形	1.08		33H1
	オ	20	20	10	円形	ＰアへI.11		33H2

第239表　３区37号掘立柱建物計測値　　（　　）は重複、境界線による欠損

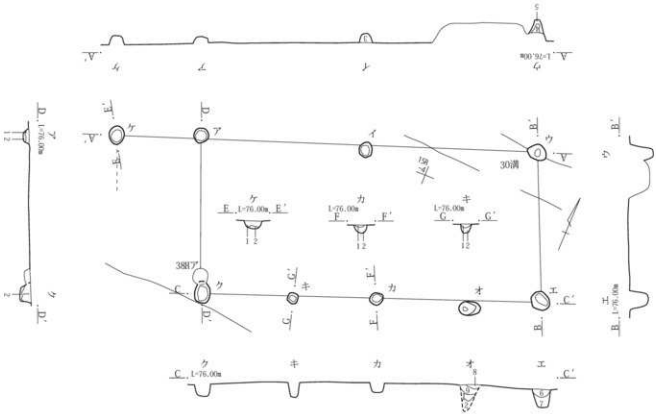
建物全体の規模	梁間１間・桁行４間・東西棟				面積	23.01㎡		旧ピット番号
主軸方向	N-69～70°-E				位置	15Q・R-3～5		
桁・梁の規模（m）	柱穴№	規模（cm）			形状	次ピットとの間隔（m）		
		長径	短径	深さ				
北辺　7.11	ア	32	31	14	円形	3.48		37H2
	イ	33	26	21	楕円形	3.62		33H5
	ウ	(41)	32	50	楕円形	3.12		87住4
東辺　3.12	エ	42	36	40	楕円形	1.62		615
南辺　7.16	オ	46	29	56	楕円形	1.87		621
	カ	28	27	20	円形	1.78		37H11
	キ	21	21	32	隅丸方形	1.90		37H12
	ク	(47)	31	23	楕円形	ＰアへI.33		37H14
西辺　3.23	ケ	38	32	18	楕円形	ＰアへI.78		37H1



1　黒褐色土　白色軽石粒子含む。
2　黒褐色土　ローム粒子含む。
3　黒褐色土　ローム粒子微量に含む。

0　1:80　2m

第564図　３区33号掘立柱建物



1　暗褐色土　ローム粒子少量に含む。
2　褐色土
3　黒褐色土　ローム粒子含む。
4　暗褐色土　ロームブロック・黄白色土ブロック含む。
5　暗褐色土　黄白色土ブロック含む。
6　黒褐色土　ローム粒子少量に含む。
7　暗褐色土
8　暗褐色土　ロームブロック含む。
9　暗褐色土　ロームブロック・ローム粒子やや多量に含む。

0　1:80　2m

第565図　３区37号掘立柱建物

ケがあるため、桁側は西へ１間延びる可能性がある。北辺と南辺はやや横方向にずれるため、東辺は西へ内傾し、西辺は西へ外傾する。桁行柱間を平均すると、約1.78m・約5.97尺で、北辺のＰイは８cm程度西に寄る。南辺のＰオは16cm東に寄り、Ｐクは12cm東に寄るため、Ｐオ・カ間の柱間は９cm広くなる。Ｐオは西辺の柱筋から柱穴半分外側に外れ、又材の又部で横材を受ける構造と考えられる。埋没土にローム ブロックが目立つが、柱痕などが残存するものはない。Ｐエ・オの長径は42・46cmと大きいため、柱の立て替えなどによる柱穴の重複や、柱が抜き取られた可能性もある。そのほかの短径は21 ～ 32cmでややばらつきがある。柱穴の形態は隅丸方形と円形が混在する。東端のＰエ～カの深さは40 ～ 56cmとやや深く、長径の状況とも一致する。そのほかの柱穴の深さは14 ～ 32cmとやや浅い。詳細な規模は第239表のとおり。

38号掘立柱建物（第566図）

位置　15Ｑ－３・４グリッド

重複　Ｐアは37号掘立柱建物Ｐケ、Ｐイは32号溝と重複するが新旧関係不明。

主軸方位　Ｎ－66°－Ｅ。　**面積**　14.16㎡以上

形態　梁間２間型で桁行４間の東西棟か。南辺は調査区域外となり不明。東辺はやや西へ内傾する。北辺の桁行柱間を平均すると約1.77m・約5.8尺で、Ｐイは11cm西へ、Ｐエは９cm西へ寄る。Ｐウは北辺の柱筋から柱穴半分外側に外れ、又材の又部で横材を受ける構造と考えられる。東辺の中間柱Ｐカは５cm北へ寄る。埋没状況に特徴的なものはない。Ｐウ・オの長径は47・43cmと大きいため、柱の立て替えなどによる柱穴の重複や、柱が抜き取られた可能性もある。そのほかの短径は26 ～ 33cmで大差ない。柱穴の形態は全て円形・楕円形である。柱穴の深さは18 ～ 46cmとばらつきがある。詳細な規模は第240表のとおり。

42号掘立柱建物（第567図）

位置　15Ｒ・Ｓ－５グリッド

重複　Ｐ１～３は84号住居と重複するが新旧関係不明。

主軸方位　Ｎ－32°－Ｅ。　**面積**　6.35㎡

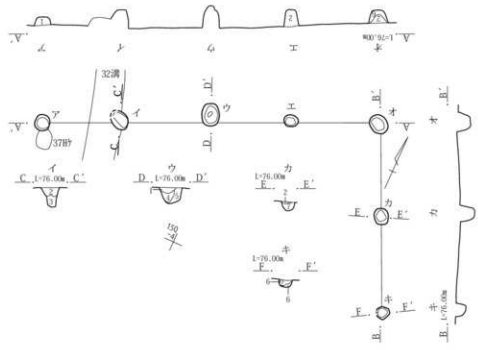
形態　梁間１間型で桁行２間の東西棟。西辺は東辺より26cm短いため、南辺は東下がりに傾く。東辺の中間柱Ｐ３は東辺のほぼ中央にある。埋没状況に特徴的なものはない。Ｐ５の長径は73cmと大きく、柱の抜き取りや別の土坑と重複する可能性がある。そのほかの短径は概ね20cm強である。柱穴の形態は隅丸方形と円形が混在する。Ｐ１の深さは75cmと極端に深く、そのほかの深さは12 ～ 35cmでバランスを欠く。柱穴の認定に検討の余地が残る。詳細な規模は第241表のとおり。

第240表　３区38号掘立柱建物計測値　　（　　）は重複、境界線による欠損

建物全体の規模		梁間２間・桁行４間・東西棟			面積	―㎡	旧ピット番号
主軸方向		N-66～°-E			位置	15Q-３・４	
桁・梁の規模(m)	柱穴No.	規模(cm)			形状	次ピットとの間隔(m)	
		長径	短径	深さ			
北辺　7.08	ア	34	30	18	円形	1.66	37H6
	イ	(45)	33	40	楕円形	1.89	36H6
	ウ	47	36	46	楕円形	1.70	37H5
	エ	30	24	36	楕円形	1.86	38H1
東辺　4.00	オ	43	35	27	楕円形	1.95	38H2
	カ	36	29	31	楕円形	2.05	38H3
	キ	27	26	20	円形	―	38H4

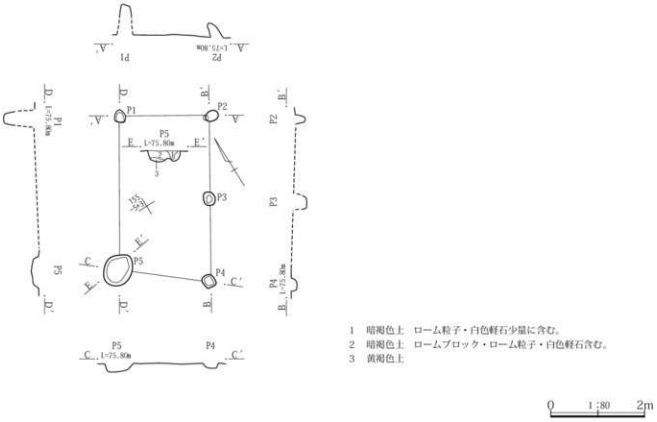
第241表　３区42号掘立柱建物計測値　　（　　）は重複、境界線による欠損

建物全体の規模		梁間１間・桁行２間・南北棟			面積	6.35㎡	旧ピット番号
主軸方向		N-32°-E			位置	15R・S-５	
桁・梁の規模(m)	柱穴No.	規模(cm)			形状	次ピットとの間隔(m)	
		長径	短径	深さ			
北辺　1.83	1	26	24	75	楕円形	1.83	
東辺　3.48	2	27	22	35	楕円形	1.73	
	3	30	24	27	楕円形	1.76	(664)
南辺　1.96	4	28	24	12	隅丸方形	1.96	(648)
西辺　3.22	5	73	58	20	楕円形	Ｐ１へ3.22	(663)



1　暗褐色土　ローム粒子少量に含む。
2　暗褐色土　ローム粒子含む。
3　黒褐色土　ロームブロック含む。
4　褐色土
5　暗褐色土　ロームブロック含む。
6　暗褐色土　ロームブロック・ローム粒子含む。
7　黒褐色土　ローム粒子少量に含む。

第566図　３区38号掘立柱建物



1　暗褐色土　ローム粒子・白色軽石少量に含む。
2　暗褐色土　ロームブロック・ローム粒子・白色軽石含む。
3　黄褐色土

第567図　３区42号掘立柱建物

44号掘立柱建物（第568図、ＰＬ.161）

位置　15Ｓ・Ｔ－８・９グリッド

重複　Ｐ１は1155号ピット、Ｐ２は1167号ピット、Ｐ３は３号竪穴状遺構、Ｐ４は７号溝、Ｐ７は49号土坑と重複するが新旧関係不明。

主軸方位　Ｎ－35°－Ｗ。　**面積**　11.63㎡

形態　梁間１間型で桁行３間の南北棟。南辺は北辺より５㎝短いため、西辺は西へ外傾する。桁行柱間を平均すると、約1.96ｍ・約6.5尺であるが、北辺の平均柱間は約1.97ｍで、Ｐ２は７㎝東へ、Ｐ３は19㎝西へ寄るため、Ｐ２・３間の柱間は1.72ｍと狭い。南辺の平均柱間は約1.95ｍで、Ｐ７は13㎝西へ寄るため、Ｐ６・７間の柱間は2.11ｍと広い。このため、南北辺の柱穴Ｐ２とＰ７、Ｐ３とＰ６は、ずれて対面する。埋没状況に特徴的なものはない。Ｐ６・７の長径は76・71㎝と大きく、柱の立て替えなどによる柱穴の重複や、柱が抜き取られた可能性もある。そのほかの短径も34～49㎝とややばらつく。柱穴の形態は全て円形・楕円形である。柱穴の深さは43～62㎝と大差なくやや深い。詳細な規模は第242表のとおり。３号竪穴状遺構は南端１間にほぼ一致することから、内部施設である可能性もある。

53号掘立柱建物（第569図）

位置　16Ａ・Ｂ－８・９グリッド　**重複**　なし。

主軸方位　Ｎ－65～68°－Ｅ。　**面積**　11.89㎡

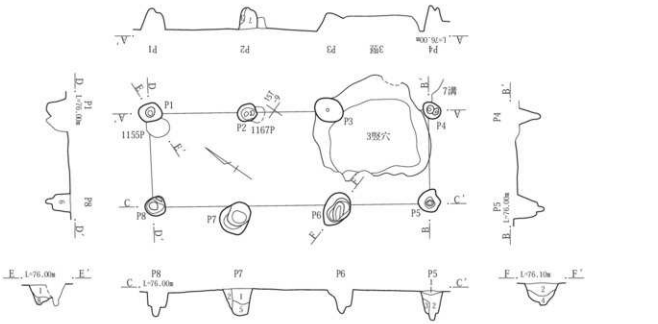
形態　梁間２間型で桁行２間の東西棟。東辺は西辺より18㎝短いため、北辺は東下がりに傾く。北辺の中間柱Ｐ２は３㎝西に寄る。西辺の中間柱Ｐ６は４㎝北へ寄り、西辺の柱筋から柱穴半分外側に外れ、又材の又部で横材を受ける構造と考えられる。Ｐ４は東西に長く、柱の立て替えなどによる柱穴の重複や、柱の抜き取りを思わせるが、埋没土は一様で検証できない。Ｐ１・４・６の長径は45・49・46㎝と東西に長く、柱の立て替えなどによる柱穴の重複や、柱が抜き取られた可能性もある。そのほかの長径は27～37㎝で大差ないが、短径より長いものが目立つ。柱穴の形態は隅丸方形と円形が混在する。Ｐ６の深さは20㎝とやや浅いが、そのほかの深さは30～40㎝と大差ない。詳細な規模は第243表のとおり。

第242表　３区44号掘立柱建物計測値　　（　　）は重複、境界線による欠損

建物全体の規模	梁間１間・桁行３間・東西棟				面積	11.63㎡	旧ピット番号
主軸方向	Ｎ-35°-Ｗ				位置	15Ｓ・Ｔ-８・９	
桁・梁の規模（m）	柱穴№	規模（cm）			形状	次ピットとの間隔（m）	
		長径	短径	深さ			
北辺　5.90	1	49	38	46	楕円形	2.04	305
	2	42	34	46	楕円形	1.72	301
	3	63	49	43	楕円形	2.15	310
東辺　1.98	4	（40）	（30）	54	楕円形	1.98	1174
南辺　5.85	5	49	44	62	不整円形	1.94	1157
	6	76	54	51	楕円形	2.11	1166
	7	71	55	56	楕円形	1.82	349
西辺　1.98	8	43	42	53	不整円形	Ｐ１へ1.98	368

第243表　３区53号掘立柱建物計測値　　（　　）は重複、境界線による欠損

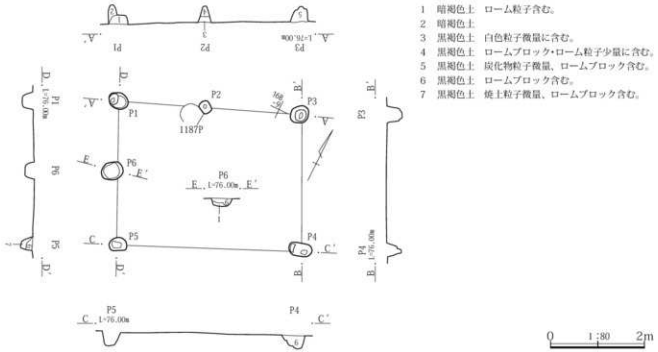
建物全体の規模	２間・２間・方形				面積	11.89㎡	旧ピット番号
主軸方向	Ｎ-65～68°-Ｅ				位置	16Ａ・Ｂ-８・９	
桁・梁の規模（m）	柱穴№	規模（cm）			形状	次ピットとの間隔（m）	
		長径	短径	深さ			
北辺　3.99	1	45	36	40	楕円形	1.96	1139
	2	27	21	35	隅丸方形	2.03	1190
東辺　2.90	3	37	36	33	円形	2.90	1144
南辺　3.96	4	49	27	30	隅丸長方形	3.96	1152
西辺　3.08	5	36	27	30	楕円形	1.58	1147
	6	46	38	20	楕円形	Ｐ１へ1.50	1138



1　暗褐色土　白色軽石粒子微量に含む。
2　暗褐色土　ローム粒子・細粒白色軽石含む。
3　暗褐色土　ローム粒子含む。
4　暗褐色土　ロームブロック・黄白色土ブロック含む。
5　黒褐色土　黄白色土粒子少量に含む。
6　黒褐色土
7　黒褐色土　ロームブロック含む。
8　黒褐色土　軽石粒子多量に含む。

0　1:80　2m

第568図　３区44号掘立柱建物



1　暗褐色土　ローム粒子含む。
2　暗褐色土
3　黒褐色土　白色粒子微量に含む。
4　黒褐色土　ロームブロック・ローム粒子少量に含む。
5　黒褐色土　炭化物粒子微量、ロームブロック含む。
6　黒褐色土　ロームブロック含む。
7　黒褐色土　焼土粒子微量、ロームブロック含む。

0　1:80　2m

第569図　３区53号掘立柱建物

54号掘立柱建物（第570図）

位置　15Ｒ・Ｓ－７・８グリッド

重複　Ｐ１は343号ピット、Ｐ２は360号ピット、Ｐ３は10号溝、Ｐ５は321号ピットと重複するが新旧関係不明。西辺に一致する324号ピットは、当遺構の柱穴の可能性もある。

主軸方位　Ｎ－15～19°－Ｗ。　**面積**　14.23㎡

形態　南北１間×東西１間の正方形。南辺は北辺より32㎝短いため、西辺は西へ外傾する。東辺の中間柱Ｐ２は10㎝程北へ寄る。埋没状況に特徴的なものはない。Ｐ４の短径は28㎝と小さいが、そのほかの短径は46～55㎝と大差なく概ね大きい。柱穴の形態は隅丸方形と円形が混在する。Ｐ４の深さは32㎝でやや浅く、そのほかの深さは48～60㎝と概ね深い。詳細な規模は第244表のとおり。

55号掘立柱建物（第571図）

位置　15Ｑ・Ｒ－７・８グリッド

重複　Ｐ２は379・397号ピット、Ｐ３は363号ピット、Ｐ６は320号ピット、10号溝と重複するが新旧関係不明。

主軸方位　Ｎ－56°－Ｅ。　**面積**　17.33㎡

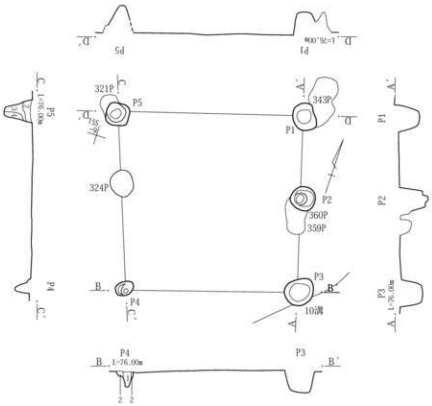
形態　梁間１間型で桁行２間の東西棟。南辺は北辺より16㎝短いため、東辺は東へやや外傾する。北辺の中間柱Ｐ２は北辺のほぼ中間にある。南辺のＰ５は13㎝東に寄る。埋没土は水平方向に堆積するものが多いが、土質は大差ないため廃絶時に人為的埋没したとは考えにくい。Ｐ５の長径は90㎝と東西に長いため、柱の立て替えなどによる柱穴の重複や、柱が抜き取られた可能性もある。そのほかの短径は40～50㎝と大差なく概ね大きい。柱穴の形態は全て円形・楕円形である。Ｐ６の深さは36㎝とわずかに浅いが、そのほかは57～73㎝と深い。詳細な規模は第245表のとおり。

第244表　３区54号掘立柱建物計測値　　（　　）は重複、境界線による欠損

建物全体の規模	1間・2間・正方形				面積	14.23㎡		旧ピット番号
主軸方向	N-15～19°-W				位置	15R・S-7・8		
桁・梁の規模(m)	柱穴No	規模(cm)			形状	次ピットとの間隔(m)		
		長径	短径	深さ				
東辺　3.70	1	58	46	48	隅丸長方形	1.76		358
	2	52	50	58	円形	1.96		335
南辺　3.66	3	64	55	48	円形	3.66		47上
西辺　3.75	4	40	28	32	楕円形	3.75		374
北辺　3.98	5	48	48	60	隅丸方形	P１へ3.98		306

第245表　３区55号掘立柱建物計測値　　（　　）は重複、境界線による欠損

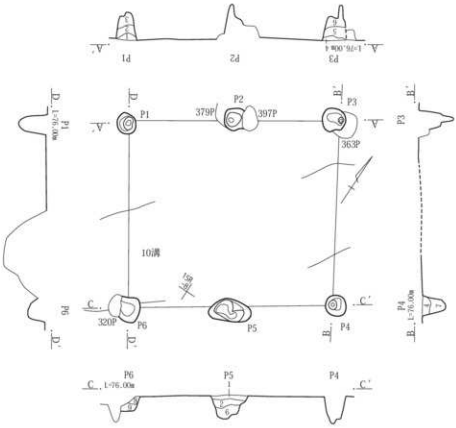
建物全体の規模	1間・2間・正方形				面積	17.33㎡		旧ピット番号
主軸方向	N-56°-E				位置	15Q・R-7・8		
桁・梁の規模(m)	柱穴No	規模(cm)			形状	次ピットとの間隔(m)		
		長径	短径	深さ				
北辺　4.50	1	45	40	60	楕円形	2.26		337
	2	(50)	50	72	不明(重複)	2.25		379
東辺　3.90	3	51	50	73	不整円形	3.90		336
南辺　3.94	4	48	44	57	円形	2.30		347
西辺　3.94	5	90	48	59	楕円形	2.04		344
	6	53	(40)	36	不明(重複)	P１へ3.94		364



1　暗褐色土　ローム粒子含む。
2　暗褐色土　白色粒子含む。
3　暗褐色土　ローム粒子少量に含む。
4　暗褐色土　ローム粒子・黄白色粒子含む。

0　1:80　2m

第570図　３区54号掘立柱建物



1　暗褐色土　ローム粒子・黄白色粒子微量に含む。
2　暗褐色土　黄白色土ブロック含む。
3　黒褐色土
4　暗褐色土　白色粒子微量に含む。
5　黒褐色土　暗褐色土ブロック含む。
6　黒褐色土　ローム粒子含む。
7　黒褐色土　ロームブロック含む。
8　暗褐色土　ローム粒子少量に含む。
9　黒褐色土　ロームブロック多量に含む。

0　1:80　2m

第571図　３区55号掘立柱建物

（２）土坑

土坑の出土遺物は少なく、時期を特定できるものも少ない。１・７号溝から中世遺物が出土しており、形態から後者は区画溝と考えられる。このため、７号溝を東限、１号溝を西限とする範囲を、区画された空間と見なし、範囲内の土坑29基を抽出した。ただし、出土遺物から明らかに時期の異なるものは、第３節で扱った。形態別の数量は以下のとおりである。

隅丸長方形	10
隅丸細長方形	1
円形	11
楕円形	5
不整形	1
不明	1
計	29基

隅丸長方形の土坑10基は点在し、主軸方位にも統一性はない。隅丸細長方形１基は７号溝と近接し、主軸方位も一致するが、溝との関連を示す証左に欠ける。円形の土坑11基は点在して統一性がない。７号溝と近接する104号土坑は、深さがある。楕円形の土坑４基は散在するが、東側の41・51号土坑は浅く共通性がある。前者から中世土器が出土し、区画溝との関連も想定できる。東側に近接する円形の48・52号土坑も近似する。平面形態不明の29号土坑から、人獣の分別ができない骨が出土している。

７号土坑（第572図、ＰＬ.161）

位置　15Ｑ・Ｒ－12グリッド

25・159号ピットと重複するが新旧関係不明。平面形は隅丸長方形。主軸方位はＮ－１°－Ｅ。壁は斜めに立ち上がる。底面はほぼ平坦でやや凸凹する。埋没状況不詳。規模は長軸165cm短軸93cm深さ12cmである。

８号土坑（第572・574図、ＰＬ.161・218、第246表）

位置　15Ｒ－11グリッド

平面形は隅丸長方形。主軸方位はＮ－82°－Ｗ。壁は斜めに立ち上がる。底面は丸みがある。埋没状況不詳。規模は長軸76cm短軸45cm深さ21cmである。中央部底面で第574図１の土師器坩が出土する。出土遺物から古墳時代中期に比定される。

９号土坑（第572図、ＰＬ.161）

位置　15Ｑ－10グリッド

平面形は隅丸長方形。主軸方位はＮ－72°－Ｅ。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面はやや凸凹する。自然埋没か。規模は長軸140cm短軸75cm深さ40cmである。

10号土坑（第572図、ＰＬ.161）

位置　15Ｑ・Ｒ－12グリッド

平面形は隅丸長方形。主軸方位はＮ－43°－Ｅ。壁は斜めに立ち上がる。底面はほぼ平坦。埋没状況不詳。規模は長軸127cm短軸90cm深さ10cmである。

11号土坑（第572・574図、ＰＬ.161、第246表）

位置　15Ｒ－14グリッド

77・78号ピットと重複するが新旧関係不明。平面形は隅丸長方形。主軸方位はＮ－10°－Ｅ。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は平坦。埋没土は均質で人為埋没か。規模は長軸125cm短軸93cm深さ17cmである。埋没土から第574図２の土師器杯が出土する。出土遺物から古墳時代後期以降に比定される。

12号土坑（第572図、ＰＬ.161）

位置　15Ｒ－15グリッド

36号ピットより前出。平面形はほぼ円形。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面はやや凸凹する。埋没状況不詳。規模は長径65cm短径60cm深さ11cmである。

13号土坑（第572図、ＰＬ.161）

位置　15Ｓ－13グリッド

平面形は隅丸長方形。主軸方位はＮ－13°－Ｅ。壁は緩やかに立ち上がる。底面はやや凸凹する。埋没状況不詳。規模は長軸170cm短軸100cm深さ13cmである。

20号土坑（第572図、ＰＬ.162）

位置　15Ｑ・Ｒ－16グリッド

平面形は楕円形か。壁は斜めに立ち上がる。底面はほぼ平坦。埋没状況不詳。規模は長径85cm短径75cm深さ13cmである。

21号土坑（第572図、ＰＬ.162）

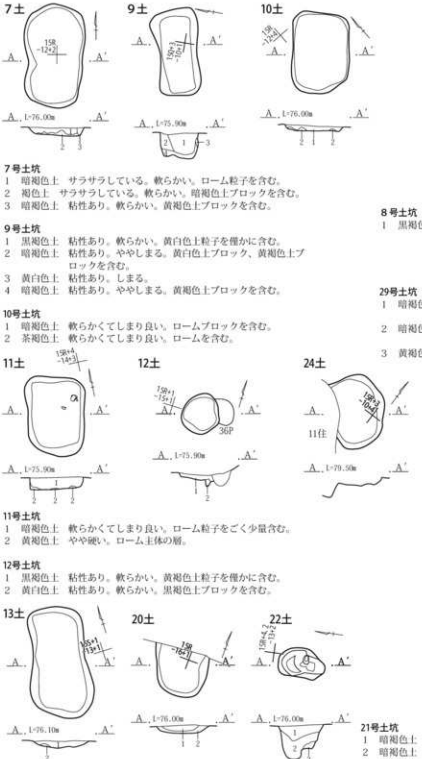
位置　15Ｑ－11グリッド

平面形はほぼ円形。断面形はピット状。埋没土３は充填土で、柱穴と考えられる。規模は長径64cm短径57cm深さ72cmである。

22号土坑（第572図、ＰＬ.162）

位置　Ｒ－13グリッド

平面形はほぼ楕円形。断面形はピット状。埋没状況不詳。規模は長径73cm短径47cm深さ53cmである。



7号土坑
1　暗褐色土　サラサラしている。軟らかい。ローム粒子を含む。
2　褐色土　サラサラしている。軟らかい。暗褐色土ブロックを含む。
3　暗褐色土　粘性あり。軟らかい。黄褐色土ブロックを含む。

9号土坑
1　黒褐色土　粘性あり。軟らかい。黄白色土粒子を僅かに含む。
2　暗褐色土　粘性あり。ややしまる。黄白色土ブロック、黄褐色土ブロックを含む。
3　黄白色土　粘性あり。しまる。
4　暗褐色土　粘性あり。ややしまる。黄褐色土ブロックを含む。

10号土坑
1　暗褐色土　軟らかくてしまり良い。ロームブロックを含む。
2　茶褐色土　軟らかくてしまり良い。ロームを含む。

11号土坑
1　暗褐色土　軟らかくてしまり良い。ローム粒子をごく少量含む。
2　黄褐色土　やや硬い。ローム主体の層。

12号土坑
1　黒褐色土　粘性あり。軟らかい。黄褐色土粒子を僅かに含む。
2　黄白色土　粘性あり。軟らかい。黒褐色土ブロックを含む。

13号土坑
1　暗褐色土　やや硬くしまる。ローム粒子、浅間Ｂ軽石を含む。
2　黄褐色土　軟らかくてしまり良い。ロームを多量に含む。

20号土坑
1　暗褐色土　軟らかくてしまり良い。ローム粒子、白色粒子、焼土粒子を含む。
2　茶褐色土　軟らかい。ロームブロックを含む。

22号土坑
1　暗褐色土　やや硬くしまり粘性あり。白色軽石、ロームブロックを含む。
2　暗褐色土　やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロックを含む。
3　黄白色土　やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土と暗褐色土の混土。

8号土坑
1　黒褐色土　粘性あり。ややしまる。ロームブロック、白色粒子を含む。

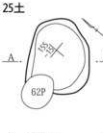
29号土坑
1　暗褐色土　軟らかくてしまり良い。ロームブロック、白色軽石を少量含む。
2　暗褐色土　軟らかくてしまり良い。粘性あり。ロームブロック、白色軽石を含む。１層よりも暗い色調。
3　黄褐色土　軟らかい。ローム主体に暗褐色土を混じる。

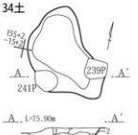
21号土坑
1　暗褐色土　粘性あり。しまる。黄褐色土粒子を含む。
2　暗褐色土　粘性あり。しまる。黄白色土粒子を含む。
3　暗褐色土　粘性あり。ややしまる。黄白色土ブロックを多く含む。

23号土坑
1　暗褐色土　粘性あり。しまる。白色粒子、黄色粒子を少量含む。
2　灰褐色土　粘性あり。硬くしまる。黄白色土ブロックを多く含む。
3　黄白色土　粘性あり。しまる。暗褐色土ブロックを含む。
4　暗褐色土　粘性あり。しまる。黄白色土粒子を少量含む。
5　暗褐色土　粘性あり。しまる。ロームブロックを含む。
6　黄褐色土　軟らかい。ローム、黄白色粘質土ブロックを含む。
7　暗褐色土　軟らかく粘性非常にあり。黄白色粘質土粒子を含む。
8　黄白色粘質土　軟らかく粘性あり。暗褐色土を含む。

0　1:60　2m

第572図　３区７～13・20～24・29号土坑





25号土坑

1　暗褐色土　粘性あり。硬くしまる。黄褐色土粒子、白色粒子を多く含む。
2　灰褐色土　粘性あり。ややしまる。黄褐色土粒子、白色粒子を非常に多く含む。
3　褐色土　粘性あり。軟らかい。黄褐色土粒子、白色粒子、黄白色土ブロックを含む。

27号土坑

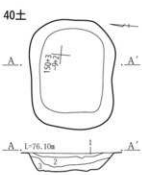
1　暗褐色土　粘性あり。しまる。焼土粒子、炭化物粒子、白色粒子を少量含む。
2　暗褐色土　粘性あり。しまる。ローム粒子、白色粒子を少量含む。
3　褐色土　粘性あり。硬くしまる。暗褐色土ブロックを含む。
4　暗褐色土　粘性あり。しまる。黄褐色土ブロックを多く含む。
5　黄褐色土　粘性あり。しまる。暗褐色土ブロックを含む。

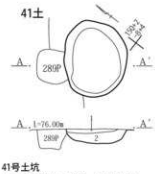
33号土坑

1　暗褐色土　軟らかくて粘性あり。ローム粒子、焼土粒子を少量含む。
2　暗褐色土　やや硬くしまり粘性あり。ロームブロックを多量に含む。
3　黄褐色土　やや硬くしまる。ロームブロックと暗褐色土の混土。
4　黄白色土　軟らかくて粘性あり。

34号土坑

1　暗褐色土　軟らかくて粘性あり。ローム粒子を少量含む。
2　暗褐色土　軟らかくて粘性あり。ロームブロックを少量含む。
3　暗褐色土　非常に軟らかくて粘性あり。黄白色粘質土粒子を多量に含む。
4　暗褐色土　軟らかくてしまり良い。粘性あり。黄白色粘質土粒子を含む。
5　黄白色粘質土　やや硬くしまり粘性あり。暗褐色土を含む。



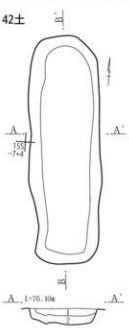


41号土坑

1　暗褐色土　砂質。しまらない。
2　暗白色土　しまり良い。灰褐色土ブロックを含む。

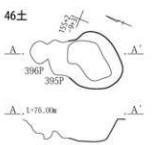
40号土坑

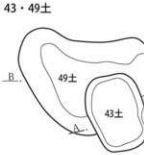
1　暗褐色土　軟らかくてしまりない。ローム粒子を少量含む。
2　暗褐色土　軟らかくてしまり良い。ローム粒子、ロームブロックを含む。
3　暗褐色土　軟らかくてしまり良い。粘性あり。ローム粒子を僅かに含む。

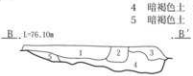


42号土坑

1　暗褐色土　軟らかくてしまり良い。ローム粒子を僅かに含む。サラサラしている。
2　暗褐色土　軟らかくてしまり良い。ローム粒子を含む。サラサラしている。







43号土坑

1　暗褐色土　サラサラしている。しまり良い。白色粒子を少量含む。
2　暗褐色土　軟らかくてしまり良い。
3　暗褐色土　やや硬くしまる。ローム粒子、白色粒子を含む。
4　暗褐色土　軟らかい。ロームブロックを含む。

49号土坑

1　暗褐色土　やや硬くしまる。白色粒子を含む。
2　暗褐色土　やや硬くしまる。ロームブロック、白色粒子、黄褐色土粒子を多量に含む。
3　暗褐色土　しまる。白色粒子を僅かに含む。
4　暗褐色土　軟らかい。ロームブロック、黄褐色土粒子を含む。
5　暗褐色土　軟らかい。

第573図　３区25・27・33・34・40～43・46・49号土坑

23号土坑（第572図、ＰＬ.162）

位置　15Ｑ－11グリッド

11号住居重複するが新旧関係不明。平面形はほぼ円形。壁は斜めに立ち上がる。底面は丸みがある。埋没土は暗褐色土と黄白色土を交互にして、人為的に埋める。遺構の性格は不明である。遺構確認面で拳大の円礫がやや多く出土する。規模は長径173cm短径165cm深さ45cmである。

24号土坑（第572図、ＰＬ.124）

位置　15Ｒ－10グリッド

11号住居と重複するが新旧関係不明。平面形は楕円形か。壁は斜めに立ち上がる。底面は凸凹し植物攪乱顕著。埋没状況不詳。規模は長径118cm短径73cm深さ12cmである。

25号土坑（第573図、ＰＬ.162）

位置　15Ｒ・Ｓ－14･15グリッド

62号ピットと重複するが新旧関係不明。平面形は隅丸長方形。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面はやや凸凹する。埋没土は水平方向に堆積して不自然であり人為埋没の可能性がある。規模は長軸120cm短軸98cm深さ28cmである。

27号土坑（第573図、ＰＬ.162）

位置　15Ｑ・Ｒ－13グリッド

168・197号ピットと重複するが新旧関係不明。平面形は不整隅丸長方形。壁は斜めに立ち上がる。底面は凸凹する。規模は長軸221cm短軸73cm深さ38cmである。

29号土坑（第572図、ＰＬ.162）

位置　15Ｒ－11グリッド

12・14号住居、17号ピットと重複するが新旧関係不明。平面形不詳。壁は緩やかに立ち上がる。底面は凸凹する。埋没状況不詳。規模は長軸183cm短軸107cm深さ27cmである。埋没土から骨が出土し、鑑定の結果（第４章第１節）人骨とも獣骨とも判別できなかった。

33号土坑（第573図、ＰＬ.162）

位置　15Ｑ・Ｒ－13グリッド

38号住居、235号ピットと重複するが新旧関係不明。平面形は不整円形。壁は斜めに立ち上がる。底面は凸凹する。埋没状況不詳。規模は長径163cm短径125cm深さ25cmである。

34号土坑（第573図）

位置　15Ｓ－15グリッド

241号ピットより前出で、239号ピットと重複するが新旧関係不明。平面形は不整円形。壁は斜めに立ち上がる。底面は凸凹する。自然埋没か。規模は長径135cm短径105cm深さ35cmである。

40号土坑（第573図、ＰＬ.163）

位置　15Ｑ－９グリッド

状況から６号溝より後出。平面形は隅丸長方形。主軸方位はＮ－87°－Ｅ。壁は斜めに立ち上がる。底面はほぼ平坦。埋没土は均質で人為埋没か。規模は長軸175cm短軸138cm深さ29cmである。

41号土坑（第573図、ＰＬ.163）

位置　15Ｑ－８・９グリッド

状況から289号ピット、10号溝より後出。平面形は楕円形。壁は斜めに立ち上がる。底面は丸みがある。埋没土はブロック土が目立ち人為埋没か。規模は長径123cm短径99cm深さ23cmである。埋没土から中世以降の土器が出土し、時期は中世以降である。

42号土坑（第573図、ＰＬ.163）

位置　15Ｒ・Ｓ－７グリッド

状況から６号溝より後出。平面形は隅丸細長方形。主軸方位はＮ－４°－Ｗ。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は平坦。埋没土は均質で人為埋没。規模は長軸260cm短軸105cm深さ27cmである。

43号土坑（第573図、ＰＬ.163）

位置　15Ｓ－９グリッド

292号ピットより前出で、49号土坑より後出。平面形は隅丸長方形。主軸方位はＮ－29°－Ｗ。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は平坦。埋没状況不詳。規模は長軸122cm短軸88cm深さ10cmである。壁は斜めに立ち上がる。底面は凸凹する。自然埋没か。

46号土坑（第573図）

位置　15Ｓ－９グリッド

395・396号ピット、７号溝と重複するが新旧関係不明。平面形は不整円形。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は丸みがある。埋没状況不詳。規模は長径90cm短径88cm深さ35cmである。

48号土坑（第574図）

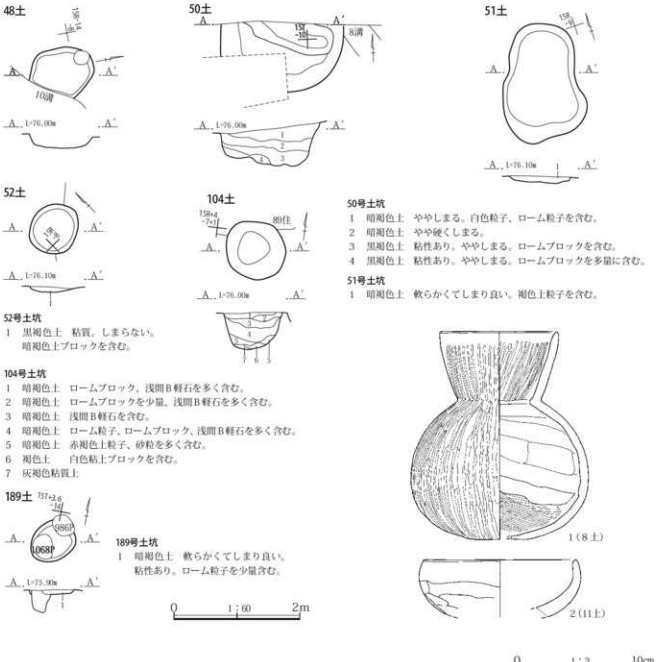
位置　15Ｒ－７グリッド

10号溝と重複するが新旧関係不明。平面形は不整円形。壁は斜めに立ち上がる。底面は丸みがある。埋没状況不詳。規模は長径104cm短径83cm深さ22cmである。

49号土坑（第573図、ＰＬ.163）

位置　15Ｓ－９グリッド

状況から43号土坑より前出。平面形は不整形。壁は緩やかに立ち上がる。底面はやや凸凹する。埋没状況不詳。規模は長径202cm短径195cm深さ43cmである。



50号土坑

1　暗褐色土　ややしまる。白色粒子、ローム粒を含む。
2　暗褐色土　やや硬くしまる。
3　黒褐色土　粘性あり。ややしまる。ロームブロックを含む。
4　黒褐色土　粘性あり。ややしまる。ロームブロックを多量に含む。

51号土坑

1　暗褐色土　軟らかくてしまり良い。褐色土粒子を含む。

52号土坑

1　黒褐色土　粘質。しまらない。
　暗褐色土ブロックを含む。

104号土坑

1　暗褐色土　ロームブロック、浅間Ｂ軽石を多く含む。
2　暗褐色土　ロームブロックを少量、浅間Ｂ軽石を多く含む。
3　暗褐色土　浅間Ｂ軽石を含む。
4　暗褐色土　ローム粒子、ロームブロック、浅間Ｂ軽石を多く含む。
5　暗褐色土　赤褐色土粒子、砂粒を多く含む。
6　褐色土　白色粘土ブロックを含む。
7　灰褐色粘質土

189号土坑

1　暗褐色土　軟らかくてしまり良い。
　粘性あり。ローム粒子を少量含む。

第574図　３区48・50～52・104・189号土坑と土坑出土遺物

第246表　３区土坑出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値					胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第574図 PL.218	1	土師器 坦	8上 1/2	口	9.0	高	16.3		粗砂粒・赤色粘土粒/良好/橙	口唇部は横撫で。口縁部から胴部は縦位にヘラ磨き。内面口縁部は縦位にヘラ磨き。胴部上位・中位は横位のヘラナデ。接合部分にヘラ削り。これより下位・底部にハケ目。	
第574図	2	土師器 杯	11上 1/3	口	12.0				粗砂粒/良好/明赤褐	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	内外面とも磨滅。

50号土坑(第574図)

位置　15Ｓ・Ｔ－９・10グリッド

北半部は調査精度の違いで検出できていない。平面形はほぼ円形か。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は凸凹する。埋没土はロームブロックが目立ち人為埋没か。規模は長径193cm短径112cm深さ65cmである。

51号土坑(第574図、ＰＬ.164)

位置　15Ｑ・Ｒ－９グリッド

平面形は不整楕円形。壁は緩やかに立ち上がる。底面はほぼ平坦。埋没状況不詳。規模は長径191cm短径132cm深さ20cmである。

52号土坑(第574図、ＰＬ.164)

位置　15Ｒ－７・８グリッド

平面形はほぼ円形。壁は緩やかに立ち上がる。底面はほぼ平坦。埋没状況不詳。規模は長径85cm短径73cm深さ15cmである。

104号土坑(第574図、ＰＬ.164)

位置　15Ｒ－６・７グリッド

状況から89号住居より後出。平面形は円形。壁は斜めに立ち上がる。底面は丸みがある。埋没土は浅間Ｂ軽石が多量に含まれ、人為埋没か。規模は長径98cm短径90cm深さ58cmである。

189号土坑(第574図)

位置　15Ｔ－13・14グリッド

1068号ピットより後出で、986号ピットと重複するが新旧関係不明。平面形はほぼ円形。壁は緩やかに立ち上がる。底面はほぼ平坦。埋没状況不詳。規模は長径74cm短径62cm深さ７cmである。

（３）井戸

２号井戸(第575図、ＰＬ.164・218、第247表)

位置　15Ｓ－９・10グリッド

重複　なし

確認面形状と規模　不整円形。長径2.00m短径1.84m

底面形状と規模　不整円形。長径1.24m短径1.07m

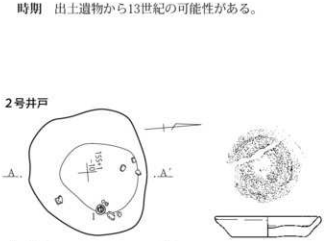
断面形　上面へ開く円筒形。確認面から約45cm下位の壁面にオーバーハングがみられる。

深さ　1.40m

埋没状況　南から埋められる。

出土遺物　埋没土から第575図１の在地系土器皿が出土する。

時期　出土遺物から13世紀の可能性がある。



２号井戸
1　暗褐色土　よくしまる。細粒白色粒子・炭化物粒子少量に含む。
2　暗褐色砂質土　よくしまる。炭化物粒子少量に含む。
3　灰褐色土　やや硬くしまる。ローム粒子・炭化物粒子少量に含む。
4　暗褐色砂質土　よくしまる。炭化物粒子・細粒黄色粒子少量に含む。
5　暗褐色砂質土　よくしまる。ロームブロック・炭化物粒子含む。
6　灰褐色土　やや硬くしまる。ローム粒子・ロームブロック・炭化物粒子含む。

第575図　３区２号井戸と出土遺物

第247表　３区２号井戸出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第575図 PL.218	1	在地系土器 皿	3/4	口	8.1	高	1.7	B//橙	底径は大きく、器高が低い。底部内面周縁は横撫でにより僅かに窪む。底部右回転糸切無調整。	13世紀か。
				底	5.6					

（４）ピット（第576～582図、Ｐ L .164・165、第248・250表）

ピットは比較的多く253基を検出した。一部掘立柱建物が分布する部分もあるが、それとの関連はあまり想定できない。特に集中する部分は、15Ｐ－11・12グリッドと、15R14・15グリッドの２か所である。掘立柱建物の一部と見なされるものもあるが、すべて柱穴とするには密集しすぎている。なんらかの事情を考えるべきであるが、判断は難しい。東側の一群は、１号竪穴状遺構の南に隣接する。関連する遺構は少ない。西側の一群は、１号溝と一部重複しており、関連づけは難しい。しかし、ピットは列状に繰り返し設けられており、柵などが繰り返し作られた可能性も想定されよう。遺物は古墳時代の土師器杯や石器類が出土する。遺構年代は古墳時代から中世・近世まで混在していると考えられる。

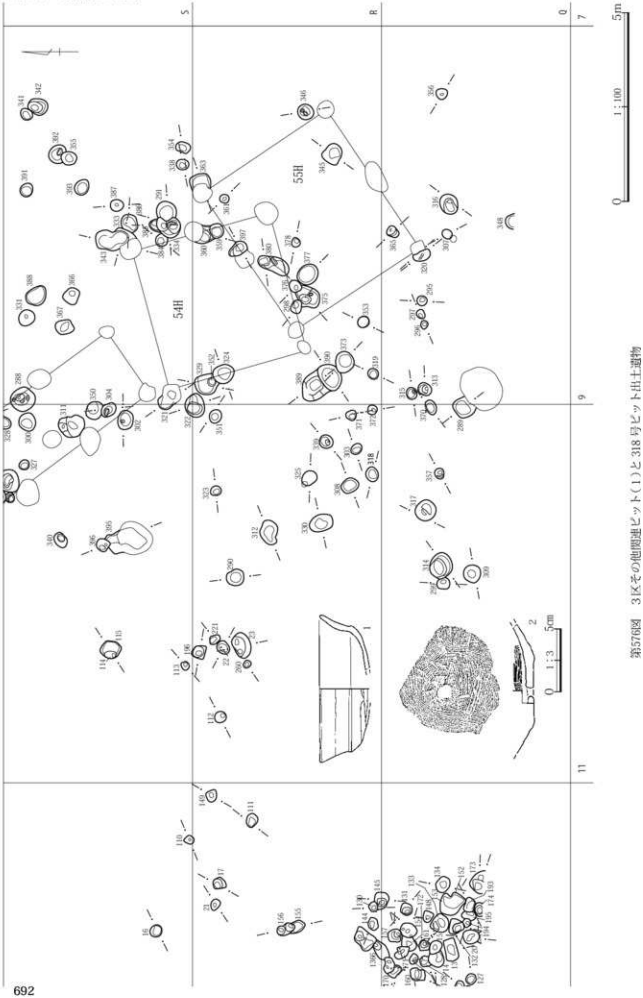
第248表　３区その他関連ピット計測値（１）

その他関連ピット（１）

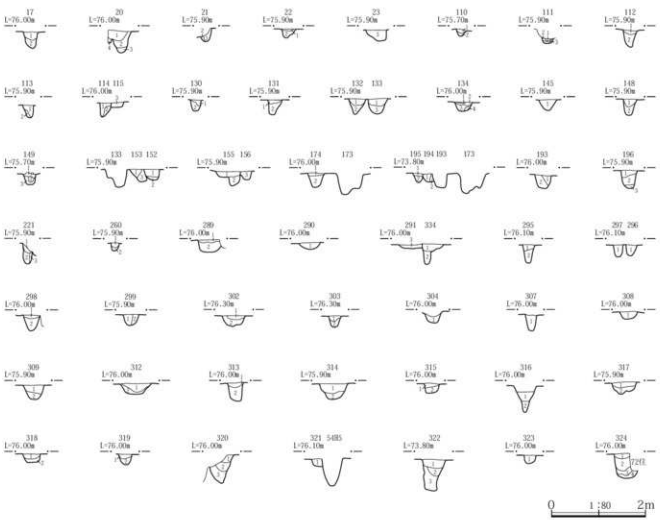
ピットNo	グリッド	長径	短径	深さ
17	15R-11	33	29	34
20	15Q-11	50	37	50
21	15R-11	31	23	27
22	15R-10	37	30	14
23	15R-10	69	44	40
110	15S-11	28	22	14
111	15R-11	35	30	14
112	15R-10	32	29	45
113	15S-10	23	20	36
114	15S-10	31	20	31
115	15S-10	57	48	10
130	15R-11	23	21	25
131	15Q-11	34	28	33
132	15Q-11	40	40	35
133	15Q-11	50	48	37
134	15Q-11	43	34	22
145	15Q-12	45	35	27
148	15Q-11	30	24	34
149	15R-11	32	29	26
152	15Q-11	40	(34)	30
153	15Q-11	56	46	26
155	15R-11	53	28	33
156	15R-11	26	(24)	20
173	15Q-11	(60)	(39)	45
174	15Q-11	36	(22)	38
193	15Q-11	38	25	27
194	15Q-11	38	(24)	13
195	15Q-11	22	18	17
196	15R-10	44	37	43
221	15R-10	31	22	48
260	15R-10	21	18	15
289	15Q-8	52	(43)	23
290	15R-9	46	42	15
291	15S-7	(52)	52	8
295	15Q-8	27	26	37
296	15Q-8	25	20	22
297	15Q-8	23	20	26
298	15R-8	35	28	32
299	15Q-9	34	(31)	25
302	15S-9	50	40	43
303	15R-9	32	25	21
304	15S-9	45	33	26
307	15Q-8	29	23	70
308	15R-9	48	38	15
309	15Q-9	47	45	37
312	15R-9	66	48	22
313	15Q-8	37	31	47
314	15Q-9	65	59	37
315	15Q-8	32	27	34
316	15Q-8	56	45	58
317	15Q-9	54	50	27
318	15R-9	38	33	21
319	15R-8	29	27	12
320	15Q-8	48	26	58
321	15S-8	40	(20)	20
322	15R-8	60	52	64
323	15R-9	29	26	13
324	15R-8	57	49	46
325	15R-9	43	35	60
329	15R-8	(65)	(54)	16
330	15R-9	63	44	31
333	15S-8	64	55	42
334	15S-8	62	46	50
338	15S-7	33	27	22
339	15R-9	37	35	53
343	15S-8	50	(42)	37
345	15R-7	52	45	37
346	15R-7	43	40	49
348	15Q-8	42	(23)	20
351	15R-9	37	32	37
352	15R-8	24	21	27
353	15R-8	32	29	42
354	15S-7	39	25	22
356	15Q-8	30	28	27
357	15Q-9	28	25	36
359	15R-8	38	34	25
360	15R-8	48	－	24
363	15R-7	54	(45)	25
365	15Q-8	34	28	34
370	15Q-8	40	28	19
371	15R-9	27	27	17
372	15R-9	25	25	21
373	15R-8	56	52	32
375	15R-8	(69)	(59)	17
376	15R-8	33	28	24
377	15R-8	59	50	14
378	15R-8	25	22	14
380	15R-8	87	37	34
381	15R-7	25	23	29
384	15S-8	(32)	32	20
385	15S-8	(32)	(19)	18
386	15S-8	50	42	17
387	15S-7	35	31	39
389	15R-8	43	39	38
390	15R-8	75	53	24
395	15S-9	54	(35)	32
396	15S-9	32	31	19
397	15R-8	53	33	29

その他関連ピット（２）

ピットNo	グリッド	長径	短径	深さ
11	15Q-12	30	25	27
12	15Q-12	32	29	25
13	15Q-11	59	32	35
14	15Q-11	40	(38)	38
15	15Q-11	41	30	49
16	15S-11	34	30	15
18	15Q-12	41	(29)	10
19	15Q-12	50	30	51
24	15R-12	35	30	21
25	15R-12	26	25	31
26	15R-12	29	28	15
30	15R-16	71	45	16
31	15R-14	34	29	28
32	15R-14	35	32	23
33	15R-13	43	37	51
34	15R-13	47	42	43
35	15R-15	41	37	29
36	15R-15	42	23	41
37	15R-15	41	30	58
38	15S-16	65	46	38
43	15R-15	30	28	38
44	15R-14	29	27	10
45	15R-14	35	32	32
48	15R-14	34	27	23
49	15R-14	32	32	34
50	15R-12	39	31	35
51	15S-14	42	27	20
52	15R-14	35	34	16
53	15R-13	27	20	39
54	15S-13	48	38	39
55	15S-13	46	45	44
56	15S-13	42	40	39
57	15R-15	27	25	35

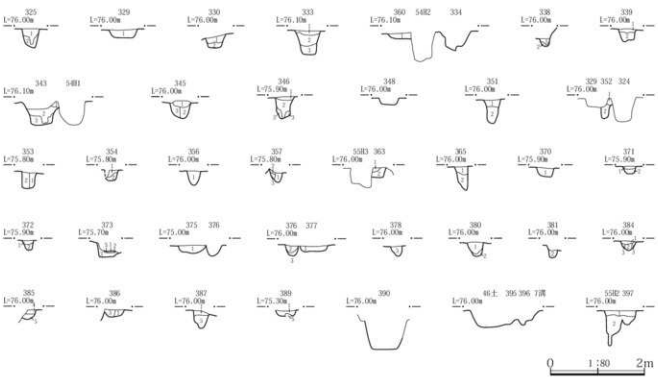


第576図　３区その他周辺ピット（１）と 318 号ピット出土遺物



17ピ：１暗褐　ローム粒微、２黒褐　ローム塊
20ピ：１黒褐　黄褐塊少、２黒褐　黄褐粒少、３黒褐　黄白塊、４暗褐　黄白塊
21ピ：１黒褐、２褐　黄褐粒
22･23ピ：１暗褐　ローム粒、白粒微、２暗褐　ローム塊少、３暗褐　ローム塊多褐塊
110ピ：１暗褐　ローム粒、２暗褐　黄白粒多
111ピ：１暗褐　ローム粒、２暗褐　ローム粒多、３黒褐
112ピ：１暗褐　ローム粒・焼土粒、２暗褐　ローム粒、白軽石
113ピ：１暗褐　ローム粒少、２暗褐　ローム粒
114･115ピ：１暗褐　ローム粒・炭粒、２暗褐　ローム粒、黄白塊、３暗褐　ローム粒多
130ピ：１暗褐　ローム粒・Ｂ軽石、２黒褐　ローム塊・Ｂ軽石
131ピ：１暗褐　ローム粒・白粒少、２暗褐　ローム塊・粒
132･133ピ：１暗褐　ローム粒、白粒、２暗褐　ローム塊・粒、３暗褐　黄白塊
134ピ：１暗褐　ローム粒少、２褐　ローム塊、３暗褐　ローム粒多、４黄褐
145ピ：１暗褐　ローム塊
148ピ：１暗褐　ローム粒少、２黒褐　ローム塊
149ピ：１黄褐　暗褐塊、２暗褐　黄褐塊多、３黒褐　黄褐粒
152･153ピ：１暗褐　ローム粒・白細粒、２暗褐　ローム塊多・白細粒、３暗褐　ローム塊・白細粒
155･156ピ：１暗褐　ローム粒、２暗褐　黄白塊、３暗褐　ローム塊
174ピ：１暗褐、２暗褐　ローム粒
193ピ：１暗褐、２暗褐　ローム粒
194･195ピ：１暗褐　ローム粒微、２暗褐　ローム塊多
196ピ：１暗褐、２暗褐　ローム塊、３暗褐　ローム塊多
211ピ：１褐　白粒、２暗褐　ローム粒、３褐
260ピ：１暗褐　ローム粒・炭粒・Ｂ軽石、２暗褐　ローム粒
289ピ：１灰褐　白粒、２暗褐　白粒少
290ピ：１灰褐　白粒少
291･334ピ：１暗褐　ローム粒・白粒、２暗褐　ローム塊、３暗褐
295 ～ 297ピ：１灰褐、２暗褐　灰褐塊
298ピ：１暗褐　ローム粒多、２黒褐　ローム粒微
299ピ：１暗褐　ローム粒少、２灰褐　ローム粒少
302ピ：１暗褐　ローム粒微、２暗褐　ローム
303ピ：１暗褐、２黒褐　ローム粒微
304ピ：１暗褐　ローム粒少
307･308ピ：１暗褐
309ピ：１暗褐　ローム粒微、２黒褐　ローム塊
312ピ：１暗褐　焼土粒・白粒微、２暗褐
313ピ：１暗褐　ローム粒・白粒、２暗褐　ローム塊
314ピ：１暗褐　黄褐塊・白粒微、２暗褐　黄褐塊多
315ピ：１暗褐　白粒微、２褐　黄褐塊
316ピ：１暗褐、２黒褐　ローム塊少
317ピ：１暗褐　白粒微、２暗褐　ローム塊
318ピ：暗褐、２暗褐　ローム粒少
319ピ：１暗褐　ローム粒微、２暗褐　ローム塊多
320ピ：１暗褐、２暗褐　ローム塊、３暗褐　黄白塊
321ピ：１暗褐
322ピ：１暗褐　ローム粒少、２暗褐　ローム粒多、３暗褐　ローム粒
323ピ：１暗褐　ローム塊・白粒微
324ピ：１暗褐、２暗褐　ローム粒少、３暗褐　黄白粒、４暗褐　黄白塊

第577図　３区その他関連ピット（１）断面図（１）

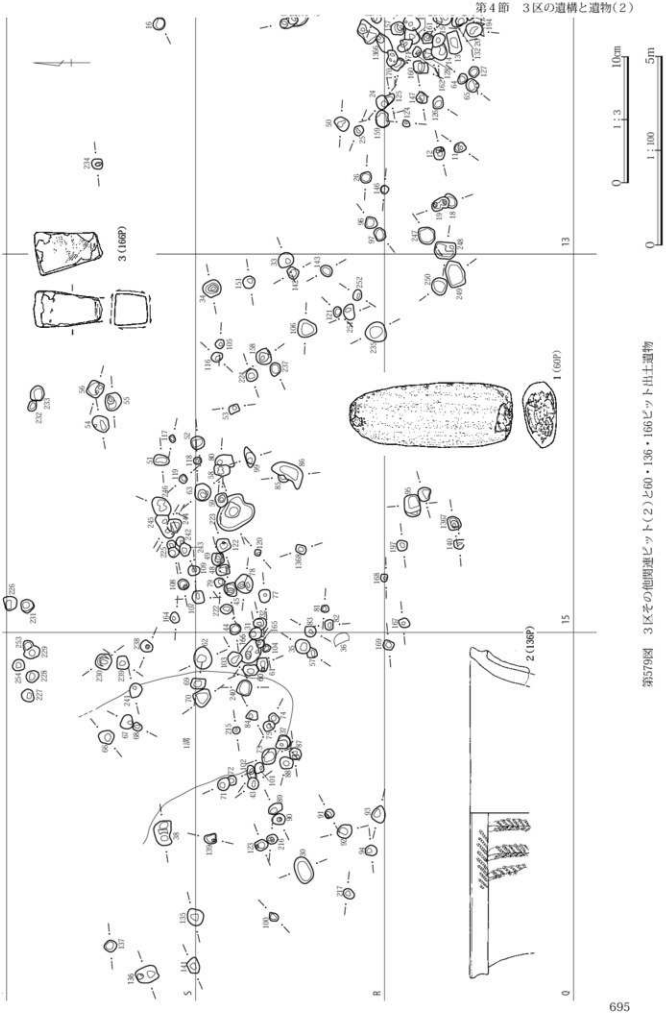


325ピ：１暗褐．２暗褐 黄白粒
329ピ：１暗褐 白粒微
330ピ：１黒褐 ローム粒微．２黒褐 黄白・黄褐塊多
333ピ：１暗褐．２暗褐 ローム粒少．３黒褐 黄白塊
338ピ：１暗褐 ローム粒・白粒．２暗褐 ローム塊
339ピ：１暗褐．２暗褐 ローム塊
343ピ：１暗褐 白粒微．２暗褐 ローム粒・白粒少．３暗褐 黄褐塊・黄白粒
345・346ピ：１暗褐 白粒微．２暗褐 ローム粒微．３暗褐 ローム塊・粒
351ピ：１暗褐．２黒褐 黄白粒少
352ピ：１暗褐．２暗褐 ローム粒少
353ピ：１黒褐 ローム粒微．２黒褐 ローム粒・黄白粒
354ピ：１暗褐．２暗褐 黄白大塊．３暗褐 ローム粒少
356ピ：１暗褐
357ピ：１暗褐 ローム粒微．２暗褐 ローム粒．３暗褐 ローム塊多
363ピ：１暗褐．２暗褐 ローム粒・白粒少
365ピ：１暗褐．２黒褐 ローム粒少
370ピ：１暗褐 ローム粒少
371ピ：１暗褐．２暗褐 ローム粒
372ピ：１暗褐 ローム塊．２暗褐 ローム粒微
373ピ：１黒褐 ローム粒少．２黄白．３黒褐 黄白塊
375・376・377・378ピ：１暗褐 白粒・ローム粒．２暗褐 白粒・ローム粒微．３暗褐 ローム塊．
380・381ピ：１黒褐 ローム塊・黄粒．２暗褐 ローム粒
384～387ピ：１暗褐 白粒微．２暗褐．３暗褐 ローム粒．４暗褐 ローム粒少．５暗褐 ローム塊
389ピ：１黒褐 ローム粒
397ピ：１暗褐．２暗褐 ローム粒・白粒

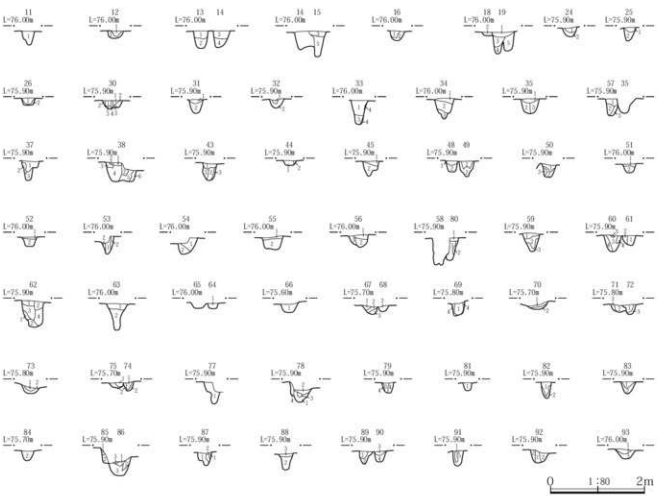
第578図　３区その他関連ピット（１）断面図（２）

第249表　３区その他関連ピット出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第576図	1	土師器 杯	318ピット 口縁～底部片	口	11.4			精選・赤色粘土粒/良好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	内外面磨滅。
第576図	2	土師器 有孔鉢	318ピット 底部片	底	5.7			粗砂粒/良好/	底部中央に直径0.7cmの焼成後の穿孔。底部外面はヘラナデ。内面に（１cmに10本）のハケ目。	外面磨滅。
第579図	1	鑿石器 敲石	60ピット	長 幅	12.8 5.7	厚 重	2.7 302.4	緑色片岩	上下両端とも小口部を激しく敲打するほか、側縁にも敲打痕が残る。	
第579図	2	土師器 壺	136ピット 口縁片	口	25.8			細砂粒/良好/にぶい黄橙	口唇部は外側に粘土を貼り肥厚。櫛状工具による刺突文を重ねている。口縁部には横断面三角形の棒状浮文が３本残存。刺突文が重ねられている。内外面とも器面にはヘラ磨きが加えられている。	第588図58と同一個体と考えられる。
第579図	3	石製品 砥石	166ピット	長 幅	5.3 2.8	厚 重	2.5 68.6	砥沢石	四面使用。上端部破片で、良く使い込まれている。裏面側上端部に粗い刃ならし傷が残る。	切り砥石

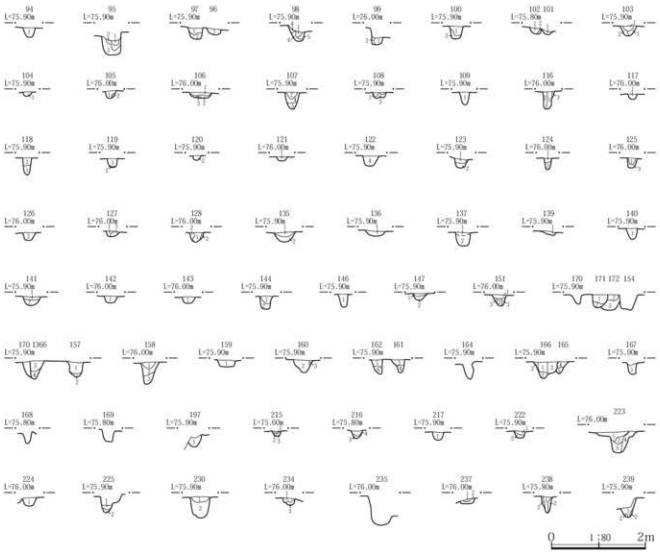


第579図　3区その他関連ピット(2)と60・136・166ピット出土遺物



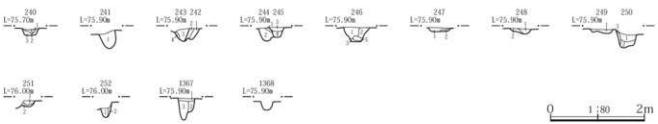
11･12ビ：１黒褐 ローム粒微、２オリーブ褐 ローム塊
13 ～ 15ビ：１暗褐、２黒褐 黄褐粒、３暗褐 ローム粒微、４暗褐 黄褐、５暗褐 ローム粒・黄褐粒
16ビ：１暗褐、２暗褐 ローム粒
18･19ビ：１暗褐 ローム粒、２暗褐 ローム塊・白粒、３黒褐 ローム粒微、４黒褐 黄白塊、５黒褐 ローム塊
24 ～ 26ビ：１暗褐 ローム粒・白粒少、２暗褐 ローム塊、少
30ビ：１暗褐 ローム粒・白粒、２褐、３黄褐、４黄白
31ビ：１暗褐 ローム粒・白粒微、２暗褐 ローム塊
32･33ビ：１暗褐 ローム粒・白粒微、２暗褐 ローム塊、３暗褐 ローム粒・白粒、４褐
34ビ：１暗褐 ローム粒、２暗褐、３暗褐 ローム塊
35ビ：１暗褐 ローム粒、２暗褐 ローム塊、３暗褐 ローム塊・粒
37ビ：１暗褐 ローム塊少、２黄褐 暗褐、３暗褐 黄白粒多
38ビ：１暗褐 ローム粒、２黄褐塊 暗褐、３暗褐 ローム粒少、４暗褐 ローム粒・黄白粒、５暗褐 ローム塊、６褐
43ビ：１暗褐 ローム塊、２暗褐 白粒微、３暗褐 ローム粒
44ビ：１暗褐 ローム粒微、２暗褐＋褐色
45ビ：１暗褐 黄褐粒少、２暗褐 黄褐塊
48･49ビ：１暗褐 ローム粒、２黒褐 ローム粒
50ビ：１黒褐 黄粒微、２黄褐 暗褐塊、３暗褐 黄粒多
51ビ：１灰褐 ローム粒、２暗褐 ローム塊
52ビ：１暗褐 ローム粒微、２黒褐 ローム粒微
53ビ：１黒褐 ローム粒微、２暗褐 ローム粒多
54ビ：１黒褐 黄白塊、２暗褐 黄白粒
55･56ビ：１暗褐 黄褐粒少、２黒褐 黄褐粒、３暗褐 黄褐粒
57ビ：１暗褐 黄褐粒少、２黒褐 黄褐粒、３暗褐 黄白大塊
59ビ：１暗褐 ローム粒、２黒褐 ローム粒微、３暗褐 ローム塊
60・61ビ：１黒褐、２暗褐 黄褐塊、３暗褐 黄褐粒・白粒、４暗褐 ローム塊・白粒
62ビ：１暗褐 黄褐塊多、２黒褐 黄褐塊少、３黒褐 黄褐粒、４黒褐 黄褐粒微
63ビ：１暗褐 ローム粒、ビ黒褐
64ビ：１黒褐 ローム粒微
66 ～ 69ビ：１暗褐 黄褐粒少、２暗褐 黄褐塊多、３黒褐、４黒褐 黄褐塊
70ビ：１黒褐 黄褐粒少、２黒褐 黄褐塊
71･72ビ：１暗褐 黄褐粒微、２暗褐 黄褐塊少、３黄褐 暗褐塊
73 ～ 75ビ：１暗褐 黄褐粒微、２暗褐 黄褐塊
77 ～ 79ビ：１暗褐 ローム粒少、２暗褐 ローム粒、３暗褐 ローム塊多、４黄褐 ローム塊・粒多
80ビ：１暗褐 ローム粒微、２暗褐 ローム塊、３黒褐 ローム粒微
81ビ：１暗褐 炭粒微
82ビ：１暗褐 黄白粒微、２黒褐 黄白塊
83･84ビ：１暗褐 黄白塊、２黒褐 黄白粒微
85･86ビ：１黒褐 ローム粒、２暗褐 ローム粒微、３黄褐 暗褐塊
87･88ビ：１黒褐 黄白粒、２暗褐 黄白粒多、３暗褐 黄白塊
89 ～ 91ビ：１黒褐 黄白粒微、２黒褐 黄白塊、３暗褐 黄褐塊、４暗褐 黄褐塊多、５黒褐
92 ～ 93ビ：１暗褐 ローム粒微、２暗褐 ローム粒、３暗褐 ローム塊・白粒

第580図　３区その他関連ピット（２）断面図（１）



94ピ：1暗褐　ローム粒
95･98ピ：1暗褐　黄褐粒.2暗褐　黄白塊.3暗褐　黄白塊･褐塊.4暗褐　ローム塊.5暗褐　黄白塊多.6黄褐
96･97ピ：1暗褐　ローム塊.2暗褐　黄白塊
99ピ：1暗褐　黄白塊.2暗褐　黄褐粒
100ピ：1暗褐　ローム粒.2黄褐　黄白塊多
101･102ピ：1暗褐　黄粒.2暗褐　黄白塊
103･104ピ：1暗褐　ローム粒.2黒褐.3暗褐　ローム塊
105ピ：1暗褐　黄白塊.2黄白　黄褐塊
106･107ピ：1暗褐.2暗褐　ローム粒微.3褐.4暗褐　黄褐塊.5黄褐　暗褐塊
108ピ：1暗褐　ローム粒.2暗褐　ローム塊
109ピ：1黒褐　黄褐粒
116･118･120～122ピ：1暗褐.2暗褐　ローム粒微.3褐.4暗褐　ローム塊
117･119ピ：1暗褐.2暗褐　ローム粒
123ピ：1暗褐　ローム粒多.2黒褐
124～128ピ：1暗褐　ローム粒.2暗褐　ローム塊.3褐　ローム塊･粒
135ピ：1暗褐　ローム粒少.2暗褐　ローム塊
136ピ：1暗褐　ローム塊･粒少
137ピ：1暗褐　ローム粒.2褐　ローム多
139ピ：1暗褐　ローム粒
140ピ：1暗褐　ローム粒
141ピ：1暗褐　ローム粒少.2暗褐　ローム塊
142･143ピ：1暗褐　ローム粒少
144ピ：1暗褐　ローム粒･白粒.2暗褐　黄白塊
146ピ：1暗褐　褐塊
147ピ：1暗褐　ローム粒少.2暗褐　ローム粒.
151ピ：1暗褐.2黒褐　ローム粒微.3黒褐　ローム粒
171･172ピ：1暗褐　ローム粒少.2暗褐　ローム塊.3暗褐　黄褐塊.多
157･1366ピ：1暗褐　ローム粒･白粒.2灰褐　黄白塊.3暗褐　ローム粒微.4暗褐　黄白粒
158ピ：1暗褐　ローム粒微.2黒褐　ローム粒微.3黒褐　黄白塊
159～162ピ：1暗褐　黄褐粒･白粒多.2暗褐　ローム粒.3暗褐　ローム塊.4暗褐　ローム粒微.5暗褐　ローム粒･白粒.6暗褐　黄白塊
165･166ピ：1暗褐.2暗褐　黄白粒.3暗褐　黄褐粒多.4暗褐　黄褐粒･白粒.5暗褐　黄白塊
167ピ：1灰褐　ローム粒
197ピ：1暗褐　ローム粒
215～217ピ：1暗褐　ローム粒.2暗褐.3暗褐　ローム塊.4暗褐　ローム粒･白粒微
222ピ：1暗褐　ローム粒.2黄褐　ローム粒多
223･224ピ：1暗褐　ローム粒少.2暗褐　ローム塊.3黒褐　ローム塊･黄白塊.4褐
225ピ：1暗褐　ローム粒微.2暗褐　黄白粒
230ピ：1暗褐　黄白塊少.2暗褐　ローム塊･黄白塊少
234ピ：1暗褐　ローム粒少.2暗褐　ローム塊･炭粒
237ピ：1暗褐　ローム粒少.2暗褐　ローム塊
238ピ：1黒褐　黄白粒.2暗褐　黄白塊
239ピ：1暗褐　ローム粒微.2暗褐　黄白塊多

第581図　3区その他関連ピット(2)断面図(2)



240ピ：１ローム塊．２暗褐．３黄褐
241ピ：１暗褐 ローム粒少
242・243ピ：１暗褐 ローム粒．２黄褐 暗褐少．３暗褐 黄白塊．４褐
244・245ピ：１暗褐 ローム塊・焼土粒．２暗褐 ローム塊・炭粒．３暗褐 ローム小塊．焼土粒．４暗褐 ローム粒
246ピ：１暗褐 ローム塊・黄白塊・焼土粒．２暗褐 ローム塊・粒多．３暗褐 ローム塊・黄白塊
247ピ：１暗褐 ローム粒・白粒．２褐
248ピ：１暗褐 ローム粒．２暗褐
249・250ピ：１暗褐 焼土粒・白軽石・ローム粒少．２暗褐 ローム塊・黄白粒．３暗褐 ローム塊・粒多
251ピ：１暗褐 ローム粒．２褐 暗褐
252ピ：１暗褐 ローム塊・粒．２黄白
1367ピ：１暗褐 ローム粒少．２黒褐 ローム塊．３黒褐 ローム粒微

第582図　３区その他関連ピット（２）断面図（３）

第250表　３区その他関連ピット計測値（２）
その他関連ピット（２）

ピットNo.	グリッド	長径	短径	深さ
58	15R-14	41	27	55
59	15R-14	35	30	36
60	15R-15	40	28	34
61	15R-15	35	30	18
62	15R-15	58	47	52
63	15R-14	46	42	61
64	15Q-12	28	22	15
65	15Q-12	33	31	8
66	15S-15	42	36	21
67	15S-15	37	33	19
68	15S-15	25	19	13
69	15R-15	37	28	25
70	15R-15	45	41	19
71	15R-15	24	(20)	17
72	15R-15	36	30	21
73	15R-15	40	36	20
74	15R-15	30	(24)	19
75	15R-15	30	25	11
77	15R-14	34	29	49
78	15R-14	50	45	44
79	15R-14	25	23	22
80	15R-14	47	(25)	47
81	15R-14	20	18	15
82	15R-14	27	21	35
83	15R-14	32	29	24
84	15R-15	30	24	25
85	15R-14	(31)	(18)	33
86	15R-14	86	41	61
87	15R-15	31	29	26
88	15R-15	35	30	36
89	15R-15	35	29	30
90	15R-15	42	25	24
91	15R-15	24	23	38
92	15R-16	42	35	29
93	15R-15	42	35	21
94	15R-16	30	28	21
95	15Q-14	58	42	53
96	15R-12	32	30	16
97	15R-12	34	29	29
98	15Q-14	37	33	34
99	15R-14	55	25	31
100	15R-16	29	22	25
101	15R-15	25	24	19
102	15R-15	(33)	21	19
103	15R-15	39	34	25
104	15R-15	23	19	7
105	15R-13	25	21	16
106	15R-13	49	47	15
107	15R-14	32	30	37
108	15S-14	29	27	15
109	15S-14	31	26	28
116	15R-13	31	26	42
117	15S-13	18	15	9
118	15R-14	20	19	34
119	15S-14	21	20	21
120	15R-14	16	16	8
121	15R-13	28	21	10
122	15R-14	35	33	22
123	15R-16	34	27	27
124	15Q-12	17	16	5
125	15Q-12	24	(23)	22
126	15Q-12	34	26	15
127	15Q-12	29	25	9
128	15Q-11	28	(23)	18
135	15R-16	43	42	16
136	15S-16	56	43	30
137	15S-16	34	31	26
139	15R-16	31	25	17
140	15Q-14	(26)	24	24
141	15R-16	40	31	18
142	15R-13	32	30	14
143	15R-13	33	27	11
144	15R-11	35	25	33
146	15R-12	22	22	27
147	15Q-12	31	27	29
151	15R-13	33	32	23
154	15Q-11	45	37	42
157	15Q-11	34	34	45
158	15R-13	40	39	48
159	15R-12	45	33	12
160	15Q-12	38	33	27
161	15Q-11	28	26	27
162	15Q-11	28	21	35
164	15S-14	29	25	29
165	15R-15	20	19	29
166	15R-15	66	46	39
167	15Q-14	25	24	25
168	15R-14	20	18	24
169	15Q-15	28	25	27
170	15Q-12	37	(23)	34
171	15Q-11	45	30	27
172	15Q-11	35	(35)	32
197	15Q-14	28	27	22
215	15R-15	20	18	11
216	15R-16	28	24	21
217	15R-16	31	24	16
222	15R-14	31	26	14
223	15R-14	104	86	43
224	15R-13	31	30	18
225	15S-14	45	28	33
230	15S-15	43	40	43
234	15S-12	28	27	29
235	15R-13	54	53	55
237	15R-13	33	27	15
238	15S-15	34	27	37
239	15S-15	34	30	34
240	15R-15	41	36	23
241	15S-15	40	32	27
242	15S-14	25	21	23
243	15S-14	32	28	22
244	15S-14	70	32	33
245	15S-14	(36)	(35)	16
246	15S-14	59	45	30
247	15Q-12	50	45	7
248	15Q-12	55	43	17
249	15Q-13	71	49	9
250	15Q-13	46	43	31
251	15R-13	42	26	18
252	15R-13	28	23	36
1366	15Q-11	42	27	42
1367	15Q-14	36	34	48
1368	15R-14	28	21	17

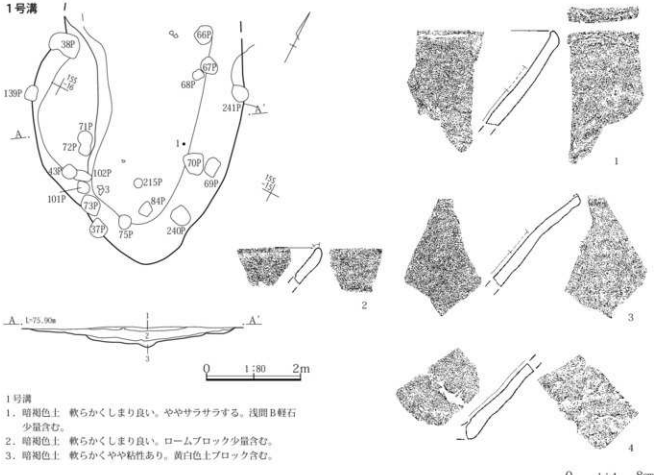
（５）溝

ここでは３条を扱う。７号溝は区画溝と考えられるが、区画規模・範囲は不明である。１号溝もその区画と関連が想定されるが、平面形状から竪穴状遺構である可能性も残る。14号溝は１号屋敷の東側に位置する。北側は52号溝と同一となる可能性があり、あるいは２区画遺構まで延びていくことも想定される。

１号溝（第583図、ＰＬ.165・218、第251表）

位置　15Ｒ・Ｓ－15・16グリッド

北側は33号住居より後出ながら、重複して不明となり検出できていない。ピットとの新旧関係も不明である。平面形は輪郭の不分明な楕円形である。走向方位は確定できない。断面形は皿状で、底面中央部は浅く凹み、壁面へ向かって緩やかに立ち上がる。当溝は竪穴状遺構である可能性も考慮され、検出されているピットも関係が推測される。自然埋没か。在地系土器片口鉢４点（第583図１～４）が出土する。規模は長さ5.35m上端幅320～442cm深さ37cmである。出土遺物から15世紀中頃を下限とする。

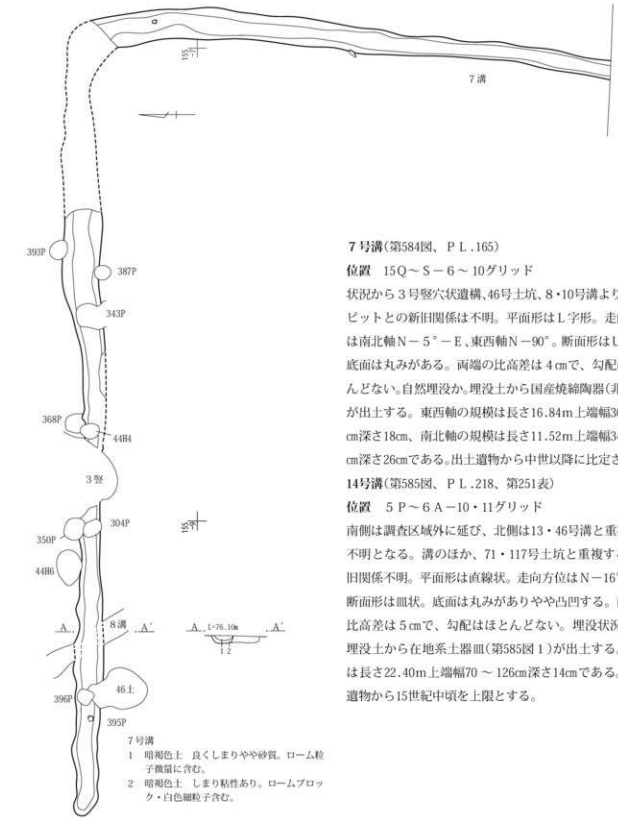


１号溝
１．暗褐色土　軟らかくしまり良い。ややサラサラする。浅間Ｂ軽石少量含む。
２．暗褐色土　軟らかくしまり良い。ロームブロック少量含む。
３．暗褐色土　軟らかくやや粘性あり。黄白色土ブロック含む。

第583図　３区1号溝と出土遺物

第251表　３区１・14号溝出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第583図 PL.218	1	在地系土器 片口鉢	1溝 口縁部～体部片					B//灰	還元炎。器表は暗灰色に近い。口縁端部は内側に曲げるように肥厚。体部から口縁部は内湾気味に開く。体部内面は使用により器表摩滅。口縁部外面の器表は剥離。	14世紀前半～中頃か。
第583図	2	在地系土器 片口鉢	1溝 口縁部片					B//灰	還元炎。口縁部は薄い玉縁状をなし、小さく内湾。口縁端部器表は摩滅。	14世紀前半～中頃。
第583図	3	在地系土器 片口鉢	1溝 口縁部から体部下位片					A//灰	体部下位の断面中央は灰色、断面はにぶい橙色、器表は灰色。体部内面は使用により摩滅。器壁は薄く、口縁部は上方に立ち上がる。口縁端部は欠損。	15世紀前半頃か。
第583図	4	在地系土器 片口鉢	1溝 体部下位片					B//黄灰	断面はにぶい橙色、器表は黄灰色。外面は指頭圧痕状の凹凸が著しい。内面は使用により器表やや摩滅。	中世。
第585図 PL.218	1	在地系土器 皿	14溝 1/4					B//浅黄橙	底部外面器表は摩滅。体部から口縁部外面は直線的に開く。内面の体部と底部境は不明瞭。口縁端部に油煙付着。	14世紀後半～15世紀前半。



７号溝（第584図、ＰＬ.165）

位置　15Ｑ～Ｓ－６～10グリッド

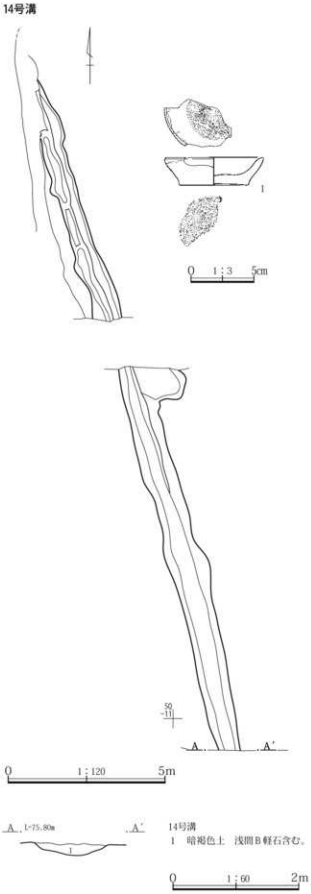
状況から３号竪穴状遺構、46号土坑、８・10号溝より後出。ピットとの新旧関係は不明。平面形はＬ字形。走向方位は南北軸Ｎ－５°－Ｅ、東西軸Ｎ－90°。断面形はＵ字形。底面は丸みがある。両端の比高差は４㎝で、勾配はほとんどない。自然埋没か。埋没土から国産焼締陶器（非掲載）が出土する。東西軸の規模は長さ16.84m上端幅36～80㎝深さ18㎝、南北軸の規模は長さ11.52m上端幅34～79㎝深さ26㎝である。出土遺物から中世以降に比定される。

14号溝（第585図、ＰＬ.218、第251表）

位置　５Ｐ～６Ａ－10・11グリッド

南側は調査区域外に延び、北側は13・46号溝と重複して不明となる。溝のほか、71・117号土坑と重複するが新旧関係不明。平面形は直線状。走向方位はＮ－16°－Ｗ。断面形は皿状。底面は丸みがありややや凸凹する。両端の比高差は５㎝で、勾配はほとんどない。埋没状況不詳。埋没土から在地系土器皿（第585図１）が出土する。規模は長さ22.40m上端幅70～126㎝深さ14㎝である。出土遺物から15世紀中頃を上限とする。

第584図　３区７号溝



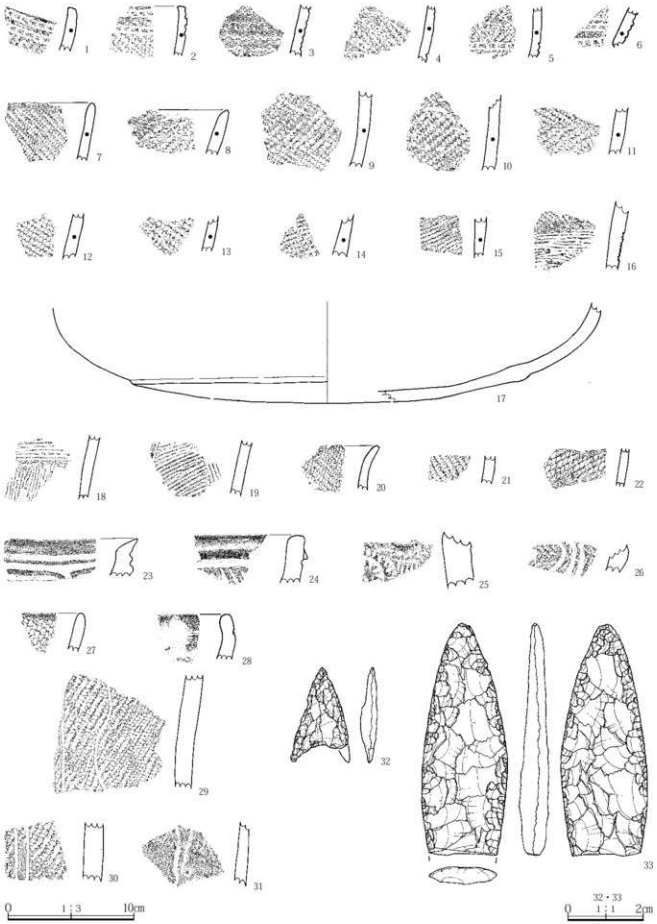
第585図　３区14号溝と出土遺物

第５節　遺構外出土遺物

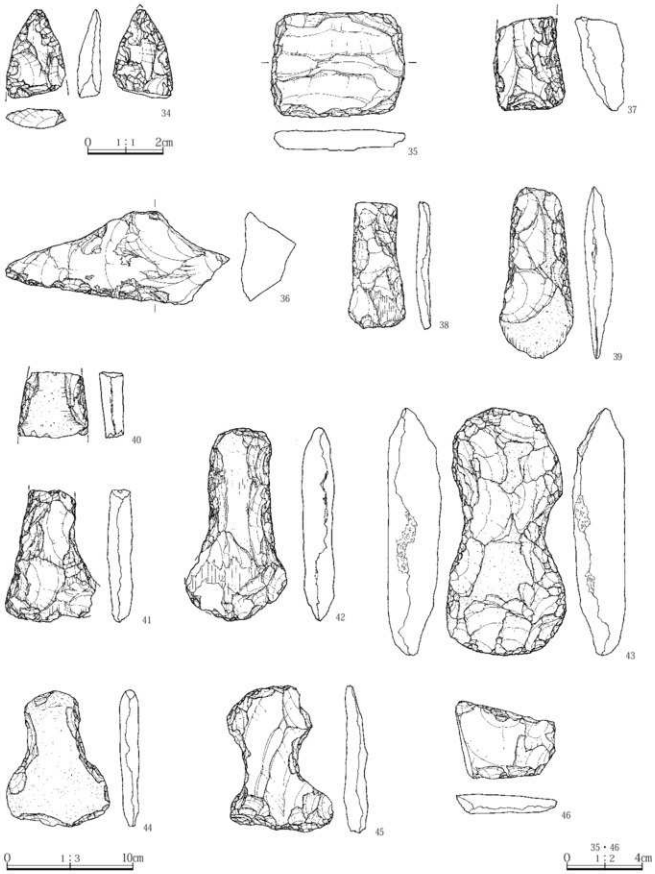
（第586～594図、ＰＬ.219～221、第252表）

縄文時代では、前期前葉から中期後半にわたる土器が出土した。出土地は３区に限られるが、調査面積の影響によるもので、特段状況は変わらない。全体として出土量は少ない。３区中央西寄りに位置する183号住居が黒浜期であるため、遺構外出土遺物も黒浜式期のものが多くなっている。石器では石槍（第586図33）、尖頭器（第587図34）が包含層から出土する。

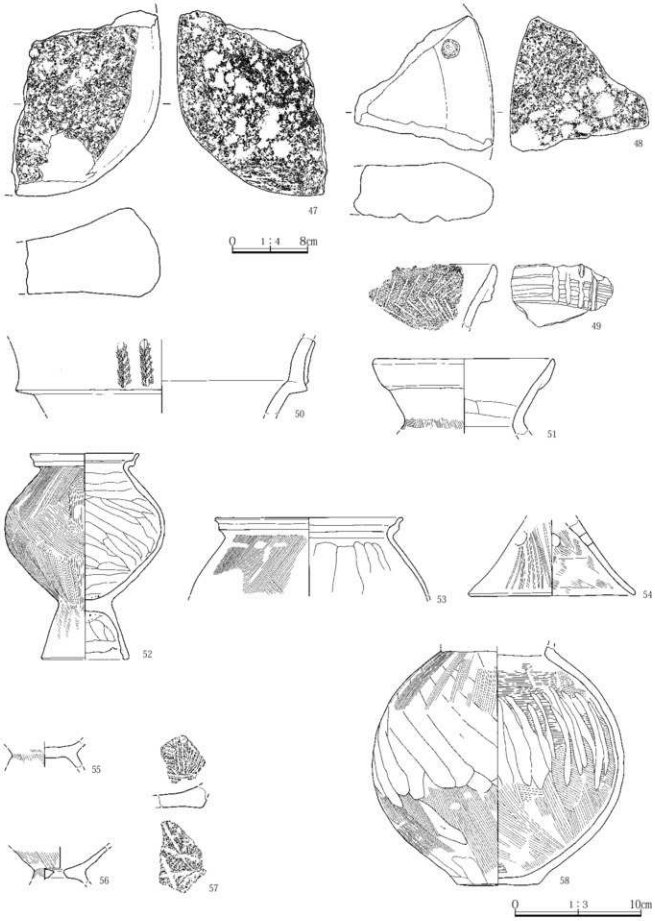
弥生時代から中世・近世にかけての出土遺物は、検出された遺構数に比例して多くなっている。遺構外出土遺物が多い原因は、住居の重複が激しいことに主な要因がある。前出した住居に帰属する遺物が、後出する住居埋没土に混入する例が多いからである。中世では、宝筐印塔笠部（第593図139）が表土出土となったが、形態的な特徴を考慮すれば、３区90号土坑で出土した宝筐印塔と組み合わされる可能性が高い。



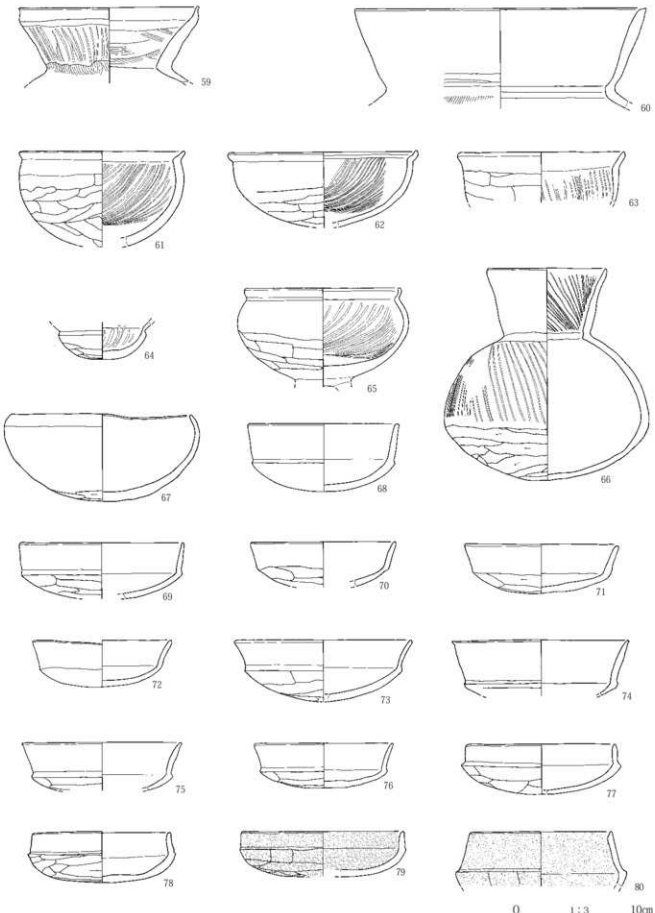
第586図　遺構外出土遺物（１）



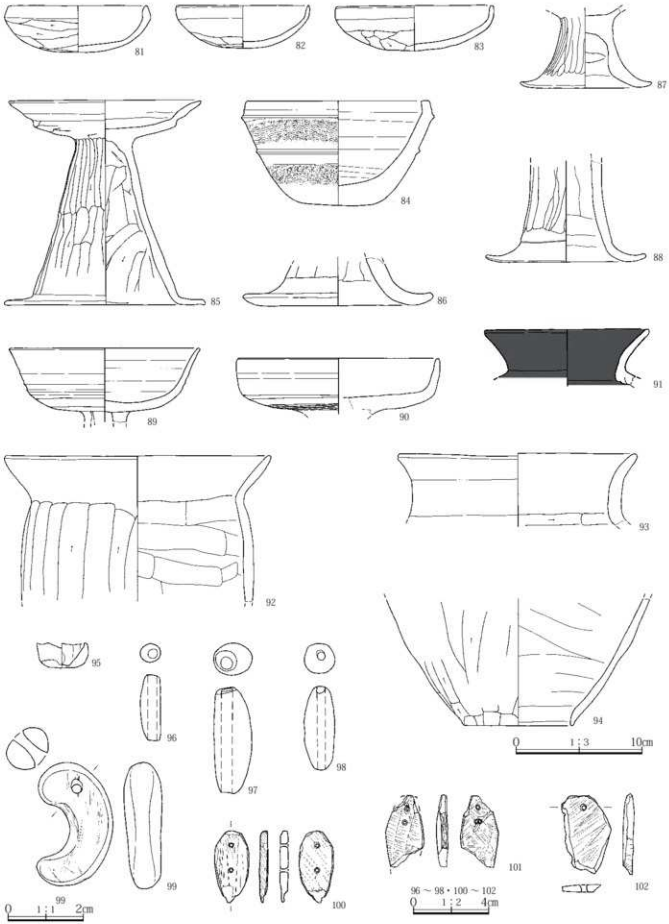
第587図　遺構外出土遺物（２）



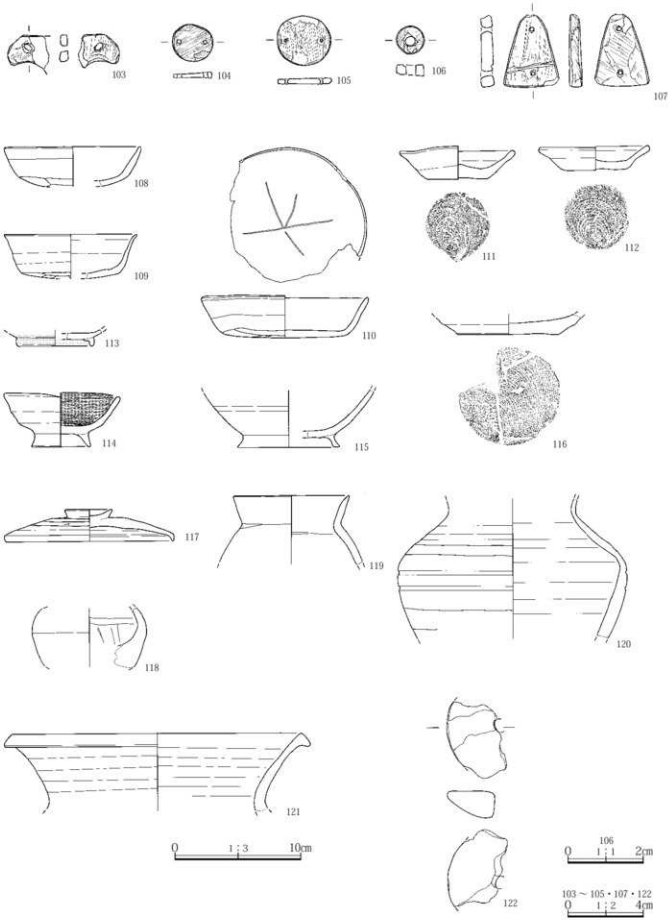
第588図　遺構外出土遺物（３）



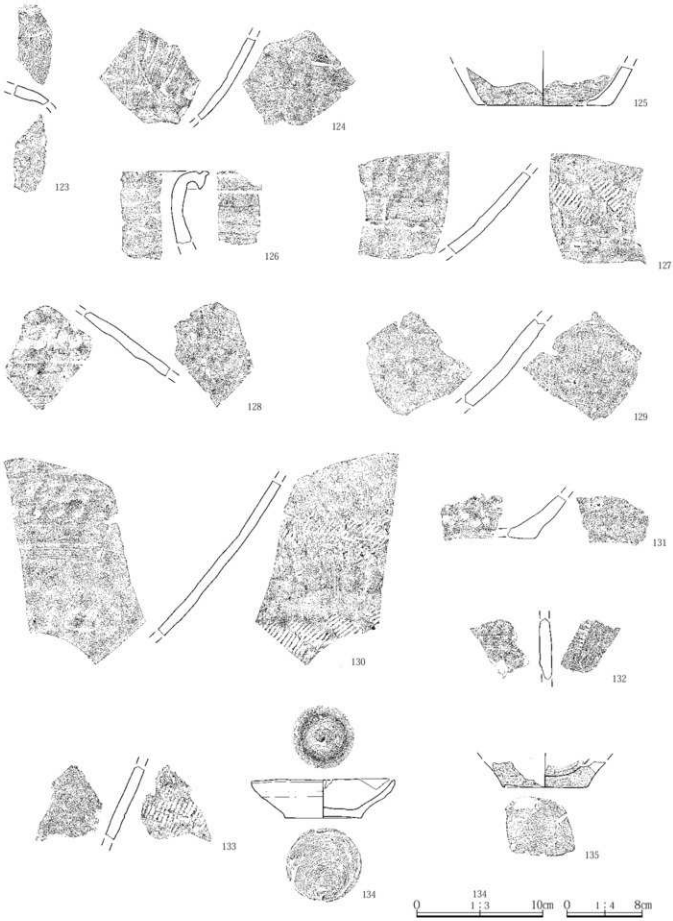
第589図　遺構外出土遺物（4）



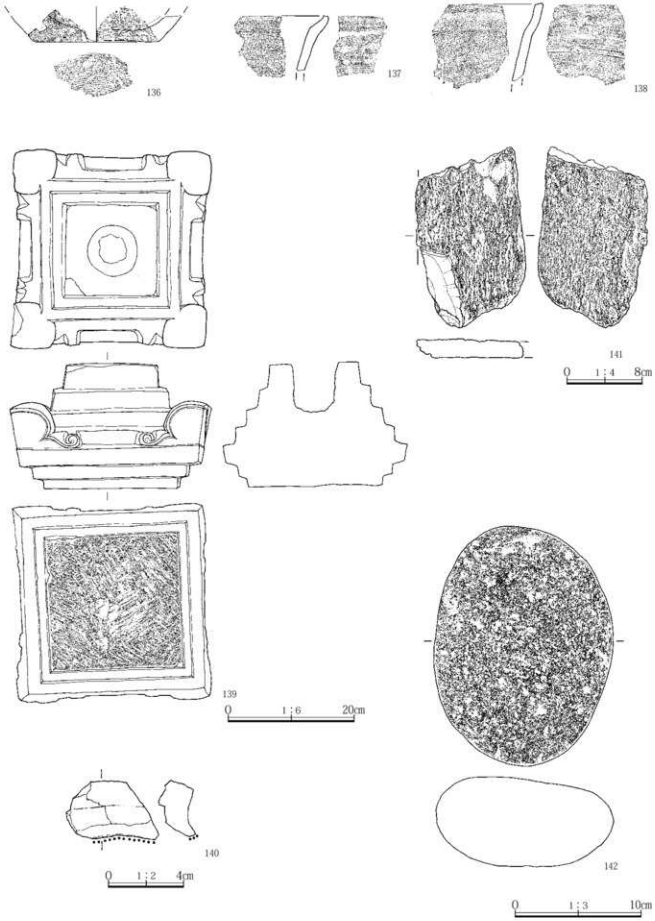
第590図　遺構外出土遺物（５）



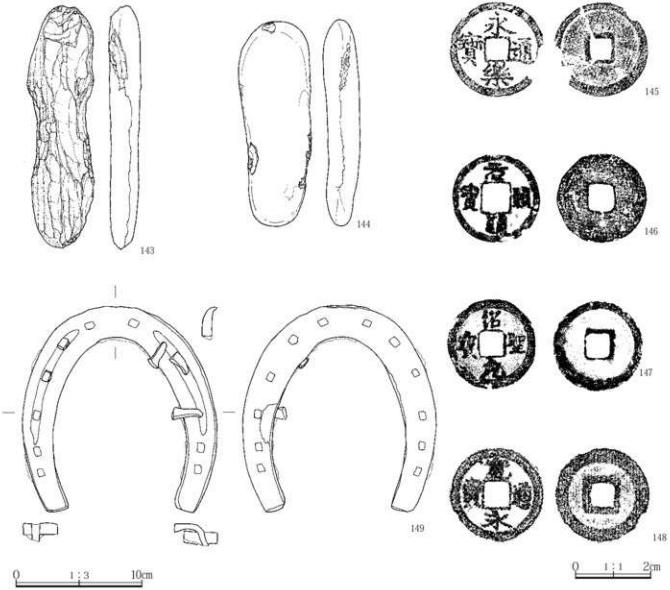
第591図　遺構外出土遺物（６）



第592図　遺構外出土遺物（７）



第593図　遺構外出土遺物（８）



第594図　遺構外出土遺物（９）

第252表　遺構外出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第586図 PL.219	1	縄文土器 深鉢	3区44上 口縁部片					繊維//	波状口縁の口縁下に爪形刺突をもつ平行沈線を２条巡らせ、以下に同様の平行沈線で米字状の文様を描き、地文にＬＲの縄文を施す。	黒浜式
第586図 PL.219	2	縄文土器 深鉢	3区184住 口縁部片					繊維//	やや内反する平口縁で、口縁下に爪形刺突をもつ平行沈線を２条巡らせ、地文にＲＬの縄文を施す。	黒浜式
第586図 PL.219	3	縄文土器 深鉢	3区 頸部片					繊維//	口縁部文様に、半截竹管具によるコンパス文で文様を描く。	黒浜式
第586図 PL.219	4	縄文土器 深鉢	3区 138住胴部片					繊維//	胴部上半に爪形刺突をもつ平行沈線を横位および斜位に施して米字状の文様を描き、地文にＲＬの縄文を施す。	黒浜式
第586図 PL.219	5	縄文土器 深鉢	3区 胴部片					繊維//	胴部上半に爪形刺突をもつ平行沈線を横位および斜位に施して米字状の文様を描き、地文にＬＲの縄文を施す。	黒浜式
第586図 PL.219	6	縄文土器 深鉢	3区 胴部片					繊維//	胴部上半に爪形刺突をもつ平行沈線で文様を描く。	黒浜式
第586図 PL.219	7	縄文土器 深鉢	3区 口縁部片					繊維//	直立ぎみの平口縁で、口縁以下にＲＬの縄文を施す。	黒浜式
第586図 PL.219	8	縄文土器 深鉢	3区29溝 口縁部片					繊維//	平口縁の口縁以下にＬＲの縄文を施す。	黒浜式
第586図 PL.219	9	縄文土器 深鉢	3区87住 胴部片					繊維//	胴部にＬＲとＲＬによる羽状縄文を施す。	黒浜式
第586図 PL.219	10	縄文土器 深鉢	3区100住 胴部片					繊維//	胴部にＬＲとＲＬによる羽状縄文を施す。	黒浜式
第586図 PL.219	11	縄文土器 深鉢	3区29溝 胴部片					繊維//	胴部にＬＲとＲＬによる羽状縄文を施す。	黒浜式
第586図 PL.219	12	縄文土器 深鉢	3区100住 胴部片					繊維//	胴部にＬＲとＲＬによる羽状縄文を施す。	黒浜式
第586図 PL.219	13	縄文土器 深鉢	3区93土 胴部片					繊維//	胴部にＲＬの縄文を施す。	黒浜式
第586図 PL.219	14	縄文土器 深鉢	3区86住 胴部片					繊維//	胴部にＬＲの縄文を施す。	黒浜式
第586図 PL.219	15	縄文土器 深鉢	3区 胴部片					繊維//	胴部にＬＲの縄文を施す。	黒浜式
第586図 PL.219	16	縄文土器 深鉢	3区213ピット 胴部片					砂粒//	胴部に集合沈線状の平行沈線を横位に巡らせ、地文にＲＬの縄文を施す。	諸磯ｂ式
第586図 PL.219	17	縄文土器 浅鉢	3区95土 胴部下半					砂粒//	大型浅鉢土器の胴部下半で無文。屈曲下に段を有する。	諸磯ｂ式
第586図 PL.219	18	縄文土器 深鉢	3区135住 胴部片					砂粒//	横位の集合沈線で胴部文様帯を区画し、胴部に縦位の集合沈線を施す。	諸磯ｃ式
第586図 PL.219	19	縄文土器 深鉢	3区135住 胴部片					砂粒//	胴部に集合沈線で縦位レンズ状の文様を描き、区画内に斜位の集合沈線を施す。	諸磯ｃ式
第586図 PL.219	20	縄文土器 深鉢	3区174住 口縁部片					細砂//	外反する平口縁で、口縁以下にＲＬの縄文を施す。	諸磯式
第586図 PL.219	21	縄文土器 深鉢	3区 胴部片					細砂//	胴部に繊維束の粗いＲＬの縄文を施す。	諸磯式
第586図 PL.219	22	縄文土器 深鉢	3区 胴部片					砂粒//	胴部に縦い潰りのＬＲの縄文を施す。	諸磯式
第586図 PL.219	23	縄文土器 深鉢	3区 口縁部片					砂粒//	平口縁の口縁下に沈線を２条巡らせ、その下に沈線と隆帯で文様を描く。	勝坂式
第586図 PL.219	24	縄文土器 深鉢	3区116住 口縁部片					砂粒//	平口縁の口縁下に隆帯で文様区画し、区画内に沈線を施す。	勝坂式
第586図 PL.219	25	縄文土器 深鉢	3区表土 胴部片					砂粒//	胴部に隆帯と沈線で曲線的な文様を描き、その両脇に刺突を連ねる。	勝坂式
第586図 PL.219	26	縄文土器 深鉢	3区27土 胴部片					砂粒//	胴部の屈曲部に３本単位の沈線を弧状に施し、地文にＲＬの縄文を施す。	勝坂式
第586図 PL.219	27	縄文土器 深鉢	3区 口縁部片					砂粒//	内反ぎみの平口縁で、口縁以下にＲＬの縄文を施す。	加曽利Ｅ式
第586図 PL.219	28	縄文土器 深鉢	3区23土 口縁部片					砂粒//	内反する平口縁で、表面が剥落し文様は不明。	加曽利Ｅ式？
第586図 PL.219	29	縄文土器 深鉢	3区６溝 胴部片					砂粒//	胴部に沈線で懸垂文を直線的に垂下させ、さらに蛇行懸垂文を垂下させる。ＲＬの縄文を縦位に施す。	加曽利Ｅ式
第586図 PL.219	30	縄文土器 深鉢	3区117住 胴部片					砂粒//	胴部に沈線で懸垂文を直線的に垂下させ、ＲＬの縄文を縦位に施す。	加曽利Ｅ式
第586図 PL.219	31	縄文土器 深鉢	3区 胴部片					砂粒//	胴部に沈線で懸垂文を垂下させ、ＲＬの縄文を縦位に施す。	加曽利Ｅ式
第586図 PL.219	32	縄文石器 石鏃	3区２住	長	2.5	厚	0.4	チャート	未製品。右辺「返し部」を欠損する。	円基無茎鏃
				幅	(1.5)	重	1.07			
第586図 PL.219	33	縄文石器 石槍	3区135住	長	6.2	厚	0.8	チャート	全面が押圧剥離が覆われ、丁寧な作り。基部側を欠く。推定長は８㎝で、中一大形の部類に入る。	木葉形状
				幅	2.3	重	10.9			
第587図 PL.219	34	縄文石器 尖頭器	3区７住	長	(2.3)	厚	0.6	黒曜石	加工状態は粗く、やや粗雑な作り。右辺エッジの加工段階で破損した可能性が高い。	木葉形状
				幅	1.6	重	1.98			
第587図 PL.219	35	縄文石器 加工痕ある剥片	3区表採	長	5.6	厚	1.1	雲母石英片岩	周辺を粗く加工して石器形状を整える。剥片端部のエッジが鋭く、削器様刃部を作出している。	板状剥片
				幅	7.1	重	70.5			

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値					胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第587図 PL.219	36	縄文石器 削器	３区東拡張区	長 7.3 幅 17.6	厚 4.3 重 391.6				硬質泥岩	石核消費の初期段階に剥離した大形縦長剥片の裏面側縁を粗く加工して刃部を作出したもの。	大形剥片
第587図 PL.219	37	縄文石器 打製石斧	３区98住	長 (7.4) 幅 5.6	厚 3.8 重 146.1				硬質泥岩	完成状態？右辺側の刃部が弱く摩耗するほか、エッジはシャープで、剥離面は新鮮である。	短冊型
第587図 PL.219	38	縄文石器 打製石斧	３区２溝	長 10.0 幅 4.5	厚 2.0 重 160.9				黒色頁岩	完成状態。刃部摩耗が明らかであるが、擦痕痕については不明瞭。全体的に風化が激しい。	短冊型
第587図 PL.219	39	縄文石器 打製石斧	３区30溝	長 13.5 幅 5.8	厚 2.4 重 155				細粒輝石安山岩	完成状態。全体的に摩耗しているが、明らかに側縁の摩耗を確認することができない。	短冊型
第587図 PL.219	40	縄文石器 打製石斧	２区	長 (5.2) 幅 (5.5)	厚 1.9 重 79.0				灰色安山岩	完成状態。全体に風化が進んでいるが、擦痕痕は明瞭。側縁は開き気味。胴部破片。	短冊型
第587図 PL.219	41	縄文石器 打製石斧	３区183上	長 (10.5) 幅 7.2	厚 2.0 重 154.3				黒色頁岩	完成状態。表裏面とも刃部摩耗が著しい。左側縁は直線的だが、右側縁は弱く内湾し、変形している。	撥型？
第587図 PL.219	42	縄文石器 打製石斧	３区29溝	長 15.1 幅 7.9	厚 2.5 重 313.9				泥岩	完成状態。刃部摩耗・擦痕痕とも著しい。刃部は開き気味で、刃部側の変形度は高い。	短冊型
第587図 PL.219	43	縄文石器 打製石斧	２区12住	長 19.4 幅 9.3	厚 4.2 重 838.9				粗粒輝石安山岩	完成状態。着柄部が明瞭に潰れている。粗粒石材であるため不明瞭だが、刃部摩耗は確実視されよう。	分銅型
第587図 PL.220	44	縄文石器 打製石斧	３区135住	長 10.7 幅 7.2	厚 1.5 重 136.2				珪質頁岩	完成状態。細い着柄部に幅広の体部が付く。剥離面は新鮮で、摩耗痕等は見られないが、刃部は粗く直線的に加工され、リダクションを受けているようにも見える。	石鏃様？
第587図 PL.220	45	縄文石器 打製石斧	３区	長 11.5 幅 8.3	厚 1.8 重 143				珪質頁岩	未製品？剥離面は新鮮で、刃部摩耗・擦痕痕等は見られない。	分銅型
第587図 PL.220	46	縄文石器 削器	３区	長 4.1 幅 5.2	厚 0.9 重 18.6				頁岩	形態的には、石斧頭部破片か端部を削器として転用したというべきであるが、周辺加工の状態は石斧というより削器に近い。刃部は左辺にあり、裏面側に刃こぼれがある。	板状剥片
第588図 PL.220	47	縄文石器 石皿	２区８住	長 (19.6) 幅 (15.9)	厚 9.2 重 3061.5				粗粒輝石安山岩	表裏面とも石皿としての機能面を有する。裏面側に漏斗状の孔を穿つ。	有縁
第588図 PL.220	48	縄文石器 石皿	３区157上	長 (10.6) 幅 (10.9)	厚 4.8 重 467.2				粗粒輝石安山岩	背面側外縁に漏斗状の孔１(径1.8cm)を穿つ他、裏面側に孔多数を穿つ。	有縁
第588図	49	土師器 壺	３区21住 口縁部片						粗砂粒/良好/橙	先端は外側に粘土を貼り、折り返して口縁状に肥厚する。外面は横位に洗練3条をめぐらした上に4本1単位の棒状浮文を貼付。内面には綾杉文を施す。	
第588図 PL.220	50	土師器 壺	３区15Ｓ－17 口縁片						細砂粒/良好/明褐	外面中位に稜をなし、二重口縁となる。横断面三角形の棒状浮文3本が残存。剥突文が重ねられている。内外面とも面縁にはヘラ磨きが加えられている。	
第588図	51	土師器 壺	３区14住 口縁～頸部1/4	口 14.0					粗砂粒/良好/橙	先端は外側に粘土を貼り、肥厚する。頸部に ハケ目。内面は横位にヘラナデ。	内外面とも磨滅。
第588図 PL.220	52	土師器 小型甕	３区55上 1/2	口 8.5 底 6.5	高 16.2				細砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ。胴部・肩部は左下位のハケ目。(１cmに８本)。胴部中位は右下位のハケ目。下位は斜縦位のハケ目。台部はハケ目をナデ消す。内面胴部は横位・斜縦位に指ナデ。台部内面も指ナデ。底部と台部天井部に砂目粘土貼付。	外面に煤付着。
第588図	53	土師器 台付甕	３区17住 口縁～胴部片	口 14.6					粗砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ。肩部左下に向け斜位のハケ目(１cmに７本)。内面肩部は縦位に指ナデ。	
第588図	54	土師器 器台	３区175住 脚部片	底 13.0					精選/細砂粒少/良好/橙	透孔５ヶ所。脚部は縦位のヘラ磨き。内面は斜位のハケ目後、下半部は横ナデを重ねる。	
第588図	55	土師器 台付甕	３区58住 脚台部片						細砂粒/良好/にぶい黄橙	脚台部の外面はハケ目(１cmに８本)底部内外面に砂目粘土補填。	炭素吸着。
第588図	56	土師器 台付甕	３区158住 底部～脚台部上位片						粗砂粒/良好/灰褐	底部中央に焼成後、小孔を穿つ。胴部斜縦位に１cmに７本のハケ目。内面にナデ。脚台部もナデ。	脚部は欠損後、二次調整を行ったか。
第588図	57	土師器 甕	３区 底部片						細砂粒/良好/にぶい黄橙	外面に本葉痕。内面に(１cmに８本)あたりのハケ目。	
第588図 PL.220	58	土師器 小型甕	３区29ピット 底部～肩部1/2						細砂粒・赤色粒上粒/良好/にぶい黄橙	胴部～胴部上半は斜位のヘラ削り後、肩部にハケ目、下端は斜縦位のハケ目。一部にヘラ削り、ナデ。底部はナデ。内面胴部は横位のハケ目に縦位の指撫で を重ねる。	ハケ目(１cmに６～８本)
第589図	59	土師器 甕？	３区６上 口縁1/4	口 14.1					細砂粒/良好/明褐	口唇部は、つままれた様に先端が尖る。横ナデ。口縁部は縦下に縦位にヘラ磨き。頸部には ハケ目を残す。内面は横位のハケ目にナデを重ねる。	外面煤付着。
第589図	60	土師器 甕	３区15Ｒ－20口縁～胴部上位片	口 22.8					白色鉱物粒/良好/灰黄褐	口縁部は横ナデ。胴部左下方向にハケ目。内面頸部に横位のナデ。胴部はナデ。	
第589図	61	土師器 杯	３区15Ｓ－20 1/4	口 12.8					粗砂粒/良好/明赤褐	口縁部から体部上位は横ナデ。体部から底部は手持ちヘラ削り。内面は斜放射状にヘラ磨き。	外面底部は炭素吸着。
第589図	62	土師器 杯	２区26Ｄ－19 1/3	口 14.7					粗砂粒/良好/明褐	口縁部は横ナデ。体部上位はナデ。下位から底部は丁寧なヘラ削り、ナデに近い。内面は斜放射状にヘラ磨き。	
第589図	63	土師器 杯	３区70住 口縁～底部1/4	口 13.0					精選/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部から底部はヘラ削り。内面は放射状にヘラ磨き。	
第589図	64	土師器 坩	３区 底部～体部片						細砂粒/良好/明赤褐	体部上半はナデ、下半～底部にナデに近いヘラ削り。内面斜放射状にヘラ磨き(間 文状)。	
第589図	65	土師器 高杯	２区36Ａ－１ 杯部1/3	口 12.0					粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部上位はナデ、下位は横位にヘラ削り。内面体部は斜放射状にヘラ磨き。	
第589図 PL.220	66	土師器 坩	３区174住 口縁一部欠	口 9.3	高 16.7				粗砂粒/良好/橙	直立しない口縁部は横ナデ。体部上半は斜縦位のヘラ磨きで、平滑な仕上げ。下半から底部は横位にヘラ削り。内面口縁部は斜放射状にヘラ磨き。体部はナデ。	

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値					胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第589図 PL.220	67	上師器 杯	2区25Q－17 3/4	口	14.1	高	6.9		粗砂粒/良好/にぶい赤褐	口縁部は横ナデ。体部ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	内外面とも炭素吸着。
第589図	68	上師器 杯	3区埋没谷 1/4	口	11.8	高	5.3		精選・赤色粒上粒/良好/明赤褐	口縁部は横ナデ。底部は丁寧なヘラ削りか。内面はナデ。	底部内面に黒色の付着物。外面磨滅。
第589図	69	上師器 杯	3区埋没谷 1/4	口	12.8				精選・赤色粒上粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	内外面とも磨滅。
第589図	70	上師器 杯	3区埋没谷 口縁～体部片	口	11.4				精選・赤色粒上粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	内外面とも磨滅。
第589図 PL.220	71	上師器 杯	3区79住 口縁部1/3欠損	口	12.0	高 稜	3.9 10.9		細砂粒・褐粒/良好/橙	口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。	
第589図 PL.220	72	上師器 杯	3区60住 3/4	口	10.8	高 稜	3.7 9.8		細砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削りか、器面磨滅のため不明。	
第589図	73	上師器 杯	3区79住 1/4	口	13.8				精選・赤色粒上粒/良好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	外面磨滅。
第589図	74	上師器 杯	3区175住 口縁～体部片	口	13.8				精選/良好/橙	口縁部は横ナデ。	内外面とも磨滅。
第589図	75	上師器 杯	3区埋没谷 1/4	口	12.4				精選・赤色粒上粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	内外面とも磨滅。
第589図	76	上師器 杯	3区25R－8 2/5	口	10.8	高	3.5		精選・赤色粒上粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。	内外面とも磨滅。
第589図	77	上師器 杯	3区10溝 破片	口	11.7	高	3.9		細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	内外面とも磨滅。
第589図	78	上師器 杯	3区62溝 1/4	口	10.7	高	4.0		精選/良好/にぶい赤褐	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	口縁部外面は漆塗りか。底部に炭素吸着。
第589図	79	上師器 杯	3区 1/4	口	12.6				精選/良好/にぶい赤褐	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。	内外面とも燻し。
第589図	80	上師器 杯	3区29溝 口縁～体部上位	口	11.0				粗砂粒/良好/にぶい赤褐	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。	内外面とも漆塗り。
第590図	81	上師器 杯	3区25S－2 1/3	口	10.8	高	3.7		粗砂粒/良好/明黄褐	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第590図	82	上師器 杯	3区15Q－14 1/4	口	10.4	高	3.3		粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部にナデの部分を残す。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	外面やや磨滅。
第590図	83	上師器 杯	2区埋没谷 完形	口	12.2	高	3.5		粗砂粒/良好/明赤褐	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り、間にナデの部分を残す。内面はナデ。	
第590図 PL.220	84	須恵器 鉢	3区15R－15 2/3	口	14.2	高	8.1		白色鉱物粒/還元焔/灰	底部をはじめ、器壁全体に厚い、ロクロ整形、回転は右回りか。口縁直下と体部中位に擬似突帯をめぐらして区画する。上位には波高の低い波状文を、下段には櫛状工具による刺突文を配する。	底部磨耗。
第590図	85	上師器 高杯	3区21溝 2/3	口 底	15.0 15.7	高	16.0		粗砂粒/良好/橙	口縁部中位に弱い稜を持ち皿状を呈する。口縁部は横ナデ。稜下は弱いヘラ削り。脚部は脚部に横ナデの他は縦位のヘラ削り。内面は上位に絞りの痕跡を残す。以下は斜縦位のヘラ削り。	
第590図	86	上師器 高杯	3区 脚部下位1/3			脚	12.0		粗砂粒・赤色粘土粒・雲母/良好/橙	脚部に横ナデ。それより上位は縦位のヘラ削り。内面はヘラナデ。	内外面やや磨滅。
第590図	87	上師器 高杯	3区10溝 脚部	底	10.4				細砂粒/良好/にぶい黄橙	外面ナデの上に縦位のヘラナデ。内面上位にヘラ削り、ヘラナデ。脚部に横ナデ。	
第590図	88	上師器 高杯	3区79住 脚台部下半	底	12.6				精選・赤色粘土粒/良好/橙	残存上位は縦位に丁寧なヘラ削り。脚部は横ナデ。内面上位は縦位にナデ。	内外面ともやや磨滅。
第590図	89	須恵器 高杯	3区10溝 杯部1/3	口	14.8				白色鉱物粒/還元焔・焼成不良/橙	ロクロ整形、回転右回りか。外面体部は回転ヘラ削り。脚部に3ヶ所透孔を配する。	
第590図	90	須恵器 高杯	3区10溝 杯部	口	15.6				白色鉱物粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回りか。外面底部の中央寄りにカキ目、周縁部に回転ヘラ削り。	
第590図	91	上師器 甕	3区15R－13 口縁～頸部片	口	12.8				粗砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ。内面頸部に指頭圧痕。	口縁内外面は赤色塗彩。
第590図	92	上師器 甕	2区埋没谷口縁部～胴部上位片	口	20.6				細砂粒/良好/灰褐	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第590図	93	上師器 甕	3区 口縁～頸部片	口	18.5				粗砂粒/良好/明赤褐	口縁部は3回に分けて横ナデ。内面頸部に横位のヘラ削り。	
第590図	94	上師器 甕	2区埋没谷 底部～胴部下位片	底	8.8				細砂粒・粗砂粒・角閃石・長石/良好/にぶい黄橙	胴部は外面がヘラ削り、内面はヘラナデ。	
第590図	95	上師器 手捏ね	3区25R－8 口縁一部欠	口	3.8	高	2.0		細砂粒少/良好/橙	丸底の鉢形を呈する。外面は丁寧なナデ。内面は指ナデ。	
第590図	96	上製品 上錘	3区21溝 完形	長 巾	3.5 1.1	厚 孔	1.0 0.5		細砂粒/良好/にぶい黄橙	焼成前穿孔。棒状具に粘土を巻き成形。器面にはナデを施したため、小口面はヘラ切りしていない。	
第590図	97	上製品 上錘	3区22溝 完形	長 巾	5.6 2.0	厚 孔	1.7 0.6		細砂粒/良好/にぶい黄橙	焼成前穿孔。棒状具に粘土を巻き成形。器面にはナデを施したか。	外面の一部に炭素吸着。
第590図	98	上製品 上錘	3区6上 完形	長 巾	4.4 1.6	厚 孔	1.6 0.4		細砂粒/良好/橙	器面はナデ。両小口の孔周辺は欠損。	重さ10.48g。
第590図 PL.220	99	石製品 勾玉	3区29ピット	長 幅	3.3 2	厚 重	1 7.8		滑石	比較的丁寧に磨き上げる。ほぼ完成。端正な作り。形状はC字状を呈する。径2.5mmの孔を片側穿孔する。	

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値					胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第590図 100 PL.220	101	石製模造品 剣形	2区	長 幅	3.8 1.8	厚 重	0.5 5.1		滑石	粗く研磨整形して概形を作出。表裏面とも粗い線条痕が残る。径２mm弱の孔を片側穿孔する。	
第590図 PL.220	102	石製模造品 剣形？	3区	長 幅	(3.8) 2.0	厚 重	0.6 5.3		滑石	径２mm弱の孔を２ヶ所に両側穿孔する。それぞれ孔は重複穿孔されているようであるが、いずれも穿孔時の穿孔位置のズレが原因している。	
第590図 PL.220	102	石製模造品 勾玉	3区	長 幅	(4.2) (2.7)	厚 重	0.6 8.0		滑石	表裏面とも粗い線条痕が残る。上端側に径２mm弱の孔を穿つ。折断して概形を作出しているとみて、器種認定した。	
第591図 PL.220	103	石製模造品 勾玉	3区	長 幅	(1.8) (2.1)	厚 重	0.4 2.27		滑石	概形は粗く面取り整形する程度で、雑な作り。孔２が重複して穿孔されている。上半部を大きく欠損する。	
第591図 PL.220	104	石製模造品 有孔円盤	3区	長 幅	2.0 2.1	厚 重	0.3 2.13		滑石	概形は粗く面取り整形する程度で、雑な作り。径２mm弱の孔２を穿つ。	
第591図 PL.220	105	石製模造品 有孔円盤	3区	長 幅	2.6 2.8	厚 重	0.3 5.05		滑石	概形を面取り整形して形を整える。径２mm弱の孔２を穿つ。比較的丁寧な作り。	
第591図 PL.220	106	石製模造品 臼玉	3区	径 幅	0.8 0	厚 重	0.3 0.21		滑石	上面を粗く研磨、体部には粗い凝位線条痕が残る。下面は切断したのみであるが、磨滅しているように見える。	
第591図 PL.220	107	石製模造品 不明	3区	長 幅	3.8 2.9	厚 重	0.7 10.8		滑石	各辺を面取り整形して三角形状の概形を作出する。径３mm弱の孔を両側穿孔する。表裏面とも粗い整形痕が残されている。背面側には横走する弱み目（幅２mm弱）は模造品整形より後出の可、分割時のリード線のように見える。	
第591図 108	108	上師器 杯	3区52溝 口縁～底部	口	10.6				粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部はナデ。底部は手持ちヘラ削り。体部以下に型肌を残す。内面はナデ。	外面やや磨滅。
第591図 109	109	須恵器 杯	3区15Ｒ－18 1/3	口 底	10.3 8.0				粗砂粒多/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は手持ちヘラ削り。	
第591図 PL.220	110	上師器 杯	3区14住 2/3	口 底	13.0 10.0	高	3.3	細砂粒/良好/明赤	口縁部は横ナデ。体部はナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。底部内面に線刻か。		
第591図 PL.220	111	須恵器 皿	3区K15Ｓ－1 3/4	口 底	8.8 4.7	高	2.6	細砂粒/酸化焔/にぶい黄橙	器形歪む。ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後、無調整。	内外面とも炭素吸着・磨滅。	
第591図 PL.220	112	須恵器 皿	3区10竪穴 口縁部1/3欠損	口 底	8.4 5.0	高	1.9	細砂粒・褐粒/酸化焔/浅黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。		
第591図 113	113	緑釉陶器 杯	3区38溝 底部	底	6.1				精選/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転方向不明。高台部は低い三日月高台。体部切り離し後の付け高台。	外面に施釉。
第591図 PL.220	114	黒色土器 小椀	2区Ｉ墓 完形	口 底	8.9 4.3	高 台	4.3 4.5	細砂粒・褐色粒/酸化焔/にぶい橙	内面黒色処理。ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部は回転ナデ。内面はへラ磨き。		
第591図 115	115	須恵器 椀	3区52溝 底部～体部	底	7.3				黒色鉱物粒/還元焔/軟質/灰	ロクロ整形、回転は右回り。高台部は底部回転糸切り後の付け高台。	
第591図 116	116	須恵器 杯	3区29溝 底部	底	8.0				細砂粒/酸化焔/軟質/にぶい橙	ロクロ整形、回転は右回り。底部回転糸切り後、無調整。	内外面とも磨滅。
第591図 117	117	須恵器 杯蓋	3区18溝 3/4	口	13.2	高 摘	2.5 3.5	黒色鉱物粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。天井部切り離し後、摘み貼付。天井部外面の中心寄りに回転ヘラ削り。	内面磨滅著しい	
第591図 118	118	上師器 手捏ね鉢	3区148住 口縁～底部片					細砂粒/良好/明褐	外面はナデを施す。内面は下半部が斜縦位、上半部が横位に指ナデ。		
第591図 119	119	上師器 小型甕	3区29溝 口縁～胴部上位	口	9.0				精選・赤色粘土粒/良好/橙	内外面とも磨滅のため整形等不明。	
第591図 120	120	須恵器 甕	3区 肩部～胴部片						白色粘土粒少/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回りか。肩部から体部は回転ヘラ削り。体部上位に沈線が全めぐる。	
第591図 121	121	須恵器 甕	3区18溝 口縁部	口	22.8				黒色鉱物粒/還元焔/灰	細作り。ロクロ整形による横ナデ。	内外面に自然釉付着。
第591図 122	122	土製品 紡錘車	3区 1/3	長 中	4.1 3.2	厚 重	1.5 14.21	細砂粒/良好/にぶい黄橙	上面はほぼ平坦。下面は凸レンズ状を呈する。端部は中挟い平坦面を形づくる。		
第592図 123	123	古瀬戸か 四耳壺か	3区１集石 肩部片	口 底		高		//灰白	肩部片で耳欠損。外面には灰釉が薄くかかる。	13世紀か。第592図124と同一個体の可能性高い。	
第592図 124	124	古瀬戸か 壺	3区１集石 体部下位片	口 底		高		//灰白	外面残存部中位以下は回転施削り。外面上部に灰釉薄くかかり、下部に流れる。内面下部は横位撫で、上部から下部は強い凝位撫で。	第592図123と同一個体の可能性高い。	
第592図 125	125	常滑陶器 片口鉢か	3区１集石 体部～底部片	口 底		高		//灰～各褐灰	体部下位は緩く内湾。内面器表は使用により平滑。底部は外面は砂底。	中世。常滑片口鉢Ⅱ類か。	
第592図 126	126	常滑陶器 甕	3区 口縁部片	口 底		高		//にぶい橙～にぶい赤褐	断面中央は暗灰色。器表付近は灰白色からにぶい橙色。器表はにぶい橙色からにぶい赤褐色。口縁部正面に自然釉かかる。肩部付近斑状に自然釉かかる。	12世紀か。第592図130と同一個体の可能性高い。	
第592図 127	127	常滑陶器か 甕	3区 体部下位片	口 底		高		//褐灰	断面中央は灰色、器表付近から器表は褐灰色。外面は板状工具による縦位撫での後、叩き目。内面は板状工具による横位撫で。内面は斑状に自然釉薄く降る。		
第592図 128	128	常滑陶器 甕	3区 体部片	口 底		高		//褐灰	外面は板状工具による横位撫で。内面は指面圧痕状の窪みと紐作り痕残る。	中世。	
第592図 129	129	常滑陶器 甕	3区表土 体部下位片	口 底		高		//灰～黄橙	断面は灰色、橙色、黄橙色。器表は黄橙色で内面には自然釉が斑状に薄くかかる。部位的には第531図３に近い。外面は木口状工具による撫で。内面は板状工具による横位撫で。	中 世。123・171土、27・29・52溝出土片と同一個体の可能性高い。	

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値					胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第592図 PL.220	130	常滑陶器か 甕	3区 体部下位片	口 底		高			//褐灰	断面中央は灰色、器表付近から器表は褐灰色。外面は本口状工具による縦位撫での後、帯状平き目。内面は板状工具による横位撫で。内面は周状に自然釉滴く降る。	12世紀か。第592図127と同一個体の可能性高い。
第592図	131	常滑陶器 甕	3区１集石 体部～底部片	口 底		高			//浅黄橙～にぶい赤褐	断面は淡黄橙色。外面器表はにぶい赤褐色。内面器表は周状に自然釉が降る。底部外面は砂底状。	中世。
第592図	132	瀬美陶器 甕か	3区１集石 体部片	口 底		高			//灰	外面に叩き目。	12世紀～13世紀前半。
第592図	133	瀬美陶器 甕か	3区１集石 体部片	口 底		高			//灰白	外面叩き目。内面器表摩滅部分多い。	12世紀～13世紀前半。
第592図 PL.220	134	在地系土器 皿	3区表土 口縁一部欠	口 底	11.1 6.0	高			B//灰白	口縁部は内湾。外面下半は外反気味に開く。底部左回転糸切無調整。	中世。
第593図	135	在地系土器 片口鉢	3区表土 底部片	口 底		高			B//灰白	還元炎。底部回転糸切後、周縁篦撫でか。底部内面中央を除き、使用により器表摩滅。	中世。
第593図	136	在地系土器 片口鉢	3区１集石 底部片	口 底		高			//灰～にぶい橙	断面から外面器表はにぶい橙色。内面器表付近から内面器表は灰色。内面は使用により器表摩滅。底部回転糸切無調整。底部外面周縁の器表摩滅。	中世。
第593図	137	在地系土器 内耳鍋	3区 口縁部片	口 底		高			B//灰	還元炎。口縁部は短く、内湾気味に開く。口縁端部内面は縦をなす。口縁部は横撫で。体部外面は本口状工具による横位撫で。体部内面は横位撫で。外面は一部煤付着。	14世紀後半～15世紀中頃。
第593図	138	在地系土器 内耳鍋	3区表土 口縁部片	口 底		高			B//灰	器壁は厚く、口縁部はやや短い。口縁部中位内面は屈曲するように内湾。口縁端部上面は幅広で緩ぎ平坦。	14世紀後半～15世紀中頃。
第593図 PL.220	139	石造物 宝筐印塔	3区 表土	高 幅	19.6 31.6	奥 重	31.4 17620	粗粒輝石安山岩		段形は下二段・上四段。隅飾りは二弧輪郭に蕨手を配す。下面に塔身部が接した痕跡が残り、一辺17.3cmを測る。また、下面には斜向する丸タガネ状の工具痕(幅２mm)が残る。全体に磨滅は弱い。第539図１・３と同一個体か。	笠部
第593図 PL.220	140	石製品 火打石	3区	長 幅	3.1 4.9	厚 重	2.0 27.6	石英		剥片端部が敲打され、潰れた状態になる。剥片は厚く、高さ2cm程度の盤状石核底面を剥片端部に取り込み、剥離されている。	
第593図 PL.220	141	石造物 板碑	3区表土	(18.3) 11.6		厚 重	2.1 728.2	緑色片岩		主尊部左下片。阿弥陀如来種子(キリーク)の一部が残る。表裏面とも弱く磨滅。	
第593図 PL.221	142	台石橋 円礫	3区7層	長 幅	18.7 14.1	厚 重	7.1 2151.7	粗粒輝石安山岩		背面側に弱い敲打痕がある。研磨痕は不明瞭だが、礫面に弱い被が形成され、砥石としての使用も想定可能。	橋円礫
第594図 PL.221	143	礫石器 敲石？	3区	長 幅	195.2	厚 重	2.4 312.5	黒色片岩		小口部両端・両側縁を敲打する。両側縁の敲打は著しく、可能性として組掛け部の作出等も考える必要がある。	
第594図 PL.221	144	礫石器 敲石	3区	長 幅	16.2 5.7	厚 重	2.8 367.7	珪質頁岩		上端小口部・両側縁を敲打する。裏面側に被熱剥落痕がある。	
第594図 PL.221	145	金属製品 銭貨	3区84上 一部欠損	長 幅	25.1 24.9	厚 重	1.4 22.11			永楽通宝(初鋳年1408)、縁・文字・郭とも彫深で明瞭。裏面は平坦だが縁・郭は確認できる。縁の一部欠損は錆化後の破損と見られる。	
第594図 PL.221	146	銅製品 銅銭	3区 ほぼ完形	長 幅	23.7 24.3	厚 重	1.25～1.34 2.83			元祐通宝(初鋳年1086)。錆化し縁に小さな破損が見られる。縁・文字の彫は深く明瞭だが裏面は全体に平坦	
第594図 PL.221	147	銅製品 銅銭	3区 ほぼ完形	長 幅	24.0 624.1	厚 重	1.38～1.69 2.90			紹聖元宝(初鋳年1094)。縁・文字とも明瞭だが郭はやや不明瞭、裏面は平坦で縁・郭がややすれている。	
第594図 PL.221	148	金属製品 銭貨	3区表土 ほぼ完形	長 幅	24.9 25.0	厚 重	1.2 12.71			寛永通宝(初鋳年1637)、薄手だが縁・文字・郭とも明瞭。裏面の縁・郭も明瞭、縁のわずかなへこみは劣化破損。	
第594図 PL.221	149	鉄製品 鐘鉄	3区 完形	長 幅	10.8 10.2	厚 重	0.7 149.7			留釘が残る。穴は錆化で不鮮明。	

第253表　非掲載遺物（土器、石器、鉄器、木器）数量一覧

区	道構	須恵器大型(ｇ)	須恵器小型(ｇ)	土師器大型(ｇ)	土師器小型(ｇ)	その他・備考
1	1号トレンチ	－	－	10	30	
1	2号トレンチ	10	－	10	－	
2	1号住居	－	10	－	20	粘土塊？1片、石1片
2	2号住居	30	15	1100	250	石68ｇ
2	3号住居	430	190	510	130	石160ｇ
2	4号住居	－	10	1940	240	石40ｇ
2	5号住居	－	90	2330	1440	石360ｇ
2	6号住居	60	25	10950	8100	赤彩土器1片、石1060ｇ
2	7号住居	110	－	4220	3630	石360ｇ
2	8号住居	4250	200	38630	14590	石2片
2	9号住居	60	－	3150	1720	
2	10号住居	170	40	3270	1750	
2	11号住居	10	20	6260	1730	
2	12号住居	100	10	12520	2450	鉄製品1片
2	13号住居	10	－	2350	820	
2	1号竪穴	－	－	60	40	石1片
2	2号竪穴	190	40	420	140	石2片
2	2号土坑	30	－	130	120	
2	3号土坑	－	20	50	20	
2	4号土坑	－	－	－	40	
2	5号土坑	20	－	120	120	石60ｇ
2	6号土坑	－	20	50	30	石1片
2	9号土坑	－	－	10	10	
2	10号土坑	－	－	20	10	
2	11号土坑	－	－	620	260	石4片
2	12号土坑	30	10	390	60	埴輪1片
2	13号土坑	－	－	10	20	
2	14号土坑	－	10	400	40	石1片
2	1号墓	－	20	550	390	石2片
2	2号墓	－	－	340	30	石5片
2	1号ピット	－	－	10	10	
2	1号溝	－	－	80	20	
2	25Ｂ－20Ｇ	－	－	70	40	
2	25Ｐ－14Ｇ	－	－	10	10	
2	25Ｐ－15Ｇ	－	－	80	10	
2	25Ｐ－16Ｇ	－	－	90	10	
2	25Ｐ－17Ｇ	－	－	60	10	
2	25Ｐ－18Ｇ	－	－	20	20	
2	25Ｑ－15Ｇ	－	－	20	120	
2	25Ｑ－16Ｇ	－	－	390	30	
2	25Ｑ－17Ｇ	120	30	5580	2290	石460ｇ
2	25Ｑ－18Ｇ	40	－	30	10	
2	25Ｒ－15Ｇ	－	－	－	－	
2	25Ｒ－16Ｇ	10	－	100	10	
2	25Ｒ－17Ｇ	－	－	30	10	
2	25Ｒ－18Ｇ	－	－	60	－	
2	25Ｒ－19Ｇ	－	－	10	10	
2	25Ｓ－16Ｇ	－	－	－	10	
2	25Ｓ－17Ｇ	－	－	20	10	
2	25Ｓ－19Ｇ	－	－	－	15	
2	25Ｓ－20Ｇ	－	－	40	20	
2	25Ｔ－18Ｇ	－	－	10	－	
2	25Ｔ－19Ｇ	30	－	150	70	
2	25Ｔ－20Ｇ	80	－	210	35	
2	26Ａ－17Ｇ	－	－	100	10	石4片
2	26Ａ－19Ｇ	10	30	450	210	
2	26Ａ－20Ｇ	10	－	730	190	石3片
2	26Ｂ－18Ｇ	－	－	10	40	石1片
2	26Ｂ－19Ｇ	40	10	1650	1100	石155ｇ
2	26Ｂ－20Ｇ	40	－	4010	2290	石267ｇ
2	26Ｃ－18Ｇ	－	20	60	40	石2片
2	26Ｃ－19Ｇ	5	－	550	70	石40ｇ、石1片
2	26Ｃ－20Ｇ	－	－	180	70	石320ｇ、石2片
2	26Ｄ－17Ｇ	－	20	－	－	
2	26Ｄ－19Ｇ	40	－	120	40	
2	26Ｄ－16Ｇ	－	－	5	－	
2	26Ｓ－19Ｇ	－	－	30	－	
2	26Ｔ－20Ｇ	－	60	120	15	石2片
2	35Ｔ－1Ｇ	－	－	110	20	
2	36Ａ－1Ｇ	－	－	410	70	
2	36Ｂ－1Ｇ	－	－	590	160	石1片
2	36Ｂ－2Ｇ	－	－	80	60	
2	36Ｃ－1Ｇ	－	－	190	90	
2	36Ｃ－2Ｇ	－	－	－	10	
2	埋没谷	1650	40	3450	2560	弥生？1片
2	トレンチ	－	－	－	－	石1片
2	一括	1300	225	11510	4990	石1310ｇ、赤彩土器1片
2	表土	720	50	930	280	石380ｇ
3	1号住居	110	150	1320	470	
3	2号住居	40	－	5280	1420	
3	3号住居	－	－	1720	615	
3	4号住居	30	－	4920	620	
3	5号住居	70	－	4580	1140	
3	6号住居	120	－	6500	1490	
3	7号住居	15	160	6190	1400	
3	8号住居	40	4	3150	660	石1片
3	9号住居	1190	－	12150	3350	
3	10号住居	40	－	4370	1080	石1片
3	11号住居	29	2	1690	340	
3	12号住居	－	－	1570	140	
3	13号住居	65	－	1060	210	
3	14号住居	285	－	8320	2080	
3	15号住居	－	－	810	75	
3	16号住居	630	20	4660	1080	
3	17号住居	－	－	980	100	
3	18号住居	－	－	330	60	
3	19号住居	170	－	2210	235	
3	20号住居	100	10	2760	560	埴輪1片
3	21号住居	240	90	21610	5390	埴輪2片、鉄文1片
3	22号住居	90	－	1940	435	
3	23号住居	－	－	1020	180	
3	24号住居	2100	160	12940	2070	埴輪2片
3	25号住居	－	－	455	35	
3	26号住居	125	－	5990	1940	
3	27号住居	10	－	490	85	
3	28号住居	160	65	20520	8360	
3	29号住居	－	－	265	85	
3	30号住居	130	－	1620	460	
3	31号住居	180	30	2210	740	
3	32号住居	220	－	4460	690	
3	33号住居	－	－	260	15	
3	34号住居	30	55	5965	1410	
3	35号住居	－	－	190	80	
3	36号住居	－	－	210	60	
3	38号住居	360	15	1245	310	
3	39号住居	110	10	6385	2500	
3	40号住居	－	－	540	125	
3	41号住居	65	－	290	80	
3	42号住居	－	－	110	15	
3	43号住居	90	20	6200	1300	
3	44号住居	120	120	7200	5350	
3	45号住居	－	40	3830	1480	
3	46号住居	－	15	1260	475	
3	47号住居	－	－	1570	195	
3	48号住居	80	－	3300	1095	
3	49号住居	40	－	1500	790	
3	50号住居	125	－	4300	680	
3	51号住居	－	45	3030	250	
3	52号住居	－	－	－	15	
3	53号住居	－	10	440	50	

区	遺構	須恵器大型(g)	須恵器小型(g)	土師器大型(g)	土師器小型(g)	その他・備考
3	54号住居	90	10	5200	510	
3	55号住居	70	10	—	—	
3	56号住居	—	—	1130	210	
3	57号住居	—	—	900	2010	
3	58号住居	130	—	1580	480	
3	59号住居	40	—	650	210	
3	60号住居	75	31	2140	1045	
3	61号住居	410	—	4515	1245	
3	62号住居	165	50	17020	3655	
3	63号住居	—	670	2530	560	
3	64号住居	—	—	540	240	
3	65号住居	—	6	3470	280	
3	66号住居	—	—	15	—	
3	68号住居	—	20	1020	300	
3	69号住居	75	25	4060	1100	
3	70号住居	35	41	10750	1825	
3	71号住居	20	—	2590	800	
3	72号住居	—	30	1840	330	
3	73号住居	60	10	3140	1200	
3	74号住居	—	—	840	470	
3	75号住居	70	30	860	310	
3	76号住居	30	—	690	90	
3	77号住居	—	—	27	—	
3	78号住居	110	18	1400	385	
3	79号住居	—	8	1505	430	
3	80号住居	—	—	52	—	
3	81号住居	—	—	1775	420	
3	82号住居	25	—	1700	660	
3	83号住居	—	—	50	9	埴輪3片
3	84号住居	—	—	340	650	
3	85号住居	—	10	39	45	
3	86号住居	23	8	710	140	
3	87号住居	30	—	550	215	
3	88号住居	470	11	1440	540	
3	89号住居	—	13	1315	90	
3	90号住居	—	—	2250	455	
3	91号住居	—	—	540	70	
3	92号住居	—	—	220	6	
3	93号住居	—	—	330	220	
3	94号住居	1000	20	3030	1710	
3	95号住居	170	10	460	300	
3	96号住居	150	45	1190	640	
3	97号住居	110	5	5430	3390	
3	98号住居	95	30	330	75	
3	99号住居	230	15	915	420	
3	100号住居	—	—	750	180	
3	101号住居	450	50	1410	580	
3	102号住居	—	25	1360	740	
3	103号住居	—	—	1110	200	
3	104号住居	210	150	3110	415	
3	105号住居	190	20	1090	315	
3	108号住居	5	—	1790	155	
3	109号住居	85	10	840	60	
3	110号住居	—	270	500	545	
3	111号住居	—	—	670	135	
3	112号住居	—	—	2590	1010	
3	113号住居	—	—	2785	420	
3	114号住居	10	—	3070	940	
3	115号住居	145	—	50	80	
3	116号住居	240	—	2510	645	
3	117号住居	160	70	2365	230	
3	118号住居	—	—	—	10	
3	119号住居	—	—	235	85	
3	121号住居	—	—	500	20	
3	122号住居	—	40	6130	1150	
3	123号住居	20	—	475	140	
3	124号住居	80	—	1730	330	
3	125号住居	10	75	2490	480	

区	遺構	須恵器大型(g)	須恵器小型(g)	土師器大型(g)	土師器小型(g)	その他・備考
3	126号住居	40	60	6275	1890	
3	127号住居	—	—	2410	310	
3	128号住居	—	—	80	—	
3	129号住居	—	—	2000	400	
3	130号住居	—	—	770	95	
3	131号住居	—	—	840	310	
3	132号住居	—	—	1210	40	
3	133号住居	—	10	435	100	
3	134号住居	10	—	1180	510	
3	135号住居	—	—	10570	2170	
3	136号住居	—	40	980	300	
3	137号住居	70	30	6010	1500	
3	138号住居	50	20	3010	870	
3	139号住居	60	30	3430	1480	
3	140号住居	—	15	3780	940	
3	141号住居	10	—	2620	1530	埴輪850g
3	142号住居	90	20	6340	2480	
3	143号住居	—	—	1080	230	
3	144号住居	—	—	40	10	
3	145号住居	—	—	770	20	
3	146号住居	300	20	2870	1020	
3	147号住居	80	75	4900	1240	
3	148号住居	100	50	1270	310	
3	149号住居	—	20	270	75	
3	150号住居	50	10	2460	375	縄文1片
3	151号住居	30	460	3700	630	羽口1片
3	147・150・153号住居	—	—	480	210	
3	153号住居	230	90	32565	9290	その他1片
3	154号住居	120	30	2640	1050	
3	155号住居	30	10	2600	540	
3	156号住居	80	—	660	130	
3	157号住居	145	10	2720	810	
3	158号住居	10	—	2820	310	
3	160号住居	—	—	160	30	
3	161号住居	—	—	340	43	
3	162号住居	—	—	2050	55	
3	163号住居	6	—	2160	455	
3	164号住居	—	—	300	60	
3	165号住居	—	—	100	—	
3	166号住居	—	—	750	—	
3	167号住居	7	—	2070	45	
3	168号住居	105	—	2550	500	
3	169号住居	5	65	4305	1210	
3	170号住居	58	35	1740	630	
3	171号住居	—	—	410	110	
3	172号住居	—	—	25	10	
3	173号住居	105	4	3905	920	
3	174号住居	475	445	24080	9350	埴輪3片
3	175号住居	—	—	80	48	
3	176号住居	70	—	160	—	
3	177号住居	—	—	2230	725	
3	178号住居	70	28	2625	1225	
3	180号住居	95	—	540	80	
3	181号住居	—	—	50	40	
3	182号住居	—	—	145	—	
3	183号住居	—	—	31	—	
3	184号住居	—	—	10	—	
3	185号住居	—	—	60	13	
3	186号住居	—	—	—	10	
3	197号住居	—	—	115	80	
3	1号掘立	—	—	270	45	
3	1号掘立ＰＡ	—	—	2片	1片	
3	1号掘立ＰイＰ	—	—	1片	—	
3	1号掘立ＰサＰ	—	—	2片	—	
3	1号掘立ＰシＰ	—	—	300	1片	石1片
3	1号掘立ＰスＰ	—	—	—	1片	

区	遺構	須恵器大型(g)	須恵器小型(g)	土師器大型(g)	土師器小型(g)	その他・備考
3	4A号掘立Ｐエ	－	－	1片	－	
3	5号掘立	－	－	17	8	
3	5号掘立Ｐ７	－	－	2片	－	
3	6号掘立Ｐエ	－	－	1片	1片	
3	7号掘立	－	－	－	8	
3	10号掘立	15	－	50	10	
3	11号掘立	－	－	16	5	
3	11号掘立Ｐイ	－	－	1片	1片	
3	13号掘立	35	－	21	18	
3	13号掘立Ｐウ	1片	－	2片	4片	
3	13号掘立Ｐク	－	－	17	25	
3	17号掘立	－	－	21	－	
3	17号掘立Ｐア	－	1片	－	－	
3	17号掘立Ｐク	－	－	－	2片	
3	20号掘立	－	－	2	－	
3	20号掘立Ｐエ	－	－	15	－	
3	21号掘立	－	－	5	－	
3	21号掘立Ｐオ	－	－	1片	－	
3	22号掘立	－	－	－	40	
3	22号掘立Ｐオ	－	－	－	4片	
3	24号掘立	－	－	7	15	
3	24号掘立Ｐア	－	－	－	20	
3	24号掘立Ｐイ	1片	－	3片	－	
3	26号掘立	－	－	－	5	
3	26号掘立Ｐオ	－	－	1片	－	
3	28号掘立Ｐサ	－	－	57	32	
3	37号掘立	－	－	45	26	
3	38号掘立Ｐア	－	－	1片	1片	
3	39号掘立	－	－	15	－	
3	39号掘立Ｐエ	－	－	19	7	
3	39号掘立Ｐカ	－	－	2片	－	
3	39号掘立Ｐク	－	－	21	－	
3	39号掘立Ｐケ	－	－	－	5	
3	43号掘立	－	－	240	100	
3	44号掘立Ｐ２	－	－	12	－	
3	44号掘立Ｐ８	－	－	－	17	
3	46号掘立Ｐ２	－	－	13	－	
3	47号掘立Ｐ１	16	－	10	9	
3	47号掘立Ｐ４	－	－	3	25	
3	48号掘立Ｐ２	－	－	20	34	
3	48号掘立Ｐ３	－	－	20	14	
3	51号掘立Ｐ２	－	－	17	30	
3	51号掘立Ｐ４	－	－	22	－	
3	52号掘立Ｐ５	－	－	－	16	
3	53号掘立Ｐ３	－	－	19	9	
3	53号掘立Ｐ６	－	－	16	－	
3	54号掘立Ｐ１	－	－	8	－	
3	54号掘立Ｐ２	－	－	11	－	
3	54号掘立Ｐ３	－	－	10	45	
3	54号掘立Ｐ４	－	－	7	－	
3	54号掘立Ｐ５	－	－	19	12	
3	55号掘立Ｐ２	－	－	13	－	
3	57号掘立Ｐ１	－	－	－	10	石器？1片
3	57号掘立Ｐ６	－	－	35	8	
3	1号竪穴	－	－	140	13	石2片
3	2号竪穴	－	－	80	30	
3	3号竪穴	－	5	835	380	種子10ｇ、石器1片、石2片
3	5号竪穴	9	－	240	140	
3	6号竪穴	185	－	380	505	
3	7号竪穴	315	－	1345	550	
3	9号竪穴	－	－	－	－	
3	10号竪穴	255	－	2180	880	
3	1号土坑	－	－	80	10	
3	2号土坑	10	－	130	50	石器？1片、石1片

区	遺構	須恵器大型(g)	須恵器小型(g)	土師器大型(g)	土師器小型(g)	その他・備考
3	3号土坑	－	－	90	50	石1片
3	4号土坑	－	10	520	280	石1片
3	5号土坑	－	－	190	80	
3	6号土坑	－	－	50	20	石1片
3	7号土坑	－	－	60	10	
3	8号土坑	－	－	－	5	
3	9号土坑	10	5	－	40	石器？1片
3	10号土坑	－	－	20	－	
3	11号土坑	40	－	20	5	石1片
3	13号土坑	－	－	20	10	
3	14号土坑	5	－	110	40	石1片
3	15号土坑	－	－	1010	140	石1片
3	19号土坑	－	－	100	20	
3	20号土坑	－	－	5	5	
3	21号土坑	－	－	10	－	
3	22号土坑	－	－	5	－	
3	23号土坑	－	－	320	120	石器1片、縄文2片
3	27号土坑	60	－	80	35	縄文1片
3	29号土坑	－	－	2	－	縄文4片
3	31号土坑	－	－	320	65	石1片
3	32号土坑	－	－	5	－	
3	33号土坑	－	－	20	65	
3	37号土坑	55	－	650	350	石2片
3	38号土坑	－	－	30	10	
3	39号土坑	－	－	40	5	
3	40号土坑	－	－	30	25	縄文？3片
3	41号土坑	－	－	9	10	
3	42号土坑	－	－	145	50	
3	43号土坑	－	－	15	2	
3	44号土坑	－	－	460	55	縄文2片、石1片
3	45号土坑	－	－	110	12	
3	50号土坑	－	－	20	－	木製品？1片
3	53号土坑	30	－	370	130	
3	54号土坑	－	－	1280	25	
3	56号土坑	40	－	500	25	石2片
3	57号土坑	70	－	55	265	石1片
3	59号土坑	－	－	10	5	
3	61号土坑	－	－	50	5	
3	63号土坑	－	－	20	15	銭1片
3	65号土坑	－	－	35	20	
3	66号土坑	－	－	20	1片	
3	67号土坑	30	－	10	15	
3	70号土坑	80	－	50	60	
3	73号土坑	－	－	2	－	
3	75号土坑	－	－	25	13	石？1片
3	76号土坑	－	－	15	20	
3	77号土坑	－	－	8	2	
3	78号土坑	－	－	2	8	
3	79号土坑	－	－	2	3	
3	80号土坑	－	－	8	10	石1片
3	83号土坑	－	－	－	5	
3	87号土坑	50	5	－	－	
3	90号土坑	25	－	110	15	
3	91号土坑	15	－	10	1	
3	93号土坑	－	－	－	－	縄文1片
3	95号土坑	－	－	15	3	縄文940ｇ
3	98号土坑	20	－	175	60	石480ｇ
3	104号土坑	35	－	75	3	石1片
3	109号土坑	－	－	20	－	
3	112号土坑	－	3	－	－	
3	115号土坑	－	－	－	28	
3	120号土坑	－	－	125	85	
3	121号土坑	－	－	10	1	
3	122号土坑	60	－	80	－	
3	124号土坑	－	10	10	32	

区	遺構	須恵器大型(g)	須恵器小型(g)	土師器大型(g)	土師器小型(g)	その他・備考
3	126号土坑	—	—	30	8	
3	127号土坑	—	—	20	75	石1片
3	129号土坑	55	15	130	35	炭化物1片,石1片
3	131号土坑	—	—	—	10	
3	133号土坑	—	10	12	6	石140 g
3	136号土坑	—	3	8	—	
3	140号土坑	—	—	10	20	石2片
3	141号土坑	—	—	5	—	
3	143号土坑	—	25	275	10	石2片
3	144号土坑	140	—	18	12	石1片
3	145号土坑	—	—	12	15	
3	152号土坑	—	—	160	15	
3	153号土坑	—	—	15	10	
3	158号土坑	—	—	20	—	石1片
3	159号土坑	—	—	130	10	
3	160号土坑	5	—	15	—	
3	171号土坑	310	—	—	—	
3	172号土坑	—	—	20	10	石1片
3	175号土坑	50	—	—	—	
3	182号土坑	—	—	40	10	
3	183号土坑	15	—	90	75	打製石斧?1片
3	185号土坑	3	—	20	2	
3	186号土坑	—	8	90	10	
3	188号土坑	—	—	10	18	石1片
3	190号土坑	—	—	95	15	
3	191号土坑	100	2	10	20	
3	192号土坑	15	5	135	35	
3	193号土坑	—	—	45	15	
3	194号土坑	—	—	30	—	
3	195号土坑	—	—	220	10	
3	197号土坑	—	—	210	40	
3	198号土坑	—	—	60	1	石1片
3	199号土坑	—	3	50	170	
3	200号土坑	—	—	140	40	石1片
3	201号土坑	35	—	160	10	石2片
3	202号土坑	—	15	180	40	
3	203号土坑	15	—	395	40	
3	204号土坑	—	1片	2490	515	石1片
3	205号土坑	—	—	260	1	
3	206号土坑	—	—	210	—	
3	208号土坑	—	—	48	13	
3	210号土坑	—	—	130	40	
3	211号土坑	—	—	50	—	
3	212号土坑	—	—	100	—	
3	213号土坑	—	—	15	2	
3	214号土坑	—	—	40	20	
3	216号土坑	—	—	65	2	
3	218号土坑	—	5	700	220	
3	220号土坑	—	—	15	3	
3	221号土坑	—	—	70	—	
3	223号土坑	—	—	15	10	
3	224号土坑	—	10	30	—	
3	225号土坑	—	—	20	5	
3	226号土坑	—	—	140	30	
3	228号土坑	—	—	25	—	
3	231号土坑	10	—	450	15	鏃文? 1片
3	234号土坑	—	—	95	85	
3	1号井戸	—	—	175	21	石1片
3	2号井戸	80	15	10	10	石? 1片
3	3号井戸	21	—	50	45	
3	5号井戸	—	—	350	—	
3	6号井戸	25	16	24	15	
3	8号井戸	—	—	95	35	
3	9号井戸	120	—	86	35	埴輪65 g
3	11号井戸	65	—	140	65	
3	12号井戸	32	—	135	40	

区	遺構	須恵器大型(g)	須恵器小型(g)	土師器大型(g)	土師器小型(g)	その他・備考
3	13号井戸	—	—	5	15	石1片
3	1号ピット	—	—	40	10	
3	3号ピット	—	—	45	10	
3	4号ピット	—	—	—	10	
3	5号ピット	—	—	5	30	
3	9号ピット	—	10	10	1	
3	13号ピット	—	—	65	1片	
3	24号ピット	—	—	2	—	
3	25号ピット	—	—	8	—	
3	27号ピット	—	15	—	—	
3	28号ピット	—	—	55	5	
3	29号ピット	—	—	70	—	
3	33号ピット	—	—	7	1	
3	34号ピット	15	—	25	—	
3	38号ピット	—	—	40	—	
3	40号ピット	30	—	15	—	
3	48号ピット	—	—	5	—	
3	49号ピット	—	—	2	—	
3	51号ピット	—	—	9	—	
3	54号ピット	—	—	6	—	
3	58号ピット	—	—	20	6	
3	59号ピット	6	—	5	—	
3	62号ピット	—	—	31	23	
3	63号ピット	—	—	1片	—	
3	65号ピット	—	—	—	1	
3	68号ピット	—	—	—	5	
3	72号ピット	—	—	5	—	
3	77号ピット	—	—	60	5	
3	87号ピット	—	2	—	—	
3	90号ピット	—	32	—	—	
3	94号ピット	—	—	—	4	
3	99号ピット	—	—	9	—	
3	100号ピット	—	—	5	—	
3	103号ピット	—	—	—	3	
3	106号ピット	—	—	6	—	
3	111号ピット	—	—	4	—	
3	112号ピット	—	—	—	18	
3	123号ピット	—	—	4	—	
3	126号ピット	—	—	14	—	
3	128号ピット	—	—	27	—	
3	129号ピット	—	—	63	48	
3	133号ピット	—	—	3	2	
3	136号ピット	—	—	4	—	
3	141号ピット	—	—	30	—	
3	145号ピット	—	—	6	—	
3	146号ピット	—	—	1	—	
3	147号ピット	—	—	2	—	
3	151号ピット	—	—	7	—	
3	153号ピット	—	—	7	—	
3	155号ピット	—	—	7	—	
3	160号ピット	—	—	12	—	
3	162号ピット	—	—	—	1	
3	166号ピット	—	—	—	—	砥石1片
3	167号ピット	—	—	16	—	
3	173号ピット	—	—	11	5	
3	174号ピット	—	—	25	18	
3	175号ピット	—	—	3	—	
3	176号ピット	—	—	7	11	
3	177号ピット	—	—	15	11	
3	178号ピット	—	—	60	—	
3	179号ピット	—	—	10	—	
3	180号ピット	14	—	60	—	
3	181号ピット	—	—	35	—	
3	182号ピット	—	—	54	19	
3	183号ピット	—	—	35	7	
3	184号ピット	—	—	2	—	
3	185号ピット	—	—	185	40	
3	186号ピット	—	—	4	—	

区	遺構	須恵器大型(g)	須恵器小型(g)	土師器大型(g)	土師器小型(g)	その他・備考
3	188号ピット	—	—	25	9	石1片
3	189号ピット	—	—	19	16	
3	190号ピット	—	—	130	12	石1片
3	191号ピット	—	—	39	—	
3	192号ピット	—	—	44	21	
3	193号ピット	—	—	140	—	
3	194号ピット	—	6	4	4	
3	195号ピット	—	—	4	—	
3	196号ピット	—	—	10	—	
3	198号ピット	—	—	25	4	
3	199号ピット	—	—	30	10	
3	202号ピット	—	—	20	10	
3	204号ピット	—	—	16	6	
3	205号ピット	129	—	6	—	
3	207号ピット	—	—	35	5	
3	209号ピット	—	—	23	4	
3	213号ピット	—	—	160	5	縄文1片
3	214号ピット	—	—	15	9	
3	218号ピット	—	—	58	2	
3	219号ピット	—	—	86	2	石1片
3	220号ピット	—	—	2	—	石1片
3	222号ピット	—	—	6	—	
3	225号ピット	—	—	36	—	
3	226号ピット	—	—	—	11	
3	230号ピット	—	—	6	—	
3	231号ピット	—	—	—	8	
3	234号ピット	—	—	—	10	
3	235号ピット	—	—	14	16	
3	236号ピット	—	—	34	—	
3	241号ピット	—	—	7	3	
3	250号ピット	16	—	14	—	石1片
3	251号ピット	—	—	21	—	
3	252号ピット	—	—	4	—	
3	259号ピット	—	—	—	5	
3	262号ピット	—	—	51	6	
3	263号ピット	—	—	14	6	
3	264号ピット	—	—	85	25	石0.5g
3	265号ピット	—	—	10	—	
3	268号ピット	—	—	20	5	
3	273号ピット	—	—	14	36	
3	276号ピット	—	—	6	—	
3	281号ピット	—	—	8	—	
3	282号ピット	—	—	108	—	
3	283号ピット	—	—	30	5	
3	286号ピット	—	—	16	3	
3	288号ピット	—	—	14	6	
3	289号ピット	—	—	24	5	
3	291号ピット	106	—	—	—	
3	292号ピット	—	—	5	—	
3	294号ピット	—	—	5	6	
3	295号ピット	—	—	11	—	
3	298号ピット	—	—	—	1	
3	303号ピット	—	—	5	19	
3	309号ピット	—	—	—	4	
3	311号ピット	—	—	41	—	
3	312号ピット	—	—	20	5	
3	313号ピット	—	—	3	—	
3	316号ピット	—	—	23	—	
3	317号ピット	—	—	10	—	
3	318号ピット	—	—	—	2	
3	324号ピット	—	—	25	3	
3	327号ピット	—	—	6	—	
3	330号ピット	—	—	3	15	
3	331号ピット	—	—	10	—	
3	333号ピット	—	—	27	26	
3	334号ピット	—	—	11	—	
3	341号ピット	—	—	—	18	
3	342号ピット	—	15	18	10	石1片

区	遺構	須恵器大型(g)	須恵器小型(g)	土師器大型(g)	土師器小型(g)	その他・備考
3	346号ピット	—	—	—	—	石1片
3	350号ピット	—	—	—	2	
3	352号ピット	—	—	—	4	
3	361号ピット	—	—	20	8	
3	362号ピット	15	—	35	8	
3	366号ピット	—	—	66	25	石(転用)?1片
3	367号ピット	—	—	21	—	
3	378号ピット	—	—	11	5	
3	388号ピット	—	—	—	11	
3	391号ピット	—	—	11	7	
3	393号ピット	—	—	4	8	
3	493号ピット	—	—	6	—	
3	512号ピット	—	—	9	—	
3	575号ピット	—	—	17	—	
3	579号ピット	—	—	—	24	
3	580号ピット	—	—	4	—	
3	624号ピット	—	—	15	—	
3	635号ピット	—	—	—	—	鉄製品1片
3	656号ピット	—	—	26	—	
3	675号ピット	—	—	5	—	
3	690号ピット	—	—	—	9	
3	697号ピット	13	—	4	—	
3	702号ピット	—	—	10	10	
3	709号ピット	359	—	46	25	
3	716号ピット	—	—	42	—	
3	717号ピット	—	—	10	—	
3	724号ピット	—	—	—	5	
3	743号ピット	—	—	6	—	
3	751号ピット	—	—	—	9	
3	756号ピット	—	—	44	14	
3	759号ピット	—	5	8	10	
3	760号ピット	—	—	13	6	
3	778号ピット	46	—	—	13	
3	781号ピット	—	—	15	5	
3	786号ピット	—	—	10	—	
3	791号ピット	—	—	6	—	
3	795号ピット	—	—	5	—	
3	799号ピット	—	—	—	6	
3	803号ピット	—	—	50	—	
3	810号ピット	—	—	—	9	
3	820号ピット	—	—	18	—	
3	821号ピット	—	—	6	—	
3	822号ピット	—	—	25	—	
3	823号ピット	—	—	15	2	
3	824号ピット	—	—	5	—	
3	829号ピット	—	—	32	—	
3	834号ピット	—	—	—	79	
3	856号ピット	42	—	10	6	
3	857号ピット	—	—	—	9	
3	867号ピット	—	—	10	—	
3	883号ピット	—	—	14	5	
3	894号ピット	—	—	17	13	
3	907号ピット	—	—	1	—	
3	919号ピット	—	—	76	—	
3	920号ピット	—	—	6	10	
3	921号ピット	—	—	28	—	
3	945号ピット	—	—	14	—	
3	963号ピット	—	—	11	—	
3	964号ピット	—	—	—	6	
3	970号ピット	—	—	5	6	
3	977号ピット	—	—	25	—	
3	985号ピット	—	—	11	—	
3	988号ピット	—	—	20	9	石1片
3	990号ピット	—	—	16	25	
3	991号ピット	—	—	31	—	
3	994号ピット	—	—	15	—	
3	996号ピット	—	—	57	26	

区	遺構	須恵器大型(g)	須恵器小型(g)	土師器大型(g)	土師器小型(g)	その他・備考
3	997号ピット	—	—	180	—	
3	1005号ピット	—	—	73	—	
3	1006号ピット	—	—	6	—	
3	1007号ピット	—	—	27	20	
3	1011号ピット	—	—	87	4	
3	1018号ピット	—	—	8	—	
3	1021号ピット	—	—	4	—	
3	1025号ピット	—	—	11	—	
3	1030号ピット	—	—	5	4	
3	1035号ピット	—	—	20	—	
3	1038号ピット	—	—	70	8	
3	1040号ピット	—	—	9	10	
3	1041号ピット	—	—	24	—	
3	1042号ピット	—	—	78	—	
3	1047号ピット	—	—	—	4	
3	1051号ピット	—	—	—	108	
3	1057号ピット	—	—	5	—	
3	1072号ピット	—	—	2	—	
3	1081号ピット	—	—	23	6	
3	1082号ピット	—	—	42	—	
3	1089号ピット	—	—	2	—	
3	1097号ピット	—	—	6	—	
3	1102号ピット	—	—	—	4	
3	1108号ピット	—	—	19	—	
3	1113号ピット	—	—	14	5	
3	1137号ピット	—	—	13	—	
3	1150号ピット	—	—	—	6	
3	1158号ピット	—	—	20	—	
3	1159号ピット	—	—	21	—	
3	1178号ピット	—	—	7	—	
3	1179号ピット	—	—	20	—	
3	1183号ピット	—	—	5	—	
3	1187号ピット	—	—	—	4	
3	1197号ピット	—	—	7	—	
3	1198号ピット	—	—	—	7	
3	1201号ピット	—	—	19	—	
3	1204号ピット	—	—	—	6	
3	1205号ピット	—	—	35	—	
3	1207号ピット	—	—	37	—	
3	1208号ピット	—	—	120	—	紡錘車1片
3	1209号ピット	—	—	70	—	
3	1210号ピット	—	—	94	50	
3	1212号ピット	—	—	30	4	
3	1214号ピット	—	—	40	—	
3	1219号ピット	—	—	9	18	
3	1220号ピット	—	—	10	—	
3	1221号ピット	—	—	12	4	
3	1223号ピット	—	—	8	—	
3	1224号ピット	—	—	22	—	
3	1225号ピット	—	—	95	35	
3	1227号ピット	—	—	19	5	
3	1228号ピット	—	—	53	20	
3	1229号ピット	—	—	35	14	
3	1230号ピット	—	—	53	—	
3	1234号ピット	—	—	110	40	石1片
3	1241号ピット	—	—	—	9	
3	1245号ピット	—	—	53	6	
3	1246号ピット	—	—	55	22	
3	1248号ピット	—	—	25	12	石1片
3	1250号ピット	25	—	—	—	
3	1252号ピット	—	—	17	4	
3	1253号ピット	—	—	20	—	
3	1254号ピット	—	—	7	12	
3	1257号ピット	—	—	11	2	
3	1258号ピット	—	—	—	15	
3	1261号ピット	—	—	90	10	
3	1263号ピット	—	—	10	—	
3	1277号ピット	—	—	—	20	

区	遺構	須恵器大型(g)	須恵器小型(g)	土師器大型(g)	土師器小型(g)	その他・備考
3	1289号ピット	—	—	—	1片	
3	1296号ピット	—	—	—	2片	
3	1312号ピット	—	—	1片	—	
3	1322号ピット	—	—	4片	—	
3	1323号ピット	—	—	1片	2片	
3	1331号ピット	—	—	2片	—	
3	1339号ピット	—	—	—	2片	
3	1324号ピット	—	—	1片	—	
3	1356号ピット	—	—	1片	—	
3	1号溝	300	10	1500	530	石50g
3	2号溝	40	5	4010	730	石器1片、石130g
3	3号溝	50	—	1010	490	礫石片、石1片
3	4号溝	—	—	90	20	
3	5号溝	50	—	2420	860	埴輪170g
3	6号溝	—	—	4310	410	本製品1片、石片、礫文1片
3	7号溝	50	20	880	50	石器1片、石65g
3	8号溝	—	—	4010	960	石30g
3	10号溝	200	20	3190	700	埴輪1片、石器2点、石230g
3	11号溝	26	—	—	20	石1片
3	12号溝	10	—	230	70	石2片
3	13号溝	—	—	60	30	石25g
3	14号溝	310	—	110	—	礫文1片
3	15号溝	—	800	250	50	石器1片
3	16号溝	370	50	—	190	埴輪1片
3	17号溝	60	—	40	370	
3	18号溝	220	—	130	190	埴輪1片
3	20号溝	—	20	160	60	石2片
3	21号溝	10	—	130	80	埴輪1片
3	22号溝	50	5	120	270	石2片
3	23号溝	—	—	20	—	
3	26号溝	20	—	1270	370	石1片
3	27号溝	610	90	1170	410	石2片
3	28号溝	720	70	652	1380	埴輪1片
3	29号溝	1450	10	3670	980	礫320g、石30g、石2880g
3	30号溝	50	20	430	110	
3	31号溝	200	50	1230	550	
3	32号溝	—	—	70	40	
3	34号溝	—	170	—	160	
3	37号溝	—	—	10	50	石器？1片
3	38号溝	—	—	2040	540	石1片
3	39号溝	—	—	10	90	石器？1片
3	40号溝	150	—	70	130	石器1片、石40g
3	41号溝	180	10	20	50	
3	43号溝	230	—	260	180	
3	44号溝	—	—	—	50	
3	46号溝	140	—	—	—	
3	47号溝	—	—	10	5	
3	48号溝	—	5	130	50	
3	49号溝	10	—	150	40	
3	50号溝	—	—	200	20	
3	51号溝	—	—	—	5	
3	52号溝	490	200	820	530	
3	53号溝	—	—	—	10	
3	54号溝	—	—	20	10	
3	55号溝	—	—	40	10	
3	58号溝	910	—	1170	520	埴輪920g
3	59号溝	40	20	1510	150	
3	60号溝	—	10	3070	700	
3	61号溝	20	10	4690	1580	埴輪4片、石220g、
3	62号溝	—	—	140	20	

区	遺構	須恵器 大型(g)	須恵器 小型(g)	土師器 大型(g)	土師器 小型(g)	その他・備考
3	63号溝	—	80	270	80	
3	68号溝	—	—	20	10	
3	１号集石	—	—	545	205	
3	７号集石	190	—	570	25	
3	15Ｑ－13Ｇ	—	—	75	—	
3	15Ｑ－14Ｇ	—	—	85	—	
3	15Ｑ－15Ｇ	—	—	85	25	
3	15Ｒ－13Ｇ	—	—	115	190	
3	15Ｒ－14Ｇ	—	—	95	50	
3	15Ｒ－15Ｇ	—	—	10	4	
3	15Ｒ－16Ｇ	33	—	450	125	埴輪1片
3	15Ｒ－17Ｇ	—	—	255	210	石1片
3	15Ｒ－18Ｇ	—	—	55	8	
3	15Ｒ－19Ｇ	60	10	415	240	縄文1片， 須恵土器1片
3	15Ｒ－20Ｇ	—	—	395	50	
3	25Ｒ－１Ｇ	—	—	475	24	石2片
3	25Ｒ－２Ｇ	—	—	260	150	石2片
3	25Ｒ－３Ｇ	36	32	495	160	
3	25Ｒ－４Ｇ	30	—	890	160	
3	25Ｒ－５Ｇ	—	—	315	40	
3	25Ｒ－６Ｇ	—	—	210	21	
3	25Ｒ－７Ｇ	—	—	160	—	
3	25Ｒ－８Ｇ	—	—	50	3	石1片
3	25Ｒ－10Ｇ	—	—	66	—	
3	15Ｓ－13Ｇ	—	—	65	13	
3	15Ｓ－14Ｇ	—	—	50	14	
3	15Ｓ－15Ｇ	25	—	365	95	石4片
3	15Ｓ－16Ｇ	7	—	225	50	石器？1片， 埴輪1片
3	15Ｓ－17Ｇ	17	—	930	100	石2片
3	15Ｓ－18Ｇ	45	100	735	155	石1片， 紙石1片
3	15Ｓ－19Ｇ	70	—	425	130	
3	15Ｓ－20Ｇ	215	15	800	200	
3	25Ｓ－１Ｇ	—	—	500	120	石1片
3	25Ｓ－２Ｇ	35	—	565	225	石1片
3	25Ｓ－３Ｇ	35	—	1740	410	
3	25Ｓ－４Ｇ	—	—	55	—	
3	25Ｓ－５Ｇ	—	—	230	—	
3	25Ｓ－６Ｇ	115	—	315	20	
3	25Ｓ－７Ｇ	—	—	405	8	
3	25Ｓ－８Ｇ	—	—	130	40	
3	25Ｓ－９Ｇ	—	—	260	37	
3	25Ｑ－１Ｇ	—	—	11	—	
3	25Ｑ－２Ｇ	—	—	11	10	
3	25Ｑ－３Ｇ	—	—	36	—	
3	15Ｔ－13Ｇ	70	—	—	35	
3	15Ｔ－17Ｇ	—	—	—	5	
3	15Ｔ－18Ｇ	—	—	100	3	
3	15Ｔ－19Ｇ	—	—	26	16	
3	15Ｔ－20Ｇ	—	—	320		
3	25Ｔ－１Ｇ	—	—	7	—	
3	25Ｔ－10Ｇ	—	—	210	9	
3	25Ｔ－11Ｇ	—	—	325	37	縄文？55g， 石3片
3	倒木痕	—	—	120	—	
3	一括	3100	1025	66630	22773	埴輪70g，石2884g， 石器4片，鞴25300g， 鉄製品2片，砂少天込
3	表土	1530	320	11182	11502	埴輪2片，石480g 9片， 縄文1片，鉄製品3片
3	遺構外	—	—	75	20	

第254表　中世・近世以降陶磁器類非掲載遺物集計表

区	遺構番号	遺構種	中世				近世							近現代					時期不詳	
			中国磁器	国産焼締陶器	在地系鉢・鍋	在地系皿	中国磁器	中国陶器	国産磁器	国産施釉陶器	国産焼締陶器	在地系焙・鍋	在地系皿	陶磁器類	土器類	瓦	十能瓦	ガラス	土器類	瓦
1	2	トレンチ								1										
2	6	土坑			1															
2	13	土坑																	2	
2	14	土坑																	1	
2		36-G～1 G							1											
3	13	掘立(P ケ)			1															
3	6	土坑												1						
3	41	土坑																	1	
3	63	土坑		1																
3	66	土坑		1																
3	76	土坑							1											
3	109	土坑								1										
3	124	土坑		1																
3	128	土坑							1											
3	129	土坑							2	1				4						
3	152	土坑																	2	
3	188	土坑																	1	
3	231	土坑												1						
3	9	竪穴状遺構												1				1		
3	1	井戸																	1	
3	2	井戸		2															2	
3	4	井戸			2															
3	11	井戸		3																
3	512	ピット								1									1	
3	1	溝		1																
3	5	溝																	1	
3	7	溝		1																
3	11	溝								4										
3	12	溝							1											
3	14	溝		1	2															
3	16	溝		3																
3	18	溝		2																
3	20	溝																	2	
3	21	溝		1																
3	22	溝		5																
3	22	溝			1															
3	27	溝		1	5															
3	28	溝		2																
3	29	溝		3	3	3														
3	40	溝								2										
3	41	溝		1																
3	49	溝							2											
3	52	溝		3																
3	1	集石		2	2				7	5		1			1					
3	10	住居								1										
3	96	住居		2																
3	104	住居		3																
3	147	住居		1																
3	10住北	サブトレ								1										
3	23	住居														1				
3	70	住居														1				
3	160	住居											1							
3		25-T～11 G								2										
3		遺構確認面		6					4	15			2	3	2	1				
3		東遺構確認面	1						3	4	1			2		1				
3		表採		6					3	12		3			2	2			1	
3		トレンチ			1															
総計		196	1	52	18	3	0	0	25	50	1	4	3	12	5	6	0	1	15	0
			中世	74			近世	83						近現代	24				不詳	15

第４章　鑑定分析・自然科学分析

第１節　鑑定分析・自然科学分析の目的

１　はじめに

下滝高井前遺跡で調査された土坑墓、火葬跡などの被葬者を理解するため、出土人骨・獣骨の鑑定分析を生物考古学研究所楠崎修一郎氏に、平安時代の住居などを理解するため、種実同定を株式会社パレオ・ラボに委託して実施した。

２　出土人骨・獣骨鑑定の目的

下滝高井前遺跡２区では近世墓２基など、３区では火葬跡６基、土坑墓２基を含めた土坑・溝から人骨・獣骨が出土している。これらの人骨について、年齢・性別・個体数・部位の鑑定を行い、あわせて出土状況から火葬及び埋葬時の体位や、火葬方法や収骨法など、幅広い分析を行った。獣骨については動物種・個体数・部位の鑑定を行った。

３区の土坑墓・火葬跡群は、２号区画遺構との関連がうかがえ、人骨の分析は遺構の形成過程や性格を考える有用な手がかりとなる。

３　種実同定の目的

当遺跡の３区では平安時代の住居１軒と近世以降の竪穴状遺構１基から、種実が出土した。ここでは種実の同定から、食用などに利用された植物と栽培状況について検討し、遺跡の評価分析に反映することを目的とする。

第２節　出土人骨・獣骨鑑定の結果

下滝高井前遺跡は、群馬県高崎市下滝町に所在する。(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団による発掘調査が、2008(平成20)年10月～2009(平成21)年３月及び2009(平成21)年９月～2010(平成22)年３月まで、２次にわたり実施された。本遺跡の、２区及び３区の墓坑及び土坑から、中世の人骨が出土したので、以下に報告する。

人骨は、クリーニング後、観察・写真撮影・計測を行った。なお、出土歯の計測方法は、藤田(藤田、1949)の方法に従い、歯の歯冠計測値の比較は、中近世人は松村(Matsumura、1995)を現代人は権田(権田、1949)を引用した。

１　２区出土人骨

２区では、１号墓・２号墓・13号住居カマドから、人骨が出土している。

(１)１号墓出土人骨(土坑墓)

人骨の出土状況：人骨は、長軸約175cm・短軸約125cm・深さ約45cmの隅丸長方形土坑から出土している。長軸方向は、北西～南東である。

副葬品：副葬品は、検出されていない。

人骨の出土部位：頭蓋骨片・遊離歯・四肢骨片が出土している。

被葬者の頭位・埋葬状態：被葬者は、約30歳代の女性であると推定されている。四肢骨の残存状態が悪いため、被葬者の生前の身長推定はできなかった。平本嘉助による大腿骨を使用した身長の推定では、鎌倉時代人男性の平均身長は159cm(152.9cm ～ 166.8cm)・同女性の平均身長は144.9cm(140.3cm ～ 148.6cm)と推定されており、室町時代人男性の平均身長は156.8cm(148.8cm ～ 166.3cm)・同女性の平均身長は146.6cm(137.7cm ～ 152.9cm)と推定されている。人骨の出土位置及び土坑の規模から、被葬者は、頭位を北西にした伸展葬で埋葬されたと推定される。群馬県内の中世墓坑においては、屈葬が圧倒的に多く、伸展葬は非常に稀である。

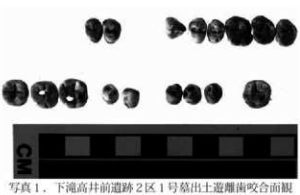


写真１．下滝高井前遺跡２区１号墓出土遊離歯咬合面観

被葬者の個体数：出土遊離歯には重複部位が認められないため、被葬者の個体数は１個体であると推定される。

被葬者の性別：遊離歯の歯冠計測値は比較的小さいため、被葬者の性別は女性であると推定される。

被葬者の死亡年齢：出土遊離歯の咬耗度を観察すると、象牙質が点状に露出する程度のマルティンの２度の状態であるので、被葬者の死亡年齢は約30歳代であると推定される。

（２）２号墓出土人骨（土坑墓）

人骨の出土状況：人骨は、長軸約147㎝・短軸約75㎝・深さ約40㎝の隅丸長方形土坑から出土している。長軸方向は、北西～南東である。

副葬品：副葬品は、検出されていない。

人骨の出土部位：頭蓋骨片・遊離歯・四肢骨片が出土している。

被葬者の頭位・埋葬状態：被葬者は、約40歳代の男性であると推定されている。人骨の出土位置及び土坑の規模から、被葬者は、頭位を北西にした屈葬で埋葬されたと推定される。

被葬者の個体数：人骨の出土状況から、被葬者の個体数は、１個体であると推定される。

被葬者の性別：頭蓋骨は比較的厚く、頑丈であるため、被葬者の性別は男性であると推定される。

第255表　下滝高井前遺跡２区出土人骨歯冠計測値及び比較表

歯種		計測項目	下滝高井前遺跡VIX 1号墓 右	1号墓 左	2号墓 左	中世時代人* Matsumura, 1995 ♂	♀	江戸時代人* Matsumura, 1995 ♂	♀	現代人** 樋口, 1959 ♂	♀
上顎	C	MD	—	7.6	—	7.96	7.43	8.01	7.60	7.94	7.71
		BL	—	8.5	—	8.50	7.94	8.66	8.03	8.52	8.13
	P1	MD	7.2	7.1	—	7.25	7.02	7.41	7.23	7.38	7.37
		BL	9.7	9.9	—	9.46	9.03	9.67	9.33	9.59	9.43
	P2	MD	6.7	6.7	—	6.87	6.69	7.00	6.82	7.02	6.94
		BL	9.1	9.1	—	9.39	8.88	9.55	9.29	9.41	9.23
	M1	MD	—	10.0	10.2	10.43	10.09	10.61	10.18	10.68	10.47
		BL	—	11.4	11.4	11.81	11.30	11.87	11.39	11.75	11.40
	M2	MD	—	9.2	—	9.65	9.42	9.88	9.48	9.91	9.74
		BL	—	10.9	—	11.72	11.19	12.00	11.52	11.85	11.31
	M3	MD	—	8.6	—	—	—	—	—	8.94	8.86
		BL	—	10.6	—	—	—	—	—	10.79	10.50
下顎	C	MD	6.7	6.9	—	6.88	6.55	7.06	6.69	7.07	6.68
		BL	7.8	7.7	—	7.82	7.33	8.04	7.39	8.14	7.50
	P1	MD	7.1	7.2	—	7.07	6.96	7.32	7.05	7.31	7.19
		BL	7.8	7.7	—	8.10	7.72	8.34	7.89	8.06	7.77
	P2	MD	—	7.1	—	7.12	7.00	7.43	7.12	7.42	7.29
		BL	—	8.0	—	8.49	8.06	8.68	8.30	8.53	8.26
	M1	MD	11.3	—	—	11.56	11.06	11.72	11.14	11.72	11.32
		BL	11.3	—	—	11.00	10.49	11.15	10.62	10.89	10.55
	M2	MD	10.8	10.7	—	11.06	10.65	11.39	10.78	11.30	10.89
		BL	10.6	10.5	—	10.55	9.97	10.75	10.21	10.53	10.20
	M3	MD	10.3	—	—	—	—	—	—	10.96	10.65
		BL	10.3	—	—	—	—	—	—	10.28	10.02

注1．計測値の単位は、すべて、㎜である。
注2．歯種は(C犬歯)・P1(第１小臼歯)・P2(第２小臼歯)・M1(第１大臼歯)・M2(第２大臼歯)・M3(第３大臼歯)を意味する。
注3．計測項目は、MD(頬近遠心径)・BL(頬舌径舌側径)を意味する

被葬者の死亡年齢：出土遊離歯の咬耗度を観察すると、象牙質がある程度面を有している、マルティンの２度及び３度の中間の状態であるので、被葬者の死亡年齢は約40歳代であると推定される。

（３）13号住居カマド出土獣骨

13号住居のカマドから、獣骨が出土している。骨は被熱を受けており、白色を呈している。しかしながら、破片であるため、獣骨の種を同定するのは不可能である。恐らく、調理された獣骨の一部であると推定される。

２　３区土坑出土人骨

土坑は、29号土坑・76号土坑・79号土坑・80号土坑・96号土坑・98号土坑・103号土坑・109号土坑・133号土坑・136号土坑・143号土坑・144号土坑・145号土坑・153号土坑・160号土坑・169号土坑・173号土坑の16基から、骨が出土している。

（１）29号土坑出土骨

29号土坑から、骨片が出土している。しかしながら、細片であるため、人骨か獣骨かも含めて不明である。

（２）76号土坑出土人骨

76号土坑は、長軸約88㎝・短軸約73㎝・深さ約15㎝の不整円形土坑である。長軸方向は、北東～南西である。なお、炭化粒及び焼土ブロックが検出されているが、人骨には被熱を受けた痕跡は認められないため、土葬であると推定される。

骨片及び歯冠片が出土しているが、計測できるものはないため、被葬者の個体数・性別・死亡年齢は不明である。

（３）79号土坑出土骨

79号土坑は、長軸約75㎝・短軸約45㎝・深さ約10㎝の楕円形土坑である。長軸方向は、ほぼ南北である。しかしながら、細片であるため、人骨か獣骨かも含めて不明である。

（４）80号土坑出土人骨（火葬跡）

人骨の出土状況：人骨は、長軸約130㎝・短軸約83㎝・深さ約12㎝の隅丸長方形土坑から出土している。長軸方

向は、ほぼ南北である。炭化粒及び炭化ブロックを含み人骨は被熱を受けているので、火葬跡であると推定される。土坑の形態は、タイプⅠに分類される(楠崎　2007)。

火葬方法：火葬人骨の色は、白色を呈しているため、火葬の際の温度は、約900℃以上であると推定される。また、火葬人骨には、亀裂・歪み・捻れが認められるため、火葬方法は、白骨化したものを火葬にしたのではなく、死体をそのまま火葬にしたと推定される。

被火葬者の頭位・焼成状態：火葬人骨の出土位置には大きな傾向が認められないため、被火葬者の頭位は不明である。但し、これまで群馬県の中世火葬遺構出土火葬人骨には、頭位が北である場合が多い。被火葬者は、成人であると推定されているので、土坑の規模から、被火葬者は、屈位で火葬されたと推定される。

副葬品：副葬品は、検出されていない。

火葬人骨の出土部位：火葬人骨の出土部位は、部分的にほぼ全身にわたる。

被火葬者の個体数：火葬人骨には、明瞭な重複部位が認められないため、被火葬者の個体数は１個体であると推定される。

被火葬者の性別：火葬による収縮を考慮しても、全体的に頑丈で大きいため、被火葬者の性別は男性であると推定される。

被火葬者の死亡年齢：死亡年齢推定の指標となる部位が出土していないが、恐らく、被火葬者の死亡年齢は成人であると推定される。

収骨(拾骨)方法：火葬人骨の残存量は比較的少ないため、火葬人骨を全部収骨した東日本タイプの収骨(拾骨)方法であると推定される。なお、火葬人骨の残存部位は、頭蓋骨片が少なく四肢骨片が多い傾向がある。

(５)96号土坑出土人骨(火葬跡)

人骨の出土状況：人骨は、長軸約110㎝・短軸約65㎝・深さ約20㎝の隅丸長方形土坑から出土している。長軸は、ほぼ南北である。なお、本土坑の西側には、長さ約43㎝・幅約50㎝の張出部が認められる。この土坑の形態は、群馬県の中世火葬遺構に典型的である。本報告者は、この張出部を焚き口と推定しているので、火葬時に風は西から東にかけてふいていたと推定される。炭化物・炭化粒・炭化ブロックを含み人骨は被熱を受けているので、火葬跡であると推定される。なお、本土坑には大石が置かれた状態で検出されている。これは、燃焼効率を上げるためであると推定される。土坑の形態は、タイプⅡに分類される(楠崎　2007)。

火葬方法：火葬人骨の色は、白色を呈しているため、火葬の際の温度は、約900℃以上であると推定される。また、火葬人骨には、亀裂・歪み・捻れが認められるため、火葬方法は、白骨化したものを火葬にしたのではなく、死体をそのまま火葬にしたと推定される。

被火葬者の頭位・焼成状態：本土坑の北部から頭蓋骨片が出土しているため、被火葬者の頭位は北であると推定される。被火葬者は、成人であると推定されているので、土坑の規模から、被火葬者は、屈位で火葬されたと推定される。

副葬品：副葬品は、検出されていない。

火葬人骨の出土部位：火葬人骨の出土部位は、部分的にほぼ全身にわたる。

被火葬者の個体数：火葬人骨には、明瞭な重複部位が認められないため、被火葬者の個体数は１個体であると推定される。

被火葬者の性別：火葬による収縮を考慮しても、全体的に華奢で小さいいため、被火葬者の性別は女性であると推定される。

被火葬者の死亡年齢：死亡年齢推定の指標となる部位が出土していないが、恐らく、被火葬者の死亡年齢は成人であると推定される。

収骨(拾骨)方法：火葬人骨の残存量は比較的少ないため、火葬人骨を全部収骨した東日本タイプの収骨(拾骨)方法であると推定される。なお、火葬人骨の残存部位は、頭蓋骨が少なく四肢骨が多い傾向がある。

(６)98号土坑出土人骨(火葬跡)

人骨の出土状況：人骨は、長軸約118㎝・短軸約88㎝・深さ約12㎝の隅丸長方形土坑から出土している。長軸は、ほぼ南北である。炭化物を含み人骨は被熱を受けているので、火葬跡であると推定される。なお、本土坑には大石が敷き詰められた状態で検出されている。これは、燃焼効率を上げるためであると推定される。土坑の形態は、タイプⅠに分類される(楠崎　2007)。

火葬方法：火葬人骨の色は、白色を呈しているため、火葬の際の温度は、約900℃以上であると推定される。また、火葬人骨には、亀裂・歪み・捻れが認められるため、火葬方法は、白骨化したものを火葬にしたのではなく、死体をそのまま火葬にしたと推定される。

被火葬者の頭位・焼成状態：火葬人骨の出土位置には大きな傾向が認められないため、被火葬者の頭位は不明である。但し、これまで群馬県の中世火葬遺構出土火葬人骨には、頭位が北である場合が多い。被火葬者は、成人であると推定されているので、土坑の規模から、被火葬者は、屈位で火葬されたと推定される。

副葬品：副葬品は、検出されていない。

火葬人骨の出土部位：火葬人骨の出土部位は、部分的にほぼ全身にわたる。

被火葬者の個体数：火葬人骨には、明瞭な重複部位が認められないため、被火葬者の個体数は1個体であると推定される。

被火葬者の性別：火葬による収縮を考慮しても、全体的に華奢で小さいため、被火葬者の性別は女性であると推定される。

被火葬者の死亡年齢：死亡年齢推定の指標となる部位が出土していないが、恐らく、被火葬者の死亡年齢は成人であると推定される。

収骨（拾骨）方法：火葬人骨の残存量は比較的少ないため、火葬人骨を全部収骨した東日本タイプの収骨（拾骨）方法であると推定される。

（7）103号土坑出土獣骨

本土坑は、直径約40㎝・深さ約10㎝の不整円形土坑である。また、80号土坑の北部で重複している。本土坑からは、馬歯片が出土している。しかしながら、破片であるため、歯種の同定は不可能である。馬頭観音との関連が推定される。

（8）109号土坑出土人骨（火葬跡）

本土坑は、（公財）群馬県埋蔵文化財調査事業団から依頼されて、本報告者が2009（平成21）年10月20日に遺跡を訪問して火葬人骨の取り上げを実施している。

人骨の出土状況：人骨は、長軸約120㎝・短軸約55㎝・深さ約20㎝の隅丸長方形土坑から出土している。本土坑は、東側が100号土坑と重複している。長軸は、ほぼ南北である。なお、本土坑の東側には、現状で長さ約15㎝・幅約30㎝の張出部が認められる。本報告者は、こ

写真2．下滝高井前遺跡109号土坑全景（上が東）
［2009年10月20日に本報告者が撮影］

の張出部を焚き口と推定しているので、火葬時に風は東から西にかけてふいていたと推定される。また、本土坑底部には大小の石が敷かれている。これは、燃焼効率を上げるためであると推定される。土坑の形態は、タイプⅡに分類される（橋崎　2007）。

火葬方法：火葬人骨の色は、白色を呈しているため、火葬の際の温度は、約900℃以上であると推定される。また、

写真3．下滝高井前遺跡3区109号土坑出土人骨下顎骨

火葬人骨には、亀裂・歪み・捻れが認められるため、火葬方法は、白骨化したものを火葬にしたのではなく、死体をそのまま火葬にしたと推定される。

被火葬者の頭位・焼成状態：土坑の北部から、頭蓋骨片が出土しているため、被火葬者の頭位は北であると推定される。また、土坑の規模から、被火葬者は、伸展位で

写真４．下滝高井前遺跡3区109号土坑出土人骨大腿骨

は不可能であるため、屈位で火葬されたと推定される。

副葬品：副葬品は、検出されていない。

火葬人骨の出土部位：火葬人骨の出土部位は、ほぼ全身にわたる。

被火葬者の個体数：火葬人骨には、明瞭な重複部位が認められないため、被火葬者の個体数は１個体であると推定される。

被火葬者の性別：火葬による収縮を考慮しても、全体的に華奢で小さいため、被火葬者の性別は女性であると推定される。

被火葬者の死亡年齢：死亡年齢推定の指標となる部位が出土していない。しかしながら、下顎骨には、歯槽が残存しており閉鎖しておらず、すべて開放している状態である。このことは、歯が生前脱落していないことを示し、少なくとも、老齢ではないことが推定される。また、大腿骨の骨端も癒合しているため、被火葬者の死亡年齢は成人であると推定される。

収骨（拾骨）方法：火葬人骨の残存量は比較的多く、特に目立つ部位も残存しているため、火葬人骨の一部のみを部分収骨した西日本タイプの収骨（拾骨）方法であると推定される。

（９）133号土坑出土人骨（火葬跡）

人骨の出土状況：人骨は、長軸約120cm・短軸約65cm・深さ約10cmの規模の隅丸長方形土坑から出土している。長軸は、北東から南西である。人骨は被熱を受けているので、火葬跡であると推定される。土坑の形態は、タイプⅠに分類される（楠崎　2007）。

火葬方法：火葬人骨の色は、白色を呈しているため、火葬の際の温度は、約900℃以上であると推定される。

被火葬者の頭位・焼成状態：頭蓋骨片が、土坑の北部から出土しているため、被火葬者の頭位は北であると推定される。また、土坑の規模から、被火葬者は、屈位で火葬されたと推定される。

副葬品：副葬品は、検出されていない。

火葬人骨の出土部位：火葬人骨の出土部位は、部分的にほぼ全身にわたる。

被火葬者の個体数：火葬人骨には、明瞭な重複部位が認められないため、被火葬者の個体数は１個体であると推定される。

被火葬者の性別：火葬による収縮を考慮しても、全体的に華奢で小さいため、被火葬者の性別は女性であると推定される。

被火葬者の死亡年齢：死亡年齢推定の指標となる部位が出土していないが、恐らく、被火葬者の死亡年齢は成人であると推定される。

収骨（拾骨）方法：火葬人骨の残存量は非常に少ないため、火葬人骨を全部収骨した東日本タイプの収骨（拾骨）方法であると推定される。

（10）136号土坑出土人骨

本土坑は、長軸約133cm・短軸約78cm・深さ約10cmの規模である。本土坑からは、被熱を受けた火葬人骨が数片出土している。恐らく、火葬跡だと推定される。しかしながら、細片であるため、個体数・性別・死亡年齢は不明である。

（11）143号土坑出土人骨（火葬跡）

本土坑は、長軸約127cm・短軸約80cm・深さ約12cmの規模である。長軸方向は、ほぼ東西である。土坑底部には、大小の石が敷かれている。本土坑からは、被熱を受けた火葬人骨が数片出土している。恐らく、火葬跡だと推定される。土坑の形態は、タイプⅠに分類される（楠崎　2007）。しかしながら、細片であるため、個体数・性別・死亡年齢は不明である。なお、本土坑は、144号土坑・145号土坑・31号溝と重複している。

(12)144号土坑出土人骨(火葬跡)

本土坑は、長軸約150cm・短軸約90cm・深さ約50cmの規模である。長軸方向は、ほぼ南北である。土坑からは、多くの礫が検出されている。本土坑からは、被熱を受けた火葬人骨が出土している。恐らく、火葬跡だと推定される。土坑の形態は、タイプⅠに分類される(楢崎　2007)。しかしながら、細片であるため、個体数・性別・死亡年齢は不明である。なお、本土坑は、143号土坑及び145号土坑と重複している。

(13)145号土坑出土人骨(火葬跡)

本土坑は、長軸約140cm・短軸約60cm・深さ約50cmの規模である。長軸方向は、ほぼ南北である。土坑からは、多くの礫が検出されている。本土坑からは、被熱を受けた火葬人骨が出土している。恐らく、火葬跡だと推定される。土坑の形態は、タイプⅠに分類される(楢崎　2007)。しかしながら、細片であるため、個体数・性別・死亡年齢は不明である。

(14)153号土坑出土人骨

本土坑は、直径約85cmの不整円形土坑である。本土坑からは、被熱を受けた火葬人骨が出土している。恐らく、火葬跡だと推定される。土坑の形態は、タイプⅤに分類される(楢崎　2007)。しかしながら、細片であるため、個体数・性別・死亡年齢は不明である。なお、本土坑は、157号土坑と重複している。

(15)160号土坑出土人骨(火葬跡)

本土坑は、長軸約123cm・短軸約75cm・深さ約35cmの楕円形土坑である。長軸方向は、ほぼ東西である。土坑からは、多くの礫が検出されている。本土坑からは、被熱を受けた火葬人骨が出土している。恐らく、火葬跡だと推定される土坑の形態は、タイプⅠに分類される(楢崎　2007)。しかしながら、細片であるため、個体数・性別・死亡年齢は不明である。

(16)169号土坑出土人骨

本土坑は、長軸・短軸共に約105cm・深さ約75cmの方形土坑である。本土坑からは、被熱を受けた火葬人骨が出土している。恐らく、火葬跡だと推定される。土坑の形態は、タイプⅢに分類される(楢崎　2007)。しかしながら、細片であるため、個体数・性別・死亡年齢は不明である。

(17)173号土坑出土人骨(火葬跡)

本土坑は、長軸約160cm・短軸約80cm・深さ約65cmの長方形土坑である。土坑では、大小の石が検出されている。本土坑からは、被熱を受けた火葬人骨が出土している。恐らく、火葬跡だと推定される。土坑の形態は、タイプⅠに分類される(楢崎　2007)。人骨は、白色を呈しているものとそうではないものがあり、焼成にムラがあったことが推定される。

なお、上顎右M3(第３大臼歯)と推定される遊離歯が1点出土している。この歯の咬耗度を観察すると、咬耗が認められない状態である。このことは、第３大臼歯が萌出せず上顎骨内部に位置していたのか、萌出してすぐの状態か、萌出しても咬合していなかった等の原因が考えられる。ただ、歯が萌出していても、口腔内にあるため、焼成ムラによって残存した可能性もある。

このことは、少なくとも、死体をそのまま焼成したことが推定される。

写真５．下滝高井前遺跡３区173号土坑出土歯咬合面観

３　３区溝出土骨

３区の溝では、28号溝と31号溝の２条から、骨が出土している。

(１)28号溝出土骨

28号溝からは、被熱を受けた骨が出土している。しかしながら、細片であるため、人骨か獣骨かも識別できな

第256表　下滝高井前遺跡出土人骨・出土獣骨まとめ

	遺構	人骨・獣骨	個体数	性別	死亡年齢
２区	１号墓	上擢人骨	１個体	女性	約30歳代
	２号墓	上擢人骨	１個体	男性	約40歳代
	13号住居	不明獣骨	不明	不明	不明
３区	29号土坑	不明	不明	不明	不明
	76号土坑	上擢人骨	不明	不明	不明
	79号土坑	不明	不明	不明	不明
	80号土坑	火葬人骨	1個体	男性	成人
	96号土坑	火葬人骨	1個体	女性	成人
	98号土坑	火葬人骨	1個体	女性	成人
	103号土坑	馬(ウマ)	不明	不明	不明
	109号土坑	火葬人骨	１個体	女性	成人
	133号土坑	火葬人骨	１個体	女性	成人
	136号土坑	火葬人骨	不明	不明	不明
	143号土坑	火葬人骨	不明	不明	不明
	144号土坑	火葬人骨	不明	不明	不明
	145号土坑	火葬人骨	不明	不明	不明
	153号土坑	火葬人骨	不明	不明	不明
	160号土坑	火葬人骨	不明	不明	不明
	169号土坑	火葬人骨	不明	不明	不明
	173号土坑	火葬人骨	不明	不明	不明
	28号溝	不明	不明	不明	不明
	31号溝	不明	不明	不明	不明

い。また、個体数・性別・死亡年齢も不明である。

(２)31号溝出土骨

31号溝からは、被熱を受けた骨が出土している。しかしながら、細片であるため、人骨か獣骨かも識別できない。また、個体数・性別・死亡年齢も不明である。

まとめ

下滝高井前遺跡の２区及び３区から、人骨及び獣骨が出土した。第256表に、まとめを示した。

引用文献

藤田恒太郎 1949 歯の計測基準について.「人類学雑誌」,61: 1-6

種田和良1959歯の大きさの性差について.「人類学雑誌」,67: 151-163

MATSUMURA,Hirofumi 1995 A microevolutional history of the Japanese people as viewed from dental morphology, National Science Museum Monographs No.9, National Science Museum, Tokyo.

栃崎修一郎　2007　群馬県出土中世火葬遺構、「(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団研究紀要」、25: 101-120

第３節　種実同定の結果

１　試料と方法

試料は、発掘調査現場で取り上げられた試料である。試料数は２試料で、３区９号竪穴状遺構(近世以降)の覆土から出土した一括試料と72号住居跡(平安時代；９～10世紀)から出土したF-1の２試料である。

種実の同定は、肉眼および実体顕微鏡下で行った。同定された試料は、群馬県埋蔵文化財調査センターで保管している。

２　同定結果

同定の結果、木本植物で広葉樹のモモ核・炭化核の１分類群が見いだされた(第257表)。

以下、遺構別に記載する。

９号竪穴状遺構：モモ核完形が1点得られた。

72号住居跡：モモ炭化核破片(約1/2)が1点得られた。

第257表　出土した種実(括弧は破片数)

区		3	
遺構名		９号竪穴状遺構	72号住居跡
取り上げNo.		覆土一括	F-1
分類群	部位/時期	近世以降	平安
モモ	核	1	
	炭化核		(1)

次に、産出した大型植物遺体について記載する。また写真を示して同定の根拠とする。

(１)モモ　*Amygdalus persica* L.　核・炭化核　バラ科

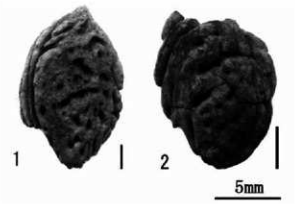
茶褐色で、上面観は両凸レンズ形、側面観は楕円形で先が尖る。下端に大きな着点がある。表面に不規則な深い皺がある。片側側面には縫合線に沿って深い溝が入る。未炭化核の大きさは、長さ34.5mm、幅22.3mm、厚さ15.2mm。炭化核の大きさは、残存長19.7mm、幅15.1mm。

３　考察

種実同定の結果、果樹で栽培植物であるモモが得られた。

モモは食用となるほかに、モモ自体が呪術的な意味を持つ場合もある。モモが出土した遺構は９号竪穴状遺構と72号住居跡であり、遺構の性格を考えると食用残渣の可能性が高い。

下滝高井前遺跡の平安時代と近世以降では、遺跡内もしくは周辺でモモが栽培されていたと考えられる。



１.モモ核(下滝高井前遺跡、９号竪穴状遺構)
２.モモ炭化核(下滝高井前遺跡、72号住居跡)

写真６　出土した大型植物遺体

第５章　総括

第１節　まとめ

１　縄文時代

前期(黒浜期)の住居(183号住、207頁)が１軒検出された。重複が著しく住居の規模・形態は不明である。遺構外出土遺物も少ないが、住居と一致して黒浜式期が多い。その他、前期後半から中期の土器が出土した。

石器の中で注目されるのが、第586図33の石槍である。端正な整形が加えられ、押圧剥離は深遠まで達している。石材はチャートであり、技術的な面も考慮すれば搬入品の可能性もある。先端部がやや鈍いため、石槍ではなく石匙かもしれない。この石器は６世紀前半の135号住居掘り方から出土しており、遺構と直接には関係しない。東方約25mに黒浜式期の183号住居がある。遺構外出土遺物も黒浜式期が多いが、若干諸磯式期も出土しており、その帰属時期の認定は難しい。大工原豊氏の研究によれば、関東地方では黒浜式期の石槍の出土例は少ないという(大工原2008)。

参考文献　大工原豊2008『縄文石器研究序説』179頁　六一書房

２　古墳時代～平安時代

(１)集落の変遷と分布

竪穴住居は２区で13軒、３区で179軒が検出された。このうち、縄文時代が１軒で、時期が確定できない古代の住居(第258表でトーンのもの)は29軒であった。各住居の時期は第258表のとおりで、変遷と分布は第595～597図に示した。

古墳時代の竪穴住居は２区で11軒、３区で121軒と、全体の大半を占め、時期が特定できない住居も17軒ある。８～10世紀の住居は、２区で２軒、３区で29軒である。

４世紀前半は２区で１軒、３区で２軒と少ない。２区の北東隅と３区の西側に点在する。

４世紀後半から５世紀前半で、確実に位置づけられる住居はない。５世紀後半になると、２区で２軒、３区で５軒が検出される。ほかに５世紀代が１軒、５～６世紀代が２軒ある。分布は２区から３区西端に限られる。３区６号溝は４～６世紀にわたる土器が廃棄されており、この時期に重なる。集落の東限にあたると思われる。

６世紀前半から住居が増え始め、２区で３軒、３区で14軒が検出される。ほかに６世紀代が４軒ある。２区では谷地部を挟んで南北の傾斜地に作られる。３区の分布は依然西半部に限られる。３区61号溝は６世紀代に比定される。小規模だがＬ字形で区画溝と考えられるが、住居との重複も多く、単純に区画を形成するとは言えない。

６世紀後半は本遺跡で最も住居数が多く、２区で３軒、３区で32軒である。６世紀前半より倍増する。２区では北半部に集中する。３区は西半部にまとまるが、東半部にも分布が広がる。中央部が若干開いている状況も見られる。同時期の溝として、３区28号溝はやや大きな溝で、３区38号溝が交わる。３区８号溝は直角に分岐する状況や屈曲が著しく、区画を構成する可能性がある。３区60号溝も関連がうかがえる。

７世紀前半も引き続いて住居が多く、２区で１軒、３区で23軒が検出される。２区では西北端の斜面際に位置する。３区は低地である東端を除いて、分布は広く調査区に広がる。

７世紀後半から住居は減り始める。２区では10世紀後半まで住居はない。３区では16軒と減少するが、分布は台地部全体に散漫に広がる。

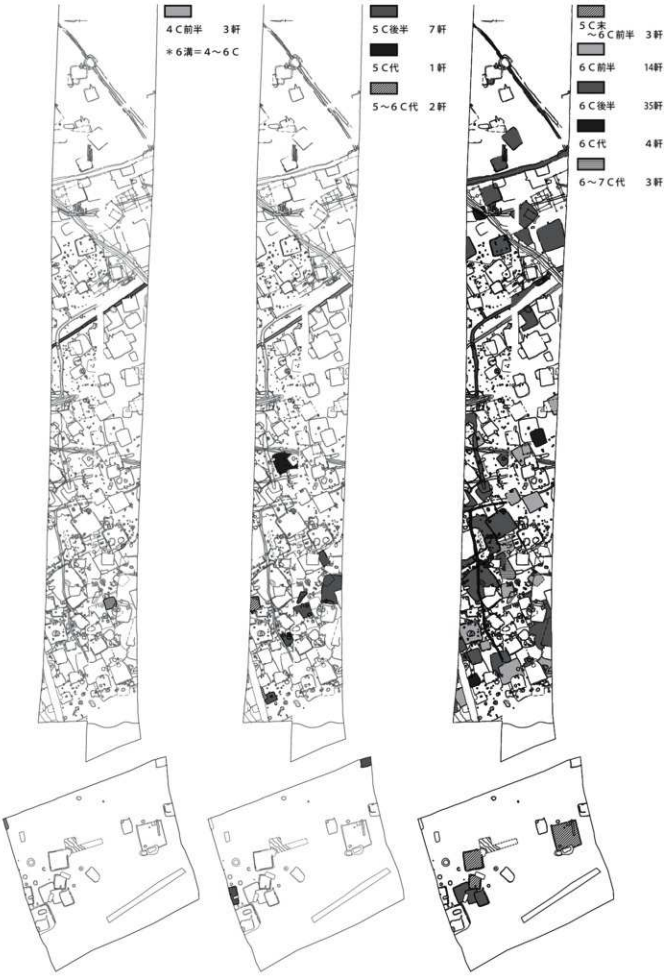
８世紀は急激に軒数が減り、集落の体を成さなくなる。３区で前半が４軒、後半が３軒、８世紀代が１軒に過ぎない。全体に分散するが、３区東半部にやや集まる傾向がみられる。57号土坑は８世紀前半頃で、これと合流する17号溝も８世紀後半頃に比定される。この溝は３号掘立柱建物の内部に延び、排水遺構と考えられる。したがって、３号掘立柱建物も８世紀代と考えられよう。主軸方位による分類では、３号掘立柱建物は３類に属する。主軸方位の一致する６・45・49号掘立柱建物も同時期の可能性が高い。また、１号屋敷西外側で100号住居の周辺にある31・37・38・53号掘立柱建物も同じく３類に属する。これらも同様であろう。掘立柱建物は、中世の１号屋敷に伴うものが、５～８類までと考えられ(後述)、あわせて１～４・９類は継続性のない前段階のものと位置

第258表　住居年代・カマド方位一覧

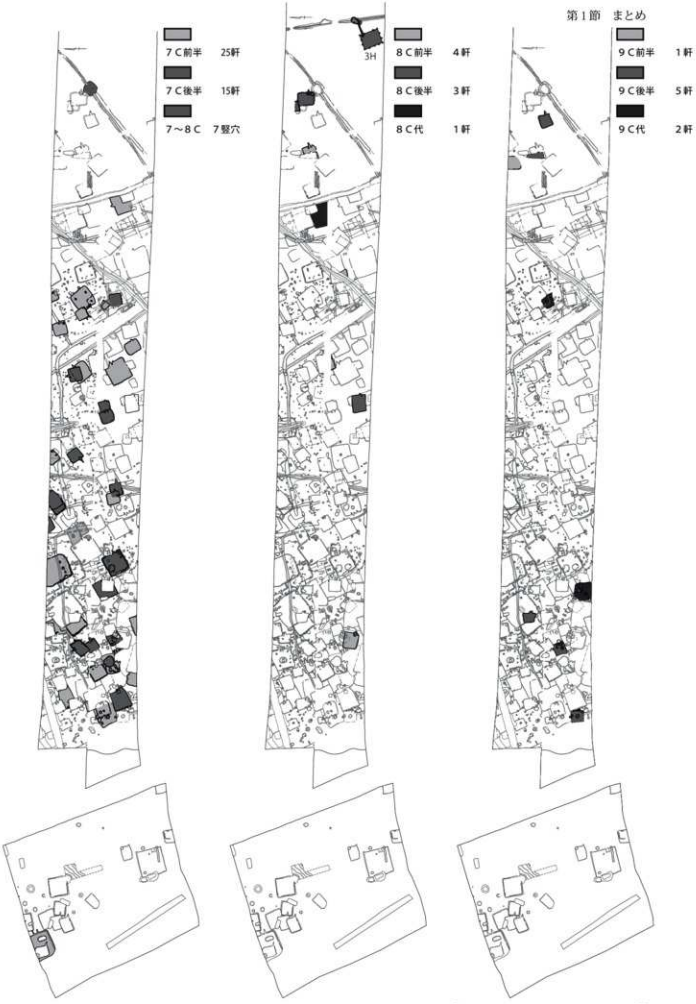
2区 住居No	4C 前	4C 後	5C 前	5C 後	6C 前	6C 後	7C 前	7C 後	8C 前	8C 後	9C 前	9C 後	10C 前	10C 後	カマド/編考
1住	■														
2住															
3住														■	南東角
4住															東
5住				■											
6住															南東角
7住							■								東
8住															南東角
9住					■										東
10住					■										南東角
11住					■										東
12住					■										東
13住					■										東
小計	1			2	3	3	1						2		12
						不明							合計		13

3区 住居No	4C 前	4C 後	5C 前	5C 後	6C 前	6C 後	7C 前	7C 後	8C 前	8C 後	9C 前	9C 後	10C 前	10C 後	カマド/編考
1住							■					■			東
2住							■								東
4住					■		■								東
5住							■								—
6住							■		■						東
7住							■								東
8住							■	■							東
9住							■	■							東
10住							■								東
11住							■								東
12住							■	■							—
13住	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	—
14住	■	■	■	■	■	■	■								東
15住	■	■	■	■	■	■	■	■							東
16住	■	■	■	■	■	■	■	■							東
17住	■	■	■	■	■	■	■								炉
18住	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	—
19住													■		東
20住					■										東
21住							■								東
22住							■				■				東
23住							■								東
24住							■								東
25住															東
26住													■		東・西
27住															南東
28住						■									東
29住	■														—
30住							■								東
31住						■	■								東
32住					■										東
33住	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	—
34住					■										東
35住	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	—
36住	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	—
37住	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	—
38住	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	—
39住					■										東
40住	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	—
41住	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	—
42住															—
43住					■										東
44住								■							東
45住														■	—
46住				■											北
47住															東
48住				■				■							東
49住															—
50住				■											東
51住											■	■			—
52住	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	—
53住						■									東
54住															—
55住					■	■									東
56住															東
57住				■											東
58住								■							東
59住						■									東
60住														■	東
61住												■			東
62住															—
63住								■							—
64住	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	—
65住	■														炉
66住															—
67住															—
68住															—
69住															—
70住					■										—
71住					■										—
72住					■										北
73住					■										—
74住					■			■							—
75住											■	■			東
76住															—
77住															—
78住							■								東
79住							■								—
80住							■								—
81住							■								—
82住							■								北東
83住							■								東
84住	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	東
85住	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	東
86住	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	東

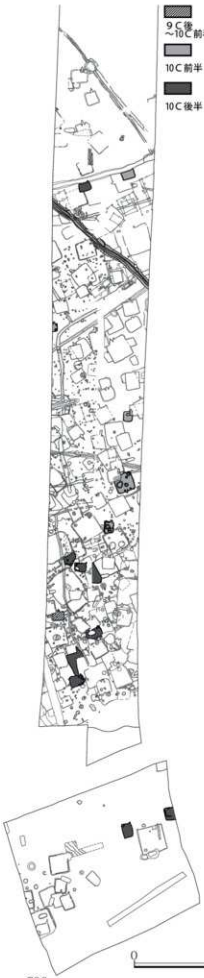
3区 住居No	4C 前	4C 後	5C 前	5C 後	6C 前	6C 後	7C 前	7C 後	8C 前	8C 後	9C 前	9C 後	10C 前	10C 後	カマド/編考
87住								■							北
88住							■								
89住									■						東
90住							■								東
91住							■								東
92住							■								—
93住							■								東
94住										■					東
95住							■								—
96住							■			■					東
97住							■								—
98住							■					■			東
99住										■					—
100住										■					—
101住							■								—
102住															—
103住	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	—
104住												■			東
105住														■	東
106住															—
107住															—
108住															—
109住	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	東
110住											■				—
111住															東
112住								■							東・西
113住								■							南東・南西
114住								■							東
115住								■					■		東
116住															北
117住								■		■					東
118住								■							東
119住	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	—
120住															—
121住								■							—
122住										■					西
123住							■								北
124住								■							北東
125住														■	東
126住															東
127住							■								東
128住							■								北
129住							■								—
130住					■		■								—
131住							■								—
132住	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	—
133住					■		■								東
134住					■		■								東
135住					■		■								—
136住					■		■								東
137住															—
138住															—
139住								■							西
140住								■							—
141住							■								東
142住							■								南西角
143住							■								東
144住	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	—
145住	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	—
146住								■							北西・北東
147住												■	■		—
148住															東
149住	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	—
150住					■										東
151住					■							■			—
152住	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	—
153住							■								北西
154住								■							東
155住								■							—
156住			■												—
157住														■	南東角
158住			■												東
159住	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	—
160住							■								—
161住							■								—
162住							■								—
163住							■								—
164住							■								—
165住	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	—
166住							■								—
167住			■				■								—
168住							■								南西
169住							■								—
170住														■	東
171住	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	—
172住							■								—
173住							■								西
174住							■								—
175住							■								—
176住							■								東
177住							■								東
178住							■								—
179住							■								—
180住	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	東
181住	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	—
182住	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	東
183住															縄文
184住															—
185住															—
186住	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	—
187住															—
小計	2		5	14	32	23	16	4	3	1	5	5	7		117
	1		1	4				1		2		1			9
				1											2
				1											1
					3										3
				7											7
				縄文		1		不明		29		合計			179



第595図　住居変遷図（１）



第596図　住居変遷図（２）



第259表　住居カマド方位総括表　　＊トーンはカマドを２基持つ例

２区住居	５Ｃ		６Ｃ		７Ｃ		古墳	８Ｃ		９Ｃ		10Ｃ		不明	合計
カマド方向	前	後	前	後	前	後		前	後	前	後	前	後		
東			3	2	1								1		7
南東角				2									1	1	4
合計			3	4	1								2	1	11

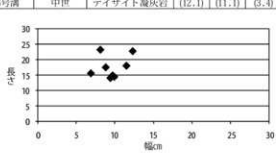
３区住居	５Ｃ		６Ｃ		７Ｃ		古墳	８Ｃ		９Ｃ		10Ｃ		不明	合計
カマド方向	前	後	前	後	前	後		前	後	前	後	前	後		
北			2	1	1	2									6
北東				1	1	1									3
東		2	11	11	13	10	5	4	1	2	6	4	5	6	80
南東					1							1			2
南東角														1	1
南西角				1											1
南西				1	1										2
西				1	1	2						1			5
北西						1									1
合計		2	13	16	18	16	5	4	1	2	6	6	5	7	101

第260表　玉類・石製模造品一覧　　＊トーンは混入か

区	遺構名	時期	製品		合計	模造品					合計
			勾玉	管玉		剣形	有孔円盤	勾玉	白玉	不明	
2	2住	10Ｃ後半				1					1
	6住	７Ｃ前半								1	1
	7住	６Ｃ後半		1	1						
	11住	５末～６前				1					1
	2竪穴	不明							1		1
3	4住	６Ｃ前半						1			1
	8住	７Ｃ前半				1					1
	70住	６Ｃ前半					1				1
	116住	７Ｃ後半							2		2
	126住	10Ｃ後半		1	1						
	140住	６Ｃ後半				1			1		2
	142住	６Ｃ後半							1		1
	151住	10Ｃ後半							3		3
	153住	６Ｃ後半						1	3		4
	157住	10Ｃ後半				1					1
	168住	６Ｃ後半							1		1
	174住	７Ｃ前(中)							6		6
	177住	６Ｃ後半				1					1
	５溝								2		2
	遺構外	―	1		1	2	2	2	1	1	8
合計			1	2	3	8	3	4	19	2	36
割合			33.3%	66.7%		22.2%	8.3%	11.1%	52.8%	5.6%	

第261表　礫砥石一覧と長幅比グラフ

通番	遺構名	時期	石材	幅	長さ	厚さ	重さ(g)
1	16号住居	８Ｃ前半	デイサイト	9.4	14.1	5.7	1083.8
2	65号住居	４Ｃ前半	デイサイト	9.7	15.0	5.0	1080.9
3	70号住居	６Ｃ前半	デイサイト	6.9	15.6	5.3	828.1
4	108号住居	６Ｃか	二ツ岳軽石	9.9	14.5	7.2	591.4
5	135号住居	６Ｃ前半	デイサイト	11.5	18.1	4.9	1491.5
6	135号住居	６Ｃ前半	デイサイト	8.8	17.5	6.4	1344.5
7	150号住居	５～６Ｃか	粗粒輝石安山岩	24.2	26.0	15	6750
8	174号住居	７Ｃ前(中)	デイサイト凝灰岩	8.1	23.2	4.6	820.1
9	145号土坑(火葬跡)	中世か	粗粒輝石安山岩	12.3	22.8	7.9	1009
10	31号住居	７Ｃ前半	デイサイト	11.2	(11.1)	5.8	1003.2
11	162号住居	６Ｃ後半	粗粒輝石安山岩	10.6	(18.6)	5	1228.2
12	9号住居	７Ｃ後半	変玄武岩	(4.3)	(13.3)	3.1	232.7
13	60号住居	10Ｃ後半	軽石	(20.8)	(14.9)	4.9	891.9
14	200号土坑	―	デイサイト	10.2	(12.1)	4.4	667
15	16号溝	中世	デイサイト凝灰岩	(12.1)	(11.1)	(3.4)	409.9



第597図　住居変遷図(３)

づけられる。３類が８世紀代とすれば、ほかの建物群も前後する時期と考えられる。８世紀以降、急激に竪穴住居が減少する点は、掘立柱建物の増加によって、一部補うことができよう。

９世紀も前代と同じ傾向にある。前半は１軒と最少で、後半は５軒と微増する。ほかに９世紀代が２軒である。分布は３区の西端と東端に分かれる傾向で、前代から継続する。

10世紀の住居数は、９世紀後半から継続する。前半が３区で５軒、後半が２区で２軒、３区が７軒である。前半の分布は３区中央部から東半部に散在する。後半では３区西側に集中し、２区まで分布が及び、特徴的な変化を示す。

以上のとおり、住居数は５世紀後半から増え始め、６世紀後半から７世紀前半でピークを迎えた。８世紀前半では急激に減少し、以後10世紀後半まで継続される。11世紀は発見されなかった。

（２）住居のカマド（第259表）

住居総数192軒のうち、カマドが検出されたものは112軒あった。各住居の詳細は第258表に示した。数量を総括したのが、第259表である。

カマドの向きは、東向きが87軒と半数近い。特に２区では７軒と大部分を占める。２区の場合、西へ下り込む傾斜地であるため、住居内の高所となる東辺が使用されたことと考えられる。３区では８世紀以降はほとんど東向きであり、多種に富むのは古墳時代に限られる。住居角部を利用した例は６軒で、南東角が５軒である。時期が判明した例では、６世紀後半で２軒、10世紀後半が１軒である。

カマドの焚き口では、両袖に構築材として土師器甕を使用する例が多く存在した。３区14・28・44・58・81・98・114・124・137・173住居の10軒である。時期は６世紀後半から７世紀後半である。また、袖に埴輪を使用する例として３区48号住居があり、天井部も含めて全体的に多く使用した例として３区25号住居がある。いずれも時期を示す出土遺物に乏しく、年代は比定できない。

（３）住居への礫廃棄

本遺跡では、多量の礫によって人為的に住居を埋め戻した例が３例検出された。２区８号住居は５世紀末から６世紀前半で、３区９・24号住居はともに７世紀後半である。時期に関係なく、継続的に行われていたことがわかる。立地では、２区８号住居が斜面の落ち際に位置する。

礫の埋没過程をみると、２区８号住居は床面近くから廃棄が始まり、南東部（台地側）から斜面へ向かって埋められる。礫の廃棄は埋没土上位まで及ぶため、比較的短期間に埋められたと思われる。３区の２軒はともに、ある程度埋没したのちに、礫が廃棄されている。住居は凹みとして残っていたため、礫廃棄に利用されたと考えられる。この場合、目的は住居の埋め戻しではなく、礫の廃棄にあることがわかる。したがって、２区８号住居での目的も、住居の埋め戻しにあったとは考えにくい。本事例が住居192軒中３軒に過ぎないことからみても、礫を多量に廃棄する行為は、恒常的なものではない。廃棄時点において、礫を廃棄する特殊事情、廃棄礫が発生する特殊な行為があった可能性を想定できる。

（４）出土遺物

Ａ　土器

住居から出土した土器の総量（重量による）は、古墳時代の住居が多く、一般的な傾向と一致する。非掲載遺物の総量をみると（第253表）、２区８号住居と３区153号住居において、土器のみで重量が40kgを越えている。ともに６世紀の住居である。このほか30kg前後のものは、３区21・28・174号住居の３軒で、６～７世紀である。もちろん、重複に影響されたものもあり、単純に比較はできない。

２区８号住居は礫によって埋められた住居であり、土器も多量に含んでいたことが判明する。掲載した遺物量も110点と最多である。同じく多量の礫が捨てられていた３区９・24号住居では、非掲載遺物の総量が15kg程度と多いものの、２区８号住居にはとても及ばない。これらは半ば埋もれた状態で礫が廃棄され始めたことも、やや影響していよう。一方で、３区24号住居の掲載遺物も62点と特に多い。床直で出土した遺物も多くある。礫が捨てられていた住居には、やはり礫・土器類を投棄する何らかの特殊事情があるように思われる。

土器の出土量が多かった３区21・28・153・174号住居は、住居の規模が大きいという特徴がある。しかし、それ以上に分布が極めて近接していることがわかる。時期も６世紀後半が２軒、７世紀前半が１軒、同後半が１軒と、順送りとなっている。変遷とは言い切れないが、ある程度の家財を持つ大きな住居が、３区西端部で数時期にわたって分布することは確かであろう。

墨書土器は６点あり、いずれも杯である。判読できた例は少ない。１点は８世紀後半、４点は９世紀後半、１点は10世紀後半の住居から出土した。いずれも３区東半部に位置する。

B　玉類・石製模造品（第260・261表）

古墳時代では、玉類・石製模造品がやや多く出土した。製品では勾玉が遺構外で１点、管玉は２区７号住居で１点、３区126号住居が１点で、126号住居は混入であろう（第260表）。石製模造品は36点出土するが、半数以上の19点は臼玉である。出土した住居は15軒で、３軒は時期からみて混入であろう。臼玉を除けば、住居１軒に２点以上の石製模造品は出土していない。剣形模造品が遺構外出土遺物も含めて８点あるという。当事業団長谷川博幸教示によれば、通例、住居内部から出土する例は少なく、集落規模で祭祀が行われていた可能性を示しており、そこから持ち込まれたものであろう。

全体を通じて、住居などで出土した石製品のうち、資料としてややまとまったものとして礫砥石があった。礫砥石は平滑面が形成されている礫石器を指す（資料の分類、観察は当事業団岩崎泰一による）。詳細は第261表のとおりである。

出土した住居の時期は、４世紀前半から10世紀後半まで住居全体の変遷に見合った割合となっている。中世に含めたものも２例あるが、礫砥石については時期にかかわらず、石材によって荒砥・仕上げ砥が選別された傾向がうかがえる。

総数は15点で、石材ではデイサイトが９点と６割を占める。次いで粗粒輝石安山岩が３点で２割を占めていた。デイサイトは表面のきめが細かく、磨り面に光沢があるものが多い。仕上げ砥に近い。粗粒輝石安山岩や軽石のものは、きめが粗いため荒砥と思われ、刃潰らしの傷がみられる例が多い。この点で、デイサイトであっても、粗粒なものは刃潰らしを持つ例が含まれていた。

C　金属器

住居から特徴的な金属器が出土している。なお、古墳時代の金属器の時期や位置づけについては、当事業団徳江秀夫の教示による。

３区９号住居では埋没土中から第103図26の大刀と思われる破片が出土したが、形態的に再検討の余地がある。住居の時期は７世紀後半であり、大刀とすれば時期が古く合わない。使用されたものであれば、刀身も出土すると考えられるため、混入の可能性が高い。９号住居は埋没土に多量の礫が廃棄されており、それらに混入したものと考えられる。礫を廃棄した事情は不明であり、通例では混入しにくい金属器が含まれることで、更に特殊な要因が推測される。

３区58号住居では耳環２点・銅鈴・鍔（第207図14～17）が、西壁際底面近くでまとまって出土した。住居の比定年代は７世紀後半であり、帰属時期が考慮される。耳環は７世紀前半までで、それ以降は見られなくなるという。銅鈴は稜線に刻み目がない特徴から、６世紀後半以降であり、７世紀まで見られるが、大半は６世紀と言われる。鍔はこれらよりも後代で、７世紀前半以降に形成されるという。以上、一括で出土していながら、製作時期はかなり異なる。遺物自体は貴重品であり、居住者が意図的に集めたものである可能性が高い。

３区140号住居（６世紀後半）では床面で鐙子（たなうち）（第331図14）が出土した。希少遺物であり、県内では古墳から出土した５例を含め６例程度だという。それらの古墳は６世紀後半であり、本住居の時期と一致する。住居そのものに特殊事情はうかがえないが、住居から出土した例としてかなり特殊例と言える。

3　中世

(1)1号屋敷

A　建物との関係

1号屋敷内部では掘立柱建物(以下、建物という)39棟が検出されている。これらは本文中でもふれたとおり、主軸方位の違いにより、1～9類に分類された。ところで、1号屋敷を区画する溝の方位は、東辺(16号溝)N－9°－E、北辺(27号溝)N－90°、西辺(27号溝)N－4°－Eである。建物の1～4、9類は方位の違いが著しく異なる。分類上も4類と5類の間、8類と9類の間で数値の連続性が途切れるため、建物の分類は大きく3つに分けられる。したがって、建物と屋敷区画との関係を整理すれば、5～8類の建物群28棟が1号屋敷に伴うと想定することができる。

建物から出土した遺物においても、5類23号建物から常滑窯系陶器甕が出土し、中世に比定される。建物同士の新旧関係が判明したものは少ないが、9類50号建物より3類49号建物が後出で、3類3号建物より6類4A号建物が後出である。したがって、建物は9類→1～4類→5～8類の順で成立し、最終段階が1号屋敷段階の建物と整理することができる。

B　建物の配置と形態

1号屋敷内部の建物は5～8類に分かれるが、状況は一様ではない。棟数では6類が12棟と他の倍程度で、重複は最大3棟が重複関係にあり、最低でも3時期以上が混在している。5類の場合も全体数7棟に対して、2棟ずつの重複があり、2時期以上の存在が想定される。7類は全体で5棟と少ないが、重複するものがある。したがって、建物分類を時期変遷に読み替えた場合、最低でも8時期以上が存在すると考えられる。

第262表は建物の計測値を総括したものである。各分類の数値を比較すると、偏りがなくほぼ一様な状況である。5類は東西棟が中央部と東端にあり、正方形の4棟は2棟ずつ重複して北・西に並ぶ。南北棟の1棟(正方形に近い)は面積も小さく、北西隅に離れている。東西棟・正方形6棟の面積は、20㎡前後で特に主屋と呼べるものはない。全体に共通するが、1号屋敷の南半部が調査区域外となるため、そちら側に主屋が存在する可能性が高い。

6類は建物数も多いが、比例して重複も多い。しかし、建物壁面が直線的に揃う例が多くあるため、これらを同時期として抽出することが可能である。建物の構成は雑

第262表　建物総括表

	1区画(屋敷)														屋敷外					
棟別	1類	2類	3類	4類	5類	6類	7類	8類	9類	計	比率	2類	3類	4類	10類	計	比率
東西棟			1	1	2	2	2	2		10	25.6%	2	4	1		7	50.0%
南北棟	1		2		1	6	2	2	1	15	38.5%	2			1	3	21.4%
正方形		2	1	1	4	4	1		1	14	35.9%	1		3		4	28.6%
計	1	2	4	2	7	12	5	4	2	39		5	4	4	1	14	
規模	1類	2類	3類	4類	5類	6類	7類	8類	9類	計	比率	2類	3類	4類	10類	計	比率
2×1間			1							1	2.7%						
1×2間	1		1		2	2	2	3		11	29.7%	3	2	3	1	9	69.2%
2×2間		2	1	1	3	5			1	13	35.1%	1		1		2	15.4%
1×3間				1	1	2	2		1	7	18.9%	1				1	7.7%
2×3間					1	1				2	5.4%						
1×4間													1			1	7.7%
2×4間						1	1			2	5.4%						
3×4間			1							1	2.7%						
計	1	2	4	2	7	11	5	3	2	37		5	3	4	1	13	
面積㎡	1類	2類	3類	4類	5類	6類	7類	8類	9類	計	比率	2類	3類	4類	10類	計	比率
～10		1			1			1		3	8.1%	2		1	1	4	30.8%
～20	1	1	3	2	5	7	3	2	1	25	67.6%	3	2	2		7	53.8%
～30			1		1	2	1			5	13.5%		1	1		2	15.4%
～40						2	1		1	4	10.8%						
計	1	2	4	2	7	11	5	3	2	37		5	3	4	1	13	
桁行平均柱間(尺)	1類	2類	3類	4類	5類	6類	7類	8類	9類	計	比率	2類	3類	4類	10類	計	比率
4.2～4.4			1							1	10.0%						
5.6～5.9					1					1	10.0%		2			2	66.7%
6.2～6.4				1						1	10.0%						
6.7～6.9						4	1			5	50.0%	1				1	33.3%
7.1～7.4					1		1			2	20.0%						
7.6～7.9							1			1	10.0%						
～8.4									1	1	10.0%						
計			0	1	1	4	3		1	10		1	2			3	

第598図　3区1号居住建物変遷案

第599図　３区１号屋敷全体図

第263表　３区遺構別出土遺物年代

遺構名		補足説明	11C後半	12C	13C前半	13C中～14C初	14C前半	14C中頃	14C後半	15C前半	15C中頃	15C後半	16C前半	16C中頃	16C後半
1区画(屋敷)	124土					■	■								
	6井戸			■	■										
	9井戸								■	■	■				
	11井戸		■	■	■										
	16・27溝	区画溝		■	■				■	■	■				
2区画	29溝								■	■	■	■	■	■	■
	52溝	東辺・(北辺)							■	■	■	■	■		
周辺	2井戸				■	■	■								
	1溝						■	■	■	■	■				
	14溝	52溝と接続か							■	■					
	56溝					■									

多である。中央で南北に近接して建つ東西棟の11・13号建物は、両者の西壁面が揃い、前者の北壁と西方30号建物の北壁が揃っている。13号建物の面積は33.78㎡とやや大きい。次に南北棟２棟で構成されるのが21・34号建物で、前者の南壁と後者の北壁が揃っている。前者の面積は36.46㎡と大きいが、後者は南側調査区域外に延びて、形態から大規模な建物が想定される。残る７棟はいずれも小規模な建物で、２・３棟がそれぞれ組み合わされる。４Ｂ・10号建物は南壁が一致し、中央部と東端寄りに並ぶ。これに類似して３棟で構成されるのが、４Ａ・５・15号建物で、４Ａ号建物の北壁と５号建物の南壁が揃い、後者の北壁と15号建物の北壁が揃っている。残る26・29号建物は重複し、北壁が一致している。この２棟の場合は、南側調査区域外に主屋を求めないと屋敷としては空白地が多すぎる。以上、４つの群に組み合わせられ、分類内での主軸方位のばらつきも、群内ではそれぞれに是正されている。

７類は５棟で構成され、２棟ずつが重複して最低２時期が存在する。壁面の一致は見られないため、同時期として組み合わせる方式は採れない。重複関係を加味すれば、東西棟のやや大きい17号建物が中央やや東寄りに位置し、これに東西棟の25号建物がほぼ一致する。一方、南北棟の28号建物は面積34.27㎡とやや大きいが西に位置する。これに中央部に位置する小規模な20・22号建物を組み合わせると齟齬はない。

８類は重複なく、屋敷内に広く分散する。中央部に位置するものは40号建物１棟で、ほか３棟は北・西に偏在する。いずれも附属屋の規模であり、南側調査区域外に主屋を求める必要がある。

以上を総括すると、建物は中央部に集中する傾向があった。30㎡を超える建物３棟に着目すると、東西棟は６類の13号建物１棟のみで、中央に位置する。残る２棟はともに南北棟で、６類の21号建物は中央やや東寄り、７類の28号建物は西端に位置する。屋敷の中心建物は南側調査区域外に想定されるが、中央に位置する６類の２棟は中心建物群の一角を占めるものと想像する。

桁行平均柱間は、桁行３間を越える建物が少なく、計測できる例は少なかった。６類については全て6.7～6.9尺に納まる。５類・７類も７尺を若干越える程度が多く、全体としては７尺前後が柱間基準ではなかったかと考える。

Ｃ　建物の変遷

１号屋敷は16・27号溝によって区画される。南東角は隣接する下斎田遺跡群で検出され、南北長約55mであることが判明した。このため、屋敷はほぼ⅓形で、１辺約50m規模となった。16・27号溝の出土遺物は、第263表のとおり、少量ながら14世紀後半から15世紀中頃までの年代幅が認められる。概ねこれを屋敷の第１段階として捉えることができる。９号井戸で出土した遺物年代の幅もこれと一致する。

ところで、１号屋敷の西方には２号区画があり、その東辺である29号溝は北端で東に折れて52号溝となる。出土遺物は14世紀後半から16世紀中頃までの年代幅がある。１号屋敷よりも年代の下限が下がり、遺構の状況としても時期差が想定される。ところで、１号屋敷内部には重複して18号溝があり、非掲載とした国産焼締陶器の出土から中世に比定される。形態的にも29・52号溝に近いことから、これを区画の東辺とすると、２号区画の東に並存する別の区画が想定できる。位置的には１号屋敷とほぼ一致することから、その系譜にあるものと考えられる。これを１号屋敷の形態変化と評価し、その第２段階と捉え直すこととする。つまり、１号屋敷は単独の区画屋敷として存在した段階から、西側に２号区画を併設する段階へと変遷したこととなる。以下、この変遷と建物の関係を考える。

18号溝と建物の関係をみると、５類の14号建物が重複する。建物７棟も屋敷内全体に広がり、52号建物は北縁に近い。分布も一致しており、５類の建物群は屋敷の第１段階に位置づけられよう。また、６類の４Ａ・４Ｂ号建物は18号溝と整合性があるが、同じく16号溝とも齟齬がない。６類は屋敷の第１・２段階どちらとも決めがたい。残る７・８類も建物が全体として屋敷の西側に寄る傾向はうかがえるが、これを根拠に第２段階と判断するには無理がある。しかし、８類の27・35号建物は第１段階の西辺である27号溝の走向と食い違いがあるため、あえて第２段階の建物群をもとめれば、８類が該当する可能性が高い。もちろん、６・７類が第２段階でない確証もない。

（２）２号区画遺構

Ａ　区画の特徴と内部

本区画は29 ～ 31号溝によって四方を囲まれ、規模は溝の内側で東西長約18m、南北長約15.5mを図る。南辺には２か所途切れる部分がある。30号溝の西側は幅約2.5m、東側は幅約３mあり、いずれも形態から出入り口と考えられる。

区画する溝は概ね人為的に埋められるが、埋まり方がやや異なっている。区画の北側を囲む29・31号溝は、埋没土中位から多量の円礫によって埋められる。おそらく中位まで自然埋没した後、石捨て場として利用されたと考えられる。一方、区画の西辺となる31号溝南半部は中位まで自然埋没した後、粘土により埋められる。整地された可能性が高い。

内部の遺構は少ない。重複する28・50号溝はいずれも古墳時代の所産であり、走向方位が一致する26号溝も区画溝より前出であろう。ピットは少なく、南端で集中するものは、ほとんどが掘立柱建物として復元できた。しかし、建物は区画溝と重複し、主軸方位も著しく異なる。主軸方位による分類では２～４･10類となり、１号屋敷の検討成果により、10類は時期不明だが他は区画遺構より前出と考えられる。区画の東端中央部にもピットの集中が見られる。掘立柱建物として復元できないが、ピットの走向は、南側の掘立柱建物に近い。したがって、時期は建物段階に一致すると推測する。

内部の遺構として注目されるのが、76・79号土坑である。ともに土坑墓であり、後者は副葬された古銭から中世に比定される。76号土坑は南端に位置し、東側開口部のすぐ西脇に位置する。79号土坑は南西端部に位置する。溝際にある点で共通する。

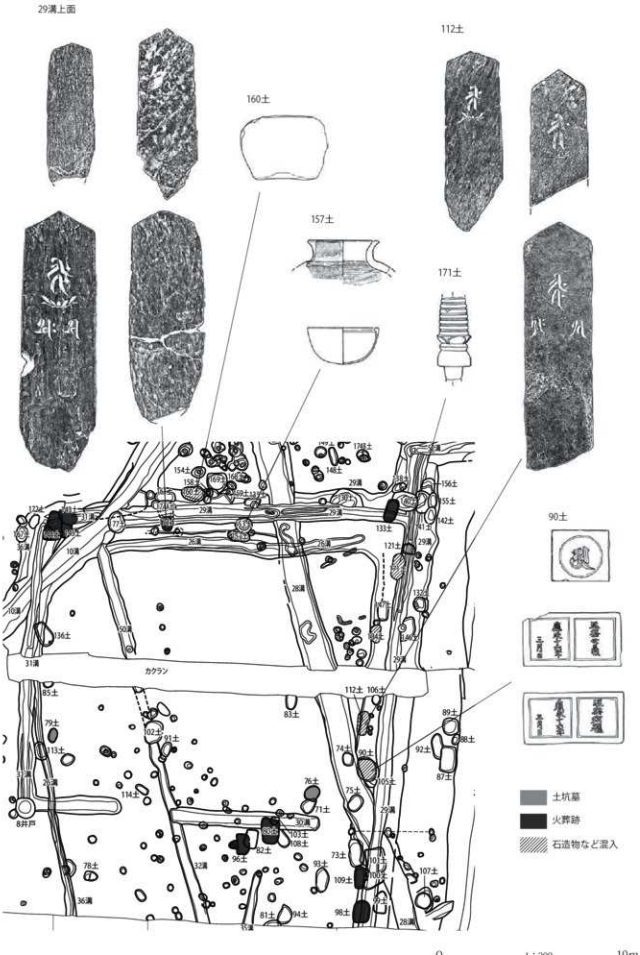
以上をまとめると、区画内部では端部の土坑墓２基を除くと、はっきりした遺構はない。重複する28・50号溝の外形に乱れはないため、区画全体に対する大きな削平は想像し難い。中央部は無遺構空間に近い。土坑墓が中央部を避けたとすれば、中央部になんらかの施設があったと考えられる。建物であった場合は、礎石建ての可能性がある。盛り土による土壇が築かれていた場合は、掘立柱建物も想定できる。ただし、調査所見で盛り土は確認できていない。

B　重複する土坑群

本区画と重複する土坑で、区画溝との新旧関係が明らかな場合は、すべて後出である。おそらく土坑群は溝が埋もれてから作られたと考える。土坑群は性格によって分類できる。土坑墓は前述のとおり、内部にだけ２基が存在する。火葬跡は可能性も含めて９基が検出された。溝と重複する８基のうち新旧関係が不明な１例を除き、すべて後出である。形態は張り出しを持つものも含めて長方形であり、南北に長軸を持つ。軸方位は風向きに関係していよう。火葬跡が、すでに埋没した溝とほぼ重複するのは、溝が完全に埋没しておらず、凹みとして残っていたためと考えられる。火葬跡は燃焼部を掘り込んで作るため、省力化したものと想像する。このため、人為的に粘土で埋められた西辺に火葬跡はなく、他の土坑も少ない。

土坑のなかで特筆されるものに、石造物などが混入する土坑６基がある。すべて区画溝の法面上部に重複しており、はっきりと重複する火葬跡とは異なる。このため、新旧関係も不明となった。区画に対しては５基が内側で、１基だけは北辺の外側にある。内部から出土した石造物にも違いがある。90号土坑は浅い円形の土坑で、宝筐印塔の基礎部が２基、塔身が１基ある。出土状態は塔身部が下になっており、逆位である。土坑内に投棄されたと思われる。基礎部には紀年名と造立者名がある。応永16年(1409) ３月と同じ年月日であり、近親者による造立とみられる。北側に近接する112号土坑では完形に近い板碑３枚が出土する。長方形の土坑の底面に並んで敷き込まれており、土坑の底面を補強する資材として転用されている。土坑の用途は不明である。板碑については同様に、火葬跡である73号土坑の上位に重なって、ほぼ完形の板碑４枚が出土している。板碑４枚は並んだ状態であるため、29号溝の覆土上が脆弱なため通行用に敷き込んだものと考える。その他、160号土坑では五輪塔の水輪、171号土坑では宝筐印塔の相輪が出土し、134号土坑では多量な礫が出土するが石造物は確認できていない。一方、157号土坑では礫に混じって在地系土器壺と銅鈴が出土する。後者は仏具である引磬（いんきん）の可能性があり、前者は骨蔵器として使用される例が多い。土坑は浅く、壺の体部や入骨も出土していないため、火葬墓とは考えられない。90号土坑と同様に廃棄されたと見なされよう。

以上の土坑は、ほぼ完形の石造物が出土する点で共通しており、周辺から運び込まれた可能性が高い。板碑は石材として再利用されているため、遠隔地から搬入され



第600図　２号区画遺構と土坑、出土遺物

た可能性も否定できないが、90号土坑は宝筐印塔が投棄されており、近隣から廃棄された可能性が高い。全体として石塔類が濃密に出土する状況は、周辺に造立地があったことを示唆していよう。区画の内外に土坑墓や火葬跡が集中することから、墓地の存在も考慮される。しかし、火葬跡の数量に対して、骨蔵器となる出土遺物は少ない。石塔類は墓標ではなく、本来供養塔である。墓の有無にかかわらず、区画の中央部に造立されていたとみることができる。この場合、多少の土壇があった可能性もある。つまり、区画は供養塔が造立された宗教施設であり、やがてそれを拠り所として土坑墓が作られ、周辺で火葬が行われるようになったのではないだろうか。区画溝の年代観が、１号屋敷の第２段階と一致するため、宗教施設は１号屋敷の西に作られた関連施設となる。一方で、近世墓となるものが見られないことから、葬送や墓域としても短命であったと推測される。したがって、葬送関連施設としても１号屋敷と深い関係にあることは確実であろう。

（３）その他の区画

２号区画遺構の西側にＬ字形の７号溝があり、南側を区画している。西辺は形態的にことなるが１号溝があり、14世紀前半から15世紀前半の遺物が出土する。１号屋敷や２号区画遺構と重なる時期がある。内部に位置する２号井戸は年代が古すぎる。復元された掘立柱建物は、主軸方位の分類では２・４類であり、やはり区画の方位と異なる。ただし、ピットはそれ以外にもやや集中が見られるため、同時期のピットが存在することも考えられよう。いずれにしろ、この区画遺構の性格は不明である。

区画遺構での確証はないが、３区の西端で検出された58号溝は規模や形態から区画溝と思われる。出土遺物はなく、時期は不明ながら、As－B降下以降の所産である。他の区画遺構と走向方位が異なり、関連づけは難しいが、隣接して別の区画遺構がある可能性を示していよう。

（４）出土遺物

中世土器の出土は、遺構量に比してかなり少ない。加えて、器形のわかるものも少ないため、第601図に在地系土器の代表例を示すに止める。

皿は２号井戸出土のものが、底径が大きく厚みがあり、器高は低い。13世紀頃かと比定される。14号溝出土のものも小型品で、体部は直線的である。14世紀後半から15世紀前半に比定される。表土出土のものは体部下位は外反気味に開き、口縁部は内湾している。年代は比定できない。

鍋は16・52号溝で出土する例が多く、器厚の厚いものが多かった。口縁部は短い。52号溝のものは口縁内側端部が稜をなして突き出している。いずれも14世紀後半から15世紀中頃に比定される。29号溝のものは器厚が薄いもので、小破片である。口縁部外面は外反気味に横へやや突き出す。15世紀後半から16世紀中頃に比定される。

石造物の出土量は多く、特に完形に近いものが多い。宝筐印塔は90号土坑から２個体分が出土する。笠部は出土していないが、表土から出土したもの（第593図139）は痕跡から同一個体である可能性が高い。この宝筐印塔２基は紀年名が同一で逆修であり、近親者によって造立された可能性が高い。下滝町の慈眼寺境内には生前に供養を行う逆修による宝筐印塔が６基あり、うち２基は永享４年(1432)８月の紀年名がある。本遺跡と同類である。下滝町は逆修による造立が多い地域と言われる（当事業団新倉明彦教示による）。

4　近世以降

近世以降の遺構と遺物は少ない。15T－１・２グリッドにまたがって、３区１号畠が検出された。As-A降下にかかわる遺構で、軽石除去後の調査状況からみて、復旧痕の可能性が高い。近郊の上滝五反畑遺跡（第12図）では同種の遺構が大規模に検出されている。しかし、東隣する下斎田重上薬師遺跡では見つかっていない。本遺跡周辺では広範囲でなく、必要箇所に限定的に行われていたものと推測されよう。

第601図　在地系土器の参考例

第２節　考察

１　綿貫原北・綿貫牛道・綿貫伊勢遺跡、下滝高井前遺跡からみた中世屋敷

はじめに

標記の遺跡４か所は、すべて国道354号建設に関連して発掘調査・整理したものであり、綿貫に所在する３遺跡は既刊である。これら４か所の遺跡は隣接し、一連の遺跡と位置づけることができる。本報告書は最終の刊行にあたることもあり、ここで総括的な検討を行うこととする。なお、屋敷名称は煩雑となるため、下滝高井前遺跡３区１号屋敷、同２号区画をそれぞれ高井前屋敷、高井前２号区画と呼ぶ。綿貫原北遺跡は区ごとに屋敷があるため、原北○区○号屋敷と省略する。綿貫牛道１区１号屋敷、綿貫伊勢遺跡２区1号屋敷も、それぞれ牛道屋敷、伊勢屋敷と呼称する。遺跡名も小字名のみで呼ぶこととする。なお、出土遺物については原北以外出土量が少なかった。このため、遺物の検討は各報告書に止める。

（１）現状と課題

1990年代、いわゆる方形館の研究が活発化した。その代表が橋口定志氏の研究であり、東国を中心に行われている。現在における到達点と言える。以下、橋口氏の分類を示す（橋口2005）。

方形館以前　４タイプ

宮久保タイプの屋敷：卓越した主屋を中心に持つ。開放的で「堀＋土塁」という形の物理的な遮断施設を持たない。12世紀後半に出現する。生垣・柵・塀・境堀（溝）で囲繞するタイプで、12世紀後半から14世紀初頭ないし前半まで継続する一群。「堀」で囲繞するタイプで13世紀後半に出現し14世紀末ないし15世紀前半まで継続する一群に細分できる。

宇津木台タイプの屋敷：居住空間・生産空間・墓域などを境堀で囲む自己完結的な生活単位。類例少ない。小谷を包み込む丘陵尾根上に堀をめぐらし、小谷出口正面の河川までを取り込む。12世紀後半に形成される。

館町タイプの屋敷：台地上および河川に接する沖積部を一体として区画。防御施設ではない。類例少ない。12世紀後半に形成される。

阿保境館タイプの居館：「二重方形区画」を持つ。内側に外側の方形区画と相似形に四角く生垣・浅い溝がめぐる。土塁を伴わない。13世紀後半出現。

方形館：土塁・堀を持つ。15世紀後半に出現する。

平城タイプ：主郭部分が基本的に方形プランを呈しつつも、その周囲に複数の郭（ないし郭状空間）が配置される。平地城館の祖型の可能性。

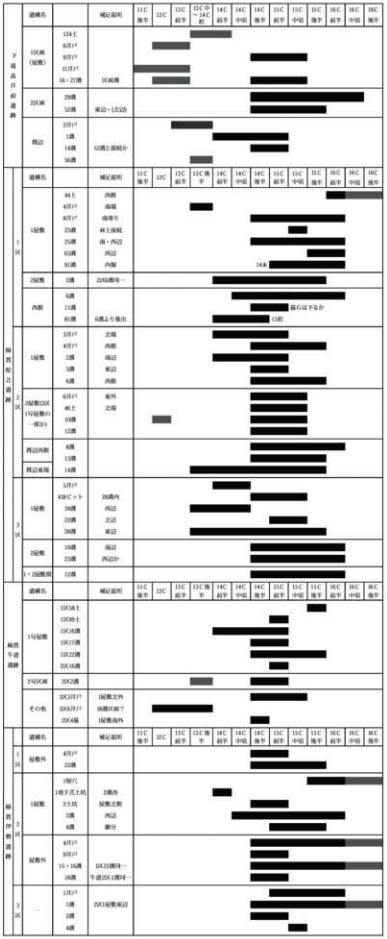
分類において、橋口氏は高崎市内の遺跡も、代表例として挙げている。方形館として天田館・村北館、平城タイプとして寺の内館・村西館・矢島館を示している。いずれも方形館出現以降である点で共通する。つまり、方形館では指標となる豊富さを持っていることが判明する。一方、方形館以前で指標となる事例はなく、不明な部分が残されていることを示している。こうした到達点に照らして、本屋敷群をどう評価するかが、当面の課題となると考える。

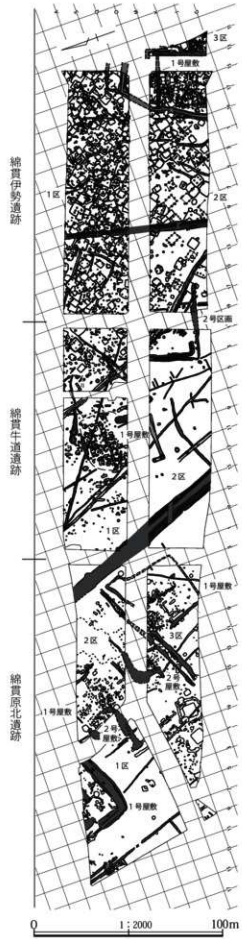
（２）存廃時期

標記４遺跡全体で屋敷は８か所見つかった。各内容は第264表のとおり整理される。明確な遺構の年代を求めることは困難であり、内部の遺構で出土した遺物を加味しながら、全体として区画溝から出土した遺物の年代幅を基準として判断した。

出現時期には２つの波が見られる。第１波は14世紀前半で、原北２区１号・３区１号屋敷、牛道屋敷が現れる。同中頃には伊勢屋敷が続く。第２波は14世紀後半で、高井前屋敷、原北１区１・２号、３区２号屋敷が出現する。まとめると、隣接する原北東側と牛道で、14世紀前半に屋敷が出現し、半世紀遅れて下滝や伊勢でも屋敷が現れたこととなる。原北は複雑で、14世紀後半に屋敷の再編成がうかがえる（後述）。

廃絶時期には３つの波が見られる。第１波は15世紀前半で、原北２区１号屋敷がある。この場合、重なって原北１区２号屋敷が存在しており、おそらく共存していたのではなく、作り替えられたと推測されよう。第２波は15世紀中頃から後半で、原北１区２号、３区１・２号屋敷、牛道屋敷が消滅する。第３波は16世紀前半から中頃で、高井前屋敷、原北１区１号屋敷、伊勢屋敷が廃絶する。牛道を除けば、各遺跡とも屋敷１か所は第３波まで





第602図　中世屋敷出土遺物年代および配置図

第264表　中世屋敷一覧(国道354号高崎工区)

遺跡名	屋敷・区画名	規模(堀外)	南北主軸方位 区画溝幅×深さcm	時期(遺物年代幅) 14C	15C	16C	建物数 建物分類	時期 変遷	特徴
下滝高井前遺跡	１号屋敷	南北55×東西49.5(２段階：南北一×東西46.5)	N－0° 252～404×97/２段階68～168×58				28 4	８以上	区画溝が２段階に分かれ、区画が全体に５～７ｍ西へずれる。
	２号区画	南北15.5×東西18	N－0～3°－E 68～112×61				－ －	－	内部土坑墓２／廃絶後火葬跡９基・石塔類廃棄土坑４
綿貫原北遺跡	１区１号屋敷	南北26以上×東西35以上	N－20°－W 368～576×108				一重堀、食い違い虎口・木橋 ピット82	－	
	１区２号屋敷	南北－×東西28	N－14°－W 248～544×49				ピット15 －	－	２区１号屋敷を壊すか
	２区１号屋敷	南北34.5×東西26以上	N－29°－W 120～138×19				21 5	11以上	
	２区２号・３区１号屋敷	南北23.5×東西23.5以上	N－23°－W 71～201×21				10 4	10	建物敷は北端に偏在
	３区２号屋敷	南北11以上×東西８	N－10°－W 110～345×26				3 2	3	南溝に門あり
綿貫牛道遺跡	１区１号屋敷	南北39.5×東西28.5	N－0° 136～256×112				24 2	10	建物は北半に集中か
	２号区画	南北26.5以上×東西40か	N－16°－E 160～248×70				－ －	－	火葬跡内側に２基、外側に５基
綿貫伊勢遺跡	２区１号屋敷	南北56以上×東西36	N－19°－E 195～331×89				24 5	9	複郭構造

存続し、ほぼ同じ時期に消滅したこととなる。

複数の屋敷が集中する原北では、屋敷の再編成をうかがうことができる。その手がかりは、屋敷の主軸方位に現れる。出現期の原北２区１号、３区１号屋敷の方位は、真北に対して29度および23度東に傾き、ほぼ数値が近い。次いで出現する原北１区２号、３区２号屋敷は真北に対して14度および10度傾いている。このうち、原北１区２号屋敷は、２区１号屋敷と重複し、前後関係が想定される。つまり、主軸方位の違いからもほぼ確認できたこととなる。したがって、この関係は３区における１・２号屋敷の関係にも当てはまる可能性が高い。また、同じく第２波で出現した原北１区１号屋敷は、主軸方位が他の屋敷例と異なり、規模も大きい。主軸方位の違いは出現期の違いを表している可能性が高い。

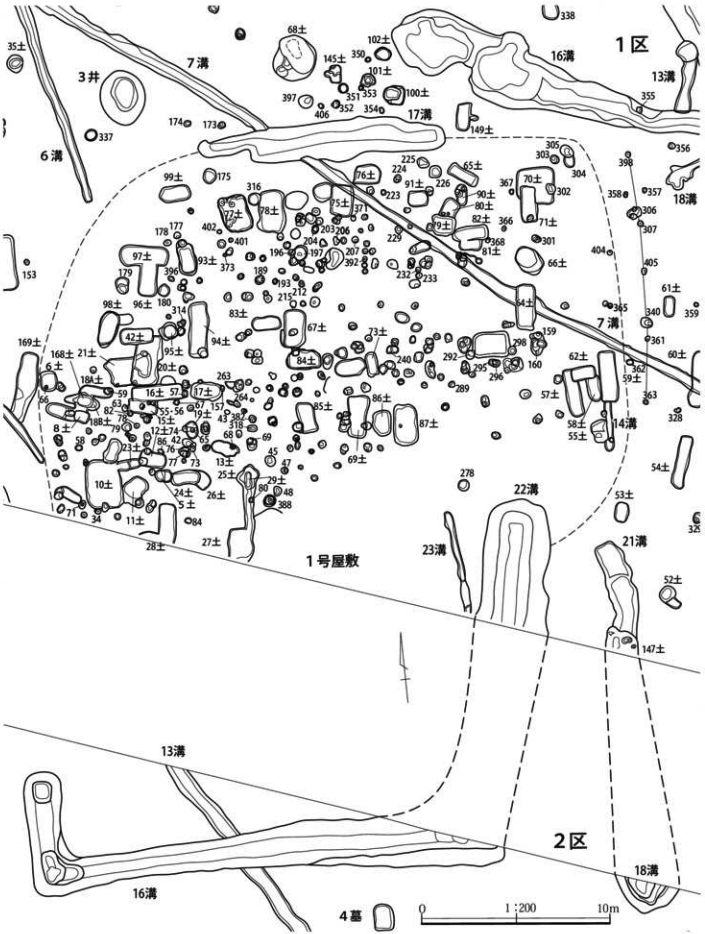
(３)外形上の問題

中世屋敷の特徴として、堀・溝によって周辺を囲繞することがある。むしろ、区画溝がない場合、屋敷と見なすことが難しくなる。各屋敷の形態には幾つかの違いがあり、区画する溝の形状や配置によって現れる。

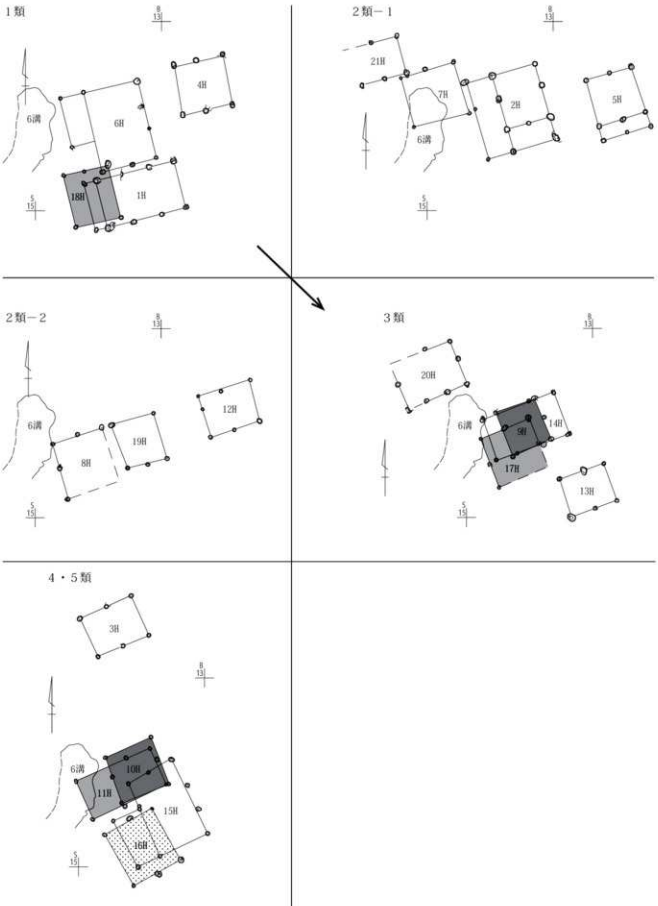
本屋敷群では、溝によって完全に囲繞する閉鎖形の例と、全体を囲まない開放形の例が混在している。その時期を見ると、開放形は早い段階に出現した屋敷であり、原北１区２号・２区１号・３区１・２号屋敷と、牛道屋敷が該当する。ただし、原北２・３区屋敷は区画溝が浅く、屋敷を閉鎖する堀割と評価できないからである。

牛道屋敷は中途半端な開放形である。南半部を「コ」の字形にややしっかりした溝で囲み、北辺は浅く断面皿状の溝で区画する。北半部の東西両辺は、溝によって仕切られていない。しかも、建物は北半部に集中しており、関連が想定される。溝によって仕切られていないことは確認できるが、果たして完全に開放されていると言えるだろうか。おそらく、柵や塀、生垣などで囲っていた可能は高いだろう。報告段階では認識できなかったが、牛道屋敷の東辺北側には第603図のとおり、北から398・306・307・405・340・361・363号ピットが直線的に並んでいる。塀などを設けた柱穴列と考えられる。西辺でも幾つかのピットを結びつけることは可能であろう。生垣でも構わない。このことから、屋敷全体として区画意識を持っていることがわかる。しかし、いわゆる方形館や城と比較した場合、防御的な側面は薄いと言わなければならないだろう。無遺構空間の方が、かえってはっきりした溝によって、仕切られていることも注目されよう。

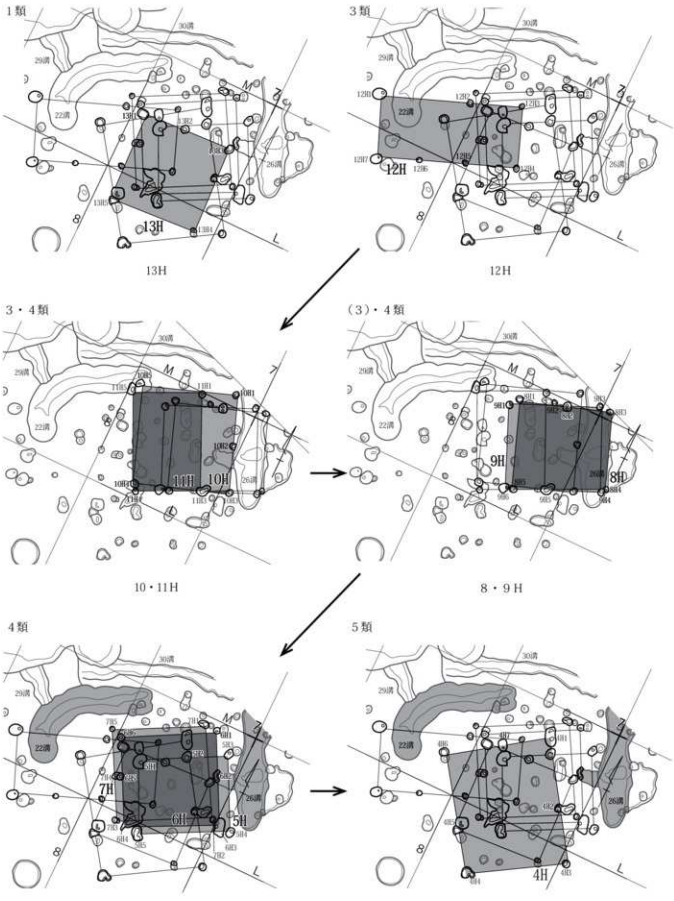
完全に囲繞されている閉鎖形の屋敷は、比較的後発の例で、廃絶期も後代となる傾向がある。高井前屋敷、原北１区１号屋敷、伊勢屋敷の３か所が該当する。屋敷の規模もすべて一辺50ｍを越えると推測される。土塁の存在は確認できないため、いわゆる方形館の範疇に入れることはできない。この地域では、おそらく14世紀後半頃に閉鎖形の屋敷が出現する画期があると言えよう。



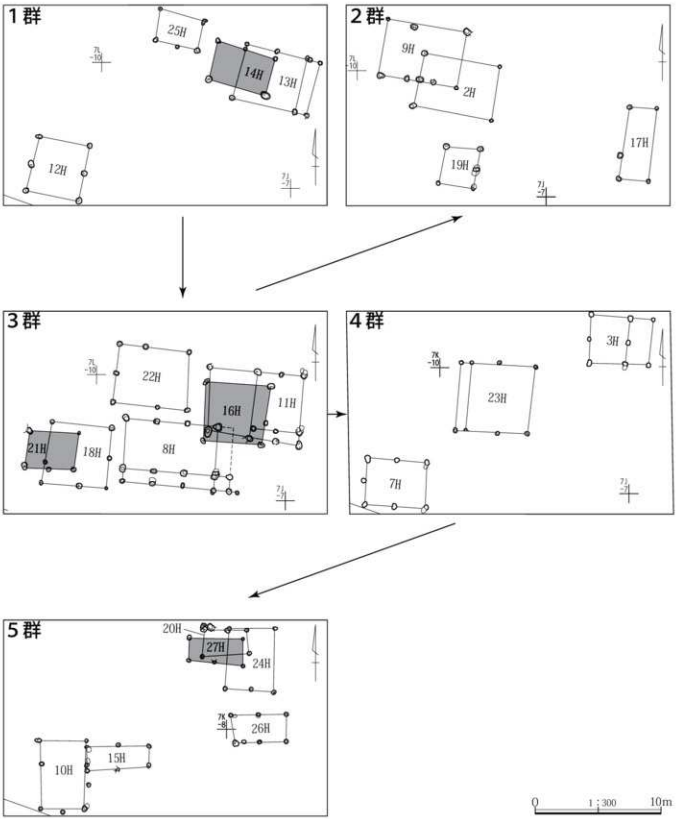
第603図　綿貫牛道遺跡1区1号屋敷



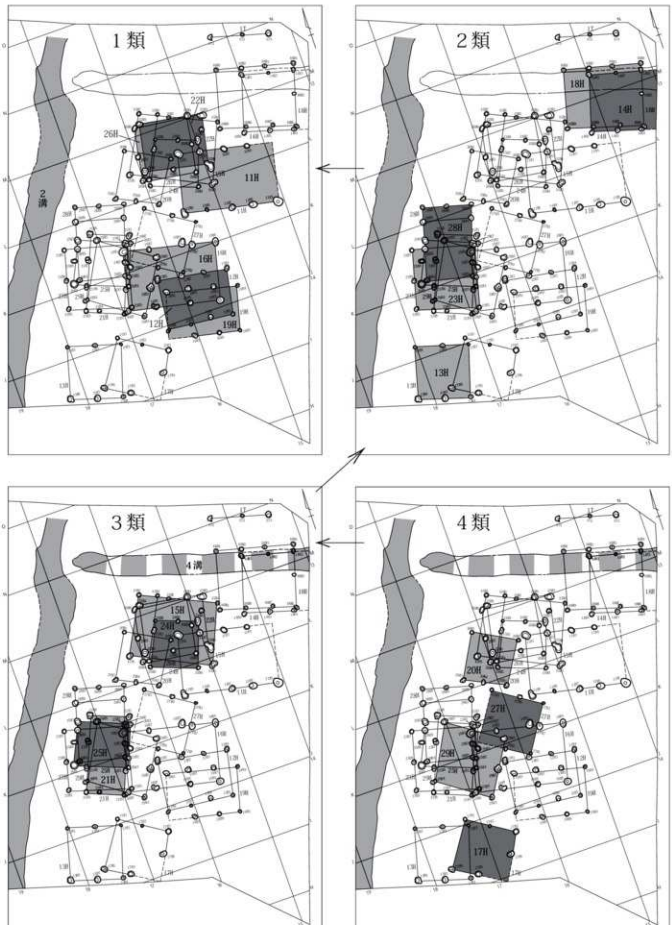
第604図　綿貫原北遺跡２区１号屋敷内建物分類別分布図



第605図　綿貫原北遺跡３区１号屋敷建物変遷案



第606図　綿貫牛道遺跡1区2類建物変遷案



第607図　綿貫伊勢遺跡２区１号屋敷建物の分類と変遷案

それぞれの屋敷では、形態的な違いが見られる。高井前屋敷の場合、区画形態が２段階に変遷する。区画の規模は第２段階で若干小さくなる程度だが、溝の規模が細く浅くなり、半分以下になる。防御的な機能は著しく低下してしまっている。これには、屋敷自体の性格的な変化を想定する必要があろう。

原北１区１号屋敷の場合、二重堀の形態をなし、西辺は溝を東西にずらすことで食い違いの出入り口を設けている。南辺には木橋が出入り口に設けられ、正面に位置づけられよう。溝の幅も５ｍを越える。

伊勢屋敷は複郭構造で、３つ以上の区画に分かれる。最も北側の区画は小さく、ピットも少ない。建物敷地ではない可能性が高い。

以上の３例は、いずれも偶発的な形態ではなく、何らかの事情により形成されたとみられる。また、廃絶が一様に16世紀前半から中頃である点も、特殊事情があるように思われる。あるいは居住者の地位的な没落も考えられよう。

（４）内部建物の配置

各屋敷の外部形態に違いがあり、規模も偏差が確認できている。内部の建物にも、影響が認められる。建物は主軸方位の違いにより分類でき、それを基に幾つかの変遷案を示した。小規模な屋敷である原北３区２号屋敷を除くと、建物が認定できた屋敷では８時期以上の建物変遷が想定できた。

建物の配置には違いがあり、原北３区１号屋敷では同じ範囲に建て替えられ続けられたため、10棟すべてが重複していた。しかも、前半期は建物群が溝で囲まれておらず、遺構の少ない南側だけが溝で区画されていた可能性が高い。これは、牛道屋敷と同じ開放形に近い。もっとも、溝自体小規模であり、同列の区画溝とは見なされない。原北で時期及び規模がほぼ近い２区１号屋敷では、建物の配置が若干広がる。建物の規模もやや大きいものが含まれる。しかし、３・４・５期では、限られた範囲に小規模な建物が繰り返し建てられている。この時期は、３区１号屋敷とほぼ同じ状況であったと言える。

これらの屋敷２か所に時期・規模ともに近いのが、牛道屋敷となる。建物群が北半部に偏る点でも共通点がある。ただし、中央部に主屋を設け、南西部に小規模な建物を配置する計画性もみられる。しかし、建物が南半部に達することはなかったと言える。

残る屋敷２か所はいずれも閉鎖形の屋敷であるが、南半部が調査区域外となり、全容を知ることができない。高井前屋敷の場合、第１段階の建物群となる５類建物では、小規模で正方形の建物が多いが、調査された屋敷内を広く使用する状況が見られた。その後は第２段階との関係もあるが、配置の広がりはなくなるものの、中央部に大きめの建物が配置される状況がみられる。屋敷内の建物に機能分化が存在する可能性を示唆している。また、北東部に建物が建てられない傾向が認められた。

伊勢屋敷では当初の４類段階で同規模の建物が西側に偏在していたが、３類段階で大型の建物が出現する。次いで内部を区画していた４号溝が埋められ、より広い屋敷内に建物が配置される。主屋の位置は段階ごとに移動し、定まらない傾向がある。この点は高井前屋敷や牛道屋敷とも異なっている。また、同時期に建物は２～３棟であり、やや空き空間が多かった。

（５）建物の特徴

本屋敷群の中で最大の建物は、第266表では牛道屋敷11号建物の40.65㎡であるが、実際は遺構認定に問題があり、北東角柱を加えれば、８号建物の方が大きくなる。いずれにしろ、牛道屋敷が大きいことに変わりはない。他の屋敷群でも40㎡に近いものはあり、屋敷群全体として、建物の規模はあまり大きくない。桁行が４間を超えるものは全体で３棟しかない。原北１区１号屋敷を除き、最も大きい高井前屋敷でも一辺50m規模であり、建物の規模はそれに一致した状況と言える。

建物の形態では、東西棟が主屋となることが通例であり、牛道屋敷は東西棟が半数を超えて、屋敷の一般的な状況と言える。一方、高井前遺跡、原北２区１号・３区１号屋敷、伊勢屋敷は、正方形の占める割合が高い。屋敷全体が調査できていない影響もあるだろうが、建物が小さい点と一致する状況である。

基準となる柱間を桁行平均柱間から考えると、７尺前後と６尺前後に傾向が分かれている。７尺前後では高井前屋敷と原北２区１号屋敷が全時期で一貫している。６尺前後では牛道屋敷と原北１・２号屋敷がある。また、伊勢屋敷の場合、７尺弱であった段階から最終で６尺強

第265表　中世屋敷内建物総括表(国道354号高崎工区)

下滝高井前3区1号屋敷

棟別	5類	6類	7類	8類	計	比率
東西棟	2	2	2	2	8	28.6%
南北棟	1	6	2	2	11	39.3%
正方形	4	4	1	9	32.1%	
計	7	12	5	4	28	

規模	5類	6類	7類	8類	計	比率
2×1間						
1×2間	2	2	2	3	9	34.6%
2×2間	3	5			8	30.8%
1×3間	1	2	2		5	19.2%
2×3間	1	1			2	7.7%
2×4間		1	1		2	7.7%
計	7	11	5	3	26	

面積㎡	5類	6類	7類	8類	計	比率
～10	1				1	3.8%
～20	5	7	3	2	17	65.4%
～30	1	2	1		4	15.4%
～40		2	1		3	11.5%
計	7	11	5	3	26	

桁行平均柱間(尺)	5類	6類	7類	8類	計	比率
5.6～5.9	1				1	12.5%
6.2～6.4						
6.7～6.9		4	1		5	62.5%
7.1～7.4	1		1		2	25.0%
7.6～7.9			1		1	12.5%
計	1	4	3		8	

綾貫牛道1号屋敷

棟別	2類 1群	2類 3群	2類 4群	2類 5群	3類	計	比率
東西棟	2	5	2	1	4	14	56.0%
南北棟	2		2	2	2	2	10	40.0%
正方形		1					1	4.0%
計	4	6	4	3	6	2	25	

規模	2類 1群	2類 3群	2類 4群	2類 5群	3類	計	比率
2×1間	1	1	1	1	1	5	20.8%
2×2間					1	1	4.2%
1×2間	3	2	1	1	4	11	45.8%
1×3間		2	2			5	20.8%
2×3間					1	2	8.3%
計	4	6	4	3	6	1	24

面積㎡	1群	3群	2群	4群	5群	3類	計	比率
～10	1		1		4		6	25.0%
～20	2	1	1	2	2	1	9	37.5%
～30	1	3	2	1			7	29.2%
～40		1					1	4.2%
～50		1					1	4.2%
計	4	6	4	3	6	1	24	

桁行平均柱間(尺)	1群	3群	2群	4群	5群	3類	計	比率
(～)5.8						1	1	14.3%
6.0～6.3		2	1		1		4	57.1%
(～)6.8			1				1	14.3%
～7.3								
～7.8								
8.1～(8.3)		1					1	14.3%
計		3	2		1	1	7	

綾貫伊勢

棟別	2区 4-1類	2区 4-2類	2区 3類	2区 2類	2区 1類	2区 計	2区 比率	3区 5類	3区 2類	3区 計	3区 比率
東西棟			1	2	5	8	42.1%	3		3	33.3%
南北棟			1		1	2	10.5%		1	1	11.1%
正方形	2	2	2	2	1	9	47.4%	3	2	5	55.6%
計	2	2	4	5	6	19		6	3	9	

規模	2区 4-1類	2区 4-2類	2区 3類	2区 2類	2区 1類	2区 計	2区 比率	3区 5類	3区 2類	3区 計	3区 比率
2×1間	1		2		1	4	21.1%				
1×2間	1		1	3	1	6	31.6%	1	1	2	50.0%
2×2間		2		1		3	15.8%				
1×3間			1	1	3	5	26.3%	1		1	25.0%
1×4間					1	1	5.3%		1	1	25.0%
計	2	2	4	5	6	19		2	2	4	

面積㎡	2区 4-1類	2区 4-2類	2区 3類	2区 2類	2区 1類	2区 計	2区 比率	3区 5類	3区 2類	3区 計	3区 比率
～10								1	1	2	40.0%
～20	1	2	3	2	3	11	57.9%		1	1	20.0%
～30	1			3	1	5	26.3%	2		2	40.0%
～40			1		2	3	15.8%				
計	2	2	4	5	6	19		3	2	5	

桁行平均柱間(尺)	2区 4-1類	2区 4-2類	2区 3類	2区 2類	2区 1類	2区 計	2区 比率	3区 5類	3区 2類	3区 計	3区 比率
6.0～6.3					3	3	50.0%	1	1	2	66.7%
6.7～6.8			1	1		2	33.3%				
～7.3								1		1	33.3%
～7.8											
8.1～(8.3)					1	1	16.7%				
計			1	1	4	6		2	1	3	

綾貫原北3区

棟別	1類	2類	3類	4類	5類	計	比率
東西棟	1	1	3	2		7	33.3%
南北棟	2	3		1	1	7	33.3%
正方形	1	3	2	1		7	33.3%
計	4	7	5	4	1	21	

規模	1類	2類	3類	4類	5類	計	比率
2×1間	2	2			1	5	26.3%
1×2間		2	2	1		5	26.3%
2×2間		1	1	1		3	15.8%
1×3間	1	1	1	2		5	26.3%
2×3間	1					1	5.3%
計	4	6	4	4	1	19	

面積㎡	1類	2類	3類	4類	5類	計	比率
～10							
～20	2	5	3	2	1	13	68.4%
～30	1		1	1		3	15.8%
～40	1	1		1		3	15.8%
計	4	6	4	4	1	19	

桁行平均柱間(尺)	1類	2類	3類	4類	5類	計	比率
5.6～5.7			1			1	14.3%
～6.2							
(～)6.7			1			1	14.3%
7.1～7.2	2	1		2		5	71.4%
計	2	1	2	2		7	

綾貫原北3区

1号屋敷

棟別	1類	3類	4類	5類	計	比率	2類	4類	計	比率
東西棟		1	2		3	30.0%				
南北棟			1	1	2	20.0%	2		2	66.7%
正方形	1	2	2		5	50.0%		1	1	33.3%
計	1	3	5	1	10		2	1	3	

規模	1類	3類	4類	5類	計	比率	2類	4類	計	比率
1×1間								1	1	25.0%
2×1間								1	1	25.0%
1×2間	1	1	5		7	70.0%	1		1	25.0%
2×2間		1		1	2	20.0%				
1×3間					1	10.0%	1		1	25.0%
計	1	3	5	1	10		2	2	4	

面積㎡	1類	3類	4類	5類	計	比率	2類	4類	計	比率
～10								1	1	25.0%
～20	1	3	5		9	90.0%	2	1	3	75.0%
～30				1	1	10.0%				
計	1	3	5	1	10		2	2	4	

桁行平均柱間(尺)	1類	3類	4類	5類	計	2類
6.0～6.2		1			1	1

第266表　中世屋敷内建物計測値一覧(国道354号高崎工区)

	分類名	建物No	主軸方位	面積㎡	桁行平均	桁行平均柱間	寸尺	梁間平均	寸尺	規模(梁間×桁行)	埋没状況	分類内での重複
原北2区	1	1	N−76°−E	28.08	6.44	2.147	7.1	3.835	12.7	1×3間・東西棟+西下屋	柱痕	18
		4	N−77〜78°−E	15.54	3.905			4.055	13.4	2×1間・正方形	埋戻	
		6	N−13〜14°−W	36.3	6.425	2.142	7.1	4.45	14.7	2×3間・南北棟+西張出	柱痕	18
		18	N−78°−E	15.58	4.265			3.65	12.0	2×1間・南北棟		1/6
		23	N−77〜79°−E	9.34	3.125			2.99	9.9	2×1間・南北棟	柱痕	
		1柱	N−76°−E							2間		
	2-1	2	N−16°−W	35.67	6.28	2.093	6.9	3.49	11.5	1×3間・南北棟+西庇	柱痕	
		5	N−15〜18°−W	19.24	3.86			3.765	12.4	1×2間・正方形+南庇		
		7	N−15〜17°−W	18.33	4.30			4.195	13.8	1×2間・正方形		
		21	N−75°−E	11.1	3.92			3.02	10.0	1×2以上間・東西棟	柱痕	
	2-2	8	N−72°−E	19.46	4.55			4.13	13.6	2×2間・正方形		
		12	N−17〜19°−W	14.28	3.41			4.185	13.8	2×1間・南北棟		
		19	N−17〜21°−W	12.5	3.745			3.38	11.2	2×1間・南北棟	柱痕	
	3	9	N−22〜23°−W	11.93	3.615			3.32	11.0	1×2間・正方形	柱痕	14/17
		13	N−70°−E	11.97	3.77			3.125	10.3	1×2間・東西棟	埋戻	
		14	N−68〜70°−E	20.9	6.085	2.028	6.7	3.485	11.5	1×3間・東西棟		9/17
		17	N−21〜23°−W	16.89	4.15			4.12	13.6	2×2間・正方形		9/14
		20	N−66〜68°−E	18.33	5.05	1.683	5.6	3.63	12.0	2×3以上間・東西棟	柱痕	
	4	3	N−65〜68°−E	15.04	4.405			3.41	11.3	1×2間・東西棟		
		10	N−65〜68°−E	15.9	3.935			4.025	13.3	2×2間・正方形		11/15
		11	N−65〜66°−E	21.16	6.47	2.157	7.1	3.255	10.7	1×3間・東西棟	柱痕	10/15
		15	N−23〜26°−W	35.12	6.545	2.182	7.2	4.08	13.5	1×3間・南北棟+西張出		10/11/16
	5	16	N−29°−W	19.8	4.67			4.255	14.0	2×1間・南北棟	柱痕	15
	6	22	N−86〜88°−W	5.95	3.365			1.78	5.9	1×2間・東西棟		
	分類名	建物No	主軸方位	面積㎡	桁行平均	桁行平均柱間	寸尺	梁間平均	寸尺	規模(梁間×桁行)	埋没状況	分類内での重複
原北3区	1	13	N-85°〜86°-E	12.92	3.615			3.575	11.8	1×2間・正方形		
	3	8	N-66°〜73°-E	12.15	3.66			3.32	11.0	1×2間・正方形	入為	
	3	10	N-21°〜22°-W	15.19	3.965			3.83	12.6	2×2間・正方形		
	3	12	N-69°〜70°-E	14	5.545	1.848	6.1	2.525	8.3	1×2間・東西棟		
	4	5	N-30°〜31°-E	11.09	3.685			3.01	9.9	1×2間・東西棟か		
	4	6	N-25°〜27°-W	13.82	3.77			3.665	12.1	1×2間・正方形	柱痕	
	4	7	N-28°〜29°-W	14.12	3.8			3.715	12.3	1×2間・正方形		
	4	9	N-65°〜67°-E	12.65	3.715			3.405	11.2	1×2間・東西棟		
	4	11	N-25°〜27°-W	10.7	3.94			2.715	9.0	1×2間・南北棟	柱痕	
	5	4	N-32°〜36°-W	20.35	4.94			4.12	13.6	2×2間・南北棟		
	2	2	N-15°〜17°-W	17.53	5.46	1.82	6.0	3.21	10.6	1×3間・南北棟		
	2	3	N-10°〜16°-W	15.42	4.185			3.685	12.2	1×2間・南北棟		
	4	15	N-22°〜28°-W	12.54	3.635			3.45	11.4	2×1間・正方形		
	4	16	N-59°〜62°-E	2.1	2			1.05	3.5	1×1間		
	1	1	N-2°〜4°-W	16.69	4.815			3.46	11.4	2×1間・南北棟・西張出		
	1	14	N-1°-W	6.5	3.755			1.73	5.7	1×2間・南北棟		
	分類名	建物No	主軸方位	面積㎡	桁行平均	桁行平均柱間	寸尺	梁間平均	寸尺	規模(梁間×桁行)	埋没状況	分類内での重複
牛道1区	1	6	N-20〜25°-E	21.78	4.99			4.365	14.4	2間×1間　南北棟		
	2-1	12	N-11〜12°-E	18.06	4.40			4.105	13.5	1間×2間・南北棟	埋戻	
		13	N-76〜77°-W	26.42	5.01			4.39	14.5	1間×2間・東西棟+東下屋		13
		14	N-71〜73°-W	14.55	4.725			3.08	10.2	1間×2間・東西棟		14
		25	N-75〜77°-W	8.74	2.455			3.56	11.7	2間×1間・南北棟		
	2-2	2	N-80°-W	26.59	6.17			4.31	14.2	2間×1間・東西棟		9
		9	N-80〜81°-W	28.41	6.21	2.07	6.8	4.575	15.1	1間×3間・東西棟		2
		17	N-7〜8°-E	12.98	5.77	1.923	6.3	2.25	7.4	1間×(3)間・南北棟		
		19	N-(6)〜12°-E	8.11	3.025			2.68	8.8	1間×2間・南北棟		
	2-3	8	N-85°-W	(37.25)	7.33	2.443	8.1	3.92	12.9	1間×3間・東西棟+南・東下屋	柱痕	11/16
		11	N-(80)〜84°-W	40.65	7.5	1.875	6.2	5.42	17.9	1間×3(4)間・東西棟		8/16
		16	N-85〜86°-W	23.00	4.91			4.685	15.5	2間×1間　東西棟	埋戻	8/11
		18	N-5〜(10)°-E	24.03	4.965			4.84	16.0	1間×2間・正方形		21
		21	N-86°-W	11.53	3.91			2.95	9.7	1間×2間・東西棟		18
		22	N-83°-W	20.83	5.745	1.915	6.3	4.67	15.4	2間×3間・東西棟	柱痕	
	2-4	3	N-2〜(7)°-E	17.98	3.795	1.898		2.96	9.8	1間×2間・南北棟+東庇	柱痕	
		7	N-86〜87°-W	17.68	4.825			3.665	12.1	2間×2間・東西棟		
		23	N-3〜4°-E	26.85	4.99			5.38	17.8	2間×1間・南北棟+西下屋		
	2-5	10	N-0〜2°-E	19.98	5.415	1.805	6.0	3.69	12.2	2間×3間・南北棟	柱痕	
		15	N-86〜88°-E	8.53	4.945			1.725	5.7	1間×2間・東西棟		
		20	N-86〜90°-E	7.18	3.565			2.015	6.7	1間×2間・東西棟		24/27
		24	N-0〜4°-E	18.59	4.95			3.755	12.4	2間×1間・南北棟	柱痕	20/27
		26	N-89〜90°-E	9.17	4.245			2.16	7.1	1間×2間・東西棟	柱痕	
		27	N-(85)〜89°-W	8.67	4.325			2.005	6.6	1間×2間・東西棟		20/24
	3	4	N-5〜9°-W	13.09	5.235	1.745	5.8		0.0	1間×3間・南北棟	柱痕	
		5	N-8〜12°-W	11.33	4.32	2.16		3.36	11.1	1間×2間以上・南北棟		
	4	1	N-35〜39°-W	13.74	4.04	2.02		3.4	11.2	1間×2間　南北棟	埋戻	

	分類名	建物No	主軸方位	面積㎡	桁行平均	桁行平均柱間	寸尺	梁間平均	寸尺	規格(梁間×桁行)	埋没状況	分類内での重複
伊勢2区	1	11	N－78°－W	35.16	7.48	1.87	6.2	4.70	15.5	1×4間・東西棟	入為	22・26
		12	N－81～85°－W	20.67	5.46	1.82	6.0	3.785	12.5	1×3間・東西棟	柱痕	
		16	N－77～78°－W	33.94	7.33	2.443	8.1	4.63	15.3	1×3間・東西棟	柱痕	19
		19	N－77°－W	19.76	5.63	1.877	6.2	3.55	11.7	1×3間・東西棟	入為	16
		22	N－78°－W	18.09	3.73			4.85	16.0	2×1間・東西棟	柱痕	11・26
		26	N－10～11°－E	19.18	4.385			4.375	14.4	1×2間・正方形	柱痕	11・22
	2	13	N－74～75°－W	17.97	4.30			4.18	13.8	1×2間・正方形		
		14	N－76～(79)°－W	18.92	4.61			4.105	13.5	1×2以上間・東西棟	柱痕	18
		18	N－73～76°－W	29.83	6.15	2.05	6.8	4.85	16.0	1×3間・東西棟	柱痕	14
		23	N－15°－E	23.27	4.705			4.945	16.3	2×2間・正方形		28
		28	N－16～18°－E	21.14	4.675			3.66	12.1	1×2間・南北棟・北庇	柱痕	23
	3	15	N－64～67°－W	32.84	5.105			4.925	16.3	1×2間・正方形・西下屋		
		21	N－22～24°－E	18.79	6.10	2.033	6.7	3.08	10.2	1×3間・南北棟		25
		24	N－70°－W	13.36	3.685			3.625	12.0	2×1間・正方形		
		25	N－68°－W	14.71	4.275			3.44	11.4	2×1間・東西棟		21
	4-1	20	N－60～62°－W	13.88	3.59			3.865	12.8	2×1間・正方形		
		29	N－29～31°－E	22.33	4.70			4.75	15.7	1×2間・正方形	柱痕	
	4-2	17	N－56～57°－W	17.42	4.17			4.10	13.5	2×2間・正方形		
		27	N－57°－W	17.43	4.25			4.10	13.5	2×2間・正方形		
伊勢3区	分類名	建物No	主軸方位	面積㎡	桁行平均	桁行平均柱間	寸尺	梁間平均	寸尺	規格(梁間×桁行)	埋没状況	分類内での重複
	2	1	N－20～21°－E	20.85	5.45	1.817	6.0	3.825	12.6	2×3間・南北棟		2
		2	N－15°－E	19.63	3.945			3.835	12.7	1×2間・正方形・北下屋		1
	5	3	N－40～42°－E	(20.48)	5.55	1.85	6.1	3.69	12.2	1×3間・南北棟	入為	4・5
		4	N－44°－E	13.22	4.3			3.075	10.1	1×2間・南北棟		3・5
		5	N－48°－E	(21.59)	6.24	2.08	6.9	3.46	11.4	1×3間・南北棟		3・4

に変わっている。伊勢屋敷の例に基づけば、年代的な変化により7尺前後から6尺前後に移行するものと言えるが、それより前出である牛道屋敷が当初から6尺前後である点と矛盾する。建物規模の違いにより選択されたとすれば、確かに原北2区1号屋敷は規模が大きい建物にほぼ該当する。しかし、牛道屋敷では建物の大小に関係なく6尺前後が見られ、やはり齟齬が生じてしまう。こうした状況を踏まえれば、汎用的な柱間基準が存在したものが疑問が生じてくる。しかし、各屋敷ごとに一定の規則性が認められるため、分析としては有効と考える。ところで、8.1尺の建物が牛道屋敷と伊勢屋敷に1棟ずつ検出された。特に前者は規格性が高く、同じ屋敷内で他の建物と異なっていた。こうした例は、特殊な要因が推測される。外来の材料や施工者などが関わったと推測されよう。伊勢屋敷の場合は、屋敷内で特異なものではないため、建物の建て替えなどで生じた数値と思える。

牛道の場合、報告書段階では区画としての名称はなかったが、第602図のとおり2号区画と名付けた。東西規模は約40mであるが、開放的で東辺と北辺は溝が確認できない。西辺の溝は2重となる。位置的に牛道屋敷に近いが、主軸方位は異なる。出土遺物から時期的に並存した時期が想定される。内部および周辺に火葬跡が点在し、重複するものはないが、伊勢遺跡2区側で、火葬跡の可能性がある土坑があり、一部は前出となっている。

両者はともに葬送施設と関わることで共通するが、細かな点では異なる点も多い。しかし、高井前2号区画が遺構の残存状況が良いと考えれば、牛道の例は残存の悪い例とすることも可能であろう。

この区画遺構から、屋敷に隣接して供養塔を造立するような区画施設があったことがわかる。しかも、区画が廃絶されたのちも、葬送を行う場所として一定期間使用されたこともわかった。

(6)隣接する区画遺構

本屋敷群では、通例の屋敷遺構に隣接して、建物が確認できず、火葬跡など葬送に関わる遺構が集中する区画遺構が発見された。高井前2号区画は、一辺20m弱の方形区画で、出入り口を備えていた。内部は遺構に乏しく、端部に土坑墓2基があり、火葬跡や墓石が廃棄された土坑は後出であった。

まとめ

本屋敷群は14世紀から16世紀半ばに及び、複数の屋敷を比較し変遷を辿れたことで、一定の成果を得ることができた。特に外形的な面から、開放形と閉鎖形があり、後者が後発であることがわかった。また、開放形と見なされるものでも、溝以外の区画施設があり、区画意識は認めることができた。

建物に関しては小規模なものが多く、目立った特徴は認められなかった。変遷が辿れた例でも、画期となるような変化はなかった。

桁行平均柱間では、７尺前後と６尺前後に、使用例を大別できた。しかし、各屋敷内での傾向は捉えられたが、総括的な使い分けの実態や理由は明らかにできなかった。

引用文献
橋口定志2005『東国の武士団館　－中世前期から中世後期へ－』『戦国の城』埼玉県立歴史資料館編　高志書院

２　綿貫原北遺跡ほかの中世屋敷と綿貫小林前遺跡との関係

（１）綿貫小林前遺跡中世屋敷の状況

綿貫小林前遺跡(以下、小林前と略す)は、前橋長瀞線建設に伴って発掘調査された遺跡である。中世屋敷はＰ東区北端からＱ区南西隅で検出された(第608図)。区画溝は45号溝と110号溝で、両者は同一の溝である。その南側に柄杓形の36号溝が走向し、南辺は二重となっている。屋敷の主軸方位はＮ－17°－Ｗである。36号溝西半の走向方位もほぼ一致するが、クランクした後、東半はＮ－63°－Ｅとなり、方位は10度程度西に傾いて異なる。屋敷の規模は南北約22m以上、東西11m以上で、大部分は西側調査区域外となっている。内部の建物は２号掘立柱建物が該当する。出土遺物は36号溝から在地系土器鍋が出土し、14世紀末から15世紀初頭となるが、111号溝で出土した在地系土器鉢は15世紀後半以降である。時期を比較すると、綿貫原北遺跡(以下、原北と略す)１区１号屋敷の出現と合うが、下限はやや古い。主軸方位もこの屋敷と近いが、距離的に500m以上離れており、偶然に一致した可能性もあろう。

（２）溝と道

小林前Ｒ区西端には、溝と道が集中していた。この部分に昭和58年まで幅の狭い水田があったという。この帯状の窪地は南東方向へ延び、原北２区北東端から綿貫牛道遺跡(以下、牛道と略す)２区西側を貫いていた。

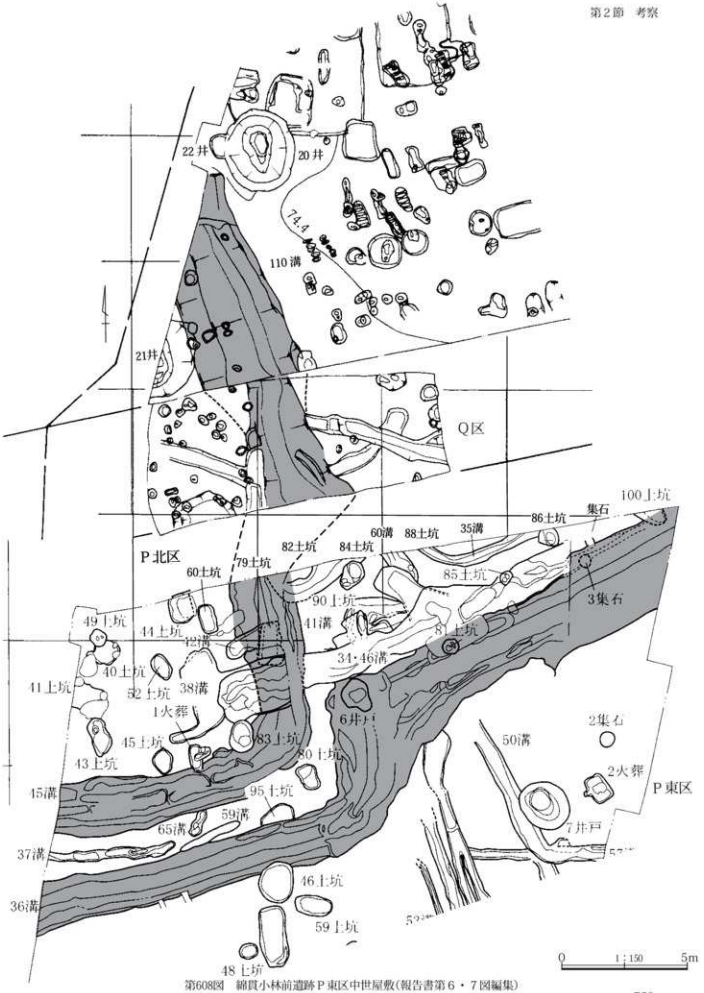
牛道２区では20 ～ 23号溝が検出された。このうち、23号溝は近現代の所産であり、21・22号溝は小規模ながら、天明３年(1783)以前に遡る。また、その時期に20号溝の埋没土中段階で、水田が営まれていたと想定できる。20号溝は埋没土中に近世の遺物も含まれるが、中世の遺物がやや多く出土したため、中世には機能していたと推測する。東側には幅３m程の平坦なテラス状部分が並走しており、検出面の状態から道路面と考えられる。なお、原北２区では幅広い40号溝が検出されているが、遺構認定が不十分であり、複数の溝が重複するとみられる。

小林前Ｒ区の場合、113号溝が直線的に検出されている。加えて、西へ分岐する形で、114 ～ 116、118・119号溝、９・10号道が走向していた。113号溝は８世紀前半の所産とされる。大江正行氏によれば、113号溝は東方に位置する寺院跡やその関連集落の西限を区画する溝に位置づけられている。寺院跡は綿貫遺跡で調査されたもので、土壇跡(中心基壇)は９世紀前半の瓦葺きの施設が想定されている。この溝が成因となり、近年まで窪地状の水田が残っていたことは驚くほかない。その延長上に位置する原北２区および牛道２区では、同時期の溝は確認できなかったが、中世段階でやはり基準となるような広域に及ぶ溝が検出された。それが小林前113号溝に接続することはほぼ間違いなく、後代であってもその区画機能に準拠して、設けられた溝であることは間違いないだろう。

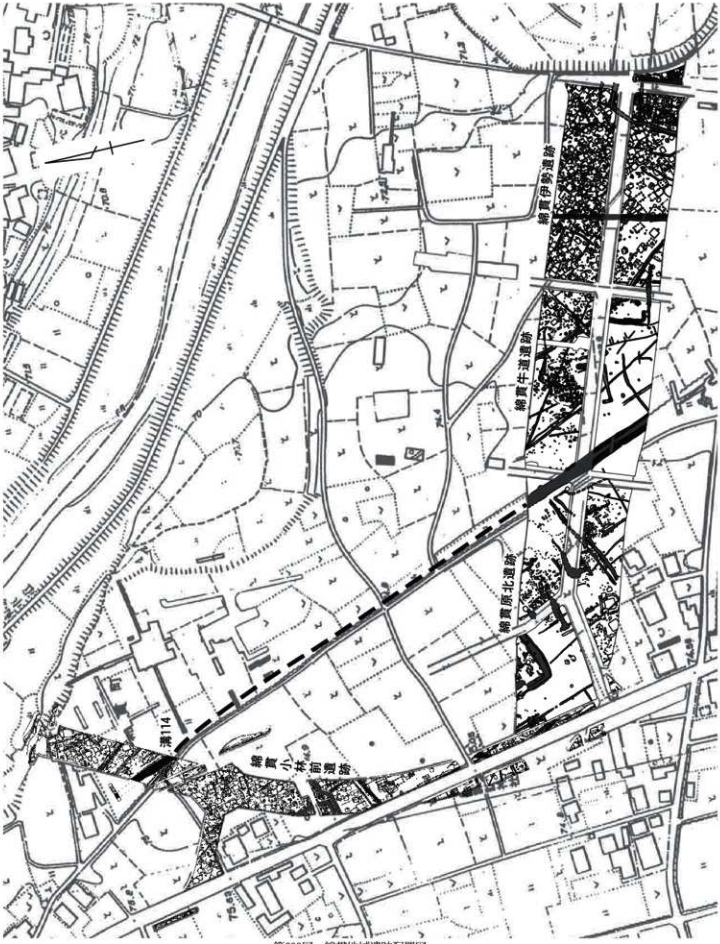
小林前Ｒ区113号溝はAs－Ｂ降下時点でほぼ埋没していたが、重複して114号溝があり、中世と位置づけられている。合わせて検出された９号道路(古段階)は、114号溝の東側に並走するように見え、牛道20号溝の形態に近い。これらが一連の溝と道であるとすれば、300mを越える長大な遺構となる。

９号道はその後も路面を補修しながら、幅約２mの道として昭和まで残り、東往還と呼ばれていたという。小林前Ｒ区で113号溝が埋まり、西へ折れる114号溝・９号道が確認できた状況は、中世における位置づけを示していよう。平安時代まで寺院などを区画する溝であったものが、やがて地域間を結ぶ基幹的な溝・道となっている。それは土地利用の基準線としても存続しており、小林前Ｐ東区の中世屋敷や、原北や牛道の中世屋敷群を規定したことは間違いないだろう。

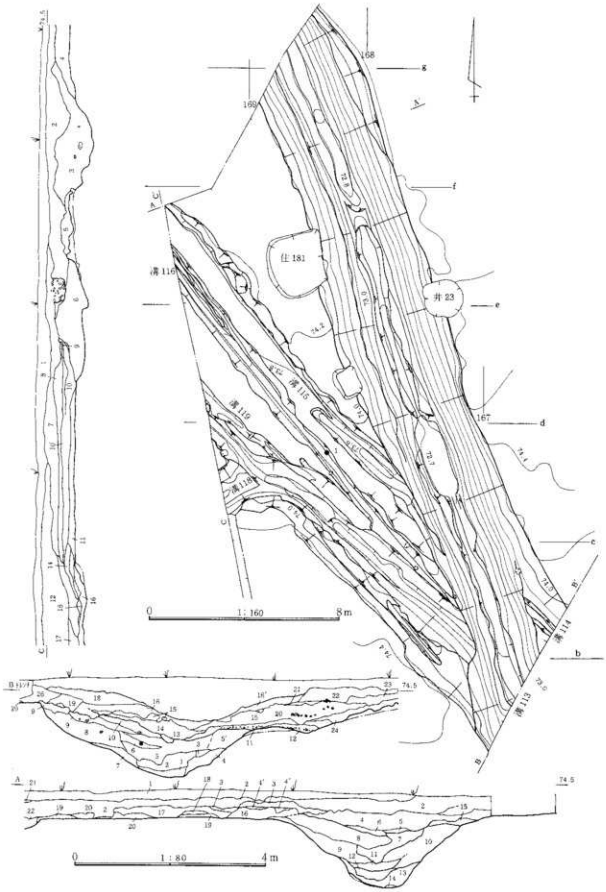
基本文献
・金子智一編　1985『綿貫遺跡』高崎市教育委員会
・大江正行・豊島健一・植崎修一郎編著　2006『綿貫小林前遺跡』財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団



第608図　縄貫小林前遺跡P東区中世屋敷(報告書第6・7図編集)



第609図　綿貫地域遺跡配置図



第610図　綿貫小林前遺跡　溝跡113～116・118・119遺構図(報告書第729図転載)

第267表　溝113～116・118・119土層注記(報告書542頁図転載)

溝 113

A－A′

1、黒褐（10YR3/1）As－B含み、現代。
2、黒褐（10YR3/1）As－A含み、旧耕土。粗。2′は少し密。
3、黒褐（10YR3/1）As－A含み、少し締る。
4、黒褐（10YR3/1）As－B混、黒褐ブロック含む。右上少し黒っぽい。中近世。4′は締る。
5、褐灰（10YR5/1）As－Bを主とする。
6、黒褐（10YR3/1）粘性。上方As－Aと混じりあう。
7、黒褐（10YR3/1）粘性。黒ずみ、小礫入る。最低部に砂まじれる。
8、黒褐（10YR3/1）埴土粒・小礫入る。粘性。
9、にぶい黄褐（10YR5/3）下方にしたがい粘性。
10、にぶい黄褐（10YR4/3）下方にしたがい粘性。中央下方にローム漂白化の縞約10 cm幅で入る。（右上方から流入したローム ブロックらしき層はこれのみ）
11、褐灰（10YR4/1）粘性。還元。砂混じる。
12、褐灰（10YR4/1）小ロームブロック含み、締る。粘性。
13、褐　（10YR4/6）ローム土壌化・小礫・砂入る。
14、褐灰（10YR4/1）粘性。還元。細砂含む。
15、褐灰（10YR4/1）As－B含む。
16、にぶい黄褐（10YR4/3）ローム小粒入り、As－B入る。
17、黒褐（10YR3/1）As－B・As－A入る。
18、黒褐（10YR3/1）17層に似る。As－B入る。
19、にぶい黄褐（10YR5/4）As－B混じり、漸移的。
20、にぶい黄褐（10YR5/4）As－B入る。
21、黄褐(10YR5/6）As－A入り、ロームブロック主。構造改善埋め土。
22、黒褐（10YR3/1）砂。現代工事埋め土。

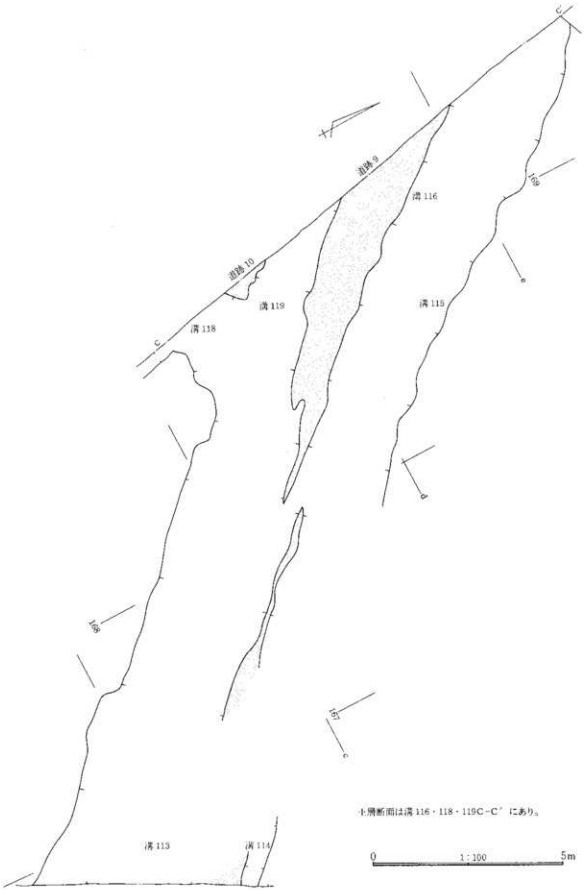
溝 115・116・118・119

C－C′

1、黒褐（10YR3/1）現耕土。
2、黒褐（10YR3/1）As－A含み、粗。
3、暗褐（10YR3/1）As－B含み、粗。
4、黒褐（10YR3/1）As－B不明。密。
5、黒褐（10YR3/1）As－B入り、少し粘性。
6、黒褐（10YR3/1）As－B入り、粗。
7、黒褐（10YR3/1）As－A多く混じる。粗。
8、黒褐（10YR3/1）As－A近純層。上方混じり、下半近純層。各硬化。東往還。
9、褐灰（10YR5/1）As－B含み、砂質。硬化。道路層。
10、褐灰（10YR5/1）As－B含み、砂質。硬化。道路層。10′は道路のつづきであるが、少し締り弱い。
11、褐灰（10YR5/1）
12、黒褐（10YR3/1）耕地敷埋埋補償土。
14、灰黄褐（10YR5/2）As－B入る。少し硬化気味。締る。粘性。
15、灰黄褐（10YR5/2）As－B入る。14層より硬化弱。粘性。
16、灰黄褐（10YR5/2）As－B入る。粘性。
17、黒褐（10YR3/1）現代。粗。調場整備土。

B－B′

1、褐灰（10YR5/1）砂多い。還元気味。
2、灰黄褐（10YR5/2）砂多い。さらに還元気味。暗含む。
3、灰黄褐（10YR5/2）砂多い。酸化気味。
4、黄褐（10YR5/6）砂多い。酸化気味。
5、褐灰（10YR5/1）砂多い。還元気味。暗多い。5′は少し褐色味強。部分粘性。
6、褐灰（10YR5/1）砂多い。還元気味。少し褐色。
7、褐灰（10YR5/1）粘性。還元気味。少し褐色。
8、灰黄褐（10YR5/2）やや粘性。右上粗。
9、褐灰（10YR4/1）黒味あり。粘性。
10、黒褐（10YR3/1）黒味強。（As－B下の黒相当）下方硬あり。
11、灰黄褐（10YR4/2）上面酸化。砂・小礫多い。As－B入る。
12、灰黄褐（10YR4/2）上面酸化。砂・小礫さらに多い。As－B入る。
13、褐灰（10YR5/1）砂質。還元気味。As－B入る。
14、褐灰（10YR5/1）砂質。少し還元気味。As－B入る。右上硬化。道跡初期中世前半。
15、褐灰（10YR5/1）砂質。少し黒ずむ。As－B入る。硬化道跡。
16、褐灰（10YR6/1）砂質。少し黒ずむ。As－B入る。締る。道跡。16′締らず。
18、灰白（10YR7/1）砂質。白っぽい。As－A近純層。締る。道路。
19、褐灰（10YR5/1）粗。As－A入らず。構理土。
20、黒褐（10YR3/1）粗。As－B入る。中位に硬入る。
21、黒褐（10YR3/1）粗。As－B入る。少し締る。
22、黒褐（10YR3/1）粗。As－B入る。さらにAs－A混じる。
23、黒褐（10YR3/1）粗。As－B入る。
24、黒褐（10YR3/1）少し粘性。As－B入る。
26、黒褐（10YR3/1）As－B含む。少し締る。
29、黒褐（10YR3/1）As－B含む。少し粗。



第611図　綿貫小林前遺跡　道跡9（古）・同10遺構図（報告書第802図転載）

３　上滝遺跡の区画遺構群と下滝高井前遺跡との比較検討

（１）区画遺構の概要

上滝遺跡(以下、上滝と略す)は、関越自動車道(新潟線)建設に伴って発掘調査された遺跡である。所在は第12図に示してある。Ｂ区では中世の区画遺構が２か所で発見された。

２号溝(環濠)は、溝の外側で南北27.5m、東西29.6mの規模を有する。主軸方位はＮ－７°－Ｅ。区画溝の南辺は、ほぼ中央で途切れる。幅は1.3mあり、出入り口と考えられている。また、南西角から約５m付近も途切れており同様の機能であろう。佐藤明人氏によれば、「環濠内における建築遺構については柱列も検出できず、そのような遺構があったか明らかでない」という。２号溝から常滑窯系壺が出土しており、中世に位置づけられよう。東側に1.5～３m離れて４号溝が並走し、北側の５号溝と接続する。両溝も区画溝と見なされるが、時期は不明であり、２号溝(環濠)とは主軸方位がずれる。

調査区北端に位置する14号溝は上端幅1.4m深さ52cmと小規模ながら、在地系土器皿２点が出土し15世紀代に比定できる。南側にＬ字形の７号溝があり、西側調査区域外で接続すると思われる。上端幅1.7mで深さは60cmとやはり小規模である。走向方位はＮ－77°－Ｗ。状況から北側に区画された本体部分があると想定される。内部にあたる６号井戸では16世紀代の在地系土器鍋が出土している。また、７号溝の南側に並走する６号溝もＬ字形で、北側を区画している。上端幅３m、深さ80cmと規模も十分である。走向方位は７号溝と同じである。これを屋敷の区画とすれば、規模は東西で65mを越える。出土遺物には中世のほか、近世も混じっており、長く使用されるが、天明３年(1783)以前には廃絶している。

（２）比較検討

２号溝(環濠)は、下滝高井前遺跡２号区画遺構(以下、高井前区画)と類似している。南辺に２つの出入り口がある点、内部に遺構がほとんどない点が共通する。規模はやや異なり、全者の規模は一辺30mだが、後者は一辺20m弱である。ただし、高井前区画の場合、２基だけだが土坑墓が内部にあり、廃絶後は区画溝の凹みを利用した火葬が多く行われている。更に、同様な状況で墓石類などを廃棄した土坑も重なっており、元来内部に造立されていた可能性が高い。このため、高井前区画内部には、何らかの宗教施設があったと考えられ、東に隣接する１号屋敷と関連すると結論づけられた。

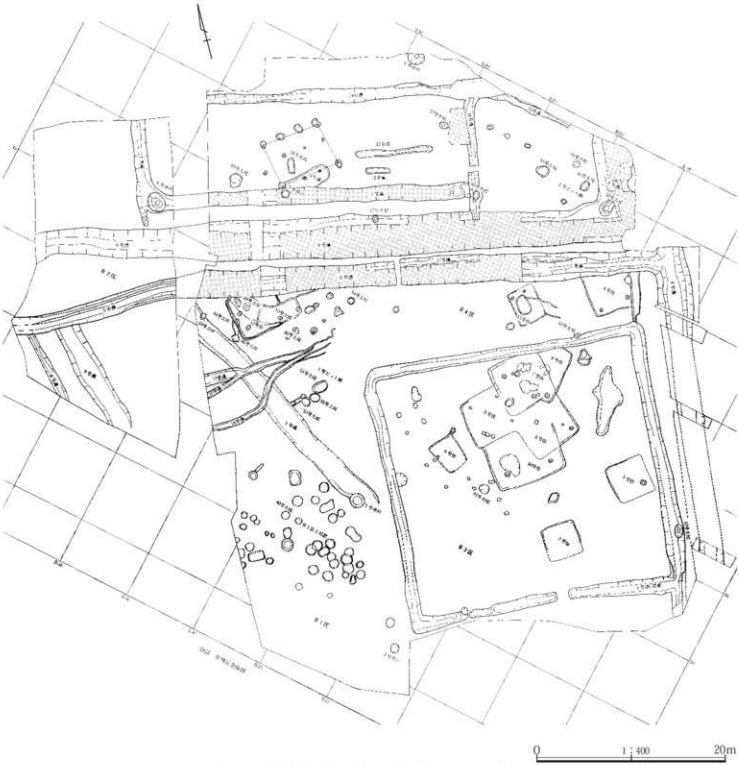
こうした状況を考慮すると、上滝２号溝(環濠)の西側に隣接するＢ１区土壙群が注目される。佐藤氏によれば、「土壙群の配置状況は、相互に密集し、東南部においては重複が著しい。また、円形土壙、方形土壙の間に位置的関係における差は認められない。土壙群の広がりについては南北15m、東西13m以上で調査区域外に若干延びている。時期、及び性格については、土壙群中に宋銭(景徳元寶等)が３枚出土していることや層位との関係から中世～近世の墓壙と思われる」という。この所見が正しいとすれば、上滝２号溝(環濠)でも葬送との関係が濃厚となってくる。

改めて高井前区画との違いを考えると、墓石が出土していないことが判明する。また、火葬跡がないことも気にかかる。しかし、発掘調査自体古く、火葬跡に対する遺構認識がどうであったかという問題もあるだろう。いずれにしろ、墓石類がないということを積極的に評価すれば、墓については被葬者の階層差を読み取ることができよう。また、区画については供養塔等を造立した施設とは見なし難いため、それに変わる地上施設想定をしなければならないだろう。これについては、現状で想定できるものはない。

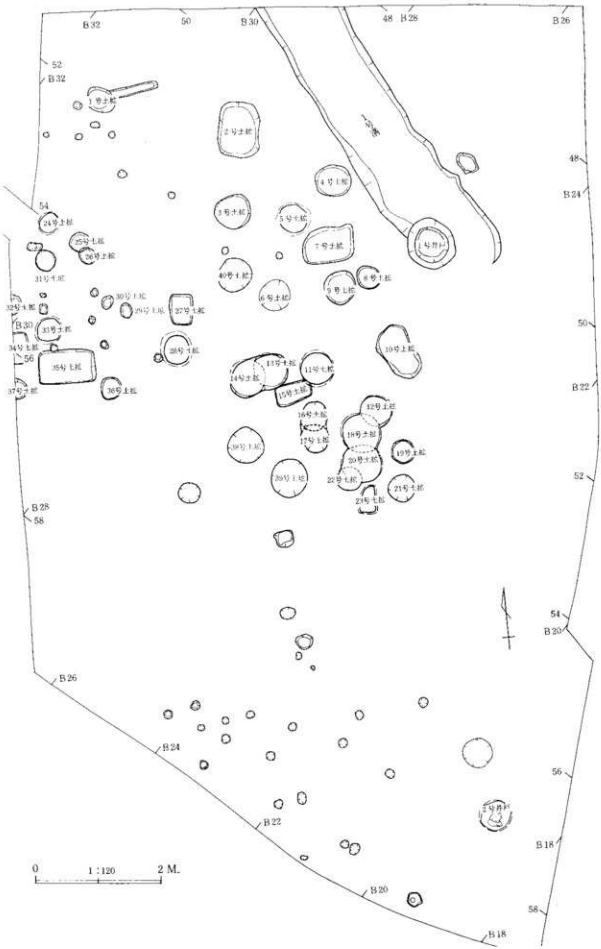
Ｂ１区土壙群の規模は、高井前区画に近い。区画溝はないが、独立したまとまりとして成立している。高井前では火葬跡が関係していたが、上滝遺跡は墓域として同等な規模を形成している。高井前とは違う展開によって成立したと位置づけられる。その要因が隣接する区画遺構の性格的な違いによるものかは、今後の課題となるだろう。

基本文献

・佐藤明人 1981『八幡原A・B　上滝　元島名A』群馬県教育委員会・財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団



第612図　上滝遺跡B地区全体図(報告書第24図より転載)



第613図　上滝遺跡Ｂ１区土坑群(報告書第45図転載)

報　告　書　抄　録

ふりがな	しもたきたかいまえいせき
書名	下滝高井前遺跡
副書名	国道354号高崎玉村バイパス(高崎工区)社会資本総合整備(活力創出基盤整備)事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	公益財団法人　群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	579
編著者名	菊池実　飯森康広　小林正
編集機関	公益財団法人　群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	公益財団法人　群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	20140127
作成法人ＩＤ	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住所	群馬県渋川市北橘町大字下箱田784-2
遺跡名ふりがな	しもたきたかいまえいせき
遺跡名	下滝高井前遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんたかさきししもたきまち
遺跡所在地	群馬県高崎市下滝町
市町村コード	10202
遺跡番号	1452
北緯(日本測地系)	361830
東経(日本測地系)	1390508
北緯(世界測地系)	361841
東経(世界測地系)	1390456
調査期間	20080104-20100331
調査面積	10060
調査原因	道路建設
種別	集落／屋敷／散布地
主な時代	縄文／古墳／奈良・平安／中世／近世
遺跡概要	集落－縄文－竪穴住居１－土器＋石器／集落－古墳・奈良・平安－竪穴住居191＋掘立柱建物11＋竪穴状遺構４＋土坑87＋井戸３＋溝40－土器＋石器＋鉄器／屋敷－中世－掘立柱建物28＋竪穴状遺構３＋土坑115＋井戸10＋墓２＋火葬跡11＋溝31－陶磁器＋石器・石製品＋金属器/集落－近世－竪穴状遺構２＋土坑３＋溝５＋畠１－陶磁器＋金属器＋木器
特記事項	古墳時代の竪穴住居132軒が調査された。中世屋敷では28棟の掘立柱建物が伴い、隣接する区画遺構周辺では葬送遺構が集中する。
要約	縄文時代から江戸時代にいたる複合遺跡である。縄文時代から平安時代の竪穴住居跡192軒と中世屋敷１か所・中世区画遺構１か所を検出した。

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書　第579集

下滝高井前遺跡　－本文編－

国道354号高崎玉村バイパス(高崎工区)社会資本総合整備
(活力創出基盤整備)事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

平成26年(2014)1月20日　印刷
平成26年(2014)1月27日　発行

編集・発行／公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

〒377-8555　群馬県渋川市北橘町下箱田784番地2
電話(0279) 52-2511 (代表)
ホームページアドレス　http://www.gunmaibun.org/

印刷／朝日印刷工業株式会社